

飯倉南部遺跡群

ゴルフ場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2011

本庄市遺跡調査会

飯倉南部遺跡群

ゴルフ場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2011

本庄市遺跡調査会

序

本庄市が生んだ「郷土の偉人」塙保己一は、中国や西欧の学問が盛んであった時代に、我が国を研究することの必要性を説き、和学講談所を設立するとともに『群書類従』を編纂して「国学」の基礎を築きました。私たちの文化財保護の営みは、この塙保己一の偉大な業績に比べるべくもありませんが、過去から伝えられた貴重な歴史・民俗・考古等の資料を、誰でもが学べるように守り伝えていくことも、文化財が次々と失われていく、この時代を生きる私たちの大きな使命ではないかと考えております。今まさに、地域の歴史や文化に学びながら、誇りある郷土を形成して行くための「本庄学」とも呼ぶべき分野が必要な時代なのではないでしょうか。

ここに報告する飯倉南部遺跡群は、奈良・平安時代を中心に営まれた大規模な遺跡群であります。本書に収載された貴重な埋蔵文化財の数々は、ここに記録として保存し、発掘調査報告書という形で永く後世に伝えることになりました。これらの埋蔵文化財は、この地域の歴史や文化を理解していくためのひとつの基礎となりえるものです。これらの文化財を守り伝えて行くことはもとより、多くの皆さまによって活用され地域の理解のために生かして行けるような環境を整えて行くことも、これからの文化財保護の課題であるといつてよいでしょう。

ここに、この発掘調査報告書が刊行できましたことは、株式会社ファーストカントリークラブをはじめとする関係各位ならびに関係諸機関の皆様のご理解とご協力の賜と深く感謝いたします。このささやかな調査報告書は、埋蔵文化財の保護・活用にとっての第一歩であるに過ぎませんが、この地域の住民皆様はもとより、教育や研究にたずさわる皆様のご参考となりえるならば幸いです。

平成 23 年 9 月

本 庄 市 遺 跡 調 査 会
会 長 茂 木 孝 彦

例 言

1. 本書は埼玉県本庄市大字児玉字飯倉地内に所在する飯倉南部遺跡群の発掘調査報告書である。
2. 調査は株式会社ファーストカントリークラブが計画したゴルフ場建設および関連する進入路建設に伴い、事前の記録保存を目的として児玉町遺跡調査会が実施したものである。
3. 発掘調査および整理作業・報告刊行に要した経費は、株式会社ファーストカントリークラブの委託金である。
4. 各遺跡の発掘調査期間及び発掘面積は以下のとおりである。
 - 手白洲遺跡：平成7年5月17日～平成7年10月31日、177.8㎡
 - 上松遺跡1区：平成7年5月17日～平成7年10月31日、213.6㎡
 - 上松遺跡2区：平成7年5月17日～平成7年10月31日、288.8㎡
 - 神明前遺跡1区：平成7年5月17日～平成7年10月31日（A地点）
平成8年8月5日～平成8年9月30日（B地点）
平成9年1月8日～平成9年2月16日（C地点）、計1,632.5㎡
 - 神明前遺跡2区：平成7年5月17日～平成7年10月31日、374.4㎡
 - 明神ノ上東遺跡：平成8年3月18日～平成8年6月18日、1,218.4㎡
 - 明神ノ上西遺跡：平成8年4月15日～平成8年6月28日、815.2㎡
 - 細木谷北遺跡A地点：平成8年5月20日～平成8年6月28日、402.2㎡
 - 細木谷北遺跡B地点：平成8年9月17日～平成8年10月31日、534.4㎡
 - 細木谷南遺跡：平成9年12月17日～平成9年12月26日、136.9㎡
 - 山崎ノ南遺跡A地点：平成8年6月3日～平成8年8月30日、591.3㎡
 - 山崎ノ南遺跡B地点：平成8年11月11日～平成9年11月10日、1,112.4㎡
 - 金草窠遺跡A地点：平成9年4月1日～平成9年5月30日、1,345.6㎡
 - 金草窠遺跡B地点：平成9年8月5日～平成9年8月8日、1,968.8㎡
 - 甲竹ノ鼻遺跡A地点：平成8年7月31日～平成8年9月30日、439.3㎡
 - 甲竹ノ鼻遺跡B地点：平成9年4月1日～平成9年4月30日、266.8㎡
 - 丙竹ノ鼻遺跡：平成9年4月1日～平成9年5月15日、1,009.4㎡
 - 堂ノ入遺跡A地点：平成9年11月1日～平成9年12月26日、
平成10年8月10日～平成10年9月25日、2,758.3㎡
 - 堂ノ入遺跡B地点：平成9年11月1日～平成9年12月26日、
平成10年8月10日～平成10年9月25日、168.0㎡
 - 堂ノ入遺跡C地点：平成9年9月18日～平成9年12月26日、325.2㎡
 - 堂ノ入遺跡西地点：平成9年9月24日～平成9年10月31日、667.0㎡
 - 日向遺跡：平成9年8月1日～平成9年9月22日、1,162.8㎡
 - ハグレヤツ遺跡：平成9年4月1日～平成9年5月15日、554.0㎡
5. 発掘調査は児玉町遺跡調査会が実施し、担当者は鈴木徳雄、恋河内昭彦、徳山寿樹、尾内俊彦、大熊季広である。

6. 整理作業の一部および報告書刊行にかかる業務は、有限会社毛野考古学研究所に委託し、同研究所所員の有山径世、高橋清文が担当した。
7. 本書の執筆は、第Ⅰ・Ⅱ章を本庄市教育委員会文化財保護課が、第Ⅲ・Ⅳ章の縄紋時代に係る箇所を高橋が、その他を有山が担当した。第Ⅴ章は興吉田生物研究所 沙見 真、京都造形芸術大学 岡田文男の報告を掲載した。第Ⅵ章については、第1・2節を高橋、第3節を有山、第4節を本庄市教育委員会 鈴木徳雄が執筆した。
8. 本書の編集は、本庄市教育委員会文化財保護課の指導に基づき、有山が担当した。
9. 本書に掲載した出土遺物、遺構及び遺物の実測図ならびに写真、その他本報告に関連する資料は本庄市教育委員会において保管している。
10. 発掘調査から整理作業、報告書の刊行に至るまで、以下の方々から貴重な御助言、御指導、御協力を賜りました。ご芳名を記し感謝申し上げます。(順不同・敬称略)
 赤熊浩一、池田敏宏、大屋道則、岡本一雄、小川卓也、折館伸二、金子彰男、雉岡恵一、坂本和俊、櫻井和哉、菅谷通保、外尾常人、高橋一夫、田村 誠、利根川章彦、外山政子、永井智教、中沢良一、長滝歳康、中村倉司、橋本 淳、早坂廣人、平川 南、平田重之、福田貫之、丸山 修、三浦京子、宮瀧交二、矢内 勲、山口逸弘、山崎芳春、小出拓磨、土井道昭
 埼玉県教育局生涯学習文化財課、児玉地区文化財保護協会、東海大学考古学研究会、佐藤工業株式会社、南協同測地開発、南前橋文化財研究所、文化財整理こうけん
11. 飯倉南部遺跡群の発掘調査、整理作業および報告書刊行にかかる本庄市遺跡調査会の組織は以下のとおりである。

・飯倉南部遺跡群発掘調査組織 児玉町遺跡調査会（平成9年度：抜粋）

会 長	富丘文雄	児玉町教育委員会教育長
理 事	田島三郎	児玉町文化財保護審議委員長
	清水守雄	児玉町文化財保護審議委員
	吉川音繪	児玉町文化財保護審議委員
	野口敏雄	児玉町文化財保護審議委員
	関根安男	児玉町教育委員会社会教育課長
監 事	小島和子	児玉町文化財保護審議委員
	井上英夫	児玉町企画財政課長
幹 事	倉林美恵子	児玉町教育委員会社会教育課社会教育係主任
	杉山茂俊	〃 文化財係兼務主任
	鈴木徳雄	児玉町教育委員会社会教育課文化財係係長
調査員	恋河内昭彦	〃 文化財係主任
	徳山寿樹	〃 文化財係主事
	大熊季広	〃 文化財係主事
	尾内俊彦	児玉町遺跡調査会調査員

・飯倉南部遺跡群整理・報告組織 本庄市遺跡調査会（平成22年度）

会 長	茂木孝彦	本庄市教育委員会教育長
理 事	清水守雄	本庄市文化財保護審議委員
	腰塚 修	本庄市教育委員会事務局長（会長代理）
監 事	八木 茂	本庄市監査委員事務局長
	田島弘行	本庄市会計課長
幹 事	金井孝夫	本庄市教育委員会文化財保護課長（事務局長）
	鈴木徳雄	〃 副参事兼課長補佐
	太田博之	〃 埋蔵文化財係長
	恋河内昭彦	〃 埋蔵文化財係主査
	大熊季広	〃 埋蔵文化財係主査
	松本 完	〃 埋蔵文化財係主任
	松澤浩一	〃 埋蔵文化財係主任
	的野善行	〃 埋蔵文化財係臨時職員

凡 例

1. 本書所収の遺跡全体図におけるX・Y座標値は国土標準座標第IX系に基づく。各遺構図における方位針は座標北を指す。
2. 本書に掲載の遺構図ならびに遺物実測図の縮尺は、各挿図中にはスケールを付してある。
3. 遺構断面図の水準数値は海拔を示す。単位はmである。
4. 遺構図・遺物実測図中のトーン内容は挿図中に示してある。遺物実測図の断面黒は還元焙焼成の須恵器を表す。
5. 遺構図中の各ドットは以下の内容を示す。
● 土器 ▲ 石 ■ 鉄製品
6. 本書中ではテフラの呼称として次の記号を用いた。
As-A：1783（天明3）年に噴出した浅間山A軽石、As-B：1108年に噴出した浅間山Bテフラ
YP：約13,000年前に噴出した浅間一板鼻黄色軽石
7. 遺物観察表に記した記号は以下のとおりである。
A－法量、B－成形、C－整形・調整、D－胎土、E－色調、F－残存度、G－備考、
H－出土位置
8. 遺物観察表の単位は、法量はcm、重さはgである。（ ）内の数値は推定値を示す。色調は『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修2007）を使用して観察した。
9. 本書掲載の図2は、国土交通省国土地理院発行1/25,000「本庄」・「藤岡」・「寄居」・「鬼石」、図3は昭和44年児玉町役場発行1/2,500「児玉町其6」・「児玉町其7」・「児玉町其10」・「児玉町其11」に加筆したものをを用いた。

目次

序	
例言・凡例	
目次	
第I章 調査に至る経過	1
第II章 遺跡の環境	7
第1節 地理的環境	7
第2節 歴史的環境	8
第III章 調査の方法と経過	12
第IV章 遺跡群の調査	15
第1節 手白洲遺跡	15
1 遺跡の概要	15
2 検出された遺構と遺物	15
(1) 土坑	15
(2) 溝	15
第2節 上松遺跡1区・2区	20
1 遺跡の概要	20
2 検出された遺構と遺物	20
(1) 竪穴住居跡	20
(2) 土坑	30
(3) 溝	32
(4) 不明遺構	35
(5) 遺構外出土遺物	36
第3節 神明前遺跡1区・2区	40
1 遺跡の概要	40
2 検出された遺構と遺物	40
(1) 竪穴住居跡	40
(2) 土坑・ピット	49
(3) 不明遺構	53
(4) 溝	58
(5) 道路状遺構	58
(6) 竈状遺構	59
(7) 埋没谷	60
(8) 遺構外出土遺物	62
第4節 明神ノ上東遺跡	64
1 遺跡の概要	64
2 検出された遺構と遺物	65
(1) 竪穴住居跡	65
第5節 明神ノ上西遺跡	67
1 遺跡の概要	67
2 検出された遺構と遺物	68
(1) 焼土集中土坑	68
(2) 土坑・ピット	69
(3) 遺構外出土遺物	73
第6節 細木谷北遺跡A地点1区・2区	74
1 遺跡の概要	74
2 検出された遺構と遺物	75
(1) 竪穴住居跡	75
(2) ピット	78
(3) 遺構外出土遺物	79
第7節 細木谷北遺跡B地点1区・2区	81
1 遺跡の概要	81
2 検出された遺構と遺物	83
(1) 炭竈跡	83
第8節 細木谷南遺跡	84
1 遺跡の概要	84
2 検出された遺構と遺物	84
(1) 土坑	84
第9節 山崎上ノ南遺跡A地点	86
1 遺跡の概要	86
2 検出された遺構と遺物	87
(1) 竪穴住居跡	87
(2) 土坑	95
(3) 溝	104
(4) 拡張区	105
(5) 遺構外出土遺物	106
第10節 山崎上ノ南遺跡B地点	108
1 遺跡の概要	108
2 検出された遺構と遺物	109
(1) 竪穴住居跡	109
(2) 土坑	130
(3) 竈跡	132
(4) 埋没谷	134
第11節 金草竈遺跡A地点	151
1 遺跡の概要	151
2 検出された遺構と遺物	152
(1) 遺構外出土遺物	152
第12節 金草竈遺跡B地点	155
1 遺跡の概要	155
第13節 甲竹ノ鼻遺跡A地点	156
1 遺跡の概要	156
2 検出された遺構と遺物	157
(1) 竪穴住居跡	157
(2) 土坑	158
第14節 甲竹ノ鼻遺跡B地点	162
1 遺跡の概要	162
2 検出された遺構と遺物	163
(1) 竪穴住居跡	163
(2) 製鉄関連土坑	164
第15節 丙竹ノ鼻遺跡	165
1 遺跡の概要	165

2	検出された遺構と遺物	166
(1)	竪穴住居跡	166
(2)	土坑	169
第16節	堂ノ入遺跡A地点1区・2区	171
1	遺跡の概要	171
2	検出された遺構と遺物	173
(1)	竪穴住居跡	173
(2)	土坑	199
(3)	製鉄跡	214
第17節	堂ノ入遺跡B地点	216
1	遺跡の概要	216
2	検出された遺物	216
(1)	縄紋時代の遺物	216
第18節	堂ノ入遺跡C地点	224
1	遺跡の概要	224
2	検出された遺構と遺物	225
(1)	土坑	225
(2)	溝	228
(3)	不明遺構	229
(4)	埋没谷	229
第19節	堂ノ入西遺跡	247
1	遺跡の概要	247

2	検出された遺構と遺物	247
(1)	竪穴住居跡	247
(2)	土坑	256
(3)	溝	258
第20節	日向遺跡	260
1	遺跡の概要	260
2	検出された遺構と遺物	260
(1)	竪穴住居跡	260
(2)	炭窯	261
第21節	ハグレヤツ遺跡	264
1	遺跡の概要	264
2	検出された遺構と遺物	264
(1)	土坑	264
第22節	試掘	265
第V章	自然科学分析	266
第VI章	総括	267
第1節	飯倉南部遺跡群の概要	267
第2節	縄紋時代の土地利用について	267
第3節	古墳時代～古代の土地利用について	271
第4節	飯倉南部遺跡群の形成	276
写真図版		
報告書抄録		

挿 図 目 次

図1	埼玉県の地形	8
図2	飯倉南部遺跡群の位置と周辺の遺跡	9
図3	飯倉南部遺跡群の位置	13
手白洲遺跡		
図4	手白洲遺跡全体図	14
図5	1号土坑	15
図6	1号溝	16
図7	2号溝	17
上松遺跡1区・2区		
図8	上松遺跡1区全体図	18
図9	上松遺跡2区全体図	19
図10	1号住居跡	20
図11	2号住居跡	21
図12	2号住居跡カマド	22
図13	3号住居跡	23
図14	3号住居跡カマド	24
図15	3号住居跡出土遺物	25
図16	4号住居跡	25
図17	5号住居跡	26
図18	6号住居跡	27
図19	6号住居跡カマド	28
図20	6号住居跡出土遺物	29
図21	1～6号土坑	31
図22	1号溝	33
図23	2～5号溝	34
図24	1号不明遺構	35

図25	遺構外出土遺物(1)	36
図26	遺構外出土遺物(2)	37
神明前遺跡1区・2区		
図27	神明前遺跡1区全体図	38
図28	神明前遺跡2区全体図	39
図29	1号住居跡	41
図30	1号住居跡出土遺物	42
図31	2号住居跡	42
図32	2号住居跡カマド	43
図33	2号住居跡出土遺物	44
図34	3号住居跡および出土遺物	45
図35	4号住居跡	46
図36	5号住居跡	46
図37	5号住居跡出土遺物	47
図38	6号住居跡	48
図39	6号住居跡出土遺物	48
図40	7号住居跡	49
図41	8号住居跡カマド	49
図42	1～9号土坑	54
図43	10～17号土坑	55
図44	18～23・25号土坑	56
図45	24号土坑・1～2号ピット・1号不明遺構	57
図46	8号土坑出土遺物(1)	57
図47	8号土坑出土遺物(2)	58
図48	9号土坑出土遺物	58
図49	13号土坑出土遺物	58

図 50	1号溝	59
図 51	1号堂状遺構	59
図 52	埋没谷	60
図 53	埋没谷出土遺物	62
図 54	1区A地点遺構外出土遺物	62
図 55	1区C地点遺構外出土遺物	63
明神ノ上東遺跡		
図 56	明神ノ上東遺跡全体図	64
図 57	1号住居跡	65
図 58	1号住居跡カマド	66
図 59	1号住居跡出土遺物	66
明神ノ上西遺跡		
図 60	明神ノ上西遺跡全体図	67
図 61	1号棟土集申土坑	68
図 62	1～4号土坑	71
図 63	1～11号ピット	72
図 64	遺構外出土遺物	73
細木谷北遺跡A地点1区・2区		
図 65	細木谷北遺跡A地点1区全体図	74
図 66	細木谷北遺跡A地点2区全体図	75
図 67	1号住居跡	76
図 68	1号住居跡出土遺物	77
図 69	2号住居跡	77
図 70	2号住居跡出土遺物	78
図 71	1・2号ピット	78
図 72	遺構外出土遺物(1)	79
図 73	遺構外出土遺物(2)	80
細木谷北遺跡B地点1区・2区		
図 74	細木谷北遺跡B地点1区全体図	81
図 75	細木谷北遺跡B地点2区全体図	82
図 76	1号灰窯跡	83
細木谷南遺跡		
図 77	細木谷南遺跡全体図	84
図 78	1～4号土坑	85
山崎上ノ南遺跡A地点		
図 79	山崎上ノ南遺跡A地点全体図	86
図 80	1号住居跡	87
図 81	1号住居跡カマド	88
図 82	1号住居跡出土遺物	89
図 83	2a号住居跡	90
図 84	2a号住居跡カマド	91
図 85	2a号住居跡出土遺物	91
図 86	2b・2c号住居跡	93
図 87	2b号住居跡カマド	94
図 88	2b号住居跡出土遺物	94
図 89	2c号住居跡出土遺物	95
図 90	1・2号土坑	97
図 91	3号土坑	98
図 92	3号土坑炭化物出土状態	99
図 93	4～6号土坑	100
図 94	7号土坑	101
図 95	8～11号土坑	102
図 96	12・13号土坑	103
図 97	4・5・7号土坑出土遺物	103
図 98	1・2号溝	104
図 99	拡張区および1号ピット	105
図 100	拡張区出土遺物	106
図 101	遺構外出土遺物	107
山崎上ノ南遺跡B地点		
図 102	山崎上ノ南遺跡B地点全体図	108
図 103	3a号住居跡	109
図 104	3a号住居跡カマド	110

図 105	3a号住居跡出土遺物	111
図 106	3b号住居跡	111
図 107	3b号住居跡カマド	112
図 108	3b号住居跡出土遺物	112
図 109	4a号住居跡	113
図 110	4a号住居跡カマド	114
図 111	4a号住居跡出土遺物	114
図 112	4b号住居跡	115
図 113	4b号住居跡カマド	116
図 114	4c号住居跡	116
図 115	4c号住居跡カマド	117
図 116	4c号住居跡出土遺物	117
図 117	4d号住居跡	118
図 118	4d号住居跡カマド	119
図 119	4d号住居跡出土遺物	119
図 120	5a号住居跡	120
図 121	5a号住居跡カマド	121
図 122	5a号住居跡出土遺物	122
図 123	5b号住居跡	122
図 124	5b号住居跡カマド	123
図 125	5b号住居跡出土遺物	123
図 126	6号住居跡	124
図 127	6号住居跡カマド	125
図 128	6号住居跡出土遺物(1)	125
図 129	6号住居跡出土遺物(2)	126
図 130	8号住居跡	127
図 131	8号住居跡出土遺物	127
図 132	9号住居跡	128
図 133	9号住居跡カマド	129
図 134	9号住居跡出土遺物	129
図 135	1～8号土坑	131
図 136	1号窯跡	132
図 137	1号窯跡出土遺物	133
図 138	埋没谷	135
図 139	谷最下層1号溝出土遺物	138
図 140	埋没谷出土遺物(1)	139
図 141	埋没谷出土遺物(2)	140
図 142	埋没谷出土遺物(3)	141
図 143	埋没谷出土遺物(4)	142
図 144	埋没谷出土遺物(5)	143
図 145	埋没谷出土遺物(6)	144
図 146	埋没谷出土遺物(7)	145
金草窯遺跡A地点		
図 147	金草窯遺跡A地点全体図	151
図 148	低地部	152
図 149	遺構外出土遺物	153
金草窯遺跡B地点		
図 150	金草窯遺跡B地点全体図	154
図 151	1号窯跡出土遺物	155
甲竹ノ鼻遺跡A地点		
図 152	甲竹ノ鼻遺跡A地点全体図	156
図 153	1号住居跡	157
図 154	1号住居跡カマド	158
図 155	1号住居跡出土遺物	158
図 156	1・2号土坑	159
図 157	3～6号土坑	160
図 158	7～9号土坑	161
甲竹ノ鼻遺跡B地点		
図 159	甲竹ノ鼻遺跡B地点全体図	162
図 160	1号住居跡	163
図 161	1号住居跡出土遺物	163
図 162	1号住居跡カマド	164

丙竹ノ鼻遺跡

図163	丙竹ノ鼻遺跡全体図	165
図164	1号住居跡	166
図165	1号住居跡カマド	167
図166	1号住居跡出土遺物	167
図167	2号住居跡	168
図168	2号住居跡出土遺物	168
図169	3号住居跡	169
図170	1～3号土坑	170

堂ノ入遺跡A地点1区・2区

図171	堂ノ入遺跡A地点1区全体図	171
図172	堂ノ入遺跡A地点2区全体図	172
図173	1号住居跡	173
図174	1号住居跡カマド	174
図175	1号住居跡出土遺物	174
図176	2号住居跡および出土遺物	175
図177	3号住居跡	176
図178	3号住居跡カマド	177
図179	3号住居跡出土遺物	177
図180	4号住居跡および出土遺物	178
図181	5号住居跡	179
図182	5号住居跡出土遺物	180
図183	6号住居跡	181
図184	6号住居跡出土遺物	182
図185	7号住居跡	182
図186	7号住居跡カマドおよび出土遺物	183
図187	8号住居跡	184
図188	8号住居跡出土遺物	184
図189	9号住居跡および出土遺物	185
図190	10号住居跡および出土遺物	186
図191	11号住居跡	187
図192	11号住居跡出土遺物	187
図193	12号住居跡	188
図194	12号住居跡カマド	189
図195	12号住居跡出土遺物	189
図196	13号住居跡	190
図197	13号住居跡カマド	191
図198	13号住居跡出土遺物	191
図199	14・15号住居跡	192
図200	14・15号住居跡出土遺物	193
図201	16号住居跡	193
図202	16号住居跡カマド	194
図203	16号住居跡出土遺物	194
図204	17号住居跡	195
図205	18号住居跡	196
図206	18号住居跡カマド	197
図207	18号住居跡出土遺物	197
図208	19号住居跡	198
図209	19号住居跡出土遺物	198
図210	22・28・31号土坑出土遺物	204
図211	1・2号土坑	205
図212	3・4号土坑	206
図213	5～8号土坑	207
図214	9～13号土坑	208
図215	14～18号土坑	209
図216	19～22号土坑	210
図217	23～26号土坑	211
図218	27～32号土坑	212
図219	33～38号土坑	213
図220	1号製鉄跡および出土遺物	214

堂ノ入遺跡B地点

図221	堂ノ入遺跡B地点全体図	215
図222	遺構外出土遺物(1)	217
図223	遺構外出土遺物(2)	218
図224	遺構外出土遺物(3)	219
図225	遺構外出土遺物(4)	220
図226	遺構外出土遺物(5)	221
図227	遺構外出土遺物(6)	222
図228	遺構外出土遺物(7)	223

堂ノ入遺跡C地点

図229	堂ノ入遺跡C地点全体図	224
図230	1～3号土坑	226
図231	4～11号土坑	227
図232	12・13号土坑	228
図233	埋没谷(1)	230
図234	埋没谷(2)	231
図235	埋没谷(3)	232
図236	埋没谷出土遺物(1)	235
図237	埋没谷出土遺物(2)	236
図238	埋没谷出土遺物(3)	237
図239	埋没谷出土遺物(4)	238
図240	埋没谷出土遺物(5)	239
図241	埋没谷出土遺物(6)	240
図242	埋没谷出土遺物(7)	241
図243	埋没谷出土遺物(8)	242
図244	埋没谷出土遺物(9)	243
図245	埋没谷出土遺物(10)	244

堂ノ入西遺跡

図246	堂ノ入西遺跡全体図	246
図247	1号住居跡	248
図248	1号住居跡出土遺物	249
図249	2号住居跡	250
図250	2号住居跡出土遺物	251
図251	3号住居跡	251
図252	3号住居跡カマド	252
図253	3号住居跡出土遺物	252
図254	4号住居跡	253
図255	4号住居跡出土遺物	253
図256	5号住居跡	254
図257	5号住居跡出土遺物	254
図258	6号住居跡	255
図259	6号住居跡出土遺物	255
図260	1～3号土坑	256
図261	4～6号土坑	257
図262	1号溝出土遺物	258

日向遺跡

図263	日向遺跡全体図	259
図264	1号住居跡	260
図265	1号住居跡カマドおよび出土遺物	261
図266	1号灰窯および出土遺物	262

ハグレヤツ遺跡

図267	ハグレヤツ遺跡全体図	263
図268	1号土坑	264

試掘

図269	試掘出土遺物	265
------	--------	-----

総括

図270	縄紋時代における土地利用の変遷(1)	268
図271	縄紋時代における土地利用の変遷(2)	269
図272	古墳時代における土地利用の変遷	272
図273	奈良・平安時代における土地利用の変遷	273
図274	児玉宗跡郡出土の須恵器	275

挿 表 目 次

上松遺跡 1区・2区

表 1	3号住居跡出土遺物観察表	22
表 2	6号住居跡出土遺物観察表	30
表 3	遺構外出土遺物観察表	37

神明前遺跡 1区・2区

表 4	1号住居跡出土遺物観察表	42
表 5	2号住居跡出土遺物観察表	44
表 6	3号住居跡出土遺物観察表	46
表 7	5号住居跡出土遺物観察表	47
表 8	1区C地点遺構外出土遺物観察表	63

明神ノ上東遺跡

表 9	1号住居跡出土遺物観察表	66
-----	--------------	----

明神ノ上西遺跡

表 10	遺構外出土遺物観察表	73
------	------------	----

細木谷北遺跡 A地点 1区・2区

表 11	1号住居跡出土遺物観察表	77
表 12	2号住居跡出土遺物観察表	78
表 13	遺構外出土遺物観察表	80

山崎上ノ南遺跡 A地点

表 14	1号住居跡出土遺物観察表	89
表 15	2a号住居跡出土遺物観察表	92
表 16	2b号住居跡出土遺物観察表	95
表 17	2c号住居跡出土遺物観察表	95
表 18	4・5・7号土坑出土遺物観察表	103
表 19	坩堝区出土遺物観察表	106

山崎上ノ南遺跡 B地点

表 20	3a号住居跡出土遺物観察表	111
表 21	3b号住居跡出土遺物観察表	112
表 22	4a号住居跡出土遺物観察表	114
表 23	4c号住居跡出土遺物観察表	118
表 24	4d号住居跡出土遺物観察表	119
表 25	5a号住居跡出土遺物観察表	122
表 26	5b号住居跡出土遺物観察表	123
表 27	6号住居跡出土遺物観察表	126
表 28	8号住居跡出土遺物観察表	127
表 29	9号住居跡出土遺物観察表	129
表 30	1号窯跡出土遺物観察表	133
表 31	1号溝出土遺物観察表	138
表 32	埋没谷出土遺物観察表 (1)	138
表 33	埋没谷出土遺物観察表 (2)	146
表 34	埋没谷出土遺物観察表 (3)	147
表 35	埋没谷出土遺物観察表 (4)	148
表 36	埋没谷出土遺物観察表 (5)	149
表 37	埋没谷出土遺物観察表 (6)	150

金草家遺跡 A地点

表 38	遺構外出土遺物観察表 (1)	152
表 39	遺構外出土遺物観察表 (2)	153

金草家遺跡 B地点

表 40	1号窯跡出土遺物観察表	155
------	-------------	-----

甲竹ノ鼻遺跡 A地点

表 41	1号住居跡出土遺物観察表	158
------	--------------	-----

甲竹ノ鼻遺跡 B地点

表 42	1号住居跡出土遺物観察表	163
------	--------------	-----

丙竹ノ鼻遺跡

表 43	1号住居跡出土遺物観察表	168
表 44	2号住居跡出土遺物観察表	169

堂ノ入遺跡 A地点 1区・2区

表 45	1号住居跡出土遺物観察表	174
表 46	2号住居跡出土遺物観察表	176
表 47	3号住居跡出土遺物観察表	177
表 48	4号住居跡出土遺物観察表	178
表 49	5号住居跡出土遺物観察表	180
表 50	6号住居跡出土遺物観察表	180
表 51	7号住居跡出土遺物観察表	183
表 52	8号住居跡出土遺物観察表	184
表 53	9号住居跡出土遺物観察表	185
表 54	10号住居跡出土遺物観察表	186
表 55	11号住居跡出土遺物観察表 (1)	187
表 56	11号住居跡出土遺物観察表 (2)	188
表 57	12号住居跡出土遺物観察表 (1)	189
表 58	12号住居跡出土遺物観察表 (2)	190
表 59	13号住居跡出土遺物観察表	191
表 60	14号住居跡出土遺物観察表	193
表 61	15号住居跡出土遺物観察表	193
表 62	16号住居跡出土遺物観察表 (1)	194
表 63	16号住居跡出土遺物観察表 (2)	195
表 64	18号住居跡出土遺物観察表	197
表 65	19号住居跡出土遺物観察表	198
表 66	22号土坑出土遺物観察表	204
表 67	1号製鉄跡出土遺物観察表	214

堂ノ入遺跡 B地点

表 68	遺構外出土遺物観察表 (1)	220
表 69	遺構外出土遺物観察表 (2)	223

堂ノ入遺跡 C地点

表 70	埋没谷出土遺物観察表	245
------	------------	-----

堂ノ入西遺跡

表 71	1号住居跡出土遺物観察表	249
表 72	2号住居跡出土遺物観察表	251
表 73	3号住居跡出土遺物観察表	252
表 74	4号住居跡出土遺物観察表	253
表 75	5号住居跡出土遺物観察表	255
表 76	6号住居跡出土遺物観察表	255
表 77	1号溝出土遺物観察表	258

日向遺跡

表 78	1号住居跡出土遺物観察表	261
表 79	1号炭窯出土遺物観察表	261

試掘

表 80	試掘出土遺物観察表	265
------	-----------	-----

自然科学分析

表 81	山崎上ノ南遺跡出土木製品樹種同定表	266
------	-------------------	-----

総括

表 82	各遺跡における調紋土器の出土点数表	267
表 83	兎王窯跡群出土遺物観察表	275

写真図版目次

写真図版 1	飯倉南部遺跡群の位置と周辺の地形	写真図版 21	山崎上ノ南遺跡B地点	3a号住居跡遺物出土状態
写真図版 2	手白洲遺跡 全景		山崎上ノ南遺跡B地点	3a号住居跡カマド 遺物出土状態
	手白洲遺跡 全景			
	手白洲遺跡 1号溝全景		山崎上ノ南遺跡B地点	3a号住居跡カマド
写真図版 3	手白洲遺跡 2号溝全景	写真図版 22	山崎上ノ南遺跡B地点	4a号住居跡全景
	手白洲遺跡 1号土坑全景		山崎上ノ南遺跡B地点	4a号住居跡カマド
	手白洲遺跡 調査区内段差		山崎上ノ南遺跡B地点	4a号住居跡遺物出土状態
写真図版 4	上松遺跡 1区全景	写真図版 23	山崎上ノ南遺跡B地点	4b号住居跡全景
	上松遺跡 1号住居跡全景		山崎上ノ南遺跡B地点	4b号住居跡遺物出土状態
	上松遺跡 2号住居跡全景		山崎上ノ南遺跡B地点	4b号住居跡カマド
写真図版 5	上松遺跡 1号溝全景	写真図版 24	山崎上ノ南遺跡B地点	4b・c号住居跡全景
	上松遺跡 1～4号溝全景		山崎上ノ南遺跡B地点	4c号住居跡全景
	上松遺跡 5号溝全景		山崎上ノ南遺跡B地点	4c号住居跡カマド
写真図版 6	上松遺跡 2区全景	写真図版 25	山崎上ノ南遺跡B地点	4d号住居跡全景
	上松遺跡 2区全景		山崎上ノ南遺跡B地点	4d号住居跡カマド
	上松遺跡 3号住居跡全景		山崎上ノ南遺跡B地点	5a号住居跡全景
写真図版 7	上松遺跡 3号住居跡カマド	写真図版 26	山崎上ノ南遺跡B地点	5a号住居跡全景
	上松遺跡 4号住居跡全景		山崎上ノ南遺跡B地点	5a号住居跡遺物出土状態
	上松遺跡 5号住居跡全景		山崎上ノ南遺跡B地点	5a号住居跡カマド
写真図版 8	上松遺跡 6号住居跡全景	写真図版 27	山崎上ノ南遺跡B地点	5b号住居跡全景
	上松遺跡 6号住居跡カマド		山崎上ノ南遺跡B地点	5b号住居跡遺物出土状態
	上松遺跡 6号住居跡貯蔵穴		山崎上ノ南遺跡B地点	5b号住居跡カマド
写真図版 9	神明前遺跡 1区C地点全景	写真図版 28	山崎上ノ南遺跡B地点	6号住居跡全景
	神明前遺跡 1号竈伏遺構全景		山崎上ノ南遺跡B地点	6号住居跡カマド
	神明前遺跡 神明前遺跡2区全景		山崎上ノ南遺跡B地点	6号住居跡カマド
写真図版 10	明神ノ上東遺跡 全景	写真図版 29	山崎上ノ南遺跡B地点	6・8号住居跡全景
	明神ノ上東遺跡 1号住居跡全景		山崎上ノ南遺跡B地点	8号住居跡遺物出土状態
	明神ノ上東遺跡 1号住居跡カマド		山崎上ノ南遺跡B地点	9号住居跡全景
写真図版 11	明神ノ上西遺跡 全景	写真図版 30	山崎上ノ南遺跡B地点	9号住居跡カマド
	明神ノ上西遺跡 1号樓土集中土坑全景		山崎上ノ南遺跡B地点	6号土坑全景
	明神ノ上西遺跡 土坑群全景		山崎上ノ南遺跡B地点	7号土坑全景
写真図版 12	細木谷北遺跡 1号住居跡全景	写真図版 31	山崎上ノ南遺跡B地点	8号土坑全景
	細木谷北遺跡 2号住居跡全景		山崎上ノ南遺跡B地点	1号竈跡全景
	細木谷北遺跡 2号住居跡カマド		山崎上ノ南遺跡B地点	埋没谷全景
写真図版 13	細木谷北遺跡 B地点2区全景	写真図版 32	山崎上ノ南遺跡B地点	埋没谷東西部
	細木谷北遺跡 1号塚壘全景		山崎上ノ南遺跡B地点	埋没谷西部
	細木谷南遺跡 全景		山崎上ノ南遺跡B地点	埋没谷西西部
写真図版 14	細木谷南遺跡 1号土坑全景	写真図版 33	山崎上ノ南遺跡B地点	木簡出土状態
	細木谷南遺跡 2・3号土坑全景		山崎上ノ南遺跡B地点	曲物出土状態
	細木谷南遺跡 4号土坑全景		山崎上ノ南遺跡B地点	曲物出土状態
写真図版 15	山崎上ノ南遺跡A地点 全景	写真図版 34	金草堂遺跡A地点 全景	
	山崎上ノ南遺跡A地点 1号住居跡全景		金草堂遺跡A地点 近景	
	山崎上ノ南遺跡A地点 1号住居跡カマド		金草堂遺跡B地点 全景	
写真図版 16	山崎上ノ南遺跡A地点 1号住居跡カマド	写真図版 35	金草堂遺跡B地点 近景	
	山崎上ノ南遺跡A地点 2a号住居跡全景		金草堂遺跡B地点 近景	
	山崎上ノ南遺跡A地点 2b号住居跡全景		甲竹ノ鼻遺跡A地点 全景	
写真図版 17	山崎上ノ南遺跡A地点 2b号住居跡全景	写真図版 36	甲竹ノ鼻遺跡A地点 1号住居跡全景	
	山崎上ノ南遺跡A地点 2b号住居跡カマド		甲竹ノ鼻遺跡A地点 1号住居跡遺物出土状態	
	山崎上ノ南遺跡A地点 2c号住居跡全景		甲竹ノ鼻遺跡A地点 1号住居跡カマド	
写真図版 18	山崎上ノ南遺跡A地点 1号土坑全景	写真図版 37	甲竹ノ鼻遺跡B地点 1号製鉄関連土坑全景	
	山崎上ノ南遺跡A地点 2号土坑全景		甲竹ノ鼻遺跡B地点 1号製鉄関連土坑	
	山崎上ノ南遺跡A地点 3号土坑全景			如聖出土状態
写真図版 19	山崎上ノ南遺跡A地点 7号土坑全景		甲竹ノ鼻遺跡B地点 1号製鉄関連土坑	
	山崎上ノ南遺跡A地点 8号土坑全景			如聖出土状態
	山崎上ノ南遺跡A地点 鉾塚区全景	写真図版 38	丙竹ノ鼻遺跡 全景	
写真図版 20	山崎上ノ南遺跡B地点 全景		丙竹ノ鼻遺跡 1号住居跡全景	
	山崎上ノ南遺跡B地点 全景		丙竹ノ鼻遺跡 1号住居跡遺物出土状態	
	山崎上ノ南遺跡B地点 3a号住居跡全景	写真図版 39	丙竹ノ鼻遺跡 1号住居跡遺物出土状態	

写真図版 39	西竹ノ鼻遺跡 1号住居跡カマド遺物出土状態 西竹ノ鼻遺跡 1号住居跡カマド	写真図版 60	堂ノ入遺跡C地点 埋没谷 堂ノ入遺跡C地点 礎集中地点 堂ノ入遺跡C地点 礎集中地点
写真図版 40	西竹ノ鼻遺跡 2号住居跡全景 西竹ノ鼻遺跡 2号住居跡遺物出土状態 西竹ノ鼻遺跡 3号住居跡全景	写真図版 61	堂ノ入西遺跡 全景 堂ノ入西遺跡 全景 堂ノ入西遺跡 1号住居跡全景 堂ノ入西遺跡 1号住居跡遺物出土状態 堂ノ入西遺跡 1号住居跡遺物出土状態
写真図版 41	堂ノ入遺跡A地点 1区全景 堂ノ入遺跡A地点 1号住居跡全景 堂ノ入遺跡A地点 1号住居跡カマド	写真図版 62	堂ノ入西遺跡 1号住居跡カマド 堂ノ入西遺跡 1号住居跡カマド 堂ノ入西遺跡 1号住居跡カマド
写真図版 42	堂ノ入遺跡A地点 2号住居跡全景 堂ノ入遺跡A地点 2号住居跡カマド 堂ノ入遺跡A地点 3号住居跡全景	写真図版 63	堂ノ入西遺跡 2号住居跡カマド 堂ノ入西遺跡 2号住居跡カマド 堂ノ入西遺跡 2号住居跡カマド
写真図版 43	堂ノ入遺跡A地点 3号住居跡カマド 堂ノ入遺跡A地点 4号住居跡カマド 堂ノ入遺跡A地点 5号住居跡全景	写真図版 64	堂ノ入西遺跡 3号住居跡カマド 堂ノ入西遺跡 3号住居跡カマド 堂ノ入西遺跡 3号住居跡カマド
写真図版 44	堂ノ入遺跡A地点 5号住居跡遺物出土状態 堂ノ入遺跡A地点 5号住居跡カマド 堂ノ入遺跡A地点 6号住居跡全景	写真図版 65	堂ノ入西遺跡 4号住居跡カマド 堂ノ入西遺跡 4号住居跡カマド 堂ノ入西遺跡 4号住居跡カマド
写真図版 45	堂ノ入遺跡A地点 6号住居跡遺物出土状態 堂ノ入遺跡A地点 6号住居跡遺物出土状態 堂ノ入遺跡A地点 6号住居跡カマド	写真図版 66	堂ノ入西遺跡 5号住居跡カマド 堂ノ入西遺跡 5号住居跡カマド 堂ノ入西遺跡 5号住居跡カマド
写真図版 46	堂ノ入遺跡A地点 7号住居跡全景 堂ノ入遺跡A地点 7号住居跡カマド 堂ノ入遺跡A地点 8号住居跡全景	写真図版 67	日向遺跡 全景 日向遺跡 1号住居跡カマド 日向遺跡 1号住居跡カマド
写真図版 47	堂ノ入遺跡A地点 8号住居跡カマド 堂ノ入遺跡A地点 9号住居跡全景 堂ノ入遺跡A地点 9号住居跡カマド	写真図版 68	ハグレイヤツ遺跡 全景 ハグレイヤツ遺跡 1号土坑 ハグレイヤツ遺跡 1号土坑掘出土状態
写真図版 48	堂ノ入遺跡A地点 10号住居跡カマド 堂ノ入遺跡A地点 10号住居跡カマド 堂ノ入遺跡A地点 11号住居跡全景	写真図版 69	上松遺跡 出土遺物
写真図版 49	堂ノ入遺跡A地点 11号住居跡遺物出土状態 堂ノ入遺跡A地点 11号住居跡遺物出土状態 堂ノ入遺跡A地点 12号住居跡全景	写真図版 70	上松遺跡 出土遺物
写真図版 50	堂ノ入遺跡A地点 12号住居跡遺物出土状態 堂ノ入遺跡A地点 12号住居跡カマド・貯蔵穴 堂ノ入遺跡A地点 12号住居跡貯蔵穴	写真図版 71	上松遺跡・神明前遺跡 出土遺物
写真図版 51	堂ノ入遺跡A地点 12号住居跡カマド 堂ノ入遺跡A地点 13号住居跡全景 堂ノ入遺跡A地点 13号住居跡遺物出土状態	写真図版 72	神明前遺跡 出土遺物
写真図版 52	堂ノ入遺跡A地点 13号住居跡遺物出土状態 堂ノ入遺跡A地点 13号住居跡遺物出土状態 堂ノ入遺跡A地点 13号住居跡遺物出土状態	写真図版 73	神明前遺跡 出土遺物
写真図版 53	堂ノ入遺跡A地点 13号住居跡 堂ノ入遺跡A地点 14号住居跡全景 堂ノ入遺跡A地点 14号住居跡遺物出土状態	写真図版 74	明神ノ上東遺跡・明神ノ上西遺跡・ 細木谷北遺跡A地点 出土遺物
写真図版 54	堂ノ入遺跡A地点 5・12・14・15号住居跡全景 堂ノ入遺跡A地点 16号住居跡全景 堂ノ入遺跡A地点 16号住居跡遺物出土状態	写真図版 75	細木谷北遺跡A地点 出土遺物
写真図版 55	堂ノ入遺跡A地点 16号住居跡カマド 堂ノ入遺跡A地点 31号土坑全景 堂ノ入遺跡A地点 1号製鉄跡全景	写真図版 76	山崎上ノ南遺跡A地点 出土遺物
写真図版 56	堂ノ入遺跡A地点 1号製鉄跡全景 堂ノ入遺跡A地点 1号製鉄跡遺物出土状態 堂ノ入遺跡A地点 18号住居跡全景	写真図版 77	山崎上ノ南遺跡A地点 出土遺物
写真図版 57	堂ノ入遺跡A地点 18号住居跡遺物出土状態 堂ノ入遺跡A地点 18号住居跡カマド 堂ノ入遺跡A地点 19号住居跡全景	写真図版 78	山崎上ノ南遺跡B地点 出土遺物
写真図版 58	堂ノ入遺跡B地点 19号住居跡遺物出土状態 堂ノ入遺跡B地点 全景 堂ノ入遺跡B地点 縄紋土器出土状態	写真図版 79	山崎上ノ南遺跡B地点 出土遺物
写真図版 59	堂ノ入遺跡B地点 縄の漉出土状態 堂ノ入遺跡C地点 全景 堂ノ入遺跡C地点 土坑群 堂ノ入遺跡C地点 土坑群	写真図版 80	山崎上ノ南遺跡B地点 出土遺物
		写真図版 81	山崎上ノ南遺跡B地点 出土遺物
		写真図版 82	山崎上ノ南遺跡B地点 出土遺物
		写真図版 83	山崎上ノ南遺跡B地点 出土遺物
		写真図版 84	山崎上ノ南遺跡B地点・金草堂遺跡A地点 出土遺物
		写真図版 85	明神ノ鼻遺跡・西竹ノ鼻遺跡 出土遺物
		写真図版 86	堂ノ入遺跡A地点 出土遺物
		写真図版 87	堂ノ入遺跡A地点 出土遺物
		写真図版 88	堂ノ入遺跡A・B地点 出土遺物
		写真図版 89	堂ノ入遺跡A・B地点 出土遺物
		写真図版 90	堂ノ入遺跡A・B地点 出土遺物
		写真図版 91	堂ノ入遺跡A・B地点 出土遺物
		写真図版 92	堂ノ入遺跡C地点 出土遺物
		写真図版 93	堂ノ入遺跡C地点 出土遺物
		写真図版 94	堂ノ入遺跡C地点 出土遺物
		写真図版 95	堂ノ入遺跡C地点 出土遺物
		写真図版 96	堂ノ入遺跡C地点 出土遺物
		写真図版 97	堂ノ入遺跡C地点 出土遺物
		写真図版 98	堂ノ入遺跡C地点 出土遺物
		写真図版 99	堂ノ入遺跡C地点 出土遺物
		写真図版 100	堂ノ入西遺跡・日向遺跡 出土遺物
		写真図版 101	畠田 出土遺物

第 I 章 調査に至る経過

本報告にかかる飯倉南部遺跡群の発掘調査は、株式会社ファーストカントリークラブによるゴルフ場（双園ゴルフクラブ児玉コース）建設工事に伴って失われる埋蔵文化財の記録保存のために、進入路建設関連の調査および本体工事関連の四次の調査の、都合五次にわたって実施されたものであり、発掘調査に至る経緯の概要は以下のとおりである。

埼玉県児玉郡児玉町大字飯倉および児玉地町大字宮内（現本庄市児玉町飯倉および宮内）の1,092,696.39㎡において、株式会社ファーストカントリークラブによるゴルフ場建設にかかる、開発予定地内における埋蔵文化財の所在及び取り扱いについての照会があり、周知の埋蔵文化財包蔵地である神明前遺跡（No.54-082）および上松遺跡（No.54-101）等が該当しているとともに、建設予定地が山林であるところから埋蔵文化財の所在及び包蔵状況を把握するための試掘調査が必要である旨の回答を行った。平成3年6月、株式会社ファーストカントリークラブより本体工事に先立つゴルフ場進入路区域の試掘調査を先行実施してほしい旨の依頼があり、児玉町教育委員会では試掘の条件の整った平成5年12月に進入路区域の試掘調査を実施し、同年12月16日付で進入路区域の試掘調査の結果についての回答を行った。この区域の試掘調査によって、周知の埋蔵文化財包蔵地である神明前遺跡（No.54-082）および上松遺跡（No.54-101）では埋蔵文化財の包蔵が確認された。また、試掘調査によって新しく確認された手白潤遺跡（No.54-308）の区域を加えた約3,000㎡が、現状変更が実施される場合に発掘調査が必要な区域であることが確認されたのである。

この結果を踏まえ、児玉町教育委員会は埋蔵文化財の現状変更を最小限に実施するように株式会社ファーストカントリークラブと協議を行った。しかし、ゴルフ場建設計画にあたって進入路建設は大型重機や機材搬入等の前提であり埋蔵文化財への影響は避けられないところから、道路建設によって埋蔵文化財が失われる区域の発掘調査を実施する必要が生じた。以上の協議を踏まえて、児玉町教育委員会の指導に基づき児玉町遺跡調査会と株式会社ファーストカントリークラブとの間で進入路建設にかかる三遺跡についての埋蔵文化財保存事業委託契約を締結することで発掘調査を実施する運びとなった。

株式会社ファーストカントリークラブから平成7年5月16日付で、文化財保護法第57条の2第1項の規定に基づくゴルフ場進入路区域にかかる遺跡の「埋蔵文化財発掘の届出について」が児玉町教育委員会に提出されたので、同日児教社第44-1号で埼玉県教育委員会教育長あてに進達した。平成7年11月1日付教文第3-390号で「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について」が、株式会社ファーストカントリークラブ代表取締役南学正夫宛に通知された。児玉町教育委員会ではこの通知を踏まえて、進入路建設予定地内の三遺跡の発掘調査（手白潤遺跡、上松遺跡、神明前遺跡）について児玉町遺跡調査会を指導して、ファーストカントリークラブによるゴルフ場（双園ゴルフクラブ児玉コース）建設関連発掘調査として実施することになった。文化財保護法第57条第1項の規定による「埋蔵文化財発掘調査の届出について」が、平成7年11月16日付で児玉町教育委員会に児玉町遺跡調査会長富丘文雄より提出されたので、同日児教社第44-2号で埼玉県教育委員会に進達した。なお、埼玉県教育委員会教育長から平成7年11月1日付け教文第2-135号「埋蔵文化財の発掘調査について」の通知があった。発掘調査は、大熊季広（児玉町教育委員会社会教育課）および尾内俊彦

(児玉町遺跡調査会調査員)を担当者として現地で専従した。現地発掘調査は、平成7年5月17日から平成7年10月31日である。

なお、ゴルフ場建設予定地の試掘調査は、ゴルフ場内への進入路が仮設置され、場内の工用仮設道路が設置されて重機等の予定地内への搬入が可能となった区域から随時継続的に実施した。平成7年10月に試掘調査についての調整会議をもち、原則として調整池の集水区域ごとの必要箇所を伐採を実施し、仮設の土堰堤や沈砂池等を設置して伐採後速やかに試掘調査を実施することとした。試掘調査の方法は、平坦面や緩斜面については任意にトレンチを設定し、斜面地については新旧の『埼玉県史』等によって窠跡の存在が予想されたため、原則として沢筋の斜面裾部の表土層の一定の幅を剥いで確認することとした。ゴルフ場造成工事については、埼玉県土地政策課、ダム砂防課、土地行政課、森務課および文化財保護課の指導に基づいて、調整池にかかる防災堰堤建設を先行して実施することが前提であったため、堰堤建設予定区域および集水域にかかる遺跡の発掘調査を先行して実施することになった。ゴルフ場本体工事にかかる発掘調査については、児玉町教育委員会と株式会社ファーストカントリークラブとの協議に基づいて、児玉町遺跡調査会に発掘調査依頼書が提出されたので、引き続き児玉町遺跡調査会でゴルフ場内の本体工事にかかる第一次調査として実施することになった。

株式会社ファーストカントリークラブ代表取締役松浦均から明神ノ上東遺跡 (No.54-312)、明神ノ上西遺跡 (No.54-313)、山崎上ノ南遺跡 (No.54-278) 細木谷北遺跡 (No.54-314) にかかる文化財保護法第57条の2第1項の規定に基づく「埋蔵文化財発掘の届出について」が、平成8年3月6日付で児玉町教育委員会に提出されたので、児教社第311号で同日埼玉県教育委員会教育長あてに進達した。なお、平成8年3月21日付教文第3-615号で「周知の埋蔵文化財蔵地における土木工事等について」が、株式会社ファーストカントリークラブ代表取締役松浦均宛に通知された。

また、ゴルフ場造成工事に先行して工事が行われる3号堰堤工事にかかる明神ノ上東遺跡 (No.54-312) の文化財保護法第57条第1項の規定による「埋蔵文化財発掘調査の届出について」が、平成8年3月6日付で児玉町教育委員会に児玉町遺跡調査会長富丘文雄より提出されたので、同日児教社第312号で埼玉県教育委員会に進達した。また、埼玉県教育委員会教育長から平成8年3月21日付教文第2-202号で「埋蔵文化財の発掘調査について」の通知があった。また、平成8年度分の「埋蔵文化財発掘調査の届出について」が遺跡調査会長から提出されたので平成8年4月1日付児教社第1号進達し、埼玉県教育委員会教育長から平成8年4月12日付け教文第2-6号で「埋蔵文化財の発掘調査について」の通知があった。なお、現地の発掘調査は、徳山寿樹(児玉町教育委員会社会教育課)、大熊季広(児玉町教育委員会社会教育課)、尾内俊彦(児玉町遺跡調査会調査員)が担当し、平成8年3月18日から同年6月18日まで実施した。

3号堰堤の上方に位置する明神ノ上西遺跡 (No.54-313) にかかる文化財保護法第57条第1項の規定による「埋蔵文化財発掘調査の届出について」が、平成8年4月10日付で児玉町教育委員会に児玉町遺跡調査会長富丘文雄より提出されたので、同日児教社第15号で埼玉県教育委員会に進達した。また、埼玉県教育委員会教育長から平成8年4月18日付け教文第2-13号で「埋蔵文化財の発掘調査について」の通知があった。なお、現地の発掘調査は、鈴木徳雄(児玉町教育委員会社会教育課)、尾内俊彦(児玉町遺跡調査会調査員)が担当し、尾内が現地で専従した。発掘調査は、平成8年4月15日から同年6月28日まで実施した。

5号堰堤右岸にかかる細木谷北遺跡 (No. 54-314) の文化財保護法第 57 条第 1 項の規定による「埋蔵文化財発掘調査の届出について」が、平成 8 年 5 月 17 日付で児玉町教育委員会に児玉町遺跡調査会長富丘文雄より提出されたので、同日児教社第 45 号で埼玉県教育委員会に進達した。また、埼玉県教育委員会教育長から平成 8 年 6 月 3 日付け教文第 2-42 号で「埋蔵文化財の発掘調査について」の通知があった。なお、現地の発掘調査は、尾内俊彦 (児玉町遺跡調査会調査員) が担当し、平成 8 年 5 月 20 日から同年 6 月 28 日まで実施した。

5号堰堤左岸にかかる山崎上ノ南遺跡 (No. 54-278) の文化財保護法第 57 条第 1 項の規定による「埋蔵文化財発掘調査の届出について」が、平成 8 年 5 月 17 日付で児玉町教育委員会に児玉町遺跡調査会長富丘文雄より提出されたので、同日児教社第 46 号で埼玉県教育委員会に進達した。また、埼玉県教育委員会教育長から平成 8 年 6 月 3 日付け教文第 2-41 号で「埋蔵文化財の発掘調査について」の通知があった。なお、現地の発掘調査は、大熊季広 (児玉町教育委員会社会教育課) と尾内俊彦 (児玉町遺跡調査会調査員) が担当し、平成 8 年 6 月 3 日から同年 8 月 30 日まで実施した。

ゴルフ場本体工事にかかる第二次発掘調査については、児玉町教育委員会と株式会社ファーストカントリークラブとの協議に基づいて、引き続き児玉町遺跡調査会で実施することになった。株式会社ファーストカントリークラブ代表取締役松浦均から甲竹ノ鼻遺跡 (No. 54-316)、神明前遺跡 (No. 54-082)、山崎上ノ南遺跡 (No. 54-278)、細木谷北遺跡 (No. 54-314) にかかる文化財保護法第 57 条の 2 第 1 項の規定に基づく「埋蔵文化財発掘の届出について」が、平成 8 年 7 月 29 日付で児玉町教育委員会に提出されたので、児教社第 97 号で同日埼玉県教育委員会教育長あてに進達した。なお、平成 8 年 8 月 23 日付教文第 3-299 号で「周知の埋蔵文化財蔵地における土木工事等について」が、株式会社ファーストカントリークラブ代表取締役松浦均宛に通知された。

このうち 8号堰堤にかかる甲竹ノ鼻遺跡 (No. 54-316) の文化財保護法第 57 条第 1 項の規定による「埋蔵文化財発掘調査の届出について」が、平成 8 年 7 月 29 日付で児玉町教育委員会に児玉町遺跡調査会長富丘文雄より提出されたので、同日児教社第 96 号で埼玉県教育委員会に進達した。また、埼玉県教育委員会教育長から平成 8 年 8 月 23 日付け教文第 2-97 号で「埋蔵文化財の発掘調査について」の通知があった。なお、現地の発掘調査は、大熊季広 (児玉町教育委員会社会教育課)、尾内俊彦 (児玉町遺跡調査会調査員) が担当し、平成 8 年 7 月 31 日から同年 9 月 30 日まで実施した。

神明前遺跡 B 地点の発掘調査については、文化財保護法第 57 条第 1 項の規定による「埋蔵文化財発掘調査の届出について」が、平成 8 年 8 月 5 日付で児玉町教育委員会に児玉町遺跡調査会長富丘文雄より提出されたので、同日児教社第 101 号で埼玉県教育委員会に進達した。なお、埼玉県教育委員会教育長から平成 8 年 8 月 23 日付け教文第 2-96 号で「埋蔵文化財の発掘調査について」の通知があった。なお、現地の発掘調査は、大熊季広 (児玉町教育委員会社会教育課)、尾内俊彦 (児玉町遺跡調査会調査員) が担当し、平成 8 年 8 月 5 日から同年 9 月 30 日まで実施した。

4号堰堤にかかる細木谷北遺跡 (No. 54-314) B 地点の文化財保護法第 57 条第 1 項の規定による「埋蔵文化財発掘調査の届出について」が、平成 8 年 9 月 10 日付で児玉町教育委員会に児玉町遺跡調査会長富丘文雄より提出されたので、同日児教社第 104 号で埼玉県教育委員会に進達した。また、埼玉県教育委員会教育長から平成 8 年 9 月 20 日付け教文第 2-116 号で「埋蔵文化財の発掘調査について」の通知があった。なお、現地の発掘調査は、尾内俊彦 (児玉町遺跡調査会調査員)、大熊季広 (児玉

町教育委員会社会教育課)が担当し、平成8年9月17日から同年10月31日まで実施した。

6号堰堤にかかる山崎上ノ南遺跡(No.54-278)B地点の文化財保護法第57条第1項の規定による「埋蔵文化財発掘調査の届出について」が、平成8年10月1日付で児玉町教育委員会に児玉町遺跡調査会長富丘文雄より提出されたので、同日児教社第157号で埼玉県教育委員会に進達した。また、埼玉県教育委員会教育長から平成8年10月21日付け教文第2-135号で「埋蔵文化財の発掘調査について」の通知があった。なお、現地の発掘調査は、尾内俊彦(児玉町遺跡調査会調査員)、大熊季広(児玉町教育委員会社会教育課)が担当し、平成8年10月21日から平成9年3月31日まで実施した。

ゴルフ場本体工事にかかる第三次発掘調査については、児玉町教育委員会と株式会社ファーストカントリークラブとの協議に基づいて、二次調査に引き続き児玉町遺跡調査会で実施することになった。株式会社ファーストカントリークラブ代表取締役松浦均から丙ノ鼻遺跡(No.54-318)、甲竹ノ鼻遺跡(No.54-316)B地点、ハグレヤツ遺跡(No.54-311)、金草竈遺跡(No.54-297)にかかる文化財保護法第57条の2第1項の規定に基づく「埋蔵文化財発掘の届出について」が、平成9年4月1日付で児玉町教育委員会に提出されたので、児教社第19号で同日埼玉県教育委員会教育長あてに進達した。なお、平成9年6月5日付教文第3-171号で「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について」が、株式会社ファーストカントリークラブ代表取締役松浦均宛に通知された。

丙竹ノ鼻遺跡(No.54-318)の文化財保護法第57条第1項の規定による「埋蔵文化財発掘調査の届出について」が、平成9年4月1日付で児玉町教育委員会に児玉町遺跡調査会長富丘文雄より提出されたので、同日児教社第15号で埼玉県教育委員会に進達した。また、埼玉県教育委員会教育長から平成9年6月5日付け教文第2-50号で「埋蔵文化財の発掘調査について」の通知があった。なお、現地の発掘調査は、大熊季広(児玉町教育委員会社会教育課)、尾内俊彦(児玉町遺跡調査会調査員)が担当し、平成9年4月1日から同年5月15日まで実施した。

甲竹ノ鼻遺跡(No.54-316)B地点の文化財保護法第57条第1項の規定による「埋蔵文化財発掘調査の届出について」が、平成9年4月1日付で児玉町教育委員会に児玉町遺跡調査会長富丘文雄より提出されたので、同日児教社第16号で埼玉県教育委員会に進達した。また、埼玉県教育委員会教育長から平成9年6月5日付け教文第2-51号で「埋蔵文化財の発掘調査について」の通知があった。なお、現地の発掘調査は、尾内俊彦(児玉町遺跡調査会調査員)、大熊季広(児玉町教育委員会社会教育課)が担当し、平成9年4月1日から同年4月30日まで実施した。

ハグレヤツ遺跡(No.54-311)の文化財保護法第57条第1項の規定による「埋蔵文化財発掘調査の届出について」が、平成9年4月1日付で児玉町教育委員会に児玉町遺跡調査会長富丘文雄より提出されたので、同日児教社第17号で埼玉県教育委員会に進達した。また、埼玉県教育委員会教育長から平成9年6月5日付け教文第2-52号で「埋蔵文化財の発掘調査について」の通知があった。なお、現地の発掘調査は、大熊季広(児玉町教育委員会社会教育課)、尾内俊彦(児玉町遺跡調査会調査員)が担当し、平成9年4月1日から同年5月15日まで実施した。

金草竈遺跡(No.54-297)A地点の文化財保護法第57条第1項の規定による「埋蔵文化財発掘調査の届出について」が、平成9年4月1日付で児玉町教育委員会に児玉町遺跡調査会長富丘文雄より提出されたので、同日児教社第18号で埼玉県教育委員会に進達した。また、埼玉県教育委員会教育長から平成9年6月5日付け教文第2-53号で「埋蔵文化財の発掘調査について」の通知があった。なお、

現地の発掘調査は、大熊季広（児玉町教育委員会社会教育課）、尾内俊彦（児玉町遺跡調査会調査員）が担当し、平成9年4月1日から同年5月30日まで実施した。

ゴルフ場本體工事にかかる第四次発掘調査については、児玉町教育委員会と株式会社ファーストカントリークラブとの協議し、第三次調査の契約・協定に基づいて、三次調査に引き続き児玉町遺跡調査会で実施することになった。株式会社ファーストカントリークラブ代表取締役松浦均から日向遺跡（No.54-325）、堂ノ入遺跡（No.54-326）、堂ノ入西遺跡（No.54-327）、細木谷南遺跡（No.54-315）にかかる文化財保護法第57条の2第1項の規定に基づく「埋蔵文化財発掘の届出について」が、平成9年11月20日付で児玉町教育委員会に提出されたので、児教社第183号で同日埼玉県教育委員会教育長あてに進達した。なお、平成9年12月17日付教文第3-599号で「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について」が、株式会社ファーストカントリークラブ代表取締役松浦均あてに通知された。

日向遺跡（No.54-325）の文化財保護法第57条第1項の規定による「埋蔵文化財発掘調査の届出について」が、平成9年11月20日付で児玉町教育委員会に児玉町遺跡調査会長富丘文雄より提出されたので、同日児教社第184号で埼玉県教育委員会に進達した。また、埼玉県教育委員会教育長から平成9年12月17日付け教文第2-165号で「埋蔵文化財の発掘調査について」の通知があった。なお、現地の発掘調査は、尾内俊彦（児玉町遺跡調査会調査員）が担当し、平成9年11月20日から同年12月25日まで実施し、現地調査は終了した。

細木谷南遺跡（No.54-315）の文化財保護法第57条第1項の規定による「埋蔵文化財発掘調査の届出について」が、平成9年11月20日付で児玉町教育委員会に児玉町遺跡調査会長富丘文雄より提出されたので、同日児教社第185号で埼玉県教育委員会に進達した。また、埼玉県教育委員会教育長から平成9年12月17日付け教文第2-166号で「埋蔵文化財の発掘調査について」の通知があった。なお、現地の発掘調査は、尾内俊彦（児玉町遺跡調査会調査員）が担当し、平成9年11月20日から同年12月25日まで実施し、現地調査は終了した。

堂ノ入遺跡（No.54-315）A地点の文化財保護法第57条第1項の規定による「埋蔵文化財発掘調査の届出について」が、平成9年11月20日付で児玉町教育委員会に児玉町遺跡調査会長富丘文雄より提出されたので、同日児教社第186号で埼玉県教育委員会に進達した。また、埼玉県教育委員会教育長から平成9年12月17日付け教文第2-167号で「埋蔵文化財の発掘調査について」の通知があった。なお、現地の発掘調査は、尾内俊彦（児玉町遺跡調査会調査員）が担当し、平成9年11月20日から平成9年12月25日まで実施した。

堂ノ入遺跡（No.54-315）B地点の文化財保護法第57条第1項の規定による「埋蔵文化財発掘調査の届出について」が、平成9年11月20日付で児玉町教育委員会に児玉町遺跡調査会長富丘文雄より提出されたので、同日児教社第187号で埼玉県教育委員会に進達した。また、埼玉県教育委員会教育長から平成9年12月17日付け教文第2-168号で「埋蔵文化財の発掘調査について」の通知があった。なお、現地の発掘調査は、徳山寿樹（児玉町教育委員会社会教育課）が担当し、平成9年11月20日から同年12月25日まで実施した。

堂ノ入遺跡（No.54-315）C地点の文化財保護法第57条第1項の規定による「埋蔵文化財発掘調査の届出について」が、平成9年11月20日付で児玉町教育委員会に児玉町遺跡調査会長富丘文雄より

提出されたので、同日児教社第 188 号で埼玉県教育委員会に進達した。また、埼玉県教育委員会教育長から平成 9 年 12 月 17 日付け教文第 2-169 号で「埋蔵文化財の発掘調査について」の通知があった。なお、現地の発掘調査は、恋河内昭彦（児玉町教育委員会社会教育課）が担当し、平成 9 年 11 月 20 日から同年 12 月 25 日まで実施し、現地調査は終了した。

堂ノ入西遺跡（No. 54-327）の文化財保護法第 57 条第 1 項の規定による「埋蔵文化財発掘調査の届出について」が、平成 9 年 11 月 20 日付で児玉町教育委員会に児玉町遺跡調査会長富丘文雄より提出されたので、同日児教社第 189 号で埼玉県教育委員会に進達した。また、埼玉県教育委員会教育長から平成 9 年 12 月 17 日付け教文第 2-164 号で「埋蔵文化財の発掘調査について」の通知があった。なお、現地の発掘調査は、恋河内昭彦（児玉町教育委員会社会教育課）が担当し、平成 9 年 11 月 20 日から同年 12 月 25 日まで実施し、現地調査は終了した。

なお、上記の発掘調査については、平成 9 年 12 月 25 日に株式会社ファーストカントリークラブの親会社である日東興業株式会社によって東京地方裁判所に和議の申立があり、ゴルフ場造成工事が中断されたことに伴って、継続中であった堂ノ入遺跡 A 地点、堂ノ入遺跡 B 地点の一部の区域の発掘調査も中断した。また、ゴルフ場建設区域内の試掘調査によって確認され発掘調査予定であった金草窯遺跡 B 地点、松ノ木入遺跡、大平遺跡、山崎上東遺跡等にかかる発掘調査については造成工事が中止となったために未着手となった。なお、堂ノ入遺跡 A 地点、堂ノ入遺跡 B 地点の一部区域の発掘調査については、調査途中であったが防災上必要な必要最小限の区域として調査を実施するように埼玉県文化財保護課を通して要請があったため、平成 10 年 8 月 10 日に現地発掘調査を再開し、平成 10 年 9 月 25 日まで発掘調査を実施したものである。ここに、株式会社ファーストカントリークラブ（双園ゴルフ児玉コース）にかかる都合五次に及ぶ現地発掘調査は、平成 7 年 5 月 17 日から継続的に実施し、平成 10 年 9 月 25 日に終了した。

（本庄市教育委員会文化財保護課）

斜面裾部の
試掘調査



第Ⅱ章 遺跡の環境

第1節 地理的環境

ゴルフ場開発に伴って発掘調査された飯倉の南部に位置する国道462号より南側の、14遺跡26地点について、ここでは仮にひとつの「遺跡群」とし、「飯倉南部遺跡群」として記述する。飯倉南部遺跡群の所在する本庄市は、平成18年1月10日に旧「本庄市」と旧「児玉町」が合併し、埼玉県北部の中心的な都市となった。「本庄市」の市域は、東西約17.2km、南北約17.3km、面積89.71km²に及び、東は深谷市および児玉郡美里町、西は児玉郡神川町、南は秩父郡皆野町および長瀬町、北西は児玉郡上里町、また北側は利根川を挟んで群馬県伊勢崎市に接する、埼玉県の北西部に位置している。本庄市の地形は、市域の南東側が八王子―高崎構造線に相当する断層崖を境に三波川系結晶片岩帯に相当する上武山地が位置し、この上武山地に接して第三紀層を基盤にもつ児玉丘陵が平野部に突出している。また、この児玉丘陵の延長上には、やはり第三紀の残丘である生野山・浅見山等の丘陵が点列状に存在している。市域の北西側は関東平野西端を構成する神流川扇状地が展開しており、本庄台地とも呼称される。

この扇状地扇尖部に相当する区域には、神川町大字二宮所在の延喜式内社である金鑽神社付近に水源とする金鑽川と、本庄市児玉町宮内付近に水源を発する、「女堀川」によって開析された神積低地が形成されている。この「女堀川」と呼ばれる河川は、河川改修以前は「赤根川」と呼ばれており、現在は直接「女堀川」に連結する流路が開鑿されているが、かつては金屋条里の東側を北流し、「九郷用水」へ合流していたことは注意すべき点である。また、金鑽川もこの河川によって開析された低地帯を流下するのではなく、台地上を北および東にクランクしながら「九郷用水」へ合流している。

市域の南東側には、上武山地内の秩父郡皆野町金沢付近に水源を発する小山川（旧身躰川）が流れている。小山川は、児玉市街付近では伏流しており、美里町十条付近で表流水量が増加しながら、本庄市街の東側に位置する五十子付近で「女堀川」を合流し、深谷市域で志戸川と合流し利根川に注いでいる。このように本庄市域の大半は、「小山川」水系から分岐する「女堀川」水系に属しており、広義の利根川水系に属している。なお、本庄市街の北側には神流川扇状地の扇端部に相当する深谷断層を境に、その北側には烏川によって形成された烏川低地が展開している。烏川や利根川は、たびたび流路が変化したことが知られているが、近世以降ではこの低地帯に利根川が流下している。

ここに報告する飯倉南部遺跡群は、本庄市児玉町市街の南東約3.5kmの児玉町飯倉に位置し、利根川水系の女堀川の右岸に相当する区域に位置している。本遺跡群は、女堀川水系の上流部に属しており、上武山地北端部を中心に、「女堀川」によって開析された丘陵の一部および低地によって構成され、遺跡群の西側を「女堀川」（旧赤根川）によって開析された宮内の谷戸（宮内支谷）、西側を「御厨川」とも呼ばれる小河川によって開析された飯倉の谷戸（飯倉支谷）に挟まれた区域に位置している。この「御厨川」という呼称は、飯倉地内の「大神宮山」に位置する埼玉県指定旧跡「飯倉御厨跡」にまつわる名称である。なお、「飯倉御厨」は、寿永三年（1184年）に源頼朝が私願成就のために武蔵国飯倉一所を伊勢神宮に寄進したことが『吾妻鏡』に記載されており、飯倉字日向山の大神宮山と呼ばれる高台に豊受神宮の祠が祀られていたところから、この地が「飯倉御厨」の比定地とさ

れたものである。また、遺跡群の中央には山塊の沢水を集めた小河川によって開析された「山崎の谷戸」があり、この山崎支谷によって遺跡群の地形は大きく二つの尾根筋に分かれている。

遺跡群の南側は、上武山地の一角に連なり、この山塊の最高峰は住吉神社の鎮座する標高約 395 m の通称「住吉山」を分水嶺とし、標高約 300 m 付近の琴平神社の鎮座する飯倉側の尾根筋の高所から、北東側に延びる低位山地の尾根筋に相当している。本遺跡群は、この低位の山塊中央に開かれた山崎支谷に集中しているが、飯倉支谷と宮内支谷に位置する遺跡については、ゴルフ場造成計画による残地林区域に位置していたため、その大半は試掘調査を実施していない。今回の調査にかかる遺跡群は、最も低い「女堀川」河岸段丘上に占地する手白洲遺跡が標高 119 m に位置し、日向遺跡の 183 m を最高所としており、山地内とはいえ、概ね標高 140 m から 160 m 付近の谷戸に面する比較的低い区域に位置している。なお、この低位山地の先端部には、旧飯倉村の「村社」であった住吉神社が鎮座し、社殿の背後には早魃時に「お焚き上げ」等を行った通称「雨乞い山」という円錐形の山が、「女堀川」によって開析された主谷に突き出したように位置している。ちなみに、報告にかかる遺跡の集中する山崎支谷については、近世以降の集落が谷筋に沿って展開し、谷戸の中心部は水田や畑地として利用されている。

第2節 歴史的環境

飯倉遺跡群周辺の歴史的な環境は、市内周辺に各時代わたる遺跡も多く内容も多岐に及ぶところから、ここでは本庄市域のうち、主として本遺跡群の位置する児玉地域を中心に概観したい。

縄文草創期から早期にかけての遺跡は、丘陵部や丘陵縁部に偏り、丘陵に接する台地平坦部にも

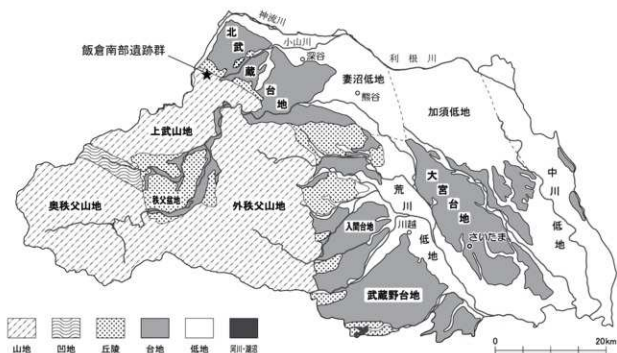
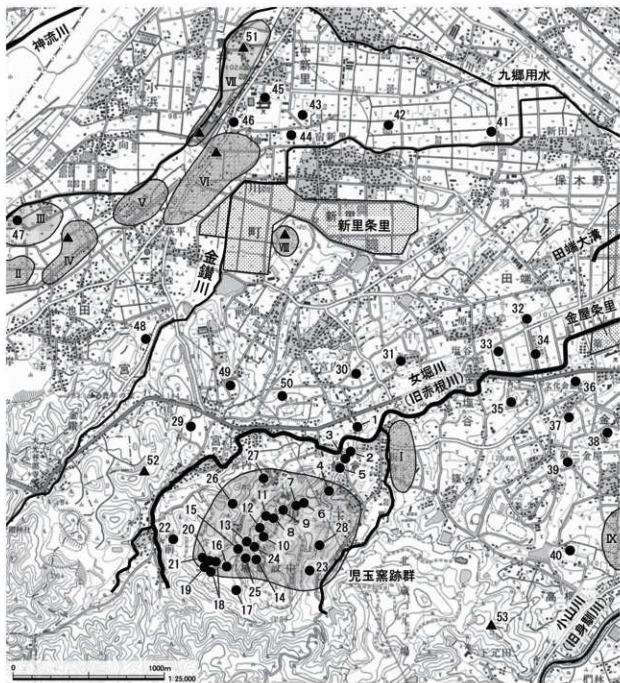


図1 埼玉県の地形



1. 平白洲遺跡 2. 上松遺跡1区 3. 上松遺跡2区 4. 神明前遺跡1区 5. 神明前遺跡2区
 6. 明神ノ上東遺跡 7. 明神ノ上西遺跡 8. 細木谷北遺跡A地点1区・2区 9. 細木谷北遺跡B地点1区・2区
 10. 細木谷南遺跡 11. 山崎上ノ南遺跡A地点 12. 山崎上ノ南遺跡B地点 13. 金草塚遺跡A地点
 14. 金草塚遺跡B地点 15. 甲竹ノ鼻遺跡A地点 16. 甲竹ノ鼻遺跡B地点 17. 丙竹ノ鼻遺跡
 18. 堂ノ入遺跡A地点1区・2区 19. 堂ノ入遺跡B地点 20. 堂ノ入遺跡C地点 21. 堂ノ入西遺跡
 22. 日向遺跡 23. ハグレヤツ遺跡 24. 金草塚跡 25. 金草1号塚跡 26. 上ノ北1号塚跡 27. 下ノ北1号塚跡
 28. 飯倉塚跡 29. 天田遺跡 30. 下原北遺跡 31. 真鏡寺後遺跡 32. 横尾後遺跡 33. ミカド西遺跡
 34. ミカド遺跡 35. 塩谷下大塚遺跡 36. 批把橋遺跡 37. 観音塚遺跡 38. 倉林後遺跡B地点 39. 念仏塚遺跡
 40. ウリ山遺跡 41. 保木野境遺跡 42. 中北原遺跡 43. 西北原遺跡 44. 中道遺跡1地点 45. 中道遺跡2～24地点
 46. 精進場遺跡 47. 海老ヶ久保遺跡 48. 池田遺跡 49. 前組羽根倉遺跡 50. 宮内上ノ原遺跡 51. 中里諏訪山古墳
 52. 脊戸谷遺跡 53. 日向山古墳
- Ⅰ. 飯倉古墳群 Ⅱ. 海老ヶ久保古墳群 Ⅲ. 十二ヶ谷戸古墳群 Ⅳ. 二の宮古墳群 Ⅴ. 南塚原古墳群
 Ⅵ. 北塚原遺跡群 Ⅶ. 植竹古墳群 Ⅷ. 白岩古墳群 Ⅸ. 長沖古墳群

図2 飯倉南部遺跡群の位置と周辺の遺跡

進出するが、本庄台地等の平坦な台地面や低地域には少ない傾向にある。丘陵ないしは台地先端部に位置する長沖梅原遺跡や宥勝寺北裏遺跡（中東 1993 他）から、爪形紋土器や縄紋の側面圧痕をもつ土器群が検出されている。また、早期では丘陵裾部や台地端に占地する城の内遺跡、山地の塔ノ入遺跡（鈴木他 2007）等小規模な遺跡が点在しており、押型紋系や貝殻沈線紋土器が少数検出されている。また、宮内上ノ原遺跡（松澤 2005b、宮田 2008）や浅見山 I 遺跡（松本他 2009）でも燃糸紋系、押型紋系、貝殻沈線紋および貝殻条痕紋系土器等が少量ながら出土している。

縄紋前期に入ると、特に児玉丘陵から上武山地周辺で住居跡を伴う遺跡数が増加し、丘陵部を中心に丘陵付近の台地や山地部の丘陵に接する平坦面に遺跡相互が密集しながら分布している。本遺跡群の周辺には、宮内上ノ原遺跡（松澤 2005b、鈴木他 2006、宮田 2008）や天田遺跡（恋河内 2000）、脊谷戸遺跡（永井他 2005）、塩谷下大塚遺跡（恋河内 1990）等が該当する。これに対して本庄台地面では、縄紋前期の遺跡は極めて稀薄であり、ごく少数の土器片等が稀に出土する程度であって、丘陵部における集落の分布状況とは極めて対照的である。

縄紋中期では引き続き丘陵部や山地内に遺跡が占地するが、遺跡の分布域は拡大し、その中心は広大な広い平坦地を後背に控えた本庄台地に移っている。本庄台地周辺では中期中葉以降、遺跡の分布域が急速に拡大し、勝坂式終末期から加曾利 E III 式期にかけて、大規模な環状集落が新宮遺跡（恋河内 1995）、古井戸遺跡（宮井他 1989）、将監塚遺跡（石塚他 1986）で形成される。これらの大規模集落周辺の台地や丘陵部には平塚遺跡、将監塚東遺跡、将監塚北遺跡等の中・小規模の集落が高密度で形成されている。また、本遺跡の周辺においても、勝坂式期以降、塩谷平氏ノ宮遺跡（恋河内他 2006）等が形成されている。なお、山地域においても河内下ノ平遺跡（松澤 2005a）、橋ノ入遺跡（鈴木他 1986）等が確認されており、該期には特定の地形区分に偏した占地形態をとらない点は特徴的である。

縄紋後・晩期になると市内の遺跡数は大きく減少するが、これまで進出しなかった低地域への占地が顕著となる。湧水点付近の台地上に占地する女池遺跡（恋河内 2001a・2004）では縄紋後期の住居跡をはじめ後期の土器群が、児玉清水遺跡（鈴木他 2007b）では縄紋晩期の住居跡のほか後・晩期の土器群が検出されている。また、本庄台地の旧河川跡に接する徹高地上に占地する藤塚遺跡（鈴木他 1997）においては縄紋晩期の住居跡や後・晩期の土器群が検出されているが、この時期には縄紋中期に見られたような大規模集落は見られなくなり、小規模な集落が継続的に営まれていたようである。

縄紋晩期終末になると遺跡の分布が丘陵や山地に拡散する。ただ、本庄市において縄紋時代終末期から弥生時代初期の遺跡は少なく、中期までは小山川流域等に小規模に点在するのみで、台地部の児玉清水遺跡や丘陵部の秋山塚原遺跡、山地部の塔ノ入遺跡において少量ながら土器片が検出されている。弥生後期になると児玉丘陵を中心に遺跡数は増加傾向にあるが、塩谷下大塚遺跡（恋河内他 2006）や塩谷平氏ノ宮遺跡（恋河内他 2006）等の小規模な集落が形成されるのみで、大規模な集落は確認されていない。再び大規模な集落跡が形成されるのは古墳時代に入ってからである。

古墳時代前期に入ると低地域の開発が急速に進展し集落が増える。この開発は、主として「女堀川」流域の低地域の灌漑および排水が進展したことによるものであり、後張遺跡群をはじめとする大規模な集落が形成される。このような低地域の開発と集落の設営に伴って丘陵部を中心に鷲山古墳をはじめとする古式古墳が相次いで築造されることは注目すべき点である。ともあれ集落遺跡の占地の

傾向は、古墳時代中期以降においても継続するとともに丘陵部にも開発が及んでいる。丘陵部では古墳時代前期に、宮内上ノ原遺跡B地点をはじめ平氏ノ宮遺跡や前組羽根倉遺跡が、あるいはこれらを臨む低位の山地域には本遺跡群の神明前遺跡（本報告）等が確認されている。これらは、弥生時代後期以来の谷水田に臨む伝統的な集落の古地を継承するものであり、しばしば弥生式系統の伝統的な装飾をもつ土師器を伴うものである。古墳時代中・後期では、本遺跡群の周辺の台地部や丘陵部にも真鏡寺後遺跡（大屋 1988・恋河内 1991）や塩谷下大塚遺跡（松澤 2006 他）あるいはミカド遺跡（坂本 他 1981）等が形成され、遺跡数や検出される遺構数が爆発的に増加するが、これらの遺跡の近傍に位置する山地内においては古墳時代の遺跡は検出されていない点にも注目しておくべきであろう。古墳時代後期には、小山川に沿って古墳群が帯状に展開し、金屋地区の南側には大規模な長神古墳群が形成されている。また、本遺跡群の北東に位置する丘陵部においても小規模な飯倉古墳群が形成されている。なお、このような伝統的な墓域から離れた宮内地内には、終末期の古墳 2 基によって構成される宮内古墳群（永井 他 2005）が形成されることにも注目しておくべきである。

本遺跡群周辺の児玉丘陵周辺の奈良・平安時代の集落跡については不明な点が多いが、真鏡寺後遺跡や横尾後遺跡、天田遺跡（恋河内 2000）が検出されている。また、今回報告の遺跡群やその周辺では、須恵器や瓦生産を行っている児玉窯跡群をはじめ小規模な製鉄関連の遺構や遺物が検出されている。なお、山崎上ノ原遺跡B地点（本報告）では、須恵器窯 1 基が検出され、また宝亀二年銘の木簡等が検出されている等、この区域の低位の山地では、手工業生産を伴う集落が急速に形成されている姿を確認することができる。なお、低位の台地面においても十二天遺跡（坂本 他 1981）や東鹿沼遺跡（徳山 他 1996）等が確認されている。このような「女堀川」（旧赤根川）の流域には、かつて金屋条里遺跡が展開しており、十二天遺跡の南端において古代の灌漑用排水系統である“田端大溝”と呼ぶ大溝が検出され、低位の台地端に沿って南西方面に延びていることが確認されている。この用水の水源は、基本的に赤根川水系に属するものと考えられることができるが、赤根川も自然的な低地帯に沿って流下するのではなく、金屋条里の水田を灌漑しながら等高線に沿うように北流し、神流川からの取水にかかると「九郷用水」へと注いでいる。したがって、この赤根川も古代的な用排水の体系的な系統に編成され流路を大きく変更されているものと見做すことができる。このことは田端地区の北側の低地帯に流れていたと考えることのできる金鑽川にも認められ、より上流で「九郷用水」へと合流している。

平安時代末～鎌倉時代には、本遺跡群の周辺にも真鏡寺後遺跡（恋河内 他 1990）に方形館である真鏡寺館跡が形成され、遺構群や瓦、中世陶器等が検出されており、中世初期において児玉塩谷氏の居館を構成する遺構群であると推定することができる。また、ミカド遺跡（坂本 他 1981）では、堀を伴う建物跡等が検出されている。なお、本遺跡群東側の丘陵部には、南北朝期を中心に機能していたと推定される「別所城」や、室町時代を中心とする城跡と推定される「篠城」が存在し、先の金鑽大師方面に延びる「大師道」と呼ばれる古道に沿うように位置していることに注目すべきであろう。

この地域では 15 世紀後半、享徳の乱以後、五十子陣に関東管領上杉氏の当主上杉房顕が布陣し、鳥川・利根川を挟んで古河公方勢力と対峙した。ちなみに、児玉町八幡山の雉岡城は、15 世紀後半に上杉氏が築いたとされており、『新編武蔵風土記稿』にも上杉氏が雉岡城から平井城へと移った経緯等が記されている。この時期における雉岡城の位置は、「鎌倉街道」の幹線である「上道」と「上杉道」の分岐点に相当する小山川の中流域に位置し、その下流に位置する五十子陣や深谷城との相互

の関係を考えるならば、小山川がひとつの防衛線として位置づけられていたのであろう。ともあれ埴岡城は、この時期に主要な市の立つ児玉の地を控えており、五十子陣の重要な兵站の確保の拠点としての地位を占めていたものと推定してよい。ちなみに、この「児玉」に隣接する鑄師集団が居住する「金屋」が形成されたのは、おおむね15世紀中葉から後半頃であると推定される。なお、本遺跡群の北側には、「鎌倉街道上道」から児玉で分岐する「鎌倉街道」の枝道である「上杉道」がとおっている。この古道は、金屋条里区域から田端・塩谷の丘陵部を経て、「新里条里」とも呼ばれる金鑽川によって灌漑される条里水田の南端を経て、神流川を越え関東管領上杉氏の居城であった平井城方面へと延びている中世の幹道のひとつである。このように本遺跡群の位置する飯倉南部の区域とその周辺は、丘陵および低位の山地という地形的な多様性をもっているところから、縄紋早期以降さまざまな形態で利用されているが、とりわけ7世紀中葉以降では活発な土地利用が行われている。(鈴木)

第三章 調査の方法と経過

発掘調査範囲は、試掘調査の成果をもとに設定した。表土除去は重機を用いて掘削した。表土掘削後、人力により遺構確認作業を行った。遺構確認の際にはプランが不明瞭であったため、適宜サブトレンチを設定し、遺構の重複や掘り込みの観察に努めた。遺構については、移植ゴテを使用し、慎重に覆土の除去を行った。遺構掘削にあたっては、土層観察用のベルトを設定し、埋没状態や構築状態を観察した。

図面・写真による記録は、土層断面・遺物出土状態・完掘状態・掘り方等の各段階で行った。遺構図は手実測によって作成した。縮尺1/20を基本とし、カマド等の微細図は1/10、全体図は1/100で作図した。写真撮影には、35mm白黒ネガ・35mmカラーリバーサル・120mm白黒ネガフィルムを用いた。

整理作業は、遺物の洗浄後、手作業による注記を行った。接合にはセメダインC、復元には石膏およびエポキシ樹脂を使用した。遺物の実測は原寸で行い、適宜拓本を採拓した。遺物写真撮影には6×7版白黒フィルムおよびデジタルカメラを併用した。遺構・遺物の実測図は、ロットリングペンによる手作業のトレースおよび、Adobe IllustratorCS2によるデジタルトレースを行い、版下を作成した。図版作成が終了次第、原稿執筆および編集作業を行った。

調査の経過については、各遺跡の発掘調査は平成7年5月17日から平成10年9月25日にかけて断続的に実施した。

(有山)



図3 飯倉南部遺跡群の位置

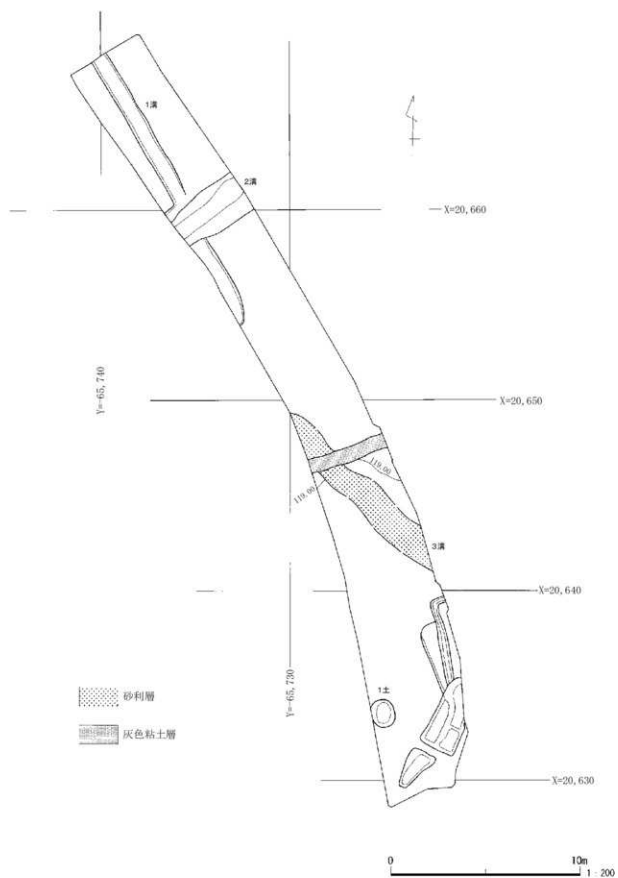


圖4 手白洲遺跡全体圖

第IV章 遺跡群の調査

第1節 手白洲遺跡

1 遺跡の概要 (図4/写真図版2)

手白洲遺跡は「女堀川」左岸の河岸段丘上に立地する。標高は119 mで、調査区内はほぼ平坦である。

検出された遺構は、土坑1基、溝3条である。時期は遺物を伴わないため不明であるが、1号溝は覆土にAs-Aを含んでいることから、近世以降と推定される。2・3号溝は下層に砂礫の堆積が見られることから水が流れていたと考えられる。遺物は、土坑や溝から流れ込みと考えられる細別不明の縄紋土器片が数点出土したのみである。

2 検出された遺構と遺物

(1) 土坑

1号土坑 (図5/写真図版3)

位置: 調査区南側西端に位置する。**形状・規模:** 平面形は楕円形を呈する。長径1.48 m、短径1.24 m、深さ25 cmを測る。**覆土:** 砂礫を含む暗褐色土を主体としている。1層には微量のAs-Aが混入する。**遺物:** 縄紋土器片が1点出土したが、流れ込みと考えられる。**時期:** 不明。

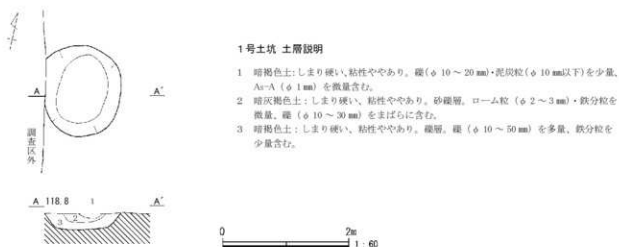


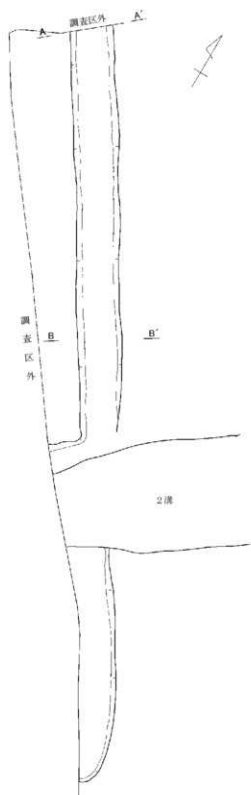
図5 1号土坑

(2) 溝

1号溝 (図6/写真図版2)

位置: 調査区北側西寄りに位置する。北西・南西側は調査区外にかかる。**重複:** 2号溝と重複し、本溝が新しい。**形状・規模:** 北西-南東方向へ直行する。図からは中央で南西方向へ分岐するように見えるが、詳細は不明である。底面は南東側が若干低い。断面形は浅い逆台形状を呈する。確認された

範囲では長さ 15.92 m、幅 0.85 ~ 0.94 m、深さ 14 ~ 30 cm を測る。主軸方位：N - 29° - W。覆土：少量の As-A・砂鉄粒を含む暗褐色土を主体としている。遺物：縄紋時代前期に比定される土器片がわずかに出土したが、流れ込みと考えられる。時期：近世以降。



1号溝 土層説明

- 1 暗褐色土：しまり硬い、粘性なし。As-A・ローム粒・焼土粒を少量、炭化物を微量含む。
- 2 暗褐色土：しまり硬い、粘性ややあり。As-A を中量、焼土粒・鉄斑粒を微量含む。
- 3 明灰褐色土：しまり硬い、粘性ややあり。砂鉄粒・鉄斑粒を中量、As-A を微量含む。
- 4 明黄褐色土：しまり硬い、粘性ややあり。砂鉄粒・鉄斑粒を多量含む。
- 5 暗灰褐色土：しまりやや強い、粘性ややあり。砂鉄粒を下部に多量、黄白色粒子を少量含む。
- 6 暗赤褐色土：しまりやや強い、粘性ややあり。砂鉄粒を多量、As-A を少量含む。
- 7 黒褐色土：しまり硬い、粘性ややあり。As-A・砂鉄粒を少量、ローム粒を極微量含む。
- 8 暗赤褐色土：しまり硬い、粘性ややあり。As-A・砂鉄粒を少量含む。
- 9 暗褐色土：しまりやや強い、粘性ややあり。As-A・砂鉄粒を少量含む。



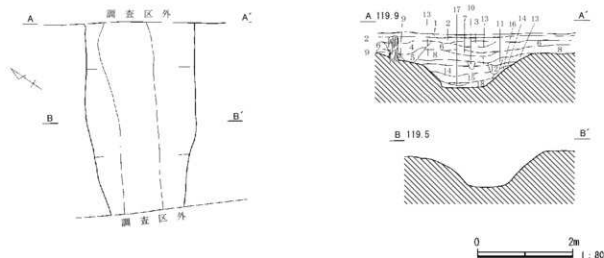
図6 1号溝

2号溝 (図7 / 真図版3)

位置: 調査区北側に位置する。北東・南西側は調査区外にかかる。**重複:** 1号溝と重複し、本溝が古い。**形状・規模:** 北東-南西方向へ直行し、底面は北東側がわずかに低い。断面形は逆台形状を呈する。確認された範囲では長さ4.04 m、幅1.59~2.33 m、深さ70~72 cmを測る。**主軸方位:** N-54°-E。**覆土:** 炭化物粒・片岩粒を含む黒褐色土を主体とし、下位には砂礫を多量に含む明灰褐色土が堆積する。**遺物:** 出土しなかった。**時期:** 不明。

3号溝 (図4)

位置: 調査区中央よりやや南側に位置する。北西・南東側は調査区外にかかる。**重複:** 本溝を横断するように、灰色粘土が帯状に上面を覆っている。このラインに沿って鉄分が沈澱しており、水が溜まっていたと推察される。**形状・規模:** 北西-南東方向へ蛇行する。確認された範囲では長さ4.21 m、幅0.75~0.84 mを測る。深さは掘削していないため不明である。**主軸方位:** N-48°-W。**覆土:** 砂礫層を主体としている。**遺物:** 出土しなかった。**時期:** 不明。

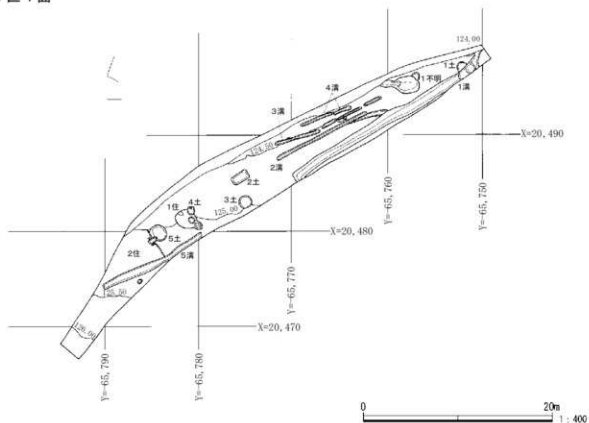


2号溝 土層説明

- 1 暗褐色土: しまり硬い、粘性ややあり。As-Aを中量、焼土粒・鉄炭粒を微量含む。
- 2 明灰褐色土: しまり硬い、粘性ややあり。砂鉄粒・鉄炭粒を中量、As-Aを微量含む。
- 3 褐色土: しまり強い、粘性あり。炭化物粒・As-Aを微量含む。
- 4 暗褐色土: しまり強い、粘性あり。暗褐色土ブロックを少量、As-Aを微量含む。
- 5 黒褐色土: しまり強い、粘性あり。暗褐色土ブロックを多量含む。
- 6 暗灰褐色土: しまりやや強い、粘性ややあり。砂鉄粒を下部に多量、黄白色子を少量含む。
- 7 暗褐色土: しまり強い、粘性強い。褐色土を少量。炭化物粒を微量含む。
- 8 暗褐色土: しまり強い、粘性強い。鉄分を多量、微砂粒・細岩片を微量含む。
- 9 黒褐色土: しまり強い、粘性強い。鉄分を少量、微砂粒・細岩片を微量含む。
- 10 褐色土: しまり強い、粘性強い。鉄分を多量。炭化物粒を少量含む。
- 11 褐色土: しまり強い、粘性強い。炭化物粒・鉄分を均一に含む。
- 12 明褐色土: しまり強い、粘性強い。鉄分を多量。炭化物粒・片岩粒を少量含む。
- 13 暗褐色土: しまり強い、粘性強い。灰褐色土を底状に少量。炭化物粒を微量含む。
- 14 黒褐色土: しまり強い、粘性強い。片岩粒をまばらに。炭化物粒を微量含む。
- 15 黒色土: しまり強い、粘性強い。片岩粒を微量含む。
- 16 暗褐色土: しまり強い、粘性強い。炭化物粒を微量含む。
- 17 灰褐色土: しまり強い、粘性あり。砂粒を多量含む。
- 18 明灰褐色土: しまり強い、粘性強い。砂粒・小礫を均一に含む。

図7 2号溝

1区1面



1区2面

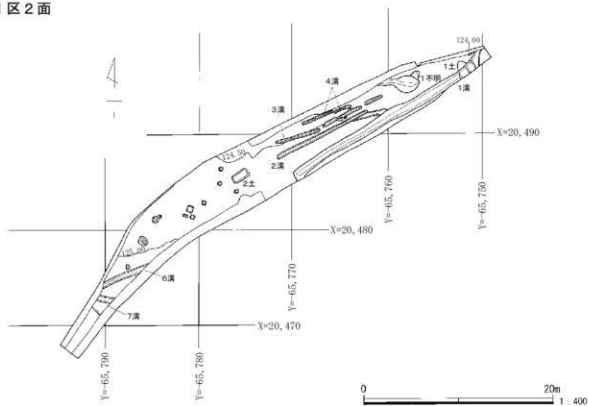


図8 上松遺跡1区全体図

2区

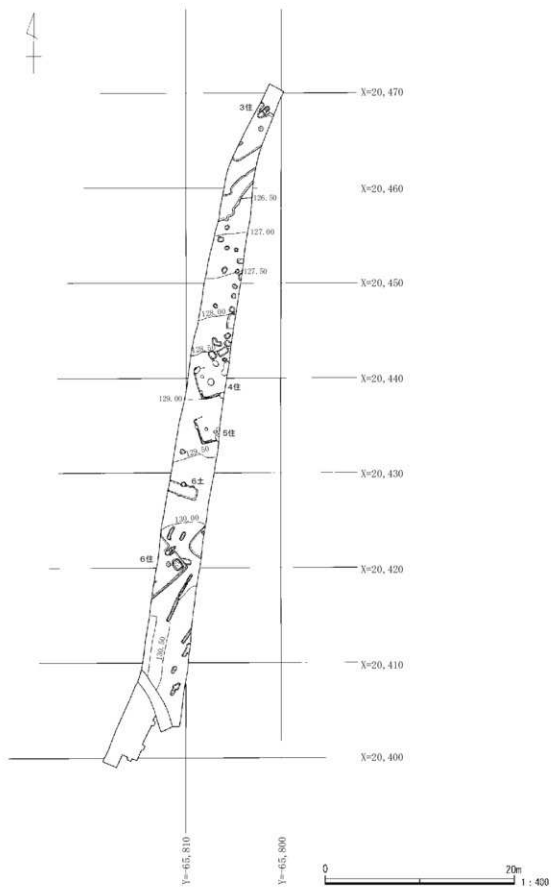


图9 上松遺跡2区全体图

第2節 上松遺跡1区・2区

1 遺跡の概要(図8・9/写真図版4・6)

上松遺跡は「女堀川」右岸の北東方向へのびる低い丘陵裾野に立地する。1区と2区に分かれ、標高は1区が124～126m、2区が126.5～130.5mである。調査区内は斜面地で、両区とも南西から北東へ傾斜している。

検出された遺構は、竪穴住居跡6軒、土坑6基、溝7条、不明遺構1基である。竪穴住居跡の時期は古墳時代後期3軒、平安時代1軒、不明2軒である。古墳時代後期は1・2区に、平安時代は1区に分布している。土坑・溝・不明遺構は、遺物をほとんど伴わないため時期不明である。

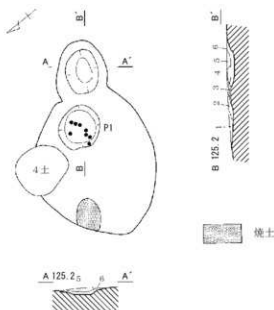
遺物は、主に竪穴住居跡から土師器・須恵器・土製品等が出土した。また、わずかだが1号溝から鉄滓が出土している。遺構外からは縄紋土器や石器が出土した。早期中葉から後期前半のものが認められ、前期が大半を占めている。なお、調査区上段の畑には縄紋時代中期や古墳時代後期の土器片が散布しており、本調査区より上段にこれらの集落等が展開していたものと推測される。

2 検出された遺構と遺物

(1) 竪穴住居跡

1号住居跡(図10/写真図版4)

位置: 1区1面中央より南西側に位置する。重複: 4号土坑と重複し、本住居跡が古い。形状・規模: 土砂流失のため平面形は確定できない。規模は、確認された範囲では東西軸3.04m、南北軸1.86mを測る。主軸方位: N-124°-E。床面: 確認面からの深さは3cmを測る。貼床はなく、床面はやや凹凸が見られる。北西端には焼土が楕円状に検出され、長径49cm、短径38cmを測る。貯蔵穴: 不明。



1号住居跡 土層説明

- 1 暗褐色土: しまりやや弱い、粘性強い。焼土粒(φ1mm)・粘土粒(φ1～2mm)を中量含む。
- 2 暗褐色土: しまりやや弱い、粘性ややあり。焼土粒(φ1mm)・粘土粒(φ1～2mm)を少量含む。
- 3 暗褐色土: しまりやや弱い、粘性ややあり。粘土粒(φ1～2mm)を中量。焼土粒(φ1mm)を微量含む。
- 4 暗赤褐色土: しまりやや弱い、粘性弱い。焼土粒(φ1mm)を中量。焼土ブロック(φ20mm)を微量含む。
- 5 暗赤褐色土: しまりやや弱い、粘性弱い。焼土粒(φ1mm)・焼土ブロック(φ20mm)を多量。粘土粒子を微量含む。
- 6 暗褐色土: しまりやや弱い、粘性弱い。焼土粒(φ1mm)・焼土ブロック(φ20mm)を少量含む。

図10 1号住居跡

ピット：カマド手前にP1が検出された。平面形は円形を呈し、長径68cm、短径66cm、床面からの深さ5cmを測る。周囲の床面は硬化しており、覆土にはカマドからの流入と考えられる焼土粒・粘土粒が混入している。**カマド**：東壁に設置される。全長69cm、幅52cmを測る。覆土中に粘土が混入しており、カマド構築材に使用されたものと推測される。**遺物**：P1を中心に酸化焰焼成の須恵器高台付碗等の破片が少量出土したが、小破片のため図示できなかった。**時期**：10世紀。

2号住居跡（図11・12／写真図版4）

位置：1区1面南西側に位置する。**重複**：5号土坑・5号溝と重複し、5号溝より本住居跡が古い。5号土坑との新旧関係は不明である。**形状・規模**：住居北東壁ラインしか捉えられず、平面形は確定できない。規模は、確認された範囲では北東-南西軸3.70mを測る。**主軸方位**：N-54°-E。**床面**：確認面からの深さは8cmを測る。貼床はなく、床面はやや凹凸が見られ、全体的に硬化している。特にカマド前方の硬化度合いが強い。**貯蔵穴**：不明。**柱穴**：不明。**カマド**：北東壁に設置される。燃烧部は幅42cm、奥行き92cmを測り、方形に近い掘り方で壁外に造り出される。明瞭な火床面は検出されなかった。袖は灰褐色粘土を主体として構築される。**遺物**：カマドやその周辺部から土師器坏・甕等の破片が少量出土した。**時期**：小片のため図示できるものはなかった。時期を特定できる遺物もないため、詳細な時期は不明であるが、カマド燃烧部を壁内に造る構造から、古墳時代後期に帰属すると考えられる。

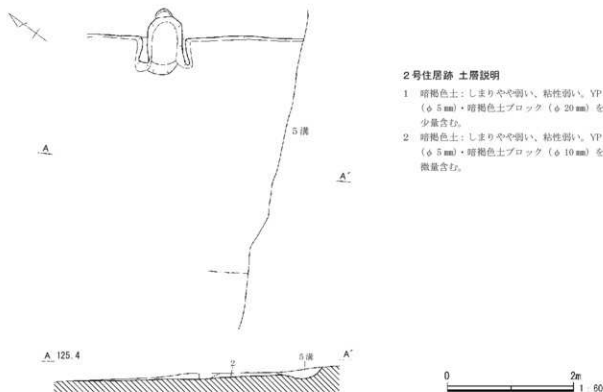
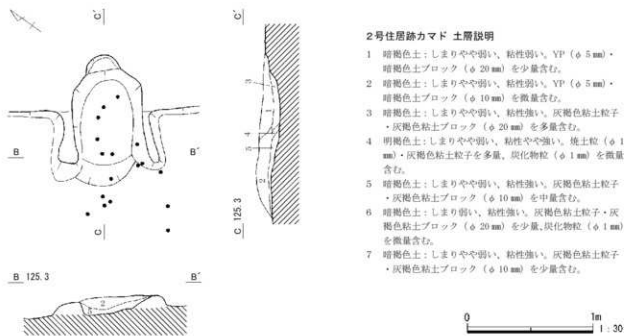


図11 2号住居跡



2号住居跡カマド 土層説明

- 1 暗褐色土：しまりやや弱い、粘性弱い、YP (ϕ 5mm)・暗褐色土ブロック (ϕ 20mm) を少量含む。
- 2 暗褐色土：しまりやや弱い、粘性弱い、YP (ϕ 5mm)・暗褐色土ブロック (ϕ 10mm) を微量含む。
- 3 暗褐色土：しまりやや弱い、粘性強い、灰褐色粘土粒子・灰褐色粘土ブロック (ϕ 20mm) を多量含む。
- 4 明褐色土：しまりやや弱い、粘性やや強い、焼土粒 (ϕ 1mm)・灰褐色粘土粒子を多量、炭化物粒 (ϕ 1mm) を微量含む。
- 5 暗褐色土：しまりやや弱い、粘性強い、灰褐色粘土粒子・灰褐色粘土ブロック (ϕ 10mm) を中量含む。
- 6 暗褐色土：しまり弱い、粘性強い、灰褐色粘土粒子・灰褐色粘土ブロック (ϕ 20mm) を少量、炭化物粒 (ϕ 1mm) を微量含む。
- 7 暗褐色土：しまりやや弱い、粘性強い、灰褐色粘土粒子・灰褐色粘土ブロック (ϕ 10mm) を少量含む。

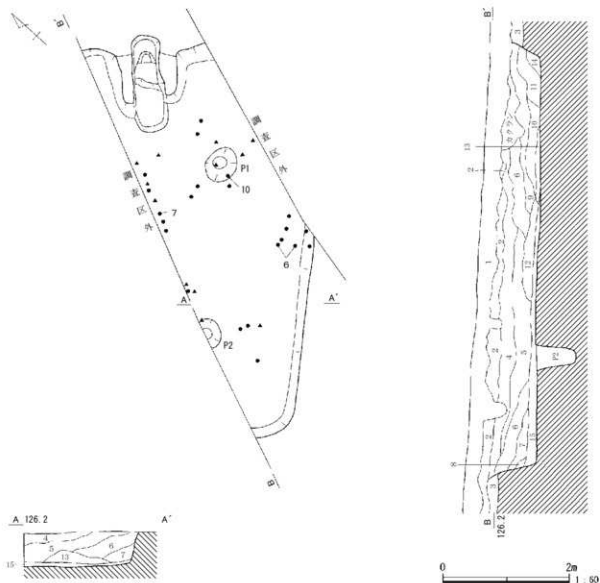
図12 2号住居跡カマド

3号住居跡 (図13～15、表1/写真図版6・7・69)

位置：2区北端に位置する。東・西側は調査区外にかかる。形状・規模：平面形は長方形を呈すと推測される。規模は、確認された範囲では北東-南西軸5.77mを測る。主軸方位：N-47°-E。床面：確認面からの深さは54cmを測る。床面はほぼ平坦で、15層は貼床と考えられる。貯蔵穴：不明。柱穴：2基検出され、4本の主柱穴が配されると推定される。P1は長径58cm、短径46cmの楕円形を呈し、深さ61cmを測る。P2は径47cm、深さ63cmを測る。カマド：北東壁に設置される。燃焼部は幅45

表1 3号住居跡出土物観察表

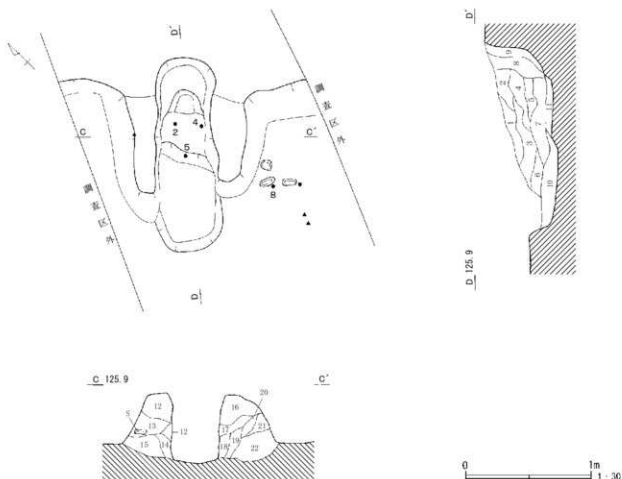
1	須恵器 環	A. 口縁部径(9.0)、器高3.0、底部径(4.4)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部外面右回転ケズリ後ナデ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外-にぶい黄褐色。F. 1/5。G. 酸化焙焼成。H. カマド右脇。
2	土師器 環	A. 口縁部径10.8、器高3.7。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-橙色。F. 口縁部一部欠損。H. カマド内。
3	土師器 環	A. 口縁部径(12.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒、褐色粒。E. 内外-明赤褐色。F. 口縁部~体部1/4。H. 覆土中。
4	土師器 環	A. 口縁部径(12.4)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-灰褐色。F. 口縁部~体部1/4。H. 覆土中。
5	土師器 環	A. 口縁部径(16.0)。器高5.2。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-橙色。F. 1/4。H. カマド内。
6	土師器 環	A. 口縁部径(14.5)。器高5.5。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 角閃石、靫。E. 内外-明赤褐色。F. 1/2。H. 覆土中。
7	土師器 甕	A. 口縁部径(24.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部上位外面斜方向のケズリ、内面笠ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-にぶい黄褐色。F. 口縁部~胴部上位1/6。H. 覆土中。
8	土師器 甕	A. 底部径4.3。B. 粘土組織み上げ。C. 胴部下位外面斜方向のケズリ、内面笠ナデ。底部外面ケズリ、内面笠ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-にぶい黄褐色。F. 胴部下位~底部。H. カマド右脇。
9	土製 支脚	A. 残存長7.6、幅4.9、厚さ4.0。B. 粘土組織み上げ。C. 外面ナデ。D. 白色粒、角閃石、靫。E. 外-にぶい赤褐色。F. 一部残存。H. 覆土中。
10	土製品 土玉	A. 長さ2.3、幅2.25、孔径0.25。C. 外面ナデ。D. 白色粒、角閃石。E. 外-明赤褐色。F. 完形。H. 覆土中。



3号住居跡 土層説明

- 1 暗褐色土：現代耕作土。
- 2 暗褐色土：しまりやや弱い、粘性ややあり。YPを少量、ローム粒子（ ϕ 0.5mm以下）・ロームブロック（ ϕ 20mm以下）を微量含む。
- 3 暗褐色土：しまり強い、粘性ややあり。暗褐色土ブロック（ ϕ 50mm）を多量、ローム粒子（ ϕ 0.5mm）を中量、YP（ ϕ 0.5mm）を少量含む。
- 4 黒褐色土：しまり強い、粘性あり。焼土粒・炭化物粒・ローム粒を微量含む。
- 5 黒褐色土：しまり強い、粘性あり。焼土粒・炭化物粒・ローム粒を少量含む。
- 6 暗褐色土：しまり強い、粘性あり。ローム粒子を少量、炭化物粒（ ϕ 10～15mm）を微量含む。
- 7 黒褐色土：しまりやや強い、粘性ややあり。炭化物粒・ローム粒を微量含む。
- 8 褐色土：しまり弱い、粘性なし。ローム粒を均一に含む。
- 9 褐色土：しまり強い、粘性あり。炭化物粒・ローム粒を均一に、焼土粒を微量含む。
- 10 灰褐色土：しまり強い、粘性強い。灰色粘質土を多量、炭化物粒を少量、焼土粒・ローム粒を微量含む。
- 11 暗褐色土：しまり強い、粘性あり。炭化物粒を多量、焼土粒・ローム粒・灰色粘質土を少量含む。
- 12 暗褐色土：しまり強い、粘性弱い。ローム粒・ロームブロックを均一に、炭化物粒を少量含む。
- 13 暗褐色土：しまり強い、粘性あり。ローム粒・ロームブロックを多量、焼土粒・炭化物粒を均一に含む。
- 14 黒褐色土：しまり強い、粘性弱い。ローム粒・炭化物粒を均一に、焼土粒・ロームブロックを少量含む。
- 15 暗褐色土：しまり強い、粘性弱い。ロームブロックを多量、炭化物粒・ローム粒を少量含む。

図13 3号住居跡



3号住居跡カマド 土層説明

- 1 灰褐色土：しまり強い、粘性ややあり。灰色粘土ブロック・灰白色粘土ブロックを少量、焼土粒・礫（ ϕ 5～20mm）を微量含む。
- 2 黒褐色土：しまり強い、粘性ややあり。焼土粒・焼土ブロックを多量、礫（ ϕ 5mm）を微量含む。
- 3 黒褐色土：しまり強い、粘性ややあり。焼土粒・焼土ブロックを多量、炭化物粒・灰白色粘土ブロックを少量含む。
- 4 黒褐色土：しまりやや強い、粘性ややあり。焼土ブロック・灰白色粘土ブロックを少量含む。
- 5 赤灰色土：しまり強い、粘性ややあり。炭化物粒を微量含む。
- 6 黒褐色土：しまり強い、粘性ややあり。焼土粒・焼土ブロックを少量含む。
- 7 黒褐色土：しまりやや強い、粘性あり。焼土粒・焼土ブロック・ローム粒を少量、炭化物粒を微量含む。
- 8 暗褐色土：しまり強い、粘性ややあり。粘土ブロックを少量、焼土粒を微量含む。
- 9 暗褐色土：しまり強い、粘性ややあり。地山。掘りすぎ。
- 10 暗褐色土：しまり強い、粘性なし。炭化物粒を均一に、灰・焼土粒・ローム粒を少量含む。
- 11 にぶい黄褐色土：しまり強い、粘性弱い。ロームを大量含む。
- 12 灰褐色土：しまり強い、粘性強い。焼土粒・炭化物粒を少量含む。袖構築材。
- 13 暗褐色土：しまり強い、粘性あり。焼土粒を少量、炭化物粒・ローム粒を微量含む。袖構築材。
- 14 暗褐色土：しまり強い、粘性あり。焼土ブロック・焼土粒を多量、ローム粒を少量含む。袖構築材。
- 15 暗褐色土：しまり強い、粘性あり。焼土粒・炭化物粒を均一に、ロームブロック・ローム粒を少量含む。袖構築材。
- 16 暗褐色土：しまり強い、粘性中弱。焼土粒を均一に、炭化物粒・ローム粒を微量含む。袖構築材。
- 17 明褐色土：しまり強い、粘性中弱。焼土ブロックを主体とし、炭化物粒を微量含む。袖構築材。
- 18 褐色土：しまりやや強い、粘性中弱。焼土ブロック・焼土粒を多量、炭化物粒・ローム粒を少量含む。袖構築材。
- 19 褐色土：しまり強い、粘性あり。焼土粒・ローム粒を均一に、炭化物粒を微量含む。袖構築材。
- 20 褐色土：21層が熱を受け変色した層。袖構築材。
- 21 灰褐色土：しまり強い、粘性強い。焼土粒を多量、炭化物粒を少量含む。袖構築材。
- 22 暗褐色土：しまり強い、粘性あり。ロームブロック・ローム粒を多量に、炭化物粒を少量含む。袖構築材。

図 14 3号住居跡カマド

cm、奥行き 80 cm で壁内に造られる。明瞭な火床面は検出されなかった。袖はロームブロック・焼土粒・炭化物粒を含む暗褐色土を主体として構築される。遺物：カマドや覆土中から土師器環・甕の破片が多量、須恵器環・甕の破片が少量出土した。土器以外では土玉、土製支脚、編物石が確認されている。時期：7 世紀前半。

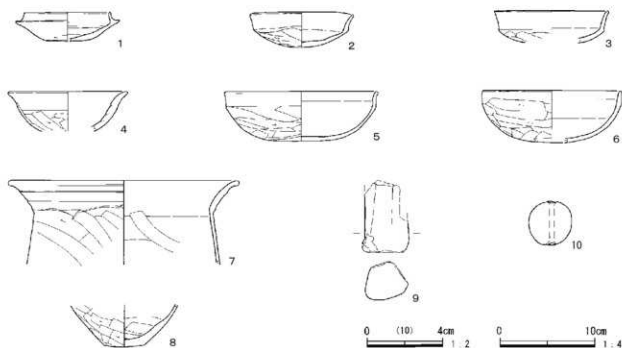
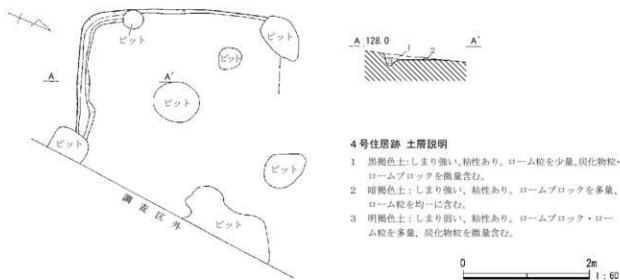


図 15 3号住居跡出土遺物

4号住居跡（図 16 / 写真図版 7）

位置：2区中央に位置する。重複：複数のビットと重複し、本住居跡が古い。形状・規模：土砂流出のため平面形は確定できない。規模は、確認された範囲では南北軸 3.10 m を測る。主軸方位：N



4号住居跡 土層説明

- 1 黒褐色土：しまり強い、粘性あり。ローム粒を少量、炭化物粒・ロームブロックを微量含む。
- 2 暗褐色土：しまり強い、粘性あり。ロームブロックを多量、ローム粒を均一に含む。
- 3 明褐色土：しまり弱い、粘性あり。ロームブロック・ローム粒を多量、炭化物粒を微量含む。

図 16 4号住居跡

-73°-E。床面：確認面からの深さは12 cmを測る。貼床はなく、床面はやや凹凸が見られる。壁溝：南壁から西壁下にかけて検出された。幅8～11 cm、深さ8 cmを測る。貯蔵穴：不明。柱穴：不明。カマド：不明。遺物：出土しなかった。時期：不明。

5号住居跡（図17／写真図版7）

位置：2区中央に位置する。重複：複数のピットと重複し、本住居跡が古い。形状・規模：土砂流出のため平面形は確定できない。規模は、確認された範囲では南北軸2.62 mを測る。主軸方位：N-72°-E。床面：確認面からの深さは10 cmを測る。貼床はなく、床面はやや凹凸が見られる。壁溝：西壁から南壁下にかけて検出された。幅10～17 cm、深さ6 cmを測る。貯蔵穴：不明。柱穴：不明。カマド：不明。遺物：覆土中から土師器甕の破片が1点出土したのみである。時期：不明。

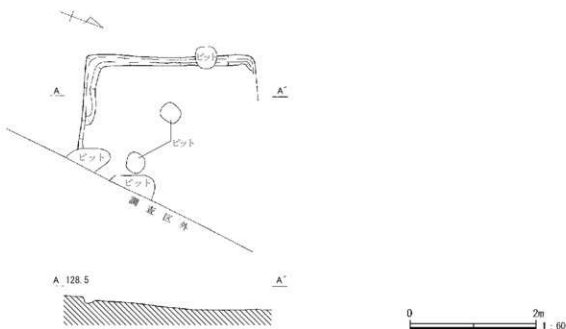
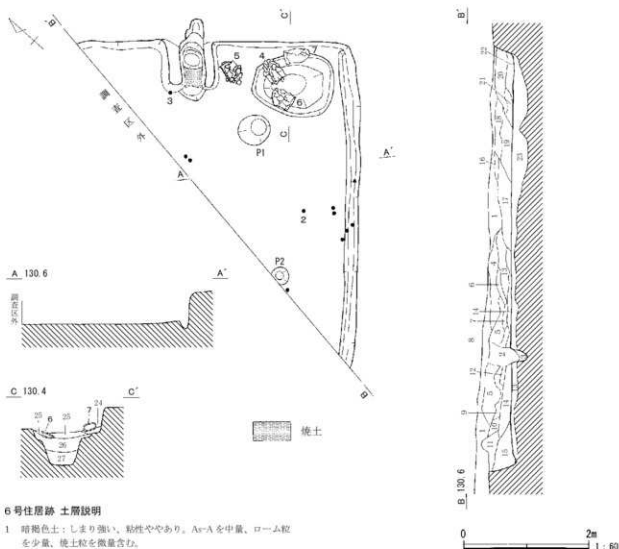


図17 5号住居跡

6号住居跡（図18～20、表2／写真図版8・69・70）

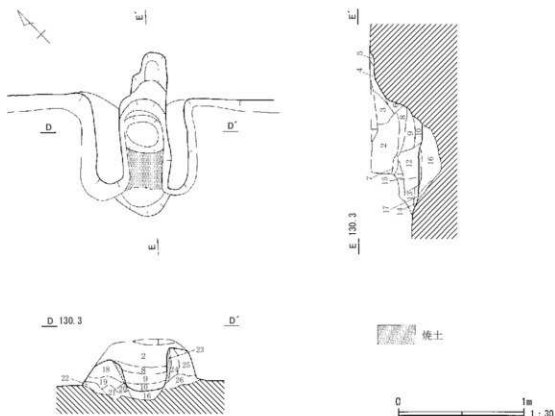
位置：2区南西側に位置する。南西側は調査区外にかかる。形状・規模：平面形は長方形を呈すと推測される。規模は、確認された範囲では北東-南西軸5.08 m、北西-南東軸4.27 mを測る。主軸方位：N-49°-E。床面：確認面からの深さは42 cmを測る。床面はほぼ平坦である。貼床でロームブロックを多量に含む暗褐色土が充填されており、厚さは4～26 cmである。壁溝：南東壁下に検出された。幅11～16 cm、深さ12 cmを測る。貯蔵穴：カマドの右脇に位置する。長径130 cm、短径100 cmの隅丸長方形を呈し、深さ58 cmを測る。貯蔵穴上面から土師器長胴甕が横倒しの状態で出土しており、木製の蓋状のものが置かれていた可能性が考えられる。柱穴：2基検出され、4本の支柱穴が配されると推定される。P1は長径53 cm、短径48 cmの円形を呈し、深さ25 cmを測る。P2は長径30 cm、短径23 cmの円形を呈し、深さ63 cmを測る。カマド：東壁に設置される。燃焼部は幅38 cm、奥行き80 cmで壁内に造られる。火床面には焼土が薄く堆積している。袖の内壁は被熱し赤色化して



6号住居跡 土層説明

- 1 暗褐色土：しまり強い、粘性ややあり。As-Aを中量、ローム粒を少量、焼土粒を微量含む。
- 2 黒褐色土：しまり強い、粘性ややあり。ローム粒を中量、As-A・焼土粒を微量含む。
- 3 黒褐色土：しまりやや強い、粘性あり。ローム粒を多量、ロームブロックを微量含む。
- 4 暗褐色土：しまり強い、粘性ややあり。ローム粒を中量、ロームブロック（ $\phi 10 \sim 30 \text{ mm}$ ）を少量、YP・焼土粒・炭化物ブロック（ $\phi 10 \text{ mm}$ ）を微量含む。
- 5 暗褐色土：しまり強い、粘性ややあり。ローム粒を中量、YP・焼土粒・ロームブロック（ $\phi 10 \text{ mm}$ ）を微量含む。
- 6 暗褐色土：しまり強い、粘性ややあり。ローム粒を多量、YP・焼土粒・炭化物ブロック（ $\phi 10 \text{ mm}$ ）を微量含む。
- 7 暗褐色土：しまり強い、粘性ややあり。ローム粒を多量、ロームブロック（ $\phi 10 \text{ mm}$ ）を微量含む。
- 8 暗褐色土：しまり強い、粘性ややあり。ローム粒を多量、ロームブロック（ $\phi 10 \sim 30 \text{ mm}$ ）を中量含む。
- 9 暗褐色土：しまり強い、粘性ややあり。ローム粒・ロームブロック（ $\phi 10 \sim 30 \text{ mm}$ ）を中量含む。
- 10 暗褐色土：しまり強い、粘性ややあり。ローム粒を中量、ロームブロック（ $\phi 10 \sim 20 \text{ mm}$ ）を少量含む。
- 11 暗褐色土：しまり強い、粘性ややあり。ローム粒を中量、ロームブロック（ $\phi 10 \text{ mm}$ ）を少量、焼土粒・炭化物粒を微量含む。
- 12 暗褐色土：しまりやや強い、粘性ややあり。ローム粒を多量含む。
- 13 暗褐色土：しまり強い、粘性ややあり。ローム粒を中量、YPを微量含む。
- 14 暗褐色土：しまり強い、粘性ややあり。ローム粒を中量、YP・ロームブロック（ $\phi 10 \sim 20 \text{ mm}$ ）を微量含む。
- 15 暗褐色土：しまり強い、粘性ややあり。ローム粒を多量、ロームブロック（ $\phi 10 \sim 40 \text{ mm}$ ）を中量含む。
- 16 暗褐色土：しまり強い、粘性ややあり。ローム粒を少量、焼土粒を微量含む。
- 17 暗褐色土：しまり強い、粘性ややあり。ローム粒・ロームブロック（ $\phi 10 \sim 30 \text{ mm}$ ）を中量、焼土粒を少量、YP・炭化物粒を微量含む。
- 18 暗褐色土：しまり強い、粘性ややあり。ローム粒を中量、YP・焼土粒・ロームブロック（ $\phi 10 \sim 30 \text{ mm}$ ）を微量含む。
- 19 暗褐色土：しまり強い、粘性ややあり。ローム粒を多量、YP・焼土粒を微量含む。
- 20 暗褐色土：しまり強い、粘性ややあり。ローム粒を中量、ロームブロック（ $\phi 10 \sim 30 \text{ mm}$ ）を少量、YPを微量含む。
- 21 暗褐色土：しまり強い、粘性ややあり。ローム粒を中量含む。
- 22 暗褐色土：しまりやや強い、粘性あり。ローム粒を多量、ロームブロック（ $\phi 10 \text{ mm}$ ）を微量含む。
- 23 暗褐色土：しまり強い、粘性ややあり。ローム粒・ロームブロック（ $\phi 10 \sim 50 \text{ mm}$ ）を多量、YPを少量含む。陥り床。
- 24 暗褐色土：しまり強い、粘性あり。ローム粒・ロームブロックを均一に含む。貯蔵穴覆土。
- 25 黒褐色土：しまり強い、粘性あり。ローム粒・ロームブロックを均一に、炭化物粒を少量、焼土粒を微量含む。貯蔵穴覆土。
- 26 暗褐色土：しまりなし、粘性なし。ロームブロックを多量、黒色土を少量、ローム粒を均一に含む。貯蔵穴覆土。
- 27 暗褐色土：しまりやや強い、粘性なし。ロームブロックを多量、炭化物粒・黒色土を少量、ローム粒を均一に含む。貯蔵穴覆土。

図18 6号住居跡



6号住居跡カマド 土層説明

- 1 暗灰褐色土：現代耕作による上面破壊後の埋設土。非常に固い。
- 2 黒褐色土：しまり強い、粘性強い、YP・焼土粒を少量含む。
- 3 明褐色粘土：しまり強い、粘性強い、YP・焼土粒を少量含む。
- 4 赤褐色土：しまり強い、粘性強い、3層粘土に焼土が多量混入したもの、炭化物を少量含む。
- 5 褐色土：しまり弱い、粘性なし。焼土粒・炭化物粒・ローム粒を少量含む。
- 6 明赤褐色土：しまり弱い、粘性なし。焼土粒・焼土ブロック層。
- 7 明褐色土：しまり弱い、粘性弱い、YP・焼土粒を少量含む。
- 8 褐色土：しまり弱い、粘性弱い。ローム粒・ロームブロック・焼土粒・焼土ブロックを均一に、炭化物を少量含む。
- 9 暗赤褐色土：しまり弱い、粘性弱い。焼土粒・焼土ブロックを多量、ローム粒・炭化物粒・灰を少量含む。
- 10 暗褐色土：しまりなし、粘性なし。ローム粒・ロームブロック・灰を多量、炭化物粒を少量含む。
- 11 暗褐色土：しまり強い、粘性あり。焼土粒・焼土ブロックを均一に、ローム粒・ロームブロック・炭化物粒を少量含む。
- 12 暗赤褐色土：しまり強い、粘性強い。焼土粒を多量、灰を少量。炭化物粒・ローム粒を微量含む。
- 13 褐色土：しまり強い、粘性あり。焼土粒・ローム粒を少量、炭化物粒を微量含む。
- 14 黒褐色土：しまり強い、粘性あり。ローム粒・ロームブロックを均一に、焼土粒・炭化物粒を微量含む。
- 15 橙褐色土：しまり弱い、粘性なし。ロームが純熟した層。
- 16 黒褐色土：しまりなし、粘性なし。焼土ブロック・炭化物粒・灰・ロームブロックを均一に含む。
- 17 黄褐色土：しまりなし、粘性なし。ローム主体の層。
- 18 暗赤褐色土：しまり強い、粘性あり。焼土ブロックを多量含む。内壁側は赤味が強い。袖構築材。
- 19 暗褐色土：しまり強い、粘性弱い。炭化物粒を均一に、焼土ブロック・ロームブロックを少量含む。内壁側は赤味がかる。袖構築材。
- 20 暗赤褐色土：しまり強い、粘性弱い。ローム粒を少量含む。全体に赤味を帯びる。袖構築材。
- 21 暗褐色土：しまり弱い、粘性弱い。焼土粒・ローム粒・ロームブロックを均一に含む。袖構築材。
- 22 明褐色土：しまり強い、粘性あり。ローム粒を多量、炭化物粒・ロームブロックを少量含む。袖構築材。
- 23 赤褐色土：しまり硬い、粘性なし。焼土。良く火を受ける。袖構築材。
- 24 暗赤褐色土：しまり強い、粘性強い。ローム粒を少量含む。袖構築材。
- 25 暗赤褐色土：しまり強い、粘性強い。ローム粒を少量含む。24層より赤味が薄く粘性が強い。袖構築材。
- 26 明褐色土：しまり強い、粘性あり。炭化物粒・ローム粒・ロームブロックを少量含む。袖構築材。

図19 6号住居跡カマド

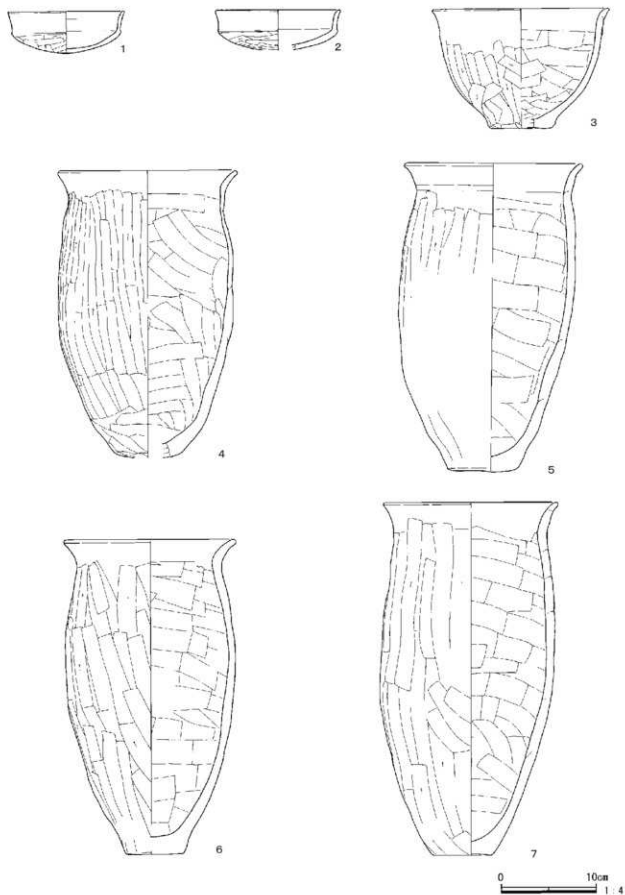


图20 6号住居跡出土遺物

いる。袖はロームブロックを含む暗褐色土を主体に構築される。**遺物**:カマドや覆土中から土師器坏・鉢・甕の破片が少量出土した。土器以外では編物石が確認されている。**時期**:6世紀末～7世紀初頭。

表2 6号住居跡出土土器観察表

1	土師器 坏	A.口縁部径(12.2)、器高4.4、B.粘土紐積み上げ、C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、黒色粒。E.内外一橙色。F.1/2。H.覆土中。
2	土師器 坏	A.口縁部径(13.0)、器高(4.3)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.褐色粒。E.内外一橙色。F.2/3。H.覆土中。
3	土師器 鉢	A.口縁部径(18.4)、器高12.6、底部径(6.6)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。底部外面ケズリ、内面笠ナデ。D.黒色粒、白色粒、礫。E.内外一にぶい褐色。F.2/5。H.カマド左袖前方。
4	土師器 甕	A.口縁部径(18.4)、器高30.3、底部径(7.2)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面縦方向のケズリ、下位笠ナデ。底部内外面笠ナデ。D.黒色粒、白色粒、角閃石、礫。E.内外一褐色。F.7/8。H.貯蔵穴上面。
5	土師器 甕	A.口縁部径18.2、器高32.5、底部径7.4。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面縦方向のケズリ、内面笠ナデ。底部内外面器面荒れ調整不明。D.白色粒、礫。E.内外一褐色。F.9/10。H.カマド右袖脇。
6	土師器 甕	A.口縁部径17.8、器高33.2、底部径6.1。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面縦方向のケズリ、内面笠ナデ。底部外面ナデ、内面笠ナデ。D.黒色粒、白色粒。E.内外一にぶい黄褐色。F.7/8。H.貯蔵穴上層。
7	土師器 甕	A.口縁部径18.0、器高37.2、底部径6.0。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面縦方向のケズリ、一部ナデ、内面笠ナデ。底部内外面笠ナデ。D.白色粒、褐色粒、礫。E.内外一褐色。F.9/10。H.貯蔵穴上面。

(2) 土坑

1号土坑(図21)

位置:1区1面北東端に位置する。**重複**:1号溝と重複し、本土坑が古い。**形状・規模**:南東側が1号溝に壊されるため形状は不明である。確認された範囲では長径1.17m、短径0.76m、深さ8cmを測る。**覆土**:ローム粒を少量含む暗褐色土を主体としている。**遺物**:出土しなかった。**時期**:不明。

2号土坑(図21)

位置:1区1面中央に位置する。**形状・規模**:平面形は隅丸長方形を呈する。長径1.81m、短径0.88m、深さ50cmを測る。東および南壁際に幅10.8cmの線痕が認められる。**長軸方位**:N-57°-E。**覆土**:不明。**遺物**:出土しなかった。**時期**:不明。

3号土坑(図21)

位置:1区1面中央に位置する。**形状・規模**:平面形は円形を呈する。長径1.42m、短径1.37m、深さ21cmを測る。**覆土**:YP混入の明褐色土ブロック・黒褐色土を含む暗褐色土を主体としている。**遺物**:出土しなかった。**時期**:不明。

4号土坑(図21)

位置:1区1面中央西寄りに位置する。**形状・規模**:平面形は楕円形を呈する。長径0.86m、短径0.70m、深さ34cmを測る。**覆土**:ローム粒を含む暗褐色土を主体としている。**遺物**:土師器甕の破片が3点出土した。**時期**:不明。

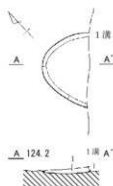
5号土坑 (図21)

位置：1区1面西側に位置する。重複：2号住居跡と重複するが、新旧関係は不明である。形状・規模：平面形は楕円形を呈する。長径1.83m、短径1.54m、深さ16cmを測る。覆土：YP混入の暗褐色土ブロックを含む黒褐色土を主体としている。遺物：土師器甕の破片が1点出土した。時期：不明。

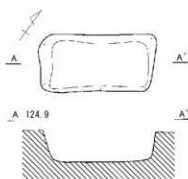
6号土坑 (図21)

位置：2区中央よりやや南側に位置する。形状・規模：平面形は隅丸長方形を呈する。長径3.03m、短径1.24m、深さ75cmを測る。長軸方位：N-75°-W。覆土：As-A・ロームブロック・炭化物を含む明褐色土を主体としている。遺物：出土しなかった。時期：近世以降。

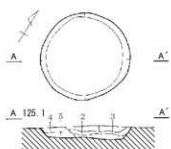
1号土坑



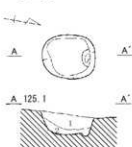
2号土坑



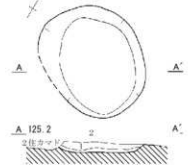
3号土坑



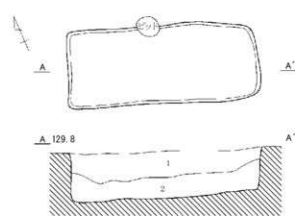
4号土坑



5号土坑



6号土坑



1号土坑 土層説明

1 暗褐色土：しまりやや弱い、粘性弱い、ローム粒(φ0.5mm)・ロームブロック(φ10mm)を少量含む。

3号土坑 土層説明

- 1 黒褐色土：しまりやや弱い、粘性ややあり。YP混入の明褐色土ブロック(φ50mm)を少量、ローム粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土：しまりやや強い、粘性弱い。YP混入の明褐色土・黒褐色土が斑状に混在する。
- 3 明褐色土：しまり強い、粘性ややあり。
- 4 黒褐色土：しまりやや弱い、粘性ややあり。ローム粒子を多量、YP混入の明褐色土ブロック(φ50mm)を少量含む。
- 5 暗褐色土：しまり強い、粘性弱い。YP混入の明褐色土を多量、黒褐色土を少量含む。

4号土坑 土層説明

- 1 暗褐色土：しまりやや弱い、粘性弱い。ローム粒を少量含む。
- 2 暗褐色土：しまりやや弱い、粘性弱い。ローム粒を多量含む。

5号土坑 土層説明

- 1 黒褐色土：しまりやや弱い、粘性弱い。YP混入の暗褐色土ブロック(φ20mm)を中量含む。
- 2 黒褐色土：しまりやや強い、粘性弱い。YP混入の暗褐色土ブロック(φ20mm)を中量含む。

6号土坑 土層説明

- 1 明褐色土：しまり強い、粘性あり。ローム粒・ロームブロック・As-Aを均一に、炭化物粒を少量含む。
- 2 明褐色土：しまり強い、粘性あり。ローム粒・ロームブロック・As-Aを均一に、炭化物粒を中量含む。

0 2m 1:60

図21 1～6号土坑

(3) 溝

1号溝 (図22 / 写真図版5)

位置: 1区1面東側に位置する。北・南側は調査区外にかかる。**重複:** 2号溝と重複するが、新旧関係は不明である。**形状・規模:** 北東-南西方向へ直行し、東側で北方向に、西側で南方向に屈曲する。底面は南東側が低い。東側の屈曲部では楕円状に深さ12cmほどの落ち込みがある。断面形は浅い逆台形状を呈する。確認された範囲では長さ24.10m、幅0.58~1.18m、深さ12~24cmを測る。**主軸方位:** N-58°-E。**覆土:** ローム粒・ブロックを多量に含む明褐色土を主体としている。**遺物:** 土師器甕の破片、鉄滓等がわずかに出土した。**時期:** 不明。

2号溝 (図23 / 写真図版5)

位置: 1区1面東側に位置する。3・4号溝と並走する。**重複:** 1号溝と重複するが、新旧関係は不明である。**形状・規模:** 北東-南西方向へ直行する。底面はaでは工具の痕跡が明瞭に残るが、bでは工具痕は確認できない。断面形はaが箱状、bが浅い逆台形状を呈する。規模はaが長さ10.71m、幅0.37~0.43m、深さ10cm、bが調査長2.52m、幅0.36~0.46m、深さ31~36cmを測る。**主軸方位:** aがN-64°-E、bがN-74°-E。**覆土:** 下層はローム主体で、掘り起こされた土が埋め戻されたものと推察される。**遺物:** 出土しなかった。**時期:** 不明。

3号溝 (図23 / 写真図版5)

位置: 1区1面東側に位置する。2・4号溝と並走する。**形状・規模:** 北東-南西方向へ直行する。底面は、b~dは工具の痕跡が明瞭に残るが、aのみ工具痕が不明である。断面形はaが浅い逆台形状b~dが箱状を呈する。規模はaが長さ5.02m、幅0.30~0.38m、深さ11cm、bが長さ1.73m、幅0.26~0.35m、長さ23cm、cが長さ2.83m、幅0.20~0.26m、深さ36cm、dが長さ2.07m、幅0.29~0.35m、深さ20cmを測る。**主軸方位:** aがN-74°-E、b~dがN-64°-E。aについては、底面の状態や主軸方位が2号溝と同様であることから、同一の溝の可能性はある。**覆土:** 下層はローム主体で、掘り起こされた土が埋め戻されたものと推察される。**遺物:** 出土しなかった。**時期:** 不明。

4号溝 (図23 / 写真図版5)

位置: 1区1面東側に位置する。2・3号溝と並走する。**形状・規模:** 北東-南西方向へ直行する。底面はa・bともに工具の痕跡が明瞭に残る。断面形は箱状を呈する。規模はaが長さ3.70m、幅0.25~0.37cm、深さ18~21cm、bが長さ2.04m、幅0.22~0.33m、深さ16~20cmを測る。**主軸方位:** aがN-68°-E、bがN-70°-E。**覆土:** 下層はローム主体で、掘り起こされた土が埋め戻されたものと推察される。**遺物:** 出土しなかった。**時期:** 不明。

5号溝 (図23 / 写真図版5)

位置: 1区1面西側に位置する。北東側が調査区外にかかる。**重複:** 2号住居跡と重複し、本溝が新しい。**形状・規模:** 北東-南西方向へ直行する。西側が途切れるため全容は不明である。底面は北東

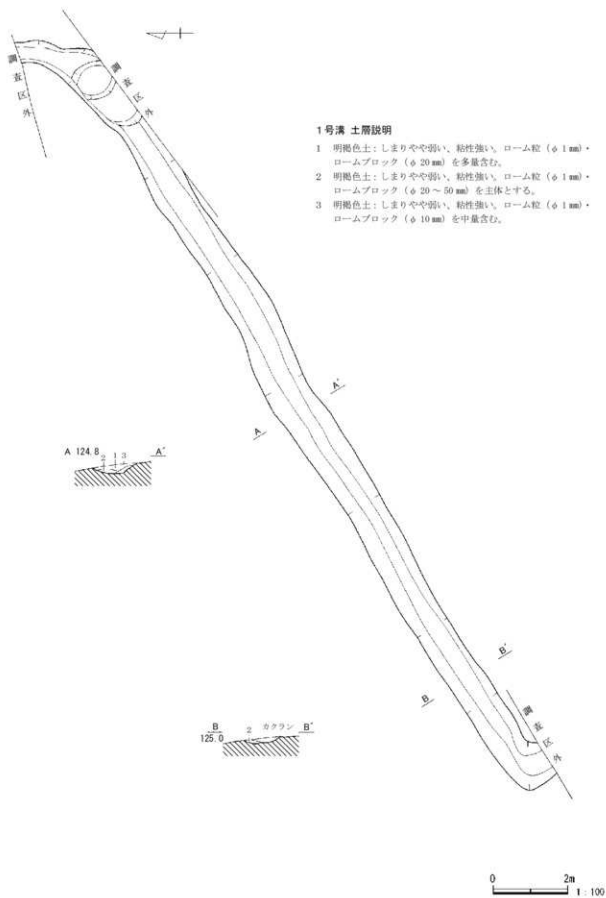
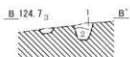
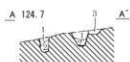
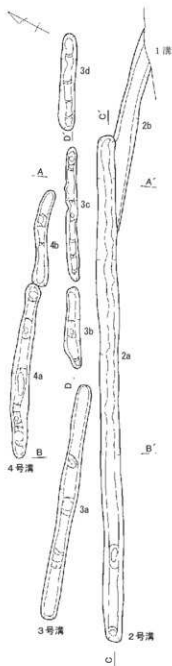
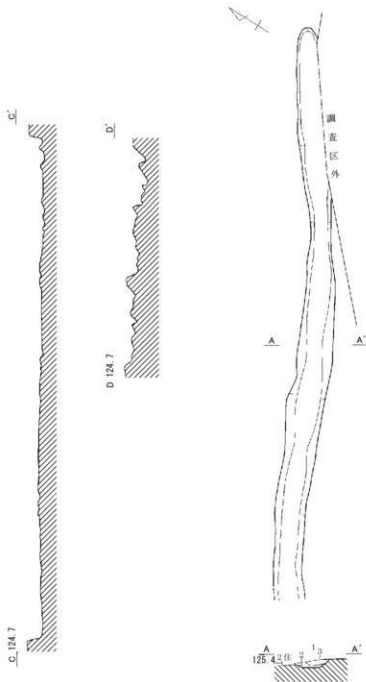


図 22 1号溝

2～4号溝



5号溝



2～4号溝 土層説明

- 1 明褐色土：しまりやや硬い、粘性弱い、ローム粒を少量、ロームブロックを中量含む。
- 2 明黄褐色土：しまりやや弱い、粘性強い、ローム粒・ロームブロックを主体とし、明褐色土を少量含む。
- 3 明褐色土：しまりやや硬い、粘性弱い、ローム粒・ロームブロックを中量含む。

5号溝 土層説明

- 1 暗褐色土：しまり弱い、粘性弱い、ローム粒・ロームブロックを微量含む。
- 2 暗褐色土：しまり弱い、粘性弱い、ローム粒・ロームブロック・VPを少量含む。
- 3 暗褐色土：しまり弱い、粘性弱い、ローム粒・ロームブロック・VPを中量含む。



図23 2～5号溝

側が若干低い。断面形は浅い逆台形状を呈する。確認された範囲では長さ 11.80m、幅 0.42～0.78m、深さ 12 cm を測る。主軸方位：N-61°-E。覆土：ローム粒・ロームブロック・YP を含む暗褐色土を主体としている。遺物：出土しなかった。時期：不明。

6号溝 (図8)

位置：1区2面西側に位置する。東・西側は調査区外にかかる。形状・規模：北東-南西方向へ直行する。断面形は浅い逆台形状を呈する。確認された範囲で長さ 4.82 m、幅 0.52～0.60 m を測り、深さは不明である。主軸方位：N-67°-E。覆土：不明。遺物：出土しなかった。時期：不明。

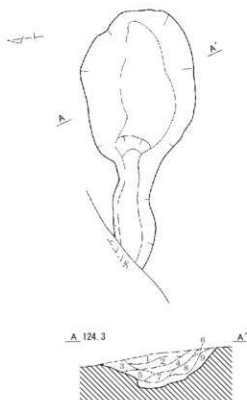
7号溝 (図8)

位置：1区2面南西側に位置する。東・西側は調査区外にかかる。形状・規模：東西方向へ直行する。断面形は浅い逆台形状を呈する。確認された範囲では長さ 1.55 m、幅 0.59～0.68 m を測り、深さは不明である。主軸方位：N-72°-W。覆土：不明。遺物：出土しなかった。時期：不明。

(4) 不明遺構

1号不明遺構 (図24)

位置：1区1面北側に位置する。西側は調査区外にかかる。形状・規模：平面形は楕円形を呈し、西側で一段下がって溝状に延びる。確認された範囲では長さ 3.90 m、幅 0.62～1.80 m、深さ 54 cm を測る。



1号不明遺構土層説明

- 1 明褐色土：しまり弱い、粘性強い。ロームブロックと暗褐色土が斑状に混在する。
- 2 暗褐色土：しまり弱い、粘性ややあり。ローム粒・ロームブロック (φ 30 mm以下) を多量含む。
- 3 暗褐色土：しまり弱い、粘性ややあり。ローム粒・ロームブロックを少量含む。
- 4 明黄褐色土：しまりやや弱い、粘性強い。崩落したローム。
- 5 暗褐色土：しまり弱い、粘性ややあり。ローム粒・ロームブロックを微量含む。
- 6 明黄褐色土：しまり弱い、粘性弱い。ロームを主体とし、黒褐色土を少量含む。
- 7 黒褐色土：しまり弱い、粘性弱い。ローム粒子・ロームブロックを (φ 20 mm以下) 少量含む。
- 8 黒褐色土：しまり弱い、粘性弱い。ローム粒子を微量含む。
- 9 明褐色土：しまり弱い、粘性ややあり。ロームブロックを主体とし、黒褐色土を少量含む。

図24 1号不明遺構

長軸方位：N-97°-E。覆土：ロームブロックを含む暗褐色土を主体としている。遺物：出土しなかった。時期：不明。

(5) 遺構外出土遺物 (図25・26、表3/写真図版70・71)

縄紋土器 182点・石器 22点が検出された。2区に集中する(80%)。

土器は小片ばかりである。細別時期が判明するものには、1区で前期中葉関山Ⅱ式、前期後葉諸磯a式・諸磯c式、中期中葉阿玉台式、2区で早期中葉田戸下層式、早期後葉、前期初頭花積下層式、前期前葉二ツ木式、前期中葉関山Ⅱ式・黒浜式、前期後葉諸磯a式・諸磯c式、中期中葉阿玉台式、中期後葉加曾利EⅢ式、後期前～中葉が認められ、両区共に前期前半がほとんどを占める。なお、1区の遺物は砕片が多いため、抽出は2区のものに限られた。

図25の1は田戸下層式で、胎土中に片岩を含む。横位沈線および刺突列が巡る。2～8は前期前半に比定され、胎土中に繊維を含む。2は花積下層式で、肥厚する口唇下に短沈線による矢羽状文、口縁部にR・Lの捻糸による側面圧痕を配す。3には単節縄紋(RL・LR)の閉端環を密接に施することから二ツ木式ないし関山Ⅰ式に、4は長足の閉端環付単節縄紋(LR)であることから関山Ⅰ式ないし関山Ⅱ式に想定される。5は単節縄紋(RL)を地紋とし、半截竹管状工具による沈線で横位に画す。6は結節を伴う単節縄紋(LR・RL)で羽状を構成する。7は付加条縄紋(LR+R)である。8は縄紋地紋(RL)の底部片で、上底状を呈する。9・10は胎土中に片岩を含み、単節縄紋(RL)で覆われる。諸磯a式であろう。11・12は諸磯c式で、胎土中に片岩を含むものがある。半截竹管状工具による集合沈線を施す。13は加曾利EⅢ式で、単節縄紋(RL)を地紋とし、凹線で区画する。

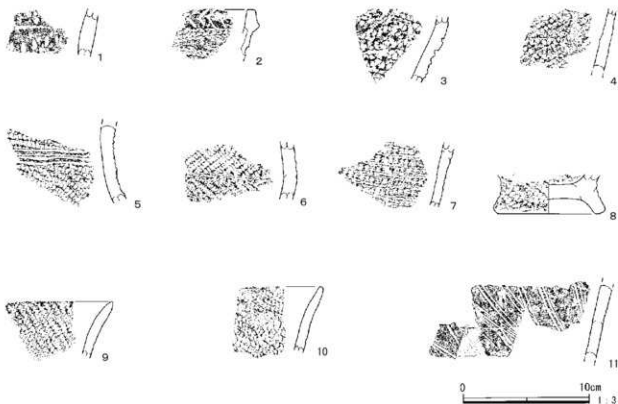


図25 遺構外出土遺物(1)

石器は、石鏃・石匙・打製石斧・磨石・敲石・凹石・剥片が見受けられた。なお、縄紋時代前期に比定される紡錘形の石製研磨具1点が採集されている（鈴木 1997b）。

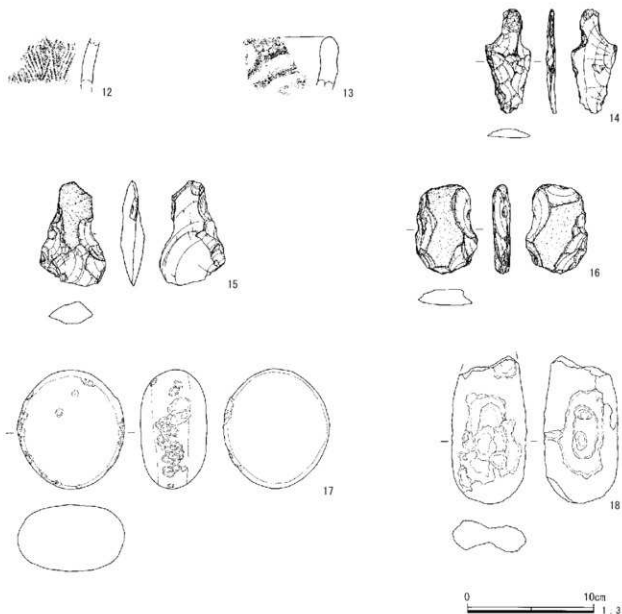


図 26 遺構外出土遺物（2）

表 3 遺構外出土遺物観察表

14	石器 石匙	A. 長さ 8.3、幅 3.65、厚さ 0.8、重さ 17.77。G. 頁岩。縦型石匙。横長剥片の背面側を直接打撃により片面加工。右側縁に微細剥離痕。つまみ部の挟入部周辺に初期調整以後の剥離痕や破砕痕。表面中央に顕著な磨耗痕。H. 2区6号住居跡周辺。
15	石器 打製石斧	A. 長さ 8.3、幅 5.25、厚さ 1.93、重さ 63.34。G. 頁岩。撥形。縄皮をもつ縦長剥片の両側縁を直接打撃により左側縁は両面加工、右側縁は片面加工。H. 2区。
16	石器 打製石斧	A. 長さ 7.1、幅 4.95、厚さ 1.45、重さ 59.81。G. 頁岩。扁平な自然礫の周縁を直接打撃により両面加工を施す。H. 1区南壁。
17	石器 磨石類	A. 長さ 9.45、幅 8.45、厚さ 5.3、重さ 579.7。G. 砂岩。自然礫の表・裏面に磨耗痕。両側縁に敲打痕。敲→磨。H. 2区。
18	石器 磨石類	A. 残長 11.75、幅 6.0、厚さ 2.5、残重 289.8。G. 緑色岩類。自然礫の表・裏面中央に顕著な凹穴。表・裏面全体に磨耗痕。凹→磨。欠損品。H. 2区。

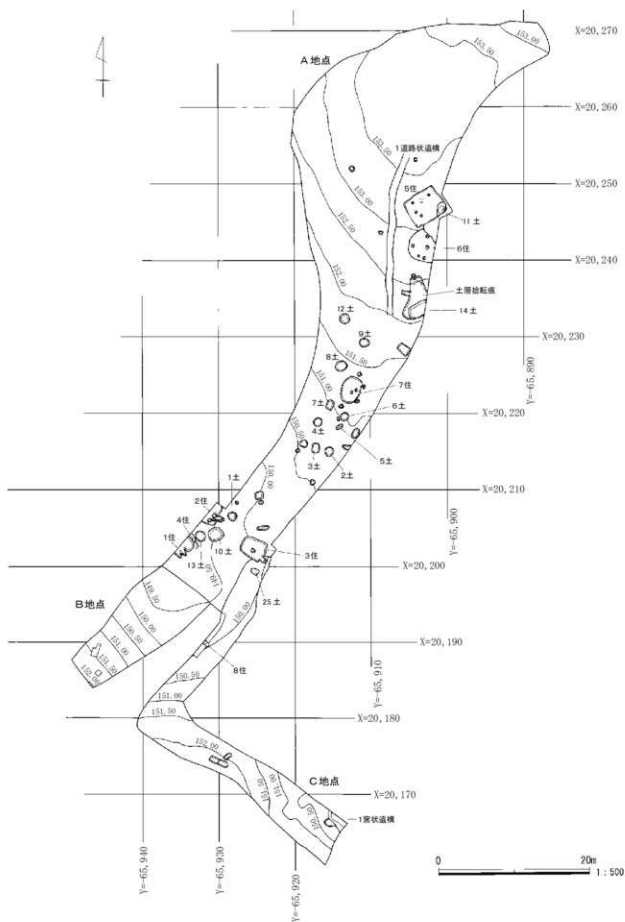


图 27 神明前遺跡 1 区全体图

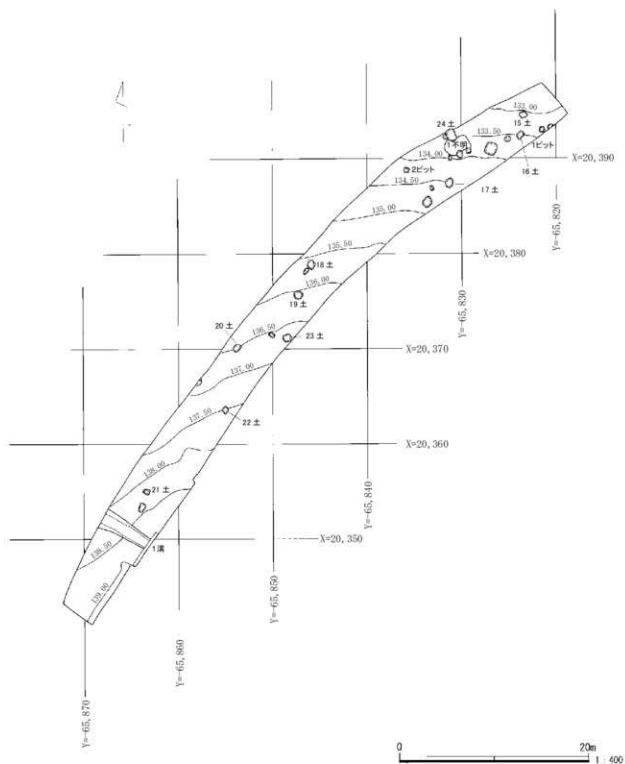


图 28 神明前遺跡 2 区全体図

第3節 神明前遺跡1区・2区

1 遺跡の概要(図27・28/写真図版9)

神明前遺跡は、「女堀川」支流右岸の北東方向にのびる丘陵斜面上に立地する。1区と2区に分かれ、2区は1区の約80m下方に位置する。1区はA～C地点に分かれ、標高は149～153mで、調査区内は北東から南西へ傾斜する。2区は上松遺跡2区の南西側に隣接する。標高は133～138mで、調査区内は南西から北東へ傾斜する。

検出された遺構は、1区が竪穴住居跡8軒、土坑15基、道路状遺構1条、窯状遺構1基、2区が土坑10基、ピット2基、溝1条、不明遺構1基である。遺跡の主体は平安時代の集落で、竪穴住居跡が4軒確認されている。2号住居跡からは埴形鍛冶滓が出土しており、遺構外からも鉄滓が数点が確認されていることから、小鍛冶の存在が推測される。竪穴住居跡は縄紋時代前期後葉に1軒、古墳時代前期初頭にも1軒が検出されており、小規模な集落が営まれていたと思われる。なお、道路状遺構は近現代に比定される。窯状遺構はAs-A混入土層に壊されており詳細不明である。

遺構外からは、縄紋土器・石器・弥生土器・土師器・須恵器・灰陶陶器・中近世陶磁器・鉄滓等が出土している。主体は古墳時代～奈良・平安時代の土師器・須恵器である。縄紋土器は前期初頭から中期後葉のものが確認され、前期後葉が多くを占める。

2 検出された遺構と遺物

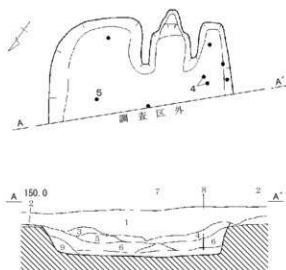
(1) 竪穴住居跡

1号住居跡(図29・30、表4/写真図版71)

位置: 1区A地点南西端に位置する。西側は調査区外にかかる。**重複:** 4号住居跡と重複し、本住居跡が新しい。**形状・規模:** 平面形は長方形を呈すと推測される。確認された範囲では北東-南西軸2.56mを測る。**主軸方位:** N-138°-E。**床面:** 確認面からの深さは49cmを測る。貼床はなく、床面はやや凹凸が見られる。床面直上には住居焼失時の炭化材が5～10cm程の厚さで堆積し(8層)、その上面に焼土粒がわずかに見られる。**貯蔵穴:** なし。**柱穴:** 不明。**カマド:** 南東壁西寄りに設置される。燃焼部は幅47cm、奥行き71cmで壁内に造られる。底面には厚さ4cm程の灰が堆積していた。被熱し赤色化した片岩が2点出土している。袖は住居の壁に直接貼り付けて構築されたと思われるが、詳細は不明である。**遺物:** カマドや覆土中から土師器の甕、須恵器の坏・高台付埴・甕・羽釜等が少量出土した。1の坏と3の高台付埴はカマド前方に正位の状態で置かれていた。**時期:** 10世紀後半。**備考:** 焼失住居。

2号住居跡(図31～33、表5/写真図版71)

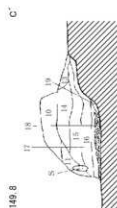
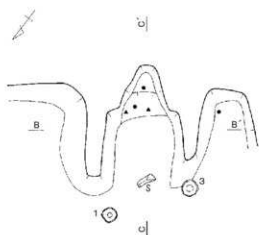
位置: 1区A地点南西端に位置する。北・西側は調査区外にかかる。**形状・規模:** 平面形は長方形を呈すと推測される。確認された範囲では南北軸3.06mを測る。**主軸方位:** N-116°-E。**床面:** 確認面からの深さは22cmを測る。貼床はなく、床面はほぼ平坦である。**貯蔵穴:** カマド右脇のピットが相当すると考えられる。長径58cm、短径52cmの円形を呈し、深さ12cmを測る。**柱穴:** 不明。**カマド:**



1号住居跡 土層説明

- 1 明褐色土：現耕作土
- 2 黒褐色土：しまりやや弱い、粘性ややあり、YPを少量、褐色土を微量含む。
- 3 暗褐色土：しまりやや強い、粘性弱い、赤土ブロック・ローム粒を微量、炭化物粒・ロームブロック・YPを極微量含む。
- 4 暗褐色土：しまり弱い、粘性なし、焼土粒・ローム微粒子を少量、YPを微量含む。
- 5 暗褐色土：しまり強い、粘性あり、焼土粒を少量、炭化物粒を微量含む。
- 6 暗褐色土：しまりやや強い、粘性強い、焼土粒・炭化物粒を中量含む。
- 7 褐色土：しまりやや強い、粘性あり、炭化物粒を中量、焼土粒を少量含む。
- 8 暗褐色土：床面直上から炭化材が厚く連続的に続き、その上面に焼土粒がわずかに含まれる。住居焼失時の焼失材堆積層。
- 9 褐色土：しまりやや強い、粘性あり、焼土粒を多量、炭化物粒を少量含む。下部に焼土粒が多い。

0 2m 1:60



C. 149.8

灰層

0 1m 1:30

1号住居跡カマド 土層説明

- 10 暗褐色土：しまりやや強い、粘性あり。炭化物粒・ローム粒・粘質土ブロックを少量、YPを微量含む。
- 11 暗褐色土：しまりやや強い、粘性強い。炭化物を中量、ローム粒・粘質土ブロックを少量、YPを微量含む。
- 12 褐色土：しまりやや強い、粘性あり。炭化物粒を多量、粘土粒を極微量含む。
- 13 黒褐色土：しまり強い、粘性強い。焼土粒・炭化物粒を少量含む。
- 14 暗褐色土：しまり強い、粘性あり。焼土粒・炭化物粒を少量、粘土粒を微量含む。
- 15 暗褐色土：粘性弱い、しまりあり。焼土粒・炭化物粒を少量含む。
- 16 暗褐色土：しまりやや弱い、粘性やや弱い。焼土粒・炭化物粒を中量、灰を極微量含む。
- 17 黒褐色土：しまりやや弱い、粘性やや弱い。炭化物粒を多量、焼土粒を少量、灰を微量含む。
- 18 黒色土：しまり弱い、粘性なし。炭化物・灰層。
- 19 赤褐色土：しまりやや強い、粘性弱い。焼土ブロック・焼土層、炭化物粒を極微量含む。

図29 1号住居跡

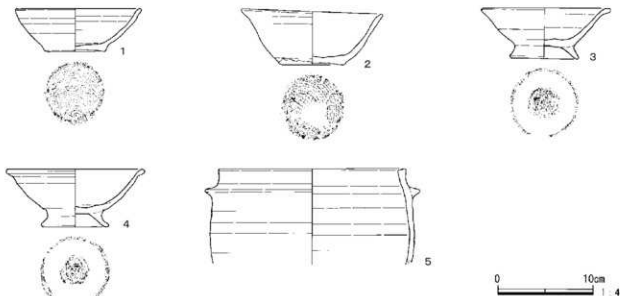
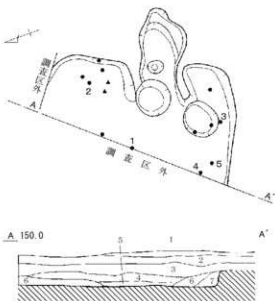


図30 1号住居跡出土遺物

表4 1号住居跡出土遺物観察表

1	須恵器 杯	A. 口縁部径13.2、器高4.5、底部径6.4。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部右回転糸切り。D. 白色粒、黒色粒。E. 外-にぶい黄褐色、内-黒褐色。F. 完形。G. 酸化塩焼成。H. カマド前方。
2	須恵器 杯	A. 口縁部径14.7、器高5.9、底部径6.7。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部右回転糸切り。D. 白色粒、黒色粒。E. 外-灰黄色、内-褐色。F. 5/6。G. 還元塩焼成。H. 覆土中。
3	須恵器 高台付埴	A. 口縁部径13.6、器高5.4、底部径7.0。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部回転糸切り、高台貼付時回転ナデ。D. 白色粒、黒色粒。E. 外-黄褐色、内-灰黄褐色。F. 7/8。G. 酸化塩焼成。H. カマド右袖脇。
4	須恵器 高台付埴	A. 口縁部径(14.2)、器高6.1、底部径6.8。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部回転糸切り、高台貼付時周辺部回転ナデ。D. 白色粒、黒色粒。E. 外-灰黄色、内-灰黄褐色。F. 2/3。G. 酸化塩焼成。H. 覆土中。
5	須恵器 羽釜	A. 口縁部径(19.8)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。D. 白色粒、黒色粒。E. 外-灰黄色、内-灰黄色。F. 口縁部~胴部中位1/5。G. 還元塩焼成。H. 覆土中。

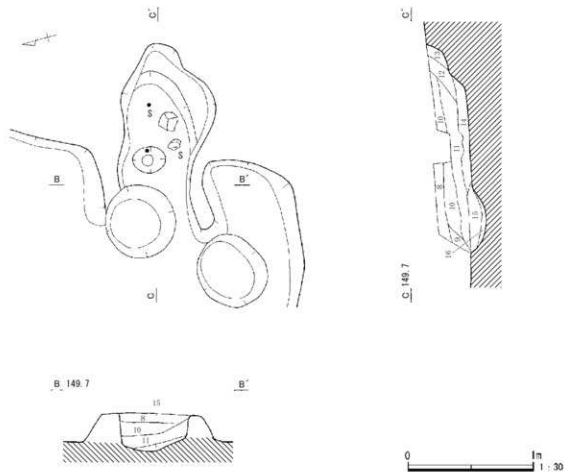


2号住居跡 土層説明

- 1 褐色土:しまりやや強い、粘性ややあり。
- 2 暗褐色土:しまりやや強い、粘性ややあり。現耕作土。
- 3 暗褐色土:しまり弱い、粘性ややあり。
- 4 暗褐色土:しまり強い、粘性あり。ローム粒・炭化物粒を均一に少量含む。
- 5 暗褐色土:しまり強い、粘性あり。焼土粒・炭化物粒を均一に、ローム粒を微量含む。
- 6 暗褐色土:しまり強い、粘性あり。ローム粒・ロームブロックを少量、炭化物粒を微量含む。
- 7 暗褐色土:しまり強い、粘性あり。炭化物粒を少量、ローム粒を微量含む。

図31 2号住居跡

東壁南寄りに設置される。燃焼部は幅49cm、奥行き138cmで壁外に造り出す。燃焼部中央に支脚痕と推測される長径26cm、短径20cm、深さ14cmの窪みが検出された。燃焼部手前は窪み、灰が堆積していた。袖は住居の壁に直接貼り付けて構築されたと思われるが、詳細は不明である。礎が出土しており、補強材に使用されたものと推測される。遺物：カマドや覆土中から須恵器の高台付埴・甕・羽釜・甗、灰釉陶器等が少量出土した。1の灰釉陶器は釉葉漬け掛けで、虎渓山1号窯式に比定される。土器以外では、埴形鍛冶滓が2点出土している。時期：10世紀後半。



2号住居跡カマド 土層説明

- 8 暗褐色土：しまりやや弱い、粘性やや弱い。ローム粒（ $\phi 2 \sim 3$ mm）を少量、炭化物粒・粘土粒を微量含む。
- 9 暗褐色土：しまりやや弱い、粘性やや弱い。ローム粒を少量、焼土粒・炭化物粒を微量含む。
- 10 暗褐色土：しまりやや強い、粘性ややあり。焼土粒を少量、炭化物粒・粘土粒を微量含む。
- 11 暗褐色土：しまりやや強い、粘性ややあり。炭化物粒を均一に、焼土粒を微量含む。
- 12 褐色土：しまりやや強い、粘性弱い。焼土粒・焼土ブロック（ $\phi 5 \sim 10$ mm）を均一に、炭化物粒を微量含む。
- 13 明褐色土：しまりやや強い、粘性なし。ローム粒を多量、焼土粒・炭化物粒を微量含む。
- 14 暗褐色土：しまりやや弱い、粘性やや弱い。炭化物粒を多量、焼土粒を少量、灰を微量含む。
- 15 暗褐色土：しまり弱い、粘性なし。焼土粒・炭化物粒を少量、灰を均一に含む。
- 16 暗褐色土：しまり弱い、粘性なし。灰を多量、炭化物粒を微量含む。

図 32 2号住居跡カマド

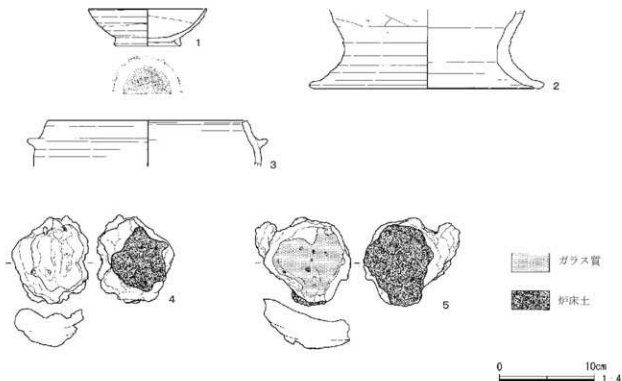


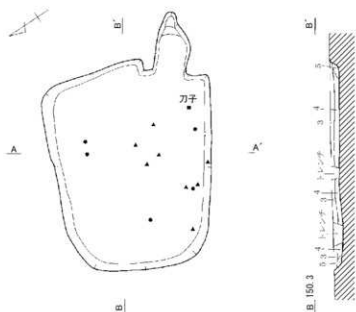
図33 2号住居跡出土遺物

表5 2号住居跡出土遺物観察表

1	灰軸陶器 埴	A. 口縁部径 (12.4)、器高 3.9、底部径 (6.7)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部回転糸切り、高台貼付時周辺部回転ナデ。D. 黒色粒。E. 外-灰白色、内-灰黄色、軸葉-浅黄色。F. 2/5。G. 軸葉漬け掛け。H. 覆土中。
2	須恵器 甕	A. 口縁部径 (24.0)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。胴部外面下位ケズリ。D. 白色粒、黒色粒、角閃石。E. 外-灰黄褐色、内-灰黄色。F. 胴部下位～底部 1/4。G. 酸化塩焼成。H. 覆土中。
3	須恵器 羽釜	A. 口縁部径 (21.0)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。D. 白色粒、黒色粒。E. 外-灰黄色、内-黄灰色。F. 口縁部～胴部上位 1/6。G. 酸化塩焼成気味。H. 覆土中。
4	鉄滓	A. 長さ 9.3、幅 8.1、厚さ 3.5、重さ 295.42。F. 完形。G. 塊形鍛冶滓。上面に粒状滓が付着、下面に鉄滓、炉床土が付着。H. 覆土中。
5	鉄滓	A. 長さ 9.4、幅 10.2、厚さ 3.6、残重 424.54。F. 一部欠失。G. 塊形鍛冶滓。粒状滓・鍛冶剥片が付着。上面はガラス質化、下面は鉄滓、炉床土が付着。H. 覆土中。

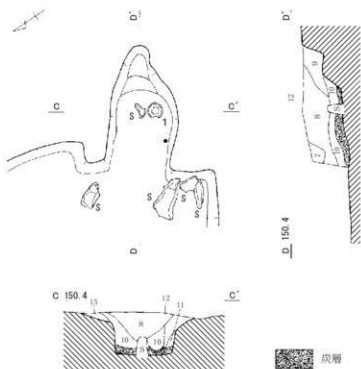
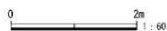
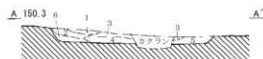
3号住居跡 (図34、表6/写真図版71)

位置: 1区A地点南東端に位置する。**重複:** 住居中央を攪乱に壊される。**形状・規模:** 平面形は縦長の長方形を呈し、長軸 3.13 m、短軸 2.32 m を測る。**主軸方位:** N-122°-E。**床面:** 確認面からの深さは 18 cm を測る。貼床はなく、床面はほぼ平坦である。**貯蔵穴:** なし。**柱穴:** なし。**カマド:** 東壁南寄りに設置される。燃焼部は幅 45 cm、奥行き 82 cm で壁外に造り出す。壁の被熱は著しく、火床面の炭の堆積が厚い (12 層)。燃焼部奥の中央部に礎が据えられており、底面からの高さは 15 cm 程である。右脇の炭層上面には須恵器の高台付埴が正位の状態出土している。袖に相当する位置には片岩が出土しており、補強材に使用したものと推測される。**遺物:** カマドや覆土中から、土師器の甕、須恵器の坏・高台付埴等が少量出土した。土器以外では、床面直上から刀子が出土しているが、遺存状態が悪く図示できなかった。**時期:** 10 世紀前半。



3号住居跡 土層説明

- 1 暗褐色土：しまりやや強い、粘性強い、ローム粒子を多量、焼土粒・炭化材料を微量含む。
- 2 明褐色土：しまりやや強い、粘性強い、ローム粒子を多量、焼土ブロック（φ 10mm）・炭化物粒（φ 1～3mm）を中量含む。
- 3 明褐色土：しまりやや強い、粘性弱い、ローム粒子を多量、焼土ブロック（φ 50mm）・炭化物粒（φ 1～3mm）を中量含む。
- 4 明褐色土：しまりやや強い、粘性弱い、ローム粒子を多量、ロームブロック（φ 20mm）を少量、焼土粒（φ 1mm）を微量含む。
- 5 明褐色土：しまりやや強い、粘性弱い、ローム粒子・ロームブロック（φ 20mm）を少量、焼土粒（φ 1mm）を微量含む。壁の崩落土。
- 6 明褐色土：しまりやや強い、粘性強い、ローム粒子・ロームブロック（φ 1～20mm）を多量含む。



3号住居跡 土層説明

- 7 明黄褐色土：しまり弱い、粘性ややあり。明褐色土とローム粒子・ロームブロック（φ 10mm以下）が塊状に混在する。黒褐色土・焼土粒（φ 2mm以下）を微量含む。
- 8 明褐色土：しまり弱い、粘性ややあり。ローム粒子を中量、小礫（φ 2mm以下）・黒褐色土粒子を少量、灰褐色粘質土粒子・焼土粒（φ 1mm以下）・炭化物粒（φ 1mm以下）を微量含む。
- 9 明褐色土：しまり弱い、粘性ややあり。ローム粒子・ロームブロック（φ 10mm以下）・焼土ブロック（φ 10mm以下）を少量含む。



- 10 明褐色土：しまり弱い、粘性ややあり。8層に準ずるが焼土粒がやや少ない。
- 11 明褐色土：しまり弱い、粘性ややあり。8層に準ずるが焼土粒・ローム粒子がやや多い。
- 12 黒色土：炭層。しまりなし、粘性なし。焼土粒（φ 8mm以下）・焼土ブロック（φ 20mm以下）・炭化物粒（φ 2mm以下）を中量含む。
- 13 明褐色土：しまりやや強い、粘性ややあり。ローム粒子を中量、小礫（φ 2mm以下）を少量、黒色土を微量含む。



図34 3号住居跡および出土遺物

表6 3号住居跡出土遺物観察表

1	須恵器 高台付埴	A. 口縁部径11.7、器高4.2、底部径5.2。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部右回転糸切り、高台貼付時回転ナデ。D. 白色粒、黒色粒。E. 外-にぶい黄橙色、内-にぶい黄色。F. 口縁部一部欠損。G. 酸化燐變成。H. カマド内。
---	-------------	---

4号住居跡 (図35)

位置：1区A地点南西端に位置する。重複：1号住居跡と重複し、本住居跡が古い。形状・規模：カマドのみの検出で、全体の形状・規模は不明である。主軸方位：N-138°-E。床面：不明。貯蔵穴：不明。柱穴：不明。カマド：東壁に設置される。燃焼部は壁外に造り出すと推測される。遺物：土師器甕の破片が数点出土したのみで、図示できるものはなかった。時期：1号住居跡との重複関係より、10世紀後半以前と推測される。

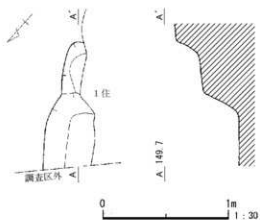
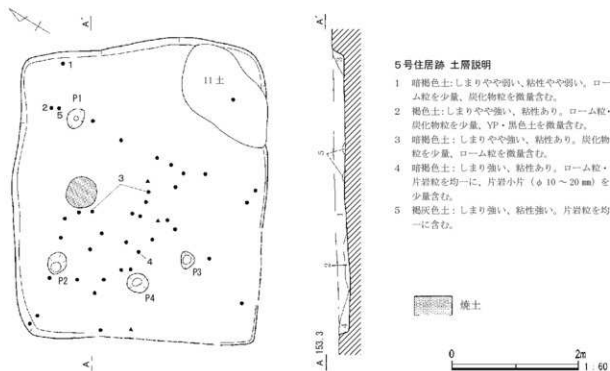


図35 4号住居跡

5号住居跡 (図36・37、表7/写真図版72)

位置：1区A地点北東側に位置する。重複：11号土坑と重複し、本住居跡が古い。形状・規模：平面形は長方形を呈し、長軸4.38m、短軸3.94mを測る。主軸方位：N-58°-E。床面：確認面からの深さは18cmを測る。貼床はなく、床面はやや凹凸が見られる。貯蔵穴：不明。柱穴：4基のピットが検出された。P1～3は柱穴に相当し、4本主柱配置と推定される。平面形は楕円形を呈する。



5号住居跡 土層説明

- 1 暗褐色土：しまりやや弱い、粘性やや弱い、ローム粒を少量、炭化物粒を微量含む。
- 2 褐色土：しまりやや強い、粘性あり。ローム粒・炭化物粒を少量、YP・黒色土を微量含む。
- 3 暗褐色土：しまりやや強い、粘性あり。炭化物粒を少量、ローム粒を微量含む。
- 4 暗褐色土：しまり強い、粘性あり。ローム粒・片岩粒を均一に、片岩小片(φ10~20mm)を少量含む。
- 5 褐色土：しまり強い、粘性強い。片岩粒を均一に含む。

焼土

図36 5号住居跡

P 1 は長径 34 cm、短径 26 cm、深さ 25 cm、P 2 は長径 36 cm、短径 30 cm、深さ 26 cm、P 3 は長径 26 cm、短径 22 cm、深さ 27 cm を測る。P 4 長径 34 cm、短径 31 cm のほぼ円形を呈し、深さ 15 cm を測る。炉：中央より北西側に位置する。地焼炉で、長径 51 cm、短径 48 cm の円形を呈する。遺物：覆土中から土師器のミニチュア・器台・高坏・鉢・台付甕・甕・壺等が多量に出土した。5 は口縁が折り返され、櫛歯文が施される台付甕で、P 1 の脇に横倒しの状態で出土した。時期：古墳時代前期初頭。

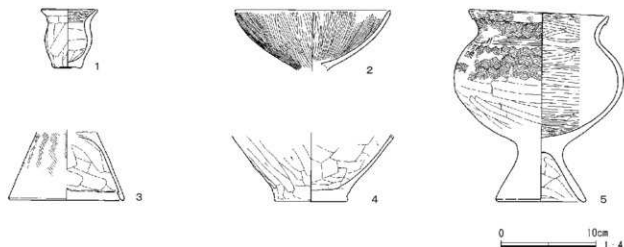


図 37 5号住居跡出土遺物

表 7 5号住居跡出土遺物観察表

1	土師器 ミニチュア	A. 口縁部径 6.0、器高 6.2、底部径 2.9。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデ、内面横方向のミガキ。胴部外面縦・斜方向の匏ナデ、内面横方向のナデ、下位指ナデ。底部内外面ナデ。D. 片岩粒・白色粒。E. 内外にぶい黄橙色。F. ほぼ完形。H. 覆土中。
2	土師器 高坏	A. 口縁部径 (16.4)。B. 粘土組織み上げ。C. 坏部内外面匏ミガキ。D. 白色粒、黒色粒。E. 外にぶい黄橙色、内にぶい橙色。F. 坏部 1/2。H. 覆土中。
3	土師器 台付甕	A. 底部径 (12.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 台部外面ハケ後ナデ、内面匏ナデ。D. 白色粒、黒色粒。E. 外にぶい黄橙色、内にぶい橙色。F. 台部 1/4。H. 覆土中。
4	土師器 壺	A. 底部径 7.4。B. 粘土組織み上げ。C. 胴部外面ケズリ、下端ナデ、内面匏ナデ。底部外面匏ナデ、内面匏ナデ。D. 白色粒、礫。E. 外にぶい橙色、内にぶい赤褐色。F. 胴部～底部 1/2。H. 覆土中。
5	土師器 台付甕	A. 口縁部径 (14.6)、器高 20.2、底部径 9.0。B. 粘土組織み上げ。C. 外面口縁部波状文、頸部簾状文、胴部上半波状文、胴部下半匏ナデ、台部調整不明。内面口縁部～胴部匏ミガキ、台部匏ナデ。D. 白色粒、礫。E. 外にぶい橙色、内にぶい褐色。F. 9/10。H. 覆土中。

6号住居跡 (図 38・39 / 写真図版 72)

位置：I 区 A 地点北東側に位置し、東側は調査区外にかかる。重複：北東部は捻転痕によって攪拌される。形状・規模：平面形は楕円形を呈する。確認された範囲では長軸 4.21 m、短軸 3.46 m を測る。主軸方位：N -79° - W。床面：確認面からの深さは 15 cm で、床面はやや凹凸が見られる。柱穴：4 基の柱穴を検出した。平面形は楕円形を呈する。P 1 は長径 40 cm、短径 35 cm、深さ 25 cm、P 2 は長径 43 cm、短径 36 cm、深さ 16 cm、P 3 は長径 32 cm、短径 29 cm、深さ 15 cm、P 4 は長径 38 cm、短径 30 cm、深さ 21 cm を測る。炉：中央やや東側に位置する。地焼炉で、長径 49 cm、短径 43 cm の円形を呈する。遺物：縄文土器 31 点が出土した。いずれも破片で、堅穴内に散在する。細別が判明するものには、前期前半、前期後葉諸磯 c 式、前期末葉が認められ、そのうち諸磯 c 式が多くを占める。図 39 の 1～6 は諸磯 c 式に比定される。1～5 は集合沈線を地紋とし、2 に棒状等の貼付紋、5 に

結節浮線紋を加える。6は浅鉢で、肩部を穿孔する。なお、大型の礫が炉の北東部で確認された。時期：縄紋時代前期後葉諸磯c式期。

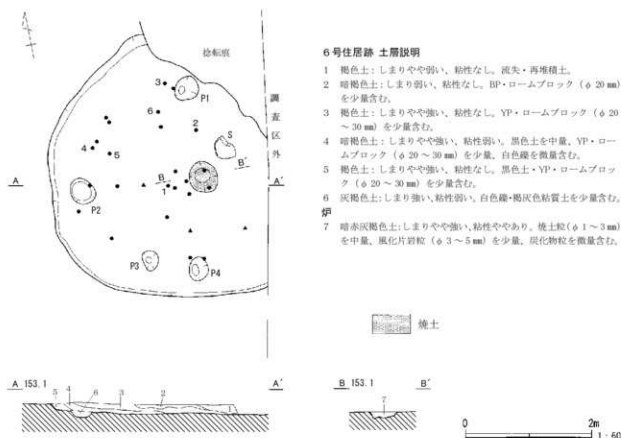


図38 6号住居跡

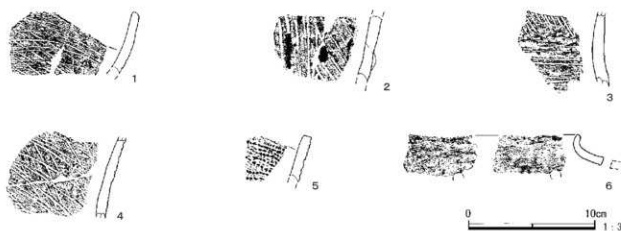


図39 6号住居跡出土遺物

7号住居跡（図40）

位置：1区A地点中央に位置する。重複：ピットと重複し、本住居跡が古い。形状・規模：平面形は楕円形を呈し、長軸3.34m、短軸2.39mを測る。主軸方位：N-29°-E。床面：確認面からの深さは8cmを測る。貼床はなく、床面はやや凹凸が見られる。ピット：1基検出された。長径34cm、短

径 30 cm の楕円形を呈し、深さ 15 cm を測る。炉：東側に位置する。地焼炉で、長径 32 cm、短径 28 cm の円形を呈する。遺物：覆土中から土師器甕および灰釉陶器境の破片が 2 点出土したが、本住居跡に伴うかは不明である。時期：不明。

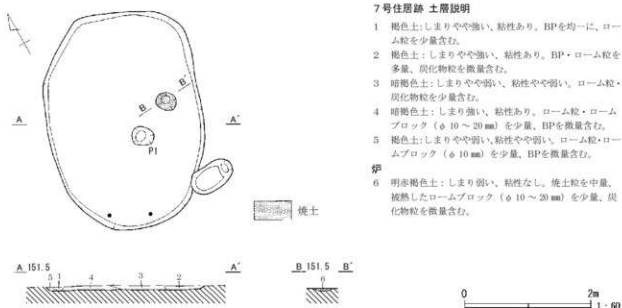


図 40 7号住居跡

7号住居跡 土層説明

- 1 褐色土：しまりやや強い、粘性あり。BPを均一に、ローム粒を少量含む。
 - 2 褐色土：しまりやや強い、粘性あり。BP・ローム粒を多量、炭化物粒を微量含む。
 - 3 暗褐色土：しまりやや弱い、粘性やや弱い。ローム粒・炭化物粒を少量含む。
 - 4 暗褐色土：しまり強い、粘性あり。ローム粒・ロームブロック（φ 10～20 mm）を少量、BPを微量含む。
 - 5 褐色土：しまりやや弱い、粘性やや弱い。ローム粒・ロームブロック（φ 10 mm）を少量、BPを微量含む。
 - 6 明赤褐色土：しまり弱い、粘性なし。焼土粒を中量、被熱したロームブロック（φ 10～20 mm）を少量、炭化物粒を微量含む。
- 炉

8号住居跡（図 41）

位置：1区C地点北側に位置する。形状・規模：カマド先端部が検出された。全体の形状・規模は不明であるが、B地点の調査区東壁に、本住居跡と考えられる掘り込みが確認されており、南東-北西軸は3m以上となる。主軸方位：N-136°-E。床面：不明。貯蔵穴：不明。柱穴：不明。カマド：東壁に設置される。遺物：出土しなかった。時期：不明。

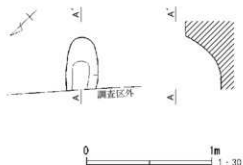


図 41 8号住居跡カマド

(2) 土坑・ピット

1号土坑（図 42）

位置：1区A地点南西側に位置する。形状・規模：平面形は楕円形を呈する。長径 1.22 m、短径 1.01 m、深さ 13 cm を測る。覆土：ロームブロック・炭化物粒を含む暗褐色土を主体としており、東側ではまとまった焼土が認められた。遺物：縄紋土器 3 点が出土した。いずれも小破片で、細別時期は不明である。また、被熱・破損を被る大型の礫が出土している。時期：不明。

2号土坑（図 42）

位置：1区A地点中央に位置する。形状・規模：平面形は楕円形を呈する。長径 1.22 m、短径 1.06 m、

深さ 10 cm を測る。覆土：炭化物粒・ロームブロックを含む暗褐色土を主体としている。遺物：出土しなかった。時期：不明。

3号土坑（図 42）

位置：1区A地点中央に位置する。形状・規模：平面形は隅丸長方形を呈する。長径 1.26 m、短径 0.93 m、深さ 16 cm を測る。長軸方位：N-4°-E。覆土：炭化物粒・ロームブロックを含む暗褐色土を主体としている。遺物：出土しなかった。時期：不明。

4号土坑（図 42）

位置：1区A地点中央に位置する。形状・規模：平面形は円形を呈する。長径 1.00 m、短径 0.91 m、深さ 14 cm を測る。覆土：炭化物粒・ローム粒を含む灰褐色土を主体としている。遺物：出土しなかった。時期：不明。

5号土坑（図 42）

位置：1区A地点中央に位置する。形状・規模：平面形は楕円形を呈する。長径 0.94 m、短径 0.52 m、深さ 8～16 cm を測る。覆土：炭化物粒・ローム粒を含む暗褐色土を主体としている。遺物：出土しなかった。時期：不明。

6号土坑（図 42）

位置：1区A地点中央に位置する。形状・規模：平面形は円形を呈する。長径 0.96 m、短径 0.90 m、深さ 16 cm を測る。覆土：ロームブロック・炭化物粒を含む暗褐色土、炭化物粒・白色粒・砂粒を含む明褐色土を主体としている。遺物：石器が1点出土した。頁岩製の打製石斧で、折損している。時期：不明。

7号土坑（図 42）

位置：1区A地点中央に位置する。形状・規模：平面形は隅丸長方形を呈する。長径 1.28 m、短径 0.76 m、深さ 12 cm を測る。長軸方位：N-20°-E。覆土：ロームブロック・炭化物粒を含む暗褐色土を主体としている。遺物：出土しなかった。時期：不明。

8号土坑（図 42・46・47／写真図版 72）

位置：1区A地点中央に位置する。形状・規模：平面形は不整な楕円形を呈する。長径 1.51 m、短径 1.28 m、深さ 17 cm を測る。覆土：多量のローム粒子・淡暗褐色土ブロック・白色粒を含む暗褐色土を主体としている。遺物：縄紋土器 10 点が 3 層上面で出土した。全て前期後葉諸磯 a 式で、口縁部から体部が残存する個体や底部片も出土している。図 46・47 の 1～4 は単筋縄紋 (RL) を地紋とし、2 の外削ぎ状を呈する口唇部にはキザミを加える。また、棒状の片岩が土器の上で見付かっている。時期：縄紋時代前期後葉諸磯 a 式期。

9号土坑 (図42・48 / 写真図版73)

位置: 1区A地点中央に位置する。**重複:** 南東辺を植物によって攪拌される。**形状・規模:** 平面形は楕円形を呈する。長径1.22 m、短径1.15 m、深さ13 cmを測る。**覆土:** 多量のローム粒子・淡暗褐色土ブロック・白色粒を含む暗褐色土を主体としている。**遺物:** 縄紋土器23点が出土した。いずれも小片で、1・2層に散在する。前期後葉諸磯a式に比定され、図48の1～3には単節縄紋(RL)、4には無節縄紋(L)を施す。1の口縁部には半截竹管状工具による爪形紋で横位区画や鋸歯文を配置する。**時期:** 縄紋時代前期後葉諸磯a式期。

10号土坑 (図43)

位置: 1区A地点南西側に位置する。**形状・規模:** 平面形は楕円形を呈する。長径1.95 m、短径1.58 m、深さ30 cmを測る。**覆土:** ローム粒・炭化物粒を含む暗褐色土を主体としている。**遺物:** 出土しなかった。**時期:** 不明。

11号土坑 (図43)

位置: 1区A地点北東側に位置する。**重複:** 5号住居跡と重複し、本土坑が新しい。**形状・規模:** 平面形は楕円形を呈する。長径1.92 m、短径1.03 m、深さ31 cmを測る。**覆土:** 焼土粒・ローム粒を含む褐灰色土を主体としている。**遺物:** 出土しなかった。**時期:** 不明。

12号土坑 (図43)

位置: 1区A地点中央に位置する。**形状・規模:** 平面形は円形を呈する。長径1.30 m、短径1.30 m、深さ20 cmを測る。**覆土:** 上層はAs-A・焼土粒を含むローム土、下層は焼土粒・片岩粒を含む明褐色土を主体としている。5層の片岩粒・ブロックを含む明褐色土が堆積した後に、新たに穴を掘り直している。**遺物:** 出土しなかった。**時期:** 不明。

13号土坑 (図43・49 / 写真図版73)

位置: 1区A地点南西側に位置する。**形状・規模:** 平面形は円形を呈する。長径1.30 m、短径1.26 m、深さ31 cmを測る。**覆土:** 炭化物粒や片岩ないし白色粒子を含む暗褐色土を主体としている。**遺物:** 縄紋土器2点が出土した。いずれも小破片で、細別時期は不明である。図49の1は無文の口縁部片である。なお、被熱・破損を被る大型の礫が出土している。**時期:** 不明。

14号土坑 (図43)

位置: 1区A地点北東側に位置する。**重複:** 捻転痕を壊している。**形状・規模:** 平面形は両丸長方形を呈すと推測される。調査範囲では長径2.30 m、短径1.80 m、深さ18 cmを測る。**長軸方位:** N-65°-E。**覆土:** 不明。**遺物:** 礫が3点出土している。**時期:** 不明。

15号土坑 (図43)

位置: 2区北東端に位置する。**形状・規模:** 平面形は円形を呈する。長径0.76 m、短径0.70 m、深

さ6 cmを測る。覆土：ローム粒・ロームブロックを含む黒褐色土を主体としている。遺物：出土しなかった。時期：不明。

16号土坑（図43）

位置：2区北東端に位置する。形状・規模：平面形は楕円形を呈する。長径0.84 m、短径0.53 m、深さ16 cmを測る。覆土：As-A・ローム粒を含む暗褐色土を主体としている。遺物：出土しなかった。時期：近世以降。

17号土坑（図43）

位置：2区北東端に位置する。形状・規模：平面形は楕円形を呈する。長径1.41 m、短径1.24 m、深さ41 cmを測る。覆土：上層はローム粒・ロームブロックを含む暗褐色土、下層はローム粒・ロームブロックを含む黒褐色土を主体としている。遺物：出土しなかった。時期：不明。

18号土坑（図44）

位置：2区中央に位置する。形状・規模：平面形は楕円形を呈する。長径1.04 m、短径0.81 m、深さ84 cmを測る。覆土：ローム粒・ロームブロックを含む暗褐色土を主体としている。遺物：出土しなかった。時期：不明。

19号土坑（図44）

位置：2区中央に位置する。形状・規模：平面形は円形を呈する。長径0.78 m、短径0.73 m、深さ25 cmを測る。覆土：ローム粒・炭化物粒を含む暗褐色土を主体としている。遺物：出土しなかった。時期：不明。

20号土坑（図44）

位置：2区中央に位置する。形状・規模：平面形は楕円形を呈する。長径0.75 m、短径0.59 m、深さ18 cmを測る。覆土：ローム粒・ロームブロック・炭化物粒を含む暗褐色土を主体としている。遺物：出土しなかった。時期：不明。

21号土坑（図44）

位置：2区南西側に位置する。形状・規模：平面形は楕円形を呈する。長径0.70 m、短径0.60 m、深さ44 cmを測る。覆土：炭化物・焼土粒・ローム粒を含む黒褐色土ないし暗褐色土を主体としている。遺物：出土しなかった。時期：不明。

22号土坑（図44）

位置：2区中央より南側に位置する。形状・規模：平面形は楕円形を呈する。長径0.72 m、短径0.60 m、深さ8 cmを測る。覆土：ローム粒・炭化物粒を含む暗褐色土を主体としている。遺物：出土しなかった。時期：不明。

23号土坑 (図44)

位置: 2区中央に位置する。**形状・規模:** 平面形は楕円形を呈する。長径0.96 m、短径0.81 m、深さ36 cmを測る。**覆土:** 炭化物粒・ローム粒を含む暗褐色土を主体としている。**遺物:** 出土しなかった。**時期:** 不明。

24号土坑 (図45)

位置: 2区北西側に位置する。**重複:** 1号不明遺構と重複し、本土坑が新しい。**形状・規模:** 平面形は楕円形を呈すと推測される。確認された範囲では長径1.26 m、短径0.94 m、深さ20 cmを測る。**覆土:** ローム粒・ロームブロック・炭化物粒を含む暗褐色土を主体としている。**遺物:** 出土しなかった。**時期:** 不明。

25号土坑 (図44)

位置: 1区C地点北側に位置する。**形状・規模:** 平面形・規模は不明である。深さは35 cmを測る。**長軸方位:** $N-107^{\circ}-E$ 。**覆土:** As-Aを含む明褐色土を主体とし、旧耕作土を掘り込む。**遺物:** 鏝が1点出土したが、脆く崩れている。長さ0.56 m、幅0.38 mを測る。**時期:** 近現代。

1号ピット (図45)

位置: 2区北東端に位置する。**形状・規模:** 平面形は円形を呈する。長径0.62 m、短径0.56 m、深さ28 cmを測る。**覆土:** ローム粒・炭化物粒を含む暗褐色土を主体としている。**遺物:** 出土しなかった。**時期:** 不明。

2号ピット (図45)

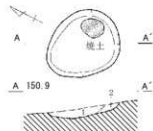
位置: 2区北西側に位置する。**形状・規模:** 平面形は円形を呈する。長径0.55 m、短径0.53 m、深さ40 cmを測る。**覆土:** ローム粒・炭化物粒を含む暗褐色土を主体としている。**遺物:** 出土しなかった。**時期:** 不明。

(3) 不明遺構

1号不明遺構 (図45)

位置: 2区北西側に位置する。**重複:** 24号土坑と重複し、本遺構が古い。**形状・規模:** 平面形は不整な隅丸長方形を呈する。長径2.36 m、短径1.72 m、深さ41 cmを測る。**長軸方位:** $N-76^{\circ}-E$ 。**覆土:** 不明。**遺物:** 出土しなかった。**時期:** 不明。

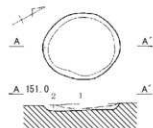
1号土坑



1号土坑 土層説明

- 1 暗褐色土：しまりやや強い、粘性あり。炭化物粒・ロームブロックを少量含む。
- 2 褐色土：しまりやや強い、粘性あり。ローム粒を少量、炭化物粒を微量含む。

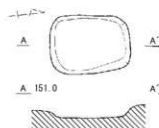
2号土坑



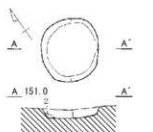
2号土坑 土層説明

- 1 暗褐色土：しまりやや強い、粘性あり。ロームブロック・炭化物粒を均一に、黒色土を斑状に含む。
- 2 暗褐色土：しまりやや強い、粘性あり。炭化物粒子を均一に含む。

3号土坑



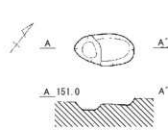
4号土坑



4号土坑 土層説明

- 1 灰褐色土：しまり強い、粘性あり。ローム粒・炭化物粒を微量含む。
- 2 灰褐色土：しまりやや強い、粘性ややあり。

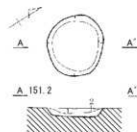
5号土坑



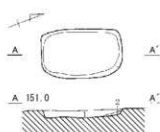
5号土坑 土層説明

- 1 褐色土：しまりやや強い、粘性あり。ロームブロック・炭化物粒を少量含む。
- 2 明褐色土：しまりやや強い、粘性あり。炭化物粒を少量、白色粒子を微量、褐色微砂粒を部分的に含む。

6号土坑



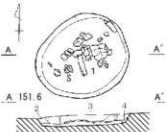
7号土坑



7号土坑 土層説明

- 1 暗褐色土：しまりやや強い、粘性あり。ロームブロックを多量、炭化物粒を微量含む。
- 2 褐色土：しまりやや弱い、粘性やや弱い。炭化物粒を少量含む。

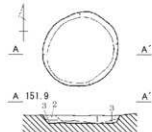
8号土坑



8号土坑 土層説明

- 1 暗褐色土：しまり硬い、粘性ややあり。ローム粒子を多量、褐色ブロック（φ 5mm）・白色粒子を少量含む。
- 2 褐色土：しまり硬い、粘性ややあり。ローム粒子を多量、白色粒子を少量含む。
- 3 褐色土：しまり強い、粘性あり。ローム粒子を多量、白色粒子・灰褐色粘質土ブロック（φ 10mm）を少量含む。
- 4 明褐色土：しまりやや弱い、粘性ややあり。ローム粒子を主体とする。

9号土坑



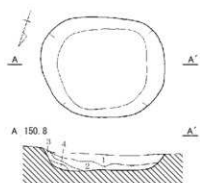
9号土坑 土層説明

- 1 暗褐色土：しまり硬い、粘性あり。ローム粒子を多量、暗褐色土ブロック（φ 10mm）・白色粒子を少量含む。
- 2 褐色土：しまり強い、粘性あり。ローム粒子を多量、白色粒子を少量含む。
- 3 褐色土：しまり強い、粘性あり。ローム粒子を多量、白色粒子・灰褐色粘質土ブロック（φ 10mm）を少量含む。



図 42 1～9号土坑

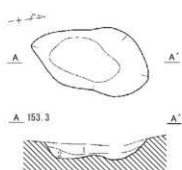
10号土坑



10号土坑 土層説明

- 1 暗褐色土：しまりや弱い、粘性あり。炭化物粒・ローム粒を微量含む。
- 2 暗褐色土：しまりや強い、粘性あり。ローム粒を均一に、炭化物粒・ローム小ブロックを微量含む。
- 3 黒褐色土：しまりや強い、粘性あり。黒色土を斑状に少量、ローム粒を微量含む。
- 4 褐色土：しまりや強い、粘性あり。炭化物粒・ロームブロックを少量含む。

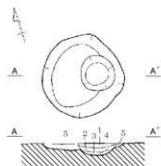
11号土坑



11号土坑 土層説明

- 1 褐灰色土：しまりや弱い、粘性強い。ローム粒を中量、焼土粒・白色粒(φ1~2mm)を微量含む。
- 2 褐色土：しまりや弱い、粘性強い。焼土粒子・ローム粒を微量、下部に泥岩・YPを若干含む。

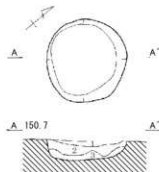
12号土坑



12号土坑 土層説明

- 1 明褐色土：しまりや強い、粘性ややあり。ローム主体、As-Aを少量含む。
- 2 褐色土：しまりや強い、粘性ややあり。ローム主体、As-Aを少量、片岩粒(φ2~3mm)・焼土粒・炭化物粒を微量含む。
- 3 明褐色土：しまりや強い、粘性ややあり。焼土粒(φ1~5mm)を少量、焼土ブロック(φ20mm)・片岩粒(φ30mm)を微量含む。
- 4 暗褐色土：しまりや強い、粘性ややあり。焼土粒を中量、炭化物粒(φ5~10mm)を少量含む。
- 5 明褐色土：しまりや強い、粘性ややあり。片岩粒(φ1~10mm)を中量、焼土粒子・ローム粒を微量含む。

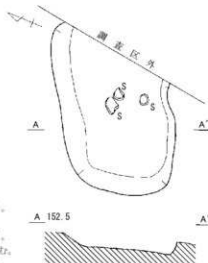
13号土坑



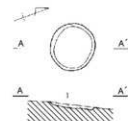
13号土坑 土層説明

- 1 暗褐色土：しまりや強い、粘性あり。炭化物粒を少量、細砂を微量含む。
- 2 暗褐色土：しまりや強い、粘性あり。炭化物粒を少量、白色粒を極微量含む。
- 3 暗褐色土：しまりや強い、粘性あり。炭化物粒・赤褐色粒を微量含む。

14号土坑



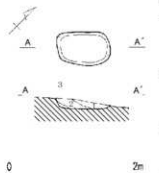
15号土坑



15号土坑 土層説明

- 1 黒褐色土：しまりや強い、粘性弱い。ローム粒・ロームブロックを少量、白色スコリアを微量含む。

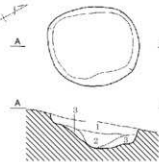
16号土坑



16号土坑 土層説明

- 1 暗褐色土：しまりや弱い、粘性やや弱い。As-Aを均一に、ローム粒を少量含む。
- 2 褐色土：しまりや強い、粘性あり。As-A・ローム粒を少量、炭化物を微量含む。
- 3 黄褐色土：しまりや弱い、粘性あり。ロームブロック層。

17号土坑

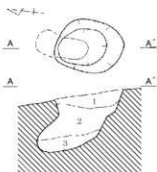


17号土坑 土層説明

- 1 暗褐色土：しまりや弱い、粘性やや弱い。ローム粒・白色スコリアを均一に、ロームブロックを少量含む。
- 2 黒褐色土：しまりや強い、粘性弱い。ローム粒・ロームブロックを少量含む。
- 3 褐色土：しまりや強い、粘性あり。ローム粒を均一に、ロームブロックを微量含む。

図43 10~17号土坑

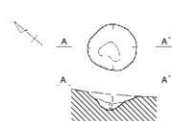
18号土坑



18号土坑 土層説明

- 1 暗褐色土：しまり弱い、粘性なし。ローム粒・ロームブロック・炭化物粒を均一、ローム風化土を少量含む。
- 2 褐色土：しまり弱い、粘性弱い。ローム粒・ロームブロック・炭化物粒を均一、ローム風化土を少量含む。
- 3 黄褐色土：しまりやや弱い、粘性やや弱い、ローム風化土。

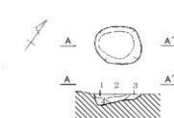
19号土坑



19号土坑 土層説明

- 1 暗褐色土：しまりやや強い、粘性なし。ローム粒・炭化物粒を少量含む。
- 2 褐色土：しまりやや弱い、粘性やや弱い。ローム粒・炭化物粒を少量含む。

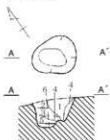
20号土坑



20号土坑 土層説明

- 1 暗褐色土：しまり弱い、粘性なし。白色スコリア・ローム微粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土：しまりやや弱い、粘性やや弱い。白色スコリア・ローム微粒子・炭化物粒を少量含む。
- 3 暗褐色土：しまりやや強い、粘性弱い。ローム粒・ロームブロックを多量含む。
- 4 暗褐色土：しまりやや弱い、粘性やや弱い。ローム粒・ロームブロックを均一、炭化物粒を少量含む。

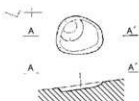
21号土坑



21号土坑 土層説明

- 1 黒褐色土：しまりやや強い、粘性あり。炭化材・炭化物粒を多量、ローム粒・ロームブロックを均一、焼土粒を少量含む。
- 2 暗褐色土：しまりやや強い、粘性あり。炭化材・ローム粒を少量、ロームブロックを微量含む。
- 3 黒褐色土：しまりやや強い、粘性あり。炭化材・炭化物粒を多量、ローム粒を均一、焼土粒を微量含む。
- 4 褐色土：しまりやや弱い、粘性やや弱い。ローム粒を少量、炭化物粒・ロームブロックを均一に含む。
- 5 暗褐色土：しまりやや強い、粘性弱い。炭化物粒を均一、ローム粒を少量、焼土粒を微量含む。
- 6 褐色土：しまりやや強い、粘性弱い。ローム粒を均一、炭化物粒を少量、焼土粒を微量含む。

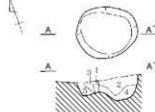
22号土坑



22号土坑 土層説明

- 1 暗褐色土：しまりやや強い、粘性なし。ローム粒を均一に、ロームブロック・炭化物粒を微量含む。

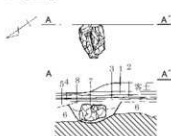
23号土坑



23号土坑 土層説明

- 1 暗褐色土：植物根による痕品。
- 2 暗褐色土：しまりやや強い、粘性あり。ローム粒・炭化物粒を少量含む。
- 3 暗褐色土：しまりやや弱い、粘性やや弱い。ローム粒を均一、炭化物粒を微量含む。
- 4 明褐色土：しまりやや強い、粘性あり。ローム粒を少量、ロームブロックを微量含む。
- 5 褐色土：しまりやや強い、粘性弱い。ローム粒・ロームブロックを多量含む。

25号土坑



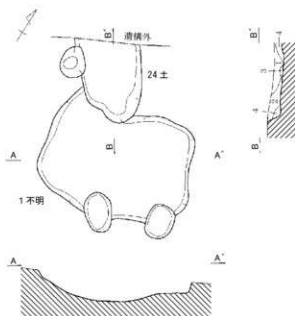
25号土坑 土層説明

- 1 明褐色土：しまり硬い、粘性なし。砂粒を中量、小礫（φ3mm）を少量含む。
- 2 暗褐色土：しまり硬い、粘性なし。砂粒を中量、小礫（φ3mm）を少量含む。
- 3 明褐色土：しまり硬い、粘性なし。砂粒を多量含む。
- 4 明褐色土：しまり硬い、粘性なし。砂粒を少量含む。
- 5 明褐色土：しまり硬い、粘性弱い。As-Aを少量含む。
- 6 明褐色土：旧耕作土。
- 7 明褐色土：しまりやや弱い、粘性弱い。As-Aを少量含む。
- 8 明褐色土：しまりやや弱い、粘性弱い。As-Aを少量含む。



図 44 18～23・25号土坑

24号土坑・1号不明遺構



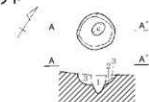
24号土坑 土層説明

- 1 暗褐色土：しまりやや強い、粘性あり。ローム粒・ロームブロックを少量、炭化物粒を微量含む。
- 2 褐色土：しまりやや強い、粘性あり。ローム粒・ロームブロックを均一に含む。
- 3 暗黄褐色土：しまりやや強い、粘性あり。ロームブロック主体の層。
- 4 暗褐色土：しまりやや弱い、粘性やや弱い。ローム粒を少量、炭化物粒を微量含む。

1号ビット 土層説明

- 1 暗褐色土：しまりやや強い、粘性あり。ローム粒を均一、ロームブロック・炭化物粒を微量含む。
- 2 褐色土：しまりやや強い、粘性あり。ローム粒・白色スコリアを微量含む。
- 3 暗褐色土：しまり弱い、粘性あり。ローム粒・炭化物粒を微量含む。

1号ビット



2号ビット

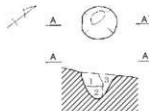


図45 24号土坑・1～2号ビット・1号不明遺構

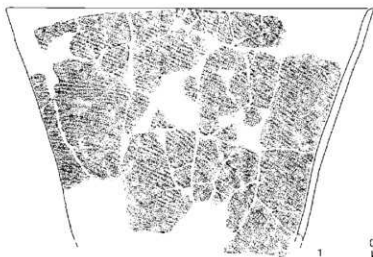


図46 8号土坑出土遺物(1)



図47 8号土坑出土遺物(2)



図48 9号土坑出土遺物



図49 13号土坑出土遺物

(4) 溝

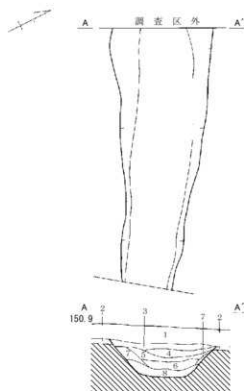
1号溝(図50)

位置: 2区南端に位置する。**形状・規模:** 北西-南東方向へ直行する。確認された範囲では長さ5.48m、幅1.07~2.15m、深さ27~62cmを測る。**走行方位:** N-59°-W。**覆土:** 上層はAs-Aを含む暗褐色土、中層はローム粒・炭化物粒を含む黒褐色土、下層はローム粒を含む暗褐色土を主体としている。**遺物:** 出土しなかった。**時期:** 不明。

(5) 道路状遺構

1号道路状遺構(図27)

位置: 1区A地点北側に位置する。**形状・規模:** 南北方向へ蛇行気味に走行する。確認された範囲では長さ14.94m、幅0.62~1.10mを測る。強く硬化しており、旧耕作土をやや切り込んで形成されている。**走行方位:** N-3°-E。**遺物:** 出土しなかった。**時期:** 近現代。



1号溝 土層説明

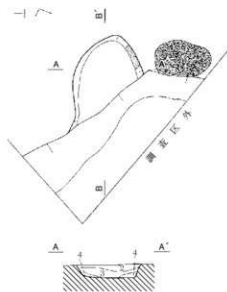
- 1 暗褐色土：視表土、As-Aを含む。
- 2 暗褐色土：ローム粒を少量、As-Aを上部に微量含む。
- 3 暗褐色土：しまりやや弱い、粘性やや弱い、As-Aを少量、炭化物粒を微量含む。
- 4 暗褐色土：しまりやや強い、粘性弱い、As-A・炭化物粒・ローム粒を微量含む。
- 5 黒褐色土：しまりやや強い、粘性あり。ローム粒を均一に、炭化物粒を微量含む。
- 6 黒褐色土：しまりやや強い、粘性あり。ローム粒を多量、炭化物粒を微量含む。
- 7 褐色土：しまりやや弱い、粘性やや弱い。ローム粒を均一に含む。
- 8 暗褐色土：しまり硬い、粘性弱い、ローム粒を多量含む。

図 50 1号溝

(6) 窯状遺構

1号窯状遺構 (図 51 / 写真図版 9)

位置：1区C地点南東端に位置する。形状・規模：確認された範囲では長さ1.10 m、幅1.11 m、深さ20～22 cmを測る。壁は一部赤褐色化した硬化部分が遺存している。その右脇には炭化物が集中す



1号窯状遺構 土層説明

- 1 褐灰色土：しまりやや弱い、粘性弱い、As-A・焼土粒・炭化物粒を中量含む。
- 2 暗褐色土：しまりやや弱い、粘性弱い、焼土粒・炭化物粒を多量含む。
- 3 暗褐色土：しまりやや弱い、粘性弱い、焼土粒・炭化物粒を少量含む。
- 4 暗褐色土：しまりやや弱い、粘性弱い、焼土粒・炭化物粒を微量含む。

炭化材集中

焼土

図 51 1号窯状遺構

る範囲が見られる。楕円形状に検出され、長径 0.90 m、短径 0.58 m を測る。長軸方位：N-90°-E。
 覆土：焼土粒・炭化物粒を含む暗褐色土を主体としている。東側は As-A 混入土層により壊されている。
 遺物：出土しなかった。時期：不明。

(7) 埋没谷 (図 52・53 / 写真図版 73)

1 区 A 地点南側、B・C 地点北側に位置し、南北にのびる丘陵の西斜面に展開する。調査は谷の底面までは及ばず、基盤のローム層は北側でしか確認できなかった。ただし、下層に向かうにしたがいロームの含有率が高くなることから、谷のローム開析面は最下層 (28 層) に近い部分に相当するものと予想される。

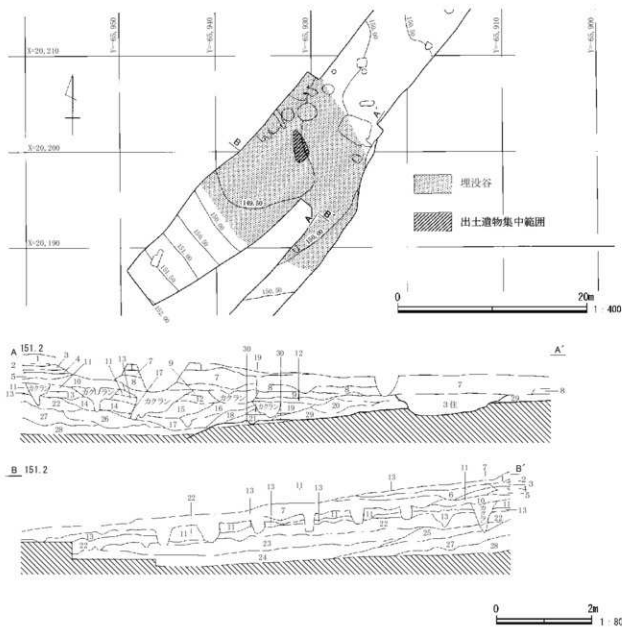


図 52 埋没谷

埋没谷 土層説明

- 1 表土層。現代耕作土層が荒地化。
- 2 暗褐色砂：しまり強い、粘性弱い、小礫・砂粒を主体とし、明褐色土・As-Aを少量含む。道路状遺構。
- 3 明褐色土：しまり強い、粘性弱い、明褐色土を主体とし、ローム粒・As-Aを少量含む。道路状遺構。
- 4 暗褐色砂：しまり強い、粘性弱い、上位に小礫・砂粒が集中し、下位に明褐色土を多量含む。As-Aが混じる。道路状遺構。
- 5 暗褐色砂：4層に準ずるが、上位の砂礫が少ない、下位は明褐色土塊を主体とする。道路状遺構。
- 6 表土層。現代耕作土層が荒地化。
- 7 明褐色土：しまりやや強い、粘性弱い、粗砂を多量、As-Aを中量、ローム粒・炭化物を微量含む。現代耕作土。
- 8 明褐色土：しまりやや強い、粘性弱い、7層に似るが、As-Aが少なく、ロームブロック・ローム粒を中量含む。旧耕作土。
- 9 明褐色土：8層に似るが、ロームブロック・ローム粒がやや多い、As-Aを少量含む。旧耕作土。
- 10 明褐色土：8層に似るが、As-Aをほとんど含まない。旧表土層。
- 11 明褐色土：8層に似るが、As-Aを含まない。旧表土層。
- 12 明褐色土：しまりやや強い、粘性弱い。ローム粒を中量、細砂を少量、黒色土を微量含む。
- 13 黒褐色土：しまりやや強い、粘性やや強い、YPが混じる黒褐色土ブロックを主体とし、褐色土を微量含む。
- 14 暗赤褐色土：しまりやや強い、粘性強い、斑状の褐色土を少量含む。鉄分沈着。
- 15 明褐色土：しまりやや強い、粘性強い、暗褐色土塊・粒を少量含む。
- 16 明褐色土：15層に準じるが、暗褐色土塊・粒がやや少ない。
- 17 暗褐色土：しまりやや強い、粘性強い。YP混入の暗褐色ロームブロックを主体とし、暗黄褐色ロームブロックを中量含む。
- 18 明褐色土：しまりやや強い。暗褐色土塊・粒・ローム粒を中量含む。
- 19 明褐色土：しまり強い、20層の再堆積土。
- 20 明褐色土：ローム粒を多量含む。
- 21 明褐色土：しまり強い、19層に準じるが、暗褐色土粒を少量含む。
- 22 暗赤褐色土：しまり強い、粘性強い、YP混入の暗赤褐色土ブロックを主体とし、斑状の褐色土を少量含む。鉄分沈着。
- 23 暗褐色土：しまり強い、粘性強い、YP混入の暗褐色ロームブロックを主体とし、暗黄褐色ロームブロックを少量含む。
- 24 暗褐色土：暗褐色ロームブロックを主体とする。
- 25 暗褐色土：23層に準じるが、暗黄褐色ロームブロックを中量含む。
- 26 暗褐色土：しまりやや強い、粘性強い、YP混入の暗褐色ロームブロックを主体とする。
- 27 暗褐色土：しまり強い、粘性強い、23層に準じるが、暗黄褐色ロームブロックを中量含む。
- 28 暗黄褐色土：しまり強い、粘性強い、黄褐色土ロームを主体とし、暗褐色ロームブロックを少量含む。YPが混じる。
- 29 明黄褐色土：しまりやや強い、粘性強い、30層の再堆積土。
- 30 明黄褐色土：ローム基盤層。

埋没谷の下層（13～29層）はロームブロックを主体とした堆積土で、22～25層において縄紋時代前期の遺物が少量出土している。当該期の遺構が北東部の丘陵上で検出されており、その遺物が傾斜に従って流入したものと推測される。

12層は、平安時代の1号住居跡履土と同じ黒褐色土であることから、住居跡が営まれていた際の地表面に想定される。その水平な堆積状況は谷の埋没が大幅に進行していた状況を窺わせる。

上層（1～10層）は、埋没土中にAs-A軽石が混入しており、その降下時期（1783年）以降に形成時期が想定される。そのうち2～5層は道路状遺構に相当し、砂礫等が互層状に堆積する。道路状遺構は10層の旧表土層を掘り込む。また、道路状遺構を避けるように旧耕作土層が位置することから、道路は旧耕作時に機能していたものと推測される。さらに、現耕作土層（7層）との関係から、繰り返し使用されてきた様子が見て取れよう。平面での確認はできなかったが、1号道路状遺構との関係を検討する必要がある。

遺物は縄紋土器31点が出土した。いずれも小片ばかりである。細別が判明するものには、前期初頭花積下層式、前期前半、前期後葉諸磯a式・諸磯c式が認められ、そのうち諸磯a式が多くを占める。図53の1は花積下層式で胎土に繊維を含む。燃糸紋（L）を口唇部・口唇部下に横位、体部に縦位施文する。2～5は諸磯a式に比定される。2は半截竹管状工具による平行沈線で米字文、縦位沈線上に竹管による円紋を配す。3・4は単節縄紋（RL）を地紋とし、3の口唇部にはキザミを加える。5は浅鉢で、半截竹管状工具による爪形紋で木葉文を描く。

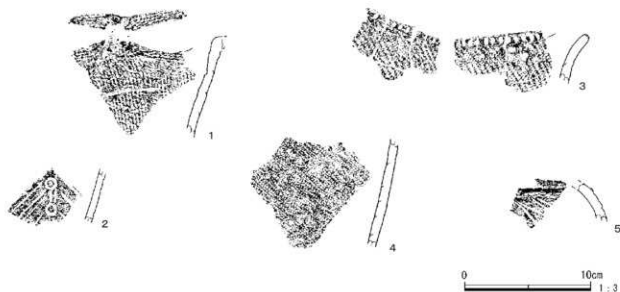


図53 埋没谷出土遺物

(8) 遺構外出土遺物 (図54・55、表8/写真図版73)

縄紋土器片79点・石器12点が出土した。1区A・C地点において検出され、土器は小片ばかりである。また、1区C地点谷部を中心として、弥生時代末期～古墳時代前期初頭の器台・甕・壺等が少量出土した。

1区A地点の縄紋土器は前期前葉関山Ⅱ式、前期後葉諸磯a式・諸磯b式・諸磯c式、前期末葉、中期中葉阿玉台式が認められ、諸磯a式・諸磯c式がほとんどを占める。図54の1は関山式で胎土に繊維を含む。縄紋地紋で平行沈線や貼付紋を配置する。2は縄紋を地紋とし、口縁部の地紋磨消し部分に半截竹管状工具による横位の爪形紋が巡る。諸磯a式である。3は諸磯c式の底部で、半截竹管状工具による集合沈線を充填する。4は結節を伴う縄紋を地紋とし、口唇部・隆帯に押捺を加える。前期末葉に想定される。5は阿玉台式で、胎土に雲母を含む。口縁部を隆帯で横位に区画する。なお、石器はスクレイパー類等が見受けられた。

1区C地点の縄紋土器は前期前半、前期後葉諸磯c式、中期後葉加曾利EⅢ式が認められる。前期

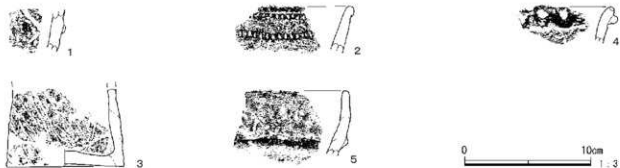


図54 1区A地点遺構外出土遺物

前半が多く、図 55 の 1 には単節縄紋 (RL)、2 には無節縄紋 (L) を施す。3 は加曾利 E III 式で、単節縄紋 (RL) を地紋とし、単沈線や磨消を伴う並行沈線で横・縦位に区画する。なお、石器は楔形石器・打製石斧・スクレイパー類・磨石類・石核・剥片等が見受けられた。

また、試掘調査の際に弥生時代末～古墳時代初頭にかけての土器も出土している。図 55 の 5 は調査区へ向かう進入路から出土した。器受け部・台部ともに直線的に開く器台で、上部には 2 カ所の円孔が穿たれている。図 55 の 6・7 は C 地点の谷部から出土した。口縁を折り返し、胴部が球体化する甕で、弥生時代終末期に比定される。

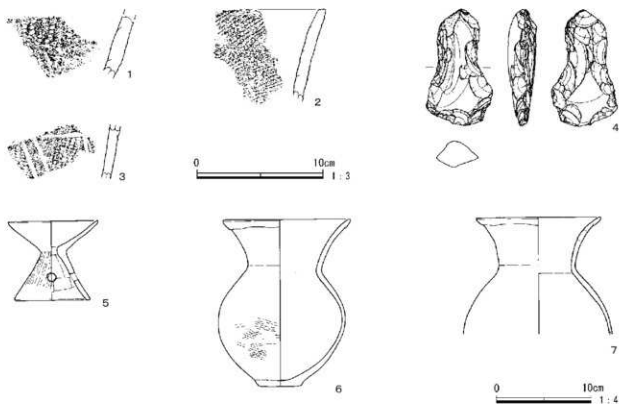


図 55 1 区 C 地点遺構外出土遺物

表 8 1 区 C 地点遺構外出土遺物観察表

4	石器 打製石斧	A. 長さ 9.25、幅 5.3、厚さ 2.3、重さ 89.83。G. 頁岩。礫皮をもつ剥片の周縁を直接打撃により両面加工。H. C 地点。
5	土師器 器台	A. 口縁部径 (9.5)、器高 8.3、底部径 (8.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 坏部内外面磨滅により調整不明。脚部外面ミガキ、内面窪ナデ。下位ヨコナデ。D. 白色粒、黒色粒。E. 内外一にぶい黄橙色。F. 2/3。G. 胴部 2 孔。H. 試掘 (進入路)。
6	弥生土器 甕	A. 口縁部径 (13.5)、器高 17.5、底部径 4.5。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面器ヨコナデ。胴部外面ナデ後ミガキ、内面窪ナデ。底部外面ケズリ、内面窪ナデ。D. 片岩、白色粒、黒色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 2/3。H. 試掘 (神明前遺跡 C 地点谷部)。
7	弥生土器 甕	A. 口縁部 13.0。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面器ヨコナデ。胴部内外面磨滅により調整不明。D. 白色粒、黒色粒。E. 内外一にぶい黄橙色。F. 口縁部～胴部上半 1/2。H. 試掘 (神明前遺跡 C 地点谷部)。

第4節 明神ノ上東遺跡

1 遺跡の概要 (図56/写真図版10)

明神ノ上東遺跡は、「女堀川」支流右岸の丘陵斜面上に立地する。標高は152～169 mである。調査区内は南西から北東へ傾斜し、調査区の中央に小規模な埋没谷が存在する。

検出された遺構は、奈良・平安時代の堅穴住居跡1軒である。遺物は、土師器甕、須恵器高台付埴甕の破片等が少量出土している。

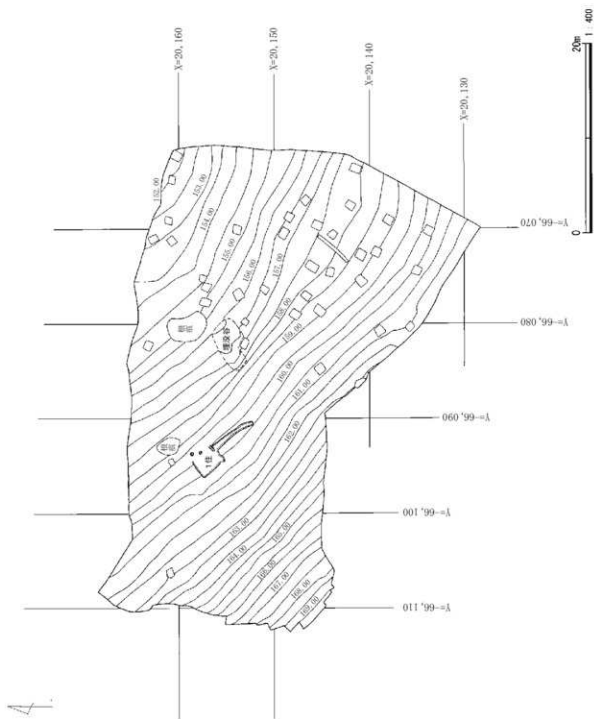


図56 明神ノ上東遺跡全体図

2 検出された遺構と遺物

(1) 竪穴住居跡

1号住居跡 (図57～59、表9/写真図版10・74)

位置:調査区中央より北西側に位置する。**重複:**溝状の掘り込みと重複するが、新旧関係は不明である。**形状・規模:**土砂流失のため平面形は確定できない。規模は、確認された範囲では南東-北西軸2.72mを測る。**主軸方位:**N-137°-E。**床面:**確認面からの深さは16cmを測る。貼床はなく、床面はやや凹凸が見られる。壁際からは炭化材が出土している。**壁溝:**東壁下に検出される。幅24～27cm、床面からの深さ26cmを測る。**貯蔵穴:**不明。**ピット:**2基検出された。平面形は楕円形を呈する。

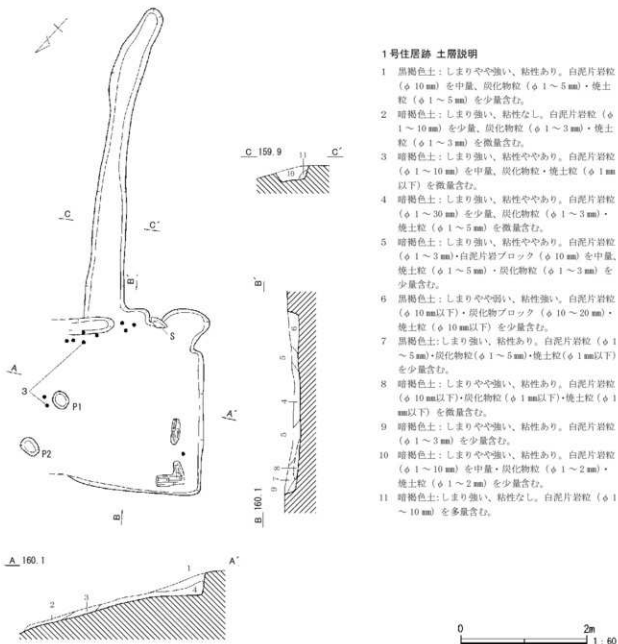
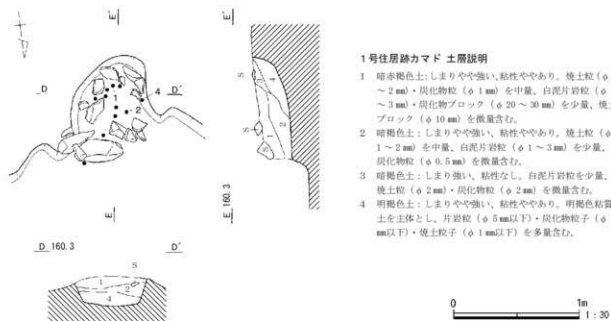


図57 1号住居跡

P 1 が長径 28 cm、短径 24 cm、深さ 38 cm、P 2 が長径 30 cm、短径 22 cm、深さ 29 cm を測る。カマド：南壁コーナ一部に設置される。燃焼部は推定幅約 50 cm、奥行き 74 cm で壁外へ造り出す。火床面は明瞭ではない。燃焼部から礫が多数出土しており、補強材に使用されたものと推測される。遺物：カマドや覆土中から土師器・甕の破片が少量出土した。時期：カマド内から 8 世紀前半の土器が出土しているが、カマドの形態や設置位置から住居跡の時期は新しくなる可能性が高い。



1号住居跡カマド 土層説明

- 1 暗赤褐色土；しまりやや強い、粘性ややあり。焼土粒（ ϕ 1～2 mm）・炭化物粒（ ϕ 1 mm）を中量、白泥片岩粒（ ϕ 1～3 mm）・炭化物ブロック（ ϕ 20～30 mm）を少量、焼土ブロック（ ϕ 10 mm）を微量含む。
- 2 暗褐色土；しまりやや強い、粘性ややあり。焼土粒（ ϕ 1～2 mm）を中量、白泥片岩粒（ ϕ 1～3 mm）を少量、炭化物粒（ ϕ 0.5 mm）を微量含む。
- 3 暗褐色土；しまり強い、粘性なし。白泥片岩粒を少量、焼土粒（ ϕ 2 mm）・炭化物粒（ ϕ 2 mm）を微量含む。
- 4 明褐色土；しまりやや強い、粘性ややあり。明褐色粘質土を主体とし、片岩粒（ ϕ 5 mm以下）・炭化物粒子（ ϕ 1 mm以下）・焼土粒子（ ϕ 1 mm以下）を多量含む。

図 58 1号住居跡カマド

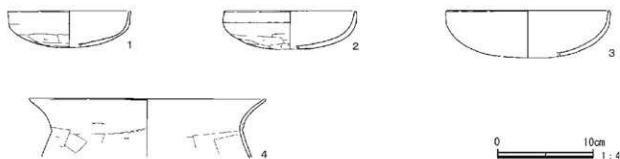


図 59 1号住居跡出土遺物

表 9 1号住居跡出土遺物観察表

1	土師器 環	A. 口縁部径 (12.8)、器高 3.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面上位ナデ、下位ケズリ、内面匏ナデ。D. 白色粒、黒色粒。E. 内外一にぶい橙色。F. 1/4。H. カマド内。
2	土師器 環	A. 口縁部径 13.8、器高 4.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面上位ナデ、下位ケズリ、内面匏ナデ。D. 白色粒、黒色粒。E. 内外一にぶい橙色。F. 1/3。H. 覆土中。
3	土師器 環	A. 口縁部径 (17.2) 器高 (5.0)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面磨耗により調整不明。D. 片岩、白色粒。E. 内外一にぶい橙色。F. 1/3。H. 覆土中。
4	土師器 甕	A. 口縁部径 (24.9)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面匏ナデ。D. 白色粒、黒色粒。E. 内外一にぶい橙色。F. 口縁部～胴部上位 1/5。H. カマド内。

第5節 明神ノ上西遺跡

1 遺跡の概要 (図60/写真図版11)

明神ノ上西遺跡は、「女堀川」支流右岸の丘陵斜面上に立地する。標高は173～182 mで、調査区内は南から北へ傾斜する。検出された遺構は、焼土集中土坑1基、土坑4基、ピット11基で、帰属時期は不明である。焼土集中土坑は調査区北西部で検出され、その東側に土坑・ピットが集中する。遺物は、遺構外から縄紋時代早期後葉と中期後葉の土器や石器等が少量出土したのみである。

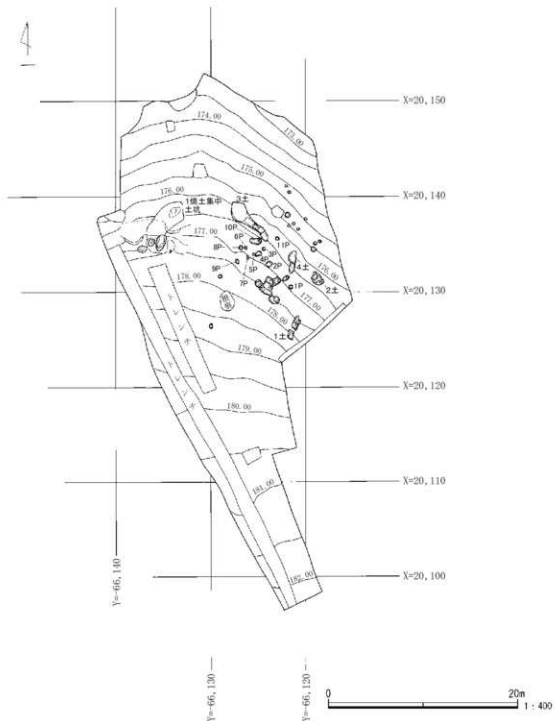


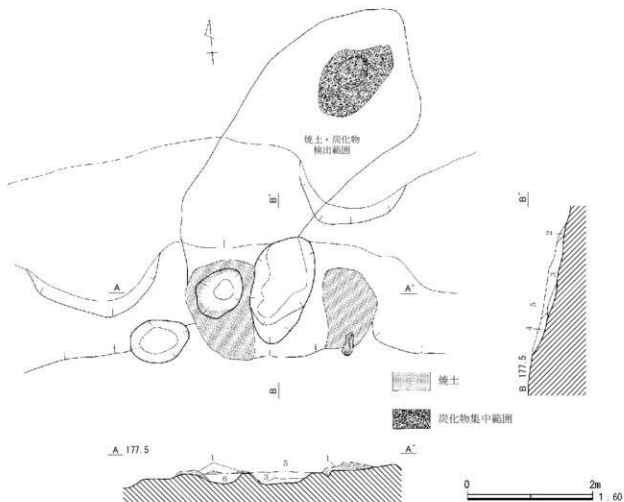
図60 明神ノ上西遺跡全体図

2 検出された遺構と遺物

(1) 焼土集中土坑

1号焼土集中土坑 (図61 / 写真図版11)

位置：調査区北西側に位置する。形状・規模：土砂流出のため形状・規模は不明である。南側で検出された2ヵ所の焼土範囲は、地山のローム層が焼けた痕跡である。焼土の周辺には土坑状の窪みが3ヵ所見られ、深さは16～20cmを測る。北側には焼土と炭化物粒を微量に含むローム土が流出しており、先端には炭化物が集中する深さ6cm程の窪みが確認されている。遺物：出土しなかった。時期：不明。



1号焼土集中土坑 土層説明

- 1 ロームが焼けた層。
- 2 明褐色土：しまりやや弱い、粘性弱い。明黄褐色土（風化ローム）が主体。焼土粒子（ ϕ 1mm以下）・炭化物粒子（ ϕ 1mm以下）を微量含む。
- 3 黒褐色土：しまり弱い、粘性強い。粘土層に炭化物が多量混入する。
- 4 明褐色土：しまり弱い、粘性強い。焼土粒子（ ϕ 1～3mm）・炭化物粒子（ ϕ 1～2mm）を少量含む。
- 5 明黄褐色土：しまりやや強い、粘性やや強い。ロームの再堆積層。
- 6 灰褐色土：しまり強い、粘性強い。地山の粘土に明褐色土が混入した層。小石（ ϕ 5～10mm）を少量含む。

図61 1号焼土集中土坑

(2) 土坑・ピット

1号土坑 (図 62 / 写真図版 11)

位置: 調査区東側に位置する。**形状・規模:** 平面形は長方形を呈する。長径 0.86 m、短径 0.55 m、深さ 39 cm を測る。**覆土:** 炭化物粒子・明黄褐色土を含む暗褐色土を主体としている。**遺物:** 石器が 1 点出土した。頁岩製のスクレイパー類である。**時期:** 不明。

2号土坑 (図 62 / 写真図版 11)

位置: 調査区東側に位置する。**形状・規模:** 平面形は楕円形を呈する。長径 0.83 m、短径 0.36 m、深さ 26 cm を測る。**覆土:** ロームブロック・YP を含む明黄褐色土を主体としている。**遺物:** 出土しなかった。**時期:** 不明。

3号土坑 (図 62 / 写真図版 11)

位置: 調査区東側に位置する。**形状・規模:** 平面形は不整形を呈する。長径 3.78 m、短径 0.64 ~ 1.80 m、深さは 17 ~ 44 cm を測る。**覆土:** 炭化物粒を含む明黄褐色土を主体としている。**遺物:** 出土しなかった。**時期:** 不明。

4号土坑 (図 62 / 写真図版 11)

位置: 調査区東側に位置する。**形状・規模:** 長径 1.07 ~ 1.34 m、短径 0.59 ~ 0.77 m の楕円形の土坑が重複する。深さ 16 ~ 17 cm を測る。**覆土:** 炭化物粒・ローム粒を含む褐灰色土および炭化物粒・YP を含む灰黄褐色土を主体としている。**遺物:** 出土しなかった。**時期:** 不明。

1号ピット (図 63)

位置: 調査区東側に位置する。**形状・規模:** 平面形は楕円形を呈する。長径 0.50 m、短径 0.42 m、深さ 22 cm を測る。**覆土:** 炭化物粒を含む明黄褐色土を主体としている。**遺物:** 出土しなかった。**時期:** 不明。

2号ピット (図 63)

位置: 調査区東側に位置する。**形状・規模:** 平面形は楕円形を呈する。長径 0.64 m、短径 0.54 m、深さ 27 cm を測る。**覆土:** ロームブロック・炭化物粒を含む暗灰色土および黄褐色土を主体としている。**遺物:** 出土しなかった。**時期:** 不明。

3号ピット (図 63)

位置: 調査区東側に位置する。**形状・規模:** 平面形は楕円形を呈する。長径 0.44 m、短径 0.35 m、深さ 26 cm を測る。**覆土:** 明黄褐色土を均一に含む暗褐色土を主体としている。**遺物:** 出土しなかった。**時期:** 不明。

4号ピット (図 63)

位置：調査区東側に位置する。形状・規模：平面形は隅丸方形を呈する。長径 0.68 m、短径 0.49 m、深さ 17 cm を測る。覆土：炭化物粒・明黄褐色土を含む暗褐色土を主体としている。遺物：出土しなかった。時期：不明。

5号ピット (図 63)

位置：調査区東側に位置する。形状・規模：平面形は楕円形を呈する。長径 0.32 m、短径 0.26 m、深さ 23 cm を測る。覆土：炭化物粒を含む暗褐色土および明黄褐色土を主体としている。遺物：出土しなかった。時期：不明。

6号ピット (図 63)

位置：調査区東側に位置する。形状・規模：平面形は円形を呈する。長径 0.38 m、短径 0.34 m、深さ 22 cm を測る。覆土：炭化物粒を含む灰黄褐色土および暗黄褐色土を主体としている。遺物：出土しなかった。時期：不明。

7号ピット (図 63)

位置：調査区東側に位置する。形状・規模：平面形は楕円形を呈する。長径 0.45 m、短径 0.24 m、深さ 14 cm を測る。覆土：ローム粒を含む暗灰色土を主体としている。遺物：出土しなかった。時期：不明。

8号ピット (図 63)

位置：調査区東側に位置する。形状・規模：平面形は楕円形を呈する。長径 0.50 m、短径 0.42 m、深さ 34 cm を測る。覆土：ローム粒子・炭化物粒を含む黄褐色土を主体としている。遺物：出土しなかった。時期：不明。

9号ピット (図 63)

位置：調査区東側に位置する。形状・規模：平面楕円形を呈する。長径 0.56 m、短径 0.32 m、深さ 16 cm を測る。覆土：ローム粒・炭化物粒を含む褐灰色土を主体としている。遺物：出土しなかった。時期：不明。

10号ピット (図 63)

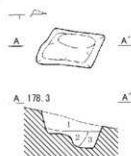
位置：調査区東側に位置する。形状・規模：平面形は不整楕円形を呈する。長径 1.23 m、短径 0.61 m、深さ 44 cm を測る。覆土：明黄褐色土ブロック・炭化物粒を含む暗褐色土および、ローム粒子を含む褐灰色土を主体としている。遺物：出土しなかった。時期：不明。

11号ピット (図 63)

位置：調査区東側に位置する。形状・規模：平面形はほぼ円形を呈する。長径 0.42 m、短径 0.37 m、

深さ 52 cm を測る。覆土：炭化物粒を含む褐灰色土および暗灰褐色土を主体としている。遺物：出土しなかった。時期：不明。

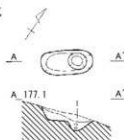
1号土坑



1号土坑 土層説明

- 1 暗褐色土：しまりやや弱い、粘性弱い。黒褐色土・明黄褐色土が斑状に混在する。炭化物粒子（ ϕ 0.5 mm）を微量含む。
- 2 明褐色土：しまりやや弱い、粘性弱い。暗褐色土を少量含む。
- 3 暗褐色土：しまりやや弱い、粘性弱い。明黄褐色土を少量含む。

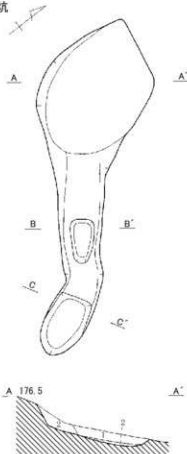
2号土坑



2号土坑 土層説明

- 1 明褐色土：しまりやや弱い、粘性弱い。暗褐色土を微量含む。
- 2 明黄褐色土：しまりやや弱い、粘性弱い。ハードロームブロック・YPを微量含む。

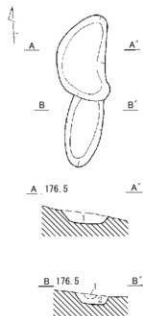
3号土坑



3号土坑 土層説明

- 1 黒褐色土：しまり弱い、粘性あり。ローム粒子（ ϕ 0.1 mm）を多量、炭化物粒（ ϕ 1～2 mm）を微量含む。
- 2 明黄褐色土：しまり強い、粘性あり。暗灰褐色土を均一に少量、炭化物粒（ ϕ 1 mm以下）を微量含む。

4号土坑

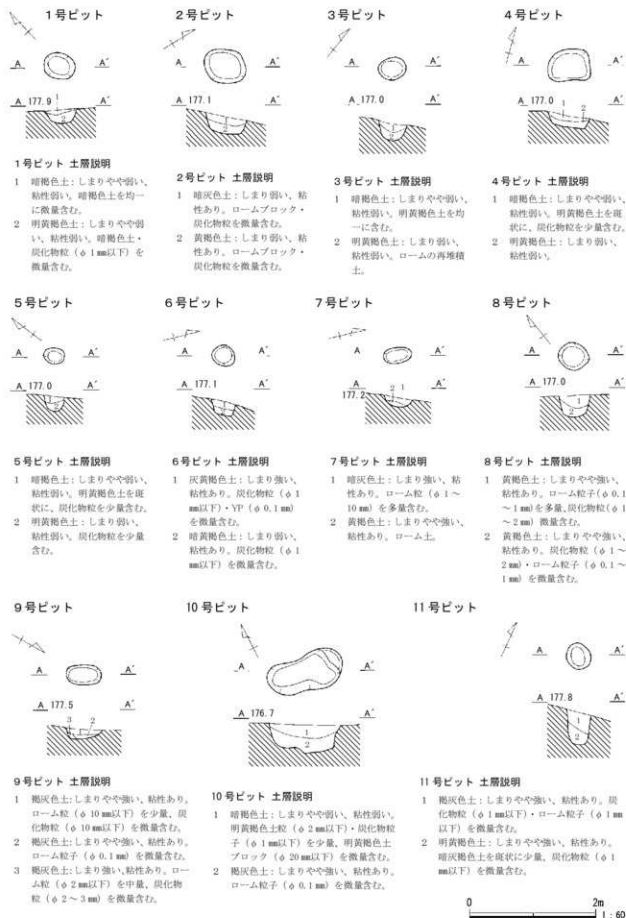


4号土坑 土層説明

- 1 褐灰色土：しまり強い、粘性あり。ローム粒（ ϕ 2～5 mm）を少量、炭化物粒（ ϕ 1～2 mm）を微量含む。
- 2 灰黄褐色土：しまり強い、粘性あり。YP・炭化物粒（ ϕ 0.1～2 mm）を微量含む。



図 62 1～4号土坑



0 2m 1:60

図 63 1～11号ビット

(3) 遺構外出土遺物 (図64、表10/写真図版74)

縄紋土器6点・石器5点が出土した。土器は小片ばかりで、早期後葉や中期後葉のものが認められる。図64の1・2は早期後葉の条痕紋系土器で、胎土中に繊維を含む。1は粗いヘラ状工具による刺突列で横位に区画し、区画内に同様の刺突列や角棒状工具による擦れた沈線が斜位に施す。茅山上層式に比定されよう。2は内外面共に横位の条痕を地紋とする。3は加曾目EⅢ式で、沈線で区画し、単節縄紋(LR)を充填する。なお、石器は石鏃・スクレイパー類・凹石等が見受けられた。

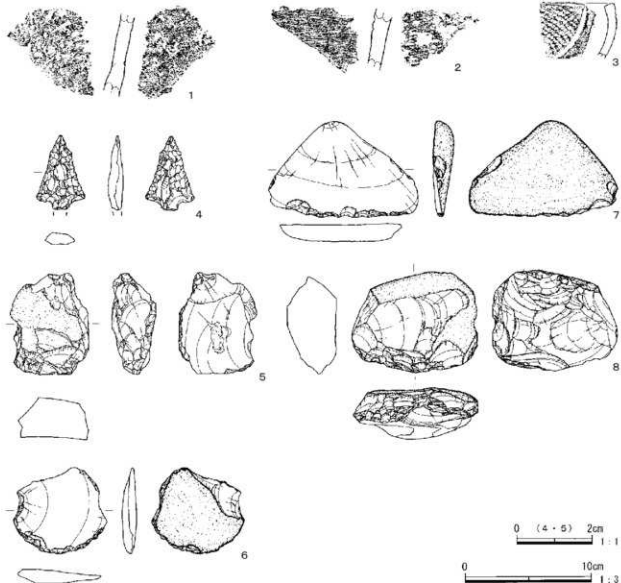


図64 遺構外出土遺物

表10 遺構外出土遺物観察表

4	石鏃	A. 残長1.95、幅1.3、厚さ0.42、重さ0.62。G. 黒曜石。凸基有茎。基端部欠損。H. 調査区西側。
5	楔形石器	A. 長さ2.7、幅2.1、厚さ1.18、重さ6.02。G. 黒曜石。風化面をもつ小型の楔形石器。両端部に打面有り。H. 調査区一括。
6	スクレイパー	A. 長さ6.88、幅7.45、厚さ1.15、重さ55.53。G. 頁岩。縄皮をもつ剥片の2側縁を直接打撃により片面加工。H. 調査区一括。
7	スクレイパー	A. 長さ7.62、幅11.82、厚さ1.7、重さ146.5。G. 安山岩。縄皮をもつ剥片の縁辺を直接打撃により片面加工。H. 調査区一括。
8	礮器	A. 長さ8.04、幅9.02、厚さ4.05、重さ365.72。G. 頁岩。割礮の3側縁を直接打撃により上部・右側縁部は片面加工、下部は両面加工を施し刃部を作出。H. 1号焼土集中土坑。

第6節 細木谷北遺跡A地点1区・2区

1 遺跡の概要 (図65・66)

細木谷北遺跡A地点は「女堀川」支流右岸の丘陵上にあり、この丘陵が小規模な沢によって浸食された開析谷の北東斜面に立地する。1区と2区に分かれ、2区は1区から約90m下方に位置する。

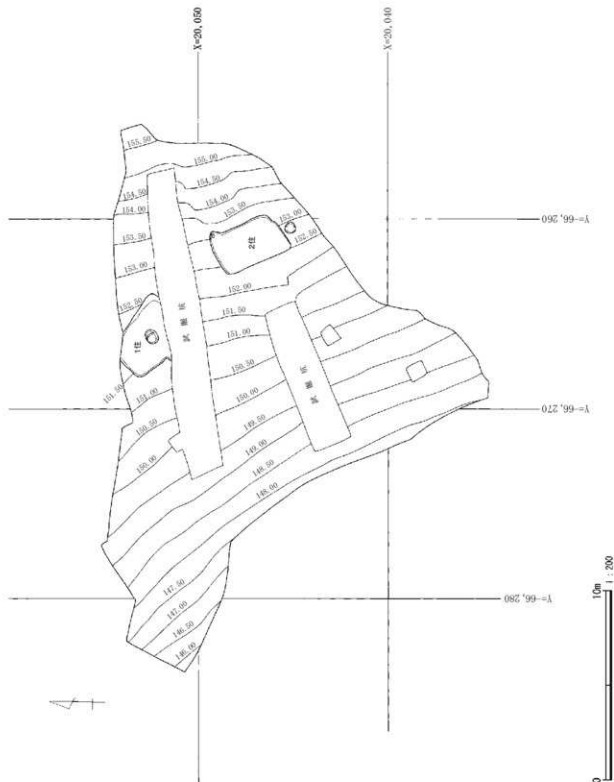


図65 細木谷北遺跡A地点1区全体図

1区の標高は146～155 mで、調査区内は北東から南西へ傾斜する。2区の標高は140～141 mで、調査区内は南東から北西へ緩やかに傾斜する。

検出された遺構は、1区で竪穴住居跡2軒、2区でピット2基である。竪穴住居跡は平安時代に帰属する。特筆すべき遺物として、2号住居跡から出土した銅製の鈎具が挙げられる。遺構外からは、縄紋土器や石器が出土している。縄紋土器は前期後～末葉のものが認められ、後葉の諸磯c式が大半を占める。

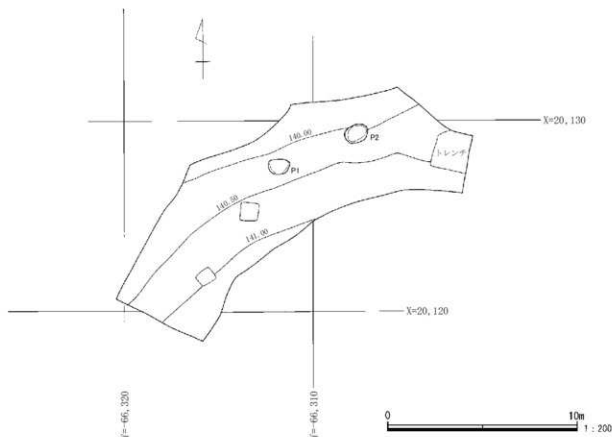


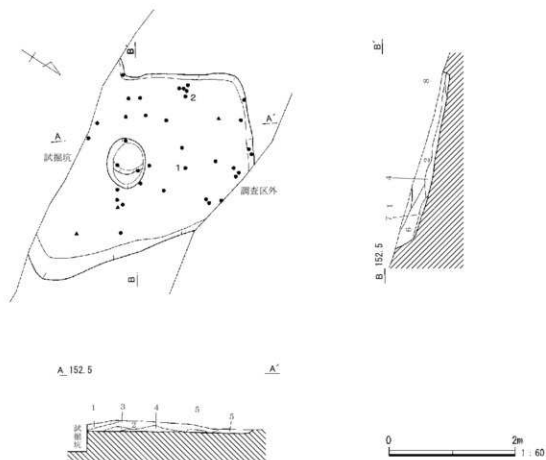
図 66 細木谷北遺跡A地点2区全体図

2 検出された遺構と遺物

(1) 竪穴住居跡

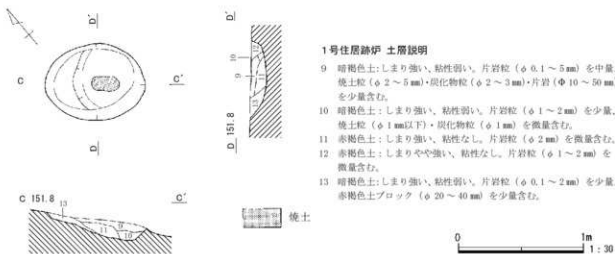
1号住居跡 (図 67・68、表 11 / 写真図版 12・74)

位置：1区中央北寄りに位置する。北側は調査区外にかかる。**形状・規模**：南側が試掘坑に壊されているが、平面形は横長長方形を呈すと推測される。規模は、確認された範囲では南西－北東軸2.49 mを測る。**主軸方位**：N-138°-W。**床面**：確認面からの深さは28 cmを測る。貼床はなく、床面はやや凹凸が見られる。住居中央に地焼炉が検出された。長径80 cm、短径60 cmの楕円形を呈する。**貯蔵穴**：なし。**柱穴**：なし。**カマド**：南西壁に設置される。燃焼部を壁外に造り出すが、試掘坑に壊されるため詳細は不明である。**遺物**：覆土中から土師器の甕、須恵器の高台付壇・甕・羽釜等の破片が少量出土した。**時期**：10世紀前半。



1号住居跡 土層説明

- 1 暗褐色土：しまり強い、粘性ややあり。片岩粒（ $\phi 1 \sim 2 \text{mm}$ ）を中量、焼土粒・炭化物粒（ $\phi 1 \text{mm}$ 以下）を微量含む。
- 2 暗褐色土：しまり強い、粘性ややあり。片岩粒（ $\phi 2 \sim 5 \text{mm}$ ）・焼土粒（ $\phi 2 \sim 5 \text{mm}$ ）を中量、炭化物粒（ $\phi 1 \sim 3 \text{mm}$ ）を少量含む。
- 3 暗褐色土：しまり強い、粘性あり。片岩粒（ $\phi 2 \sim 5 \text{mm}$ ）を少量、焼土粒・炭化物粒（ $\phi 1 \text{mm}$ 以下）を微量含む。
- 4 暗褐色土：しまりやや強い、粘性あり。片岩粒（ $\phi 1 \sim 2 \text{mm}$ ）・焼土ブロック（ $\phi 10 \text{mm}$ ）を少量、焼土粒・炭化物粒（ $\phi 1 \text{mm}$ 以下）を微量含む。
- 5 褐色土：しまり強い、粘性あり。片岩粒（ $\phi 10 \sim 20 \text{mm}$ ）を少量、焼土粒・炭化物粒（ $\phi 1 \text{mm}$ 以下）を微量含む。
- 6 暗褐色土：しまり強い、粘性あり。片岩粒（ $\phi 1 \sim 3 \text{mm}$ ）・焼土粒（ $\phi 5 \text{mm}$ ）を少量、炭化物粒（ $\phi 1 \sim 3 \text{mm}$ ）を微量含む。
- 7 黒褐色土：しまりやや強い、粘性ややあり。片岩を主体とし、黒褐色土を少量含む。
- 8 明褐色土：しまりやや強い、粘性ややあり。片岩粒（ $\phi 2 \sim 20 \text{mm}$ ）を中量含む。地山崩り過ぎ。



1号住居跡B 土層説明

- 9 暗褐色土：しまり強い、粘性弱い。片岩粒（ $\phi 0.1 \sim 5 \text{mm}$ ）を中量、焼土粒（ $\phi 2 \sim 5 \text{mm}$ ）・炭化物粒（ $\phi 2 \sim 3 \text{mm}$ ）・片岩（ $\phi 10 \sim 50 \text{mm}$ ）を少量含む。
- 10 暗褐色土：しまり強い、粘性弱い。片岩粒（ $\phi 1 \sim 2 \text{mm}$ ）を少量、焼土粒（ $\phi 1 \text{mm}$ 以下）・炭化物粒（ $\phi 1 \text{mm}$ ）を微量含む。
- 11 赤褐色土：しまり強い、粘性なし。片岩粒（ $\phi 2 \text{mm}$ ）を微量含む。
- 12 赤褐色土：しまりやや強い、粘性なし。片岩粒（ $\phi 1 \sim 2 \text{mm}$ ）を微量含む。
- 13 暗褐色土：しまり強い、粘性弱い。片岩粒（ $\phi 0.1 \sim 2 \text{mm}$ ）を少量、赤褐色土ブロック（ $\phi 20 \sim 40 \text{mm}$ ）を少量含む。

図 67 1号住居跡

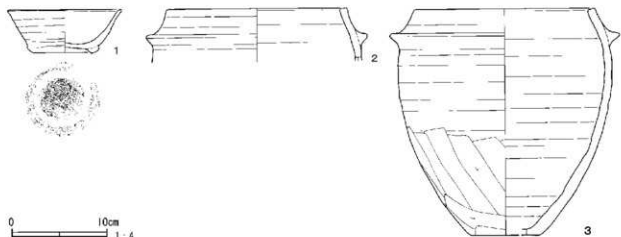


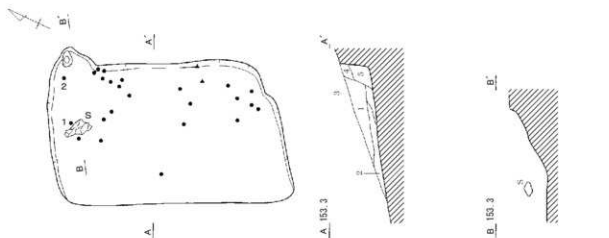
図 68 1号住居跡出土遺物

表 11 1号住居跡出土遺物観察表

1	須恵器 高台付埴	A. 口縁部径 11.9、器高 4.5、底部径 6.2。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。D. 白色粒。E. 外一にぶい黄褐色、内一にぶい黄褐色。F. 口縁部一部欠失。G. 酸化焼成。H. 覆土中。
2	須恵器 羽釜	A. 口縁部径 (19.0)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。D. 白色粒。E. 外一黄灰色、内一にぶい黄色。F. 口縁部部片。G. 酸化焼成。H. 覆土中。
3	須恵器 羽釜	A. 口縁部径 (19.0)、器高 23.9、底部径 (7.4)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。胴部外面下半ケズリ。D. 白色粒・黒色粒。E. 内外一灰黄褐色。F. 1/2。G. 酸化焼成。H. 1号住居跡付近。

2号住居跡 (図 69・70、表 12 / 写真図版 12・74)

位置：1区東側に位置する。形状・規模：土砂流失のため平面形は確定できないが、横長長方形を呈すと推測される。規模は、確認された範囲では南北軸 3.60 m を測る。主軸方位：N-67°-E。床面：確認面からの深さは 43 cm を測る。貼床はなく、床面はやや凹凸が見られる。貯蔵穴：なし。柱穴：なし。



2号住居跡 土層説明

- 1 暗褐色土：しまり強い、粘性あり。泥岩片を多量、焼土粒・炭化物粒を均一に含む。
- 2 暗褐色土：しまり強い、粘性あり。泥岩片を均一、焼土粒・焼土ブロック・炭化物粒を少量含む。
- 3 褐色土：しまり強い、粘性あり。泥岩片・炭化物粒を少量含む。
- 4 暗褐色土：しまり強い、粘性あり。泥岩片を多量、炭化物粒を微量含む。
- 5 褐色土：しまり強い、粘性あり。泥岩片を多量含む。

図 69 2号住居跡

カマド：北東壁の北コーナー部に設置される。燃焼部は幅56cm、奥行き36cmで壁外に造り出す。カマド前方に竊が出土しており、カマドの補強材として使用されていたものと推測される。遺物：カマドや覆土中から土師器の坏・甕・台付甕、須恵器の甕等の破片が少量出土した。土器以外では、鉸具と考えられる鋼製品が1点確認されている。時期：9世紀前半。

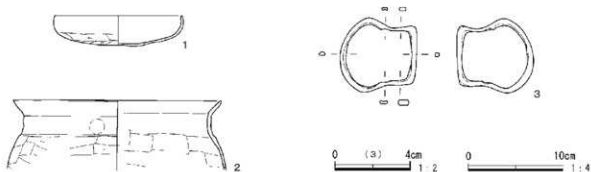


図70 2号住居跡出土遺物

表12 2号住居跡出土遺物観察表

1	土師器 坏	A. 口縁部径(13.3)。器高3.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面篋ナデ。底部指頭痕。D. 白色粒、黒色粒。E. 内外一橙色。F. 2/3。H. カマド内。
2	土師器 甕	A. 口縁部径(21.9)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面器ヨコナデ、指頭痕。胴部上位外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 白色粒、黒色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 口縁部～胴部上位1/4。H. カマド内。
3	鋼製品	A. 長さ3.9、幅4.0、厚さ0.3、重さ7.1。F. ほぼ完形。G. 鉸具か。H. 覆土中。

(2) ビット

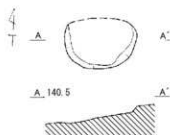
1号ビット (図71)

位置：2区中央に位置する。形状・規模：平面形は楕円形を呈する。長径1.13m、短径0.80m、深さ8cmを測る。覆土：不明。遺物：出土しなかった。時期：不明。

2号ビット (図71)

位置：2区北東側に位置する。形状・規模：平面形は楕円形を呈する。長径1.25m、短径0.96m、深さ42cmを測る。覆土：不明。遺物：出土しなかった。時期：不明。

1号ビット



2号ビット

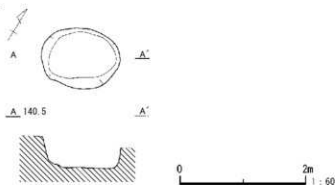


図71 1・2号ビット

(3) 遺構外出土遺物 (図72・73、表12/写真図版75)

縄紋土器 55 点・石器 9 点が検出された。1 区の北側から中央にかけて分布し、中央やや西寄りに集中する。土器は小片ばかりである。細別が判明するものには、前期後葉諸磯 b 式・諸磯 c 式・興津式、前期末葉が認められ、諸磯 c 式がほとんどを占める。図 72 の 1 は諸磯 b 式に比定され、器面荒れが著しい。平行沈線による横位区画および入組文を配し、横位沈線間にヘラ状工具によるキザミを加える。2～5 は諸磯 c 式で、胎土中に片岩を含むものがある。いずれも細い半截竹管状工具による集合

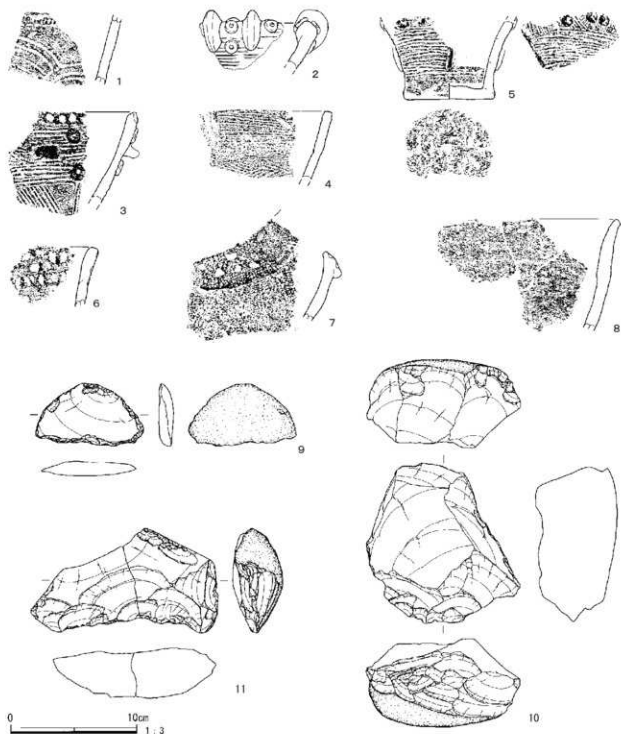


図72 遺構外出土遺物(1)

沈線を横位・縦位弧状・矢羽状に施す。2～4は耳状突起・ボタン状貼付紋等を付ける口縁部片であり、3の口唇下には刺突を加える。5は棒状・ボタン状貼付紋を伴う底部片で、底面に網代痕が残る。6は胎土中に片岩を含み、口縁部を指頭による押捺で満たす。興津式であろう。7は前期末葉に帰属し、胎土中に片岩を含む。波状口縁で口唇下が肥厚する。櫛歯状工具による刺突を地紋とし、肥厚部に三角形印刻を配す。8は細別不明の無文土器で、胎土中に片岩を含む。

石器は打製石斧・スクレイパー類・礫器・石核・剥片・磨石類・石皿・棒状礫が見受けられた。礫器が多く、10は大型を呈する。打製石斧はいずれも破損し、未成品も認められる。磨石は破損するものが多く、被熱しているものも見られた。

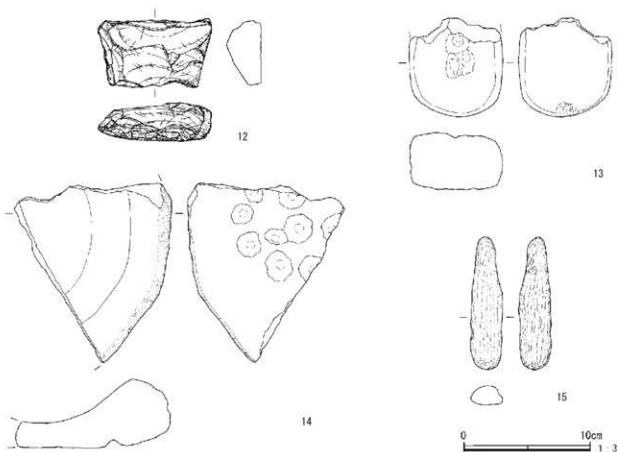


図73 遺構外出土遺物(2)

表13 遺構外出土遺物観察表

9	石器 スクレイパー	A. 長さ4.95、幅7.58、厚さ1.18、重さ56.3。G. 頁岩。礫皮をもつ剥片の周縁を直接打撃により片面加工。H. 1号住居跡。
10	石器 礫器	A. 長さ12.23、幅12.7、厚さ7.0、重さ1066.34。G. 砂岩。やや大型の割縁を直接打撃により左側面は両面加工、下部は片面加工。H. 調査区一括。
11	石器 礫器	A. 長さ8.3、幅14.85、厚さ4.0、重さ398.95。G. ホルンフェルス。やや大型の割縁を直接打撃により片面加工。2点の接合資料。H. 1号住居跡。H. 調査区一括。
12	石器 礫器	A. 長さ5.5、幅9.05、厚さ3.05、重さ196.66。G. 頁岩。自然礫の3側縁を直接打撃により片面加工を施し鈍角な刃部を作出。逆台形状。H. 調査区一括。
13	石器 磨石類	A. 残長7.8、幅7.4、厚さ4.5、残重367.3。G. 安山岩。自然礫の表面・裏面下に敲打による凹穴。全体に顕著な磨耗痕。凹一磨。欠損品。H. 調査区一括。
14	石器 石皿	A. 残長14.2、残幅12.4、残厚5.5、残重723.5。G. 安山岩。皿面は中央付近が浅く窪む。裏面に漏斗状の凹穴9箇所。欠損品。H. 調査区一括。
15	石器 棒状礫	A. 長さ10.5、幅2.6、厚さ2.5、重さ62.7。G. 緑色岩類。細長い棒状の自然礫。裏面・左側縁の一部に小さな敲打痕。H. 調査区一括。

第7節 細木谷北遺跡B地点1区・2区

1 遺跡の概要 (図74・75/写真図版13)

細木谷北遺跡B地点は「女堀川」支流右岸の丘陵上にあり、この丘陵が小規模な沢によって浸食された開析谷の南西斜面および低地部に立地する。調査区は斜面地の1区と低地部の2区に分かれて隣

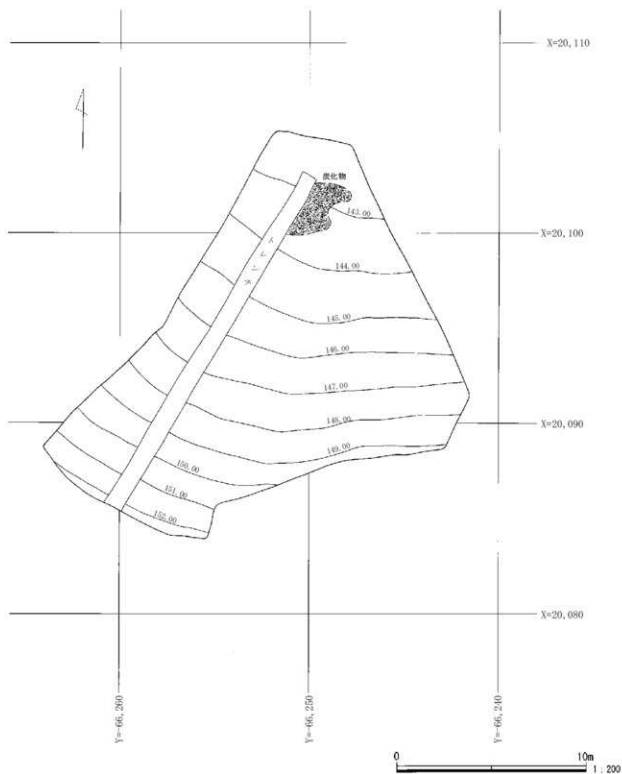


図74 細木谷北遺跡B地点1区全体図

接する。1区の標高は143～152mで、調査区内は南西から北東へ傾斜する。2区の標高は141.5～143.5mで、調査区内は南東から北西へ緩やかに傾斜する。

検出された遺構は、炭窯跡1基である。2区の南東端で、斜面に直交して検出された。時期は形状から近代と推測される。1区では標高の低い北東側で炭化物の広がりが確認できたものの、明確な遺構は検出されなかった。遺物は1・2区ともに出土していない。

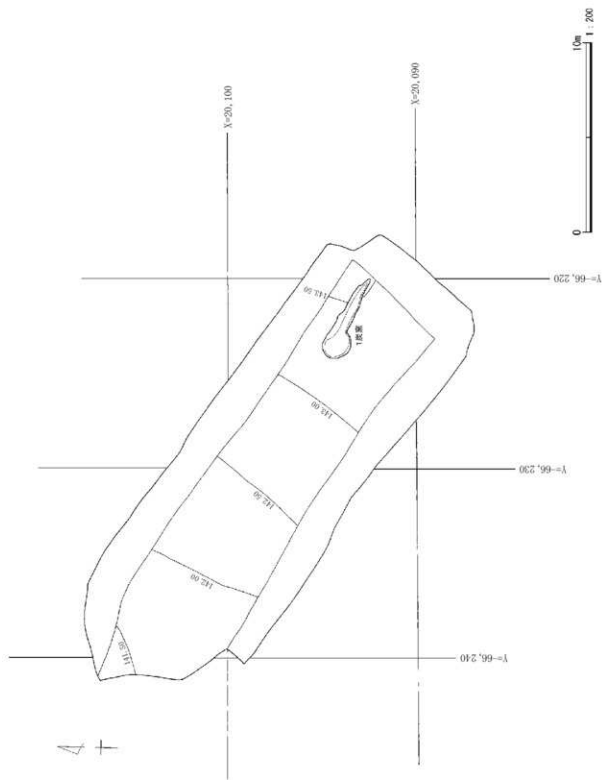


図 75 細木谷北遺跡B地点2区全体図

2 検出された遺構と遺物

(1) 炭窯跡

1号炭窯跡 (図76 / 写真図版13)

位置：2区南東端に位置する。**形状・規模**：北西に傾斜する斜面に対して直交して築かれる。規模は長さ4.32m、焼成部幅1.15m、煙道部幅0.38m、深さ10～14cmを測る。焼成部は円形状を呈する。**主軸方位**：N-64°-E。**床面**：焼成部の底面には炭化物が堆積しており、大きめの炭化材も多量に散在している。西側は焼土が分布し、壁面は熱により赤色化していた。**覆土**：不明。**遺物**：出土しなかった。**時期**：小型で円形を呈す形状から近代と推測される。

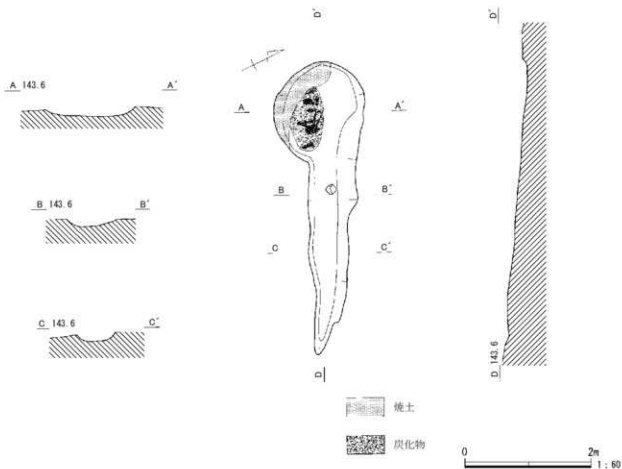


図76 1号炭窯跡

第8節 細木谷南遺跡

1 遺跡の概要（図77／写真図版13）

細木谷南遺跡は「女堀川」支流右岸の丘陵上にあり、この丘陵が小規模な沢によって浸食された開析谷の南西斜面に立地する。標高は148～154.5mで、調査区内は南西から北東へ傾斜する。

検出された遺構は、土坑4基であるが、遺物を伴わないため帰属時期は不明である。遺構外の遺物も出土しなかった。

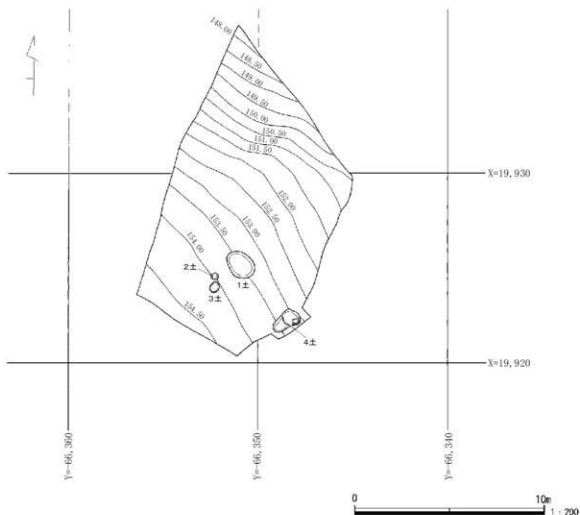


図77 細木谷南遺跡全体図

2 検出された遺構と遺物

(1) 土坑

1号土坑（図78／写真図版14）

位置：調査区中央より南側に位置する。形状・規模：平面形は楕円形を呈する。長径1.67m、短径1.24m、深さ24cmを測る。覆土：片岩粒・炭化物粒を含む明褐色土を主体としている。遺物：出土しなかつ

た。時期：不明。

2号土坑 (図78/写真図版14)

位置：調査区中央より南側に位置する。**形状・規模**：平面形は円形を呈する。長径0.41 m、短径0.39 m、深さ30 cmを測る。**覆土**：片岩粒・炭化物粒を含む明褐色土を主体としている。**遺物**：出土しなかった。**時期**：不明。

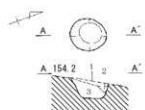
3号土坑 (図78/写真図版14)

位置：調査区中央より南側に位置する。**形状・規模**：平面形は円形を呈する。長径0.60 m、短径0.50 m、深さ28 cmを測る。**覆土**：片岩粒・炭化物粒を含む明褐色土を主体としている。**遺物**：出土しなかった。**時期**：不明。

4号土坑 (図78/写真図版14)

位置：調査区南東端に位置する。**形状・規模**：平面形は不整形円形を呈する。長径1.43 m、短径0.96 m、深さ30 cmを測る。**覆土**：淡黄色片・炭化物粒を含む明褐色土を主体としている。**遺物**：出土しなかった。**時期**：不明。

3号土坑



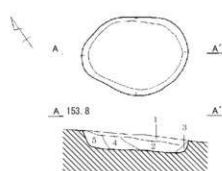
3号土坑 土層説明

- 1 暗褐色土：しまりやや弱い、粘性弱い、片岩粒 (ϕ 4 mm以下) を少量含む。色調は2層より暗い。
- 2 明褐色土：しまりやや弱い、粘性弱い、片岩粒 (ϕ 3 mm以下) を少量含む。
- 3 明褐色土：しまりやや弱い、粘性弱い、片岩粒 (ϕ 4 mm以下)・片岩塊 (ϕ 30 mm) を多量、炭化物粒 (ϕ 1 mm以下) を微量含む。

4号土坑 土層説明

- 1 明褐色土：しまりやや弱い、粘性弱い、淡黄色片 (ϕ 1~3 mm) を微量含む。
- 2 明褐色土：しまりやや弱い、粘性弱い、淡黄色片 (ϕ 1~3 mm) を少量含む。
- 3 明褐色土：しまりやや弱い、粘性弱い、淡黄色片 (ϕ 1~3 mm)・炭化物粒 (ϕ 1~5 mm) を微量含む。
- 4 明褐色土：しまりやや弱い、粘性弱い、淡黄色片 (ϕ 1 mm以下) を微量含む。
- 5 暗褐色土：しまりやや弱い、粘性弱い、炭化物粒 (ϕ 1~20 mm) を中量、淡黄色片 (ϕ 1~5 mm) を少量、炭化材を微量含む。
- 6 明褐色土：しまりやや弱い、粘性弱い、淡黄色片 (ϕ 1~3 mm) を微量含む。
- 7 暗褐色土：しまりやや弱い、粘性弱い、炭化物粒 (ϕ 1~5 mm) を少量含む。
- 8 明褐色土：しまりやや弱い、粘性弱い、炭化物粒 (ϕ 1~5 mm) を微量含む。

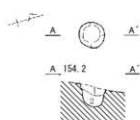
1号土坑



1号土坑 土層説明

- 1 暗褐色土：しまりやや弱い、粘性弱い、片岩粒 (ϕ 4 mm以下) を少量含む。色調は2層より暗い。
- 2 明褐色土：しまりやや弱い、粘性弱い、片岩粒 (ϕ 30 mm) を多量、炭化物粒 (ϕ 1 mm以下) を微量含む。
- 3 明褐色土：しまりやや弱い、粘性弱い、片岩粒 (ϕ 4 mm以下) を少量含む。色調は2層より暗く、1層より明るい。
- 4 明褐色土：しまりやや弱い、粘性弱い、ローム土ブロック (ϕ 20 mm以下) を少量、焼土粒 (ϕ 2 mm以下)・炭化物粒 (ϕ 1 mm以下) を微量含む。
- 5 明褐色土：しまりやや弱い、粘性弱い、片岩粒 (ϕ 4 mm以下)・片岩塊 (ϕ 30 mm) を少量、炭化物粒 (ϕ 1 mm以下) を微量含む。

2号土坑



2号土坑 土層説明

- 1 暗褐色土：しまりやや弱い、粘性弱い、片岩粒 (ϕ 4 mm以下) を少量含む。色調は2層より暗い。
- 2 明褐色土：しまりやや弱い、粘性弱い、片岩粒 (ϕ 4 mm以下)・片岩塊 (ϕ 30 mm) を多量、炭化物粒 (ϕ 1 mm以下) を微量含む。

4号土坑

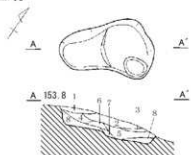


図78 1~4号土坑

第9節 山崎上ノ南遺跡A地点

1 遺跡の概要 (図79/写真図版15)

山崎上ノ南遺跡A地点は「女堀川」支流右岸の丘陵上にあり、この丘陵が小規模な沢によって浸食された開析谷の南西斜面に立地する。標高は143.5～153.5mで、調査区内は南西から北東へ傾斜する。

検出された遺構は、竪穴住居跡4軒、溝2条、土坑13基、ピット1基である。竪穴住居跡は平安時代に帰属し、概ね同時期の造営である。4軒の内3軒はほぼ同地点での建て替えとなる。3号土坑は炭焼窯と考えられ、斜面に対してほぼ直交するような形で造られている。時期は竪穴住居跡と同じ10世紀頃と思われ、周辺には同時期の土坑が散在する。なお、調査区南側に製鉄関連施設の存在が予想されたため、調査範囲を拡張した。明瞭な遺構は検出されなかったものの、羽口や鉄滓が出土したことから、小鍛冶等の可能性は十分に考えられる。また、覆土にYPを含む土坑が検出されており(11～13号土坑)、縄紋時代に帰属する可能性がある。

遺物は、平安時代の土師器・須恵器・灰釉陶器が大半を占める。遺構外からは縄紋時代前期中～後葉・中期後葉および縄紋時代晩期終末～弥生時代初頭に想定される土器片が出土している。

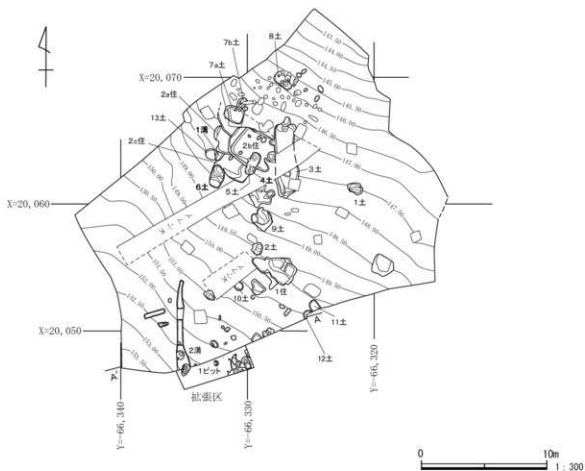


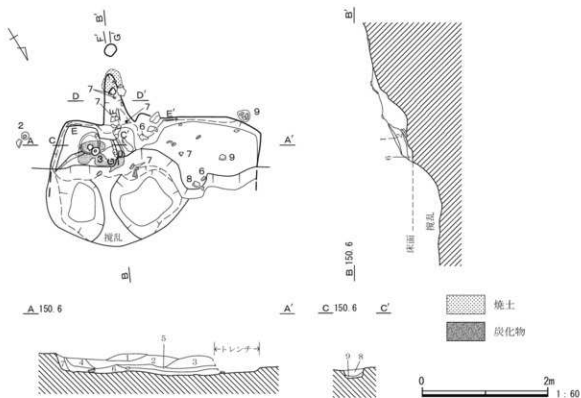
図79 山崎上ノ南遺跡A地点全体図

2 検出された遺構と遺物

(1) 竪穴住居跡

1号住居跡 (図 80 ~ 82、表 14 / 写真図版 15・16・76)

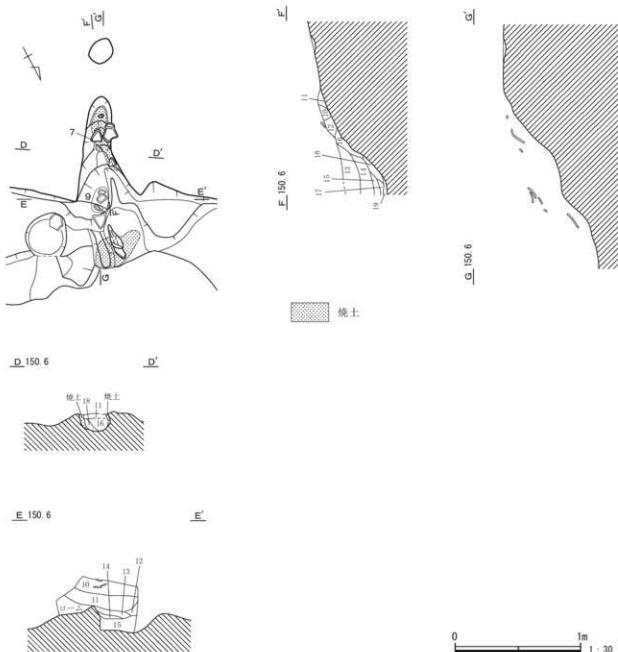
位置: 調査区中央南寄りに位置する。**重複:** 北東部が攪乱によって壊されている。**形状・規模:** 土砂流出のため平面形は確定できない。規模は、確認された範囲では東西軸 3.20 m を測る。**主軸方位:** N-149°-W。**床面:** 確認面からの深さは 28 cm を測る。貼床はなく、やや凹凸が見られる。床面上には、特にカマド手前から左側にかけて炭化物・焼土が多く分布している。**貯蔵穴:** カマド手前左側、炭化物・焼土の下から検出された。長径 34 cm、短径 30 cm の円形を呈し、深さ 14 cm を測る。**柱穴:** 不明。**カマド:** 南壁東寄りに設置される。燃烧部は幅 40 cm、奥行き 80 cm を測り、楕円形状に壁外に造り出す。煙道は先端と思われる部分に焼土を確認しており、それを含めると長さ約 1 m を測る。**遺物:** カマドおよび周辺部から灰陶陶器塊、須恵器高台付塊・甌・羽釜、鉄滓等の破片が出土した。**時期:** 10 世紀前半。



1号住居跡 土層説明

- 1 黒褐色土: しまり弱い、粘性弱い。ローム粒 (φ 1~2mm)・As-B を少量含む。
- 2 暗灰褐色土: しまりやや弱い、粘性弱い。炭化物粒 (φ 1~2mm)・YP を少量、焼土粒を微量含む。
- 3 暗褐色土: しまり弱い、粘性やや強い。炭化物粒 (φ 1~2mm)・YP を少量含む。
- 4 暗褐色土: しまり弱い、粘性弱い。ローム粒 (φ 1~2mm) を中量、YP を少量含む。
- 5 暗褐色土: しまり強い、粘性弱い。炭化物粒 (φ 1~2mm) を少量含む。
- 6 灰褐色土: しまり弱い、粘性弱い。炭化物粒 (φ 2~3mm) を中量、ローム粒 (φ 1~2mm) を少量、焼土粒を微量含む。
- 7 黄褐色土: しまり弱い、粘性弱い。ロームの再堆積層。
- 8 明赤褐色土: しまり強い、粘性ない。炭化物 (φ 5~20mm)・焼土粒 (φ 1mm) を多量、焼土ブロック (φ 10mm)・ロームブロック (φ 20mm) を若干含む。
- 9 明灰褐色土: しまりやや弱い、粘性ややあり。炭化物粒 (φ 2mm)・焼土粒 (φ 1mm)・炭化物 (10cm) を少量含む。

図 80 1号住居跡



1号住居跡カマド 土層説明

- 10 明褐色土：しまり弱い、粘性ややあり。焼土粒（φ 20 mm）・ローム粒（φ 1 mm）を少量含む。
- 11 明褐色土：しまり強い、粘性ややあり。焼土粒（φ 20～30 mm）を多量、炭化物粒（φ 5～10 mm）・ローム粒（φ 5 mm）を少量含む。
- 12 明褐色土：しまり強い、粘性ややあり。焼土粒（φ 20 mm）を多量、炭化物粒（φ 10 mm）・ロームブロック（φ 10 mm）を少量含む。
- 13 明褐色土：しまりやや強い、粘性ない。炭化物粒（φ 1 mm）・白色粒を少量含む。
- 14 明褐色土：しまりやや強い、粘性ややあり。炭化物粒（φ 5～10 mm）を多量、暗褐色土粒（φ 1 mm）を少量、白色粒を微量含む。
- 15 暗褐色土：しまり強い、粘性ややあり。焼土ブロック（φ 20～50 mm）を多量、炭化物粒（φ 1～5 mm）を少量、白色粒を微量含む。
- 16 暗褐色土：しまり強い、粘性ややあり。焼土ブロック（φ 50 mm）・炭化物粒（φ 2～3 mm）を少量、白色粒・ロームブロック（φ 30 mm）を微量含む。
- 17 暗褐色土：しまり強い、粘性ややあり。焼土ブロック（φ 20 mm）・炭化物を多量含む。
- 18 明黄褐色土：しまり強い、粘性あり。炭化物粒（φ 1 mm）を多量含む。
- 19 暗赤褐色土：しまり強い、粘性ややあり。焼土ブロック（φ 5～10 mm）・炭化物を多量、白色粒を微量含む。

図 81 1号住居跡カマド

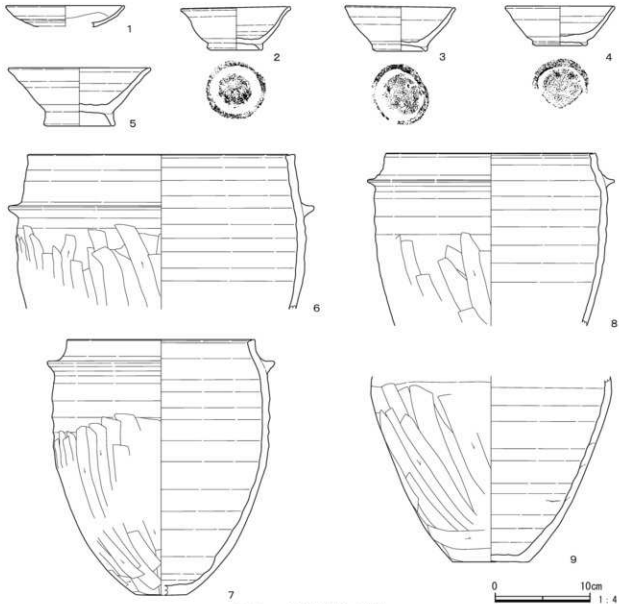


図 82 1号住居跡出土遺物

表 14 1号住居跡出土遺物観察表

1	灰軸陶器 埴	A. 口縁部径 (12.4)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。軸葉漬け掛け。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一灰色、内一灰黄色。F. 口縁部～体部 1/4。H. 覆土中。
2	須恵器 高台付埴	A. 口縁部径 11.3、器高 4.6、底部径 5.2。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部右回転糸切り。D. 黒色粒、白色粒、褐色粒。E. 内外一暗灰黄色。F. 完形。G. 酸化焙焼成。H. 住居付近。
3	須恵器 高台付埴	A. 口縁部径 11.4、器高 4.8、底部径 5.1。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部右回転糸切り。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一灰褐色、内一灰黄褐色。F. 完形。G. 酸化焙焼成。H. 覆土中。
4	須恵器 高台付埴	A. 口縁部径 (11.4)、器高 4.2、底部径 5.0。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部右回転糸切り。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一灰色、内一黄灰色。F. 2/3。G. 酸化焙焼成。H. 覆土中。
5	須恵器 高台付埴	A. 口縁部径 15.0、器高 6.2、底部径 7.0。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。D. 黒色粒、白色粒、褐色粒。E. 外一にぶい黄褐色、内一灰黄褐色。F. 1/2。G. 酸化焙焼成。H. 覆土中。
6	須恵器 甕	A. 口縁部径 (28.0)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。外面胴部筵ケズリ。D. 黒色粒、白色粒、褐色粒。E. 内外一にぶい橙色。F. 口縁部～胴部上位 1/3。G. 酸化焙焼成。H. 覆土中。
7	須恵器 羽釜	A. 口縁部径 (19.6)、器高 27.0、底部径 (5.2)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。外面胴部下位～底部筵ケズリ。D. 白色粒、褐色粒、鐵。E. 外一褐色、内一灰黄褐色。F. 2/5。H. 床面下面直上、カマド内。
8	須恵器 羽釜	A. 口縁部径 (22.0)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。外面胴部下位筵ケズリ。D. 黒色粒、白色粒、褐色粒。E. 外一暗黄灰色、内一にぶい黄褐色。F. 口縁部～胴部下位 1/8。H. 覆土中。
9	須恵器 羽釜	A. 底部径 (8.0)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。外面胴部下位～底部筵ケズリ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一灰色、内一黄灰色。F. 胴部上位～底部 1/4。H. カマド内。

2a号住居跡（図83～85、表15／写真図版16・76）

位置：調査区北側に位置する。**重複：**2b・2c号住居跡、1号溝、5号土坑と重複し、それら全ての遺構より本住居跡の方が新しい。**形状・規模：**土砂流出のため平面形は確定できない。規模は、確認された範囲では東西軸2.80 mを測る。西壁は崩落しており、破線部分が壁の位置と考えられる。**主軸方位：**N-69°-W。**床面：**確認面からの深さは12 cmを測る。東壁寄りに円形の被熱面があり、繋がるような状態で3カ所検出した。非常に硬くしまっており高温を用いた作業が行われていたものと推定できる。**貯蔵穴：**不明。**柱穴：**なし。**カマド：**西壁南寄りに設置される。残存状態は悪く、形状・規模等不明であるが、燃焼部と思われる焼土を確認しており、燃焼部は壁外に造り出す形状と考えられる。**遺物：**カマドや覆土中から須恵器坏・羽釜・壺の破片が出土した。**時期：**10世紀前半。

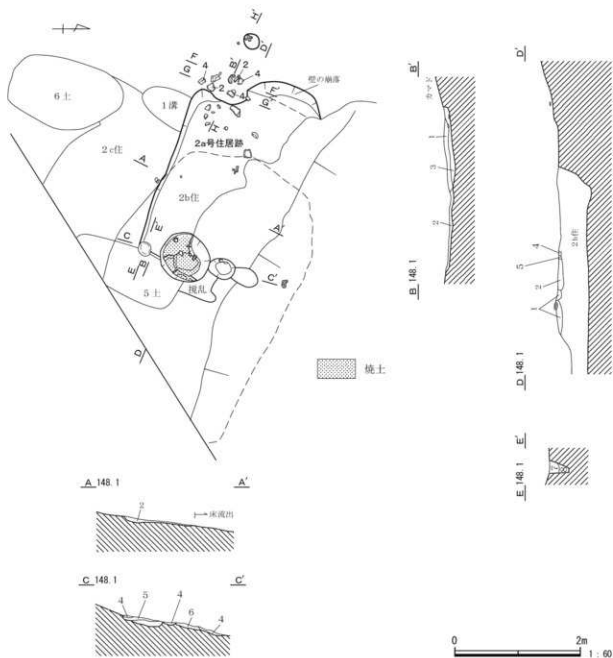


図83 2a号住居跡

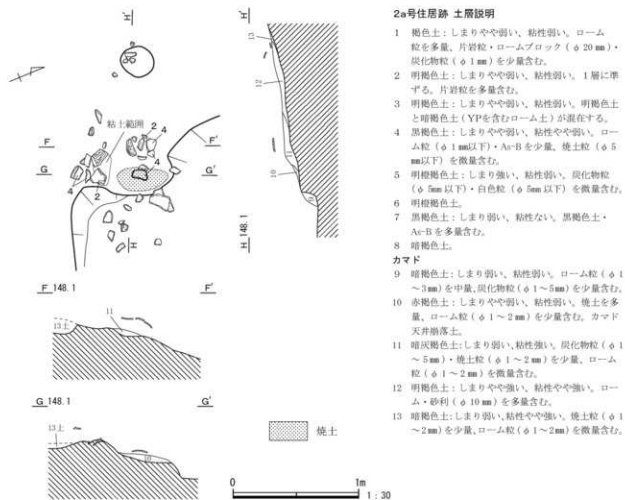


図84 2a号住居跡カマド

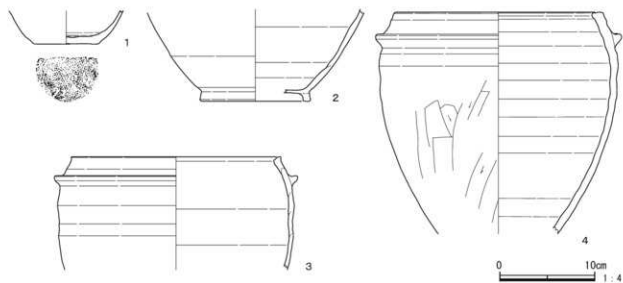


図85 2a号住居跡出土遺物

表 15 2a号住居跡出土遺物観察表

1	須恵器 環	A. 底部径 6.6。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部右回転糸切り。D. 黒色粒、白色粒、褐色粒。E. 外一褐色、内一にぶい黄褐色。F. 体部～底部 1/2。G. 酸化焙焼成。H. 覆土中。
2	須恵器 釜	A. 底部径 (11.4)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一にぶい黄褐色、内一灰黄色。F. 胴部下位～高台部 1/3。G. 酸化焙焼成。H. 床面下面直上、カマド内。
3	須恵器 羽釜	A. 口縁部径 (22.0)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。D. 黒色粒、白色粒、褐色粒。E. 外一灰黄褐色、内一にぶい褐色。F. 口縁部～胴部中位 1/4。H. 覆土中。
4	須恵器 羽釜	A. 口縁部径 (21.5)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。外面胴部下位逸ケズリ。D. 黒色粒、白色粒、褐色粒。E. 外一灰黄褐色、内一にぶい黄褐色。F. 口縁部～胴部下位 1/4。H. カマド内。

2b号住居跡 (図 86～88、表 16 /写真図版 16・17・76)

位置: 調査区北側に位置する。**重複:** 2a・2c号住居跡、3～5号土坑と重複する。本住居跡覆土上面で2a号住居跡の床面および5号土坑を確認していること、トレンチ断面で3号土坑の底面下に本住居跡のカマド関係の焼土を確認していることから、これらより本住居跡が古い。2c号住居跡、4号土坑との新旧関係は不明である。**形状・規模:** 南東部に試掘時のトレンチがあるため、壁とカマドの一部が確認できない。また、北東部は土砂流出のため、周溝よって範囲が確認できるのみであり、北西部の壁も崩落している。平面形はやや歪んだ長方形を呈する。確認された範囲では長軸 3.50 m、短軸 2.90 m を測る。**主軸方位:** N-116°-E。**床面:** 確認面からの深さは、残存状態の良い南東部で 50 cm を測る。暗褐色土を埋め戻した貼床で、ほぼ平坦に作られている。**壁溝:** 東壁を除いて巡る。幅 12～16 cm、深さ 10 cm を測る。**貯蔵穴:** 不明。**ピット:** 6基を検出した。P1は長径 48 cm、短径 25 cm の楕円形を呈し、深さ 32 cm、P2は長径 32 cm、短径 28 cm の円形を呈し、深さ 17 cm、P3は長径 21 cm、短径 19 cm の円形を呈し、深さ 18 cm、P4は長径 42 cm、短径 22 cm の楕円形を呈し、深さ 25 cm、P5は長径 46 cm、短径 38 cm の円形を呈し、深さ 28 cm、P6は長径 29 cm、短径 26 cm の円形を呈し、深さ 26 cm を測る。**カマド:** 東壁中央に設置される。壁外に造り出しているがトレンチに切れ構造は明らかではない。カマド右袖が残存しており、壁内に造り付けている。左側は土砂流出もしくは、重複する3号土坑に壊された可能性がある。燃焼部に径約 85 cm、深さ 18 cm の円形の掘り方を検出した。**遺物:** カマドから須恵器高台付壺・甕・羽釜の破片、カマド袖上から鉄滓が出土した。**時期:** 10 世紀前半。

2c号住居跡 (図 86・89、表 17 /写真図版 17)

位置: 調査区北側に位置する。**重複:** 2a・2b号住居跡、4～6号土坑、1号溝と重複するが、新旧関係は不明である。**形状・規模:** 土砂流出や2b号住居跡との重複のため、平面形は確定できない。規模は、確認された範囲では東西軸 2.75 m を測る。**主軸方位:** 東西軸は N-121°-E を測る。**床面:** 確認面からの深さは 40 cm を測る。確認した範囲の床面は平坦で整っている。**貯蔵穴:** 不明。**カマド:** 不明。**遺物:** 覆土から須恵器羽釜、灰陶器碗の破片が出土しているが、2b号住居跡の土器と接合するものもあり本住居跡に伴うかは不明である。**時期:** 10 世紀前半。

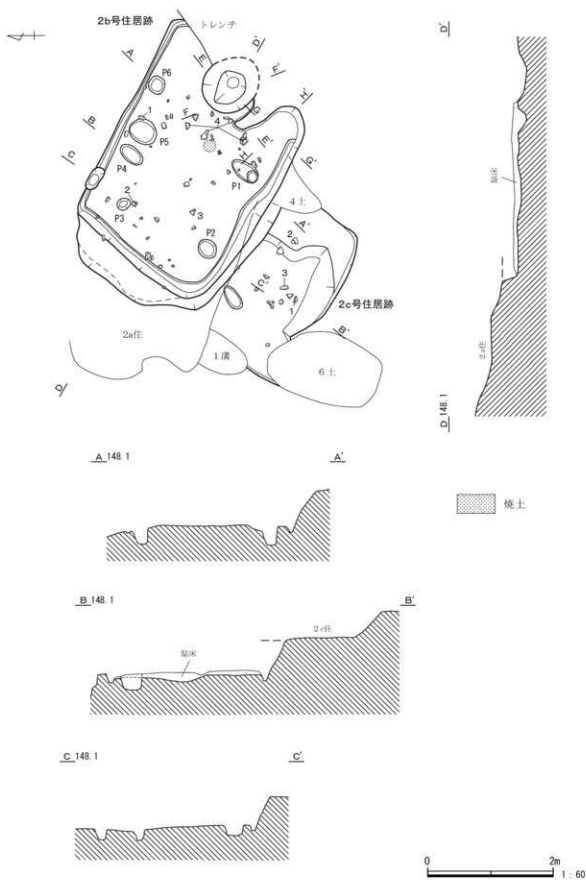
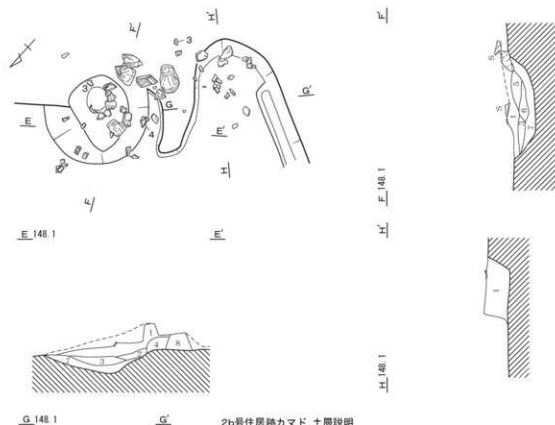


図 86 2b・2c号住居跡



2b号住居跡カマド 土層説明

- 1 暗黄褐色土：しまりあり、粘性強い。黒褐色土・酸化鉄を少量、炭化物粒（ $\phi 1\text{mm}$ 以下）を微量含む。
- 2 黒褐色土：しまりややあり、粘性強い。ローム粒・焼土粒・炭化物粒（ $\phi 1\text{mm}$ 以下）を微量含む。
- 3 暗赤褐色土：しまりややあり、粘性強い。焼土粒（ $\phi 1\text{mm}$ ）を少量、炭化物粒（ $\phi 1\text{mm}$ 以下）を微量含む。
- 4 暗褐色土：しまりややあり、粘性あり。ローム粒（ $\phi 1\text{mm}$ ）を少量、炭化物粒（ $\phi 1\text{mm}$ 以下）を微量含む。
- 5 赤褐色土：しまり弱い、粘性強い。明褐色土を中量、炭化物粒・焼土粒（ $\phi 1\text{mm}$ 以下）を微量含む。
- 6 赤褐色土：しまりやや弱い、粘性あり。炭化物粒（ $\phi 1\text{mm}$ 以下）・焼土粒（ $\phi 1\text{mm}$ ）を少量含む。
- 7 暗黄灰褐色土：しまりあり、粘性あり。赤褐色土を少量含む。
- 8 暗灰褐色土：しまり強い、粘性あり。ローム粒（ $\phi 1\text{mm}$ 以下）を少量、焼土粒・炭化物粒・酸化鉄粒（ $\phi 1\text{mm}$ ）を微量含む。

図 87 2b号住居跡カマド

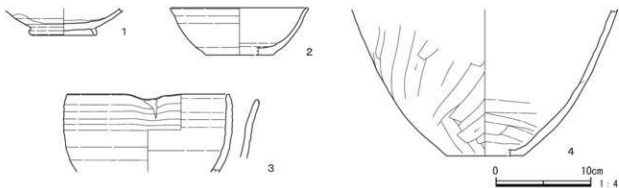


図 88 2b号住居跡出土遺物



図 89 2c号住居跡出土遺物

表 16 2b号住居跡出土遺物観察表

1	灰軸陶器 埴	A. 底部径 6.5. B. ロクロ成形. C. 内外面回転ナデ. 底部回転ナデ. 軸は潰掛け. D. 黒色粒、白色粒. E. 内外一灰白色. F. 体部～高台部残存. H. 覆土中.
2	須恵器 坏	A. 口縁部径 (14.4)、器高 5.0、底部径 (7.0). B. ロクロ成形. C. 内外面回転ナデ. 底部回転系切り. D. 黒色粒、白色粒、褐色粒. E. 内外一褐灰色. F. 1/4. G. 酸化塩焼成. H. 覆土中.
3	須恵器 片口鉢	A. 口縁部径 (17.0). B. ロクロ成形. C. 内外面回転ナデ. D. 黒色粒、白色粒、褐色粒. E. 外一橙色、 内一明赤褐色. F. 口縁部～体部中位 1/4. G. 酸化塩焼成. H. カマド内、覆土中.
4	須恵器 羽釜	A. 底部径 (8.0). B. ロクロ成形. C. 内外面回転ナデ. 外面胴部下位～底部篋ケズリ. 内面篋ナデ. D. 黒 色粒、白色粒、褐色粒. E. 内外一灰褐色. F. 胴部中位～底部 1/4. H. カマド内、覆土中.

表 17 2c号住居跡出土遺物観察表

1	灰軸陶器 埴	A. 底部径 (8.0). B. ロクロ成形. C. 内外面回転ナデ. 底部回転ナデ. 軸は潰掛け. D. 黒色粒、白色粒. E. 外一灰白色、内一灰オリーブ色. F. 体部下位～高台部 1/3. H. 床面直上.
2	須恵器 甕	A. 底部径 (14.0). B. ロクロ成形. C. 内外面回転ナデ. 胴部下位～底部篋ケズリ. D. 白色粒、石英. E. 外一灰色、内一黄灰色. F. 胴部下位～底部 1/5. G. 還元塩焼成. H. 床面直上.

(2) 土坑

1号土坑 (図 90 / 写真図版 18)

位置: 調査区東側に位置する。**形状・規模:** 平面形は壁が崩れたような不整形な状態であるが、底面の形状は隅丸長方形に近い形態を呈す。長径 1.23 m、短径 0.84 m、深さ 30～35 cm を測る。底面に深さ 20 cm のビットが存在する。**覆土:** ロームブロックや焼土粒・炭化物粒を含む明褐色土を主体としている。**遺物:** 土師器甕の口縁部破片が出土した。**時期:** 7～8 世紀。

2号土坑 (図 90 / 写真図版 18)

位置: 調査区中央やや南寄りに位置する。**形状・規模:** 平面形はやや不整形な円形を呈する。長径 0.98 m、短径 0.80 m、深さ 45 cm を測る。**覆土:** ローム粒・炭化物粒を含む黒褐色土を主体としている。**遺物:** 出土しなかった。**時期:** 不明。

3号土坑 (図 91・92 / 写真図版 18)

位置: 調査区中央に位置する。周辺には 2a・2c 号住居跡や土坑等が集中している。**重複:** 2b 号住居跡と重複し、本土坑が新しい。**形状・規模:** 平面形はやや不整形な長方形を呈し、斜面に対して直角に近い状態で築かれている。長径 5.67 m、短径 1.70 m を測る。深さは残存状態の良い南側で 38 cm を測る。北側は土砂流出のため 10 cm 程度である。**長軸方位:** N-0°。**覆土:** 全体的に炭化物粒を多く含んでいる。堆積土層の 7 層は底面近くの層であるが、ここからは 2～5 cm 程の炭化材を多く含み、斜面下位の 9～12 層は炭化物粒を主体とする層である。**遺物:** 弥生土器の破片、須恵器高台付埴・

羽釜の破片が少量出土した。**時期**:不明であるが、概ね集落の時期と同じ10世紀頃と思われる。**所見**:本土坑は炭焼窯と考えられるが、残存状態は悪く天井部の崩落と思われるような土層も見られず、焚口や煙道等も構造は不明である。しかし、斜面下位の焚口側と考えられる底面には被熱した痕跡が見られる。

4号土坑 (図93・97、表18)

位置:調査区中央に位置する。**重複**:2b・2c号住居跡および5号土坑と重複し、5号土坑より古いことを確認したが、2b・2c号住居跡との新関係は不明である。**形状・規模**:5号土坑の下に造られており、南側の壁一部を確認したのみで形状・規模等は不明である。**覆土**:ローム粒を少量含む暗褐色土を主体としている。**遺物**:須恵器環・羽釜の破片が少量出土した。**時期**:10世紀。

5号土坑 (図93・97、表18)

位置:調査区中央に位置する。**形状・規模**:平面形は長方形を呈する。長径1.86m、短径0.82mを測る。深さは残りの良い北東部で10cmを測る。**長軸方位**:N-20°-E。**覆土**:ローム粒・炭化物粒を含む明褐色土を主体としている。上層に4~30cmの炭化材が出土した。**遺物**:土師器甕、須恵器高台付埴・羽釜の破片が少量出土した。**時期**:10世紀。

6号土坑 (図93)

位置:調査区中央に位置する。**重複**:2c号住居跡と重複するが、新旧関係は不明である。**形状・規模**:平面形は、2c号住居跡との重複部分で共に形態が歪んでおり不明瞭であるが、南側は楕円形に近い形態を呈する。長径1.05m、短径0.60m、深さ40cmを測る。**長軸方位**:N-15°-E。**覆土**:焼土粒・炭化物粒・ローム粒を含む明黄色土を主体としている。**遺物**:土師器甕、須恵器羽釜の破片が少量出土した。**時期**:10世紀。

7号土坑 (図94・97、表18/写真図版19)

位置:調査区北側に位置する。**形状・規模**:平面形は7a号土坑はやや不整形な長方形、7b号土坑は楕円形を呈する。7aは長径1.54m、短径1.30mを測る。7bは7aに切られており長径は不明だが、短径は6.60mを測る。深さは7aで52cm、7bで40cmを測る。**長軸方位**:7aはN-70°-W、7bはN-39°-E。**覆土**:焼土粒・炭化物粒・YP粒子を含む。7aは堆積状況から人為的な埋め戻しの可能性が考えられる。**遺物**:焼成前に線刻の施された須恵器羽釜の胴部破片、片岩等が出土した。**時期**:10世紀。

8号土坑 (図95/写真図版19)

位置:調査区北側に位置する。**形状・規模**:平面形は不整形な楕円形に近い形態を呈する。長径1.65m、短径0.80m、深さ25cmを測る。**長軸方位**:N-42°-W。**覆土**:炭化物粒・YP粒子を含む暗灰褐色土を主体としている。**遺物**:出土しなかった。**時期**:不明。

9号土坑 (図 95)

位置: 調査区中央に位置する。**形状・規模:** 平面形は不整形を呈する。長径 1.65 m、短径 1.42 m、深さ 48 cm を測る。**覆土:** 炭化物粒を微量に含む暗褐色土を主体としている。**遺物:** 出土しなかった。**時期:** 不明。

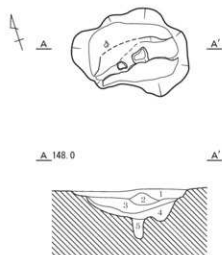
10号土坑 (図 95)

位置: 調査区南西側に位置する。**形状・規模:** 平面形は、試掘トレンチによって北西側を壊されているが、ほぼ円形を呈する。確認された範囲では長径 0.66 m、短径 0.63 m、深さ 18 cm を測る。**覆土:** 炭化物粒・焼土粒を含む暗黄灰褐色土を主体とする。**遺物:** 須恵器羽釜の破片が少量出土した。**時期:** 10 世紀。

11号土坑 (図 95)

位置: 調査区南端に位置する。南側は調査区域外となる。**形状・規模:** 平面形は隅丸長方形に近い形態を呈すと推測される。確認された範囲では長径 0.84 m、短径 0.72 m、深さ 29 cm を測る。**覆土:** YP やロームブロックを含む暗褐色土を主体としている。**遺物:** 出土しなかった。**時期:** 不明。

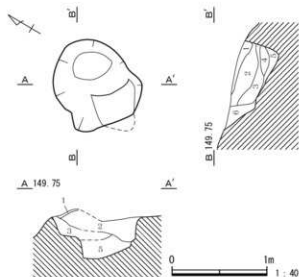
1号土坑



1号土坑 土層説明

- 1 明褐色土: しまり弱い、粘性やや強い。ロームブロック (φ 5 ~ 10 mm) を多量、黒褐色土ブロック (φ 10 mm) を少量、炭化物粒を微量含む。
- 2 明褐色土: しまり弱い、粘性やや強い。炭化物粒・ローム粒 (φ 5 mm 以下) を少量、焼土粒を微量含む。
- 3 暗褐色土: しまり弱い、粘性強い。ロームブロック (φ 10 ~ 30 mm) を多量、炭化物粒 (φ 5 ~ 20 mm)・黒褐色土ブロック (φ 5 mm) を微量含む。
- 4 黄褐色土: しまりやや強い、粘性強い。
- 5 明褐色土: しまり弱い、粘性やや強い。ロームブロック (φ 30 ~ 50 mm)・ローム粒 (φ 1 mm) を多量、焼土を微量含む。

2号土坑



2号土坑 土層説明

- 1 明褐色土: しまりやや強い、粘性やや弱い。YP 粒子を多量、ローム粒を少量含む。
- 2 黒褐色土: しまりあり、粘性やや強い。炭化物粒を多量、ローム粒を少量含む。
- 3 明褐色土: しまりやや弱い、粘性あり。ローム粒を多量、炭化物粒・YP 粒子を少量含む。ロームブロック (φ 20 ~ 30 mm) を微量含む。
- 4 黒褐色土: しまりやや弱い、粘性やや弱い。炭化物粒・YP 粒子・ロームブロック (φ 10 ~ 30 mm) を多量含む。
- 5 暗黄褐色土: しまりやや弱い、粘性あり。ローム粒を多量、炭化物粒を少量含む。
- 6 暗黄褐色土: しまり強い、粘性あり。炭化物ロームの再堆積層。

図 90 1・2号土坑

3号土坑

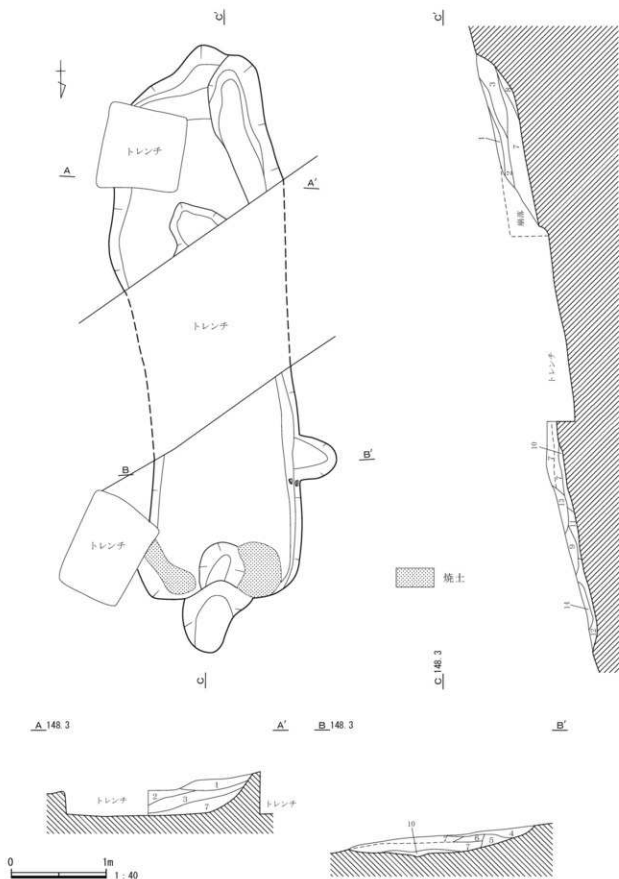


図91 3号土坑

3号土坑 土層説明

- 1 灰褐色土：しまり弱い、粘性なし、YP粒子を多量、ローム粒（ ϕ 0.1mm）を少量含む。
- 2 暗褐色土：しまりやや弱い、粘性弱い。YP粒子を中量含む。
- 3 暗褐色土：しまりやや弱い、粘性弱い。YP粒子・暗褐色ロームブロック・小ブロックを中量含む。
- 4 暗褐色土：しまりやや弱い、粘性弱い。2層に準ずる。炭化物（ ϕ 5mm）を微量含む。
- 5 暗褐色土：明黄褐色土粒を多量、炭化物粒（ ϕ 1mm）を中量含む。
- 6 暗褐色土：4層に準ずる。壁崩落堆積土。
- 7 暗褐色土：しまりやや弱い、粘性弱い。炭化材（ ϕ 50mm、表皮の残るものが多い）・炭化材（ ϕ 5～20mm）を多量、炭化物粒を少量含む。
- 8 暗褐色土：しまりやや弱い、粘性弱い。ローム粒を少量含む。壁崩落土と暗褐色土。
- 9 黒色土：しまりやや強い、粘性強い。炭化物粒・炭化物（ ϕ 50mm）を多量、ローム粒・ロームブロック（ ϕ 5mm）を少量含む。炭化物は叩き合わせると金属音のするようによく炭化したものである。
- 10 黒色土：しまりやや強い、粘性強い。9層に準ずる。炭化物・ローム粒を中量含む。
- 11 黒色土：しまりやや強い、粘性強い。9層に準ずる。ローム粒・ローム小ブロックを微量含む。
- 12 黒色土：9層に準ずる。
- 13 淡黄褐色土：しまりやや強い、粘性強い。ローム粒を多量、炭褐色粘土粒（ ϕ 0.1mm）を少量含む。
- 14 淡黄褐色土：しまりやや強い、粘性強い。13層に準ずる。粘土粒を中量含む。13・14層はこの遺構の堆積土とは思われない。不自然な盛り込み状であるが、周辺にこの土層を覆土に持つ遺構はなく堆積の経緯は不明である。

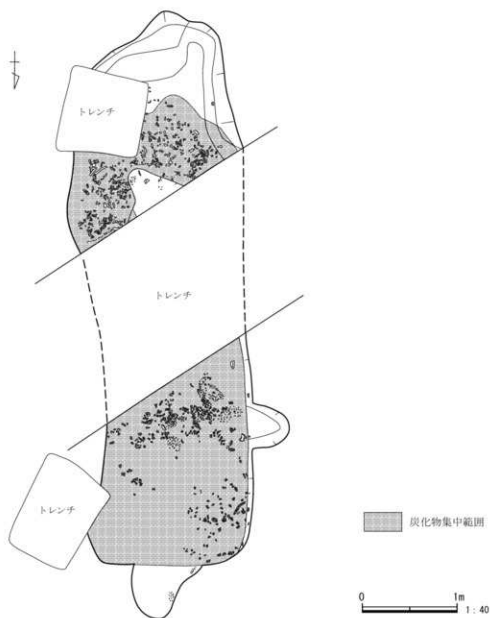
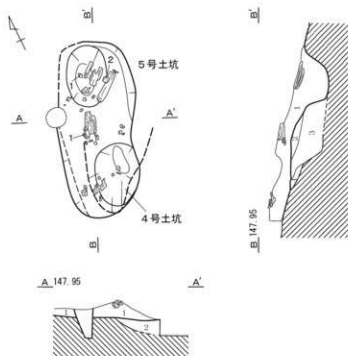


図 92 3号土坑 炭化物出土状態

4・5号土坑



4・5号土坑 土層説明

5号土坑

1 明褐色土：しまり強いが、部分的に強い。粘性あり。炭化物粒（φ 4 mm）、ローム粒（φ 1 mm）、ロームブロック（φ 10 mm）炭化物を微量含む。

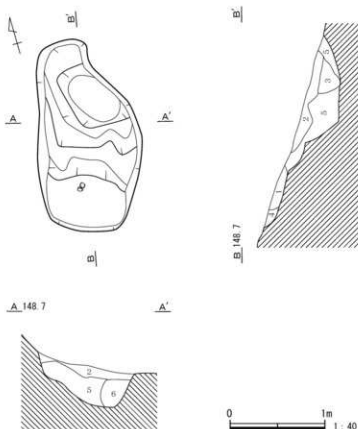
4号土坑

2 明褐色土：しまり弱い、粘性強い。炭化物粒（φ 7～15 mm）・ローム粒（φ 5mm）を微量含む。

3 暗褐色土：しまり弱い、粘性強い。ローム粒（φ 20 mm）を少量、焼土粒（φ 2mm・15 cm）を微量含む。

4 黄褐色土：しまり弱い、粘性やや弱い。炭化物粒（φ 4 mm）を微量含む。

6号土坑



6号土坑 土層説明

1 暗灰褐色土：しまり強い、粘性ややあり。炭化物粒（φ 2～3 mm）を中量、焼土粒（φ 1～2 mm）を少量含む。

2 黒褐色土：しまり弱い、粘性ない。ローム粒（φ 1 mm）を少量、焼土を微量含む。

3 淡灰褐色土：しまり弱い、粘性ない。炭化物・ローム粒を含む。

4 明褐色土：しまりやや強い、粘性ややあり。炭化物粒（φ 4 mm）を微量含む。

5 明黄色土：しまり弱い、粘性ない。ロームブロック（φ 40 mm）、炭化物ブロック（φ 50 mm）を含む。

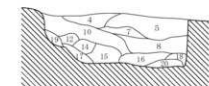
6 明灰色土：しまり弱い、粘性強い。ローム粒・炭化物粒（φ 6 mm）を微量含む。

図 93 4～6号土坑

7号土坑



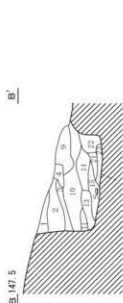
A 147.5



D 147.5



- 11 暗黄褐色土:しまり弱い、粘性やや強い、ローム粒を多量に含む。地山と10層の中間の土質。
- 12 暗黄褐色土:しまりやや強い、粘性弱い。YP粒子・ロームブロックを微量含む。風化ロームの様相。
- 13 暗褐色土:しまり弱い、粘性弱い。ローム粒(φ 5mm)・炭化物粒(φ 1mm)・小礫(φ 5mm)を少量、焼土粒(φ 0.5mm)を微量含む。
- 14 黒褐色土:しまり強い、粘性やや弱い。YP粒子を多量、ローム粒・焼土粒を微量含む。
- 15 明褐色土:しまり強い、粘性やや弱い。礫(φ 5mm)を少量、YP粒子・ロームブロック(φ 10mm)を微量含む。
- 16 黄褐色土:しまり強い、粘性やや弱い。炭化物粒(φ 2~5mm)を少量、焼土粒(φ 5mm)・ロームブロック(φ 15mm)を微量含む。
- 17 明褐色土:しまり弱い、粘性強い。ローム粒(φ 0.5mm)を少量、炭化物粒・YP粒子を微量含む。
- 18 暗黄褐色土:しまりやや強い、粘性弱い。ローム粒(φ 1mm)を多量、焼土粒(φ 1mm)を少量、YP粒子・炭化物粒・小礫(φ 5mm)を微量含む。
- 19 明灰褐色土:しまり強い、粘性やや弱い。小礫(φ 2~3mm)・YP粒子を少量、ローム粒(φ 0.5mm)を微量含む。
- 20 黒褐色土:しまりやや強い、粘性強い。ロームブロック(φ 20~30mm)を多量、炭化物(φ 10mm)を少量、YP粒子を微量含む。



7号土坑 土層説明

7a号土坑

- 1 明灰褐色土:しまり強い、粘性やや弱い。炭化物粒・YP粒子を微量含む。
- 2 暗灰褐色土:しまり強い、粘性弱い。ローム粒(φ 5mm)を少量、炭化物粒を微量含む。
- 3 暗灰褐色土:しまり強い、粘性やや弱い。ロームブロック(φ 50mm)を少量、炭化物粒・YP粒子を微量含む。
- 4 暗黄褐色土:しまり弱い、粘性弱い。ローム粒を多量、炭化物粒・YPブロックを微量含む。
- 5 暗灰褐色土:しまり強い、粘性あり。炭化物粒(φ 5mm)を少量、炭化物粒・YP粒子・ローム粒を微量含む。
- 6 明褐色土:しまり弱い、粘性あり。小礫(φ 2~4mm)を少量、ロームブロック(φ 20~30mm)・炭化物粒(φ 2mm)・粘土ブロック・焼土粒(φ 1mm)を微量含む。
- 7 暗灰褐色土:しまり強い、粘性あり。5層に準ずる。炭化物粒を中量、小礫(φ 10mm)を微量含む。
- 8 明褐色土:しまり強い、粘性あり。YP粒子・炭化物粒を少量、ローム粒を微量含む。
- 9 明褐色土:しまり強い、粘性弱い。ロームブロック(φ 20~30mm)を多量、炭化物粒(φ 1mm)を少量、焼土粒(φ 1mm)を微量含む。
- 10 明褐色土:しまり強い、粘性やや弱い。ローム粒を少量、炭化物・小礫(φ 10mm)を微量含む。

- 21 明黄褐色土:しまりあり、粘性弱い。ロームブロック(φ 20~50mm)を多量、炭化物粒・YP粒子を微量含む。
- 22 明褐色土:しまりやや強い、粘性あり。炭化物粒・YPブロック(φ 10mm)を中量、ローム粒(φ 2mm)を少量、小礫・YP粒子を微量含む。
- 23 暗褐色土:しまりあり、粘性弱い。ロームブロック(φ 10mm)・炭化物粒(φ 1mm)を少量、小礫(φ 2mm)・YP粒子を微量含む。

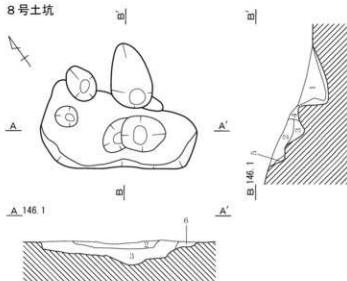
7b号土坑

- 24 暗褐色土:しまり強い、粘性弱い。ロームブロック(φ 10mm)を多量、炭化物粒(φ 0.5mm)を少量、小礫(φ 2~3mm)・YP粒子を微量含む。
- 25 明褐色土:しまりやや強い、粘性弱い。ロームブロック(φ 15mm)・小礫(φ 2~3mm)を少量、炭化物粒・YP粒子・焼土粒(φ 1mm)を微量含む。
- 26 明黄褐色土:しまり強い、粘性強い。ローム粒を多量、炭化物粒・YP粒子を少量含む。
- 27 暗灰褐色土:しまりやや強い、粘性弱い。ロームブロック(φ 10mm)を中量、炭化物粒・YPブロック(φ 5mm)・小礫(φ 2~3mm)を少量含む。

0 1m
1:40

図94 7号土坑

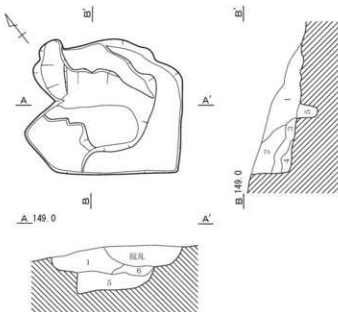
8号土坑



8号土坑 土層説明

- 1 暗褐色土：しまり弱い、粘性弱い。炭化物粒（ ϕ 10 mm）・ローム粒（ ϕ 3 mm）を中量、YP粒子を微量含む。
- 2 黒褐色土：しまり弱い、粘性弱い。炭化物粒（ ϕ ~ 2 mm）を少量、YP粒子を微量含む。
- 3 暗灰褐色土：しまりやや強い、粘性弱い。炭化物粒（ ϕ 2 ~ 3 mm）を少量、YP粒子を微量含む。
- 4 黄褐色土：しまり弱い、粘性弱い。ロームの再堆積層。
- 5 黄褐色土：しまり弱い、粘性弱い。ロームの再堆積層。
- 6 灰褐色土：しまり弱い、粘性やや強い。炭化物粒（ ϕ 6 mm）を少量、YP粒子を微量含む。

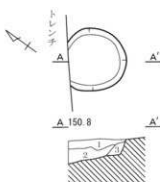
9号土坑



9号土坑 土層説明

- 1 暗褐色土：しまりやや強い、粘性やや強い。ロームブロック（ ϕ 20 ~ 30 mm）を多量、炭化物粒（ ϕ 1 ~ 5 mm）・ローム粒（ ϕ 1 mm）を微量含む。
- 2 明褐色土：しまりややあり、粘性強い。ローム粒を多量、炭化物粒（ ϕ 1 mm）・礎土粒を微量含む。
- 3 暗褐色土：しまりややあり、粘性強い。ローム粒（ ϕ 1 ~ 4 mm）を多量、炭化物粒（ ϕ 1 mm）を微量、浅間火山灰を含む。
- 4 黄褐色土：しまりやや強い、粘性強い。浅間火山灰を含む。
- 5 暗褐色土：しまり弱い、粘性強い。ロームブロック（ ϕ 10 ~ 20 mm）・炭化物粒（ ϕ 5 mm以下）を微量含む。
- 6 黄褐色土：しまりやや強い、粘性やや弱い。黒色土・Aa-Bを多量含む。

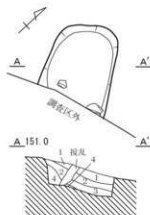
10号土坑



10号土坑 土層説明

- 1 暗黄灰褐色土：しまりあり、粘性あり。炭化物粒・礎土粒・ローム粒を微量含む。
- 2 暗黄灰褐色土：しまりあり、粘性あり。炭化物粒・ローム粒を少量含む。
- 3 明黄灰褐色土：しまりあり、粘性強い。ロームブロック（ ϕ 10 ~ 30 mm）を少量、炭化物粒を微量含む。

11号土坑



11号土坑 土層説明

- 1 明褐色土：しまり強い、粘性ややあり。風化再堆積ロームを多量、ロームブロック（ ϕ 10 mm）・YPを少量を含む。
- 2 暗褐色土：風化再堆積ロームを多量、ロームブロック（ ϕ 30 mm）・YPを中量を含む。
- 3 明褐色土：しまりやや弱い、粘性やや弱い。ローム粒（ ϕ 1 mm）多量、ロームブロック（ ϕ 5mm）を少量含む。
- 4 明黄褐色土：しまり強い、粘性ややあり。ロームブロック（ ϕ 30 mm）多量、ローム粒（ ϕ 1 mm）を少量含む。

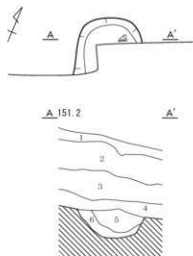


図95 8~11号土坑

12号土坑 (図96)

位置: 調査区南端に位置する。南側は調査区域外となる。**形状・規模:** 平面形は不明瞭であるが、11号土坑と類似する形態と思われる。確認された範囲では長径0.62 m以上、短径0.64 m、深さ30 cmを測る。**覆土:** YPを含む暗褐色土を主体としている。**遺物:** 縄紋土器の破片が出土した。**時期:** 不明。

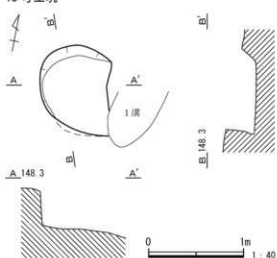
12号土坑



13号土坑 (図96)

位置: 調査区中央に位置する。**重複:** 1号溝と重複するが、新旧関係は不明である。**形状・規模:** 土砂流出のため、平面形はやや不整形な円形を呈する。確認された範囲では長径0.72 m以上、短径0.90 m、深さ30 cmを測る。**覆土:** YPを含む暗褐色土を主体としている。**遺物:** 縄紋土器の破片が出土した。**時期:** 不明。

13号土坑



12号土坑 土層説明

- 表土。
- 褐色土: しまり弱い、粘性あり。An-Aを含む。
- 暗褐色土: しまりあり、粘性あり。YP・炭化物粒を少量、ローム粒を微量含む。
- 暗褐色土: しまり強い、粘性ややあり。YP・ロームを少量含む。
- 暗褐色土: しまり強い、粘性ややあり。YP・ロームを多量含む。
- 明褐色土: しまりやや弱い、粘性やや弱い。風化再堆積ローム粒(φ1mm)を多量、ロームブロック(φ5mm程)を少量含む。

図96 12・13号土坑

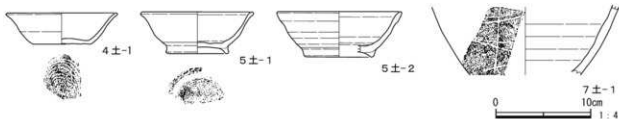


図97 4・5・7号土坑出土遺物

表18 4・5・7号土坑出土遺物観察表

4土 1	須恵器 坏	A. 口縁部径(11.6)、器高3.3、底部径6.0。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部右回転糸切り。D. 黒色粒、白色粒、褐色粒。E. 内外一灰黄褐色。F. 1/6。G. 酸化焙焼成。H. 覆土中。
5土 1	須恵器 高台付埴	A. 口縁部径(11.6)、器高4.4、底部径(6.0)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部右回転糸切り。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一黄灰色、内一褐色。F. 1/4。G. 酸化焙焼成。H. 覆土中。
5土 2	須恵器 高台付埴	A. 口縁部径(12.9)、器高4.8、底部径(6.8)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。D. 黒色粒、白色粒、褐色粒。E. 内外一灰黄褐色。F. 1/5。G. 酸化焙焼成。H. 覆土中。
7土 1	須恵器 羽釜	B. ロクロ成形。C. 外面窓ケズリ。内面回転ナデ。D. 黒色粒、白色粒、褐色粒。E. 外一にぶい橙色、内一にぶい黄褐色。F. 胴部下位破片。G. 外面に焼成前の線刻あり。H. 覆土中。

(3) 溝

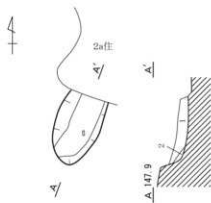
1号溝 (図 98)

位置：調査区中央に位置する。**重複：**2a号住居跡、13号土坑と重複し、2a号住居跡よりも本溝が古いが、13号土坑との新旧関係は不明である。**形状・規模：**北東-南西方向へ直行し、断面形は浅い逆台形状を呈する。確認された範囲では長さ0.75 m、幅0.50 m、深さ25 cmを測る。**主軸方位：**N-26°-E。**覆土：**ローム粒・炭化物粒を含む暗灰褐色土を主体としている。**遺物：**流水により流れてきたと思われる条痕紋系土器が出土した。弥生時代の遺構が西側傾斜上部位に存在していた可能性がある。**時期：**不明。

2号溝 (図 98)

位置：調査区南西側に位置する。**形状・規模：**南北へ直行し、断面形は箱状を呈する。調査範囲では長さ7.00 m、幅0.30~0.50 m、深さ25 cmを測る。**主軸方位：**N-0°。**覆土：**炭化物粒を含むローム土を主体としている。**遺物：**出土しなかった。**時期：**不明。

1号溝



1号溝 土層説明

- 1 暗灰褐色土: しまり弱い、粘性やや強い。ローム粒(φ1~2mm)を中量、小礫(φ5mm)・炭化物粒(φ1~3mm)を微量含む。
- 2 黒褐色土: しまり弱い、粘性弱い。ローム粒(φ1~2mm)を中量、炭化物粒(φ1~3mm)を少量含む。

2号溝 土層説明

- 1 暗灰褐色土: しまりやや弱い、粘性強い。ローム粒(φ1mm)を少量、炭化物粒(φ0.5~1mm)を微量含む。
- 2 明黄褐色土: しまりややあり、粘性強い。ロームを多量、炭化物粒(φ0.1~3mm)を含む。
- 3 暗黄灰褐色土: しまりややあり、粘性強い。炭化物粒(φ0.5~1mm)・ロームブロック(φ1~2cm)を微量含む。

2号溝

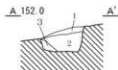
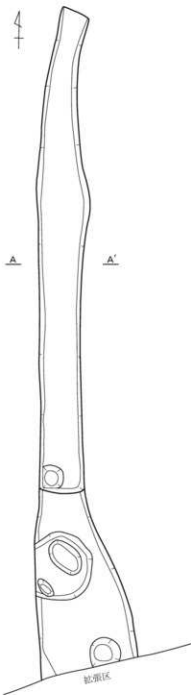


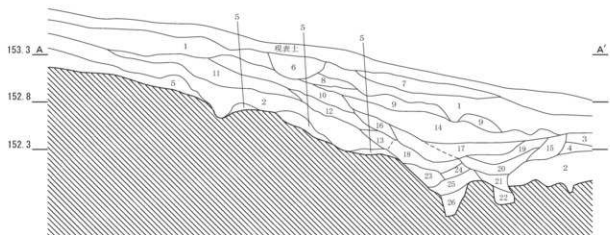
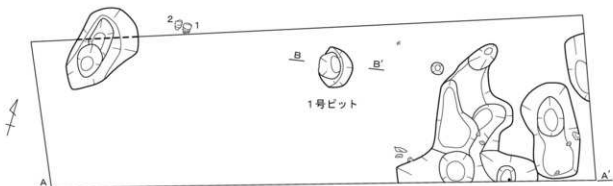
図 98 1・2号溝

(4) 拡張区 (図99・100、表19／写真図版19・77)

調査区南壁際で羽口が2点出土したことから、さらに南側に製鉄等の関連施設の存在が考えられるため、調査範囲を東西5.9m、南北1.8mの規模で拡張した。遺構はピットを1基検出した。

1号ピット

位置: 拡張区北側に位置する。**形状・規模:** 平面形は円形を呈する。長径42cm、短径36cm、深さ10cmを測る。**覆土:** 炭化物粒・焼土粒を含む暗褐色土を主体としている。**遺物:** 出土しなかった。**備考:** 底面は被熱により硬く赤褐色化している。遺物はピットの東側で、羽口や鉄滓等が少量出土した。遺構は明瞭ではないが小鍛冶等の可能性が考えられ、時期は集落の時期に重なるものと思われる。



1号ピット 土層説明

- 1 暗褐色土: しまりやや弱く、粘性弱い。黒色土・炭化物粒(φ1~2mm)・焼土粒(φ5mm)を中量含む。
- 2 暗褐色土: 1層に準ずる。炭化物粒・焼土粒がやや多い。
- 3 被熱により赤褐色化。



0 1m 1:40

図99 拡張区および1号ピット

拡張区南壁 土層説明

- 1 褐色土：しまり弱い、粘性あり。炭化物粒・YPを含む。大半は根により荒れている。
- 2 暗褐色土：しまり弱い、粘性弱い。炭化物粒・YPを少量、ローム粒を微量含む。
- 3 黒褐色土：しまりあり、粘性あり。炭化物粒・A+Bを少量、ローム粒を微量含む。
- 4 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。ローム粒・炭化物粒を少量、A+Bを微量、YP含む。
- 5 黄褐色土：ローム層。
- 6 暗褐色土：しまり弱い、粘性弱い。雑草。
- 7 褐色土：しまりやや弱い、粘性弱い。1層に準ずる。根により現表土が混入している。
- 8 褐色土：しまりやや弱い、粘性弱い。1層に準ずる。根により下層の黒色土が微量混入している。
- 9 暗褐色土：しまりやや強い、粘性弱い。上層の褐色土と下層の黒色土が均一に混ざり合っている。
- 10 暗褐色土：しまりやや強い、粘性やや強い。黒色土を少量含む。
- 11 褐色土：しまりやや強い、粘性強い。炭化物粒（ $\phi 1\sim 2\text{mm}$ ）を微量含む。
- 12 褐色土：しまりやや強い、粘性強い。11層に準ずる。炭化物粒を少量含む。
- 13 明褐色土：しまりやや弱い、粘性弱い。2層の土を多量、12層の土を少量含む。
- 14 黒褐色土：しまり強い、粘性やや強い。ローム粒（ $\phi 1\sim 2\text{mm}$ ）を少量、A+Bを微量含む。
- 15 暗灰褐色土：しまりやや強い、粘性強い。ローム粒（ $\phi 2\sim 3\text{mm}$ ）を中量、炭化物粒（ $\phi 1\sim 2\text{mm}$ ）を微量含む。
- 16 暗灰褐色土：しまり強い、粘性強い。ローム粒（ $\phi 1\sim 2\text{mm}$ ）を少量、炭化物粒（ $\phi 1\sim 2\text{mm}$ ）を微量含む。10層の崩落、再堆積と思われる。
- 17 黒褐色土：しまり弱い、粘性やや弱い。14層に準ずる。ローム粒を多量、炭化物粒を少量含む。
- 18 暗灰褐色土：しまりやや強い、粘性やや強い。ローム粒（ $\phi 2\sim 3\text{mm}$ ）を中量、炭化物粒（ $\phi 1\sim 2\text{mm}$ ）を微量含む。
- 19 暗灰褐色土：しまり弱い、粘性弱い。ローム粒（ $\phi 2\sim 3\text{mm}$ ）を多量、炭化物粒（ $\phi 2\sim 3\text{mm}$ ）を微量含む。
- 20 明黒褐色土：しまりやや強い、粘性強い。ローム粒（ $\phi 2\sim 3\text{mm}$ ）を少量、炭化物粒（ $\phi 1\sim 2\text{mm}$ ）を微量含む。

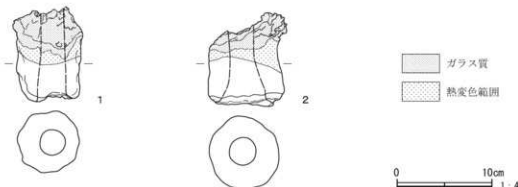


図 100 拡張区出土遺物

表 19 拡張区出土遺物観察表

1	土製品羽目	A. 残存長 10.0、直径 6.6、孔径 2.7。D. 黒色粒、白色粒、角閃石。E. 外-にぶい橙色。
2	土製品羽目	A. 残存長 9.9、直径 7.4、孔径 2.8。D. 黒色粒、白色粒、籾。E. 外-にぶい橙色。

(5) 遺構外出土遺物

遺構外出土遺物 (図 101 / 写真図版 77)

縄紋土器 41 点が出土した。遺物包含層ないし平安時代の住居跡から細片が検出されており、調査区北側から中央にかけて分布する。

細別が判明するものには、前期中葉関山Ⅱ式、前期後葉諸磯 c 式、中期後葉加曾利 EⅡ式、晩期末～弥生初頭が認められ、関山Ⅱ式と前期前半の胴部片および晩期末～弥生初頭の個体が多くを占める (61%・29%)。尾根を挟んだ反対側に位置する山崎上ノ南遺跡 B 地点における縄紋土器の出土状況も同

様の傾向を有する。ただし、後者では早期後葉が組成し、晩期末～弥生初頭の資料は見当たらない。

図 101 の 1～5 は関山Ⅱ式で、6・7 も当該期に伴うものと見做される。いずれも胎土中に繊維を有し、片岩を含むものも認められる。1～3 は単節縄紋 (RL) の閉端環を多用した文様施文をおこない、1 では多段ループ紋を三角形状に配置する。3 では櫛歯状工具による上下に長いコンパス文を併用する。4・5 は組紐縄紋を地紋とするもので、4 に 3 と同様のコンパス文が見受けられる。6 は縄紋 (LR) のみ施される口縁部片であり、端部を薄くつくる。7 は長足の閉端環付単節縄紋 (RL) を使用する。8 は諸磯 c 式の口縁部片である。波状口縁で端部が大きく屈曲する。半截竹管状工具による集合沈線を主体とし、施文は内面口唇下にまで及ぶ。その内面にはボタン状貼付紋を加える。9 は加曾利 EⅡ式で、燃系紋 (L) を地紋とし、単沈線で連弧文を描く。10～13 は晩期末～弥生初頭の壺形土器に相当し、他の当該資料を含め調査区北側の 2 号住居跡周辺に散在していた。これらは色調や調整方法等からみて同一個体と考えられ、胎土中に片岩を含む。10 は口縁部片で、口唇部に押捺を加える。11 は頸部片、12 は胴部上位片、13 は胴部下位片で、細かい条痕紋を縦・斜位に充填する。内面は横位のケズリで調整され、12 には明瞭な輪積痕が残る。

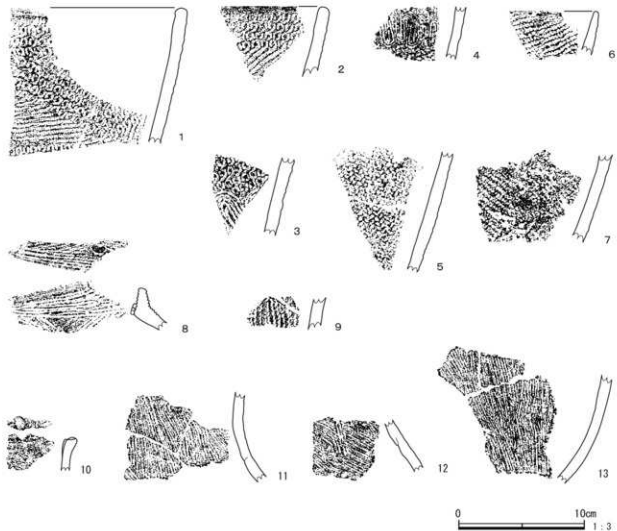


図 101 遺構外出土遺物

第10節 山崎上ノ南遺跡B地点

1 遺跡の概要（図102／写真図版20）

山崎上ノ南遺跡B地点は「女堀川」支流右岸の丘陵上にあり、この丘陵が小規模な沢によって浸食された開析谷の南斜面に立地する。標高は138.5～146.5mで、調査区内は北東から南西へ緩やかに傾斜し、南端には埋没谷が存在する。

検出された遺構は、竪穴住居跡11軒、溝1条、土坑8基、竈跡1基である。遺構番号は山崎上ノ南遺跡A地点からの連番となる（7号住居跡は欠番）。竪穴住居跡は等高線に沿って帯状に展開する。時期は奈良・平安時代に帰属し、9世紀が主体をなす。竈跡は住居群から外れた調査区北東端に、斜面に対し直交して造られる。半地下式竈の須恵器窯で、出土土器は9世紀に比定される。南端の埋没

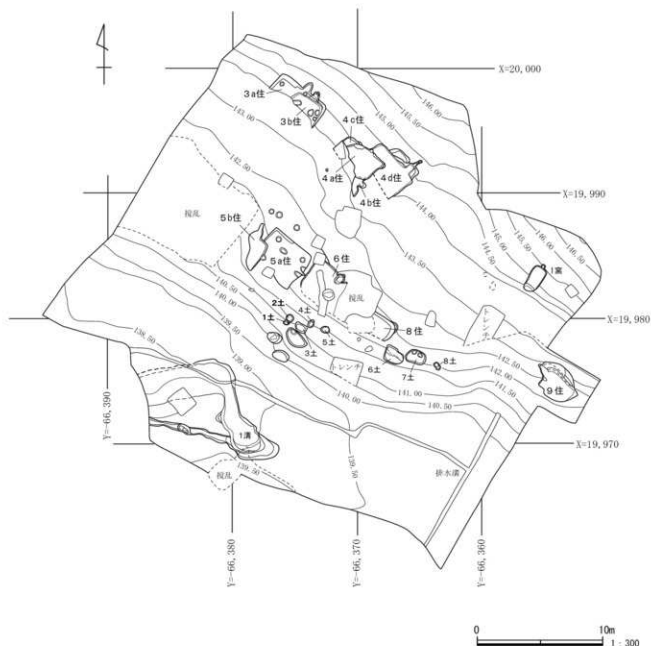


図102 山崎上ノ南遺跡B地点全体図

谷からは多くの遺物が出土している。その内容は土師器、須恵器、瓦、木製品、銅製巡方、鉄製品、小鍛冶関連遺物、自然遺物等多岐にわたる。土器類は主に8世紀末～9世紀前半に比定され、土師器・須恵器の坏には墨書および線刻を施すものが認められる。特筆すべき遺物として、宝亀二年(771)と紀年銘を記された木簡がある。紀年銘木簡は本塚初の出土であり、この地方の古代史の解明にとって非常に貴重な資料である。また、埋没谷の最下層では溝が検出され、木杭列によって流路が変更された様子が窺える。なお、縄紋時代早期後葉から前期後葉の土器片も少量検出されている。

2 検出された遺構と遺物

(1) 竪穴住居跡

3a号住居跡(図103～105、表20/写真図版20・21・78)

位置: 調査区北側に位置する。**重複:** 3b号住居跡と重複し、本住居跡が新しい。**形状・規模:** 土砂流出のため平面形は確定できない。規模は、確認された範囲では東西軸4.60mを測る。**主軸方位:** N-36°-E。**床面:** 確認面からの深さは35cmを測る。北側は淡黄色片岩層を掘り込んでおり、淡黄色片岩が床面の一部を構成し、3b号住居跡との重複部分は明褐色粘質土である。**カマド**：手前のピットは本住居跡に伴うものと考えられる。長径80cm、短径55cmの楕円形を呈し、深さ10cmを測る。**貯蔵穴:** 不明。**柱穴:** なし。**カマド:** 北壁東寄りに設置される。燃焼部は幅75cm、奥行き90cmで壁外に造り出されるが、若干袖部を壁内に造り付ける構造と思われる。カマド両側部分は台形状に幅140cm、奥行き70cmで壁外に掘り込まれ、棚状となっている。**遺物:** カマドおよび周辺から土師器坏・甕、須恵器坏・壺等の破片が出土した。**時期:** 9世紀後半。

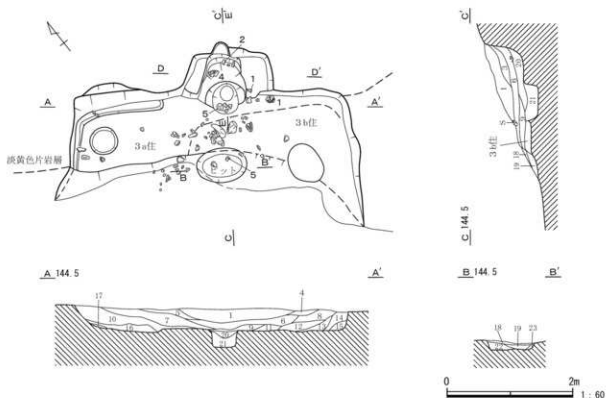
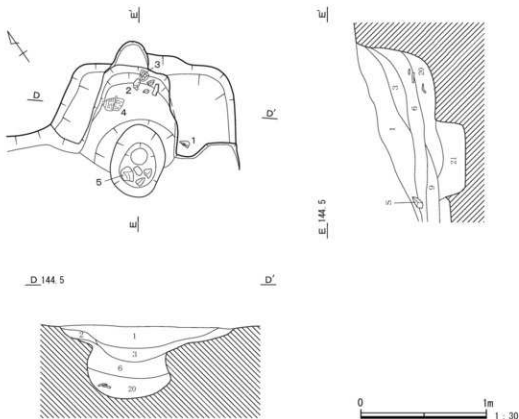


図103 3a号住居跡



3a号住居跡 土層説明

- 1 明褐色土：しまり強い、粘性やや強い。片岩粒を多量、片岩小ブロック（φ 30 mm）・片岩粒（φ 5mm）を少量、焼土粒・炭化物粒（φ 1 mm）を微量含む。
- 2 明褐色土：しまりやや強い、粘性やや強い。片岩粒（φ 2mm）を中量含む。
- 3 明褐色土：しまりやや強い、粘性やや強い。1層に準ずる。焼土粒・炭化物粒（φ 1 mm）を少量含む。
- 4 明褐色土：しまりやや強い、粘性やや強い。1層に準ずる。片岩ブロック（風化が顕著）を少量含む。
- 5 明褐色土：しまりやや強い、粘性やや強い。1層に準ずる。片岩粒（φ 2mm）を多量、炭化物粒（φ 1 mm）を少量含む。
- 6 明褐色土：しまりやや強い、粘性やや強い。1層に準ずる。焼土小ブロック（φ 30 mm）・焼土粒・炭化物粒（φ 1 mm）を中量含む。
- 7 明褐色土：しまりやや強い、粘性やや強い。片岩粒（φ 2～3mm）を多量、焼土粒・炭化物粒（φ 1 mm）を微量含む。
- 8 明褐色土：しまりやや強い、粘性やや強い。6層に準ずる。焼土小ブロック（φ 1 cm）・焼土粒（φ 3 mm）・炭化物粒（φ 2 mm）を多量含む。
- 9 暗褐色土：しまり強い、粘性やや強い。炭化物粒（φ 1 mm）を中量、焼土小ブロック（φ 10 mm）・焼土粒（φ 2 mm）・炭化物小ブロック（φ 3 mm）を少量含む。
- 10 明褐色土：しまり強い、粘性やや強い。片岩粒（φ 3 mm）を多量、片岩小ブロック（φ 30 mm）を微量含む。
- 11 暗褐色土：しまり強い、粘性やや強い。9層に準ずる。炭化物粒（φ 1 mm）を多量含む。
- 12 暗褐色土：しまり強い、粘性やや強い。9層に準ずるが、炭化物粒（φ 1 mm）を中量含む。
- 13 暗赤褐色土：しまりやや強い、粘性弱い。明褐色土・焼土粒（φ 1 mm）を多量、焼土小ブロック（φ 20 mm）・炭化物粒（φ 1 mm）を少量含む。
- 14 明褐色土：しまりやや強い、粘性強い。片岩粒（φ 2 mm）・炭化物粒・焼土粒（φ 1 mm）を微量含む。
- 15 明褐色土：しまり強い、粘性弱い。片岩粒（φ 0.5 mm）を少量含む。
- 16 明褐色土：しまりやや強い、粘性やや強い。7層に準ずる。焼土粒（φ 1 mm）・炭化物粒（φ 1 mm）を中量含む。
- 17 明褐色土：15層に準ずる。片岩粒を多量含む。
- 18 明褐色土：しまりやや強い、粘性やや強い。片岩粒（φ 2 mm）・焼土粒（φ 1 mm）を少量含む。
- 19 明褐色土：しまりやや強い、粘性やや強い。18層に準ずる。焼土小ブロック（φ 20 mm）を少量含む。
- 20 明褐色土：9層に準ずる。焼土小ブロック（φ 30 mm）を少量含む。
- 21 暗灰褐色土：しまりやや強い、粘性やや強い。明褐色土を多量、片岩粒（φ 0.1 mm）を中量、片岩ブロック（φ 3 mm）・焼土粒（φ 2 mm）・炭化物粒（φ 2 mm程）を少量含む。
- 22 明褐色土：しまり強い、粘性弱い。片岩小ブロック（φ 3～10 mm）を中量、焼土粒（φ 1～2 mm）を微量含む。
- 23 暗褐色土：しまり強い、粘性ややあり。片岩粒（φ 2～3 mm）を少量、焼土粒（φ 3～6 mm）を微量含む。

図 104 3a号住居跡カマド

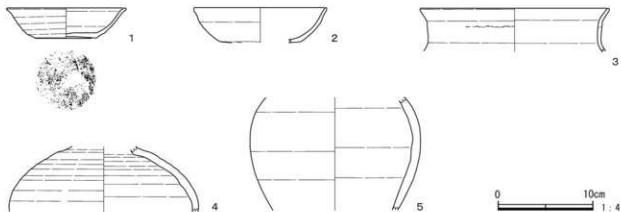


図 105 3a号住居跡出土遺物

表 20 3a号住居跡出土遺物観察表

1	須恵器 坏	A. 口縁部径(12.4)、器高3.2、底部径6.4。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部右回転系切り。D. 白色粒、褐色粒。E. 外一橙色、内一にぶい赤褐色。F. 3/4。G. 酸化焙焼成。H. 覆土中。
2	土師器 坏	A. 口縁部径(13.9)、底部径(8.4)。B. 粘土紐積み上げ。C. 器面荒れ調整不明跡。底部外面露ケズリ。D. 白色粒、角閃石。E. 外一橙色、内一にぶい橙色。F. 1/9。H. カマド内。
3	土師器 甕	A. 口縁部径(19.8)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。D. 白色粒、角閃石。E. 外一橙色、内一にぶい橙色。F. 口縁部1/12。H. カマド内。
4	須恵器 長箱壺	B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。D. 白色粒、礫。E. 外一灰黄色、内一褐色。F. 頸部~胴部中位1/3。G. 酸化焙焼成。H. カマド内。
5	須恵器 長箱壺	B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一暗灰色、内一灰褐色。F. 胴部1/4。G. 酸化焙焼成。H. カマド内、覆土中。

3b号住居跡 (図 106 ~ 108、表 21)

位置: 調査区北端側に位置する。**重複:** 3a号住居跡と重複し、本住居跡が古い。**形状・規模:** 土砂流出のため平面形は確定できない。規模は、確認された範囲では東西軸 2.50 m を測る。**主軸方位:** N-28°-E。**床面:** 3a号住居跡の床面からの深さは 12 cm を測る。東側には炭化材や焼土の分布が顕著である。**貯蔵穴:** 不明。**柱穴:** なし。**カマド:** 北壁やや東寄りに設置され、壁外に造り出される。重複する 3a号住居跡に壊されているため、カマドの先端部は確認できたが燃烧部等は不明である。3a号住居跡の床下で確認された壁との繋りは明確ではない。壁からの奥行きは 80 cm を測る。**遺物:** 覆土中から土師器坏の破片が少量出土した。**時期:** 8世紀後半。

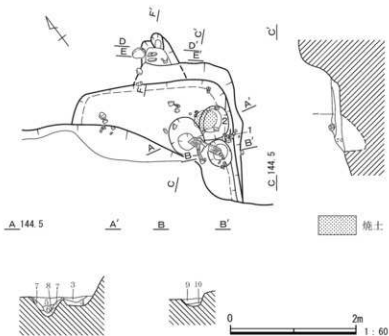
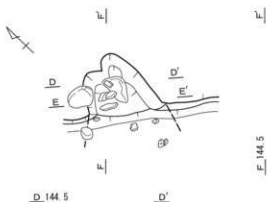
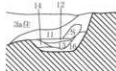


図 106 3b号住居跡



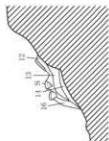
D 144.5

D'



E 144.5

E'



E 144.5

3b号住居跡 土層説明

- 1 暗褐色土：しまり強い、粘性弱い、焼土粒（φ5mm）を中量、片岩粒（φ1～5mm）・炭化物粒（φ2～3mm）を少量含む。
- 2 暗褐色土：しまり強い、粘性弱い、片岩ブロック（φ5～20mm）を多量、炭化物（φ5～10mm）を中量、焼土粒（φ1～10mm）を少量含む。
- 3 暗褐色土：しまり強い、粘性あり、焼土ブロック（φ7～10mm）を多量、片岩粒（φ2～4mm）を中量含む。
- 4 明褐色土：しまりややあり、粘性あり、片岩粒（φ2～3mm）を少量、炭化物粒（φ1～2mm）を微量含む。
- 5 暗褐色土：しまり強い、粘性弱い、炭化物粒（φ1mm）を多量、片岩粒（φ2～4mm）を中量、焼土ブロック（φ5～7mm）を少量含む。
- 6 暗褐色土：しまり強い、粘性あり、炭化物粒（φ1mm）を多量、片岩粒（φ2～3mm）を少量、焼土粒（φ2mm）を微量含む。
- 7 明褐色土：4層に準ずる。炭化物を含まない。
- 8 明褐色土：しまり強い、粘性あり。片岩（φ7～10mm）を多量、炭化物粒を含む。
- 9 明褐色土：しまり強い、粘性弱い、焼土粒（φ2～5mm）・片岩粒（φ3～5mm）中量、炭化物粒（φ1～3mm）少量を含む。
- 10 明褐色土：しまり強い、粘性ややあり、焼土粒（φ2～5mm）・片岩粒（φ1～4mm）を微量含む。

カマド

- 11 褐色土：しまり強い、粘性やや強い、片岩粒（φ1～2mm）・焼土粒（φ1～2mm）を中量、焼土粒（φ5～10mm）を少量含む。
- 12 明褐色土：しまり強い、粘性やや強い、片岩粒（φ1～2mm）・焼土粒（φ1～2mm）を中量、片岩小ブロック（φ5～10mm）を少量含む。
- 13 暗赤褐色土：しまり強い、粘性やや強い、焼土粒（φ5～10mm）を多量、片岩粒（φ1～2mm）を中量含む。
- 14 褐色土：しまり強い、粘性やや強い、片岩粒（φ1～2mm）・焼土粒（φ1～2mm）を中量含む。
- 15 褐色土：しまり強い、粘性やや強い、14層に準ずる。
- 16 黄褐色土：しまり強い、粘性やや強い、片岩粒（φ1～2mm）を中量、焼土粒（φ1～2mm）を少量含む。

図 107 3b号住居跡カマド

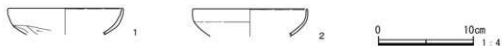


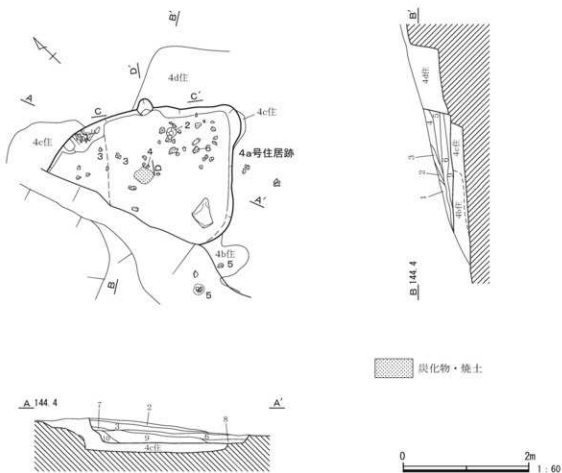
図 108 3b号住居跡出土遺物

表 21 3b号住居跡出土遺物観察表

1	土師器 環	A. 口縁部径(12.0)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面箇所ズリ、内面ヨコナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外にぶい褐色。F. 口縁部～体部 1/5。H. 覆土中。
2	土師器 環	A. 口縁部径(12.0)。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面器面荒れ調整不明瞭。口縁部内面ヨコナデ。D. 黒色粒、白色粒、角閃石。E. 外-にぶい褐色。内-灰黄褐色。F. 口縁部～体部 1/5。H. 覆土中。

4a号住居跡 (図109～111、表22 / 写真図版22・78)

位置: 調査区北側に位置する。重複: 4b・4c・4d号住居跡と重複し、本住居跡が最も新しい。形状・規模: 土砂流出および激しい重複のため、平面形は不整形を呈する。規模は、確認された範囲では北東-南西軸2.00 mを測る。主軸方位: N-40°-E。床面: 確認面からの深さは35 cmを測る。床面は4c号住居跡覆土である明褐色粘質土で、比較的平坦に整っている。貯蔵穴: なし。カマド: 北壁中央に設置される。燃烧部は幅28 cm、奥行き20 cmで、楕円形状に壁外に造り出される。遺物: 須恵器坏・皿・高台付埴・広口甕等の破片が出土した。時期: 9世紀後半。



4a号住居跡 土層説明

- 1 明褐色土: しまりやや強い、粘性強い。片岩粒 (φ 2 mm)・焼土粒・炭化物粒 (φ 1 mm) を微量含む。
- 2 明褐色土: しまりやや強い、粘性強い。片岩粒 (φ 5 mm)・炭化物粒 (φ 2 mm) を少量含む。
- 3 明褐色土: しまりやや強い、粘性強い。片岩小ブロック (φ 10 mm) を中量、炭化物粒 (φ 2 mm) を少量含む。
- 4 明褐色土: しまりやや強い、粘性強い。片岩小ブロック (φ 10 mm) を中量、炭化物粒 (φ 2 mm) を少量含む。
- 5 明褐色土: しまりやや強い、粘性強い。片岩粒 (φ 10 mm) を多量、焼土粒・炭化物粒 (φ 2 mm) を少量、焼土ブロック・炭化物 (φ 10 mm) を微量含む。
- 6 明褐色土: しまりやや弱い、粘性やや弱い。焼土ブロック (φ 10 mm) を多量、片岩粒 (φ 5 mm) を中量、炭化物粒 (φ 5 mm程) を少量含む。
- 7 明褐色土: しまりやや強い、粘性強い。粘土ブロックを中量、片岩粒 (φ 5 mm) を少量含む。
- 8 明褐色土: しまりやや強い、粘性やや弱い。片岩粒 (φ 5 mm) を中量、焼土粒 (φ 2 mm) を少量、炭化物粒 (φ 2 mm) を微量含む。
- 9 明褐色土: しまりやや強い、粘性やや弱い。片岩粒 (φ 5 mm)・焼土粒 (φ 3 mm) を中量、炭化物粒 (φ 5 mm) を少量含む。
- 10 明褐色土: しまりやや強い、粘性やや弱い。片岩ブロック (φ 15 mm)・焼土粒 (φ 8 mm) を少量、炭化物ブロック (φ 15 mm) を微量含む。

図109 4a号住居跡

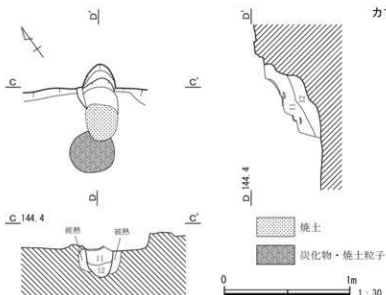
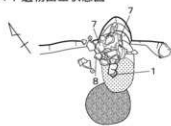


図 110 4a号住居跡カマド

カマド遺物出土状態図



4a号住居跡カマド 土層説明

- 11 明褐色土：しまりやや強い、粘性やや強い、片岩粒（φ5mm）を中量、焼土粒（φ2mm）を少量含む。
- 12 明褐色土：しまりやや強い、粘性やや強い、焼土粒・炭化物粒（φ2mm）を多量、暗褐色粘質土を少量、片岩粒（φ5mm）を中量、焼土ブロック（φ10mm）を少量含む。

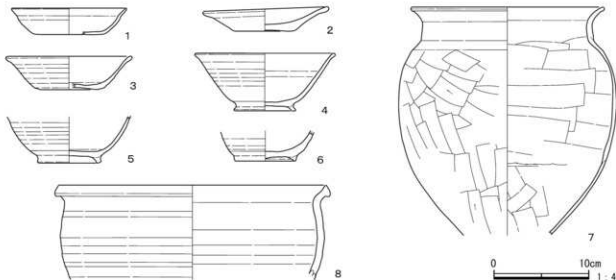


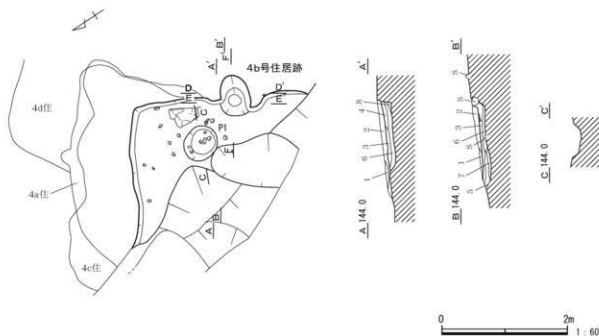
図 111 4a号住居跡出土遺物

表 22 4a号住居跡出土遺物観察表

1	土師器 環	A、口縁部径(11.9)、器高2.8、底部径7.5、B、粘土紐積み上げ、C、外面器面荒れ調整不明瞭、口縁部内面ヨコナデ。底部ナデ。D、白色粒、褐色粒。E、外一にぶい黄褐色、内一灰黄褐色。F、1/4、H、カマド内。
2	須恵器 皿	A、口縁部径12.8、器高2.5、底部径6.2、B、ロクロ成形。C、内外面回転ナデ。底部右回転系切り。D、白色粒、褐色粒、籾。E、外一にぶい褐色、内一褐色。F、7/8、G、酸化塩焼成。H、覆土中。
3	須恵器 杯	A、口縁部径(13.0)、器高3.5、底部径6.2、B、ロクロ成形。C、内外面回転ナデ。底部右回転系切り。D、白色粒、褐色粒。E、外一にぶい灰黄色、内一褐色。F、1/3、H、覆土中。
4	須恵器 高台付埴	A、口縁部径(14.5)、器高6.1、底部径6.3、B、ロクロ成形。C、内外面回転ナデ。底部回転系切り。D、白色粒、褐色粒。E、外一灰黄色、内一黄褐色。F、2/5、G、酸化塩焼成。H、覆土中。
5	須恵器 高台付埴	A、底部径6.0、B、ロクロ成形。C、内外面回転ナデ。底部右回転系切り。D、白色粒、褐色粒。E、外一にぶい褐色、内一灰褐色。F、1/3、G、酸化塩焼成。H、覆土中。
6	須恵器 高台付埴	A、底部径6.2、B、ロクロ成形。C、内外面回転ナデ。底部回転系切り。D、白色粒、褐色粒。E、外一にぶい灰黄色、内一灰黄褐色。F、2/5、G、酸化塩焼成。H、覆土中。
7	土師器 甕	A、口縁部径(20.0)、B、粘土紐積み上げ。C、口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面艶ケズリ、内面艶ナデ。D、黒色粒、白色粒、褐色粒。E、外一にぶい褐色、内一黒褐色。F、口縁部～胴部下位1/3、G、酸化塩焼成。H、カマド内。
8	須恵器 広口甕	A、口縁部径(28.0)、B、ロクロ成形。C、内外面回転ナデ。D、白色粒、褐色粒。E、外一褐色、内一にぶい赤褐色。F、口縁部～胴部破片。G、酸化塩焼成。H、カマド内。

4b号住居跡 (図 112・113 / 写真図版 23・24)

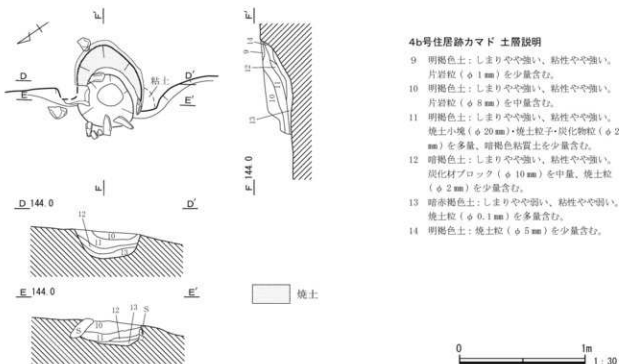
位置: 調査区北側に位置する。**重複:** 4a・4c・4d号住居跡と重複する。新旧関係は土層断面観察から4aより古いことを確認している。4cとの関係は土層では確認されており、出土遺物も少なく時期差が明瞭ではない。しかし、本住居跡のカマドが4cによって壊されていないことや、兩住居跡の床面の高さが同程度でありながら本住居跡の壁が検出されていることから、本住居跡が新しいと判断できる。4dとの関係は不明である。**形状・規模:** 土砂流出のため平面形は確定できない。規模は、確認された範囲では南北軸 2.74 m を測る。**主軸方位:** N-125°-E。**床面:** 確認面からの深さは 10 cm を測る。明褐色粘質土を床面とし、確認した範囲は比較的平坦で整っている。**貯蔵穴:** カマド手前左側にピットを 1 基検出した (P 1)。長径 57 cm、短径 50 cm の円形を呈し、深さ 15 cm を測る。**カマド:** 東壁に設置される。燃焼部は幅 40 cm、奥行き 50 cm で壁外に造り出す。壁内に粘土を使用した袖部を設ける。左袖部は検出していないが、壁の構造物と考えられる礫を検出している。壁面は全体的に被熱した状態が顕著であるが、右側が特に強く焼けている。**遺物:** 主に北西部に散在する状態で、土師器甕の破片が少量出土した。**時期:** 9 世紀後半。



4b号住居跡 土層説明

- 1 明褐色土: しまりやや強い、粘性やや強い。焼土小ブロック (φ 30 mm)・片岩粒 (φ 2 mm)・焼土粒 (φ 2 mm) を中量、炭化物粒 (φ 1 mm) を微量含む。
- 2 明褐色土: しまりやや強い、粘性やや強い。片岩粒 (φ 2 mm) を中量、焼土小ブロック (φ 2 cm)・焼土粒 (φ 2 mm) を少量、炭化物粒 (φ 1 mm) を微量含む。
- 3 明褐色土: しまりやや強い、粘性やや強い。片岩粒 (φ 2 mm) を中量含む。
- 4 明褐色土と暗褐色土の混合土: 焼土粒・炭化物粒は 3 層に準ずる。壁筋落土混在。
- 5 明褐色土: 1 層に準ずる。
- 6 明褐色土: 焼土粒 (φ 2 mm)・炭化物粒 (φ 1 mm) を中量、暗褐色粘質土を少量含む。
- 7 明褐色土: 暗褐色粘質土を中量。焼土粒・炭化物粒 (φ 1~2 mm) を少量含む。
- 8 暗褐色土: 焼土粒・炭化物粒を微量含む。壁筋落土。

図 112 4b号住居跡



4b号住居跡カマド 土層説明

- 9 明褐色土：しまりやや強い、粘性やや強い、片岩粒（φ 1mm）を少量含む。
- 10 明褐色土：しまりやや強い、粘性やや強い、片岩粒（φ 8mm）を中量含む。
- 11 明褐色土：しまりやや強い、粘性やや強い、焼土小塊（φ 20mm）・焼土粒子・炭化物粒（φ 2mm）を多量、暗褐色粘質土を少量含む。
- 12 暗褐色土：しまりやや強い、粘性やや強い、炭化材ブロック（φ 10mm）を中量、焼土粒（φ 2mm）を少量含む。
- 13 暗赤褐色土：しまりやや弱い、粘性やや弱い、焼土粒（φ 0.1mm）を多量含む。
- 14 明褐色土：焼土粒（φ 5mm）を少量含む。

図 113 4b号住居跡カマド

4c号住居跡（図 114～116、表 23 / 写真図版 24）

位置：調査区北側に位置する。重複：4a・4b・4d号住居跡と重複する。新旧関係は4a・4bより古い。4dとは不明である。**形状・規模：**土砂流出のため平面形は確定できない。規模は、確認された範囲では北西-南東軸 3.36 mを測る。**主軸方位：**N-48°-E。**床面：**確認面からの深さは15 cmを測る。北東隅に床下土坑を検出した。平面形は楕円形を呈し、長径1.40 m、短径1.15 m、深さ15 cmを測る。**壁溝：**北壁下から南西部にかけて検出した。北東隅に設置されたカマド左袖の下まで掘られている。幅20～25 cm、深さ10 cmを測る。**貯蔵穴：**なし。**カマド：**東コーナー部に張出すように設置されている。燃烧部は幅40 cm、奥行き85 cmを測り、壁外に造り出される。壁内に袖部を設ける。奥壁は被熱により赤色化が顕著である。また、焚口から50 cm程の所に段を持つが、この壁面も被熱により赤色化している。**遺物：**北壁寄りで灰釉陶器塊、土師器等の破片が少量出土した。**時期：**9世紀後半。

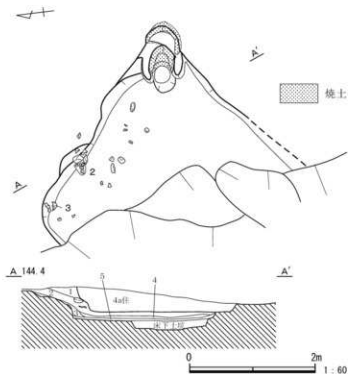


図 114 4c号住居跡

掘り方図

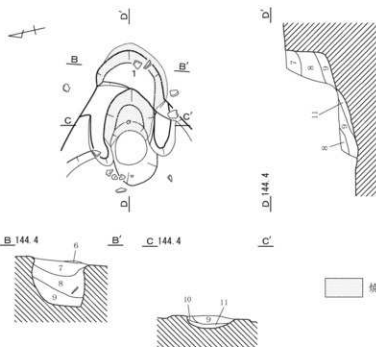
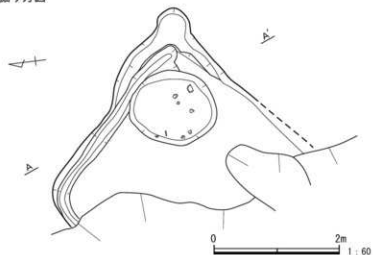


図115 4c号住居跡カマド

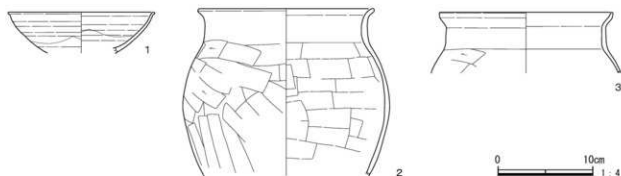


図116 4c号住居跡出土遺物

4号住居跡 土層説明

- 1 明褐色土：しまりやや強い、粘性強い。片岩粒（ ϕ 50 mm）を中量、焼土粒・炭化物粒（ ϕ 2 mm）を少量含む。
 - 2 明褐色土：しまりやや強い、粘性強い。暗褐色土ブロック（ ϕ 20 mm）・焼土粒・炭化物粒（ ϕ 2 mm）を少量含む。
 - 3 暗褐色土：しまり強い、粘性強い。明褐色土ブロック（ ϕ 10 mm）を少量、焼土粒（ ϕ 1 mm）を微量含む。
 - 4 暗褐色土：しまりやや強い、粘性弱い。焼土ブロック（ ϕ 5～8 mm）を中量、片岩粒（ ϕ 5～10 mm）を少量、炭化物粒（ ϕ 2～6 mm）を微量含む。
 - 5 明褐色土：しまり強い、粘性強い。片岩粒（ ϕ 2mm）を少量含む。
- カマド
- 6 赤褐色土：しまりやや弱い、粘性弱い。焼土粒を多量。片岩粒（ ϕ 2 mm）を少量含む。壁面積風化土。明褐色土が被熱、赤変したものの。
 - 7 明褐色土：しまり弱い、粘性やや強い。片岩粒（ ϕ 10 mm）を中量、焼土小塊（ ϕ 20 mm）を少量、焼土粒・炭化物粒（ ϕ 2 mm）を微量含む。
 - 8 明褐色土：しまりやや強い、粘性やや強い。片岩粒（ ϕ 5 mm）を中量、焼土粒・炭化物粒（ ϕ 2 mm）を微量含む。
 - 9 明褐色土：しまりやや強い、粘性強い。片岩粒（ ϕ 5 mm）・焼土塊（ ϕ 20 mm）・焼土粒・炭化物粒（ ϕ 2 mm）を中量、炭化物（ ϕ 20 mm）を少量含む。
 - 10 明褐色土：しまりやや弱い、粘性強い。片岩粒（ ϕ 1 mm以下）を微量含む。
 - 11 赤褐色土：しまりやや弱い、粘性やや弱い。明褐色粘質土が被熱、赤変したものの。

表 23 4c号住居跡出土土物観察表

1	灰軸陶器 埴	A. 口縁部径(15.4)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。軸は潰掛け。D. 白色粒。E. 内外一浅黄色。F. 口縁部～体部1/4。H. カマド床面直上。
2	土師器 甕	A. 口縁部径(18.4)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面籠ケズリ、内面籠ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一暗褐色、内一灰褐色。F. 口縁部～胴部中位1/4。H. 覆土中。
3	土師器 甕	A. 口縁部径(18.2)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面籠ケズリ、内面籠ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一にぶい赤褐色、内一明赤褐色。F. 口縁部～胴部上位1/4。H. 覆土中。

4d号住居跡(図117～119、表24ノ写真図版25・78)

位置: 調査区北側に位置する。**重複:** 4a・4b・4c号住居跡と重複する。新旧関係は土層から4aより古いことを確認したが、4b・4cとは不明である。**形状・規模:** 重複遺構および土砂流出のため、平面形は確定できない。規模は、確認された範囲では北西-南東軸4.00mを測る。**主軸方位:** N-51°-E。**床面:** 確認面からの深さは45cmを測る。床面は比較的平坦で整っている。**貯蔵穴:** なし。**カマド:** 東壁南寄りに設置される。燃焼部は幅70cm、奥行き70cmの方形に近い掘り方で壁外に造り出し、煙道がさらに80cm程伸びる。カマドは暗褐色粘質土で構築されており、煙道部の天井が一部残存していた。カマドの覆土6・7層中にはカマド天井部より崩落したと思われる焼土ブロックが比較的多く含まれている。側壁および煙道の天井部は被熱により赤色化している。**遺物:** カマドや覆土中から土師器環、須恵器環の破片が少量出土した。**時期:** 9世紀後半。

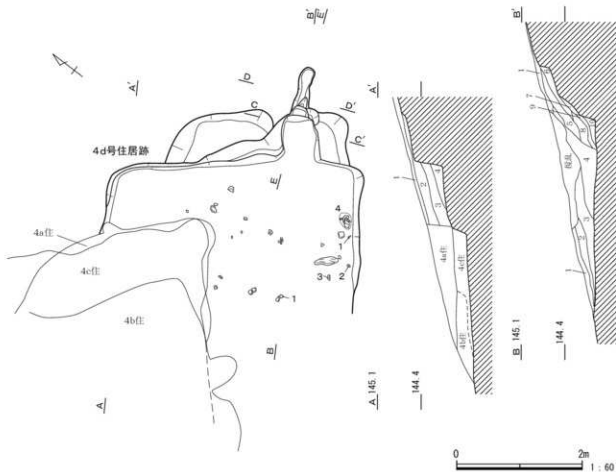


図 117 4d号住居跡

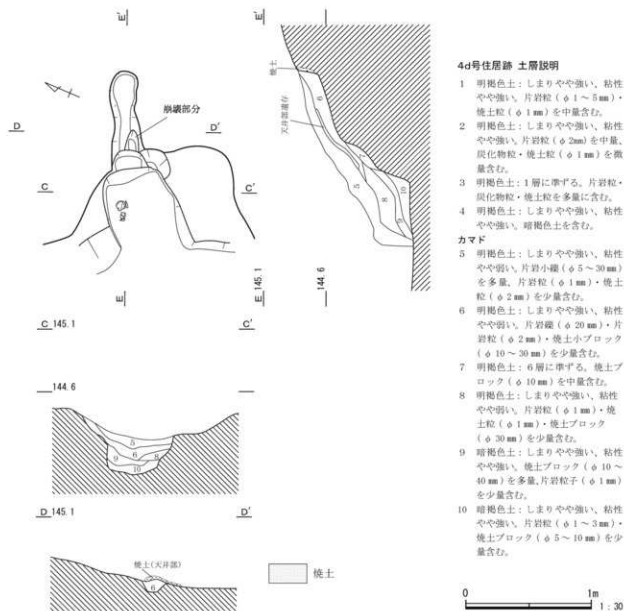


図118 4d号住居跡カマド

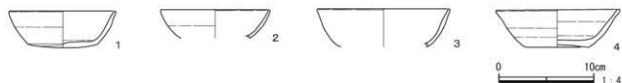


図119 4d号住居跡出土遺物

表 24 4d号住居跡出土遺物観察表

1	土師器 坏	A. 口縁径11.1、器高3.9、底径7.4。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面 造ケズリ、内面ヨコナデ。底部外面造ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一橙色。F. 4/5、 H. 床面直上。
2	土師器 坏	A. 口縁径(11.4)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。 E. 内外一橙色。F. 口縁部～体部 1/5。H. 床面直上。
3	土師器 坏	A. 口縁径(13.8)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面器面荒れ調整不明瞭。 D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一橙色。F. 口縁部～体部 1/4。H. 床面直上。
4	須恵器 坏	A. 口縁径12.9、器高4.0、底径6.8。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部右回転糸切り。D. 黒色 粒、白色粒。E. 外一灰色、内一浅黄色。F. 3/4。G. 酸化焙焼成。H. 覆土中。

5a号住居跡（図120～122、表25／写真図版25・26・78）

位置：調査区中央に位置する。**重複：**5b号住居跡と重複する。土層による確認はしていないが、出土遺物からは本住居跡が新しいと推測される。**形状・規模：**平面形は縦長長方形と推定される。規模は、確認された範囲では長軸3.90m、短軸3.05mを測る。**主軸方位：**N-128°-E。**床面：**確認面からの深さは30cmを測る。住居中央部に6cm程の段差があり、東側の方が低くなっている。**壁溝：**住居中央の段差から西側では、確認した壁に沿って壁溝が掘られている。幅10～17cm、深さ2～6cmを測る。**貯蔵穴：**カマド右脇に位置する。長径72cm、短径50cmの楕円形を呈し、深さ18cmを測る。**柱穴：**南東部を除いて3基検出した。平面形は円形を呈する。P1は長径45cm、短径40cm、深さ50cm、P2は長径55cm、短径50cm、深さ40cm、P3は長径50cm、短径43cm、深さ38cmを測る。P4は入り口施設に関係するピットの可能性が考えられる。長径65cm、短径43cmの楕円形を呈し、深さ15cmを測る。**カマド：**東壁に設置される。燃焼部は幅38cm、奥行き40cmで壁内に造り付けられ、煙道が壁外に幅20cm、奥行き23cmで造り出される。煙道部の壁面は被熱により赤色化している。燃焼部は方形の掘り方で、袖部は暗褐色粘質土で構築される。24層上面が火床面と思われる。カマド底面には楕円形状の掘り方があり、長径75cm、短径45cm、深さ10cmを測る。**遺物：**カマドや覆土中から土師器杯、須恵器杯等の破片が少量出土している。**時期：**9世紀前半。

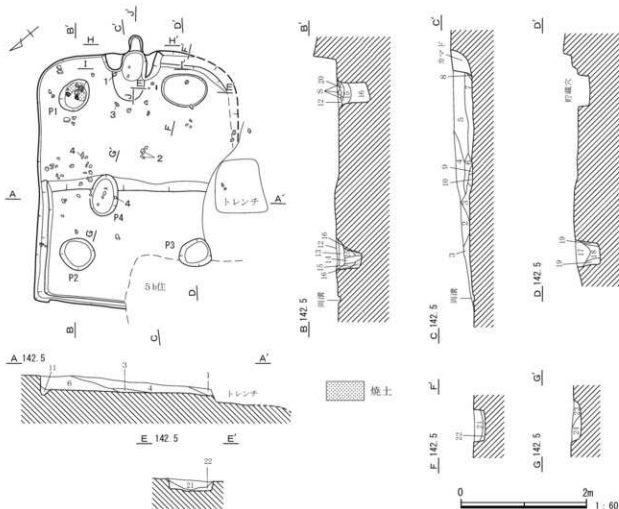
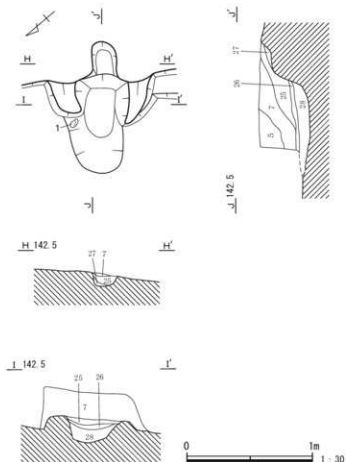


図120 5a号住居跡



5a号住居跡 土層説明

- 1 明褐色土：しまり弱い、粘性弱い、片岩粒（ $\phi 1$ mm）・片岩ブロック（ $\phi 20$ mm）を多量に含む。層全体がザラザラしており、調査区平場下端部に顕著に堆積が見られる。住居跡覆土流失後に堆積した層。
- 2 明褐色土：しまりやや強い、粘性強い、粘土ブロック（ $\phi 20$ mm）を少量、片岩粒（ $\phi 3$ mm）・炭化物粒（ $\phi 2$ mm）を少量含む。
- 3 暗褐色土：しまり強い、粘性強い、片岩粒（ $\phi 5$ mm）・炭化物粒（ $\phi 1$ mm）うち量含む。明褐色粘質土と暗褐色粘質土の混合層。
- 4 暗褐色土：炭化物粒を多量に含む。
- 5 暗褐色土：しまり強い、粘性強い、3層に準ずる。暗褐色粘質土を多量、炭化物粒を少量含む。
- 6 明褐色土：しまり強い、粘性強い、暗褐色粘質土を微量含む。
- 7 明褐色土：しまり強い、粘性強い、焼土ブロック（ $\phi 10$ mm）・炭化物粒（ $\phi 1$ mm）を中量含む。粘土ブロック（ $\phi 20$ mm）を少量含む。
- 8 明褐色土：7層に準ずる。焼土ブロック・炭化物粒を多量含む。
- 9 暗褐色土：しまりやや強い、粘性強い、明褐色粘質土を微量含む。
- 10 暗褐色土：暗褐色粘質土を多量に含む。
- 11 明褐色土：しまりやや弱い、粘性やや強い、暗褐色粘質土ブロック（ $\phi 10$ mm）・片岩粒（ $\phi 5$ mm）・焼土粒（ $\phi 1$ mm）・炭化物粒（ $\phi 1$ mm）を少量含む。

柱穴

- 12 明褐色土：しまりやや強い、粘性やや強い、片岩粒（ $\phi 5$ mm）を中量、暗褐色ブロック（ $\phi 20$ mm）を少量、焼土粒・炭化物粒（ $\phi 1$ mm）を微量含む。
- 13 暗褐色土：しまりやや強い、粘性やや強い、片岩粒（ $\phi 8$ mm）を中量、明褐色粘質土ブロック（ $\phi 1$ mm）を少量含む。
- 14 明褐色土：しまりやや弱い、粘性やや強い、暗褐色土小ブロック（ $\phi 10$ mm）・明褐色砂質土ブロック（ $\phi 20$ mm）・片岩粒（ $\phi 1$ mm）を少量含む。
- 15 暗褐色土：しまりやや強い、粘性やや強い、明褐色土ブロック（ $\phi 30$ mm）・片岩粒（ $\phi 1$ mm）を少量含む。
- 16 明褐色土：しまりやや強い、粘性やや強い、暗褐色土ブロック（ $\phi 20$ mm）を少量、片岩粒（ $\phi 1$ mm）を微量含む。
- 17 明褐色土：しまりやや強い、粘性やや強い、片岩粒（ $\phi 5$ mm）を中量、暗褐色土ブロック（ $\phi 20$ mm）を少量、焼土粒・炭化物粒（ $\phi 1$ mm）を微量含む。
- 18 暗褐色土：しまりやや強い、粘性やや強い、明褐色土ブロック（ $\phi 30$ mm）・片岩粒（ $\phi 1$ mm）を少量含む。
- 19 暗褐色土：18層に準ずる。明褐色土ブロック（ $\phi 20$ mm）を多量に含む。
- 20 暗赤褐色土：しまりやや強い、粘性やや強い。明褐色土・焼土ブロック（ $\phi 20 \sim 30$ mm）を多量に含む。

貯蔵穴

- 21 明褐色土：しまりやや弱い、粘性やや強い、暗褐色粘質土ブロック（ $\phi 20$ mm）を少量、片岩粒（ $\phi 3$ mm）を中量、焼土粒・炭化物粒（ $\phi 1$ mm）を微量含む。
- 22 暗褐色土：しまりやや弱い、粘性やや強い、明褐色粘質土ブロック（ $\phi 10$ mm）・片岩粒（ $\phi 3$ mm）を微量含む。底面は暗灰色の粘性の高いもので粘化したものか。

- 23 明褐色土：しまりやや強い、粘性やや強い、暗褐色土ブロックを多量、片岩（ $\phi 10$ mm）・炭化物粒（ $\phi 8$ mm）を中量、焼土粒（ $\phi 2$ mm）を少量含む。
- 24 明褐色土：しまりやや強い、粘性やや強い、23層に準ずる。炭化物粒（ $\phi 20$ mm）を少量含む。

カマド

- 25 明褐色土：しまりやや強い、粘性強い、焼土粒（ $\phi 1$ mm）を中量、暗褐色土ブロック（ $\phi 20$ mm）・片岩粒（ $\phi 5$ mm）・焼土ブロック（ $\phi 40$ mm）・炭化物粒（ $\phi 1$ mm）を少量含む。
- 26 暗赤褐色土：しまりやや弱い、粘性弱い、焼土粒（ $\phi 0.1$ mm）を多量、焼土ブロック（ $\phi 10$ mm）を中量、炭化物粒（ $\phi 1$ mm）を少量含む。
- 27 暗褐色土：基礎陥落土。
- 28 暗赤褐色土：しまりやや強い、粘性弱い、焼土粒・炭化物粒（ $\phi 1$ mm）を多量焼土ブロック（ $\phi 30$ mm）を中量含む。炭化物粒・砂粒が薄く堆積している。

図 121 5a号住居跡カマド



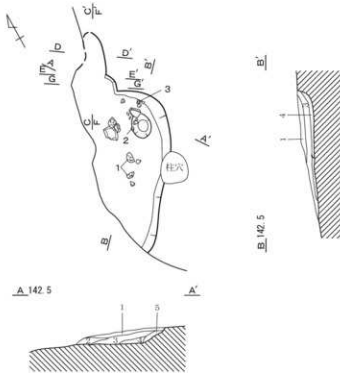
図 122 5a号住居跡出土遺物

表 25 5a号住居跡出土遺物観察表

1	土師器 坏	A. 口縁部径 (10.0)、器高 2.8、B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデ。体部外面匏ケズリ、内面器面荒れ調整不明瞭。D. 白色粒、褐色粒。E. 外一橙色、内一にぶい黄橙色。F. 1/5。H. カマド内。
2	土師器 坏	A. 口縁部径 (10.9)、器高 3.3、B. 粘土紐積み上げ。C. 器面荒れ調整不明瞭。D. 白色粒、褐色粒、雲母。E. 内外一橙色。F. 1/6。H. 覆土中。
3	土師器 坏	A. 口縁部径 (12.0)、B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面匏ケズリ、内面ヨコナデ。底部外面匏ケズリ。D. 白色粒、褐色粒。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 1/5。H. 床面直上。
4	須恵器 坏	A. 口縁部径 (12.5)、B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。D. 白色粒、褐色粒。E. 外一灰黄色、内一灰黄褐色。F. 1/6。G. 酸化焙焼成。H. ビット内、覆土中。

5b号住居跡 (図 123 ~ 125、表 26 / 写真図版 27・79)

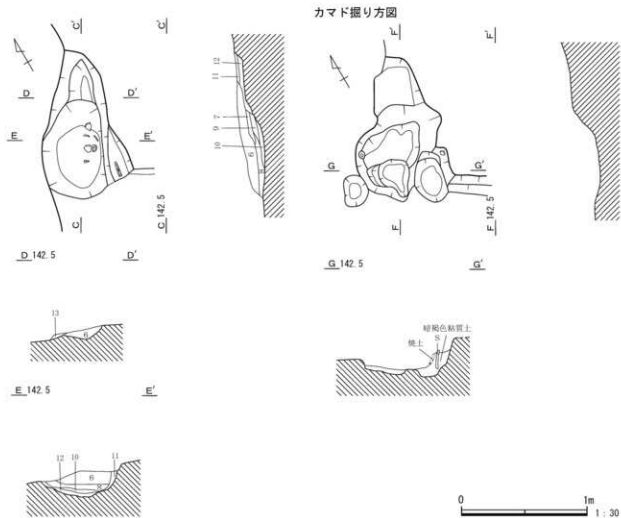
位置: 調査区中央に位置する。**重複:** 5a号住居跡と重複する。土層による確認はしていないが、出土遺物から本住居跡が古いと推測される。**形状・規模:** 土砂流出のため、形状・規模はともに不明である。**主軸方位:** N-32°-E。**床面:** 確認面からの深さは 25 cm を測る。床面はやや凹凸が見られる。**貯蔵穴:** なし。**カマド:** 北壁に設置される。燃焼部は幅約 50 cm、奥行き 110 cm を測り、壁外に造り出される。掘り方調査では両袖に相当する部分から円形ビットを検出した。右袖部分はこの円形ビットに板状の片岩を据えて芯にし、暗褐色粘質土で構築している状態を確認した。壁面は被熱により赤色化している。西側は流出により不明瞭である。**遺物:** カマド内や床面直上から土師器坏が少量出土した。**時期:** 8 世紀後半。



5b号住居跡 土層説明

- 1 暗褐色土: しまり強い、粘性やや強い。小礫 (φ 2 ~ 5 mm) を少量、焼土粒 (φ 1 ~ 2 mm) を微量含む。
- 2 暗褐色土: しまり強い、粘性やや強い。焼土粒 (φ 2 ~ 5 mm) を多量、小礫 (φ 2 ~ 5 mm) を少量含む。
- 3 明褐色土: しまり強い、粘性強い。暗褐色土ブロック・小礫 (φ 5 ~ 10 mm) を少量含む。
- 4 明褐色土: しまり強い、粘性強い。暗褐色土ブロックを少量、小礫 (φ 5 ~ 10 mm) を中量含む。
- 5 暗褐色土: しまり強い、粘性強い。小礫 (φ 5 ~ 10 mm) を中量、明褐色土ブロックを少量含む。壁の裏込めか。

図 123 5b号住居跡



5b号住居跡カマド 土層説明

- 6 暗褐色土：しまり強い、粘性やや強い。焼土ブロック（ ϕ 5～10mm）を多量、片岩（ ϕ 2～5mm）を中量、粘土を少量含む。
 7 暗褐色土：しまりやや強い、粘性強い。焼土粒（ ϕ 3～5mm）を中量、粘土を少量含む。
 8 暗褐色土：しまり強い、粘性強い。焼土粒（ ϕ 2～5mm）・粘土粒を中量含む。
 9 暗褐色土：しまり強い、粘性強い。焼土粒（ ϕ 2～3mm）・片岩粒（ ϕ 2～5mm）を少量含む。
 10 暗褐色土：しまりやや強い、粘性強い。片岩粒（ ϕ 2～5mm）を少量、焼土を微量含む。火床面。
 11 暗褐色土：しまり強い、粘性やや強い。片岩粒（ ϕ 5～10mm）を少量。焼土粒（ ϕ 1～2mm）を微量含む。
 12 暗褐色土：しまり強い、粘性やや強い。6層に準ずる。片岩粒を中量含む。
 13 暗褐色土：焼土粒・片岩粒（ ϕ 1～2mm）を微量含む。流失した土と思われる。

図 124 5b号住居跡カマド



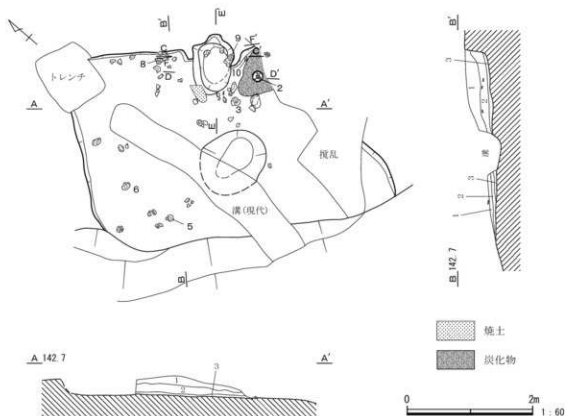
図 125 5b号住居跡出土遺物

表 26 5b号住居跡出土遺物観察表

1	土師器 坏	A. 口縁部径 12.6、器高 3.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 器面荒れ調整不明瞭。D. 白色粒、褐色粒。E. 内外一橙色。F. 口縁部一部欠損。H. 覆土中。
2	須恵器 蓋	A. 幅径 5.9。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。天井部回転篋ケズリ。D. 白色粒、褐色粒、礫。E. 外一暗灰黄色、内一灰黄褐色。F. 幅み～天井部残存。G. 酸化塩焼成。H. ビット内。
3	須恵器 蓋	A 幅径 4.1。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。D. 褐色粒。E. 内外一灰白色。F. 幅み部残存。G. 酸化塩焼成。H. 覆土中。

6号住居跡 (図126～129、表27／写真図版28・29・79)

位置：調査区中央に位置する。**重複：**住居中央にある溝は、現表面でも落ち込みが確認できており、竹の根等が多量に入り込み現代の根切り溝的性格のものと思われるが、As-Aの顕著な堆積等は確認できなかった。**形状・規模：**土砂流出および攪乱のため、平面形は不整形を呈する。規模は、南壁の一部確認された所で計測すると、北西-南東軸4.80 mを測る。**主軸方位：**N-48°-E。**床面：**確認面からの深さは35 cmを測る。床面はやや凹凸が見られる。中央部に床下土坑を検出した。平面形は楕円形を呈し、長径100 cm以上、短径90 cm、深さ23 cmを測る。**貯蔵穴：**なし。**カマド：**東壁に設置される。燃焼部は残存している部分で幅50 cm、奥行き50 cmを測る。ほぼ壁内に造り付けられる構造と考えられ、20 cm程を壁外に造り出す。袖部分はもう少し壁内に長く付けられていたものと思われるが残存していない。奥壁際に片岩を支脚とし2本立てている。向かって右側の支脚の上には4の須恵器高台付塊が伏せた状態で出土している。掘り方は楕円形状を呈し、長径75 cm、短径50 cm、深さ5 cmを測る。**遺物：**カマドや覆土中から土師器甕や、多量の須恵器杯・高台付塊・甕・羽釜等の破片が出土した。**時期：**9世紀後半。



6号住居跡 土層説明

- 1 暗褐色土:しまりやや強い、粘性やや強い、焼土粒(φ2mm)・炭化物粒(φ1mm)・片岩粒(φ5mm)を中量、明褐色粘質土・片岩小礫(φ50mm)を少量含む。
- 2 暗褐色土:しまりやや強い、粘性やや強い、1層に準ずる。住居跡に伴うと思われる遺物を包含する。
- 3 暗褐色土:しまりやや強い、粘性やや強い、炭化物粒(φ1mm)を多量含む。

図126 6号住居跡

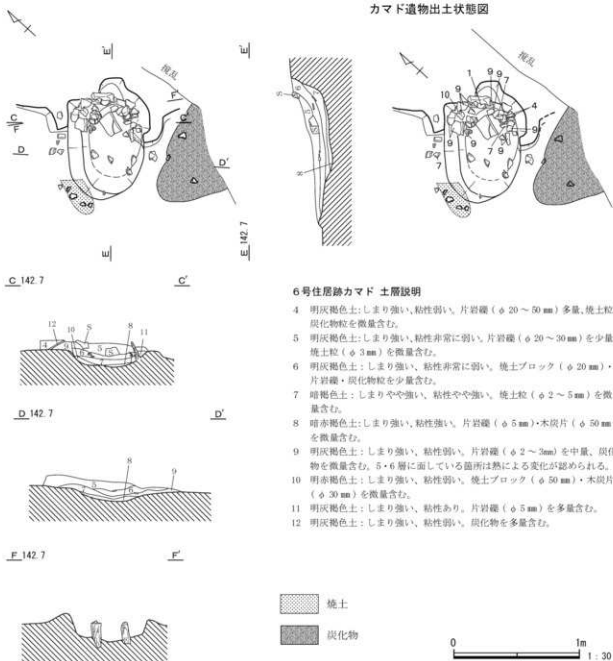


図127 6号住居跡カマド

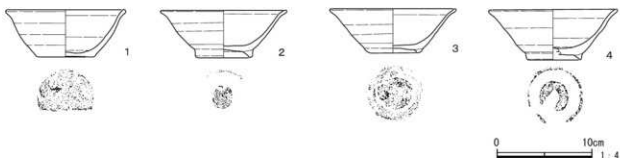


図128 6号住居跡出土遺物(1)

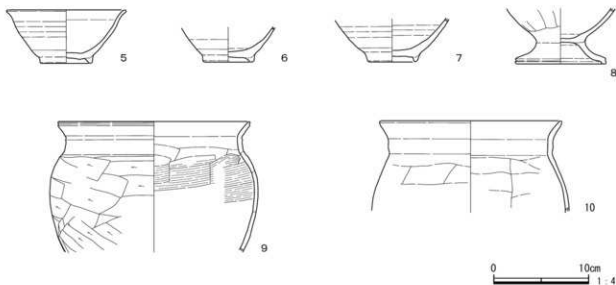


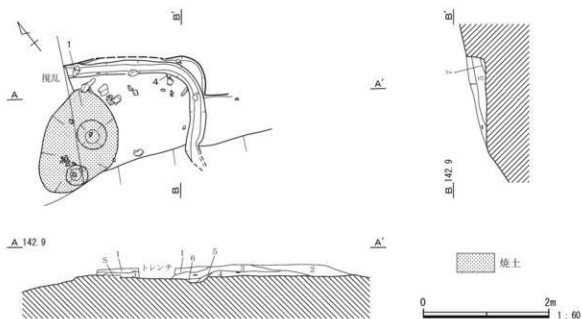
図 129 6号住居跡出土遺物(2)

表 27 6号住居跡出土遺物観察表

1	須恵器 坏	A. 口縁部径(12.1)、器高5.0、底部径5.9、B. ロクロ成形、C. 内外面回転ナデ、底部右回転糸切り、D. 白色粒、褐色粒、縄、E. 外一暗灰黄色、内一灰黄褐色、F. 1/3、G. 酸化焙焼成、H. カマド内。
2	須恵器 高台付埴	A. 口縁部径12.9、器高5.0、底部径5.6、B. ロクロ成形、C. 内外面回転ナデ、底部右回転糸切り、D. 白色粒、褐色粒、縄、E. 外一灰黄色、内一黒褐色、F. 7/8、G. 酸化焙焼成、H. 床面直上。
3	須恵器 高台付埴	A. 口縁部径13.0、器高4.7、底部径4.7、B. ロクロ成形、C. 内外面回転ナデ、底部右回転糸切り、D. 白色粒、褐色粒、縄、E. 外一黒褐色、内一にぶい褐色、F. 5/6、G. 酸化焙焼成、H. 床面直上。
4	須恵器 高台付埴	A. 口縁部径13.2、器高5.4、底部径5.4、B. ロクロ成形、C. 内外面回転ナデ、底部回転糸切り、D. 白色粒、褐色粒、E. 外一黒褐色、内一にぶい褐色、F. 3/4、G. 酸化焙焼成、H. カマド内。
5	須恵器 高台付埴	A. 口縁部径(12.3)、器高5.6、底部径5.1、B. ロクロ成形、C. 内外面回転ナデ、底部回転糸切り、D. 白色粒、褐色粒、E. 外一褐色、内一黒褐色、F. 2/5、G. 酸化焙焼成、H. 床面直上、覆土中。
6	須恵器 高台付埴	A. 底部径4.8、B. ロクロ成形、C. 内外面回転ナデ、底部右回転糸切り、D. 白色粒、褐色粒、E. 外一灰黄褐色、内一灰黄色、F. 1/4、G. 酸化焙焼成、H. 覆土中。
7	須恵器 高台付埴	A. 底部径4.8、B. ロクロ成形、C. 内外面回転ナデ、底部右回転糸切り、D. 白色粒、褐色粒、E. 外一にぶい黄褐色、内一にぶい褐色、F. 1/4、G. 酸化焙焼成、H. カマド内。
8	土師器 台付甕	A. 底部径9.1、B. 粘土紐積み上げ、C. 胴部外面艶ケズリ、内面艶ナデ、上部内外面ヨコナデ、D. 白色粒、褐色粒、E. 外一にぶい褐色、内一灰黄褐色、F. 胴部下位～台部1/3、H. 床面直上。
9	土師器 甕	A. 口縁部径20.1、B. 粘土紐積み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面艶ケズリ、内面艶ナデ、D. 白色粒、褐色粒、雲母、縄、E. 内外一灰褐色、F. 口縁部～胴部中位3/5、H. カマド内。
10	土師器 甕	A. 口縁部径(18.9)、B. 粘土紐積み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面艶ケズリ、内面艶ナデ、D. 白色粒、褐色粒、雲母、E. 外一橙色、内一にぶい赤褐色、F. 口縁部～胴部上位1/4、H. 床面直上、カマド内。

8号住居跡(図130・131、表28/写真図版29・79)

位置: 調査区中央に位置する。**形状・規模:** 攪乱および土砂流出のため、辛うじて北東部分を検出したのみであり、形状・規模ともに不明である。**床面:** 確認面から深さは28cmを測り、床面はやや凹凸が見られる。西寄りにやや不整な楕円形状に焼土の分布が見られる。長径1.70m、短径1.20m、深さ10cmで焼土の堆積が見られ、中に小ビットを2基検出した。径45cm、深さ8cmと、径35cm、深さ10cmのものである。**壁溝:** 検出した壁では、すべての壁に沿って壁溝が掘られている。幅15～24cm、深さ6cmを測る。**貯蔵穴:** なし。**カマド:** 不明。**遺物:** 覆土中から土師器鉢、須恵器坏等の破片が少量出土した。**時期:** 9世紀。



8号住居跡 土層説明

- 1 暗灰褐色土：しまり強い、粘性やや強い、片岩粒（ $\phi 5 \sim 10 \text{mm}$ ）を多量、暗褐色粘質土を少量、焼土粒（ $\phi 1 \text{mm}$ ）を微量含む。
- 2 暗灰褐色土：しまり強い、粘性やや強い、片岩粒（ $\phi 5 \sim 10 \text{mm}$ ）を中量、焼土粒（ $\phi 2 \sim 5 \text{mm}$ ）を少量含む。
- 3 暗灰褐色土：しまり強い、粘性やや強い、片岩粒（ $\phi 5 \sim 10 \text{mm}$ ）を多量、片岩（ $\phi 30 \sim 50 \text{mm}$ ）・焼土粒（ $\phi 2 \sim 5 \text{mm}$ ）を中量、炭化物・暗褐色粘質土を少量含む。
- 4 暗褐色土：しまり強い、粘性強い、片岩粒（ $\phi 5 \sim 10 \text{mm}$ ）を多量、焼土粒（ $\phi 1 \sim 2 \text{mm}$ ）を少量、炭化物粒（ $\phi 1 \sim 2 \text{mm}$ ）を微量含む。
- 5 暗褐色土：しまり強い、粘性強い、4層に準ずる。片岩粒（ $\phi 5 \sim 10 \text{mm}$ ）を少量含む、4層の流れ込みと考えられる。
- 6 暗灰褐色土：しまり強い、粘性やや強い、片岩粒（ $\phi 5 \sim 10 \text{mm}$ ）を多量、焼土粒（ $\phi 1 \sim 2 \text{mm}$ ）を微量含む。
- 7 暗褐色土：しまり強い、粘性強い、片岩粒（ $\phi 2 \sim 5 \text{mm}$ ）を少量、焼土粒（ $\phi 1 \sim 2 \text{mm}$ ）を微量含む。

図 130 8号住居跡

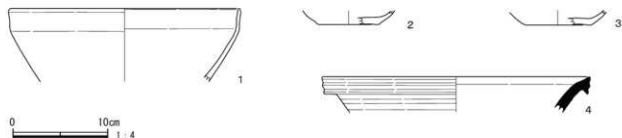


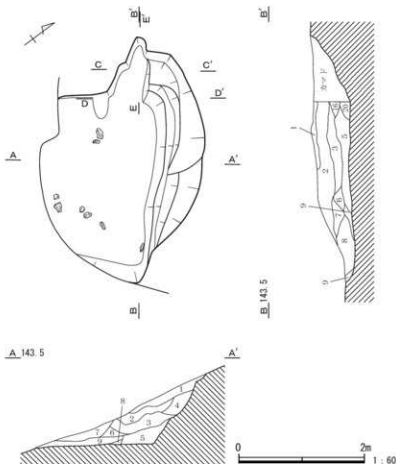
図 131 8号住居跡出土遺物

表 28 8号住居跡出土遺物観察表

1	土師器鉢	A. 口縁径(24.0)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデ。体部器面荒れ調整不明瞭。D. 白色粒、褐色粒。E. 外一黄褐色、内一橙色。F. 口縁部～体部破片。H. 覆土中。
2	須恵器杯	A. 底部径6.4。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部回転糸切り。D. 白色粒、褐色粒、片岩。E. 外一灰白色、内一褐色。F. 体部下位～底部破片。G. 酸化塩焼成。H. 覆土中。
3	須恵器杯	A. 底部径7.0。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部回転糸切り。D. 白色粒、褐色粒、鉄。E. 外一灰黄色、内一黄灰色。F. 体部下位～底部破片。G. 酸化塩焼成。H. 覆土中。
4	須恵器甕	A. 口縁径(28.0)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。D. 白色粒、褐色粒。E. 内外一黄灰色。F. 口縁部破片。G. 還元塩焼成。H. 床面直上。

9号住居跡(図132~134、表29/写真図版29・30・79)

位置: 調査区東端に位置する。**形状・規模:** 土砂流出のため平面形は確定できない。規模は、確認された範囲では北西-南東軸3.10mを測る。**主軸方位:** N-52°-W。**床面:** 確認面からの深さは55cmを測り、床面はやや凹凸が見られる。**貯蔵穴:** なし。**カマド:** 北壁東隅に設置される。燃焼部は幅55cm、奥行き100cmで壁外に造り出される。壁内に袖部を設けるが、左袖のみの残存であり焚口幅等は不明である。火床面、壁面とも被熱により赤色化している。**遺物:** カマド内から土師器環の破片が少量出土した。**時期:** 9世紀前半。



9号住居跡 土層説明

- 1 暗褐色土: しまりあり, 粘性あり, 片岩礫(φ2~4mm)・焼土を多量, YPを微量含む。
- 2 明褐色土: しまり強い, 粘性やや強い, 片岩礫を微量含む。砂質土。
- 3 暗黄褐色土: しまり強い, 粘性やや強い, YP, 片岩礫(φ30mm)を少量, 暗褐色粘質土ブロックを少量含む。
- 4 暗褐色土: しまりあり, 粘性弱い, 焼土粒(φ2mm), 片岩礫(φ4~5mm)を少量含む。
- 5 明黄褐色土: しまり弱い, 粘性強い。
- 6 灰褐色土: しまりあり, 粘性弱い, 焼土粒(φ2~3mm)・片岩礫(φ4mm)を少量含む。
- 7 黒褐色土: しまり強い, 粘性非常に弱い, 片岩礫(φ4~5mm)を多量, 焼土粒(φ2~3mm)を少量含む。
- 8 黒褐色土: 7層に順ずる, 焼土粒(φ2mm)を中量含む。
- 9 黒褐色土: しまり強い, 粘性あり, 焼土粒(φ2~4mm), 中量含む, 片岩礫(φ1~2mm)を微量含む。

カマド

- 10 黒褐色土: しまり強い, 粘性弱い, 片岩礫(φ2~5mm)・片岩焼土粒(φ2~4mm)を含む。
- 11 黒褐色土: 暗褐色粘質土ブロック(φ2mm)を少量含む。
- 12 褐色土: しまり強い, 粘性強い, 暗褐色粘質土ブロック(φ2cm)を中量, 片岩礫(φ4~5mm)・焼土(φ2~3mm)を少量含む。

- 13 明黄褐色土: しまりあり, 粘性やや弱い, 片岩礫(φ1~2mm)を少量, 焼土・炭化物粒を微量含む。崩落壁ブロック。
- 14 褐色土: しまりあり, 粘性やや弱い, 焼土粒・明褐色砂・焼土ブロック(φ10~30mm)・片岩礫(φ2mm), 炭化物粒(φ2~3mm)を少量含む。崩落壁ブロック。
- 15 黒褐色土: しまりあり, 粘性やや強い, 焼土粒(φ2~3mm)を多量, 炭化物粒(φ5mm)を少量, 片岩礫・焼土ブロック(φ7~8mm)・片岩礫(φ1~2mm)微量含む。
- 16 明褐色土: 片岩礫(φ5mm)を中量, 炭化物粒・焼土粒(φ2mm)を微量含む。流入土。
- 17 明褐色土: しまりやや強い, 粘性やや強い, 片岩礫・焼土粒(φ10mm)を中量含む。カマド袖崩落土。
- 18 明褐色土: しまりやや強い, 粘性やや強い, 片岩礫(φ2mm)を中量, 焼土粒・炭化物粒(φ5mm)を少量含む。補修したもの。

- 19 黒褐色土: しまり強い, 粘性強い, 焼土ブロック・炭化物(φ8mm)を中量, 炭化物(φ3~5mm)を部分的に多量含む, 片岩(φ1~2mm)を少量, 片岩礫(φ1~2mm)を微量含む。
- 20 黒褐色土: しまりやや弱い, 粘性あり, 焼土(φ2~5mm)を中量, 片岩礫・炭化物粒(φ1~3mm)を微量含む。
- 21 黒褐色土: しまりやや弱い, 粘性非常に弱い, 片岩礫(φ1~5mm)を多量, 焼土粒(φ2~4mm)を少量含む。
- 22 明黄褐色土: しまり弱い, 粘性弱い, 焼土(φ1~2mm)を少量含む。
- 23 明褐色土: しまりやや強い, 粘性強い, 焼土ブロック(φ10mm)を中量, 片岩礫(φ5mm)・炭化物粒(φ2mm)を少量含む。
- 24 明褐色土: 15層に準ずる, 焼土粒を多量含む。
- 25 赤褐色土: 焼土ブロック。
- 26 赤褐色土: しまり強い, 粘性あり, 焼土粒(φ4~5mm)を多量, 炭化物粒(φ2~3mm)を少量含む。

図132 9号住居跡

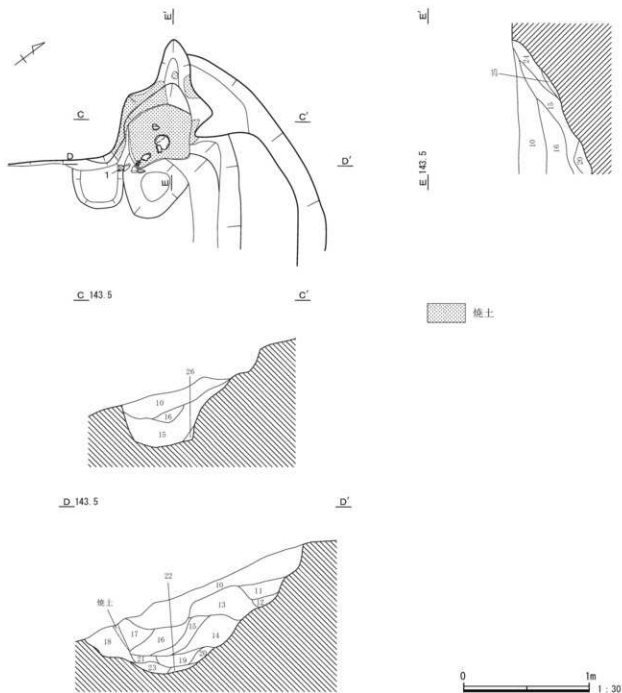


図 133 9号住居跡カマド



図 134 9号住居跡出土遺物

表 29 9号住居跡出土遺物観察表

1	土師器 坏	A. 口縁径12.6, 器高2.9. B. 粘土組織み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部～底部外面艶ケズリ、内面器面荒れ調整不明瞭. D. 白色粒、褐色粒. E. 内外一橙色. F. 3/4. H. カマド内.
---	----------	---

(2) 土坑

1号土坑 (図 136)

位置：調査区中央に位置する。重複：2号土坑と重複するが、新旧関係は不明である。形状・規模：平面形は楕円形を呈する。長径0.53 m、短径0.38 m、深さ25 cmを測る。南隅ピットの深さは40 cmである。覆土：不明。遺物：出土しなかった。時期：不明。

2号土坑 (図 136)

位置：調査区中央に位置する。重複：1号土坑と重複するが、新旧関係は不明である。形状・規模：平面形は円形を呈する。直径0.65 m、深さ25 cmを測る。覆土：不明。遺物：出土しなかった。時期：不明。

3号土坑 (図 136)

位置：調査区中央に位置する。形状・規模：平面形は楕円形を呈する。長径1.05 m、短径0.76 m、深さ50 cmを測る。覆土：不明。遺物：土師器坏・甕、須恵器坏等の小破片が出土した。時期：不明。

4号土坑 (図 136)

位置：調査区中央に位置する。形状・規模：平面形はやや楕円形を呈する。長径0.56 m、短径0.44 m、深さ30 cmを測る。覆土：不明。遺物：片岩や土師器甕、須恵器甕等の小破片が少量出土した。時期：不明。

5号土坑 (図 136)

位置：調査区中央に位置する。形状・規模：平面形は楕円形を呈する。長径0.68 m、短径0.55 m、深さ23 cmを測る。覆土：不明。遺物：出土しなかった。時期：不明。

6号土坑 (図 136 / 写真図版 30)

位置：調査区中央東寄りに位置する。形状・規模：平面形は不整形な三角形に近い形を呈する。長径0.80 m、短径0.57 m、深さ18 cmを測る。覆土：不明。遺物：出土しなかった。時期：不明。

7号土坑 (図 136 / 写真図版 30)

位置：調査区中央東寄りに位置する。形状・規模：平面形は楕円形を呈する。長径1.60 m、短径1.05 m、深さ20 cmを測る。覆土：不明。遺物：土師器坏、須恵器坏・高台付坑・甕等の小破片が少量出土した。時期：不明。

8号土坑 (図 136 / 写真図版 31)

位置：調査区中央東寄りに位置する。形状・規模：平面形は中央部の括れた不整形な形状を呈する。長径0.67 m、短径0.40 m、深さ18 cmを測る。覆土：不明。遺物：土師器坏の小破片や、須恵器瓶類の底部破片が出土した。時期：不明。

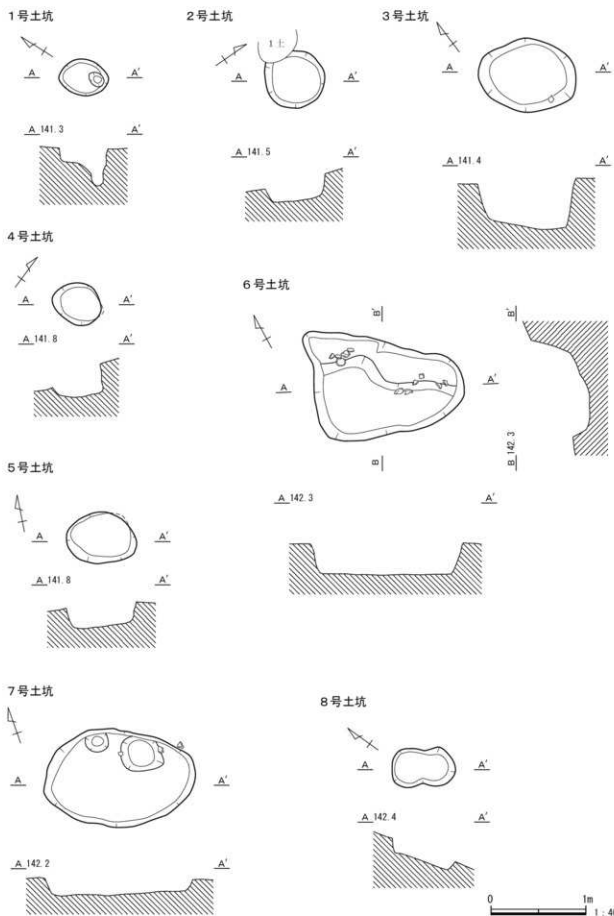
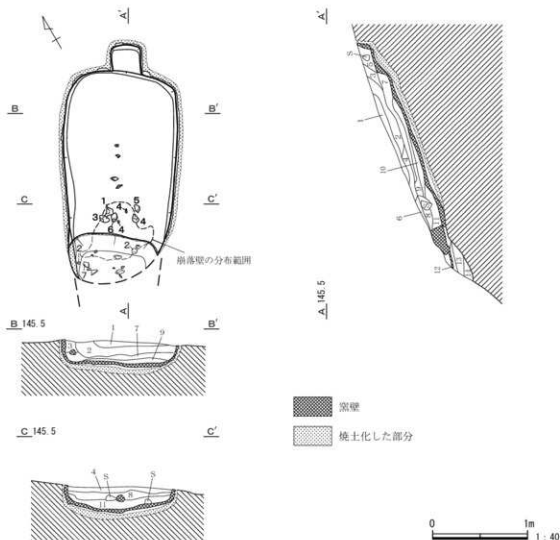


图 135 1~8号土坑

(3) 窯跡

1号窯跡 (図 137・138、表 30 / 写真図版 31・79)

位置：調査区東端に位置する。形状・規模：南西に傾斜する斜面に対し直交して設置される。半地下式窯であり、確認面から 25 cm 程掘り込まれる。南西側は土砂の流出で範囲が確定できないため全長



1号窯跡 土層説明

- 1 明褐色土：しまり強い、粘性弱い、炭化物粒・焼土粒 (φ 0.5 mm)・片岩粒 (φ 5 cm)・白色粒・YP (φ 1 mm) を微量含む。
- 2 暗褐色土：しまり強い、粘性弱い、片岩礫 (φ 5 ~ 20 mm)・焼土粒 (φ 0.1 mm) を少量含む。
- 3 明褐色土：しまり強い、粘性弱い、YP (φ 1 ~ 20 mm) を多量、炭化物粒 (φ 1 ~ 10 mm)・片岩礫 (φ 1 ~ 5 mm) を少量含む。
- 4 黒褐色土：しまり強い、粘性弱い、炭化物粒・焼土粒 (φ 1 ~ 20 mm) を中量、礫 (φ 20 ~ 30 mm) を少量含む。
- 5 暗褐色土：しまり強い、粘性弱い、焼土粒・白色粒 (φ 2 ~ 3 mm) を少量含む。
- 6 明褐色土：しまり強い、粘性弱い、片岩礫 (φ 2 mm) を多量含む。崩落した窯壁が含まれている。
- 7 明褐色土：しまり強い、粘性弱い、片岩礫 (φ 10 ~ 20 mm)・焼土粒 (φ 1 ~ 10 mm) を多量、炭化物粒 (φ 20 ~ 30 mm) を中量含む。
- 8 明褐色土：しまり強い、粘性弱い、焼土ブロック (φ 30 ~ 50 mm) を多量、炭化物粒 (φ 5 ~ 20 mm) を中量含む。
- 9 暗褐色土：しまり強い、粘性弱い、焼土粒 (φ 10 mm)・炭化物粒 (φ 10 ~ 30 mm) を多量含む。
- 10 明褐色土：しまり強い、粘性弱い、焼土粒 (φ 10 mm以下)・焼土ブロック (φ 10 ~ 30 mm) を多量、窯壁片 (φ 5 mm) を中量含む。
- 11 暗褐色土：しまり強い、粘性弱い、窯壁片 (φ 5 ~ 20 mm) を多量、炭化物粒 (φ 1 ~ 10 mm)・焼土 (φ 5 ~ 10 mm) を中量含む。
- 12 暗褐色土：しまり強い、粘性弱い、窯壁片 (φ 5 ~ 20 mm)・黄色粒 (φ 1 ~ 2 mm) を多量、焼土粒 (φ 1 ~ 3 mm) を少量、炭化物粒 (φ 1 ~ 2 mm) を微量含む。
- 13 赤褐色土：しまり強い、粘性弱い、焼土粒 (φ 1 ~ 30 mm) を多量、炭化物粒 (φ 10 ~ 20 mm)・黄色粒 (φ 1 ~ 5 mm) を中量、窯壁片 (φ 10 ~ 20 mm) を少量含む。
- 14 黒褐色土：しまり強い、粘性ややあり、片岩礫 (φ 5 ~ 10 mm) を多量、焼土粒 (φ 1 ~ 5 mm) を中量、炭化物粒 (φ 1 ~ 3 mm) を少量含む。

図 136 1号窯跡

は不明であるが、確認された範囲では長さ2.60 mを測る。焼成部の幅は1.20 m、煙道部は長さ0.35 m、幅0.32 mを測る。形状は燃燒部側より焼成部の奥に向かってやや開いて行く状態であり、わずかに胴部の張る長方形状を呈す。煙道部は奥壁中央から隅九方形状に突出し、奥壁は垂直に近い状態で立ち上がる。主軸方位：N-30°-E。床面・側壁：焼成部の底面は小さい凹凸が見られ、壁は緩やかに立ち上がる。煙道部の壁面および底面、その下段の壁面は丁寧に撫でられており、比較的平滑である。燃燒部の床面の傾斜は21°を測り、奥壁は55°の角度で立ち上がり、煙道部の床面は15°の傾斜となり奥壁が直に上がる。窯壁はスサ入りの粘土によって構築されており、内側から黄白色、青の還元層、地山は赤色の酸化層が見られる。床面は基本的に1枚であるが、燃燒部に近い方では断面図の12層の上で床面と認められる面があるものの下面はほとんど焼土化しておらず、この部分は新しい床面と思われる。この下の13・14層では窯壁片が含まれることから造り替え等の可能性が考えられる。遺物：須恵器坏が少量、甕の胴部破片、土師器小形甕の破片等が出土した。その他、燃燒部に近い部分で崩落した窯壁の下からは、焼台に使用したと思われる片岩が出土した。

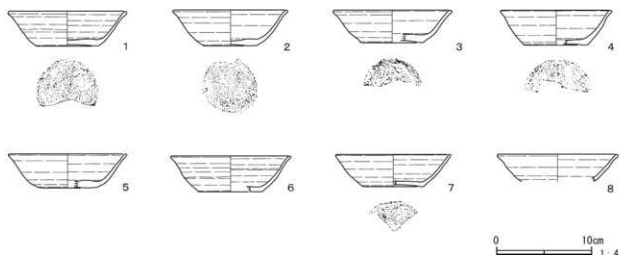


図 137 1号窯跡出土遺物

表 30 1号窯跡 出土遺物観察表

1	須恵器 坏	A. 口縁部径(12.4)、器高3.7、底部径6.6。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部回転系切り。D. 白色粒、片岩。E. 外一灰褐色、内一灰黄褐色。F. 2/5。G. 酸化煅焼成。H. 覆土中。
2	須恵器 坏	A. 口縁部径(11.9)、器高3.8、底部径5.6。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部右回転系切り。D. 白色粒、礫。E. 外一暗灰色、内一灰黄褐色。F. 1/3。G. 酸化煅焼成。H. 床面直上。
3	須恵器 坏	A. 口縁部径12.3、器高3.5、底部径6.5。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部回転系切り。D. 白色粒、片岩、礫。E. 外一暗灰色、内一褐色。F. 2/5。G. 酸化煅焼成。H. 覆土中。
4	須恵器 坏	A. 口縁部径(11.6)、器高3.7、底部径6.6。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部回転系切り。D. 黑色粒・白色粒、片岩。E. 外一淡灰色、内一黄灰色。F. 1/3。G. 酸化煅焼成。H. 覆土中。
5	須恵器 坏	A. 口縁部径(12.4)、器高3.6、底部径6.4。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部回転系切り。D. 黑色粒・白色粒、片岩。E. 外一暗灰褐色、内一灰黄褐色。F. 1/4。G. 酸化煅焼成。H. 覆土中。
6	須恵器 坏	A. 口縁部径(12.6)、器高3.8、底部径(6.6)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部回転系切り。D. 白色粒、片岩。E. 外一暗灰褐色、内一5%黄褐色。F. 1/4。G. 酸化煅焼成。H. 覆土中。
7	須恵器 坏	A. 口縁部径(12.0)、器高3.4、底部径(6.4)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部回転系切り。D. 白色粒。E. 外一暗灰色、内一灰黄褐色。F. 1/4。G. 酸化煅焼成。H. 床面直上。
8	須恵器 坏	A. 口縁部径(12.6)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。D. 黑色粒・白色粒。E. 外一暗灰色、内一灰黄褐色。F. 口縁部~体部 1/5。G. 酸化煅焼成。H. 覆土中。

(4) 埋没谷

埋没谷 (図 139 ~ 147、表 31 ~ 37 / 写真図版 31 ~ 33・80 ~ 84)

調査区は南西に傾斜する斜面地であり、発掘前の状況は遺構の集中した傾斜の緩い部分は桑畑、谷部は水田であったものが荒廃した状態であった。この埋没谷には純層に近いAs-Bを介して遺物包含層が形成されており、土器・木製品・鉄製品・自然遺物等多岐にわたる遺物が出土した。また、谷の最下層では木杭列によって流路を変更された溝(1号溝)等を検出した。

土層断面図Aの68層中で遺物が最も多く、土器類は、須恵器大甕・甕・長頸壺・横瓶・広口甕・鉢・蓋・坏・高台付埴・羽釜、土師器甕・台付甕・鉢・坏、暗文土器の坏等が出土した。時期は概ね8世紀から10世紀初頭と考えられる。木製品には、紀年銘木簡を始めとして、盤・椀・曲物・火鑽臼や加工痕のあるもの、桃等の種子類や植物遺存体や獣歯・獣骨片等、鉄製品では鎌や針状のもの、一部に漆塗膜の遺存する銅製巡方、またこの層の東側では特に鉄滓等が集中して出土した。

○土器類

1 ~ 37は墨書土器であり「長」が23点と大半を占め、「凡」が3点、「太」「大」「小」「十」「月」等が各1点見られる。38 ~ 42は線刻土器であり「十」や「井」等九字の省略と思われるものが多い。墨書された土器は土師器坏および須恵器坏であり、土器の形態からは8世紀末~9世紀前半頃のものと考えられる。64 ~ 81の須恵器は蓋・高台付坏・坏といった器種であるが、内面のみ或いは外面口縁まで及ぶ篋ミガキを施している点で他に例を見ないものである。底部は回転篋ケズリ調整を行っている。坏の形状は平底で体部が大きく開き、口縁部が屈折して立ち上がる特徴を持つ。色調はにぶい黄褐色を呈し、胎土は肌理細かく、雲母を少量含む軟質な傾向にある。蓋や高台付坏の形態、坏の底部調整からは8世紀前半から中頃の所産と考えられる。

○紀年銘木簡

木簡は遺物包含層中位やや上から、文字面を下にしてわずかに傾斜した状態で出土した。ヒノキの板で、長さ18.2 cm、幅3.7 cm、厚さ0.5 cm、上端は欠損しているが下端部は原形を保ち、文字は比較的良好に遺存している。積文は以下の通りである。

「檜前マ名代女上寺稲肆拾束

宝亀二年十月二日税長大伴国足」

内容は古代の出挙に関わるものと考えられ、「檜前部名代女」という名の女性が、「寺稲」を借りて返済し、その収納を古代の郡役所の税長である「大伴国足」という役人が確認したものであると推定される。宝亀二年(771)と紀年銘を記した木簡は本県では初めての出土である。

○小鍛冶関連遺物

製鉄や小鍛冶に関する遺構は検出していないが、小鍛冶に関連する遺物が谷に廃棄された状態で多く出土しており、本遺跡に近接して鍛冶遺構が存在すると考えられる。出土した遺物は好壁の破片が19.79 kg、埴形鍛冶滓が多量に見られ、大(1000 g未満)が4個で2.7251 kg、中(500 g未満)が26個で8.7585 kg、小(250 g未満)が26個で5.1363 kg、極小(125 g未満)が47個で3.5522 kgを測り、総重量は約31.6 kgである。その他、鉄塊系遺物が254.3 g、炉内滓が167.5 g、羽口の破片も出土した。

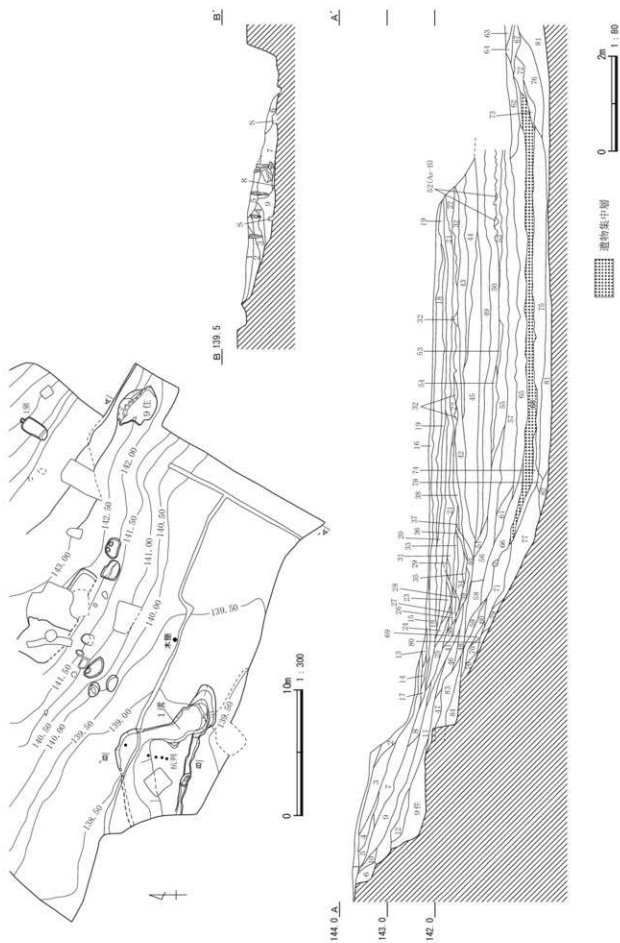


图 138 標塔谷

1号溝 土層説明

- 暗灰褐色土：しまりやや弱い、粘性やや強い、片岩粒(φ3mm)を多量、YPを微量含む。
- 暗灰褐色土：しまりやや弱い、粘性やや強い、片岩粒を多量含む。
- 暗緑色土：しまりやや弱い、粘性やや弱い、暗灰褐色粘質土を多量、片岩粒(φ5mm)・緑色粘質土粒(φ0.1mm)を中量含む。
- 暗緑色土：しまりやや弱い、粘性やや弱い、暗灰褐色粘質土を多量、片岩粒(φ5mm)を少量、植物遺存体を微量含む。
- 灰褐色土：しまりやや弱い、粘性やや弱い、1層に準ずるが、YPは含まない。
- 暗青灰色土：しまりやや弱い、粘性やや弱い、暗灰褐色粘質土・片岩粒(φ3mm)を多量含む。
- 暗青灰色土：しまりやや弱い、粘性やや弱い、6層に準ずる。片岩粒を中量含む。
- 暗灰色泥土：9層に準ずる。片岩粒を微量含む。
- 暗灰色泥土：しまり弱い、粘性弱い、暗灰色泥土を多量、植物遺存体(小枝・樹皮片)を少量、片岩粒(φ10mm)・小礫(φ3mm)を微量含む。

埋没谷 土層説明(1)

- 明褐色土：しまり強い、粘性弱い、片岩粒(φ5~20mm)を少量含む。
- 暗褐色土：しまり非常に弱い、粘性弱い、片岩粒(φ5mm)を少量含む。暗褐色粘質土粒子と暗灰色砂質土の混合物。
- 暗褐色土：しまり強い、粘性弱い、礫(φ5~20mm)を中量、焼土(φ1~5mm)を少量含む。炭化粒を含むため色調が暗い。
- 明褐色土：しまり強い、粘性弱い、片岩粒(φ2~30mm)を多量、焼土粒(φ2~10mm)を中量含む。
- 明褐色土：しまり強い、粘性やや強い、片岩粒(φ5~20mm)を多量、焼土粒(φ5mm)を中量、炭化物粒(φ1~2mm)を微量含む。
- 黄褐色土：しまり強い、粘性やや強い、片岩粒(φ2~10mm)を中量、焼土粒(φ1~10mm以下)を微量含む。
- 暗灰褐色土：しまりやや弱い、粘性弱い、砂礫(φ1mm)を多量、鉄分凝集粒(φ8mm)を中量含む。
- 淡褐色土：しまりやや弱い、粘性やや強い、淡褐色粘質土・片岩粒(φ2~8mm)を多量、炭化物粒・石英片岩粒(φ1mm)を微量含む。
- 明褐色土：しまり強い、粘性強い、礫(φ5~10mm)を多量、焼土粒(φ2~5mm)・炭化物粒(φ1~5mm)を中量含む。黄褐色粘質土が流入する。
- 明黄褐色土：しまり強い、粘性弱い、片岩粒(φ5~20mm)を少量、焼土粒(φ2~5mm)を微量含む。
- 淡褐色土：41層に準ずる。マンガン凝集をほとんど含まず色調がやや明るい。
- 暗赤褐色土：しまりやや弱い、粘性やや強い、焼土粒を多量、炭化粒を中量含む。
- 暗灰色土：7層に準ずる。暗灰色砂質土を多量、同凝集粒(φ8mm)を中量、鉄分凝集小ブロック(φ15mm)を微量含む。シルト様。
- 暗灰色土：7層に準ずる。暗灰色砂質土を多量、鉄分凝集ブロック(φ8~15mm)を中量含む。シルト様。
- 暗灰色砂礫土：しまりやや弱い、粘性弱い、砂礫・小礫(φ1mm)を多量、灰白色軽石粒(φ2mm)を中量、鉄分凝集粒(φ8mm)を少量含む。近世後期以降の耕作面の可能性もあるが、層が砂礫から成り、雨水等による流入・堆積の可能性も考えられる。時期を限定できる遺物は未発見。また、調査区外(南側)と同層及び16層上面より須臾形鏃部片、底部回転糸切りの環状片が検出されており、遺跡南西部旧沢の土層で試掘時に検出された住居跡等の崩壊・流失も考えられ、遺構埋没後の時間的経過の参考となるものであろう。
- 淡褐色土：しまりやや強い、粘性強い、暗灰色粘質土・片岩粒(φ5mm)を多量、石英片岩粒(φ1mm)を少量、炭化物粒(φ2mm)を微量含む。
幸層上位は1~2cmにわたり鉄分の酸化粒子(φ0.5mm)が層状を成しており、15層が水田であったことの証左であらう。時期については近世後期以降。
- 淡褐色土：しまりやや強い、粘性強い。暗灰色粘質土を多量、片岩粒(φ5mm)を中量、石英片岩粒(φ1mm)を少量含む。16層と異なる鉄分の酸化粒子層はみられない。
- 淡褐色土：しまりやや強い、粘性強い。暗灰色粘質土・片岩粒(φ10mm)を多量、石英片岩粒(φ1mm)・炭化物粒(φ2mm)・鉄分凝集粒(φ4mm)が中量、黒色粒(φ2mm)が微量含まれる。
- 淡褐色土：しまりやや強い、粘性強い。暗灰色粘質土を多量、片岩粒(φ5mm)を中量、片岩粒(φ3mm)・石英片岩粒(φ1mm)を少量、炭化物粒(φ3mm)を微量含む。層中には鉄分の凝集が縦位の筋状(幅8mm以下・長40~60mm)に少量存在する。
- 淡褐色土：19層に準ずる。縦位筋状の鉄分の凝集は19層よりやや多く中量存在する。
- 淡褐色土：しまりやや強い、粘性強い。暗灰色粘質土を多量、鉄分の酸化したと思われる粒子(φ0.1mm)・マンガン凝集を中量、片岩粒(φ4mm)・石英片岩粒(φ2mm)を少量、若小礫(φ3cm)を微量含む。
- 暗灰緑色土：灰緑色粘質土を多量、鉄分酸化粒子(φ0.1mm)を中量、縦位筋状凝集(幅3mm以下・長70mm以下)・片岩粒(φ4mm以下)を少量、石英片岩粒(φ1mm以下)を微量含む。
- 暗褐色土：しまりやや強い、粘性強い。暗灰色粘質土・片岩粒(φ5mm)を多量、同小ブロック(φ30mm)・石英片岩粒(φ1mm)を中量含む。
- 暗灰色土：しまりやや強い、粘性強い。暗灰色粘質土を多量、片岩粒(φ3mm)を少量、石英片岩粒(φ1mm)を微量含む。
- 暗褐色土：しまりやや強い、粘性やや強い。暗褐色粘質土・片岩粒(φ50mm)・片岩粒(φ5mm)・石英片岩粒(φ1mm)を少量含む。
- 幸この層は、1号窠体下部器集中層上層に対応するものである。しかし、その下端部は26・27・28層の上層に位置し、45層下のAr-B層と連続しないものである。このため後世の流入層堆積である可能性が高い。26・27・28層は20・21層等が水田の場合の用水路に相当するものか、沢筋であったものであろう。
- 暗褐色土：しまりやや強い、粘性やや強い。淡褐色粘質土と暗灰色粘質土の混合物。片岩粒(φ10mm)を少量含む。
- 暗灰色土：しまりやや強い、粘性やや強い。暗灰色粘質土を多量、片岩粒(φ10mm)・石英片岩粒(φ1mm)・マンガンの凝集ブロックを少量含む。
- 暗灰色土：しまりやや弱い、粘性やや強い。暗灰色粘質土を多量、片岩粒(φ2mm)を中量、石英片岩粒(φ1mm)を微量含む。
- 淡褐色土：しまりやや強い、粘性やや強い。片岩粒(φ2mm)を少量、石英片岩粒(φ2mm)を微量含む。暗灰色粘質土と灰色粘質土の混合物。
- 暗褐色土：しまりやや強い、粘性やや強い。15層に準ずる。淡褐色粘質土小ブロック(φ10mm)を少量含む。
- 灰色土：しまりやや強い、粘性やや弱い。灰色粘質土を多量、片岩粒(φ4mm)を中量、石英片岩粒(φ1mm)・鉄分凝集を少量、炭化物粒(φ2mm)を微量含む。
- 暗灰緑色土：灰緑色粘質土を多量、鉄分凝集を微量含む。22層~42層の漸移層。
- 灰色土：しまりやや強い、粘性やや弱い。灰色粘質土を多量、片岩粒(φ4mm)・マンガン粒子(φ0.1mm)を少量、鉄分凝集(筋状・幅3mm以下・長20~30mm以下)・片岩粒(φ2mm)・石英片岩粒(φ1mm)を微量含む。

埋没谷 土層説明(2)

- 34 灰色土:しまりやや強い、粘性やや弱い、灰色粘質土を多量、片岩粒(φ10mm)を中量、片岩粒(φ2mm)・石英片岩粒(φ1mm)・マンガラン粒子(φ0.1mm)を少量含む。
- 35 灰色土:34層に準ずる。片岩粒を少量、鉄分凝集なし。
- 36 灰色土:34層に準ずる。片岩粒を微量含む、鉄分凝集なし。
- 37 灰色土:しまりやや強い、粘性やや弱い、灰色粘質土と緑色粘質土の混合土。片岩粒(φ4mm)を少量、石英片岩粒(φ1mm)・鉄分凝集(筋幅3mm以下・長20mm以下)を微量含む。
- 38 緑色土:しまりやや強い、粘性やや弱い、片岩粒(φ4mm)を中量、片岩粒(φ3mm以下)・鉄分凝集酸化粒子(φ0.1mm)を少量、石英片岩粒(φ1mm)を微量含む。
- 39 暗灰色土:しまりやや強い、粘性やや弱い、灰色粘質土・片岩粒(φ4mm)・砂・未分解の有機質を多量含む。8層の再堆積層。
- 40 暗緑色土:しまりやや強い、粘性やや弱い、38層に準ずる。緑色粘質土を多量、片岩粒(φ2~4mm)・鉄分凝集(筋幅4mm以下・長30~40mm)を少量含む。
- 41 淡暗褐色土:しまり強い、粘性やや弱い、淡暗褐色粘質土を多量、淡灰色粘質土小ブロック(φ20mm)・マンガラン粒子(φ0.1mm)・片岩粒(φ4mm)を少量、石英片岩粒(φ1mm)を微量含む。
- 42 緑色土:しまりやや強い、粘性やや弱い、緑色粘質土を多量、片岩粒(φ8mm)を中量、明緑色粘質土ブロック(φ50mm)・炭化物粒(φ3mm)を微量含む。
- 43 緑色土:しまりやや強い、粘性やや弱い、片岩粒(φ8mm)を中量含む。緑色粘質土と暗緑色粘質土の混合土。
- 44 暗緑色土:しまりやや強い、粘性やや弱い、暗緑色粘質土を多量、片岩粒(φ8mm)を中量含む。
- 45 明緑色砂礫土:しまりやや強い、粘性やや弱い、明緑色粘質土を多量、片岩粒(φ8mm)を中量、暗緑色粘質土ブロック(φ30mm)を少量含む。
- 46 淡暗褐色土:しまり強い、粘性やや弱い、マンガラン粒子(φ0.1mm)・片岩粒(φ4mm)を少量、石英片岩粒(φ1mm)を微量含む。淡暗褐色粘質土と灰色粘質土を含む混合土。
- 47 淡暗褐色土:しまり強い、粘性弱い、淡暗褐色粘質土を多量、淡灰色粘質土・マンガラン凝集粒(φ8mm)・片岩粒(φ2mm)を少量含む。
- 48 淡暗褐色土:しまりやや強い、粘性やや弱い、46層に準ずる。片岩粒(φ10mm)を少量含む。
- 49 暗緑色土:しまりやや強い、粘性やや弱い、暗緑色粘質土を多量、片岩粒(φ4mm)を中量、石英片岩粒(φ1mm)を少量含む。
- 50 暗緑色土:48層に準ずる。A-Bを中量含む。
- 51 暗緑色土:しまりやや強い、粘性やや弱い、淡暗褐色粘質土を多量、明褐色粘質土・A-Bを少量含む。
- 52 淡灰褐色軽石:しまりない、粘性ない、A-B(φ1mm)の一次堆積層。種族跡に入り込んだものか。
- 53 暗緑色土:しまりやや強い、粘性弱い、暗緑色粘質土(やや灰色味がかかる)を多量、片岩粒・石英片岩粒(φ1~5mm)を少量、炭化物粒(φ1mm)を微量含む。
- 54 暗緑色土:53層に準ずる。片岩粒・小礫を微量含む。
- 55 暗緑色土:しまりやや強い、粘性弱い、暗緑色粘質土(53・54層とは異なり暗緑色の粘質土)を多量、片岩粒・石英片岩粒(φ3~10mm)を中量・炭化物粒(φ2mm)を少量含む。
- 56 緑色土:しまりやや強い、粘性弱い、緑色粘質土を多量、片岩粒・石英片岩粒(φ3~10mm)を中量、炭化物粒(φ2mm)を少量、炭化材小片(φ20mm)を微量含む。
- 57 暗緑色土:しまりやや強い、粘性弱い、55層に準ずる。片岩粒・石英片岩粒(φ2~10mm)・炭化物粒(φ4mm)・植物遺存体(小枝片が主体)を少量含む。
- 58 淡灰褐色土:しまりやや強い、粘性弱い、淡灰褐色粘質土を多量、淡灰色粘質土を少量含む。
- 59 淡暗褐色土:しまりやや強い、粘性弱い、淡灰色粘質土を多量、マンガラン凝集粒を中量含む。
- 60 淡灰褐色土:しまりやや強い、粘性やや弱い、炭化物粒(φ1mm)を少量含む、58層に類似する3層粘質土粒が少量含まれやや緑色味を帯びる。
- 61 暗緑色土:しまりやや強い、粘性弱い、暗緑色粘質土を多量、片岩粒・石英片岩粒(φ2~10mm)・炭化物粒(φ4mm)を少量含む。
- 62 暗緑色土:しまりやや強い、粘性弱い、暗緑色粘質土・片岩粒(φ2mm)・小礫(φ30mm)を多量、石英片岩粒(φ2mm)を少量、植物遺存体(小枝片20mm以下)を微量含む。
- 63 暗緑色砂礫:しまりやや強い、粘性ない、片岩粒(φ1mm)を多量、小礫(φ8mm)を少量含む。沢埋没にかかると推定。
- 64 暗緑色土:しまりやや強い、粘性弱い、暗緑色粘質土を多量、片岩粒・石英片岩粒(φ1mm)を中量含む。
- 65 暗緑色土:57層に準ずる。植物遺存体を中量、炭化物小片(φ40mm)を少量含む。
- 66 暗緑色土:61層に準ずる。片岩粒・石英片岩粒(φ2mm)・小礫(φ10mm)を多量含む。
- 67 暗緑色砂礫:しまりやや強い、粘性弱い、片岩粒(φ4mm)を多量、片岩小礫(φ20mm)・暗緑色粘質土ブロック(φ2cm)を微量含む。
- 68 暗緑色土:暗緑色粘質土を多量、植物遺存体(枝・小枝・樹皮片・樹葉・種子等)を中量、片岩粒・石英片岩粒(φ2mm)炭化物小片(φ30mm以下)を少量、小礫(φ8mm)を微量含む。層中遺物は概ね8世紀前後までと推定される。木掘出土層。また、層末側ではスラッグの集中が認められ層下位にスラッグ、その上に灰白色の灰?が1cm程度層上に堆積していた。
- 69 淡暗褐色土:しまりやや強い、粘性弱い、淡暗褐色粘質土を多量、淡灰褐色粘質土・片岩粒(φ1mm)・小礫(φ10mm)を中量、炭化物粒(φ1mm)・緑色粘質土を微量含む。
- 70 淡暗褐色土:しまりやや強い、粘性弱い、淡暗褐色粘質土を多量、淡灰色粘質土が中量、片岩粒(φ1mm)を少量、小礫(φ5mm)・炭化物粒(φ1mm)を微量含む。
- 71 緑色土:しまりやや強い、粘性やや強い、緑色粘質土を多量、片岩粒(φ3mm)を少量、小礫(φ10mm)を微量含む。
- 72 暗緑色土:しまりやや強い、粘性弱い、暗緑色粘質土を多量、片岩粒・石英片岩粒(φ1mm)を少量、小礫(φ5mm)・植物遺存体(小枝片10mm以下)を微量含む。
- 73 暗緑色土:72層に準ずる。片岩粒・石英片岩粒(φ2mm)を中量含む。
- 74 暗緑色土:68層に準ずる。片岩粒・石英片岩粒がやや少ない。植物遺存体は同様、遺物は入らない。
- 75 緑色砂礫:片岩粒・石英砂粒(φ1~4mm)・小礫(φ10mm)を多量含む。流れによる流入により形成された層。
- 76 暗褐色土:しまり弱い、粘性やや強い、暗褐色粘質土を多量、緑色・石英片岩粒(φ1mm)を少量、小礫(φ5mm程)を微量含む。
- 77 緑色土:71層に準ずる。片岩粒・石英片岩粒(φ3mm)・小礫(φ8mm)を微量含む。
- 78 緑色砂礫:しまりやや強い、粘性ない、片岩粒・石英片岩粒(φ1~3mm)を多量含む。75層より一段落ち込んだ。流路跡か。

埋没谷 土層説明 (3)

- 79 緑灰褐色土: しまりやや強い、粘性やや弱い。片岩粒 (φ 2mm) を中量、淡灰色粒子 (φ 0.5mm) を少量含む。暗褐色粘質土と淡灰褐色粘質土の混合土。
- 80 緑褐色土: しまりやや強い、粘性やや弱い。暗褐色粘質土を多量、淡灰褐色粘質土、淡灰色粒 (φ 0.5mm) を少量、片岩粒を微量含む。
- 81 暗褐色泥土: しまりやや弱い、粘性弱い。暗褐色泥土を多量、植物遺存体 (小枝・樹皮片 20mm) を少量、片岩粒・石英片岩粒 (φ 1mm)・小礫 (φ 3mm) を微量含む。埋没状態であったことが想定される。
- 82 暗褐色泥土: しまりやや弱い、粘性弱い。81層に準ずる。暗褐色泥土を多量、緑色粘質土粒子 (φ 0.1mm) 少量含む。
- 83 淡灰色土: しまり強い、粘性弱い。淡灰色粘質土を多量、マンガン粒子 (φ 0.1mm) を少量含む。基盤。
- 84 淡灰色砂礫: しまり強い、粘性弱い。淡灰色粘質土・片岩粒 (φ 5mm)・砂粒 (φ 1mm) を多量、石英片岩 (φ 2mm) を中量含む。基盤。

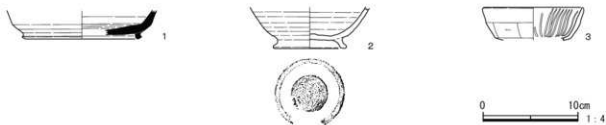


図 139 谷最下層1号溝出土遺物

表 31 1号溝出土遺物観察表

1	須恵器 高台付環	A. 底部径 11.8. B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部回転筒ケズリ。D. 白色粒。E. 外一灰色、内一黒褐色。G. 還元焼成。F. 体部下位～高台部 1/5. H. 覆土中。
2	須恵器 高台付塊	A. 底部径 7.5. B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部右回転糸切り。D. 白色粒・褐色粒。E. 内外一灰褐色。G. 酸化焼成。F. 体部下位～高台部 1/2. H. 覆土中。
3	暗文土器 環	B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面筒ケズリ、内面ヨコナデ後放射状暗文。D. 黒色粒・白色粒。E. 外一橙色、内一明赤褐色。F. 口縁部～体部 1/4. H. 覆土中。

表 32 埋没谷出土遺物観察表 (1)

1	土師器 環	A. 口縁部径 (13.1). B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面ヨコナデ。底部外面筒ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒・角閃石。E. 外一にぶい黄褐色、内一灰褐色。F. 口縁部～体部 1/4. G. 体部外面に墨書「長」。H. 谷。
2	土師器 環	A. 口縁部径 (12.2). 底部径 (9.4). B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面ヨコナデ。底部外面筒ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒・白色粒。E. 外一にぶい黄褐色、内一にぶい赤褐色。F. 1/5. G. 体部外面に墨書「長」。H. 谷。
3	土師器 環	B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面ヨコナデ。底部外面筒ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒・白色粒。E. 外一にぶい褐色、内一にぶい赤褐色。F. 破片。G. 体部外面に墨書「長」。H. 谷。
4	土師器 環	B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部器面荒れ調整不明瞭。D. 白色粒・角閃石。E. 外一にぶい褐色、内一にぶい赤褐色。F. 破片。G. 体部外面に墨書「長」。H. 谷。
5	土師器 環	B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面ヨコナデ。底部外面筒ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒・角閃石。E. 外一にぶい褐色、内一にぶい赤褐色。F. 破片。G. 体部外面に墨書「長」。H. 谷。
6	土師器 環	B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部ナデ。D. 黒色粒・白色粒。E. 外一にぶい黄褐色、内一にぶい赤褐色。F. 破片。G. 体部外面に墨書「長」。H. 谷。
7	土師器 環	B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面ヨコナデ。底部外面筒ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒・白色粒・角閃石。E. 外一にぶい黄褐色、内一にぶい赤褐色。F. 破片。G. 体部外面に墨書「長」。H. 谷。
8	土師器 環	B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面ヨコナデ。底部外面筒ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒・角閃石。E. 外一にぶい褐色、内一にぶい赤褐色。F. 破片。G. 体部外面に墨書「長」。H. 谷。
9	土師器 環	B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部ナデ。D. 白色粒・角閃石。E. 外一にぶい褐色、内一にぶい赤褐色。F. 破片。G. 体部外面に墨書「長」。H. 谷。

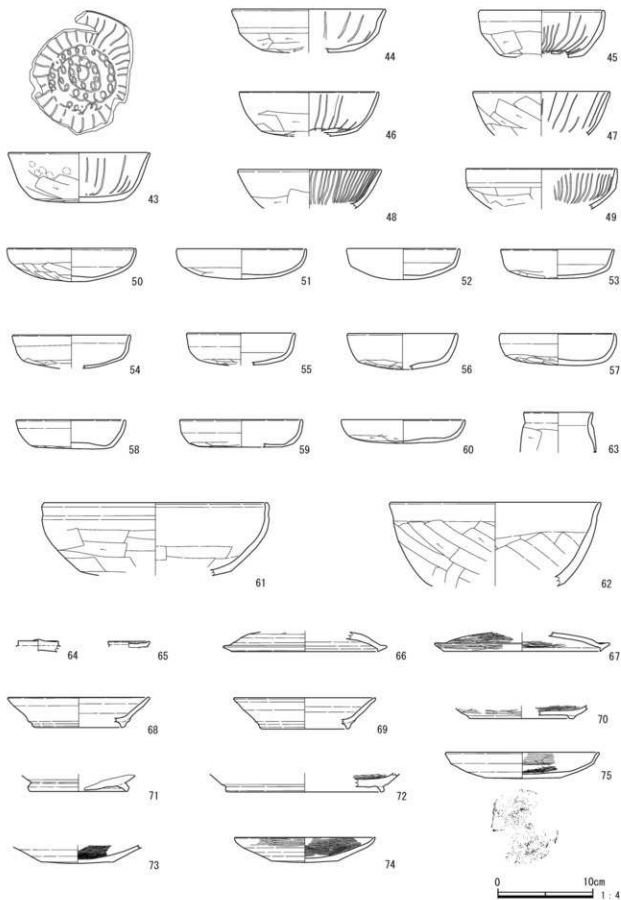


图 141 埋没谷 出土遺物 (2)

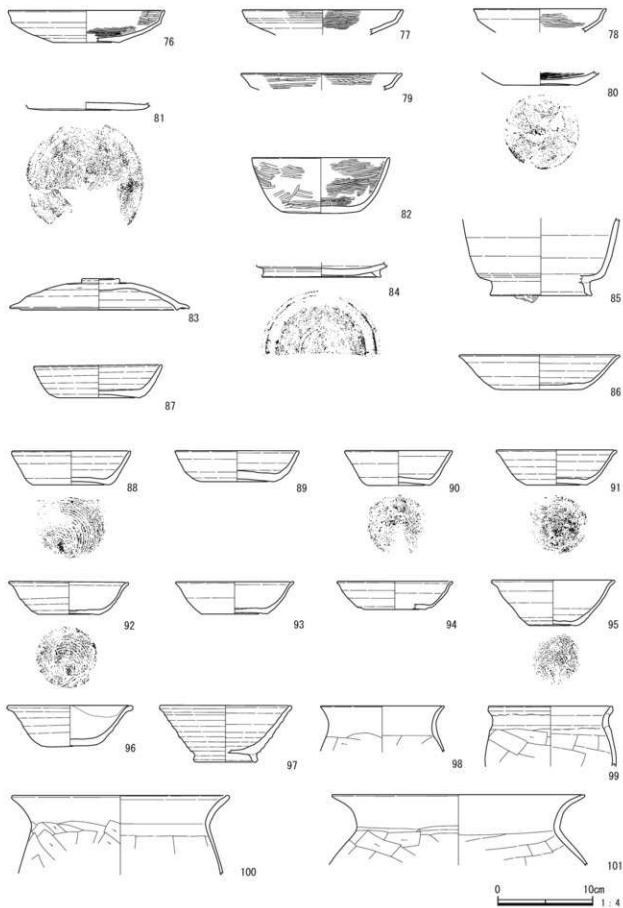


圖 142 埋没谷 出土遺物 (3)

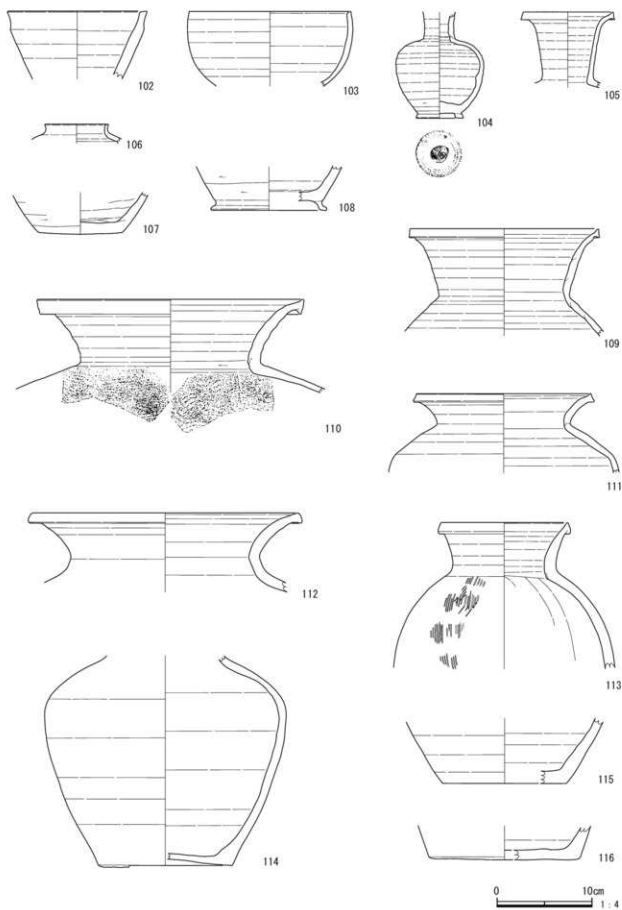


图 143 埋没谷 出土遺物 (4)

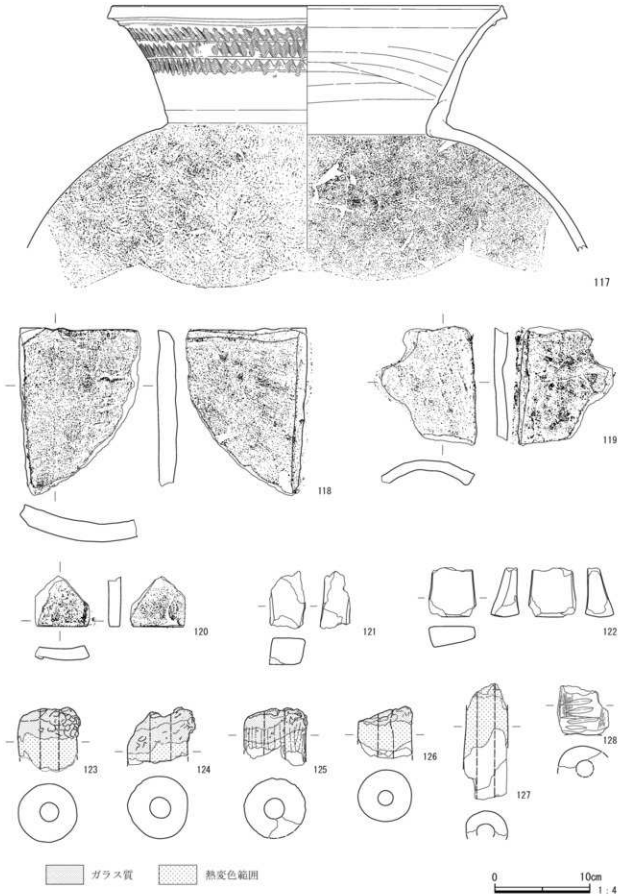


図 144 埋没谷 出土遺物 (5)

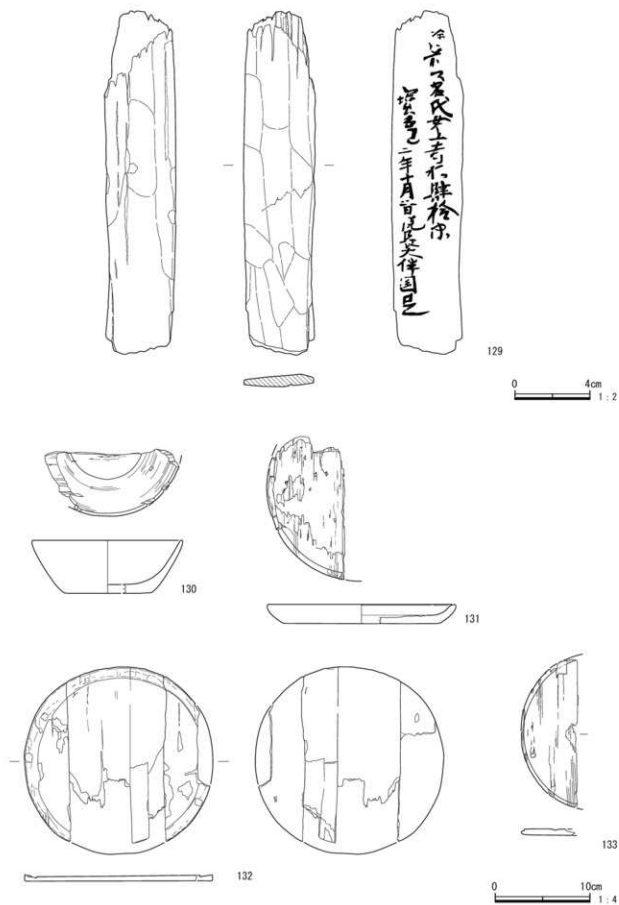


图 145 埋没谷 出土遺物 (6)

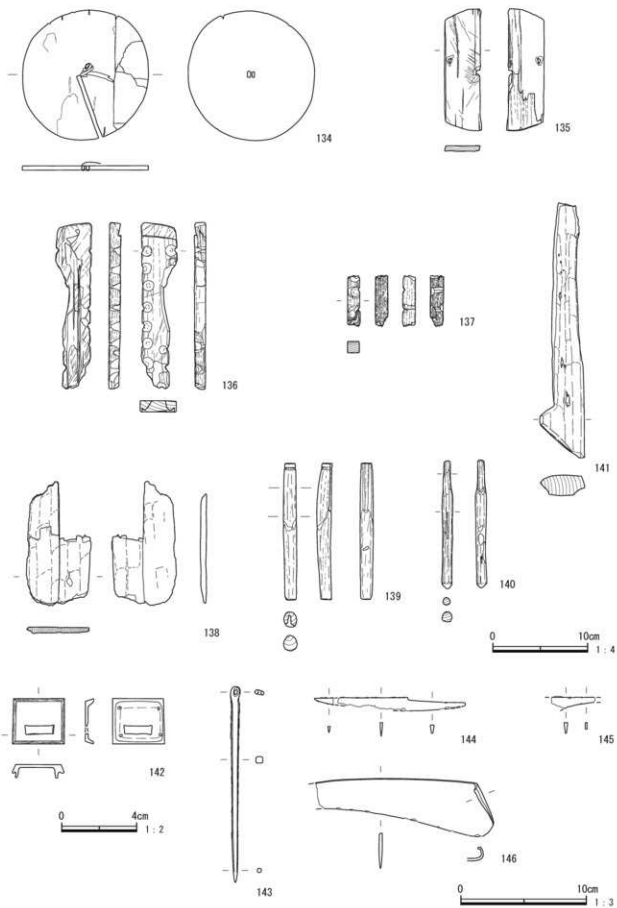


図 146 埋没谷 出土遺物 (7)

表 33 埋没谷出土土物観察表(2)

10	土師器 環	B, 粘土紐積み上げ。C, 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ, 内面ヨコナデ。底部外面匭ケズリ、内面ナデ。D, 白色粒・角閃石。E, 内外一にぶい橙色。F, 破片。G, 体部外面に墨書「長」。H, 谷。
11	土師器 環	B, 粘土紐積み上げ。C, 体部外面ナデ, 内面ヨコナデ。底部外面匭ケズリ、内面ナデ。D, 黒色粒。E, 外一にぶい黄褐色。F, 灰褐色。G, 体部外面に墨書「長」。H, 谷。
12	土師器 環	B, 粘土紐積み上げ。C, 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ, 内面ヨコナデ。底部外面匭ケズリ、内面ナデ。D, 黒色粒・白色粒。E, 外一にぶい黄褐色、内一灰褐色。F, 破片。G, 体部外面に墨書、判読不可。H, 谷。
7	土師器 環	B, 粘土紐積み上げ。C, 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ, 内面ヨコナデ。底部外面匭ケズリ、内面ナデ。D, 黒色粒・白色粒・角閃石。E, 外一にぶい黄褐色、内一にぶい赤褐色。F, 破片。G, 体部外面に墨書「長」。H, 谷。
8	土師器 環	B, 粘土紐積み上げ。C, 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ, 内面ヨコナデ。底部外面匭ケズリ、内面ナデ。D, 白色粒・角閃石。E, 外一にぶい橙色、内一にぶい赤褐色。F, 破片。G, 体部外面に墨書「長」。H, 谷。
9	土師器 環	B, 粘土紐積み上げ。C, 口縁部内外面ヨコナデ。体部ナデ。D, 白色粒・角閃石。E, 外一にぶい橙色、内一にぶい赤褐色。F, 破片。G, 体部外面に墨書「長」。H, 谷。
10	土師器 環	B, 粘土紐積み上げ。C, 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ, 内面ヨコナデ。底部外面匭ケズリ、内面ナデ。D, 白色粒・角閃石。E, 内外一にぶい橙色。F, 破片。G, 体部外面に墨書「長」。H, 谷。
11	土師器 環	B, 粘土紐積み上げ。C, 体部外面ナデ, 内面ヨコナデ。底部外面匭ケズリ、内面ナデ。D, 黒色粒。E, 外一にぶい黄褐色、内一灰褐色。F, 破片。G, 体部外面に墨書「長」。H, 谷。
12	土師器 環	B, 粘土紐積み上げ。C, 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ, 内面ヨコナデ。底部外面匭ケズリ、内面ナデ。D, 黒色粒・白色粒。E, 外一にぶい黄褐色、内一灰褐色。F, 破片。G, 体部外面に墨書、判読不可。H, 谷。
13	土師器 環	A, 口縁部径(16.2)。B, 粘土紐積み上げ。C, 口縁部内外面ヨコナデ。底部外面匭ケズリ、内面ナデ。D, 白色粒・角閃石。E, 内外一にぶい橙色。F, 口縁部~底部1/4。G, 体部外面に墨書「長」。H, 谷。
14	土師器 環	B, 粘土紐積み上げ。C, 口縁部内外面ヨコナデ。底部外面匭ケズリ、内面ナデ。D, 黒色粒・白色粒。E, 外一にぶい褐色、内一にぶい赤褐色。F, 破片。G, 体部外面に墨書「長」。H, 谷。
15	土師器 環	B, 粘土紐積み上げ。C, 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ, 内面ヨコナデ。底部外面匭ケズリ、内面ナデ。D, 角閃石。E, 外一にぶい橙色、内一にぶい赤褐色。F, 破片。G, 体部外面に墨書「長か?」。H, 谷。
16	土師器 環	B, 粘土紐積み上げ。C, 口縁部内外面ヨコナデ。体部ナデ。D, 白色粒・角閃石。E, 外一にぶい黄褐色、内一にぶい赤褐色。F, 破片。G, 体部外面に墨書「長」。H, 谷。
17	土師器 環	B, 粘土紐積み上げ。C, 口縁部内外面ヨコナデ。体部ナデ。D, 黒色粒・白色粒。E, 外一にぶい黄褐色、内一にぶい赤褐色。F, 破片。G, 体部外面に墨書「長」。H, 谷。
18	土師器 環	B, 粘土紐積み上げ。C, 口縁部内外面ヨコナデ。D, 黒色粒・白色粒。E, 外一にぶい褐色、内一にぶい赤褐色。F, 破片。G, 体部外面に墨書「長」。H, 谷。
19	土師器 環	B, 粘土紐積み上げ。C, 口縁部内外面ヨコナデ。体部~底部外面匭ケズリ、内面ナデ。D, 白色粒・角閃石。E, 外一にぶい黄褐色、内一にぶい赤褐色。F, 破片。G, 体部外面に墨書「長」。H, 谷。
20	土師器 環	A, 口縁部径(12.2)。B, 粘土紐積み上げ。C, 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ, 内面ヨコナデ。底部外面匭ケズリ、内面ナデ。D, 白色粒・角閃石・雲母。E, 内外一にぶい橙色。F, 口縁部~体部1/6。G, 体部外面に墨書、判読不可。H, 谷。
21	土師器 環	B, 粘土紐積み上げ。C, 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ, 内面ヨコナデ。D, 黒色粒・白色粒。E, 外一にぶい黄褐色、内一にぶい褐色。F, 破片。G, 体部外面に墨書「長」。H, 谷。
22	土師器 環	B, 粘土紐積み上げ。C, 底部外面匭ケズリ、内面ナデ。D, 黒色粒・白色粒。E, 外一にぶい黄褐色、内一にぶい褐色。F, 破片。G, 底部外面に墨書「長」。H, 谷。
23	土師器 環	B, 粘土紐積み上げ。C, 底部外面匭ケズリ、内面ナデ。D, 角閃石・雲母。E, 外一にぶい黄褐色、内一にぶい褐色。F, 破片。G, 底部外面に墨書、判読不可。H, 谷。
24	土師器 環	B, 粘土紐積み上げ。C, 底部外面匭ケズリ、内面ナデ。D, 白色粒・雲母。E, 内外一褐色。F, 破片。G, 底部外面に墨書「太」。H, 谷。
25	土師器 環	B, 粘土紐積み上げ。C, 底部外面匭ケズリ、内面ナデ。D, 黒色粒・白色粒。E, 外一にぶい黄褐色、内一にぶい褐色。F, 破片。G, 底部外面に墨書「小」。H, 谷。
26	暗文土器 環	B, 粘土紐積み上げ。C, 体部外面匭ケズリ、内面ヨコナデ後放射状暗文。D, 白色粒・角閃石。E, 内外一にぶい褐色。F, 破片。G, 底部外面に墨書、判読不可。H, 谷。
27	土師器 環	B, 粘土紐積み上げ。C, 底部外面匭ケズリ、内面ナデ。D, 褐色粒・雲母。E, 内外一にぶい赤褐色。F, 破片。G, 底部外面に墨書「月」。H, 谷。
28	土師器 環	B, 粘土紐積み上げ。C, 底部外面匭ケズリ、内面ナデ。D, 黒色粒・白色粒。E, 外一にぶい黄褐色、内一にぶい褐色。F, 破片。G, 底部外面に墨書「凡」。H, 谷。
29	土師器 環	B, 粘土紐積み上げ。C, 底部外面匭ケズリ、内面ナデ。D, 角閃石・雲母。E, 外一にぶい褐色、内一にぶい赤褐色。F, 破片。G, 底部外面に墨書「凡」。H, 谷。
30	須恵器 環	A, 口縁部径(12.9)。器高3.8。底部径6.0。B, ロクロ成形。C, 内外面回転ナデ。底部右回転糸切り。D, 黒色粒・白色粒。E, 外一にぶい黄褐色、内一にぶい赤褐色。F, 1/3。G, 体部外面に墨書「長」。H, 谷。
31	須恵器 環	B, ロクロ成形。C, 内外面回転ナデ。D, 黒色粒・白色粒。E, 外一にぶい褐色、内一灰褐色。F, 破片。G, 体部外面に墨書「長」。H, 谷。
32	須恵器 環	A, 底径(7.6)。B, ロクロ成形。C, 内外面回転ナデ。底部回転糸切り。D, 黒色粒・白色粒。E, 外一灰黄色、内一褐色。F, 体部~底部1/4。G, 体部外面に墨書「長」。H, 谷。H, 谷。

表 34 埋没谷出土遺物観察表(3)

33	須臾器 坏	B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。D. 白色粒。E. 内外一灰色。F. 破片。G. 体部外面に倒位で墨書「長」。H. 谷。
34	須臾器 坏	B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。D. 白色粒・褐色粒。E. 外一にぶい橙色、内一黄灰色。F. 破片。G. 体部外面に墨書「長」。H. 谷。
35	須臾器 坏	B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。D. 黒色粒・白色粒。E. 外一灰色、内一黄灰色。F. 破片。G. 体部外面に墨書「大」。H. 谷。
36	須臾器 坏	A. 口縁部径(11.8)、器高3.2、底部径6.5。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部右回転糸切り。D. 白色粒。E. 内外一灰色。F. 2/5。G. 底部外面に墨書「十」。H. 谷。
37	須臾器 坏	A. 底部径(7.6)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部右回転糸切り後周辺部回転篋ケズリ。D. 黒色粒・白色粒・海綿骨針。E. 外一灰黄色、内一にぶい黄褐色。F. 体部~底部1/4。G. 底部外面に墨書「凡」。H. 谷。
38	土師器 坏	B. 粘土組織み上げ。C. 底部外面篋ケズリ、内面ナデ。D. 角閃石。E. 外一にぶい褐色、内一灰褐色。F. 破片。G. 底部内面に焼成後線刻「井か?」。H. 谷。
39	土師器 坏	B. 粘土組織み上げ。C. 底部外面篋ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒・白色粒。E. 外一にぶい黄褐色、内一灰褐色。F. 破片。G. 底部内面に焼成後線刻「井か?」。H. 谷。
40	土師器 坏	B. 粘土組織み上げ。C. 底部外面篋ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒・角閃石。E. 外一にぶい橙色、内一灰褐色。F. 破片。G. 底部内面に焼成後線刻。H. 谷。
41	土師器 坏	B. 粘土組織み上げ。C. 底部外面篋ケズリ、内面ナデ。D. 角閃石・雲母。E. 外一にぶい褐色、内一にぶい褐色。F. 破片。G. 底部内面に焼成後線刻。H. 谷。
42	須臾器 坏	B. 粘土組織み上げ。C. 調整不明瞭。D. 黒色粒・白色粒。E. 内外一灰色。F. 破片。G. 底部内面に焼成前線刻。H. 谷。
43	暗文土器 坏	A. 口縁部径(11.8)、器高5.3、底部径9.4。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部~底部外面篋ケズリ、内面ヨコナデ後放射状暗文、底部螺旋状暗文。D. 白色粒・角閃石。E. 外一にぶい黄褐色、内一にぶい褐色。F. 1/2。H. 谷。
44	暗文土器 坏	A. 口縁部径(16.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部上位外面ナデ、下位~底部外面篋ケズリ、内面ヨコナデ後放射状暗文。D. 黒色粒・白色粒。E. 外一にぶい黄褐色、内一灰褐色。F. 1/8。H. 谷。
45	暗文土器 坏	A. 口縁部径(13.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部上位ナデ、下位~底部外面篋ケズリ、内面ヨコナデ後放射状暗文、底部螺旋状暗文。D. 黒色粒・白色粒。E. 外一にぶい黄褐色、内一にぶい褐色。F. 1/5。H. 谷。
46	暗文土器 坏	A. 口縁部径(14.6)、底部径(10.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部~底部外面篋ケズリ、内面ヨコナデ後放射状暗文、底部螺旋状暗文。D. 黒色粒・白色粒・角閃石。E. 内外一にぶい褐色。F. 1/4。H. 谷。
47	暗文土器 坏	A. 口縁部径(14.3)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部~底部外面篋ケズリ、内面ヨコナデ後放射状暗文。D. 白色粒・角閃石。E. 外一にぶい褐色、内一にぶい褐色。F. 口縁部~体部下位1/4。H. 谷。
48	暗文土器 坏	A. 口縁部径(15.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部~底部外面篋ケズリ、内面ヨコナデ後放射状暗文。D. 黒色粒・白色粒。E. 内外一褐色。F. 口縁部~体部下位1/4。H. 谷。
49	暗文土器 坏	A. 口縁部径(15.8)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部~底部外面篋ケズリ、内面ヨコナデ後放射状暗文。D. 黒色粒・白色粒・角閃石。E. 外一褐色、内一にぶい赤褐色。F. 口縁部~体部下位1/5。H. 谷。
50	土師器 坏	A. 口縁部径(13.4)、器高3.5。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面ヨコナデ。底部外面篋ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒・白色粒。E. 内外一にぶい褐色。F. 2/3。H. 谷。
51	土師器 坏	A. 口縁部径(13.6)、器高3.2。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデ。体部~底部外面篋ケズリ、内面器面荒れ調整不明瞭。D. 白色粒・角閃石。E. 外一にぶい褐色、内一褐色。F. 3/5。H. 谷。
52	土師器 坏	A. 口縁部径(11.8)、器高3.3。B. 粘土組織み上げ。C. 器面荒れ調整不明瞭。D. 白色粒・角閃石。E. 内外一にぶい褐色。F. 2/3。H. 谷。
53	土師器 坏	A. 口縁部径(11.8)、器高3.1。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部~底部外面篋ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒・角閃石。E. 内外一にぶい褐色。F. 1/2。H. 谷。
54	土師器 坏	A. 口縁部径(12.4)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面ヨコナデ。底部外面篋ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒・白色粒。E. 外一褐色、内一明赤褐色。F. 1/2。H. 谷。
55	土師器 坏	A. 口縁部径(11.3)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面ヨコナデ。底部外面篋ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒・角閃石。E. 外一にぶい黄褐色、内一黒色。F. 1/4。G. 内外面に黒色の漆を塗布か。H. 谷。
56	土師器 坏	A. 口縁部径(11.4)、器高3.8。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部~体部内外面ヨコナデ。底部外面篋ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒・雲母。E. 外一にぶい黄褐色、内一にぶい褐色。F. 1/3。H. 谷。
57	土師器 坏	A. 口縁部径12.0、器高3.4。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面篋ケズリ、内面ヨコナデ。底部外面篋ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒・白色粒・角閃石。E. 外一にぶい黄褐色、内一灰褐色。F. 5/6。H. 谷。
58	土師器 坏	A. 口縁部径11.4、器高3.2、底部径8.6。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面篋ケズリ、内面ヨコナデ。底部外面篋ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒・角閃石。E. 外一にぶい褐色、内一灰褐色。F. 2/3。H. 谷。

表 35 埋没谷出土土物観察表(4)

59	土師器 環	A. 口縁部径(12.7). 器高2.9. B. 粘土紐積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面箇ケズリ. 内面ヨコナデ. 底部外面箇ケズリ. 内面ナデ. D. 白色粒・角閃石. E. 外-にぶい黄褐色. 内-灰褐色. F. 1/4. H. 谷.
60	土師器 環	A. 口縁部径(13.0). 器高2.5. B. 粘土紐積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部~底部外面箇ケズリ. 内面ナデ. D. 白色粒・角閃石. E. 外-にぶい褐色. 内-にぶい褐色. F. 2/3. H. 谷.
61	土師器 環	A. 口縁部径(23.5). 底部径(7.9). B. 粘土紐積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部~底部外面箇ケズリ. 内面箇ナデ. D. 黒色粒・白色粒. E. 外-にぶい褐色. 内-にぶい褐色. F. 2/5. H. 谷.
62	土師器 環	A. 口縁部径(22.0). B. 粘土紐積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 体部外面箇ケズリ. 内面箇ナデ. D. 黒色粒・白色粒・角閃石. E. 外-褐色. 内-にぶい褐色. F. 口縁部~体部1/8. H. 谷.
63	土師器 小形甕	A. 口縁部径(7.2). B. 粘土紐積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 胴部外面箇ケズリ. 内面器面荒れ調整不明瞭. D. 白色粒・角閃石. E. 内外-にぶい褐色. F. 口縁部~胴部中位1/5. H. 谷.
64	須恵器 蓋	A. 横み径4.2. B. ロクロ成形. C. 内外面回転ナデ. D. 黒色粒・白色粒・褐色粒. E. 外-にぶい黄褐色. 内-灰褐色. F. 横み部7/8. H. 谷.
65	須恵器 蓋	A. 横み径4.3. B. ロクロ成形. C. 内外面回転ナデ. D. 白色粒・角閃石・雲母. E. 外-にぶい黄褐色. 内-灰褐色. F. 横み部残存. H. 谷.
66	須恵器 蓋	A. 口縁部径(15.4). B. ロクロ成形. C. 内外面回転ナデ. 天井部右回転箇削り. D. 雲母. E. 内外-暗灰黄色. F. 天井部~口縁部1/6. H. 谷.
67	須恵器 蓋	A. 口縁部径(16.6). B. ロクロ成形. C. 内外面箇ミガキ. D. 黒色粒・白色粒・褐色粒. E. 外-にぶい黄褐色. 内-灰褐色. F. 天井部~口縁部1/4. H. 谷.
68	須恵器 高台付環	A. 口縁部径(14.8). 器高3.2. 底部径(9.0). B. ロクロ成形. C. 内外面回転ナデ. D. 白色粒・雲母. E. 外-にぶい黄褐色. 内-灰黄褐色. F. 1/8. H. 谷.
69	須恵器 高台付環	A. 口縁部径(14.8). 器高3.3. 底部径(9.0). B. ロクロ成形. C. 内外面回転ナデ. D. 白色粒・角閃石・雲母. E. 外-にぶい黄褐色. 内-灰黄褐色. F. 1/10. H. 谷.
70	須恵器 高台付環	A. 底部径(11.0). B. ロクロ成形. C. 内外面回転ナデ. 体部外面箇ミガキ. 内面箇ミガキ. 底部外面回転箇ケズリ. 内面箇ミガキ. D. 黒色粒・白色粒・雲母. E. 外-にぶい黄色. 内-灰褐色. F. 体部~高台部2/3. H. 谷.
71	須恵器 高台付環	A. 底部径(10.2). B. ロクロ成形. C. 内外面回転ナデ. 底部外面調整不明瞭. 内面器面剥離により不明. D. 雲母. E. 外-にぶい褐色. 内-にぶい褐色. F. 体部~高台部1/3. H. 谷.
72	須恵器 高台付環	A. 底部径(16.0). B. ロクロ成形. C. 外面回転ナデ. 体部内面箇ミガキ. 底部外面回転ナデ. 内面箇ミガキ. D. 黒色粒・白色粒・雲母. E. 外-にぶい黄色. 内-にぶい褐色. F. 体部~高台部1/5. H. 谷.
73	須恵器 環	A. 底部径7.6. B. ロクロ成形. C. 外面回転ナデ. 体部内面箇ミガキ. 底部外面右回転箇ケズリ. 内面箇ミガキ. D. 白色粒・褐色粒・雲母. E. 外-にぶい黄褐色. 内-灰褐色. F. 体部~底部3/5.
74	須恵器 環	A. 口縁部径(14.7). 器高2.6. 底部径7.1. B. ロクロ成形. C. 口縁部内外面箇ミガキ. 体部外面回転ナデ. 内面箇ミガキ. 底部外面右回転箇ケズリ. 内面箇ミガキ. D. 白色粒・雲母. E. 外-にぶい黄褐色. 内-灰褐色. F. 2/5. H. 谷.
75	須恵器 環	A. 口縁部径(16.0). 器高2.8. 底部径8.0. B. ロクロ成形. C. 口縁部外面回転ナデ. 内面箇ミガキ. 体部外面回転ナデ. 内面箇ミガキ. 底部外面回転箇ケズリ. 内面箇ミガキ. D. 白色粒・角閃石・雲母. E. 外-にぶい黄褐色. 内-灰褐色. F. 2/5. H. 谷.
76	須恵器 環	A. 口縁部径(16.3). 器高3.4. 底部径(7.0). B. ロクロ成形. C. 口縁部外面回転ナデ. 内面箇ミガキ. 体部外面回転ナデ. 内面箇ミガキ. 底部外面右回転箇ケズリ. 内面箇ミガキ. D. 白色粒・角閃石・雲母. E. 外-にぶい黄褐色. 内-灰褐色. F. 1/5. H. 谷.
77	須恵器 環	A. 口縁部径(16.8). B. ロクロ成形. C. 口縁部内外面箇ミガキ. 体部外面回転ナデ. 内面箇ミガキ. D. 雲母. E. 内外-にぶい褐色. F. 口縁部~体部破片. H. 谷.
78	須恵器 環	A. 口縁部径(13.8). B. ロクロ成形. C. 口縁部外面回転ナデ. 内面箇ミガキ. 体部外面回転ナデ. 内面箇ミガキ. D. 白色粒・角閃石・雲母. E. 外-にぶい褐色. 内-にぶい褐色. F. 口縁部~体部1/8. H. 谷.
79	須恵器 環	A. 口縁部径(16.8). B. ロクロ成形. C. 口縁部~体部内外面箇ミガキ. D. 白色粒・雲母. E. 外-にぶい黄褐色. 内-灰黄褐色. F. 口縁部~体部1/8. H. 谷.
80	須恵器 環	A. 底部径7.9. B. ロクロ成形. C. 体部外面回転ナデ. 内面箇ミガキ. 底部外面右回転箇ケズリ. 内面箇ミガキ. D. 白色粒・褐色粒・角閃石・雲母. E. 外-にぶい黄褐色. 内-灰褐色. F. 体部~底部9/10. H. 谷.
81	須恵器 環	A. 底部径12.1. B. ロクロ成形. C. 体部外面回転ナデ. 内面箇ミガキ. 底部外面右回転箇ケズリ. 内面箇ミガキ. D. 黒色粒・白色粒・褐色粒・雲母. E. 外-にぶい褐色. 内-灰褐色. F. 体部下位~底部3/4. H. 谷.
82	須恵器 環	A. 口縁部径(14.4). 器高5.9. 底部径(8.4). B. ロクロ成形. C. 口縁部~体部内外面箇ミガキ. 底部外面不明瞭. 内面箇ミガキ. 内面黒色処理. D. 黒色粒・白色粒. E. 外-にぶい黄褐色. 内-黒色. F. 2/3.
83	須恵器 蓋	A. 口縁部径16.5. 器高3.3. 横み径3.8. B. ロクロ成形. C. 内外面回転ナデ. 天井部右回転箇ケズリ. D. 黒色粒・褐色粒・靨. E. 内外-灰白色. F. 9/10. H. 谷.
84	須恵器 高台付環	A. 底部径(12.5). B. ロクロ成形. C. 内外面回転ナデ. 底部外面左回転箇ケズリ. D. 黒色粒・白色粒. E. 外-灰色. 内-灰白色. F. 体部下位~高台部1/2. H. 谷.
85	須恵器 高台付環	A. 底部径(10.4). B. ロクロ成形. C. 内外面回転ナデ. D. 黒色粒・白色粒. E. 外-暗灰色. 内-灰褐色. F. 体部上位~高台部1/4. H. 谷.
86	須恵器 環	A. 口縁部径(16.7). 器高3.7. 底部径9.2. B. ロクロ成形. C. 内外面回転ナデ. 底部右回転箇ケズリ. D. 褐色粒・靨. E. 外-黄灰色. 内-灰白色. F. 2/5. H. 谷.

表 36 埋没谷出土遺物観察表(5)

87	須恵器 坏	A. 口縁部径 13.4、器高 3.5、底部径 8.6、B. ロクロ成形、C. 内外面回転ナデ。底部右回転糸切り。D. 黒色粒・白色粒・礫。E. 内外一灰色。F. 3/5。H. 谷。
88	須恵器 坏	A. 口縁部径(12.4)、器高 3.6、底部径 8.2、B. ロクロ成形、C. 内外面回転ナデ。底部右回転糸切り。D. 黒色粒・白色粒。E. 外一灰色、内一黒褐色。F. 2/3。H. 谷。
89	須恵器 坏	A. 口縁部径(12.9)、器高 3.3、底部径 7.6、B. ロクロ成形、C. 内外面回転ナデ。底部右回転糸切り後周辺部回転ナデ。D. 黒色粒・白色粒・片岩・礫。E. 内外一灰色。F. 1/3。H. 谷。
90	須恵器 坏	A. 口縁部径 11.2、器高 5.6、底部径 6.3、B. ロクロ成形、C. 内外面回転ナデ。底部右回転糸切り。D. 黒色粒・白色粒。E. 内外一灰色。F. 7/8。H. 谷。
91	須恵器 坏	A. 口縁部径(12.5)、器高 3.7、底部径 6.4、B. ロクロ成形、C. 内外面回転ナデ。底部右回転糸切り。D. 白色粒・褐色粒・雲母・礫。E. 外一にぶい橙色、内一灰褐色。F. 1/2。H. 谷。
92	須恵器 坏	A. 口縁部径 12.5、器高 3.5、底部径 6.5、B. ロクロ成形、C. 内外面回転ナデ。底部右回転糸切り。D. 黒色粒・白色粒。E. 外一にぶい黄褐色、内一にぶい赤褐色。F. 3/4。H. 谷。
93	須恵器 坏	A. 口縁部径(12.2)、器高 3.4、底部径(7.0)。B. ロクロ成形、C. 内外面回転ナデ。底部回転糸切り。D. 黒色粒・白色粒・礫。E. 内外一黄灰色。F. 2/5。H. 谷。
94	須恵器 坏	A. 口縁部径(12.0)、器高 3.0、底部径(6.5)。B. ロクロ成形、C. 内外面回転ナデ。底部回転糸切り。D. 黒色粒・白色粒。E. 内外一灰色。F. 1/3。H. 谷。
95	須恵器 坏	A. 口縁部径(12.9)、器高 4.8、底部径 5.0、B. ロクロ成形、C. 内外面回転ナデ。底部右回転糸切り。D. 黒色粒・白色粒。E. 外一灰黄色、内一黄灰色。F. 2/3。H. 谷。
96	須恵器 坏	A. 口縁部径(13.0)、器高 4.4、底部径 5.9、B. ロクロ成形、C. 内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 黒色粒・白色粒。E. 外一黒褐色、内一灰褐色。F. ほぼ完形。H. 谷。
97	須恵器 高台付埴	A. 口縁部径(13.6)、器高 6.0、底部径(6.2)。B. ロクロ成形、C. 内外面回転ナデ。底部右回転糸切り。D. 黒色粒・白色粒。E. 外一灰色、内一黄灰色。F. 1/4。H. 谷。
98	土師器 小形甕	A. 口縁部径(13.0)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面捲ケズリ、内面捲ナデ。D. 黒色粒・白色粒。E. 外一にぶい黄褐色、内一にぶい褐色。F. 口縁部～胴部上位 1/4。H. 谷。
99	土師器 小形甕	A. 口縁部径(13.0)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面捲ケズリ、内面捲ナデ。D. 白色粒・角閃石・礫。E. 外一にぶい赤褐色、内一にぶい褐色。F. 口縁部～胴部上位 1/4。H. 谷。
100	土師器 甕	A. 口縁部径(22.6)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面捲ケズリ、内面捲ナデ。D. 白色粒・角閃石。E. 外一にぶい黄褐色、内一にぶい褐色。F. 口縁部～胴部上位 2/5。H. 谷。
101	土師器 甕	A. 口縁部径(26.6)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面捲ケズリ、内面捲ナデ。D. 黒色粒・白色粒・角閃石。E. 外一褐色、内一にぶい褐色。F. 口縁部～胴部上位 1/4。H. 谷。
102	須恵器 鉢	A. 口縁部径(14.6)。B. ロクロ成形、C. 内外面回転ナデ。D. 黒色粒・白色粒。E. 内外一灰色。F. 口縁部～体部下位 1/4。H. 谷。
103	須恵器 鉢	A. 口縁部径(17.0)。B. ロクロ成形、C. 内外面回転ナデ。D. 黒色粒・白色粒。E. 外一灰色、内一黄灰色。F. 口縁部～体部下位 1/4。H. 谷。
104	須恵器 長筒壺	A. 底部径 4.9、B. ロクロ成形、C. 内外面回転ナデ。胴部下位外面右回転捲ケズリ。底部回転糸切り。D. 黒色粒・白色粒。E. 内外一灰色。F. 頸部～底部 9/10。H. 谷。
105	須恵器 長筒壺	A. 口縁部径(9.4)。B. ロクロ成形、C. 内外面回転ナデ。D. 白色粒。E. 外一灰色、内一灰オリープ色。F. 口縁部～頸部 1/3。H. 谷。
106	須恵器 短筒壺	A. 口縁部径(6.6)。B. ロクロ成形、C. 内外面回転ナデ。D. 黒色粒・白色粒。E. 内外一灰色。F. 口縁部～胴部上位 1/3。H. 谷。
107	須恵器 甕	A. 底部径(9.0)。B. ロクロ成形、C. 内外面回転ナデ。底部左回転捲ケズリ。D. 黒色粒・白色粒。E. 内外一灰色。F. 胴部下位～底部 1/2。H. 谷。
108	須恵器 甕	A. 底部径 12.0、B. ロクロ成形、C. 内外面回転ナデ。D. 黒色粒・白色粒。E. 内外一灰色。F. 胴部下位～高台部 1/3。H. 谷。
109	須恵器 甕	A. 口縁部径(19.8)。B. ロクロ成形、C. 内外面回転ナデ。D. 白色粒・礫。E. 外一灰色、内一暗灰色。F. 口縁部～胴部上位 2/5。H. 谷。
110	須恵器 甕	A. 口縁部径(28.0)。B. ロクロ成形、C. 内外面回転ナデ。胴部外面平行叩き、内面青波文。D. 黒色粒・白色粒。E. 内外一灰色。F. 口縁部～胴部上位破片。H. 谷。
111	須恵器 甕	A. 口縁部径 18.4、B. ロクロ成形、C. 内外面回転ナデ。D. 白色粒・白色粒・礫。E. 内外一灰色。F. 口縁部～胴部上位 3/5。H. 谷。
112	須恵器 甕	A. 口縁部径(28.0)。B. ロクロ成形、C. 内外面回転ナデ。D. 黒色粒・白色粒。E. 内外一灰色。F. 口縁部～頸部残存。H. 谷。
113	須恵器 提瓶	A. 口縁部径(13.2)。B. ロクロ成形、C. 内外面回転ナデ。胴部外面平行叩き。D. 白色粒。E. 内外一灰色。F. 口縁部～胴部中位 1/5。H. 谷。
114	須恵器 甕	A. 底部径(14.2)。B. ロクロ成形、C. 内外面回転ナデ。底部ナデ。D. 黒色粒・白色粒。E. 内外一灰色。F. 頸部～底部残存。H. 谷。
115	須恵器 甕	A. 底部径(13.0)。B. ロクロ成形、C. 内外面回転ナデ。底部ナデ。D. 黒色粒・白色粒。E. 内外一灰色。F. 胴部下位～底部 1/4。H. 谷。
116	須恵器 甕	A. 底部径(16.0)。B. ロクロ成形、C. 内外面回転ナデ。底部捲ケズリ。D. 白色粒・礫。E. 外一黄灰色、内一灰褐色。F. 胴部下位～底部 2/5。H. 谷。
117	須恵器 甕	A. 口縁部径(41.0)。B. ロクロ成形、C. 内外面回転ナデ。口縁部外面波状文、下位内面捲ナデ。胴部外面平行叩き後捲ナデ、内面同心円文。D. 黒色粒・白色粒。E. 外一灰色、内一黄灰色。F. 口縁部～胴部上位 1/3。H. 谷。

表 37 埋没谷出土遺物観察表(6)

118	土製品 平瓦	A. 厚さ2.1。C. 凹面布目痕。側端部面取り。凸面斜横位置ナデ。側面笠撫で。狭端部笠撫で。D. 黒色粒・白色粒。E. 内外一灰色。F. 広端部左側。H. 谷。
119	土製品 丸瓦	A. 厚さ1.4。C. 凹面布目痕。笠ナデ。側端部面取り。凸面縦位置ナデ。側面笠撫で。狭端部笠撫で。D. 黒色粒・白色粒。E. 外にぶい黄橙色。内にぶい橙色。F. 広端部右側。H. 谷。
120	土製品 平瓦	A. 厚さ1.4。C. 凹面布目痕。笠ナデ。側端部面取り。凸面笠ナデ。側面笠撫で。狭端部笠撫で。D. 黒色粒・白色粒。E. 外一暗灰黄色。内一灰黄色。F. 狭端部右側。H. 谷。
121	石製品 砥石	A. 残長6.1、幅3.7、厚さ2.8。H. 谷。
122	石製品 砥石	A. 残長5.2、幅4.85、厚さ2.2。H. 谷。
123	土製品 羽口	A. 残長6.9、直径6.2、孔径2.0。D. 白色粒・纒。H. 谷。
124	土製品 羽口	A. 残長6.1、直径6.35、孔径2.2。D. 白色粒・黒色粒。H. 谷。
125	土製品 羽口	A. 残長6.1、直径6.5、孔径2.1。D. 白色粒・纒。H. 谷。
126	土製品 羽口	A. 残長5.5、直径5.65、孔径1.6。D. 白色粒・黒色粒。H. 谷。
127	土製品 羽口	A. 残長12.3、直径4.4、孔径1.9。D. 白色粒・黒色粒。H. 谷。
128	土製品 羽口	A. 残長5.2。D. 白色粒・纒。H. 谷。
129	木 簡	A. 長さ18.2、幅3.7、厚さ0.5。G. 「楡前マ名代女上寺福肆拾東宝亀二年十月二日役長大伴国足」ヒノキ科ヒノキ属。H. 谷。
130	木製品 椀	A. 口縁部径(15.8)、器高5.6、底部径(9.2)。H. 谷。
131	木製品 皿	A. 口縁部径(20.0)、器高2.0、底部径(16.2)。H. 谷。
132	木製品 曲物	A. 直径(16.6)、厚さ0.6。G. 底板。H. 谷。
133	木製品 曲物	A. 直径(18.7)、厚さ0.6。G. 底板。H. 谷。
134	木製品 曲物	A. 直径14.4、厚さ0.5。G. 蓋、木の皮の縦じ紐残存。H. 谷。
135	木製品 曲物	A. 直径13.1、厚さ0.6。G破片。H. 谷。
136	木製品 火鑽臼	A. 残長17.6、幅3.8、厚さ1.2。G. ヒノキ科ヒノキ属。H. 谷。
137	木製品 火鑽臼	A. 残長5.4、幅1.3、厚さ1.2。G. ヒノキ科ヒノキ属。H. 谷。
138	木製品 板状木製品	A. 残長13.1、幅6.7、厚さ0.6。H. 谷。
139	木製品 柄状木製品	A. 長さ14.4、幅1.0、厚さ1.1。G. 刀子の柄と考えられる。上端に刀子部分を装着した溝状の切り込みがある。バラ科サクラ属。H. 谷。
140	木製品 柄状木製品	A. 長さ13.6、径1.0。G. 火鑽杵と考えられる。ヒノキ科ヒノキ属。H. 谷。
141	木製品 柄状木製品	A. 残長26.9、幅4.8、厚さ2.2。H. 谷。
142	銅製品 巡方	A. 長さ2.4、幅2.75、重さ9.2。F. 完形。G. 漆付着。H. 谷最下層。
143	鉄製品 鉄針	A. 長さ15.5、幅0.35～0.75、厚さ0.3～0.5、重さ21.5。H. 谷。
144	鉄製品 刀子	A. 残長11.9、幅0.45～(0.9)、厚さ0.2～0.3、残重6.7。H. 谷。
145	鉄製品 刀子	A. 残長3.45、幅0.5～0.85、厚さ0.15～0.3、残重1.0。H. 谷最下層。
146	鉄製品 鎌	A. 残長14.0、幅2.8、厚さ0.25、残重62.3。H. 谷。

第11節 金草窯遺跡A地点

1 遺跡の概要 (図147・148/写真図版34)

金草窯遺跡A地点は「女堀川」支流右岸の低地部にあり、小規模な沢によって浸食された開折谷の入口近くに立地する。標高は140～142mで、調査区内は南西から北東へ緩やかに傾斜する。

遺構は検出されなかったが、低地部に河川流路が確認され、沢沿いに流出して来たと考えられる遺物が多く出土した。遺物は、須恵器の坏・高台付埴・甕胴部の破片が多く、長頸壺等瓶類の破片、羽釜の口縁部破片等も少量見られる。その他、土師器坏の破片が少量、灰釉陶器埴の破片が1片、羽口の破片1片等が出土しており、時期は8～9世紀が主体である。また、中世の内耳鍋の口縁部破片、近世の播鉢口縁部破片等や、近代以降の遺物もわずかに出土している。なお、低地部の2カ所にまどまって高師小僧（褐鉄鈿）が多量に見られた。

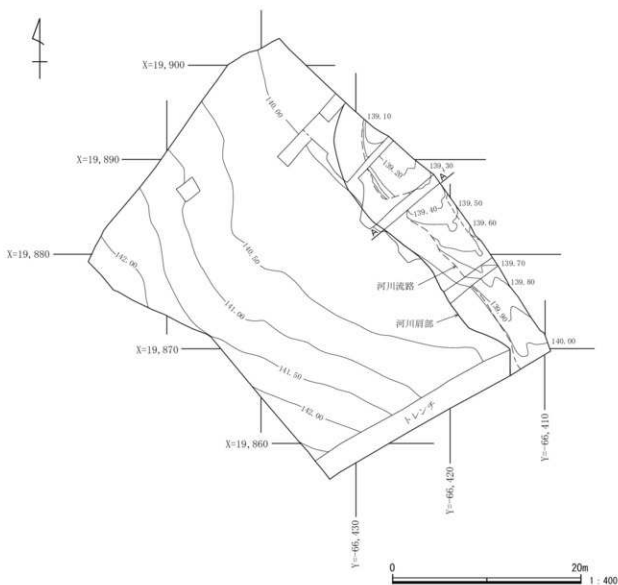
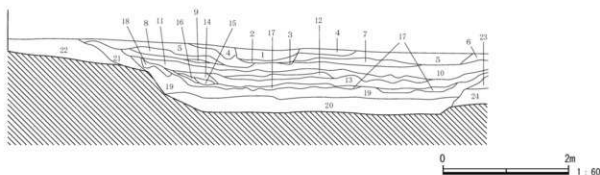


図147 金草窯遺跡A地点全体図

A 141.0

A'



低地部 土層説明

- 1 黒褐色土：しまり強い、粘性強い。砂利・橙色泥岩細片を中量、片岩細片・砂粒を少量、鉄分を微量含む。
- 2 黒褐色土：しまり強い、粘性強い。砂利・橙色泥岩細片・鉄分を少量、泥岩片を微量含む。
- 3 暗褐色土：しまり強い、粘性あり。砂利を多量、鉄分を少量含む。
- 4 暗褐色土：しまり強い、粘性弱い。砂利を多量、鉄分を中量、片岩片・橙色泥岩細片・砂粒を微量含む。
- 5 暗褐色土：しまり強い、粘性弱い。橙色泥岩細片・鉄分を多量、砂利・砂粒を少量含む。
- 6 暗褐色土：しまり強い、粘性弱い。砂利・砂粒・橙色泥岩細片・黄褐色粘土・鉄分を少量含む。
- 7 暗黄褐色土：しまりあり、粘性あり。砂利・砂粒・片岩細片・橙色泥岩細片を中量、黄褐色粘土粒・鉄分を少量含む。
- 8 暗黄褐色土：しまりあり、粘性あり。7層に準ずる。片岩細片・泥岩の大形片を含む。
- 9 暗褐色土：しまり強い、粘性弱い。砂利・鉄分を多量、泥岩細片を少量含む。
- 10 暗褐色土：しまり強い、粘性あり。砂粒・砂利・鉄分の凝固を中量、泥岩細片を少量含む。
- 11 暗褐色土：しまりあり、粘性強い。砂利を中量、砂粒・鉄分を少量含む。
- 12 黒褐色土：しまり強い、粘性強い。砂粒を少量、泥岩細片・鉄分を微量含む。
- 13 暗褐色粘土：しまり強い、粘性強い。砂粒を少量、炭化物粒・泥岩細片・鉄分を微量含む。
- 14 暗褐色粘土：しまり強い、粘性強い。12層に準ずる。含有物の量が少なく色調が明るい。
- 15 暗褐色土：しまり強い、粘性強い。A=Bを多量、鉄分を少量、炭化物粒を微量含む。
- 16 暗褐色土：しまり弱い、粘性弱い。A=Bを中量、鉄分を少量含む。
- 17 暗灰褐色砂：しまりない、粘性ない。A=Bを多量、鉄分を少量、黒緑色粘土粒を微量含む。
- 18 暗褐色土：しまり強い、粘性あり。砂粒を多量、鉄分を少量、泥岩細片を微量含む。
- 19 黒緑色粘土：しまり強い、粘性強い。砂粒・鉄分を微量含む。
- 20 黒緑色粘土：しまり強い、粘性強い。18層に準ずる。含有物の量が極端に少ない。
- 21 暗褐色土：しまり強い、粘性強い。砂利・片岩・泥岩の大形片を少量、鉄分を微量含む。
- 22 暗緑灰色土：しまり強い、粘性弱い。砂利・泥岩・片岩の大形片を多量含む。
- 23 暗褐色土：しまり強い、粘性強い。砂利・砂粒を少量、鉄分を微量含む。
- 24 暗褐色土：しまり強い、粘性あり。橙色泥岩片・砂利を多量、泥岩片・片岩片・鉄分を少量含む。

図 148 低地部

2 検出された遺構と遺物

(1) 遺構外出土遺物 (図 150、表 38・39 / 写真版 84)

表 38 遺構外 出土遺物観察表 (1)

1	弥生土器 壺	A. 底部径 9.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部外面撻ミガキ、内面撻ナデ。底部外面網代痕。D. 黒色粒・白色粒・糠。E. 外-にぶい褐色、内-にぶい赤褐色。F. 胴部下位～底部残存。H. 調査区内。
2	須恵器 坏	A. 口縁部径 (14.3)。器高 3.1、底部径 (10.0)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部右回転ナデ。D. 白色粒。E. 外-黄灰色、内-灰黄褐色。F. 1/8。G. 酸化塩焼成。H. 調査区内。
3	須恵器 坏	A. 口縁部径 (11.0)。器高 3.8、底部径 (5.4)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部右回転系切り。D. 黒色粒・白色粒・糠。E. 外-灰色、内-灰黄褐色。F. 1/3。H. 調査区内。
4	須恵器 高台付埴	A. 底部径 7.0。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部右回転系切り。D. 黒色粒・褐色粒。E. 外-にぶい褐色、内-にぶい赤褐色。F. 体部～高台部 1/2。G. 酸化塩焼成。H. 調査区内。
5	須恵器 高台付埴	A. 底部径 (11.4)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部右回転撻ケズリ。D. 黒色粒・白色粒。E. 内外-灰色。F. 体部～高台部 1/6。G. 酸化塩焼成。H. 調査区内。

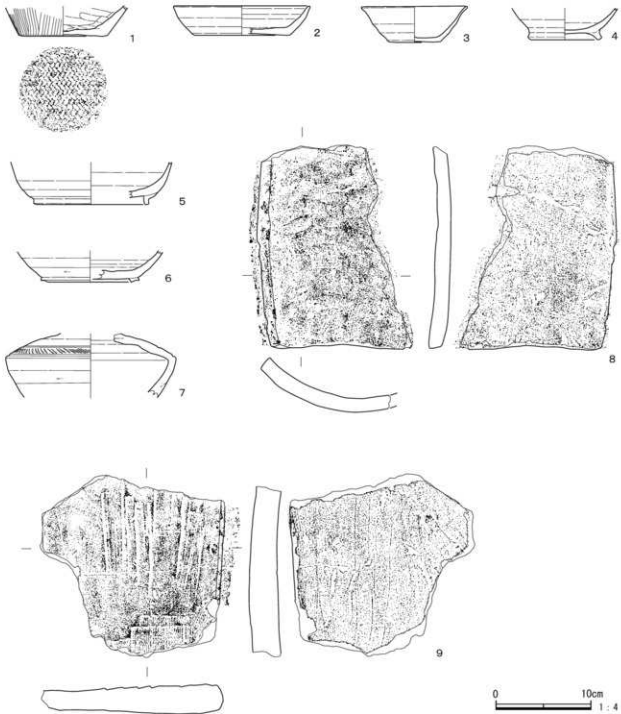


図 149 遺構外出土遺物

表 39 遺構外出土遺物観察表 (2)

6	須恵器 高台付杯	A. 底部径(8.8)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部右回転箇ケズリ。D. 黒色粒・白色粒。E. 内外一灰白色。F. 体部〜高台部残存。G. 酸化焙焼成。H. 調査区内。
7	須恵器 長角壺	B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。肩部外面沈線、刻目。胴部外面右回転箇ケズリ。D. 黒色粒・白色粒。E. 外一灰黄色。内一灰白色。F. 頸部〜胴部上位1/4。G. 酸化焙焼成。H. 調査区内。
8	土製品 平瓦	A. 厚さ1.6。C. 凹面縦位箇ナデ。側端部面取り。凸面縦位箇ナデ。側面箇所。狭端部箇所。D. 黒色粒・白色粒・礫。E. 外一灰黄色。内一褐灰色。F. 狭端部左側。G. 還元焙焼成。H. 調査区内。
9	土製品 役瓦か	A. 厚さ3.15。C. 凹面縦位箇ナデ。側端部面取り。凸面縦位箇ナデ。叩き。側面箇所。狭端部箇所。D. 黒色粒・白色粒・礫。E. 外一灰色。内一褐灰色。F. 破片。G. 還元焙焼成。H. 調査区内。

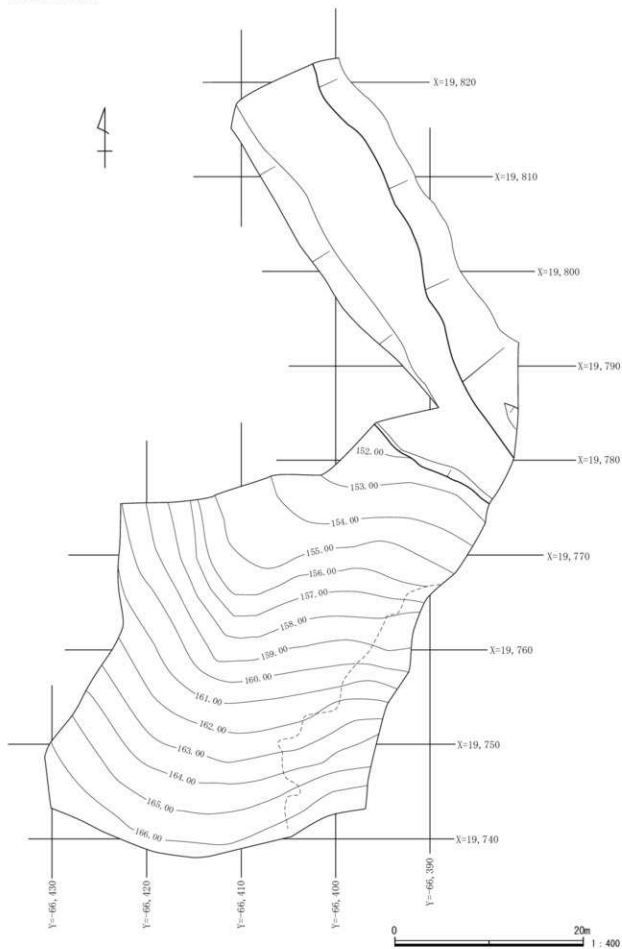


图 150 金草窠遺跡B地点全体图

第12節 金草窯遺跡B地点

1 遺跡の概要 (図151・152、表40／写真図版34・35)

金草窯遺跡B地点は「女堀川」支流右岸の丘陵上にあり、この丘陵が小規模な沢によって浸食された開折谷の南西斜面に位置している。標高は152～166mで、調査区内は南西から北東へ傾斜する。

予備調査によって、調査区域の壁面に須恵器窯の痕跡を確認しており、調査区域外に窯跡の存在が想定できる(1号窯跡と呼称)。若干の遺物を採取しているが、須恵器蓋・坏・甕・瓶類、瓦等の破片が少量見られ、概ね8世紀代に比定される。

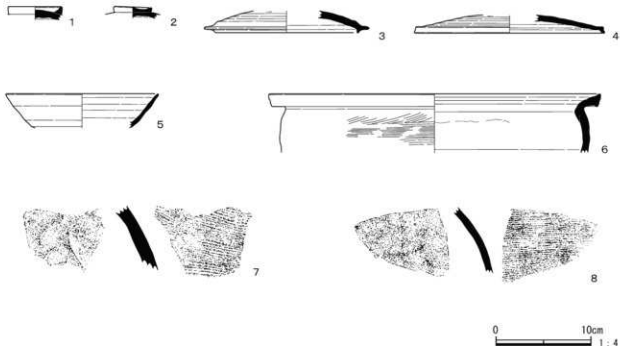


図151 1号窯跡出土遺物

表40 1号窯跡出土遺物観察

1	須恵器蓋	A. 口縁径(5.7)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。D. 黒色粒・白色粒。E. 外一灰色、内一黄灰色。F. 口縁部1/2。G. 還元焼成。H. 1号窯跡。
2	須恵器蓋	A. 口縁径3.8。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。D. 黒色粒・白色粒。E. 外一灰色、内一黄灰色。F. 口縁部残存。G. 還元焼成。H. 1号窯跡。
3	須恵器蓋	A. 口縁径(15.0)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。天井部右回転筒ケズリ。D. 黒色粒・白色粒。E. 外一灰色、内一黄灰色。F. 天井部～口縁部1/8。G. 還元焼成。H. 1号窯跡。
4	須恵器蓋	A. 口縁径(20.0)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。天井部右回転筒ケズリ。D. 黒色粒・白色粒。E. 外一灰色、内一黄灰色。F. 天井部～口縁部1/9。G. 還元焼成。H. 1号窯跡。
5	須恵器坏	A. 口縁径(16.0)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。D. 黒色粒・白色粒。E. 内外一灰色。F. 口縁部～体部1/8。G. 還元焼成。H. 1号窯跡。
6	須恵器 広口甕	A. 口縁径(35.0)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。胴部外面平行叩き後カキ目。D. 黒色粒・白色粒。E. 外一灰色、内一黄灰色。F. 口縁部～胴部上位破片。G. 還元焼成。H. 1号窯跡。
7	須恵器 甕	B. ロクロ成形。C. 胴部外面平行叩き、内面無文当て具痕。D. 黒色粒・白色粒。E. 外一灰色、内一黄灰色。F. 胴部破片。G. 還元焼成。H. 1号窯跡。
8	須恵器 甕	B. ロクロ成形。C. 胴部外面平行叩き、内面回転ナデ。D. 黒色粒・白色粒。E. 外一灰色、内一黄灰色。F. 胴部破片。G. 還元焼成。H. 1号窯跡。

第13節 甲竹ノ鼻遺跡A地点

1 遺跡の概要 (図153 / 写真図版35・38・85)

甲竹ノ鼻遺跡A地点は、「女堀川」支流右岸の丘陵斜面裾野に立地する。標高は144～147.5mで、調査区内は南東から北西へ緩やかに傾斜する。

検出された遺構は竪穴住居跡1軒、土坑9基である。竪穴住居跡は平安時代に帰属する。東カマドで、住居内には炉が3カ所検出された。この内2カ所から鉄滓が出土しており、小鍛冶遺構の可能性が高い。土坑は遺物を伴わないため時期不明である。

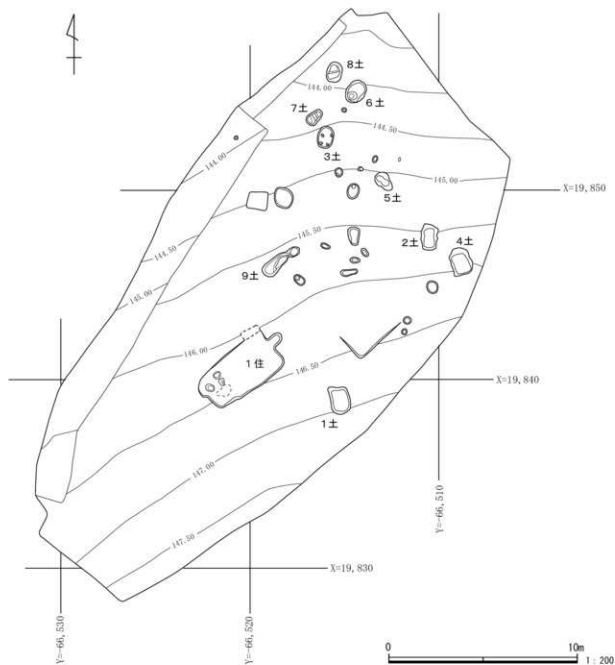
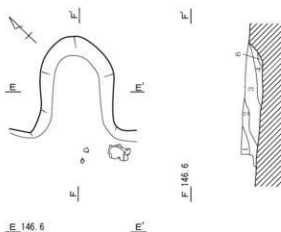


図152 甲竹ノ鼻遺跡A地点全体図



1号住居跡 土層説明

カマド

- 1 暗褐色土：しまり強い、粘性あり。焼土粒・焼土ブロックを多量、泥岩細片を少量含む。
- 2 暗褐色土：しまり強い、粘性強い。片岩細礫・泥岩片・焼土粒を少量含む。
- 3 暗赤褐色土：しまり強い、粘性あり。焼土粒・焼土ブロックを多量、泥岩片・炭化物粒を少量含む。
- 4 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。泥岩片・炭化物粒を微量含む。
- 5 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。砂粒を中量、焼土粒・泥岩片・炭化物粒を微量含む。
- 6 明黒褐色土：しまりあり、粘性弱い。泥岩片・炭化物粒・灰を少量、焼土粒を微量含む。



図 154 1号住居跡カマド

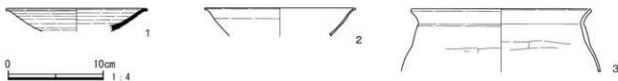


図 155 1号住居跡出土遺物

表 41 1号住居跡出土遺物観察表

1	須恵器 皿	A. 口縁部径 (14.7)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。D. 白色粒、礫。E. 外-黄灰色、内-灰黄色。F. 口縁部～体部 1/7。H. 床面直上。G. 還元塩焼成。H. 覆土中。
2	須恵器 杯	A. 口縁部径 (15.8)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。D. 白色粒。E. 外-にぶい黄色、内-灰黄色。F. 口縁部～体部 1/10。H. 炉内。G. 酸化塩焼成。H. 覆土中。
3	土師器 甕	A. 口縁部径 (18.8)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面匏ケズリ、内面匏ナデ。D. 白色粒。E. 内外-橙色。F. 口縁部～胴部上位 1/4。H. 覆土中。

(2) 土坑

1号土坑 (図 157)

位置：調査区南東側に位置する。**形状・規模**：平面形はやや隅の丸い長方形を呈する。長径 1.55 m、短径 1.05 m、深さ 65 cm を測る。**遺物**：出土しなかった。**時期**：不明。

2号土坑 (図 157)

位置：調査区東側に位置する。**形状・規模**：平面形はやや不整形な長方形を呈する。長径 1.37 m、短径 0.85 m、深さ 48 cm を測る。**遺物**：出土しなかった。**時期**：不明。

3号土坑 (図 158)

位置：調査区北側に位置する。形状・規模：平面形はやや楕円形に近い形状を呈する。長径 1.15 m、短径 0.85 m、深さ 15 cm を測る。遺物：出土しなかった。時期：不明。

4号土坑 (図 158)

位置：調査区東側に位置する。形状・規模：平面形はやや不整形な長方形を呈する。長径 1.45 m、短径 1.08 m、深さ 73 cm を測る。遺物：出土しなかった。時期：不明。

5号土坑 (図 158)

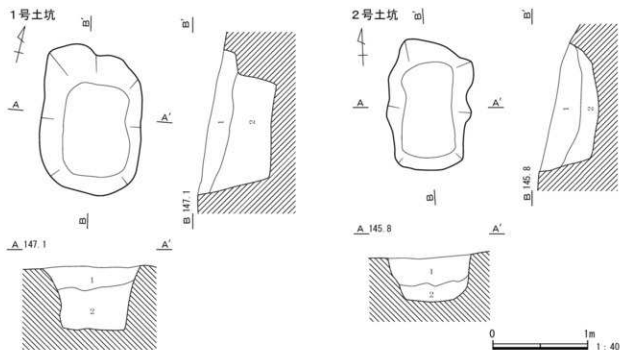
位置：調査区中央北東寄りに位置する。形状・規模：平面形は不整形な楕円形に近い形状を呈する。長径 1.10 m、短径 0.76 m、深さ 22 cm を測る。遺物：出土しなかった。時期：不明。

6号土坑 (図 158)

位置：調査区北側に位置する。形状・規模：平面形は楕円形を呈する。長径 1.24 m、短径 0.98 m、深さ 55 cm を測る。遺物：出土しなかった。時期：不明。

7号土坑 (図 159)

位置：調査区北側に位置する。形状・規模：平面形は不整形な楕円形に近い形状を呈し、規模は長径 0.97 m、短径 0.60 m、深さ 20 cm を測る。遺物：出土しなかった。時期：不明。



1号土坑 土層説明

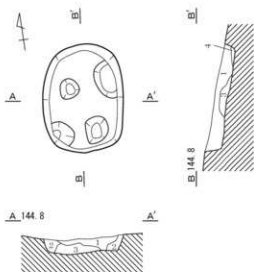
- 1 黒褐色土：しまりあり、粘性あり。ローム粒・泥岩片を少量含む。
- 2 黒褐色土：しまり強い、粘性あり。ローム粒・泥岩片を少量、片岩片を微量含む。

2号土坑 土層説明

- 1 黒褐色土：しまりあり、粘性あり。泥岩片・片岩片を多量含む。
- 2 黒褐色土：しまり強い、粘性あり。1層に順ずる。含有物は少ない。

図 156 1・2号土坑

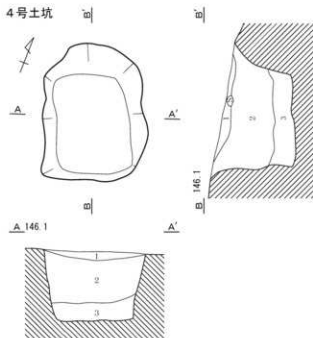
3号土坑



3号土坑 土層説明

- 1 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。ローム粒・泥岩片を少量、炭化物粒を微量含む。
- 2 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。泥岩片を微量含む。
- 3 暗黄褐色土：しまりあり、粘性弱い。ローム風化土を多量、YPを少量含む。
- 4 暗褐色土：しまり弱い、粘性弱い。ローム粒を少量含む。

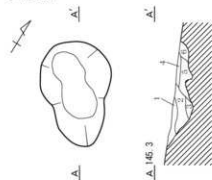
4号土坑



4号土坑 土層説明

- 1 黒色土：しまりあり、粘性あり。片岩片・泥岩片を多量、YPを少量含む。
- 2 黒褐色土：しまり強い、粘性あり。1層に準ずる。含有物は少ない。
- 3 黒褐色土：しまり強い、粘性あり。片岩片・泥岩片を微量含む。

5号土坑

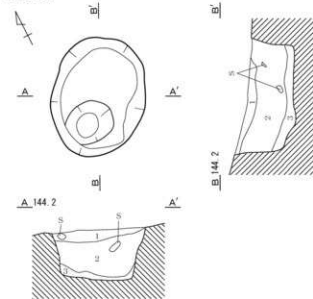


5号土坑 土層説明

- 1 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。ローム粒を多量含む。
- 2 黒褐色土：しまりあり、粘性あり。ローム粒・ロームブロックを多量、炭化物粒を微量含む。
- 3 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。ローム粒を少量、炭化物粒を微量含む。
- 4 褐色土：しまりあり、粘性あり。ローム粒・ロームブロックを多量含む。
- 5 暗黄褐色土：しまりあり、粘性あり。ローム風化土を多量、泥岩片を微量含む。
- 6 暗褐色土：しまりあり、粘性弱い。ローム粒を少量、泥岩片を微量含む。



6号土坑



6号土坑 土層説明

- 1 黒褐色土：しまりあり、粘性あり。泥岩片を中量、ローム粒・片岩片を少量含む。
- 2 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。YP・ローム粒・片岩片・泥岩片を少量含む。
- 3 暗褐色土：しまり強い、粘性あり。ローム粒・泥岩片を少量、片岩片・YPを微量含む。

図 157 3～6号土坑

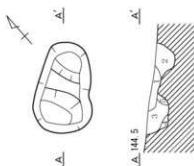
8号土坑 (図 159)

位置：調査区北側に位置する。形状・規模：平面形は楕円形を呈する。長径 1.05 m、短径 0.80 m、深さ 30 cm を測る。遺物：出土しなかった。時期：不明。

9号土坑 (図 159)

位置：調査区中央に位置する。形状・規模：平面形は不整形で楕円形と円形が繋がったような状態を呈する。長径 2.30 m、短径 0.75 m、深さ 26 cm を測る。遺物：出土しなかった。時期：不明。

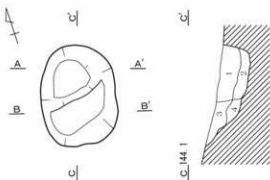
7号土坑



7号土坑 土層説明

- 1 黒褐色土：しまり弱い、粘性あり。ローム粒・泥岩片を微量含む。
- 2 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。ローム粒を微量含む。
- 3 暗黄褐色土：しまり弱い、粘性弱い。ローム風化土を多量、ローム粒・炭化物粒を少量含む。
- 4 暗褐色土：しまり弱い、粘性弱い。ローム粒・炭化物粒を微量含む。
- 5 黄褐色土：しまりあり、粘性ない。ロームブロックを多量含む。

8号土坑



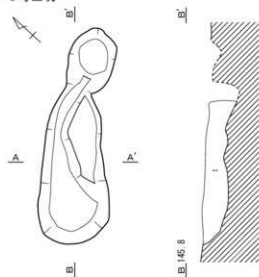
A 144 I



B 144 I



9号土坑



A 145 8



8号土坑 土層説明

- 1 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。泥岩片を少量、炭化物粒を微量含む。
- 2 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。ローム粒・ロームブロックを少量含む。
- 3 暗褐色土：しまりあり、粘性弱い。ローム粒・泥岩片を少量、炭化物粒を微量含む。
- 4 褐色土：しまりあり、粘性あり。ローム粒を少量、泥岩片を微量含む。

9号土坑 土層説明

- 1 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。泥岩片を少量、炭化物粒・ローム粒を微量含む。



図 158 7～9号土坑

第14節 甲竹ノ鼻遺跡B地点

1 遺跡の概要 (図160)

甲竹ノ鼻遺跡B地点は、「女堀川」支流右岸の低地部に立地する。標高は150～151.5mで、調査区内はほぼ平坦である。

検出された遺構は竪穴住居跡1軒、製鉄関連土坑1基である。竪穴住居跡は東カマドで、平安時代に帰属する。製鉄関連土坑は調査区のほぼ中央に位置する。覆土からは鉄滓・炉壁が多量に出土しており、たたらの可能性が指摘される。

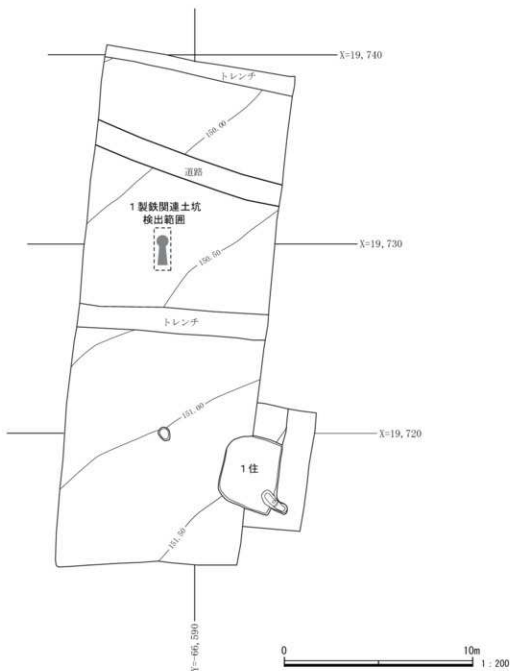


図159 甲竹ノ鼻遺跡B地点全体図

2 検出された遺構と遺物

(1) 竪穴住居跡

1号住居跡 (図160～162、表42)

位置:調査区南東側に位置する。**形状・規模:**土砂流出のため、平面形は不整形な横長方形を呈する。規模は長軸3.85m、短軸3.05mを測る。**主軸方位:**N-95°-E。**床面:**確認面からの深さは32cmを測り、床面はやや凹凸が見られる。**カマド:**東壁南寄りに位置し、壁に対して32°程南に傾いて設置される。燃烧部は幅65cm、奥行き83cmで壁外に造り出す。壁外の掘り込みは、天井部が残存していることから煙道部であり、燃烧部は壁内に造り付る構造であったと考えられる。袖部等は検出され

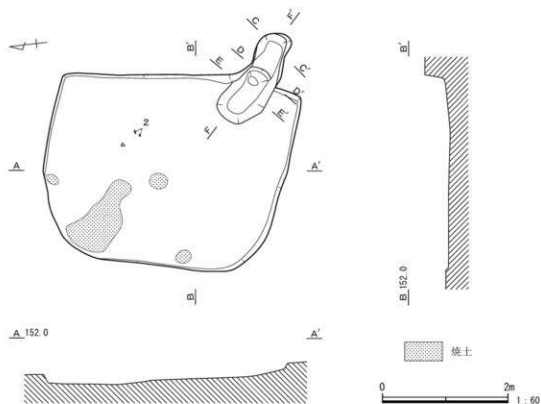


図160 1号住居跡



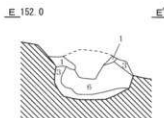
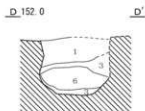
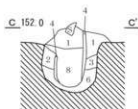
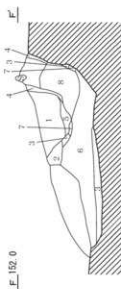
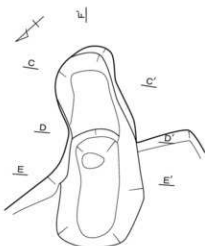
図161 1号住居跡出土遺物

表42 1号住居跡出土遺物観察表

1	土師器 坏	A. 口縁部径(12.9)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部器面荒れ調整不明瞭。D. 白色粒、褐色粒、緑。E. 外-橙色。内-に赤褐色。F. 口縁部~体部1/10。H. 覆土中。
2	土師器 甕	A. 底部径(7.0)。B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部~底部外面筒ケズリ、内面筒ナデ。D. 白色粒。E. 外-に赤褐色。内-橙色。F. 胴部下位~底部1/10。H. 床面直上。

ていないが、燃烧部と推定される位置には楕円形状の掘り込みが見られ、底面は焼土化が顕著である。

遺物：土師器杯・甕、須恵器杯・甕の破片が少量出土した。**時期：**9世紀。



1号住居跡カマド 土層説明

- 1 暗褐色土：しまりあり、粘性ややあり。片岩粒（ $\phi 1\sim 3\text{mm}$ ）を少量、焼土粒・炭化物粒を微量含む。
- 2 暗褐色土：しまりあり、粘性ややあり。片岩粒（ $\phi 1\sim 5\text{mm}$ ）・焼土粒・炭化物粒（ $\phi 1\text{mm}$ ）を少量含む。
- 3 赤褐色土：しまり強い、粘性ない、片岩粒（ $\phi 1\sim 2\text{mm}$ ）を微量含む。焼土層。
- 4 暗赤褐色土：しまり弱い、粘性あり。片岩粒（ $\phi 1\text{mm}$ ）を微量含む。3層より被熱の度合いはやや弱い。
- 5 暗赤褐色土：しまりあり、粘性あり。焼土粒（ $\phi 2\sim 3\text{mm}$ ）を中量、片岩粒（ $\phi 1\sim 3\text{mm}$ ）・炭化物粒（ $\phi 1\text{mm}$ ）を少量含む。
- 6 暗灰褐色土：しまりあり、粘性ややあり。焼土粒（ $\phi 1\sim 5\text{mm}$ ）を微量、片岩粒を少量含む。
- 7 暗灰褐色土：しまりあり、粘性ややあり。焼土粒（ $\phi 1\text{mm}$ ）少量、片岩粒（ $\phi 1\text{mm}$ ）を微量含む。
- 8 暗灰褐色土：しまりあり、粘性ややあり。焼土粒（ $\phi 2\sim 3\text{mm}$ ）、片岩粒（ $\phi 1\sim 2\text{mm}$ ）を少量含む。



図 162 1号住居跡カマド

(2) 製鉄関連土坑

1号製鉄関連土坑（写真図版 37・85）

位置：調査区中央に位置する。**形状・規模：**堅穴の平面形は長方形を呈する。その北側は一段高くなって左右へ張り出す形状となり、輪座の可能性がある。**主軸方位：**ほぼ南北方向を指す。**遺物：**鉄滓・炉壁が多量に出土した。**時期：**詳細は不明だが、堅穴住居跡とほぼ同時期と推測される。

第15節 丙竹ノ鼻遺跡

1 遺跡の概要 (図163/写真図版38)

丙竹ノ鼻遺跡は、「女堀川」支流右岸の丘陵斜面裾野に立地する。標高は161.5～166mで、調査区内は南東から北西へ傾斜する。

検出された遺構は竪穴住居跡3軒、土坑3基である。竪穴住居跡は全て長軸3m前後の小形のもので、概ね平安時代に帰属する。土坑は遺物を伴わないため時期不明である。遺物は、縄紋時代晩期の土器、平安時代の土師器・須恵器等の破片が少量が出土している。

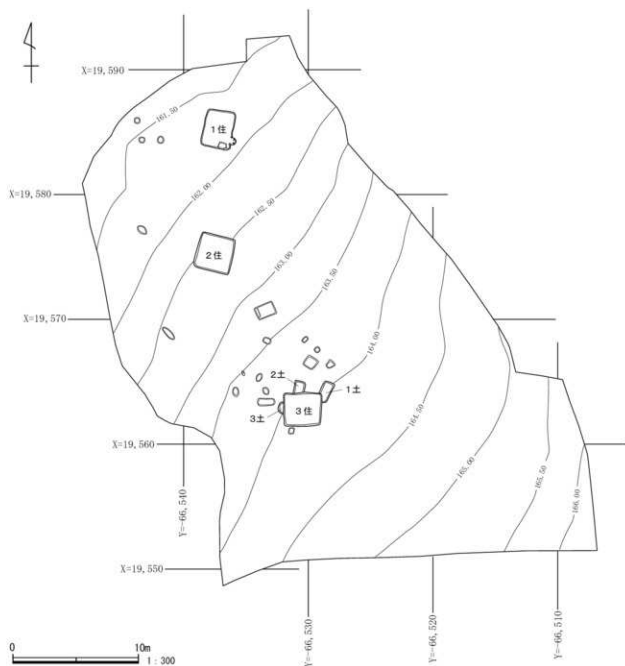


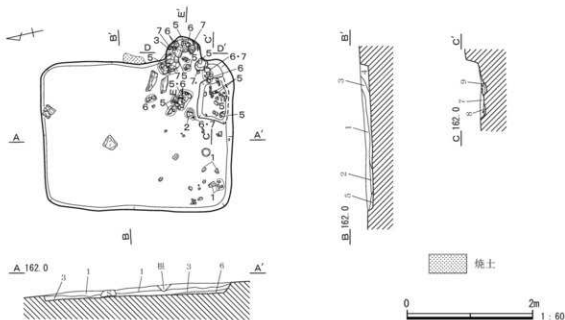
図163 丙竹ノ鼻遺跡全体図

2 検出された遺構と遺物

(1) 竪穴住居跡

1号住居跡 (図164～166, 表43/写真図版38・39・85)

位置: 調査区北側に位置する。形状・規模: 平面形は横長長方形を呈する。規模は長軸3.05m、短軸2.35mを測る。主軸方位: N-101°-E。床面: 確認面からの深さは14cmを測る。床面は比較的平坦で整っている。貯蔵穴: 南壁東寄りに位置する。平面形は方形を呈し、長径70cm、短径48cm、深さ10cmを測る。柱穴: なし。カマド: 東壁に南寄りに設置される。燃焼部は幅55cm、奥行き45cmで壁外に造り出される。カマドの構築材には礫を使用しているが、原位置ではなく壊れた状態でカマド内およびカマド前面で検出された。袖石と思われる位置には左右とも小ピットが存在し、燃焼部には支脚を据えたと考えられる小ピットを検出した。遺物: カマド内から火床面上で土師器の小形台付甕が倒位で出土した他、カマドおよびその周辺で土師器甕、須恵器羽釜等、住居南西部で須恵器杯・高台付陶類が多く出土した。時期: 9世紀末～10世紀前半。



1号住居跡 土層説明

- 1 暗灰褐色土: しまりあり、粘性ない。砂粒を多量、小礫を少量含む。
 - 2 暗褐色土: しまり強い、粘性あり。砂粒・小礫を少量含む。
 - 3 暗褐色土: しまりあり、粘性あり。砂粒・小礫を少量、炭化物粒・焼土粒を微量含む。
 - 4 暗褐色土: しまり強い、粘性あり。砂粒・片岩片・泥岩片を少量、焼土粒を微量含む。
 - 5 暗褐色土: しまり強い、粘性あり。砂粒・泥岩片・炭化物粒を少量含む。
 - 6 暗褐色土: しまり強い、粘性強い。泥岩片・細砂粒を少量、炭化物粒を微量含む。
- 貯蔵穴
- 7 黒褐色土: しまりあり、粘性あり。焼土粒・焼土ブロック・炭化物粒・泥岩片を少量含む。
 - 8 暗褐色土: しまりあり、粘性あり。泥岩細片を少量、炭化物粒を微量含む。
 - 9 暗黄灰色土: しまり強い、粘性強い。泥岩片を少量含む。

カマド

- 10 暗灰褐色土: しまりあり、粘性ない。砂粒を多量、小礫・焼土粒を少量含む。
- 11 暗褐色土: しまり強い、粘性あり。片岩片・泥岩片を中量、炭化物粒・焼土粒を少量含む。
- 12 暗褐色土: しまり強い、粘性あり。焼土粒・焼土ブロックを多量、泥岩片・炭化物粒を少量含む。
- 13 暗褐色土: しまり強い、粘性あり。灰を多量、炭化物粒・焼土粒・泥岩片を少量含む。
- 14 暗褐色土: しまりあり、粘性弱い。炭化物粒・灰を少量、片岩片を微量含む。
- 15 暗褐色土: しまりあり、粘性あり。炭化物粒を多量、灰を含む。
- 16 暗褐色土: しまりあり、粘性あり。焼土ブロック・炭化物粒を多量、灰を含む。

図164 1号住居跡

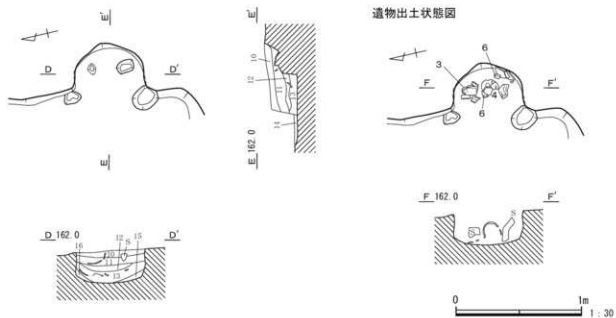


図 165 1号住居跡カマド

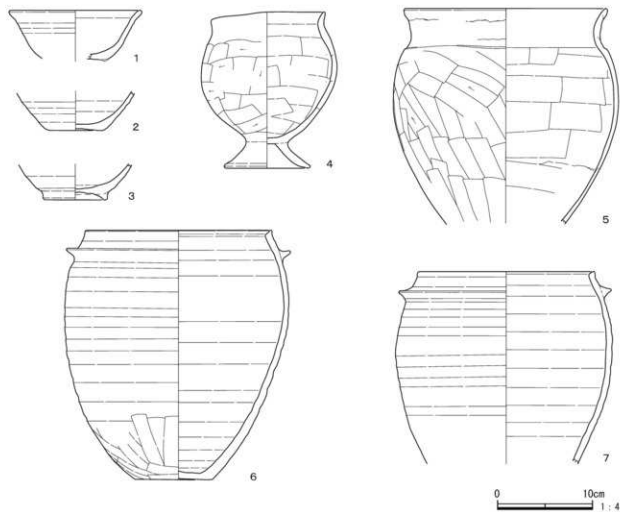


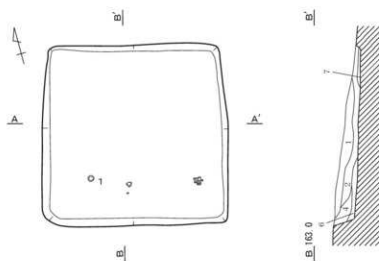
図 166 1号住居跡出土遺物

表 43 1号住居跡出土遺物観察表

1	須恵器 埴	A. 口縁部径 (13.6)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。D. 白色粒、礫。E. 外一灰色、内一褐色。F. 口縁部～底部 2/5。G. 酸化焙焼成。H. 床面直上。
2	須恵器 環	A. 底部径 5.6。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。D. 白色粒、褐色粒、雲母、礫。E. 外一明褐色、内一にぶい褐色。F. 体部～底部 3/5。G. 酸化焙焼成。H. 床面直上、カマド内。
3	須恵器 高台付埴	A. 底部径 6.3。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。D. 白色粒、褐色粒、礫。E. 外一明褐色、内一にぶい褐色。F. 体部～高台部 2/3。G. 酸化焙焼成。H. カマド床面直上、カマド内。
4	土師器 台付甕	A. 口縁部径 11.9、器高 8.6、底部径 16.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面篋ケズリ、内面篋ナデ。上部内外面ヨコナデ。D. 黒色粒、白色粒、石英。E. 内外一にぶい褐色。F. 3/5、H. カマド内。
5	土師器 甕	A. 口縁部径 (21.2)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面篋ケズリ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 口縁部～胴部下位 1/2。H. カマド床面直上、カマド内。
6	須恵器 羽釜	A. 口縁部径 19.4、器高 26.3、底部径 8.2。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。胴部下位～底部外面篋ケズリ。D. 白色粒、雲母、礫。E. 外一にぶい褐色、内一灰褐色。F. 3/5、H. カマド床面直上、カマド内。
7	須恵器 羽釜	A. 口縁部径 18.4。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。D. 白色粒、褐色粒、雲母、礫。E. 外一灰黄褐色、内一にぶい褐色。F. 口縁部～胴部下位 3/4。H. カマド床面直上、カマド内。

2号住居跡 (図 167・168、表 44 /写真図版 40)

位置：調査区中央北寄りに位置する。形状・規模：平面形は正方形を呈する。規模は一辺約 2.90 m を測る。主軸方位：N-15°-E。床面：確認面からの深さは 30 cm を測る。床面は比較的平坦で整っている。貯蔵穴：なし。カマド：カマドの造られる時期の住居であるが検出していない。遺物：遺物は少なく、南側に黒色土器の埴、土師器甕の胴部破片が少量出土した。時期：9 世紀後半～10 世紀。



2号住居跡 土層説明

- 1 黒褐色土：しまりあり、粘性ない。小礫・砂利を多量、泥岩片を少量含む。
- 2 暗褐色土：しまりあり、粘性弱い。砂利を多量、小礫・炭化物粒を微量含む。
- 3 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。砂利を少量、泥岩片を微量含む。
- 4 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。砂利・YP を微量含む。
- 5 暗褐色土：しまり強い、粘性強い。小礫を多量、砂利・YP を少量含む。
- 6 褐色土：しまり強い、粘性強い。小礫・泥岩片を少量、片岩片・炭化物粒・YP を微量含む。
- 7 暗褐色土：しまり強い、粘性強い。砂利・泥岩片を微量含む。

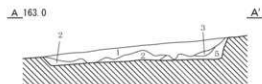


図 167 2号住居跡



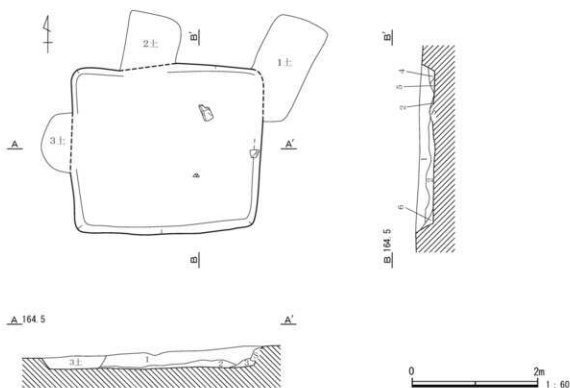
図 168 2号住居跡出土遺物

表 44 2号住居跡出土遺物観察表

1	黒色土器 埴	A. 底部径7.2。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。体部～底部内面鏡ミガキ、黒色処理。底部右回転糸切り。D. 白色粒、褐色粒、雲母。E. 外一にぶい黄褐色。内-黒褐色。F. 体部下位～高台部残存。H. 覆土中。
---	-----------	---

3号住居跡 (図 169 / 写真図版 40)

位置: 調査区中央南寄りに位置する。**重複:** 1～3号土坑と重複し、本住居跡が古い。**形状・規模:** 平面形は長方形を呈する。規模は長軸3.00m、短軸2.70mを測る。**長軸方位:** N-90°-W。**床面:** 確認面からの深さは30cmを測る。床面はやや凹凸が見られる。**貯蔵穴:** なし。**柱穴:** なし。**カマド:** カマドの造られる時期のものと考えられるが検出していない。**遺物:** 縄紋時代晩期の土器片が1点出土したのみである。**時期:** 不明。



3号住居跡 土層説明

- 1 黒褐色土: しまりあり、粘性弱い。小礫・砂利を多量、YP・焼土粒を微量含む。
- 2 暗褐色土: しまりあり、粘性あり。砂利・黄褐色土を少量、炭化物粒を微量含む。
- 3 褐色土: しまり強い、粘性あり。砂利・炭化物粒を微量含む。
- 4 暗褐色土: しまりあり、粘性あり。砂利を微量含む。
- 5 明褐色土: しまりあり、粘性あり。黄褐色土を多量、砂利を少量含む。
- 6 暗褐色土: しまり強い、粘性あり。片岩片・砂利を少量、炭化物粒を微量含む。

図 169 3号住居跡

(2) 土坑

1号土坑 (図 170)

位置: 調査区中央南寄りに位置する。**重複:** 3号住居跡と重複し、本土坑が新しい。**形状・規模:** 平面形は長方形を呈する。長径1.75m、短径0.85m、深さ28cmを測る。**長軸方位:** N-22°-E。**遺物:**

出土しなかった。時期：不明。

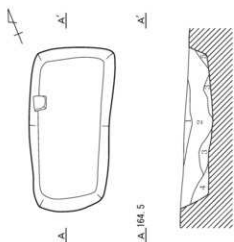
2号土坑 (図170)

位置：調査区中央南寄りに位置する。重複：3号住居跡と重複し、本土坑が新しい。形状・規模：平面形は長方形を呈する。長径1.15m、短径0.83m、深さ15cmを測る。長軸方位：N-10°-E。遺物：出土しなかった。時期：不明。

3号土坑 (図170)

位置：調査区中央南寄りに位置する。重複：3号住居跡と重複し、本土坑が新しい。形状・規模：平面形は円形を呈する。長径1.00m、短径0.95m、深さ20cmを測る。遺物：出土しなかった。時期：不明。

1号土坑



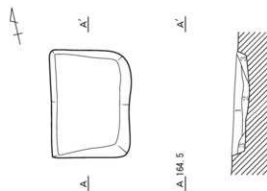
1号土坑 土層説明

- 1 黒褐色土：しまりあり、粘性弱い。砂利を少量含む。
- 2 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。砂利・As-A・炭化物粒を少量含む。
- 3 暗褐色土：しまり強い、粘性あり。泥岩片・砂利・As-Aを少量、焼土粒・炭化物粒を微量含む。
- 4 黒褐色土：しまり強い、粘性強い。As-A・炭化物粒を少量、砂利を微量含む。
- 5 褐色土：しまり強い、粘性強い。片岩片・砂利を微量含む。

3号土坑 土層説明

- 1 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。砂利・泥岩片を少量、炭化物粒・小礫を微量含む。
- 2 暗褐色土：しまり強い、粘性強い。泥岩片・片岩片を少量、炭化物粒を微量含む。

2号土坑



2号土坑 土層説明

- 1 暗褐色土：しまりあり、粘性ない。砂利を多量、片岩片・小礫を少量、As-A・炭化物粒を微量含む。
- 2 黒褐色土：しまりあり、粘性あり。砂利を少量、泥岩片・片岩片・As-Aを微量含む。
- 3 黒褐色土：しまり強い、粘性あり。砂粒・炭化物粒・As-Aを少量、小礫を微量含む。

3号土坑

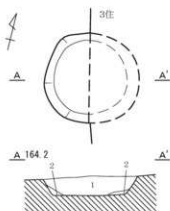


図170 1～3号土坑

第16節 堂ノ入遺跡A地点1区・2区

1 遺跡の概要 (図171・172/写真図版41)

堂ノ入遺跡A地点1区は「女堀川」支流左岸の丘陵上にあり、小規模な沢によって浸食された開析谷の西斜面に立地する。標高は152.5～161mで、調査区内は北西から南東へ傾斜する。2区は1区北側の約30m下方にあり、東北にのびる細い丘陵の尾根上に展開する。標高は153.5～159mで、調査区内は南西から北東へ傾斜する。

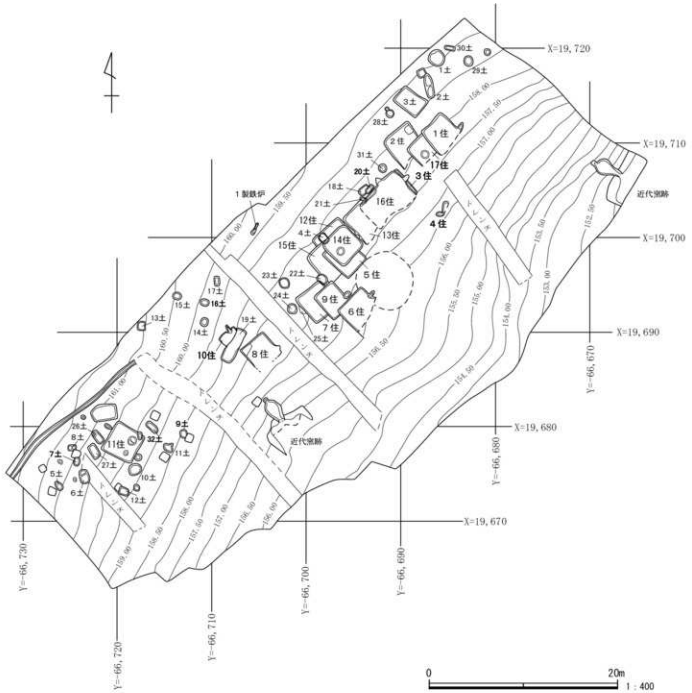


図171 堂ノ入遺跡A地点1区全体図

検出された遺構は、1区で竪穴住居跡17軒、土坑32基、製鉄跡1基、2区で竪穴住居跡2軒、土坑6基である。ほとんどの竪穴住居跡は奈良・平安時代に帰属する。1区では8世紀後半から11世紀前半まで連続して営まれる。また、2区では10世紀のものに加えて、縄紋時代前期の住居跡も1軒確認されている。製鉄跡は平安時代に比定され、1区の住居群より標高の高い位置で検出されている。土砂流出のため構造は不明確であるが、等高線に直交して造られ、南東側の斜面に鉄滓等を廃棄したものと考えられる。

遺物は、奈良・平安時代の土師器・須恵器を主体としているが、1区の北端および中央西側に、縄紋土器・石器等が集中して出土する。縄紋土器は早期前葉から中期中葉のものが認められ、早・前期を主体とする。なお、同一丘陵における傾向を示すために、縄紋時代の遺構外出土遺物はB区と合わせて掲載する（第17節）。

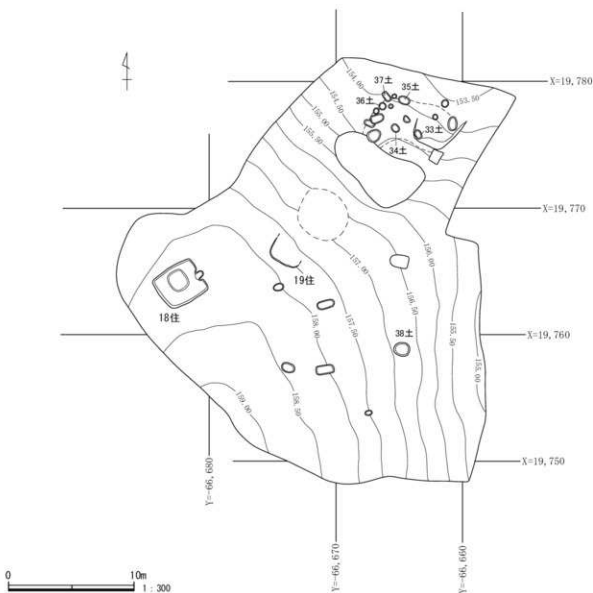


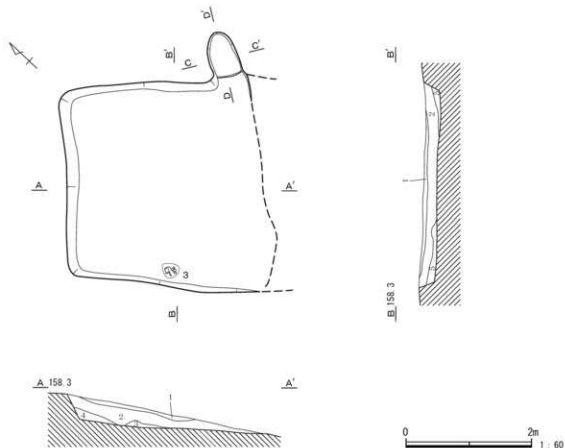
図 172 堂ノ入遺跡A地点2区全体図

2 検出された遺構と遺物

(1) 竪穴住居跡

1号住居跡（図173～175、表45／写真図版41・86）

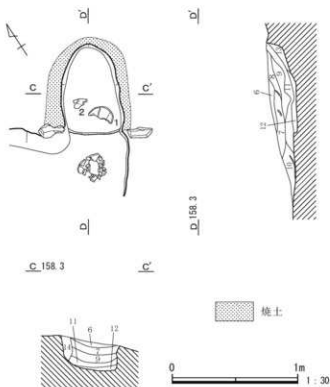
位置：1区北側に位置する。**重複：**17号住居跡と重複し、本住居跡が新しい。**形状・規模：**土砂流出のため平面形は確定できないが、横長方形を呈すと思われる。規模は、確認された範囲では北東-南西軸3.30mを測る。**主軸方位：**N-44'-E。**床面：**確認面からの深さは28cmを測る。床面は比較的平坦で整っている。**貯蔵穴：**なし。**柱穴：**なし。**カマド：**東壁に位置し、カマドの主軸が壁面より10°程北へ傾いて設置される。燃烧部は幅45cm、奥行き80cmで壁外に造り出される。壁面は被熱により赤色化している。両側の袖位置には片岩が検出された。**遺物：**西壁際に土師器甕、カマド内から土師器埴等が出土した。**時期：**8世紀後半。



1号住居跡 土層説明

- 1 褐色土：しまりあり、粘性弱い。泥岩・片岩片を少量、炭化物粒を微量含む。
- 2 暗褐色土：しまりややあり、粘性あり。泥岩片を多量、焼土粒・片岩片・炭化物粒を微量含む。
- 3 暗灰褐色土：しまり強い、粘性強い。泥岩片を多量含む。
- 4 灰褐色土：しまり強い、粘性強い。片岩・泥岩片を多量含む。
- 5 褐色土：しまりややあり、粘性あり。泥岩片を少量、炭化物粒を微量含む。

図173 1号住居跡



1号住居跡カマド 土層説明

- 6 褐色土：しまりあり、粘性あり。焼土粒・焼土ブロック・泥岩片を少量含む。
- 7 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。泥岩片・焼土粒・炭化物粒を少量含む。
- 8 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。7層に順ずる。焼土粒が多い。
- 9 暗赤褐色土：しまりあり、粘性あり。焼土ブロックを多量、泥岩片・炭化物粒を微量に含む。崩落した天井部。
- 10 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。泥岩片・焼土粒を少量、炭化物粒を微量含む。
- 11 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。焼土粒・炭化物粒を少量、灰を微量含む。
- 12 暗褐色土：しまりやや弱い、粘性やや弱い。炭化物粒を少量、焼土粒・灰を微量含む。
- 13 褐色土：しまりあり、粘性弱い。焼土粒・炭化物粒を少量含む。
- 14 暗赤褐色土：しまりあり、粘性弱い。焼土ブロックを多量、炭化物粒を少量、泥岩片を微量含む。

図 174 1号住居跡カマド

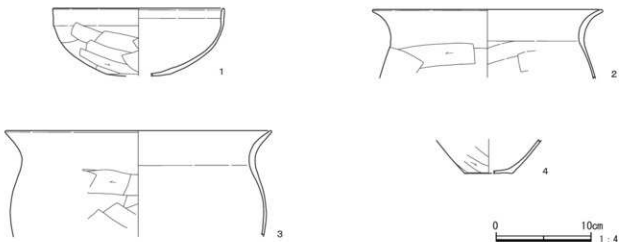


図 175 1号住居跡出土遺物

表 45 1号住居跡出土遺物観察表

1	土師器 碗	A. 口縁部径 (18.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部～底部外面匏ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外～にぶい褐色、内～にぶい橙色。F. 1/2。H. カマド内。
2	土師器 甕	A. 口縁部径 (24.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面匏ケズリ、内面匏ナデ。D. 白色粒、角閃石。E. 外～にぶい褐色、内～にぶい橙色。F. 口縁部～胴部上位 1/8。H. カマド内、覆土中。
3	土師器 甕	A. 口縁部径 (28.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面匏ケズリ、内面匏ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外～にぶい褐色、内～灰白色。F. 口縁部～胴部中位破片。H. 覆土中。
4	土師器 甕	A. 底部径 (5.2)。B. 粘土組織み上げ。C. 胴部～底部外面匏ケズリ、内面匏ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外～にぶい黄褐色、内～橙色。F. 胴部下位～底部 1/3。H. 覆土中。

2号住居跡 (図 176、表 46 / 写真図版 42・86)

位置: 1区北側に位置する。**重複:** 17号住居跡と重複し、本住居跡が新しい。**形状・規模:** 土砂流出のため平面形は確定できないが、横長方形を呈すと思われる。規模は、確認された範囲では東西軸 3.60 mを測る。**主軸方位:** N-50°-E。**床面:** 確認面からの深さは 40 cmを測る。床面はやや凹凸が見られる。**貯蔵穴:** なし。**柱穴:** なし。**カマド:** 東壁に設置される。燃焼部は幅 40 cm、奥行き 70 cmを測る。40 cmを壁外に造り出し、壁内に長さ 30 cmの袖部を設ける。右袖部および燃焼部中ほどの両側にカマド構築材と考えられる礫が出土している。**遺物:** カマド内から須恵器羽釜・土釜、覆土中から須恵器高台付塊等の破片が少量出土した。**時期:** 10世紀後半。

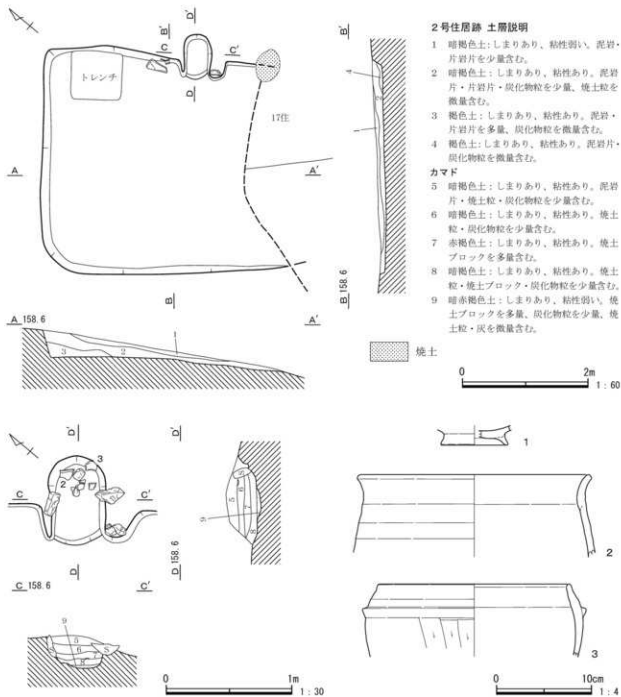


図 176 2号住居跡および出土遺物

表 46 2号住居跡出土遺物観察表

1	須恵器 高台付埴	A. 底部径(7.0)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。D. 黒色粒、白色粒、雲母。E. 外一橙色、内一にぶい赤褐色。F. 体部下位~高台部1/3。G. 酸化塩焼成。H. 覆土中。
2	須恵器 土釜	A. 口縁部径(24.0)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。D. 黒色粒、白色粒、褐色粒。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 口縁部~胴部上位破片。H. カマド内。
3	須恵器 羽釜	A. 口縁部径(20.0)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。胴部外面艶ケズリ。D. 黒色粒、白色粒、鐵。E. 外一明赤褐色、内一にぶい赤褐色。F. 口縁部~胴部上位1/8。H. カマド内。

3号住居跡(図177~179、表47/写真図版42・43・86)

位置：1区北側に位置する。重複：16号住居跡と重複し、本住居跡が新しい。形状・規模：土砂流出のため平面形は確定できないが、貯蔵穴が壁際に造られていたとすれば、ほぼ正方形を呈すと推測される。規模は、確認された範囲では東西軸3.95mを測る。主軸方位：N-48°-E。床面：確認面からの深さは35cmを測る。床面はやや凹凸が見られる。貯蔵穴：南東部に位置する。平面形は長方形を呈し、壁に対してやや傾いている。長径78cm、短径64cm、深さ28cmを測る。カマド：東壁に設置される。燃焼部は幅40cm、奥行き78cmを測る。54cm程を壁外に造り出し、壁内に長さ24cmの袖部を設ける。掘り方はカマド手前から燃焼部を楕円形状に掘り窪めており、長さ116cm、幅48cm、深さ6cmを測る。遺物：床面直上で土師器甕・坏、覆土中からも土師器甕・台付甕、須恵器蓋等の破片が少量出土した。時期：9世紀前半。

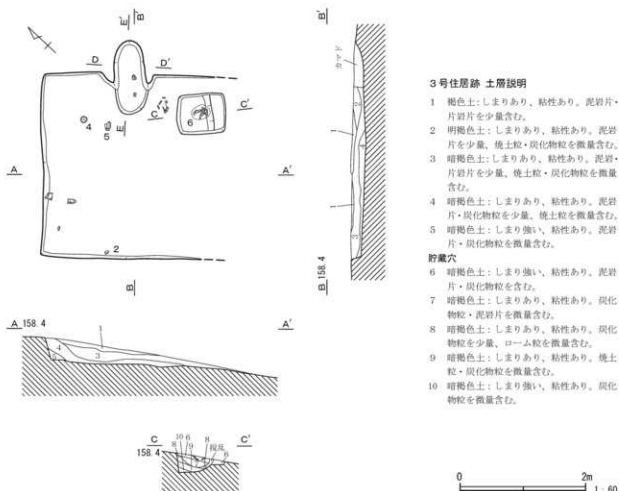
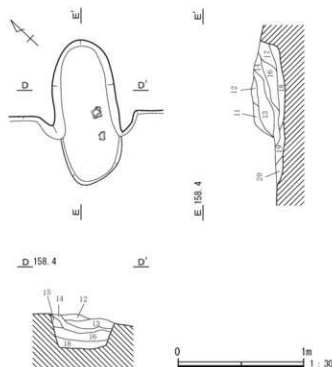


図 177 3号住居跡



3号住居跡カマド 土層説明

- 11 暗褐色土：しまり弱い、粘性あり。焼土粒・焼土ブロック・泥岩片を少量含む。
- 12 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。泥岩片・焼土粒を少量、炭化物粒を微量含む。
- 13 暗赤褐色土：しまりあり、粘性弱い。焼土ブロックを多量・炭化物粒を微量含む。
- 14 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。炭化物粒を少量、泥岩片を微量含む。
- 15 暗褐色土：しまりあり、粘性弱い。焼土粒・炭化物粒を少量含む。
- 16 暗褐色土：しまりやや弱い、粘性やや弱い。焼土粒を多量、炭化物粒・焼土ブロックを少量含む。
- 17 暗褐色土：しまりやや弱い、粘性やや弱い。灰を多量、炭化物粒を少量、焼土粒を微量含む。
- 18 褐色土：しまり弱い、粘性あり。焼土粒・焼土粒ブロック・炭化物粒・灰を少量含む。
- 19 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。泥岩片・焼土粒を少量、炭化物粒を微量含む。

図 178 3号住居跡カマド

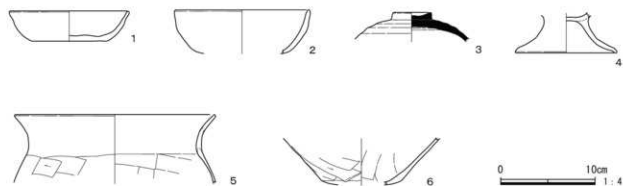


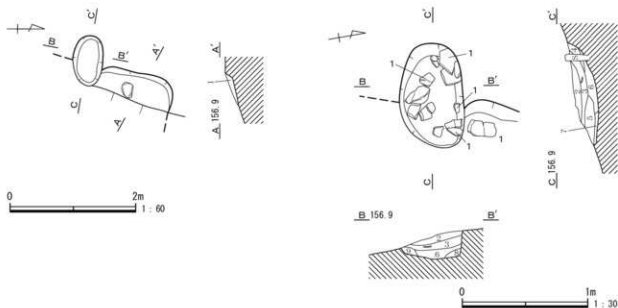
図 179 3号住居跡出土遺物

表 47 3号住居跡出土遺物観察表

1	土師器 坏	A. 口縁部径 (12.5)、器高 3.2、底部径 (8.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 器面が荒れ調整不明瞭。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一橙色。F. 1/4。H. 覆土中。
2	土師器 坏	A. 口縁部径 (14.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 器面が荒れ調整不明瞭。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一にぶい橙色、内一橙色。F. 口縁部～体部破片。H. 床面直上。
3	須恵器 蓋	A. 幅み径 (3.0)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一灰白色。F. 幅み～天井部 1/2。G. 還元焼成。H. 覆土中。
4	土師器 台付甕	A. 底部径 (10.6)。B. 粘土組織み上げ。C. 器面が荒れ調整不明瞭。D. 黒色粒、白色粒、角閃石。E. 外一橙色、内一明赤褐色。F. 底部～台部 3/4。H. 覆土中。
5	土師器 甕	A. 口縁部径 (21.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面匏ケズリ、内面匏ナデ。D. 黒色粒、白色粒、角閃石。E. 外一灰褐色、内一にぶい橙色。F. 口縁部～胴部破片。H. 床面直上。
6	土師器 甕	A. 底部径 (8.4)。B. 粘土組織み上げ。C. 胴部～底部外面匏ケズリ、内面匏ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一にぶい褐色、内一にぶい赤褐色。F. 胴部下位～底部破片。H. 貯蔵穴内。

4号住居跡(図180、表48/写真図版43・86)

位置：1区中央北寄りに位置する。形状・規模：土砂流出のためカマドおよび西壁の一部が残存するのみで、形状・規模ともに不明である。主軸方位：N-10°-E。床面：確認面からの深さは10cmを測る。床面の大半が流出しており詳細は不明である。貯蔵穴：なし。柱穴：不明。カマド：西壁に設置される。燃焼部は幅50cm、奥行き50cmで壁外に造り出される。掘り方は楕円形状を呈する。遺物：カマド内から須恵器土釜、土師器坏の小破片等が少量出土した。時期：10世紀後半～11世紀。



4号住居跡 土層説明

- 1 暗褐色土：しまりあり、粘性弱い。泥岩片を少量、炭化物粒を微量含む。
- カマド
- 2 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。泥岩片・焼土粒・炭化物粒を少量含む。
- 3 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。焼土粒・炭化物粒を少量、焼土ブロックを微量含む。
- 4 暗褐色土：しまりあり、粘性弱い。炭化物粒を少量、焼土粒を微量含む。
- 5 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。炭化物粒・焼土粒を微量含む。
- 6 暗褐色土：しまりあり、粘性弱い。焼土ブロックを多量、炭化物粒・灰を少量含む。
- 7 明褐色土：しまりあり、粘性弱い。灰を多量、焼土粒・炭化物粒を少量含む。
- 8 暗褐色土：しまりあり、粘性弱い。焼土粒・焼土ブロックを多量、炭化物粒を微量含む。
- 9 暗褐色土：しまりあり、粘性弱い。炭化物粒を少量、焼土粒を微量含む。

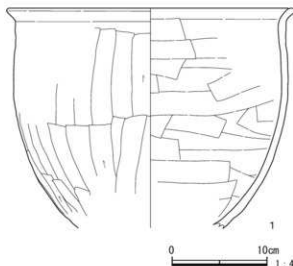


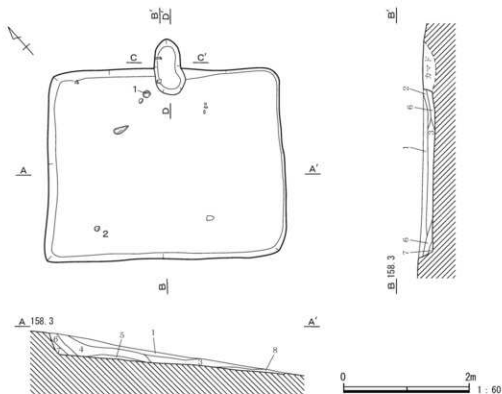
図180 4号住居跡および出土遺物

表48 4号住居跡出土遺物観察表

1	須恵器土釜	A. 口縁部径(30.0)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。胴部外面捲ケズリ、内面捲ナデ。D. 黒色粒、白色粒、褐色粒、礫。E. 外-にびい赤褐色、内-明赤褐色。F. 口縁部～胴部下位1/3。H. カマド床面直上、カマド内。
---	-------	--

5号住居跡 (図181・182、表49／写真図版43・44・86)

位置：1区中央に位置する。重複：12・14・15号住居跡と重複する。土層による確認はないが、重複する部分にカマドおよび壁が残存していることから、本住居跡が最も新しい可能性が高い。また、

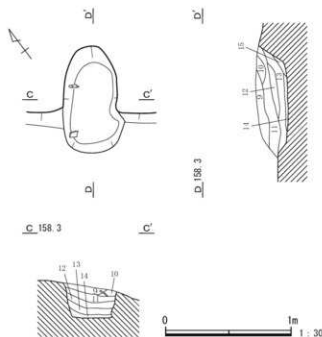


5号住居跡 土層説明

- 1 暗褐色土：しまり強い、粘性あり。泥岩片を多量、片岩片・炭化物粒を少量含む。
- 2 暗褐色土：しまり強い、粘性あり。1層に準ずる。
- 3 暗褐色土：しまり強い、粘性強い。泥岩片・炭化物粒を少量、焼土粒を微量含む。
- 4 褐色土：しまり強い、粘性強い。焼土粒・炭化物粒を少量、泥岩片を微量含む。
- 5 褐色土：しまりややあり、粘性あり。焼土粒を少量、炭化物粒を微量含む。
- 6 暗褐色土：しまり強い、粘性あり。泥岩片を少量、炭化物粒を微量含む。
- 7 暗褐色土：しまり強い、粘性あり。焼土粒・炭化物粒を微量含む。
- 8 褐色土：しまりあり、粘性あり。炭化物粒を少量、焼土粒を微量含む。

カマド

- 9 暗褐色土：しまり強い、粘性あり。泥岩片・片岩片を多量、焼土粒・炭化物粒を少量含む。
- 10 暗赤褐色土：しまり強い、粘性弱い。焼土ブロックを多量、炭化物粒を微量含む。
- 11 暗褐色土：しまり強い、粘性あり。焼土粒を多量、泥岩片・炭化物粒を少量含む。
- 12 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。焼土粒・炭化物粒を少量、泥岩片を微量含む。
- 13 暗褐色土：しまりあり、粘性弱い。炭化物粒を少量、焼土粒・灰を微量含む。



- 14 黒褐色土：しまりやや弱い、粘性やや弱い。灰を多量、炭化物粒を少量含む。
- 15 暗褐色土：しまりあり、粘性弱い。灰を少量、焼土粒・炭化物粒を微量含む。

図181 5号住居跡

出土遺物を考慮しても出土量が少なく、ほとんど同じ時期の破片が多いため確定し難い。形状・規模：平面形は横長長方形を呈し、長軸3.80 m、短軸3.00 mを測る。主軸方位：N-42°-E。床面：確認面からの深さは35 cmを測る。床面はやや凹凸が見られる。貯蔵穴：なし。柱穴：なし。カマド：東壁中央に設置される。燃焼部は幅45 cm、奥行き50 cmで壁外に造り出される。掘り方は楕円形状を呈する。遺物：土師器環、須恵器環等の破片が出土した。時期：8世紀後半。



図 182 5号住居跡出土遺物

表 49 5号住居跡出土遺物観察表

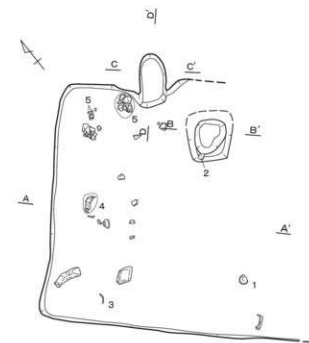
1	土師器環	A. 口縁部径12.6、器高4.2、底部径8.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面器面が荒れ調整不明瞭、内面ナデ。底部外面匏ケズリ。D. 黒色粒、白色粒、褐色粒。E. 外一褐色、内一明赤褐色。F. 3/4。H. 覆土中。
2	須恵器環	A. 底部径7.4。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部回転承切り後周辺部回転匏ケズリ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一灰色、内一黄灰色。F. 体部下位～底部残存。G. 還元焼成。H. 覆土中。

6号住居跡 (図 183・184、表 50 / 写真図版 44・45・86)

位置：1区中央に位置する。重複：9号住居跡と重複する。土層による確認はないが、遺物を考慮すると本住居跡が新しいと考えられる。形状・規模：土砂流出のため平面形は確定できないが、横長長方形を呈すと思われる。規模は、確認された範囲では北東-南西軸3.80 mを測る。主軸方位：N-46°-E。床面：確認面からの深さは35 cmを測る。床面はやや凹凸が見られる。貯蔵穴：南東部に位置する。平面形はやや不整形な方形に近い形状を呈する。一边が約70 cm、深さ35 cmを測る。カマド：東壁北寄りに設置される。燃焼部は幅40 cm、奥行き85 cmを測る。45 cm程を壁外に造り出し、壁内に長さ40 cmの袖部を設ける。遺物出土状況：土師器小形甕・甕、須恵器環、黒色土器環等が出土した。ほとんどの遺物が覆土上層の出土であるが、1の須恵器環は床直で出土した。時期：9世紀後半。

表 50 6号住居跡出土遺物観察表

1	須恵器環	A. 口縁部径12.3、器高3.2、底部径6.3。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部右回転承切り。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一灰黄色、内一灰白色。F. 7/8。G. 酸化焼成。H. 床面直上。
2	須恵器環	A. 口縁部径12.0、器高3.4、底部径6.4。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部回転承切り。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一灰色。F. 3/4。G. 酸化焼成。H. 貯蔵穴内。
3	黒色土器環	A. 底部径6.5。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。体部下位外面匏ケズリ、底部右回転承切り。体部～底部内面匏ミガキ、黒色処理。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一にぶい褐色、内一黒色。F. 体部下位～底部残存。H. 覆土中。
4	土師器小形甕	A. 口縁部径(12.9)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面匏ケズリ、内面匏ナデ。D. 黒色粒、白色粒、褐色粒。E. 外一にぶい赤褐色、内一灰褐色。F. 口縁部～胴部上位破片。H. 覆土中。
5	土師器甕	A. 口縁部径(18.0)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面匏ケズリ、内面匏ナデ。D. 黒色粒、白色粒、褐色粒。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 口縁部～胴部上位1/6。H. 覆土中。

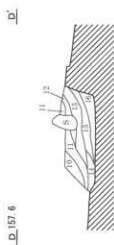
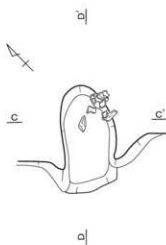
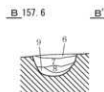
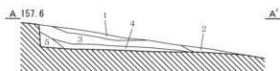


6号住居跡 土層説明

- 1 暗褐色土：しまりやや弱い、粘性やや弱い、泥岩片を多量、片岩片を少量含む。
- 2 暗褐色土：しまりやや弱い、粘性やや弱い、1層に準ずる。泥岩片を多量含む。
- 3 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。泥岩片・片岩片を少量、焼土粒・炭化物粒を微量含む。
- 4 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。泥岩片・炭化物粒を少量、焼土粒を微量含む。
- 5 褐色土：しまりあり、粘性あり。炭化物粒を少量、泥岩片を微量含む。

貯蔵穴

- 6 褐色土：しまりあり、粘性あり。泥岩片・焼土粒を少量、炭化物粒を微量含む。
- 7 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。焼土粒・焼土ブロックを少量、炭化物粒・泥岩片を微量含む。
- 8 暗褐色土：しまり強い、粘性あり。焼土粒を少量、ローム粒・炭化物粒・泥岩片を微量含む。
- 9 明褐色土：しまり強い、粘性あり。ローム粒を多量、泥岩片・炭化物粒を微量含む。



6号住居跡カマド 土層説明

- 10 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。炭化物粒を多量、泥岩片を少量、焼土粒を微量含む。
- 11 褐色土：しまりやや弱い、粘性やや弱い。泥岩片・炭化物粒・焼土粒を少量含む。
- 12 暗赤褐色土：しまりあり、粘性あり。焼土粒・焼土ブロックを多量、炭化物粒・泥岩片を微量含む。
- 13 褐色土：しまり強い、粘性あり。焼土粒・炭化物粒を少量、泥岩片を微量含む。
- 14 褐色土：しまりあり、粘性あり。炭化物粒を少量、焼土粒・泥岩片を微量含む。
- 15 暗褐色土：しまり強い、粘性あり。炭化物粒を少量、焼土粒を微量含む。
- 16 暗褐色土：しまり強い、粘性弱い。炭化物粒を少量、焼土粒を微量、灰を含む。

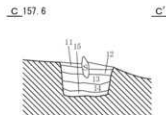


図 183 6号住居跡

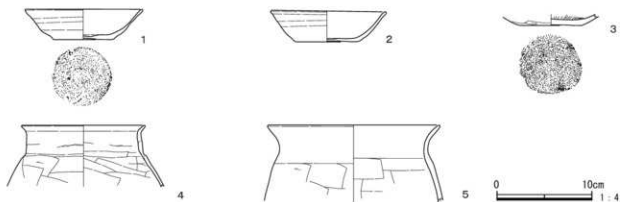
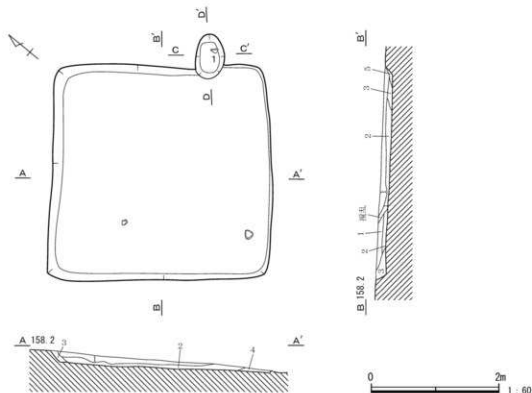


図 184 6号住居跡出土遺物

7号住居跡 (図 185・186、表 51 / 写真図版 46)

位置: 1区中央に位置する。**重複:** 9号住居跡と重複し、本住居跡が上層で形態を確認しており新しいと考えられる。**形状・規模:** 平面形はほぼ正方形に近い形状を呈する。規模は長軸3.50m、短軸3.30mを測る。**主軸方位:** N-49°-E。**床面:** 確認面からの深さは18cmを測る。床面はやや凹凸が見られる。**貯蔵穴:** なし。**柱穴:** なし。**カマド:** 東壁南寄りに設置される。燃焼部は幅45cm、奥行き55cmで壁外に造り出される。掘り方は楕円形を呈する。**遺物出土状況:** 須恵器甕・羽釜等の破片が少量出土した。**時期:** 10世紀後半～11世紀前半。



7号住居跡 土層説明

- | | |
|---|------------------------------------|
| 1 暗褐色土: しまり強い、粘性あり。泥岩片を多量、炭化物粒を少量、焼土粒を微量含む。 | 3 暗褐色土: しまりあり、粘性あり。ローム粒・炭化物粒を少量含む。 |
| 2 暗褐色土: しまりあり、粘性あり。炭化物粒・泥岩片・焼土粒を少量含む。 | 4 褐色土: しまり弱い、粘性あり。炭化物粒を微量含む。 |
| | 5 暗褐色土: しまり強い、粘性あり。焼土粒・炭化物粒を含む。 |

図 185 7号住居跡

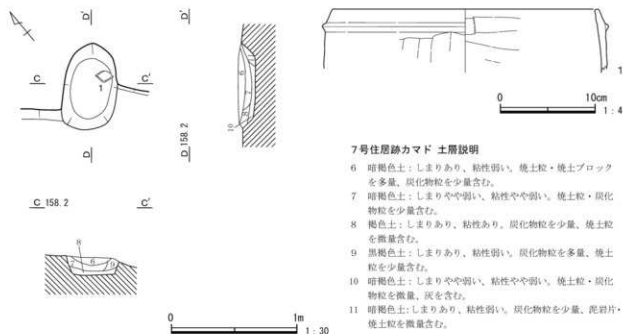


図 186 7号住居跡カマドおよび出土遺物

表 51 7号住居跡出土遺物観察表

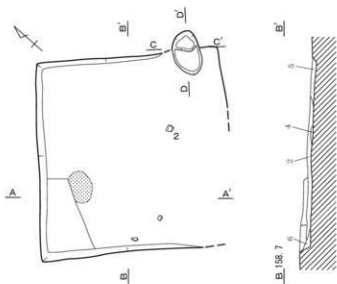
1	須恵器 羽釜	A. 口縁部径 (28.0)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ、胴部外面鏡ナデ、内面鏡ナデ。D. 黒色粒、白色粒、糲。E. 内外へにびい赤褐色。F. 口縁部～胴部上位破片。H. カマド内。
---	-----------	---

8号住居跡 (図 187・188、表 52 / 写真図版 46・47)

位置：1区中央西寄りに位置する。**形状・規模**：土砂流出のため平面形は確定できない。規模は、確認された範囲では北東-南西軸 3.10 mを測る。**主軸方位**：N-48°-E。**床面**：確認面からの深さは 16 cmを測る。床面はやや凹凸が見られる。**貯蔵穴**：なし。**柱穴**：なし。**カマド**：東壁南寄りに設置される。残存状態が悪く構造は不明瞭だが、燃焼部は壁外に造り出される形態である。掘り方が楕円形を呈し、長径 70 cm、短径 44 cm、深さ 10 cmを測る。**遺物**：土師器甕、須恵器坏・甕等の破片が出土した。**時期**：8世紀後半～9世紀初頭。

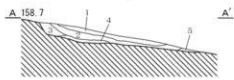
9号住居跡 (図 189、表 53 / 写真図版 47・87)

位置：1区中央に位置する。**重複**：6・7号住居跡と重複する。6号住居跡とは前述の通り本住居跡が古く、7号住居跡は本住居跡より上層でカマド等検出されており、本住居跡が古いと考えられる。**形状・規模**：平面形は横長長方形を呈する。規模は長軸 3.30 m、短軸 2.80 mを測る。**主軸方位**：N-49°-E。**床面**：確認面からの深さは 22 cmを測る。床面はやや凹凸が見られる。**貯蔵穴**：なし。**柱穴**：なし。**カマド**：東壁南寄りに設置される。燃焼部はカマド右側が検出されていないため、幅は推定 60 cm程、奥行き 80 cmを測る。62 cm程を壁外に造り出し、壁内に長さ 18 cmの袖部を設ける。掘り方は楕円形状を呈する。**遺物**：カマド内から土師器坏の破片が出土した程度である。**時期**：8世紀後半。

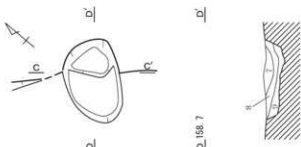


8号住居跡 土層説明

- 1 暗褐色土：しまり強い、粘性あり。泥岩片・焼土粒を多量、炭化物粒を少量含む。
- 2 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。泥岩片・炭化物粒を多量、焼土ブロック・焼土粒を少量含む。
- 3 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。泥岩片を少量、焼土粒・炭化物粒を微量含む。
- 4 褐色土：しまり強い、粘性あり。焼土粒・炭化物粒を少量、泥岩片を微量含む。
- 5 褐色土：しまりあり、粘性あり。炭化物粒を少量、焼土・泥岩片を微量含む。
- 6 暗褐色土：しまりあり、粘性弱い。炭化物粒を少量、泥岩片を微量含む。



焼土



8号住居跡カマド 土層説明

- 7 暗赤褐色土：しまりあり、粘性弱い。焼土ブロックを多量、炭化物粒を少量含む。
- 8 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。焼土粒・炭化物粒を少量、泥岩片を微量含む。
- 9 暗褐色土：しまりやや弱い、粘性やや弱い。炭化物粒を少量、焼土粒を微量、灰を含む。

C 158.7



図 187 8号住居跡

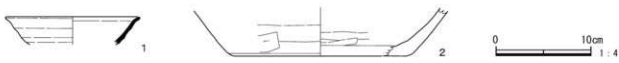
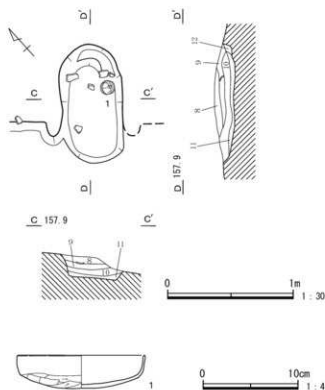
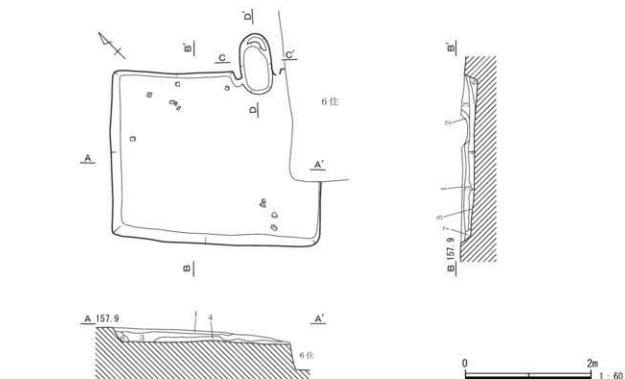


図 188 8号住居跡出土遺物

表 52 8号住居跡出土遺物観察表

1	須恵器 坏	A. 口縁径(14.0)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一灰色。F. 口縁部～体部破片。G. 還元焰焼成。H. 覆土中。
2	須恵器 甕	A. 底径(18.0)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。胴部下位～底部外面捲ケズリ、内面捲ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一灰黄色。F. 胴部下位～底部破片。G. 酸化焰焼成。H. 床面直上。



9号住居跡 土層説明

- 1 暗褐色土：しまり強い、粘性あり。炭化物粒・泥岩片・焼土粒を少量含む。
- 2 暗褐色土：しまり強い、粘性弱い。焼土粒を少量、泥岩片を微量含む。
- 3 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。泥岩片・炭化物粒・焼土粒を少量含む。
- 4 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。炭化物粒を少量、焼土粒を微量含む。
- 5 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。炭化物粒・泥岩片を微量含む。
- 6 褐色土：しまりあり、粘性弱い。炭化物粒を微量含む。
- 7 暗黄褐色土：しまりやや弱い、粘性やや弱い。ローム風化土を多量、炭化物粒を微量含む。

カマド

- 8 褐色土：しまりあり、粘性あり。焼土粒・炭化物粒を少量、泥岩片を微量含む。
- 9 暗赤褐色土：しまりあり、粘性あり。焼土粒・焼土ブロックを多量、炭化物粒を少量含む。
- 10 褐色土：しまりあり、粘性弱い。焼土粒・炭化物粒を少量含む。
- 11 暗褐色土：しまりやや弱い、粘性やや弱い。炭化物粒を少量、焼土粒を微量、灰を含む。
- 12 黒褐色土：しまりやや弱い、粘性やや弱い。焼土粒・炭化物粒を微量含む。

図 189 9号住居跡および出土遺物

表 53 9号住居跡出土遺物観察表

1	土師器 環	A. 口縁径13.3、器高3.5。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部～底部外面箇ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-にぶい橙色、内-にぶい褐色。F. ほぼ完形。H. カマド内。
---	----------	---

10号住居跡（図190、表54／写真図版48）

位置：1区中央西寄りに位置する。重複：19号土坑と重複するが、新旧関係は不明である。形状・規模：土砂流出のため平面形は確定できない。規模は、確認された範囲では北東-南西軸2.10mを測る。主軸方位：N-39°-E。床面：確認面からの深さは25cmを測る。床面はやや凹凸が見られる。貯蔵穴：なし。柱穴：なし。カマド：北壁東寄りに設置される。燃焼部は幅40cm、奥行き80cmを測る。55cm程を壁外に造り出し、壁内に長さ25cmの袖部を設ける。燃焼部の壁面にはカマド構築材の礫が多く出土している。遺物：土師器壺・須恵器皿・甕等の小破片が出土した。時期：9世紀後半。

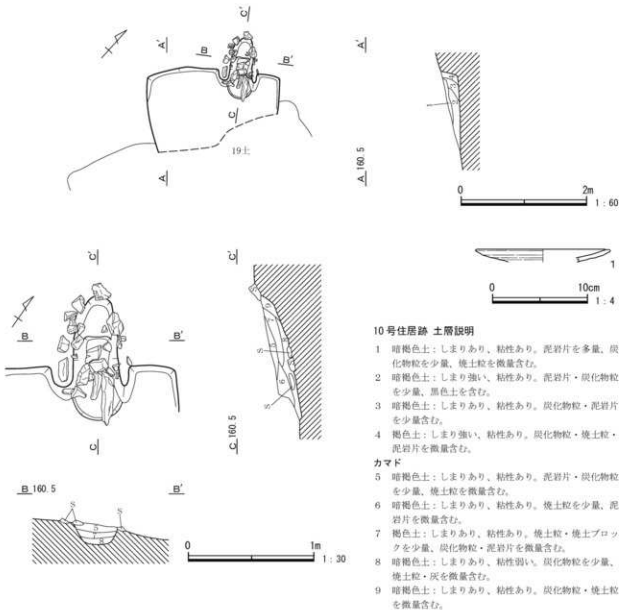


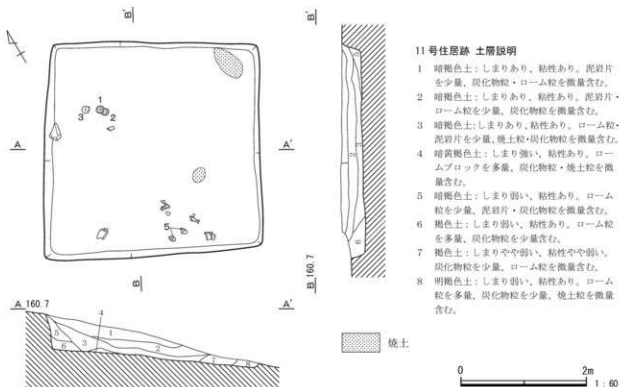
図190 10号住居跡および出土遺物

表54 10号住居跡出土遺物観察表

1	須恵器 皿	A. 口縁部径(14.0)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。D. 黒色粒、白色粒、褐色粒、礫。E. 外一橙色、内一にぶい褐色。F. 口縁部～体部破片。G. 酸化焙焼成。H. カマド周辺。
---	----------	---

11号住居跡 (図191・192、表55・56 / 写真図版48・49・87)

位置：1区西側に位置する。形状・規模：平面形はやや歪んだ正方形を呈する。規模は一辺3.40 mを測る。主軸方位：N-28°-E。床面：確認面からの深さは55 cmを測る。床面はやや凹凸が見られる。貯蔵穴：なし。柱穴：なし。カマド：カマドの造られる時期の住居であるが検出していない。遺物：須恵器環・羽釜・甔、鉄滓等が出土した。時期：11世紀前半。



11号住居跡 土層説明

- 1 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。泥岩片を少量、炭化物粒・ローム粒を微量含む。
- 2 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。泥岩片・ローム粒を少量、炭化物粒を微量含む。
- 3 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。ローム粒・泥岩片を少量、焼土粒・炭化物粒を微量含む。
- 4 暗黄褐色土：しまり強い、粘性あり。ロームブロックを多量、炭化物粒・焼土粒を微量含む。
- 5 暗褐色土：しまり弱い、粘性あり。ローム粒を少量、泥岩片・炭化物粒を微量含む。
- 6 褐色土：しまり弱い、粘性あり。ローム粒を多量、炭化物粒を少量含む。
- 7 褐色土：しまりやや弱い、粘性やや弱い。炭化物粒を少量、ローム粒を微量含む。
- 8 明褐色土：しまり弱い、粘性あり。ローム粒を多量、炭化物粒を少量、焼土粒を微量含む。

図191 11号住居跡

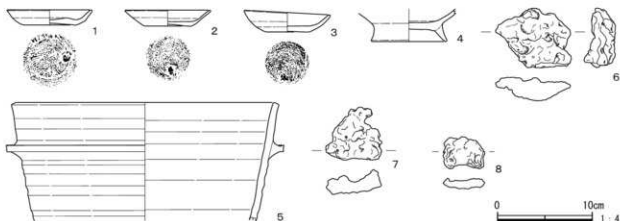


図192 11号住居跡出土遺物

表55 11号住居跡出土遺物観察表(1)

1	須恵器環 A. 口縁部径8.9、器高1.6、底部径5.4。B. ロク口成形。C. 内外面回転ナデ。底部右回転糸切り。D. 黒色粒、白色粒、片岩。E. 外一明褐色、内一にぶい橙色。F. 完形。G. 酸化焙焼成。H. 覆土中。
2	須恵器環 A. 口縁部径8.9、器高1.7、底部径4.8。B. ロク口成形。C. 内外面回転ナデ。底部右回転糸切り。D. 黒色粒、白色粒、褐色粒。E. 外一明褐色、内一にぶい橙色。F. 7/8。G. 酸化焙焼成。H. 覆土中。
3	須恵器環 A. 口縁部径9.0、器高2.3、底部径4.5。B. ロク口成形。C. 内外面回転ナデ。底部右回転糸切り。D. 黒色粒、白色粒、片岩。E. 内外一にぶい褐色。F. 3/4。G. 酸化焙焼成。H. 覆土中。

表 56 11号住居跡出土遺物観察表(2)

4	須恵器 高台付埴	A. 底部径7.8, B. ロクロ成形, C. 内外面回転ナデ, D. 黒色粒, 白色粒, 片岩, E. 外一明黄褐色, 内一にぶい橙色, F. 体部下位~高台部3/4, G. 酸化焙焼成, H. 覆土中。
5	須恵器 甕	A. 口縁部径(27.2), B. ロクロ成形, C. 内外面回転ナデ, D. 黒色粒, 白色粒, E. 外一にぶい黄色, 内一黄灰色, F. 口縁部~胴部中位1/8, G. 酸化焙焼成, H. 覆土中。
6	鉄滓	A. 長さ6.3, 幅8.0, 厚さ2.5, 重さ144.9, G. 塊形鍛冶滓, H. 覆土中。
7	鉄滓	A. 長さ5.6, 幅5.9, 厚さ2.6, 重さ64.8, H. 覆土中。
8	鉄滓	A. 長さ3.4, 幅4.4, 厚さ1.1, 重さ30.2, H. 覆土中。

12号住居跡(図193~195、表57・58/写真図版49~51・87)

位置: 1区中央に位置する。**重複:** 5・14・15号住居跡と重複する。新旧関係は前述のように5号住居跡が新しい。14号住居跡とは、本住居跡の床面下から検出されたこと、本住居跡のカマドが壊されていないことから、本住居跡が新しいと考えられる。15号住居跡との関係は不明である。**形状・規模:** 南西部が確認できないが、貯蔵穴の位置が南東隅であるとすれば、平面形は正方形に近い形状を呈すと考えられる。規模は、確認された範囲では北東-南西軸3.80mを測る。**主軸方位:** N-44°-E。**床面:** 確認面からの深さは50cmを測る。床面はやや凹凸が見られる。**貯蔵穴:** 南東部に位置する。平面形は西壁が直線的であるが、東壁が弧状を呈する。長径60cm、短径58cm、深さ17cmを測る。**柱穴:** なし。**カマド:** 東壁南寄りに設置される。燃焼部は幅50cm、奥行き60cmを測る。壁外に46cmを造り出し、壁内に14cm程の袖を造り付ける。掘り方は楕円形を呈する。**遺物:** 貯蔵穴と東壁の間から多く出土した。土師器坏・甕、須恵器坏、鉄滓等が出土した。**時期:** 8世紀後半。

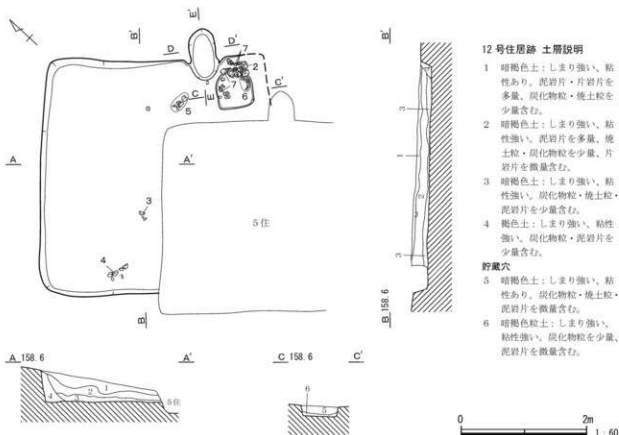
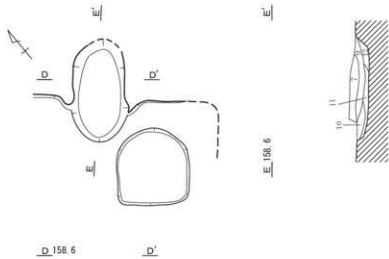


図 193 12号住居跡



12号住居跡カマド 土層説明

- 7 褐色土：しまりあり、粘性あり、焼土粒・焼土ブロック・炭化物粒・泥岩片を少量含む。
- 8 暗灰色土：しまり強い、粘性強い。暗灰色土を多量、炭化物粒を少量含む。
- 9 暗赤褐色土：しまり強い、粘性あり。焼土ブロックを多量、炭化物粒・泥岩片を少量含む。
- 10 黒褐色土：しまりあり、粘性あり。炭化物粒を少量、泥岩片・焼土粒を微量含む。
- 11 暗褐色土：しまりあり、粘性弱い。炭化物粒を少量、泥岩片・灰を微量含む。
- 12 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。焼土粒を多量、炭化物粒を少量含む。
- 13 褐色土：しまりあり、粘性あり、焼土粒・炭化物粒を少量、泥岩片を微量含む。

図 194 12号住居跡カマド

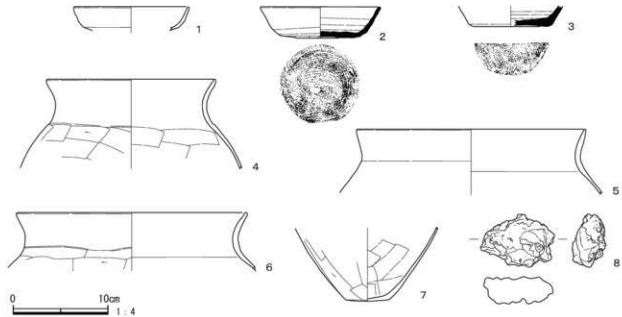


図 195 12号住居跡出土遺物

表 57 12号住居跡出土遺物観察表(1)

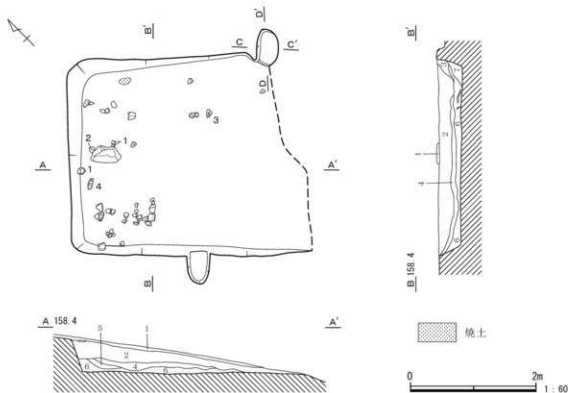
1	土師器 坏	A. 口縁径(12.0)。B. 粘土細積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部調整不明瞭。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一にぶい橙色。F. 口縁部～体部 1/3。H. カマド内、覆土中。
2	須恵器 坏	A. 口縁径12.5、器高3.3、底部径8.2。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部右回転系切り後周辺部手持ち遺ケズリ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-灰色、内-黄灰色。F. 7/8。G. 還元焼成。H. 貯蔵穴内。
3	須恵器 坏	A. 底部径(8.0)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部右回転系切り。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-灰色、内-黄灰色。F. 体部～底部 1/2。G. 還元焼成。H. 覆土中。

表 58 12号住居跡出土遺物観察表(2)

4	土師器 甕	A. 口縁部径(17.7)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面箇所ケズリ、内面箇所ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-にぶい褐色、内-にぶい赤褐色。F. 口縁部~胴部上位1/4。H. 覆土中。
5	土師器 甕	A. 口縁部径(24.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部器面荒れ調整不明瞭。D. 黒色粒、白色粒、褐色粒。E. 内外-褐色。F. 口縁部~胴部上位1/5。H. 床面上上。
6	土師器 甕	A. 口縁部径(24.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面箇所ケズリ、内面箇所ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-褐色、内-明赤褐色。F. 口縁部~胴部上位1/6。H. 貯蔵穴内、カマド内。
7	土師器 甕	A. 底部径4.6。B. 粘土組織み上げ。C. 胴部~底部外面箇所ケズリ、内面箇所ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-にぶい褐色、内-褐色。F. 胴部下位~底部1/2。H. 貯蔵穴内。
8	鉄滓	A. 長さ5.7、幅7.8、厚さ2.8、重さ120.5。H. カマド内

13号住居跡(図196~198、表59/写真図版51・52・87)

位置: 1区中央に位置する。**重複:** 16号住居跡と重複するが、出土遺物からは時期差があまりなく新旧関係は不明である。**形状・規模:** 土砂流出のため平面形は確定できないが、横長長方形を呈すと思われる。規模は、確認された範囲では東西軸3.20mを測る。**主軸方位:** N-44°-E。**床面:** 確認面からの深さは50cmを測る。床面はやや凹凸が見られる。**貯蔵穴:** なし。**柱穴:** なし。**カマド:** 東壁南寄りに設置される。燃焼部はカマド右側が検出されていないため幅は不明、奥行き50cmを測る。40cm程を壁外に造り出し、壁内に長さ10cmの袖部を設ける。掘り方は楕円形を呈する。**遺物:** 北西部に土師器甕、須恵器環等が出土した。**時期:** 9世紀前半。



13号住居跡 土層説明

- 1 暗褐色土; しまり強い、粘性あり。泥岩片・片岩片を多量、粘質土を含む。
- 2 暗褐色土; しまり非常に強い、粘性非常に強い。泥岩片を多量、片岩片・焼土粒・炭化物粒を少量含む。
- 3 暗褐色土; しまり強い、粘性強い。泥岩片を少量、炭化物粒を微量含む。
- 4 褐色土; しまり強い、粘性強い。泥岩片を少量、炭化物粒・焼土粒を微量含む。
- 5 褐色土; しまり強い、粘性あり。泥岩片を少量含む。
- 6 暗褐色土; しまり強い、粘性あり。炭化物粒を少量、泥岩片・焼土粒を微量含む。
- 7 暗褐色土; しまりあり、粘性あり。炭化物粒を少量、泥岩片を微量含む。

図 196 13号住居跡

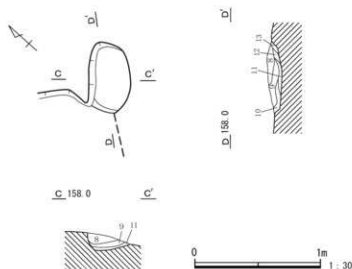


図 197 13号住居跡カマド

13号住居跡カマド 土層説明

- 8 暗赤褐色土:しまりあり,粘性弱い。焼土ブロックを多量,炭化物粒を少量含む。
- 9 暗褐色土:しまりあり,粘性弱い。炭化物粒・焼土粒を少量,灰を微量含む。
- 10 褐色土:しまりあり,粘性あり。炭化物粒・焼土粒を少量,泥岩片を微量含む。
- 11 暗褐色土:しまりやや弱い,粘性やや弱い。炭化物粒を少量,焼土粒・ローム粒を微量含む。
- 12 暗褐色土:しまり弱い,粘性なし。炭化物粒を微量含む。
- 13 褐色土:しまりやや弱い,粘性やや弱い。炭化物粒・泥岩片を微量含む。

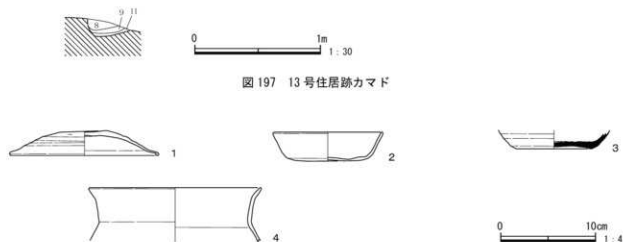


図 198 13号住居跡出土遺物

表 59 13号住居跡出土遺物観察表

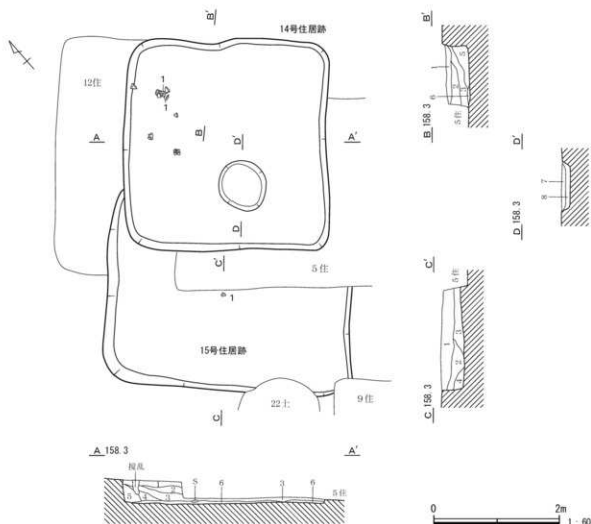
1	須恵器 蓋	A. 口縁部径 15.5。器高 2.6。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。天井部右回転糸切り、周辺部右回転ケズリ。D. 黒色粒、白色粒、礫。E. 外一にぶい黄褐色、内一にぶい黄色。F. 1/2。G. 掴みは付かない。G. 酸化塩焼成。H. 覆土中。
2	土師器 平	A. 口縁部径 (11.4)。器高 3.1。底部径 6.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面ヨコナデ。底部外面匏ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒、角閃石。E. 外一にぶい褐色、内一にぶい橙色。F. 1/3。H. 覆土中。
3	須恵器 平	A. 底部径 (8.0)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部右回転糸切り。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一灰色、内一灰白色。F. 体部～底部 1/4。G. 還元塩焼成。H. 覆土中。
4	土師器 甕	A. 口縁部径 (18.0)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面匏ケズリ、内面匏ナデ。D. 黒色粒、白色粒、褐色粒。E. 内外一橙色。F. 口縁部～胴部上位破片。H. 覆土中。

14号住居跡 (図 199・200、表 60 / 写真図版 53)

位置: 1区中央に位置する。重複: 5・12・15号住居跡と重複する。前述したように本住居跡は5・12号住居跡より古い。15号住居跡との新旧関係は不明である。**形状・規模:** 平面形はほぼ正方形に近い形状を呈する。規模は長軸 3.35 m、短軸 3.20 mを測る。**主軸方位:** N-43°-E。**床面:** 確認面からの深さは 38 cmを測る。床面はやや凹凸が見られる。中央やや南西寄りに床下土坑を1基検出した。長径 83 cm、短径 74 cmのほぼ円形を呈し、深さ 12 cmを測る。**貯蔵穴:** なし。**柱穴:** なし。**カマド:** 壁はすべて確認されているが、カマドの痕跡は見られないため、設置されていなかったものと考えられる。**遺物:** 北東部に土師器平・甕の破片が少量出土した。ほとんどの遺物が覆土上層の出土である。**時期:** 8世紀後半。

15号住居跡(図199・200、表61/写真図版53)

位置：1区中央に位置する。重複：5・12・14号住居跡と重複する。前述したように本住居跡は5号住居跡より古い。12・14号住居跡との新旧関係は不明である。形状・規模：南東部に重複遺構が多く東壁から南壁の一部を検出していないが、辛うじて北東隅部が確認されており、平面形は長方形を呈すと思われる。規模は長軸3.90m、短軸約3.10mを測る。長軸方位：N-45°-W。床面：確認面から深さ35cmを測る。床面はやや凹凸が見られる。貯蔵穴：なし。柱穴：なし。カマド：重複の顕著な部分に設置されていた可能性が高く、確認されていない。遺物：覆土中より土師器小形壺の破片が出土した。時期：8世紀後半。



14号住居跡 土層説明

- 1 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。泥岩片を多量、焼土粒・炭化物粒を少量含む。
- 2 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。1層に相当する。泥岩片を少量含む。
- 3 暗褐色土：しまり強い、粘性あり。泥岩片・焼土粒を少量、炭化物粒を微量含む。
- 4 暗褐色土：しまり強い、粘性強い。泥岩片を少量、炭化物粒を微量含む。
- 5 暗褐色土：しまり強い、粘性強い。泥岩片を微量含む。
- 6 暗褐色土：しまり強い、粘性強い。炭化物粒を少量、泥岩片を微量含む。
- 7 暗灰褐色土：しまり強い、粘性強い。灰褐色粘質土を多量、泥岩片を少量含む。
- 8 褐色土：しまりあり、粘性あり。泥岩片・炭化物粒を微量含む。

15号住居跡 土層説明

- 1 暗褐色土：しまり強い、粘性強い。泥岩片を多量、焼土粒・炭化物粒を少量含む。
- 2 暗褐色土：しまり強い、粘性強い。泥岩片・泥岩片を少量、炭化物粒を微量含む。
- 3 褐色土：しまりあり、粘性強い。泥岩片を少量、焼土粒・炭化物粒を微量含む。
- 4 暗褐色土：しまり強い、粘性強い。泥岩片・炭化物粒を微量含む。

図199 14・15号住居跡



図 200 14・15号住居跡出土遺物

表 60 14号住居跡出土遺物観察表

1	土師器 坏	A. 口縁部径(12.0)。B. 粘土紐積み上げ。C. 器面荒れ調整不明瞭。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一橙色。F. 口縁部～体部破片。H. 覆土中。
---	----------	---

表 61 15号住居跡出土遺物観察表

1	土師器 小形甕	A. 口縁部径(14.0)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナゲ。胴部外面匏ケズリ、内面匏ナゲ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一にぶい褐色、内一褐色。F. 口縁部～胴部上位1/4。H. 覆土中。
---	------------	---

16号住居跡(図 201～203、表 62・63 / 写真図版 54・87)

位置: 1区中央北寄りに位置する。**重複:** 3・13号住居跡、20号土坑と重複する。本住居跡は3号住居跡、20号土坑より古い。13号住居跡との新旧関係は不明である。北壁上に焼土の分布が認められたが、覆土の上層であり本住居とは関係しないものと思われる。**形状・規模:** 土砂流出および重複のため、平面形は確定できない。規模が北西-南東軸 5.50 m以上、南西-北東軸 3.80 m以上となる大型の住居跡である。**主軸方位:** N-47°-W。**床面:** 確認面からの深さは 35 cmを測る。床面は比較的平坦で整っている。**壁溝:** カマド左側の北壁下のみを検出した。幅 20～30 cm、深さ 10 cmを測る。**貯蔵穴:** なし。**柱穴:** なし。**カマド:** 北壁東寄りに設置される。燃焼部は幅 55 cm、奥行き 80 cmで壁外に造り出される。**遺物:** 覆土中から土師器甕、須恵器蓋・高台付埴等の破片が少量出土した。**時期:** 9世紀前半。

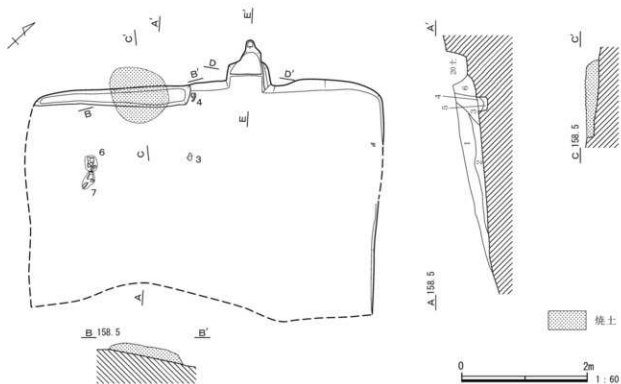
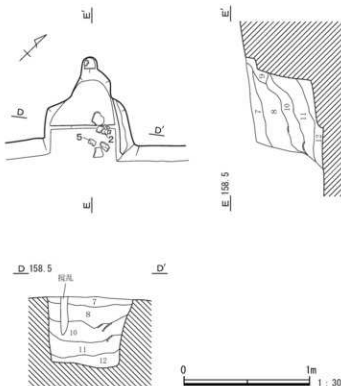


図 201 16号住居跡



16号住居跡 土層説明

- 1 暗褐色土:しまり強い、粘性強い、泥岩片を多量、焼土粒・焼土ブロック・炭化物粒を少量含む。
- 2 暗褐色土:しまり強い、粘性強い、泥岩片を多量、焼土粒・炭化物粒を少量含む。
- 3 暗褐色土:しまり強い、粘性あり、泥岩片・焼土粒を少量含む。
- 4 暗褐色土:しまりあり、粘性あり、焼土粒・泥岩片を少量含む。
- 5 褐色土:しまりあり、粘性あり、焼土粒を少量、炭化物粒を微量含む。
- 6 暗褐色土:しまり強い、粘性強い、泥岩片を少量に、焼土粒・炭化物粒を微量含む。

カマド

- 7 暗褐色土:しまりあり、粘性あり、泥岩片を多量、焼土粒・焼土ブロックを少量含む。
- 8 暗褐色土:しまり強い、粘性強い、7層に順ずる、焼土多量に含む。
- 9 暗褐色土:しまり強い、粘性あり、焼土粒を少量、泥岩片・炭化物粒を微量含む。
- 10 暗赤褐色土:しまり強い、粘性あり、焼土粒・焼土ブロックを多量、炭化物粒を少量、泥岩片を微量含む。
- 11 褐色土:しまりあり、粘性あり、焼土粒・炭化物粒を少量、ローム粒を微量含む。
- 12 明褐色土:しまり強い、粘性あり、ローム粒を少量、焼土粒・炭化物粒を微量含む。

図 202 16号住居跡カマド

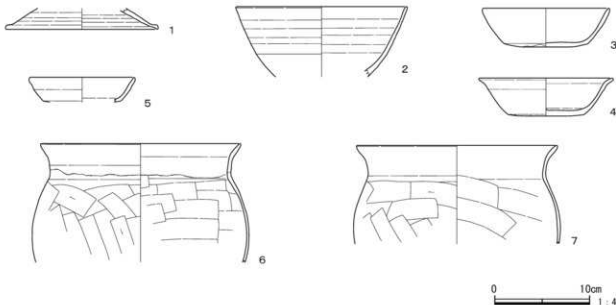


図 203 16号住居跡出土遺物

表 62 16号住居跡出土遺物観察表(1)

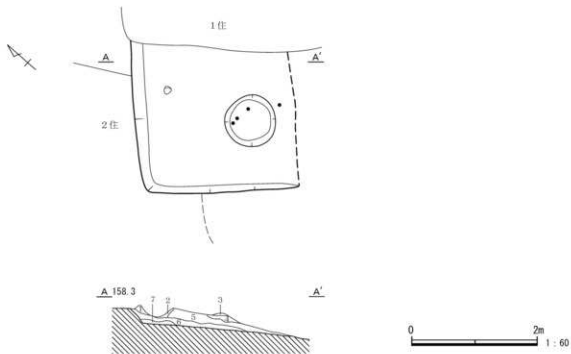
1	須恵器蓋	A. 口縁部径(16.0)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一灰色、内一黄灰色。F. 口縁部～体部1/8。G. 酸化焙焼成。H. カマド内。
2	須恵器埴	A. 口縁部径(18.0)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一灰白色。F. 口縁部～体部下位1/4。G. 酸化焙焼成。H. カマド内。
3	土師器坏	A. 口縁部径(13.2)。器高4.1、底部径(8.8)。B. 粘土細積み上げ。C. 器面荒れ調整不明瞭。底部外面艶ケズリ。D. 黒色粒、白色粒、角閃石。E. 外一褐色、内一にぶい褐色。F. 1/3。H. 覆土中。

表 63 16号住居跡出土遺物観察表(2)

4	土師器 坏	A. 口縁部径(14.0)、器高4.0、底部径8.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面ヨコナデ。底部外面匏ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-にぶい赤褐色。F. 1/4。H. 覆土中。
5	土師器 坏	A. 口縁部径(11.0)、底部径(8.2)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面ヨコナデ。底部外面匏ケズリ、内面ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-赤褐色、内-にぶい赤褐色。F. 1/4。H. カマド内。
6	土師器 甕	A. 口縁部径(21.0)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面匏ケズリ、内面匏ナデ。D. 黒色粒、白色粒、角閃石。E. 外-橙色、内-にぶい橙色。F. 口縁部~胴部中位 1/3。H. 覆土中。
7	土師器 甕	A. 口縁部径(21.0)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面匏ケズリ、内面匏ナデ。D. 黒色粒、白色粒、褐色粒。E. 外-褐色、内-にぶい褐色。F. 口縁部~胴部上位 1/4。H. 覆土中。

17号住居跡(図204)

位置: 調査区北側に位置する。**重複:** 1・2号住居跡と重複し、本住居跡が最も古い。**形状・規模:** 土砂流出および重複のため、形状・規模は不明である。**主軸方位:** 不明。**床面:** 確認面からの深さは35 cmを測る。床面はやや凹凸が見られる。床下土坑を1基検出した。平面形は円形を呈し、直径80 cm、深さ20 cmを測る。**貯蔵穴:** なし。**柱穴:** なし。**カマド:** 確認されていないが、1号住居跡との重複部分に設置されていた可能性が高い。**遺物:** 覆土中から須恵器甕の胴部破片が少量出土した。**時期:** 不明。



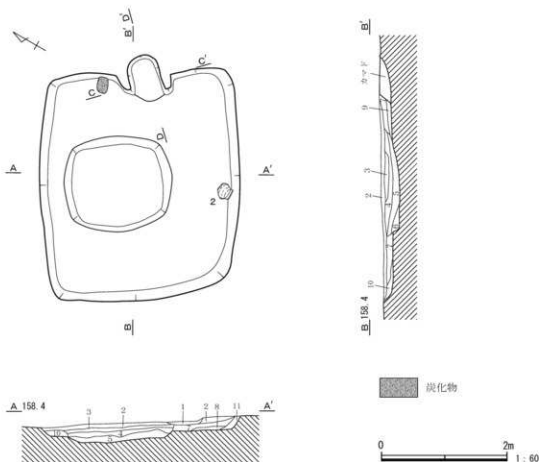
17号住居跡 土層説明

- 1 暗褐色土: しまりあり、粘性あり。焼土粒・焼土ブロックを少量、泥岩片を微量含む。
- 2 褐色土: しまり強い、粘性強い。焼土粒・焼土ブロック・炭化物粒を微量含む。
- 3 暗赤褐色土: しまりあり、粘性弱い。焼土粒・焼土ブロックを多量、炭化物粒を少量含む。
- 4 暗褐色土: しまりあり、粘性弱い。泥岩細片を少量、炭化物粒を微量含む。
- 5 暗褐色土: しまりあり、粘性あり。泥岩片(φ5~10mm)・泥岩片を多量、焼土粒・炭化物粒を微量含む。
- 6 暗褐色土: しまりあり、粘性あり。泥岩片を少量、焼土粒・炭化物粒を微量含む。
- 7 褐色土: しまり強い、粘性あり。褐色土を多量、泥岩片・炭化物粒を微量含む。

図 204 17号住居跡

18号住居跡（図205～207、表64／写真図版56・57・87）

位置：2区西端に位置する。**形状・規模：**平面形はやや不整形な縦長方形を呈する。規模は長軸3.60m、短軸3.20mを測る。**主軸方位：**N-56°-E。**床面：**確認面からの深さは22cmを測る。床面はやや凹凸が見られる。住居中央やや北寄りに土坑が存在するが、廃棄後に堆積した土層を掘り込んでおり、本住居には伴わないものと考えられる。**貯蔵穴：**なし。**柱穴：**なし。**カマド：**東壁やや南寄りに設置され、カマドの主軸が壁面より11°程北へ傾いて設置される。燃燒部は幅45cm、奥行き65cmで壁外に造り出される。30cm程を壁外に造り出し、壁内に長さ35cmの袖部を設ける。**遺物：**須恵器坏・羽釜の破片が少量出土した。**時期：**10世紀前半。



18号住居跡 土層説明

- 1 明褐色土：しまりなし、粘性なし。As-Aを多量、泥岩片を少量含む。
- 2 暗褐色土：しまり弱い、粘性弱い。泥岩片を少量、炭化物粒を微量含む。
- 3 暗褐色土：しまり強、粘性あり。2層に順ずる。
- 4 黒褐色土：しまりあり、粘性弱い。炭化物粒・泥岩片を少量含む。
- 5 黒色土：しまり弱い、粘性なし。炭化物粒を多量、泥岩片を少量含む。
- 6 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。泥岩片を少量、炭化物粒を微量含む。
- 7 褐色土：しまりあり、粘性あり。泥岩片・炭化物粒を少量、焼土粒を微量含む。
- 8 褐色土：しまりあり、粘性あり。泥岩片を少量、炭化物粒・焼土粒を微量含む。
- 9 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。炭化物粒・泥岩片を少量、焼土粒を微量含む。
- 10 暗褐色土：しまり弱い、粘性弱い。泥岩片を少量含む。
- 11 褐色土：しまり弱い、粘性弱い。泥岩片・炭化物粒を微量含む。

図205 18号住居跡

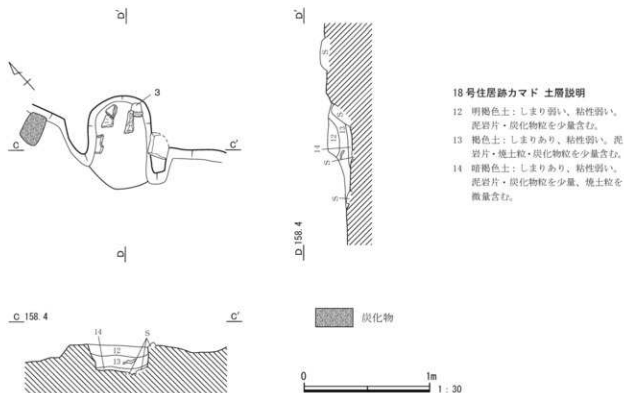


図206 18号住居跡カマド

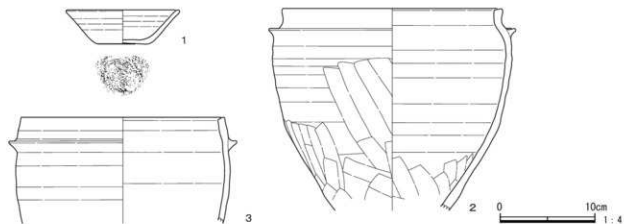


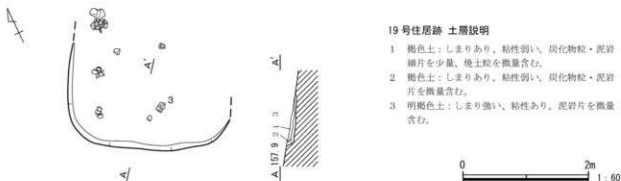
図207 18号住居跡出土遺物

表64 18号住居跡出土遺物観察表

1	須恵器 坏	A. 口縁部径(11.7)、器高3.6、底部径5.6。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部右回転糸切り。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-にぶい黄褐色、内-灰黄褐色。F. 1/3。G. 酸化焙焼成。H. 覆土中。
2	須恵器 羽釜	A. 口縁部径(23.0)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。胴部中位~下位外面鋭ケズリ、下位内面鋭ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-黒褐色、内-灰黄色。F. 口縁部~胴部下位1/4。H. 覆土中。
3	須恵器 羽釜	A. 口縁部径(21.4)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。D. 黒色粒、白色粒、褐色粒。E. 外-にぶい黄色、内-にぶい橙色。F. 口縁部~胴部中位1/3。H. カマド床面直上、カマド内。

19号住居跡（図208・209、表65／写真図版57）

位置：2区中央に位置する。**形状・規模：**北東部の傾斜に沿った削平により平面形は把握しづらいが、隅丸矩形を呈すと推測される。規模は、確認された範囲で東西軸2.60 mを測る。**床面：**確認面からの深さは10 cm程で、床面にやや凹凸が見受けられる。**柱穴：**なし。**炉跡：**確認していないが、削平された北東部に存在した可能性が高い。**遺物：**縄紋土器66点・石器8点が出土した。縄紋土器は破片ばかりで、堅穴内に散在する。早期中葉田戸下層式、早期後葉鶴ヶ島台式、前期前半、前期後葉諸磯a式が認められ、諸磯a式が多い。図209の1～3は諸磯a式に比定されるもので、胎土中に片岩を含む。いずれも地紋に明瞭な単節縄紋（RL）が使用される。1は口縁部片で小突起を貼付する。2は半截竹管状工具による平行沈線を数条施文する。3は胴部上位を細い横位沈線や刺突列で区画する。なお、石器はスクレイパー類・礫器・敲打痕を伴う磨石・台石・剥片が検出された。**時期：**縄紋時代前期後葉諸磯a式期。



19号住居跡 土層説明

- 1 褐色土：しまりあり、粘性弱い。炭化物粒・泥岩細片を少量、焼土粒を微量含む。
- 2 褐色土：しまりあり、粘性弱い。炭化物粒・泥岩片を微量含む。
- 3 明褐色土：しまり強い、粘性あり。泥岩片を微量含む。

図208 19号住居跡

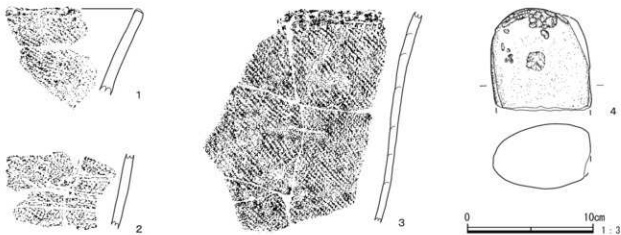


図209 19号住居跡出土遺物

表65 19号住居跡出土遺物観察表

4	石器 磨石類	A. 残長8.1、幅7.7、厚さ5.1、重さ411.8。G. 欠損。表裏側面に使用による磨耗あり。頂部には敲打痕あり。
---	-----------	---

(2) 土坑**1号土坑 (図211)**

位置: 1区北端に位置する。**形状・規模:** 平面形は不整形な円形を呈する。直径1.70 m、深さ40 cmを測る。**覆土:** 炭化物粒を微量に含む黒褐色土を主体としている。**遺物:** 出土しなかった。**時期:** 不明。

2号土坑 (図211)

位置: 1区北端に位置する。**形状・規模:** 土層の状態では南北に分層でき、2基の土坑の重複と判断され、南側の方が新しい。平面形は南側が長方形を呈し、北側が楕円形に近いものと思われる。規模は、全体で南北軸2.60 m、東西軸0.84 mを測る。確認面からの深さは南側で45 cm、北側で38 cmを測る。**覆土:** 南側は炭化物粒を微量に含む暗褐色土を主体とし、北側は炭化物粒を微量に含む黒褐色土を主体としている。**遺物:** 出土しなかった。**時期:** 不明。

3号土坑 (図212)

位置: 1区北端に位置する。**形状・規模:** 平面形は東側がやや長い不整形な長方形を呈する。長径3.00 m、短径2.00～2.20 m、深さ28 cmを測る。**覆土:** 泥岩細片・炭化物粒を少量含む褐色土を主体としている。**遺物:** 縄紋土器の破片が出土した。**時期:** 不明。

4号土坑 (図212)

位置: 遺構の密集する1区中央に位置する。**重複:** 12・14・15号住居跡と重複し、本土坑が新しい。**形状・規模:** 平面形は北壁中央に一部突出した部分を持つが、ほぼ隅丸長方形を呈する。長径1.15 m、短径0.93 m、深さ20 cmを測る。**長軸方位:** N-45°-W。**覆土:** 焼土粒・炭化物粒・泥岩細片を含む暗褐色土を主体としている。**遺物:** 土師器台付甕、須恵器坏、埴形鍛冶滓、粘土塊等が出土した。**時期:** 不明。

5号土坑 (図213)

位置: 1区南西端に位置する。**形状・規模:** 平面形は楕円形を呈する。長径1.07 m、短径0.67 m、深さ25 cmを測る。**長軸方位:** N-38°-W。**覆土:** 炭化物粒・暗黄褐色土を含む暗褐色土を主体としている。**遺物:** 出土しなかった。**時期:** 不明。

6号土坑 (図213)

位置: 1区南西端に位置する。**形状・規模:** 平面形は楕円形を呈する。長径1.43 m、短径1.03 m、深さ35 cmを測る。**長軸方位:** N-10°-W。**覆土:** 炭化物粒・ローム粒・泥岩細片を含む暗褐色土を主体としている。**遺物:** 出土しなかった。**時期:** 不明。

7号土坑 (図213)

位置: 1区南西端に位置する。**形状・規模:** 平面形は楕円形を呈する。長径0.95 m、短径0.70 m、

深さ 32 cm を測る。長軸方位：N-10°-W。覆土：炭化物粒・黄褐色土を含む暗褐色土を主体としている。遺物：出土しなかった。時期：不明。

8号土坑（図213）

位置：1区南西端に位置する。重複：2基の土坑が重複し、西側の方が新しい。形状・規模：平面形は双方ともやや歪んだ方形の土坑である。規模は西側が一边約0.60 m、深さ25 cm、東側が南北軸0.57 m、東西軸0.45 m、深さ65 cmを測る。長軸方位：N-83°-W。覆土：西側の土坑はローム粒を含む黒褐色土を主体とし、東側は炭化物粒を含む暗褐色土を主体としている。遺物：出土しなかった。時期：不明。

9号土坑（図214）

位置：1区南西側に位置する。形状・規模：平面形は不整形な円形に近い形状を呈する。長径0.85 m、短径0.70 m、深さ28 cmを測る。覆土：ローム粒・炭化物粒を含む黒褐色土を主体としている。遺物：出土しなかった。時期：不明。

10号土坑（図214）

位置：1区南西側に位置する。形状・規模：平面形はやや不整形な円形を呈する。長径1.34 m、短径1.16 m、深さ26 cmを測る。覆土：ローム粒・炭化物粒を含む黒褐色土を主体としている。遺物：出土しなかった。時期：不明。

11号土坑（図214）

位置：1区南西側に位置する。形状・規模：平面形は東壁の一部が突出するやや不整形な楕円形を呈する。長径1.16 m、短径0.70 m、深さ18 cmを測る。覆土：ローム粒・炭化物粒を含む黒褐色土を主体としている。遺物：出土しなかった。時期：不明。

12号土坑（図214）

位置：1区南西側に位置する。形状・規模：平面形は不整形な方形に近い形状を呈する。長径1.10 m、短径0.85 m、深さ25 cmを測る。覆土：ローム粒・炭化物粒・泥岩細片を含む黒褐色土を主体としている。遺物：出土しなかった。時期：不明。

13号土坑（図214）

位置：1区西端に位置する。形状・規模：平面形はやや不整形な方形を呈する。長径0.98 m、短径0.86 m、深さ14 cmを測る。覆土：泥岩細片・ローム粒・炭化物粒を含む黒褐色土を主体としている。遺物：出土しなかった。時期：不明。

14号土坑（図215）

位置：1区西側に位置する。形状・規模：平面形はやや不整形な長方形を呈する。長径0.86 m、短径0.73

m、深さ18cmを測る。覆土：泥岩細片・炭化物粒を含む暗褐色土を主体としている。遺物：出土しなかった。時期：不明。

15号土坑（図215）

位置：1区西側に位置する。形状・規模：平面形は楕円形を呈する。長径0.85m、短径0.72m、深さ18cmを測る。覆土：泥岩細片・炭化物粒を含む暗褐色土を主体としている。遺物：出土しなかった。時期：不明。

16号土坑（図215）

位置：1区西側に位置する。形状・規模：平面形は楕円形を呈する。長径0.90m、短径0.72m、深さ20cmを測る。覆土：泥岩細片・炭化物粒を含む暗褐色土を主体としている。遺物：出土しなかった。時期：不明。

17号土坑（図215）

位置：1区西側に位置する。形状・規模：平面形は長方形を呈する。長径1.04m、短径0.54m、深さ22cmを測る。覆土：泥岩細片・炭化物粒・焼土粒を含む暗褐色土を主体としている。遺物：出土しなかった。時期：不明。

18号土坑（図215）

位置：1区中央北寄りに位置する。重複：20号土坑と重複し、本土坑が古い。形状・規模：平面形は楕円形に近い形態を呈する。長径1.26m、短径0.80m、深さ28cmを測る。主軸方位：N-45°-E。覆土：泥岩細片を多量に含む暗褐色土を主体としている。遺物：出土しなかった。時期：不明。

19号土坑（図216）

位置：1区中央西寄りに位置する。重複：10号住居跡と重複するが、新旧関係は不明である。形状・規模：平面形は長方形を呈する。長径3.83m、短径1.32m、深さ28cmを測る。主軸方位：N-28°-E。覆土：泥岩細片・炭化物粒を含む黒褐色土を主体としている。遺物：出土しなかった。時期：不明。

20号土坑（図216）

位置：1区中央北寄りに位置する。重複：18号土坑と重複し、本土坑が新しい。形状・規模：平面形は楕円形に近い形態を呈する。長径1.12m、短径0.53m、深さ32cmを測る。主軸方位：N-42°-E。覆土：泥岩細片・炭化物粒を含む暗褐色土を主体としている。遺物：出土しなかった。時期：不明。

21号土坑（図216）

位置：1区中央北寄りに位置する。重複：13号住居跡と重複し、本土坑が古い。形状・規模：平面形は重複遺構のため南側は確定できないが、不整形を呈する。規模は、確認された範囲では北西-南

東軸 0.78 m、深さ 20 cm を測る。**覆土**：泥岩細片・炭化物粒を含む暗褐色土を主体としている。**遺物**：出土しなかった。**時期**：不明。

22号土坑（図210・216、表66）

位置：1区中央に位置する。**重複**：7・15号住居跡と重複し、15号住居跡より新しく、7号住居跡より古い。**形状・規模**：平面形は不整形な円形を呈する。長径 1.24 m、短径 0.94 m、深さ 40 cm を測る。**覆土**：泥岩細片・炭化物粒を含む暗褐色土を主体としている。**遺物**：土師器坏が1点出土した。**時期**：8世紀後半。

23号土坑（図217）

位置：1区中央に位置する。**形状・規模**：平面形は円形を呈する。長径 1.22 m、短径 1.05 m、深さ 50 cm を測る。**覆土**：ローム粒・炭化物粒を含む暗褐色土を主体としている。**遺物**：出土しなかった。**時期**：不明。

24号土坑（図217）

位置：1区中央に位置する。**形状・規模**：平面形は不整形な円形を呈する。長径 1.10 m、短径 0.98 m、深さ 62 cm を測る。**覆土**：不明。**遺物**：出土しなかった。**時期**：不明。

25号土坑（図217）

位置：1区中央に位置する。**重複**：7号住居跡と重複し、本土坑が古い。**形状・規模**：平面形はやや不整形な長方形を呈する。規模は北側が不明瞭なため確定できないが、南北軸は西側で 1.30 m、東側で 1.06 m、深さ 46 cm を測る。**覆土**：ローム粒・炭化物粒を含む黒褐色土を主体としている。**遺物**：出土しなかった。**時期**：不明。

26号土坑（図217）

位置：1区西側に位置する。**形状・規模**：平面形は長方形を呈する。長径 1.40 m、短径 0.85 m、深さ 23 cm を測る。**主軸方位**：N-37°-W。**覆土**：ローム粒・炭化物粒を含む暗褐色土を主体としている。**遺物**：出土しなかった。**時期**：不明。

27号土坑（図218）

位置：1区西側に位置する。**形状・規模**：平面形は長方形を呈する。長径 1.46 m、短径 0.94 m、深さ 15 cm を測る。**主軸方位**：N-30°-W。**覆土**：ローム粒・炭化物粒を含む褐色土を主体としている。**遺物**：出土しなかった。**時期**：不明。

28号土坑（図210・218／写真図版88）

位置：1区北側に位置する。**形状・規模**：平面形は円形を呈する。直径 0.86 m、深さ 17 cm を測る。**覆土**：泥岩細片・炭化物粒を含む暗褐色土を主体としている。**遺物**：縄紋時代早期後葉縄文式の土器

片が出土した(図210-1)。胎土中に繊維や片岩を含む。条痕地紋で、段によって文様帯を画す。並行する単状線で襷状文を構成し、空白部に2条1対の丸棒状工具による結節状線、各線の交点に半円形の刺突紋を配置する。内面はナデ調整で指頭痕が残る。時期：不明。

29号土坑(図218)

位置：1区北端に位置する。形状・規模：平面形は円形を呈する。長径0.95m、短径0.90m、深さ18cmを測る。覆土：泥岩細片・炭化物粒を含む褐色土を主体としている。遺物：出土しなかった。時期：不明。

30号土坑(図218)

位置：1区北端に位置する。形状・規模：平面形は長方形を呈する。長径1.15m、短径0.48m、深さ28cmを測る。主軸方位：N-79°-W。覆土：ローム粒・炭化物粒を含む暗褐色土を主体としている。遺物：出土しなかった。時期：不明。

31号土坑(図210・218/写真図版55・88)

位置：1区北側に位置する。形状・規模：平面形は円形を呈する。長径0.80m、短径0.72m、深さ18cmを測る。覆土：不明。遺物：上層に礫が多くまとまって出土した。また、遺構の北西側15cm程の地点で縄紋土器の底部が出土している(図210-2)。図210の1は口縁部片で口縁部外側が剥離する。粗い単節縄紋(RL)を地紋とし、胎土中に繊維を含む。前期前半に比定される。2は前期後葉に推定される大型深鉢の底部で、胎土中に片岩を含む。時期：不明。

32号土坑(図218)

位置：1区西側に位置する。形状・規模：平面形は長方形を呈する。長径1.40m、短径0.62m、深さ34cmを測る。長軸方位：N-48°-W。覆土：ローム粒・炭化物粒を含む暗褐色土を主体としている。遺物：出土しなかった。時期：不明。

33号土坑(図219)

位置：2区北側に位置する。形状・規模：平面形は楕円形に近い形態を呈する。長径0.76m、短径0.52m、深さ32cmを測る。長軸方位：N-28°-W。覆土：ローム粒・炭化物粒を含む黒褐色土を主体としている。遺物：出土しなかった。時期：不明。

34号土坑(図219)

位置：2区北側に位置する。形状・規模：平面形は楕円形に近い形態を呈する。長径0.68m、短径0.55m、深さ30cmを測る。長軸方位：N-43°-W。覆土：ローム粒・炭化物粒を含む褐色土を主体としている。遺物：出土しなかった。時期：不明。

35号土坑(図219)

位置：2区北側に位置する。形状・規模：平面形は楕円形を呈する。長径0.92m、短径0.65m、深さ50cmを測る。長軸方位：N-66°-W。覆土：ローム粒・炭化物粒を含む黒褐色土を主体としている。遺物：出土しなかった。時期：不明。

36号土坑(図219)

位置：2区北側に位置する。形状・規模：平面形は円形を呈する。長径0.62m、短径0.60m、深さ12cmを測る。覆土：ローム粒・炭化物粒を含む黒褐色土を主体としている。遺物：出土しなかった。時期：不明。

37号土坑(図219)

位置：2区北側に位置する。形状・規模：平面形は長方形を呈する。長径0.85m、短径0.45m、深さ14cmを測る。長軸方位：N-37°-W。覆土：ローム粒・炭化物粒を含む暗褐色土を主体としている。遺物：出土しなかった。時期：不明。

38号土坑(図219)

位置：2区中央南東寄りに位置する。形状・規模：平面形は楕円形を呈する。長径1.27m、短径1.10m、深さ8cmを測る。長軸方位：N-83°-W。覆土：ローム粒・炭化物粒・泥岩細片を含む暗褐色土を主体としている。遺物：出土しなかった。時期：不明。

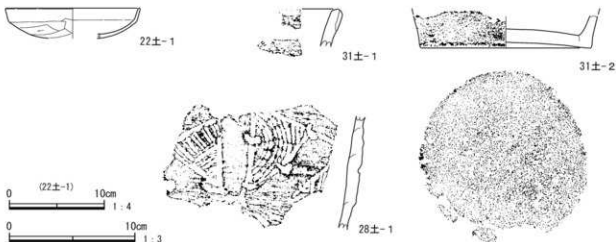
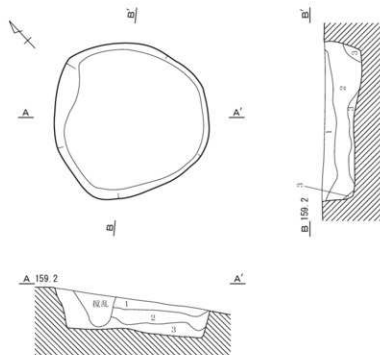


図210 22・28・31号土坑出土遺物

表66 22号土坑出土遺物観察表

1	土師器 環	A. 口縁部径(14.0)。B. 粘土組織み上り。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面隈ケズリ、内面ナデ。 D. 黒色粒、白色粒、角閃石、石英。E. 内外-にふい橙色。F. 口縁部~体部1/6。H. 覆土中。
---	----------	---

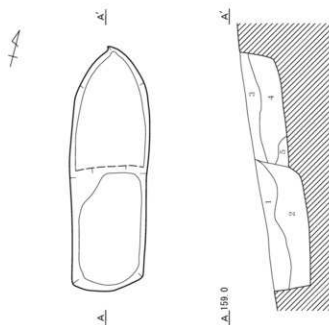
1号土坑



1号土坑 土層説明

- 1 黒褐色土：しまり弱い、粘性あり。泥岩片・炭化物粒を微量含む。
- 2 黒褐色土：しまりあり、粘性あり。黒色土を少量、炭化物粒を微量含む。
- 3 明褐色土：しまりあり、粘性あり。泥岩片を微量含む。

2号土坑



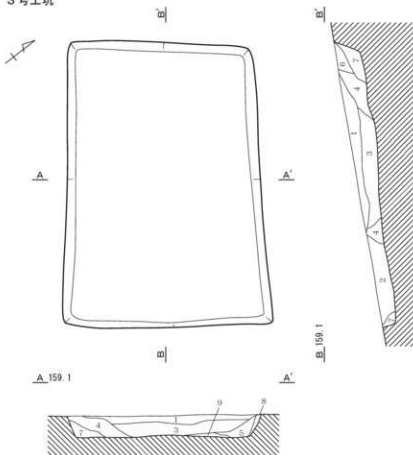
2号土坑 土層説明

- 1 黒褐色土：しまりあり、粘性あり。泥岩片・炭化物粒を微量含む。
- 2 黒褐色土：しまりあり、粘性あり。炭化物粒を少量含む。
- 3 黒褐色土：しまりあり、粘性あり。炭化物粒を少量、泥岩片を微量含む。
- 4 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。炭化物粒を微量含む。
- 5 黒褐色土：しまり強い、粘性あり。



図211 1・2号土坑

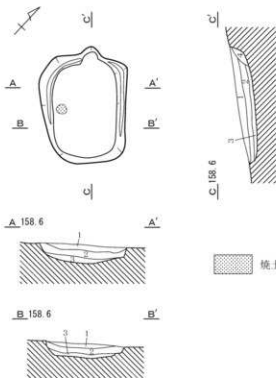
3号土坑



3号土坑 土層説明

- 1 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。泥岩片を少量含む。
- 2 暗褐色土：しまり強い、粘性あり。泥岩片・片岩片を多量、炭化物粒を微量含む。
- 3 褐色土：しまりあり、粘性あり。泥岩片を少量、炭化物粒を微量含む。
- 4 褐色土：しまりあり、粘性あり。泥岩片・褐色土ブロックを少量含む。
- 5 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。泥岩片を少量、炭化物粒を微量含む。
- 6 暗褐色土：しまりやや弱い、粘性やや弱い。泥岩片を少量、焼土粒・炭化物粒を微量含む。
- 7 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。泥岩片・褐色土を微量含む。
- 8 褐色土：しまり強い、粘性強い。7層に順ずる。褐色土を多量含む。
- 9 暗黄褐色土：しまり弱い、粘性弱い。風化ローム層。

4号土坑

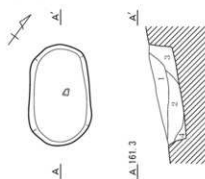


4号土坑 土層説明

- 1 暗褐色土：しまり強い、粘性あり。泥岩片・片岩片を多量、焼土粒・炭化物粒を少量含む。
- 2 暗褐色土：しまり強い、粘性あり。焼土粒を多量、炭化物粒・泥岩片を少量含む。
- 3 黒褐色土：しまり弱い、粘性あり。炭化物粒・焼土粒を少量、泥岩片を微量含む。
- 4 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。泥岩片・炭化物粒を少量、焼土粒を微量含む。

図 212 3・4号土坑

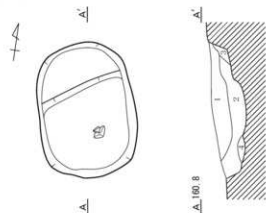
5号土坑



5号土坑 土層説明

- 1 黒褐色土：しまりあり、粘性あり。炭化物粒・暗黄褐色土を微量含む。
- 2 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。炭化物・暗褐色土を少量含む。
- 3 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。2層に順ずる。炭化物粒を中量含む。
- 4 暗黄褐色土：しまり弱い、粘性あり。風化ローム・炭化物粒を微量含む。

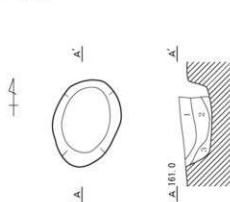
6号土坑



6号土坑 土層説明

- 1 褐色土：しまりあり、粘性あり。泥岩片・黄褐色土を少量含む。
- 2 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。ローム粒・炭化物粒を少量含む。
- 3 黒褐色土：しまりあり、粘性あり。炭化物粒・ローム粒を微量含む。
- 4 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。ローム粒を少量、黄褐色土を微量含む。

7号土坑

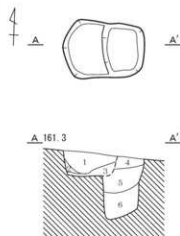


7号土坑 土層説明

- 1 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。泥岩片・炭化物粒を少量含む。
- 2 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。ローム粒・泥岩片を少量、炭化物粒を微量含む。
- 3 黒褐色土：しまり弱い、粘性弱い。炭化物粒・ローム粒を微量含む。



8号土坑

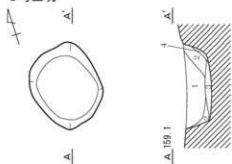


8号土坑 土層説明

- 1 黒褐色土：しまりあり、粘性あり。ローム粒・黄褐色土を少量含む。
- 2 黒褐色土：しまりあり、粘性あり。1層に順ずる。ローム粒を微量含む。
- 3 暗黄褐色土：しまり弱い、粘性あり。ローム風化土を多量、炭化物粒を微量含む。
- 4 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。炭化物粒を少量、ローム粒・植土粒を微量含む。
- 5 暗褐色土：しまり弱い、粘性あり。泥岩片・炭化物粒を微量含む。
- 6 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。炭化物粒を微量含む。

図 213 5～8号土坑

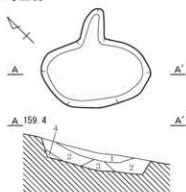
9号土坑



9号土坑 土層説明

- 1 黒褐色土：しまりあり、粘性あり。ローム粒・ロームブロックを少量、炭化物粒を微量含む。
- 2 黒褐色土：しまりあり、粘性あり。炭化物粒を少量、黄褐色土を微量含む。
- 3 暗黄褐色土：しまり弱い、粘性弱い。ローム風化土を多量、黒色土を少量含む。
- 4 黒褐色土：しまり弱い、粘性あり。黄褐色土を多量、ローム粒を微量含む。

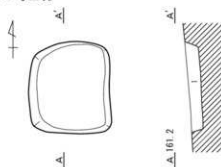
11号土坑



11号土坑 土層説明

- 1 暗褐色土：しまり弱い、粘性あり。ローム粒を少量、泥岩片を微量含む。
- 2 黒褐色土：しまりあり、粘性あり。ローム粒・暗黄褐色土を微量含む。
- 3 明褐色土：しまりあり、粘性あり。ローム粒を多量、炭化物粒を微量含む。
- 4 褐色土：しまり弱い、粘性あり。ローム粒を少量、炭化物粒を微量含む。

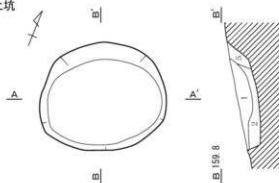
13号土坑



13号土坑 土層説明

- 1 黒褐色土：しまりあり、粘性あり。泥岩片・ローム粒を少量、炭化物粒を微量含む。

10号土坑



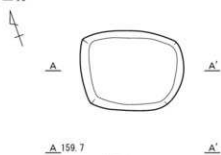
10号土坑 土層説明

- 1 黒褐色土：しまりあり、粘性あり。褐色土を少量、ローム粒・炭化物粒を微量含む。
- 2 黒褐色土：しまりあり、粘性あり。炭化物粒を少量、暗黄褐色土を微量含む。
- 3 黒褐色土：しまりあり、粘性あり。暗黄褐色土を少量、炭化物粒を微量含む。
- 4 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。ローム粒・炭化物粒を少量含む。
- 5 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。炭化物粒を少量、ローム粒を微量含む。

10号土坑 土層説明

- 1 黒褐色土：しまりあり、粘性あり。褐色土を少量、ローム粒・炭化物粒を微量含む。
- 2 黒褐色土：しまりあり、粘性あり。炭化物粒を少量、暗黄褐色土を微量含む。
- 3 黒褐色土：しまりあり、粘性あり。暗黄褐色土を少量、炭化物粒を微量含む。
- 4 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。ローム粒・炭化物粒を少量含む。
- 5 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。炭化物粒を少量、ローム粒を微量含む。

12号土坑



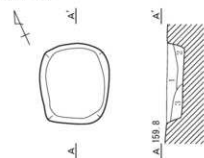
12号土坑 土層説明

- 1 黒褐色土：しまりあり、粘性あり。泥岩片を少量、ローム粒・炭化物粒を微量含む。
- 2 黒褐色土：しまりあり、粘性あり。泥岩片・炭化物粒を微量含む。
- 3 暗褐色土：しまり弱い、粘性あり。ローム粒を少量、炭化物粒を微量含む。



図214 9～13号土坑

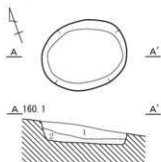
14号土坑



14号土坑 土層説明

- 1 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。泥岩片を少量、炭化物粒を微量含む。
- 2 暗黄褐色土：しまりあり、粘性弱い。ローム風化土を多量、炭化物粒を微量含む。
- 3 暗褐色土：しまり強い、粘性あり。泥岩片・泥岩片を均少量、炭化物粒を微量含む。

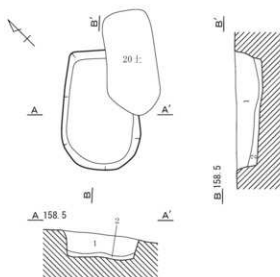
16号土坑



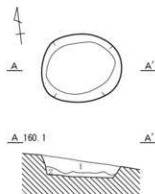
16号土坑 土層説明

- 1 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。泥岩片を少量、炭化物粒を微量含む。
- 2 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。泥岩片・炭化物粒を少量、ローム風化土を含む。

18号土坑



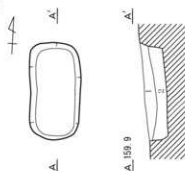
15号土坑



15号土坑 土層説明

- 1 暗褐色土：しまり強い、粘性あり。泥岩片・炭化物粒を少量含む。
- 2 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。泥岩片を少量、炭化物粒を微量含む。

17号土坑



17号土坑 土層説明

- 1 褐色土：しまりあり、粘性あり。泥岩片・炭化物粒を少量、焼土粒を微量含む。
- 2 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。ローム粒を少量、炭化物粒・焼土粒を微量含む。

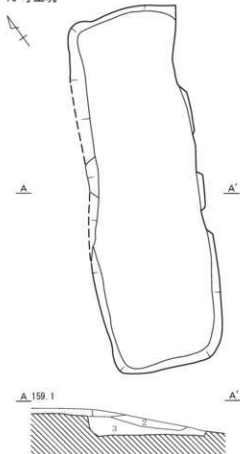
18号土坑 土層説明

- 1 暗褐色土：しまり強い、粘性強い。泥岩片を多量含む。
- 2 明褐色土：しまりあり、粘性強い。炭化物粒を少量、泥岩片を微量含む。



図 215 14～18号土坑

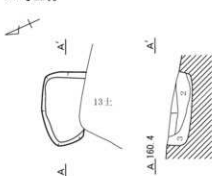
19号土坑



19号土坑 土層説明

- 1 暗褐色土：しまり強い、粘性あり。泥岩片を少量、炭化物粒を微量含む。
- 2 黒褐色土：しまり強い、粘性あり。泥岩片を少量、炭化物粒を微量含む。
- 3 黒褐色土：しまり強い、粘性あり。2層に準ずる。褐色土ブロックを含む。

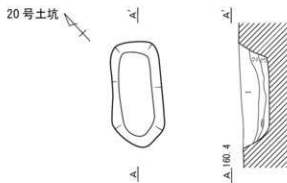
21号土坑



21号土坑 土層説明

- 1 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。泥岩片・炭化物粒を微量含む。
- 2 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。炭化物粒・焼土粒を少量、泥岩片を微量含む。
- 3 褐色土：しまり強い、粘性あり。炭化物粒・泥岩片を微量含む。

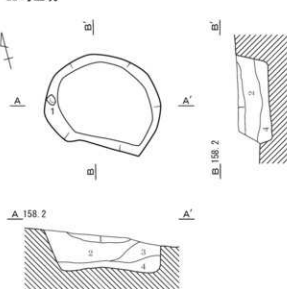
20号土坑



20号土坑 土層説明

- 1 暗褐色土：しまり強い、粘性あり。泥岩片を少量、炭化物粒を微量含む。
- 2 暗褐色土：しまり強い、粘性強い。焼土粒・炭化物粒・泥岩片を少量含む。
- 3 褐色土：しまり強い、粘性あり。泥岩片・炭化物粒を微量含む。

22号土坑



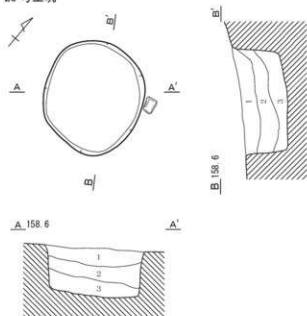
22号土坑 土層説明

- 1 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。泥岩片を少量、炭化物粒を微量含む。
- 2 暗褐色土：しまり強い、粘性あり。泥岩片を少量、焼土粒を少量、炭化物粒を微量含む。
- 3 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。泥岩片を少量含む。
- 4 褐色土：しまりあり、粘性あり。泥岩片・炭化物粒を微量含む。



図 216 19～22号土坑

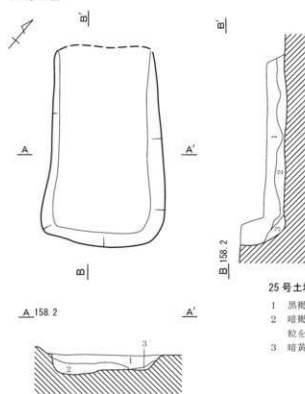
23号土坑



23号土坑 土層説明

- 1 暗褐色土: しまり弱い、粘性弱い。ローム粒を少量、泥岩片を微量含む。
- 2 黒褐色土: しまりあり、粘性あり。ローム粒を少量、ロームブロック・炭化物粒を微量含む。
- 3 暗褐色土: しまり強い、粘性あり。ローム風化土を多量、炭化物粒を微量含む。

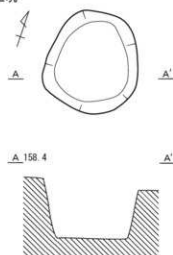
25号土坑



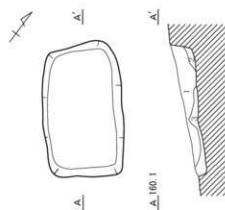
25号土坑 土層説明

- 1 黒褐色土: しまりあり、粘性あり。泥岩片・ローム粒・炭化物粒を微量含む。
- 2 暗褐色土: しまりあり、粘性あり。ローム粒・ロームブロックを少量、炭化物粒を微量含む。
- 3 暗黄褐色土: しまりあり、粘性弱い。ローム風化土を多量、炭化物粒を微量含む。

24号土坑



26号土坑



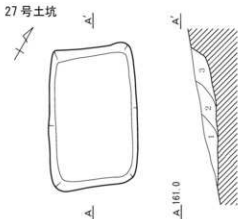
26号土坑 土層説明

- 1 暗褐色土: しまり弱い、粘性弱い。泥岩片・ローム粒・炭化物粒を少量含む。
- 2 暗褐色土: しまりあり、粘性弱い。ローム粒・炭化物粒を微量含む。
- 3 明褐色土: しまりあり、粘性弱い。ローム粒を少量、炭化物粒・ローム風化土を微量含む。

0 1m
1:40

図 217 23～26号土坑

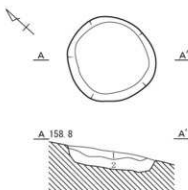
27号土坑



27号土坑 土層説明

- 1 暗褐色土：しまり弱い、粘性弱い。炭化物粒を少量、泥岩片を微量含む。
- 2 褐色土：しまり弱い、粘性弱い。ローム粒・泥岩片を少量、炭化物粒を微量含む。
- 3 明褐色土：しまりあり、粘性弱い。泥岩片を少量、ローム粒を微量含む。

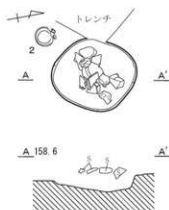
29号土坑



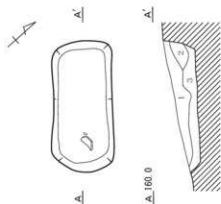
29号土坑 土層説明

- 1 褐色土：しまりあり、粘性あり。泥岩片を少量、炭化物粒を微量含む。
- 2 褐色土：しまりあり、粘性あり。ローム粒・炭化物粒を少量、泥岩片を微量含む。

31号土坑



32号土坑

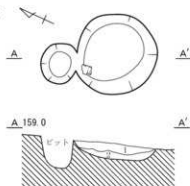


32号土坑 土層説明

- 1 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。炭化物粒を少量、焼土粒・黒色土を微量含む。
- 2 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。炭化物粒・黄褐色土を少量含む。
- 3 明褐色土：しまり弱い、粘性あり。ローム風化土を多量、炭化物粒を微量含む。

0 1m 1:40

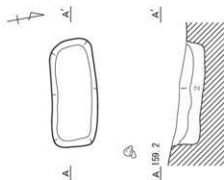
28号土坑



28号土坑 土層説明

- 1 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。泥岩片を少量、炭化物粒を微量含む。
- 2 暗褐色土：しまり強い、粘性あり。泥岩片・炭化物粒を微量含む。

30号土坑

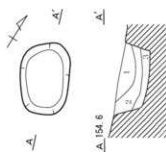


30号土坑 土層説明

- 1 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。ローム粒を少量、炭化物粒を微量含む。
- 2 暗褐色土：しまり強い、粘性あり。ローム粒・炭化物粒を微量含む。

図 218 27～32号土坑

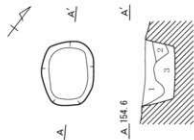
33号土坑



33号土坑 土層説明

- 1 暗褐色土:しまり弱い,粘性なし。ローム粒・泥岩片・炭化物粒を微量含む。
- 2 黒褐色土:しまりあり,粘性弱い。炭化物粒を少量,ローム粒を微量含む。
- 3 黒褐色土:しまりあり,粘性あり。ローム粒を少量,炭化物粒を微量含む。

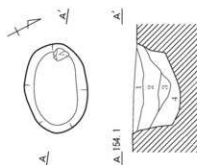
34号土坑



34号土坑 土層説明

- 1 黒褐色土:しまりあり,粘性なし。ローム粒・炭化物粒を少量含む。
- 2 暗褐色土:しまり弱い,粘性弱い。ローム粒・ロームブロックを少量,炭化物粒を微量含む。
- 3 褐色土:しまり弱い,粘性弱い。ロームブロックを少量,ローム粒・炭化物粒を微量含む。

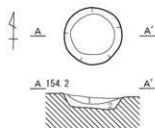
35号土坑



35号土坑 土層説明

- 1 暗褐色土:しまりあり,粘性弱い。ローム粒を少量,炭化物粒を微量含む。
- 2 黒褐色土:しまりあり,粘性あり。炭化物粒を少量,ロームブロック・ローム粒を微量含む。
- 3 黒褐色土:しまりあり,粘性あり。ローム粒を少量,炭化物粒・ロームブロックを微量含む。
- 4 暗黄褐色土:しまりあり,粘性弱い。ロームブロック(φ5cm)を多量,ローム粒を少量含む。

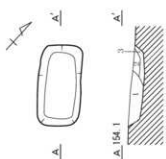
36号土坑



36号土坑 土層説明

- 1 暗褐色土:しまりあり,粘性弱い。ローム粒を少量,泥岩片を微量含む。
- 2 黒褐色土:しまりあり,粘性あり。ローム粒を少量,炭化物粒を微量含む。

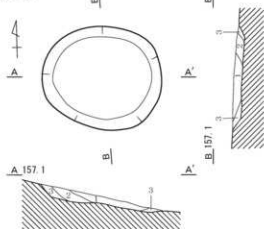
37号土坑



37号土坑 土層説明

- 1 暗褐色土:しまり弱い,粘性弱い。ローム粒を少量,炭化物粒を微量含む。
- 2 暗褐色土:しまり弱い,粘性弱い。ローム粒を微量含む。
- 3 褐色土:しまりあり,粘性弱い。炭化物粒を少量,ローム粒を微量含む。

38号土坑



38号土坑 土層説明

- 1 暗褐色土:しまり弱い,粘性弱い。ローム粒を少量,泥岩片・炭化物粒を微量含む。
- 2 褐色土:しまりあり,粘性弱い。ローム粒・泥岩片を微量含む。
- 3 褐色土:しまり弱い,粘性弱い。ローム粒を多量,炭化物粒を微量含む。



図 219 33～38号土坑

(3) 製鉄跡

1号製鉄跡(図220、表67/写真図版55・56・87)

位置：1区北側に位置する。規模：平面形は楕円形と隅丸長方形を組み合わせた形状を呈する。全長1.36mで、楕円形部分は長軸0.70m、短軸0.40mを測る。地形は南東方向への傾斜地であるが、等高線にはほぼ並行して造られている。土砂流出のため、構造は不明確である。この南東側の斜面に鉄滓等を廃棄したことが考えられるが、ほとんど出土しておらず、周辺の住居覆土中に僅かに散見する程度である。確認面からの深さは、楕円形部分で20cm、長方形部分で11cmを測る。遺物：須恵器高台付壇が1点出土した。時期：9世紀後半。

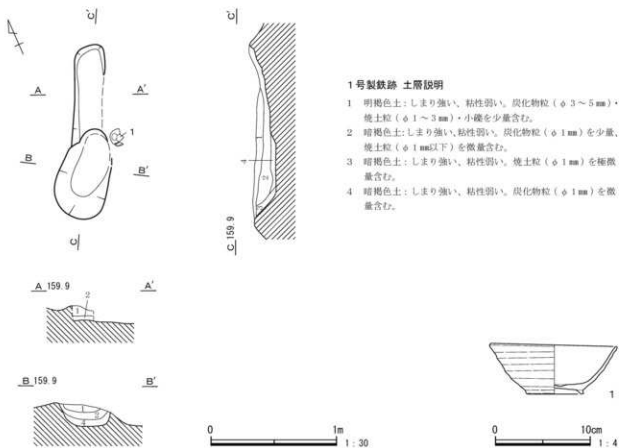


図220 1号製鉄跡および出土遺物

表67 1号製鉄跡 出土遺物観察表

1	須恵器高台付壇	A. 口縁径13.2、器高5.4、底部径5.6。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。D. 白色粒、褐色粒。E. 内外-にぶい黄橙色。F. 5/6。G. 酸化焙焼成。H. 覆土中。
---	---------	---



图 221 堂ノ入遺跡B地点全体図

第17節 堂ノ入遺跡B地点

1 遺跡の概要 (図221/写真図版58)

堂ノ入遺跡B地点は、「女堀川」支流左岸の丘陵上にあり、この丘陵が小規模な沢によって浸食された開析谷の南東斜面に立地している。標高は158.0～163.5mで、南東から北西へ傾斜する。検出された遺構はなく、南から北に走行する細い谷筋が認められた。遺物は谷の上層において縄紋土器や石器が出土している。調査区東側ではまとまった礫が見受けられた。遺物の接合率は低く、現位置を保っていないものと推測される。なお、本章では丘陵帯における縄紋時代の活動傾向を示すものとして、A1・A2地点の遺構外出土遺物を併せて提示することとした。A1地点はB地点と尾根を挟んだ反対側の斜面地に、A2地点は丘陵の先端に位置し、遺物は平安時代の住居跡覆土および点在する遺物包含層から検出されている。C地点はA2地点に接続するものの、埋没谷に遺物が一括して投棄されていることから章を替えて後述する。

2 検出された遺物

(1) 縄紋時代の遺物 (図222～228、表68・69/写真図版58・88～91)

A1・A2・B地点では縄紋土器1,414点・石器136点が検出され、A1地点に集中する(62%)。

土器は早期前葉夏島式、早期中葉田戸下層式・田戸上層式、押型紋系土器、早期後葉鶴ヶ島台式・茅山下層式・茅山上層式、前期初頭、前期中葉関山Ⅱ式・黒浜式、前期後葉諸磯a式・諸磯b式・諸磯c式、前期末葉、中期中葉勝坂Ⅲ式が認められ、早期後葉を主体とする。夏島式および黒浜式はA1地点、前期末葉はA2地点でのみ検出されている。また、A2地点で田戸上層式・押型紋系土器・前期初頭が、B地点で関山Ⅱ式・諸磯a式・諸磯b式・諸磯c式・勝坂Ⅲ式が出土していない。検出点数が少なくないものもあることから有意な傾向を捉えることは難しいが、前期後半以降が北西側斜面地のB地点で欠落する。

図222の1は口縁端部が外側に丸く肥厚し、単節縄紋(LR)上に条痕を重ねる。早期前葉夏島式であろう。2～8は押型紋系土器で、8の胎土中に片岩が含まれる。押型紋には山形(2～6)と楕円(7・8)があり、前者の器壁は薄い傾向にある。9～13は早期中葉田戸下層式に比定される。9は幅広の沈線を横・縦・斜位に施すものである。10は横位の並行沈線を数段重ね、沈線間に竹管状工具による刺突列や列点を加える。11は横・斜位の並行沈線で三角形に区画し、10と同様の列点を充填する。12・13には斜位の沈線や角状の刺突列を施す。14・15は早期中葉田戸上層式に比定される。15は器壁が非常に薄い。いずれも細い沈線で区画し、その中に貝殻腹縁紋を満す。16～39は早期後葉の条痕紋系土器で、胎土中に繊維を有し、片岩を含むものも認められる。そのうち16～27は鶴ヶ島台式に属するものである。有段の深鉢で、文様帯を準状等に分割して交点に竹管による円紋を配置する。分割は沈線によるものがほとんどだが、20・25は微隆起線や結節沈線を使用する。分割内への充填は結節沈線によるものが多く、他に斜格子状沈線(22)や円紋(24)等も見受けられる。20は筒状の把手である。26・27は同一個体で、典型的な17～20と同様に内削状の口縁端部へキサミを加える。28～35は茅山下層式ないし茅山上層式に比定される。28は2段の文様帯を持つ。28～31には単沈線による斜格子文を配置する。32・33は単節縄紋(LRカ)上に、

2条1対の幅広沈線で縦位区画や曲線文を施す。34はへら状工具による2列の刺突を加えたゆるい屈曲部が区画となり、区画内を刺突列と同様の工具による斜格子文で満たす。35は竹管状工具の押し引きによる縦位の刺突列を充填する。36～39は条痕紋のみの口縁部片で、36～38の口唇部にはキザミを加える。40～50は前期前半の羽状縄紋系土器で、胎土中に繊維を有し、片岩を含むものも認められる。そのうち40～45は早期末葉～前期初頭に属するものである。40・41は体部に前々段多条の縄紋(RL)を異方向に施す。40の口縁部はキザミを有する隆帯で弧状に区画され、尖頭状工具による刺突を満たす。41の内面には条痕紋が残る。42は体部に異方向施文の太い単節縄紋(RL)、屈曲によって区画された口縁部には2条1対の燃糸側面圧痕紋(R・L)を配置する。43は肥厚する口唇直下に隆帯が巡る。体部は単節縄紋(RL)である。44は折返し状を呈する口縁部片で、前々段多条の縄紋(RL)を施す。45は貝殻背圧痕紋で覆われた胴部片である。46～48は関山Ⅱ式に比定される。直前段合燃による羽状縄紋を地紋とし、口縁部直下や胴部中位等に条線によるコンパス文を配置する。46には片口が付く。49は有尾式で、文様要素は半載竹管状工具の押し引きである。50はミニチュア型土器で、胴中位に大な屈曲を持つ。体部は無節縄紋(R・L)を羽状に施し、底部縁辺に刻みを加える。51～54は諸磯a式に比定され、一部の胎土中に片岩を含む。51・52は緊密な単節縄紋(RL)を地紋とし、磨り消した口唇下に平行沈線と刺突列を重ねた爪形紋を施文する。53は単節縄紋(LR)上を結節沈線で区画し、その中を円紋で満たす。54は口縁部および口唇部を単節縄紋(LR)で覆う。55は諸磯c式で、単節縄紋(LR)による地紋や横・縦・斜位の集合沈線を配する。

石器は、石匙・スクレイパー類・礫器・打製石斧・磨製石斧・磨石類・砥石・石核・剥片等が出土している。製品に比して剥片が多い。両側縁に抉りを有するスクレイパーが特徴的である(64・65)。

[抽出遺物の出土地点] A1地点: 1・7・9～14・20・29～33・35・36・39・40・43・49・50・51・53～54・60・61・64～66・69～71・75～77。A2地点: 46～48・52・58・62。B地点: 2～6・8・15～19・21～28・34・37・38・41・42・44・56・57・59・63・67・68・72～73。

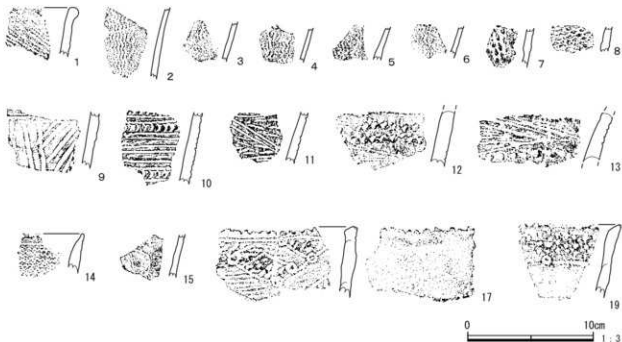


図 222 遺構外出土遺物(1)

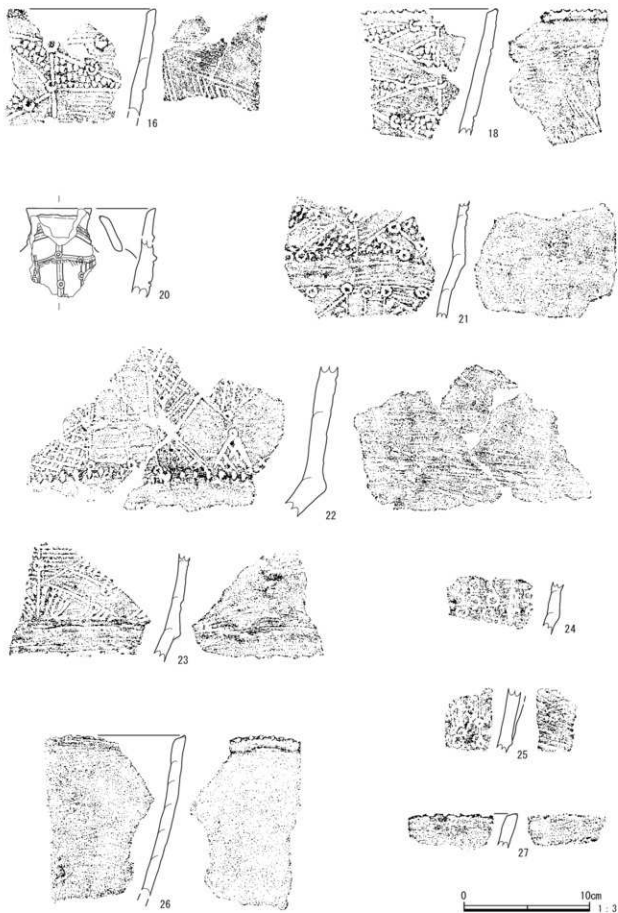


图 223 遺構外出土遺物 (2)

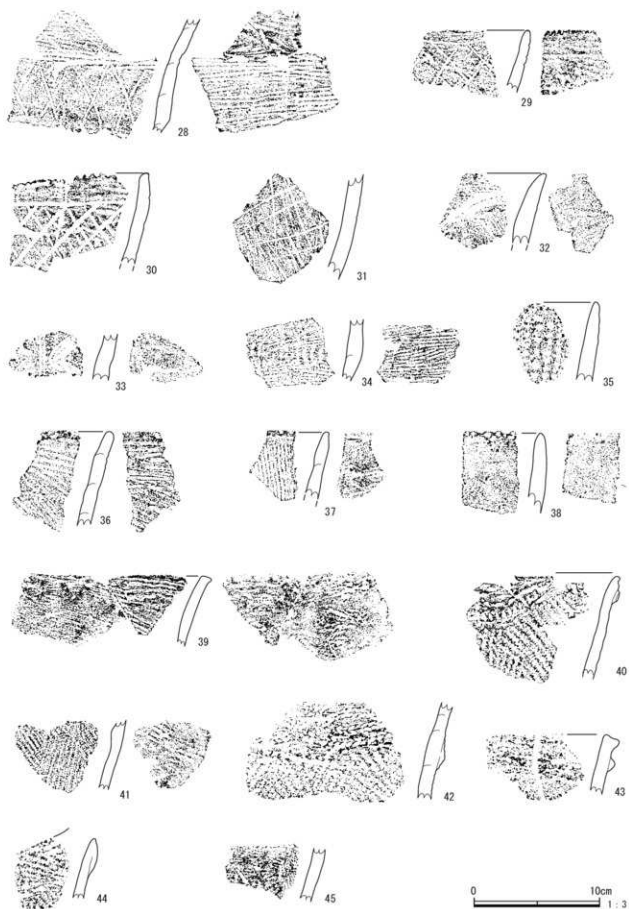


图 224 遺構外出土遺物 (3)

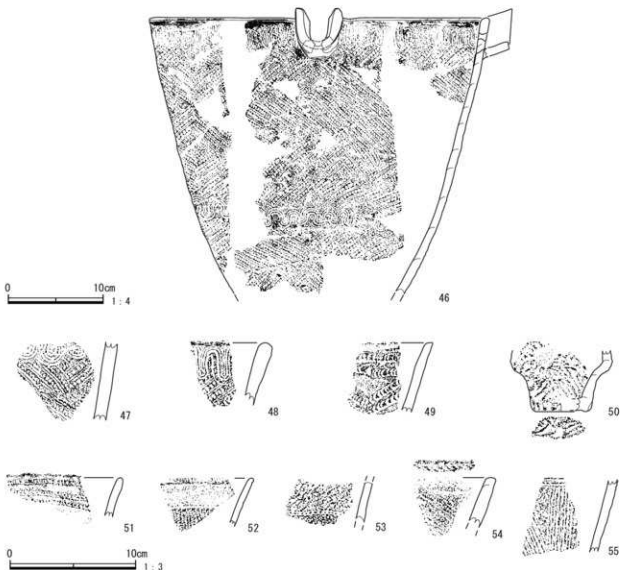


図 225 遺構外出土遺物（4）

表 68 遺構外出土遺物観察表（1）

56	石器 石匙	A. 長さ 8.0、幅 4.5、厚さ 1.5、重さ 35.87。G. 頁岩。縦型石匙。礫皮をもつ縦長剥片の縁辺を直接打撃により片面加工。右側縁に磨耗痕。
57	石器 スクレイパー	A. 長さ 14.3、幅 16.6、厚さ 3.08、重さ 724.79。G. ホルンフェルス。礫皮をもつ大型剥片の周縁に不連続な直接打撃により片面調整。縁辺部は厚減顕著。
58	石器 スクレイパー	A. 長さ 9.65、幅 10.25、厚さ 2.7、重さ 267.08。G. 砂岩。礫皮をもつ剥片の周縁部を直接打撃により下半部は両面加工、上半部は片面加工。
59	石器 スクレイパー	A. 長さ 9.65、幅 9.75、厚さ 2.9、重さ 194.33。G. 頁岩。礫皮をもつ剥片の縁辺に微細剥離痕。器面全体に鉄分沈着。
60	石器 スクレイパー	A. 長さ 10.44、幅 5.4、厚さ 2.15、重さ 109.6。G. 頁岩。礫皮をもつ剥片の両側縁を直接打撃により片面加工。下部に微細剥離痕。
61	石器 スクレイパー	A. 長さ 4.4、幅 8.0、厚さ 2.74、重さ 100.06。G. 頁岩。礫皮をもつ剥片の縁辺を直接打撃により両面加工。左側縁部欠損。
62	石器 スクレイパー	A. 長さ 5.15、幅 7.18、厚さ 1.48、重さ 52.7。G. 頁岩。礫皮をもつ剥片の縁辺を直接打撃により片面加工。刃部周辺は厚減。
63	石器 スクレイパー	A. 長さ 4.65、幅 5.1、厚さ 1.55、重さ 34.45。G. ホルンフェルス。礫皮をもつ剥片の縁辺を直接打撃により片面加工。刃部周辺は厚減。
64	石器 スクレイパー	A. 長さ 4.15、幅 6.4、厚さ 1.45、重さ 44.77。G. 頁岩。礫皮をもつ剥片の周縁を直接打撃により片面加工。両側縁中央に浅い抉入。

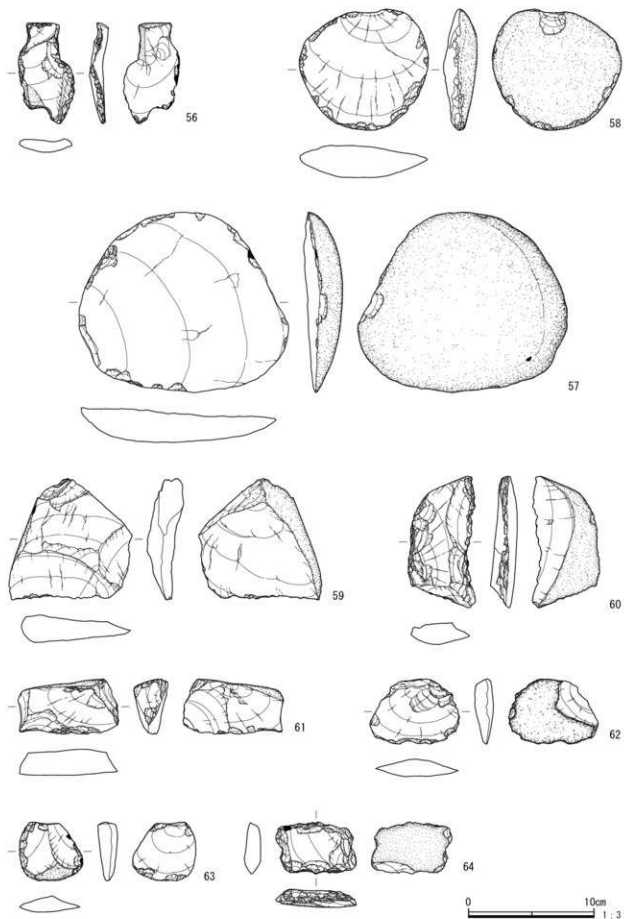


图 226 遺構外出土遺物 (5)

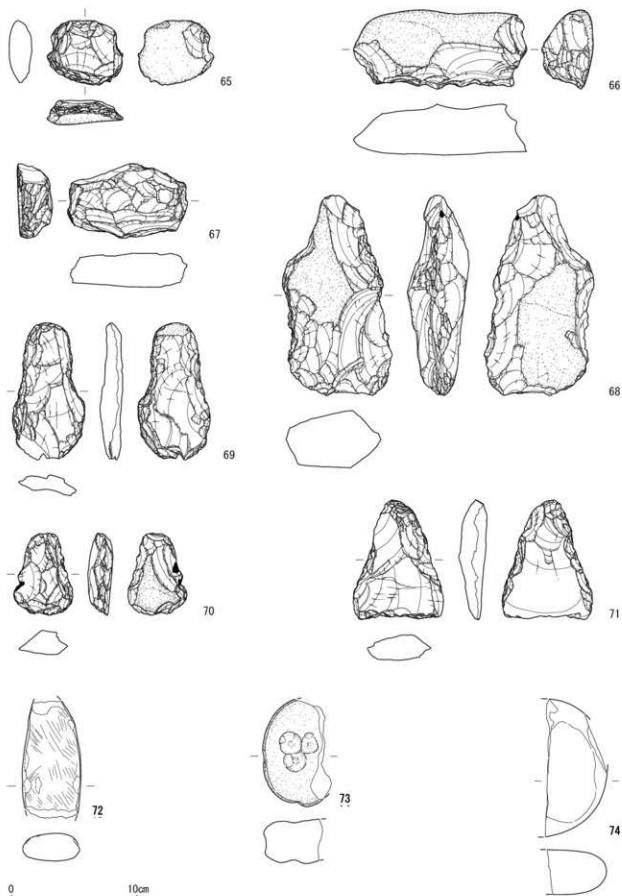


图 227 遺構外出土遺物 (6)

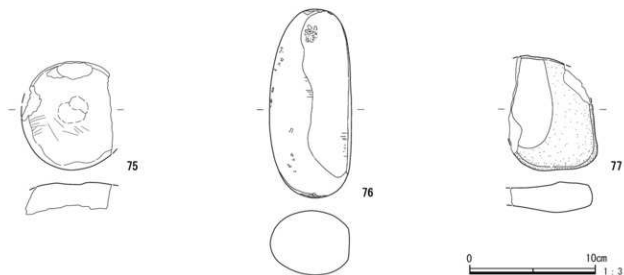


図 228 遺構外出土遺物 (7)

表 69 遺構外出土遺物観察表 (2)

65	石器 スクレイパー	A. 長さ 5.1、幅 6.05、厚さ 1.95、重さ 67.48。G. 頁岩。礫皮をもつ剥片の周縁を直接打撃により右側縁は両面加工。左側縁・上・下部は片面加工。両側縁中央に浅い狭入。
66	石器 礫器	A. 長さ 6.3、幅 13.75、厚さ 4.1、重さ 446.61。G. ホルンフェルス。自然礫を直接打撃により片面加工を施し 2 側面に鈍角な刃部を作出。
67	石器 礫器	A. 長さ 5.93、幅 9.55、厚さ 2.8、重さ 212.73。G. ホルンフェルス。扁平礫を直接打撃により片面加工を施し 3 側縁に鈍角な刃部を作出。
68	石器 打製石斧	A. 長さ 15.9、幅 8.75、厚さ 4.9、重さ 539.07。G. 砂岩。扁平礫の周縁部を直接打撃により両面加工。
69	石器 打製石斧	A. 残長 10.9、幅 5.8、厚さ 1.85、重さ 102.33。G. 頁岩。礫皮をもつ剥片の周縁部を直接打撃により両面加工。刃部周辺に顕著な磨耗痕。刃端部欠損。
70	石器 打製石斧	A. 長さ 6.5、幅 4.75、厚さ 2.0、重さ 58.55。G. 頁岩。礫皮をもつ剥片の周縁部を直接打撃により両面加工。小型。
71	石器 打製石斧	A. 長さ 9.5、幅 7.25、厚さ 2.25、重さ 122.55。G. 頁岩。剥片の周縁部を直接打撃により両側縁部は両面加工。刃部は片面加工。
72	石器 磨製石斧	A. 残長 9.2、幅 4.6、厚さ 2.2、重さ 161.6。G. 両端部を欠く。研磨調整が不完全か。
73	石器 凹石	A. 残長 8.5、残幅 5.5、厚さ 3.5、重さ 213.3。G. 欠損。表裏面に凹みあり。側面にも使用痕跡あり。
74	石器 磨石	A. 長さ 10.9、残幅 4.9、厚さ 3.5、重さ 268.3。G. 欠損。表裏面に使用による磨耗あり。
75	石器 磨石	A. 長さ 8.5、残幅 7.1、厚さ 2.2、重さ 203.2。G. 裏面欠損。表面に凹みあり。側面は使用による磨耗あり。
76	石器 磨石	A. 長さ 14.9、幅 6.5、厚さ 5.1、重さ 789.7。G. 棒状。上下頂部に敲打痕。側面に稜を作る。使用による強い磨耗あり。
77	石器 砥石	A. 長さ 9.1、残幅 7.0、厚さ 2.4、重さ 161.5。G. 扁平で一部欠損あり。使用部分は船底状に凹みを持ち磨耗。

第18節 堂ノ入遺跡C地点

1 遺跡の概要 (図229、写真図版59)

堂ノ入遺跡C地点は「女堀川」支流左岸の丘陵上にあり、この丘陵が小規模な沢によって浸食された開析谷の南東斜面に立地している。堂ノ入遺跡A地点2区に隣接し、標高は151.5～158.0mで、

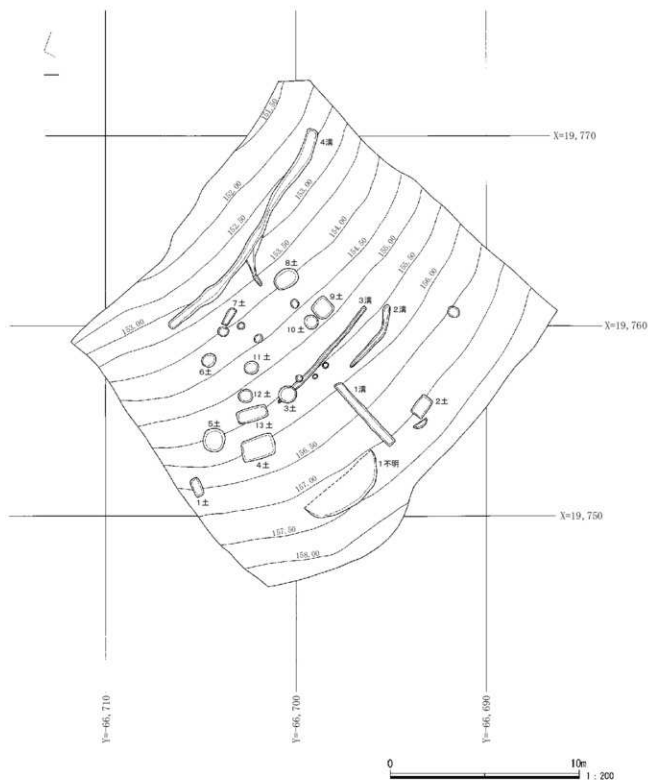


図229 堂ノ入遺跡C地点全体図

調査区内は南東から北西へ傾斜する。

検出された遺構は、土坑13基、溝4条、不明遺構1基で、遺物を伴わないため帰属時期は不明である。調査区中央には埋没谷が存在し、埋没谷から縄紋土器や石器が多量に出土している。縄紋土器は早期前葉から中期中葉のものが認められ、早・前期を主体とする。

2 検出された遺構と遺物

(1) 土坑

1号土坑 (図230/写真図版59)

位置: 調査区南西側に位置する。**形状・規模:** 平面形は隅丸長方形を呈する。長径1.01m、短径0.52m、深さ25cmを測る。**長軸方位:** N-24°-W。**覆土:** ローム粒・炭化物粒を含む暗褐色土を主体としている。**遺物:** 出土しなかった。**時期:** 不明。

2号土坑 (図230/写真図版59)

位置: 調査区南東側に位置する。**形状・規模:** 平面形は長方形を呈する。長径1.11m、短径0.74m、深さ15cmを測る。**長軸方位:** N-37°-E。**覆土:** ローム粒・炭化物粒を含む暗褐色土を主体としている。**遺物:** 出土しなかった。**時期:** 不明。

3号土坑 (図230/写真図版59)

位置: 調査区中央に位置する。**重複:** 3号溝と重複するが、新旧関係は不明である。**形状・規模:** 平面形は円形を呈する。長径0.91m、短径0.90m、深さ20cmを測る。**覆土:** ローム粒・炭化物粒を含む黒褐色土を主体としている。**遺物:** 出土しなかった。**時期:** 不明。

4号土坑 (図231/写真図版59)

位置: 調査区南西側に位置する。**形状・規模:** 平面形は長方形を呈する。長径1.78m、短径1.16m、深さ28cmを測る。**長軸方位:** N-73°-E。**覆土:** ローム粒・炭化物粒・As-Bを含む暗褐色土を主体としている。**遺物:** 出土しなかった。**時期:** 不明。

5号土坑 (図231/写真図版59)

位置: 調査区南西側に位置する。**形状・規模:** 平面形はほぼ円形を呈する。長径1.23m、短径1.14m、深さ25cmを測る。**覆土:** ローム粒・炭化物粒を含む暗褐色土を主体としている。**遺物:** 出土しなかった。**時期:** 不明。

6号土坑 (図231/写真図版59)

位置: 調査区中央より西側に位置する。**形状・規模:** 平面形はほぼ円形を呈する。長径0.76m、短径0.67m、深さ66cmを測る。**覆土:** ローム粒・炭化物粒・泥岩細片を含む黒褐色土を主体としている。**遺物:** 出土しなかった。**時期:** 不明。

7号土坑 (図231 / 写真図版59)

位置: 調査区中央より西側に位置する。形状・規模: 平面形は長方形を呈する。長径0.99 m、短径0.38 m、深さ53 cmを測る。長軸方位: N-34°-E。覆土: 炭化物粒・泥岩細片を含む黒褐色土を主体としている。遺物: 出土しなかった。時期: 不明。

8号土坑 (図231 / 写真図版59)

位置: 調査区中央に位置する。形状・規模: 平面形は楕円形を呈する。長径1.33 m、短径0.98 m、深さ58 cmを測る。長軸方位: N-62°-E。覆土: ローム粒・炭化物粒・泥岩細片を含む暗褐色土を主体としている。遺物: 出土しなかった。時期: 不明。

9号土坑 (図231 / 写真図版59)

位置: 調査区中央に位置する。形状・規模: 平面形は隅丸方形を呈する。長径1.02 m、短径1.02 m、深さ35 cmを測る。覆土: ローム粒・炭化物粒を含む暗褐色土を主体としている。遺物: 出土しなかった。時期: 不明。

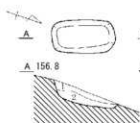
10号土坑 (図231 / 写真図版59)

位置: 調査区中央に位置する。形状・規模: 平面形は円形を呈する。長径0.74 m、短径0.74 m、深さ56 cmを測る。覆土: ローム粒・炭化物粒・泥岩細片を含む暗褐色土を主体としている。遺物: 出土しなかった。時期: 不明。

11号土坑 (図231 / 写真図版59)

位置: 調査区中央に位置する。形状・規模: 平面形はほぼ円形を呈する。長径0.74 m、短径0.66 m、深さ40 cmを測る。覆土: ローム粒・炭化物粒・泥岩細片を含む黒褐色土を主体としている。遺物: 出土しなかった。時期: 不明。

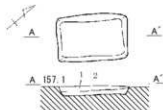
1号土坑



1号土坑 土層説明

- 1 褐色土: しまりやや弱い、粘性弱い。泥岩片を少量、ローム粒・炭化物粒を微量含む。
- 2 暗褐色土: しまり強い、粘性弱い。ローム粒・炭化物粒を少量含む。

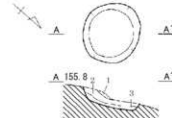
2号土坑



2号土坑 土層説明

- 1 暗褐色土: しまり強い、粘性強い。ローム粒を少量、炭化物粒を微量含む。
- 2 明褐色土: しまり強い、粘性強い。ローム粒・炭化物粒を少量含む。

3号土坑



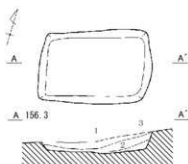
3号土坑 土層説明

- 1 褐色土: しまり強い、粘性なし。泥岩片・ローム粒を微量含む。
- 2 黒褐色土: しまり強い、粘性強い。ローム粒を少量、炭化物粒・泥岩片を微量含む。
- 3 暗褐色土: しまり強い、粘性強い。炭化物粒・ローム粒を少量含む。



図230 1～3号土坑

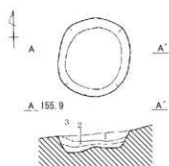
4号土坑



4号土坑 土層説明

- 1 褐色土：しまり強い、粘性強い、ローム粒を少量、YPを微量含む。
- 2 暗褐色土：しまり強い、粘性強い、炭化物粒・ローム粒・YPを少量含む。
- 3 暗褐色土：しまり強い、粘性強い、炭化物粒を少量、ローム粒を微量含む。

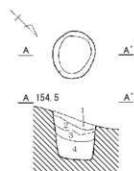
5号土坑



5号土坑 土層説明

- 1 褐色土：しまりやや弱い、粘性弱い、ローム粒を少量、泥岩片・炭化物粒を微量含む。
- 2 褐色土：しまりやや弱い、粘性弱い、ローム粒・炭化物粒を少量含む。
- 3 暗褐色土：しまり強い、粘性強い、炭化物粒を少量、ローム粒を微量含む。

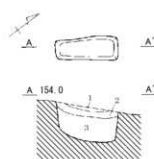
6号土坑



6号土坑 土層説明

- 1 褐色土：しまりやや弱い、粘性弱い、ローム粒を少量、炭化物粒を微量含む。
- 2 暗褐色土：しまり強い、粘性弱い、ローム粒を少量、泥岩片・炭化物粒を微量含む。
- 3 黒褐色土：しまり強い、粘性強い、炭化物粒を少量、ローム粒・泥岩片を微量含む。
- 4 黒褐色土：しまり強い、粘性強い、泥岩片・炭化物粒を微量含む。

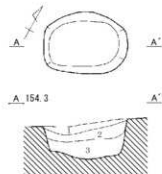
7号土坑



7号土坑 土層説明

- 1 暗褐色土：しまり強い、粘性強い、ローム粒を微量含む。
- 2 暗褐色土：しまり強い、粘性強い、炭化物粒を少量、ローム粒を微量含む。
- 3 黒褐色土：しまり強い、粘性強い、泥岩片・炭化物粒を微量含む。

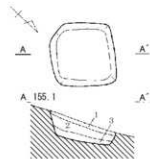
8号土坑



8号土坑 土層説明

- 1 褐色土：しまり強い、粘性強い、ローム粒を少量、炭化物粒を微量含む。
- 2 暗褐色土：しまり強い、粘性強い、炭化物粒・ローム粒を微量含む。
- 3 暗褐色土：しまり強い、粘性強い、炭化物粒を少量、ローム粒・泥岩片を微量含む。

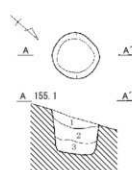
9号土坑



9号土坑 土層説明

- 1 暗褐色土：しまり弱い、粘性なし、ローム粒・炭化物粒を少量含む。
- 2 暗褐色土：しまり強い、粘性弱い、炭化物粒を少量、ローム粒を微量含む。
- 3 黒褐色土：しまり強い、粘性弱い、ローム粒を多量含む。

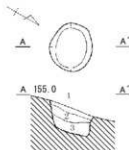
10号土坑



10号土坑 土層説明

- 1 褐色土：しまりやや弱い、粘性弱い、ローム粒を多量、泥岩片を微量含む。
- 2 暗褐色土：しまり強い、粘性強い、炭化物粒・ローム粒を微量含む。
- 3 黒褐色土：しまり強い、粘性強い、泥岩片・炭化物粒を微量含む。

11号土坑



11号土坑 土層説明

- 1 明褐色土：しまりやや弱い、粘性弱い、ローム粒を少量、炭化物粒を微量含む。
- 2 暗褐色土：しまり強い、粘性強い、炭化物粒・ローム粒を少量含む。
- 3 黒褐色土：しまり強い、粘性強い、泥岩片・炭化物粒を微量含む。

0 2m 1:60

図 231 4～11号土坑

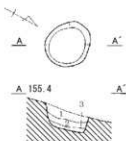
12号土坑 (図232 / 写真図版59)

位置: 調査区中央に位置する。形状・規模: 平面形は円形を呈する。長径0.75 m、短径0.70 m、深さ30 cmを測る。覆土: ローム粒・炭化物粒・泥岩細片を含む暗褐色土を主体としている。遺物: 出土しなかった。時期: 不明。

13号土坑 (図232 / 写真図版59)

位置: 調査区中央に位置する。形状・規模: 平面形は長方形を呈する。長径1.64 m、短径0.72 m、深さ16 cmを測る。長軸方位: $N-74^{\circ}-E$ 。覆土: ローム粒・炭化物粒・泥岩細片を含む暗褐色土を主体としている。遺物: 出土しなかった。時期: 不明。

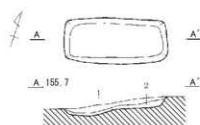
12号土坑



12号土坑 土層説明

- 1 褐色土: しまり強い、粘性強い、ローム粒を少量、炭化物粒を微量含む。
- 2 暗褐色土: しまり強い、粘性強い、炭化物粒を少量、ローム粒を微量含む。
- 3 黒褐色土: しまり強い、粘性強い、泥岩片・炭化物粒を微量含む。

13号土坑



13号土坑 土層説明

- 1 暗褐色土: しまりやや弱い、粘性弱い、炭化物粒・ローム粒を微量含む。
- 2 褐色土: しまりやや弱い、粘性弱い、炭化物粒を少量、泥岩片・ローム粒を微量含む。



図232 12・13号土坑

(2) 溝

1号溝 (図229)

位置: 調査区南東側に位置する。形状・規模: 南東-北西方向へ直行し、断面形は逆台形状を呈する。長さ4.28 m、幅0.45~0.48 mを測り、深さは不明である。長軸方位: $N-44^{\circ}-W$ 。覆土: 不明。遺物: 出土しなかった。時期: 不明。

2号溝 (図229)

位置: 調査区中央に位置する。形状・規模: 南西-北東方向へ走行し、途中で北方向へ屈曲する。断面形は逆台形状を呈する。長さ3.85 m、幅0.30~0.38 mを測り、深さは不明である。長軸方位: $N-42^{\circ}-E$ の後、 $N-7^{\circ}-E$ へ屈曲する。覆土: 不明。遺物: 出土しなかった。時期: 不明。

3号溝 (図229)

位置: 調査区中央に位置する。重複: 3号土坑と重複するが、新旧関係は不明である。形状・規模: 南西-北東方向へ直行し、断面形は逆台形状を呈する。長さ6.85 m、幅0.20~0.29 mを測り、深さは不明である。長軸方位: $N-43^{\circ}-E$ 。覆土: 不明。遺物: 出土しなかった。時期: 不明。

4号溝(図229)

位置:調査区北側に位置する。**形状・規模:**南西―北東方向へ蛇行気味に走行し、断面形は逆台形状を呈する。長さ12.85m、幅0.29～0.68mを測り、深さは不明である。**長軸方位:**N-31°-E。**覆土:**不明。**遺物:**出土しなかった。**時期:**不明。

(3) 不明遺構

1号不明遺構(図229)

位置:調査区南側に位置する。**形状・規模:**土砂流失のため、平面形は確定できない。規模は、確認された範囲では長径4.65m、短径1.58mを測る。深さは不明である。**覆土:**不明。**遺物:**出土しなかった。**時期:**不明。

(4) 埋没谷(図233～245、表70/写真図版60・92～99)

調査区中央に位置し、東北にのびる丘陵の西斜面に展開する。谷には粘質土が埋没し、下層に基盤層の片岩が含まれている。上層では縄紋時代早・前期を主体とする多量の遺物が出土した。その中央部には礫の集中が認められる。15層は土坑状の掘り込みを呈するものの、判然としなない。35・36層は基盤に相当し、片岩で構成されている。

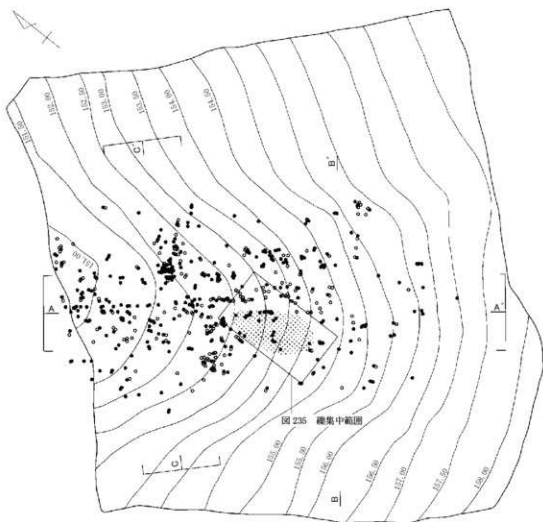
遺物は縄紋土器1,298点・石器535点が検出された。埋没谷の上層に分布しており、谷口側にやや偏る。土器は早期前～末葉、前期初頭・中～末葉、中期中葉が認められ、早期後葉が多くを占める(63%)。石器は石鏃、石錐、楔型石器、打製石斧、スクレイパー類、礫器、磨石類、スタンプ形石器、砥石、石核・剥片等が出土している。製品に比して剥片が非常に多い。

以下では、大量に出土した縄紋土器について詳しく記述する。

早期前葉(1): 摺糸紋系土器が1点のみ検出された。1は胎土中に片岩を含み、斜位の摺糸紋(1)を施す。

早期中葉(2～10): 41点が検出され、いずれも田戸下層式に比定される。胎土中への混入物は比較的少ないが、片岩や多量の石英粒を含むものが認められる。口縁部は波状縁(2)・平縁(3・7・9)の両者が見受けられる。主要文様の多条沈線には尖頭状工具を使用するものが多く、他に丸頭状工具によるもの(2・3・8の一部)、また、擦れたもの(7の口縁部、10)も散見される。2は口唇下に沈線や多截竹管状工具による刺突列、その下位に斜位の沈線を施文する。口唇部にも斜位の細沈線が及ぶ。3は横位沈線間に多截竹管状工具による刺突列、口唇下に斜位の細沈線を施す。4は竹管状工具による刺突列で縦位に区画し、区画間・下に横ないし斜位の沈線や角棒状工具による刺突列を配す。内面に丁寧な縦位のナゲ痕が残る。5は沈線を横・斜位に施文し、その空白部に貝殻腹縁紋・擦れた縦位短沈線を充填する。6は沈線・貝殻腹縁紋を複合鋸歯状に配置する。7・8は口縁部に複合鋸歯状・体部に横位の沈線を割り当てる。9は単沈線で縦位に区画し、同じ沈線を斜位に充填する。10は擦れた横位沈線で覆われるものである。

早期後葉～末葉(11～77): 820点が検出され、ほとんどは条痕のみの胴部破片で占められている(77



A 157.0



C 154.0



● 縄紋土器
○ 石器・礫

0 4m
1 : 160

图 233 埋没谷 (1)

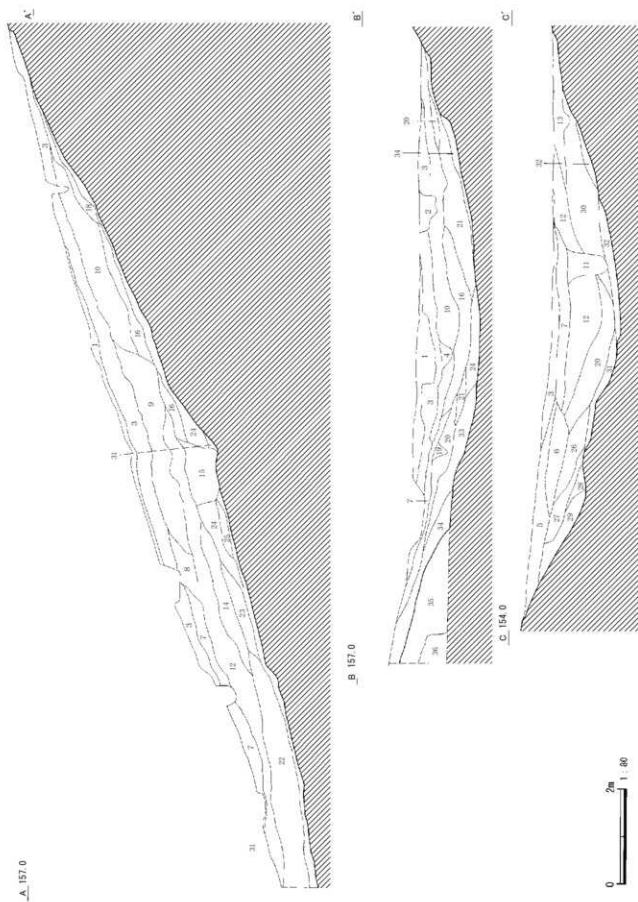


圖 234 埋没谷 (2)

埋没谷 土層説明

- 1 明褐色土:しまり強い,粘性強い,白色粒(φ1mm以下)を少量含む。
- 2 暗褐色土:しまり強い,粘性強い,片岩粒(φ3~5mm)を少量含む。
- 3 明褐色土:しまり強い,粘性強い,暗褐色土を斑状,白色粒(φ1mm以下)を少量含む。
- 4 明褐色土:しまり強い,粘性強い,暗褐色土を斑状,暗褐色粘質土を多量,白色粒(φ1mm以下)を少量含む。
- 5 暗褐色土:しまり強い,粘性強い,白色粒(φ1mm以下)を少量含む。
- 6 暗褐色土:しまり強い,粘性強い,片岩粒(φ5~8mm)・白色粒(φ1mm以下)を少量含む。
- 7 暗褐色土:しまり強い,粘性強い,白色粒(φ1mm以下)を少量,暗褐色粒を微量含む。
- 8 暗褐色土:しまりやや弱い,粘性弱い,白色粒を少量,明褐色土小塊(φ20mm以下)を斑状に微量含む。
- 9 淡暗褐色土:しまりやや弱い,粘性弱い,白色粒・明褐色土小塊(φ50mm以下)を斑状に少量含む。
- 10 暗褐色土:しまり強い,粘性強い,暗褐色ローム粒(φ1mm以下)・白色粒(φ1mm以下)を少量含む。
- 11 暗褐色土:しまり強い,粘性強い,灰褐色粘質土・白色粒(φ1mm以下)を少量,暗褐色粒を微量含む。
- 12 暗褐色土:しまり強い,粘性強い,白色粒(φ1mm以下)を中量,暗褐色粒(φ1mm以下)を少量含む。
- 13 暗褐色土:しまり強い,粘性強い,白色粒(φ1mm以下)を中量,暗褐色粒(φ1mm以下)を少量含む。
- 14 明褐色土:しまり強い,粘性やや強い,30・33層に起因する淡灰色土粒(φ2mm以下)を中量,白色粒を少量含む。
- 15 暗褐色土:しまり強い,粘性強い,白色粒(φ1mm以下)を中量,暗褐色粒(φ1mm以下)・暗褐色粘質土を斑状に少量含む。
- 16 淡暗褐色土:しまり強い,粘性強い,色調が17層より暗い,白色粒(φ1mm以下)を少量,暗褐色粘質土・暗褐色ローム粒(φ1mm以下)を少量含む。
- 17 淡暗褐色土:しまり強い,粘性強い,白色粒(φ1mm以下)を多量,暗褐色ローム粒(φ1mm以下)を少量含む。
- 18 暗褐色土:しまり弱い,粘性強い,白色粒(φ1mm以下)を中量,風化ローム小塊を少量含む。
- 19 暗褐色土:しまり強い,粘性強い,白色粒(φ1mm以下)を中量,暗褐色ローム粒(φ1mm以下)を少量含む。

- 20 褐色土:しまり強い,粘性強い,暗褐色ローム粒・白色粒(φ1mm以下)を中量,炭化物粒を少量含む。
- 21 褐色土:しまり強い,粘性強い,暗褐色ローム粒を多量,白色粒(φ1mm以下)を中量,炭化物粒を少量含む。
- 22 暗褐色土:しまり強い,粘性強い,白色粒(φ1mm以下)を中量,暗褐色粒(φ1mm以下)を少量,片岩粒(φ5~8mm)を微量含む。
- 23 明褐色土:しまりやや強い,粘性強い,淡暗褐色粘質土を多量,暗褐色ローム粒・白色粒(φ1mm以下)を中量含む。
- 24 淡暗褐色土:しまりやや強い,粘性強い,暗褐色ローム粒・白色粒(φ1mm以下)を中量含む。
- 25 明褐色土:しまりやや弱い,粘性強い,淡暗褐色粘質土を多量,片岩粒(φ5mm以下)を少量含む。
- 26 褐色土:しまり強い,粘性強い,暗褐色粒・白色粒(φ1mm以下)・片岩粒を中量含む,片岩粒は疎らに混じる。
- 27 暗褐色土:しまり強い,粘性強い,暗褐色粒・白色粒(φ1mm以下)・片岩粒(φ5~10mm)を中量含む,片岩粒は均一に混じる。
- 28 暗褐色土:しまり強い,粘性強い,暗褐色粒・白色粒(φ1mm以下)・片岩粒(φ5~10・10~30mm)を中量含む。
- 29 暗褐色土:しまり強い,粘性強い,暗褐色粒・白色粒(φ1mm以下)・片岩粒(φ1~2mm)を中量含む,片岩粒は50%程を占める。
- 30 暗褐色土:しまり強い,粘性強い,暗褐色粒(φ1~2mm)・白色粒(φ1mm程)をやや多く含む。
- 31 淡暗褐色土:しまりやや弱い,粘性強い,片岩粒(φ10mm以下)を中量含む。
- 32 暗褐色土:しまり強い,粘性強い,暗褐色粒(φ1~2mm)・白色粒(φ1mm程)を中量含む。
- 33 暗褐色土:しまりやや強い,粘性強い,暗褐色粒・白色粒(φ1~2mm)を多量含む。
- 34 暗褐色土:しまり強い,粘性強い,白色粒(φ1mm以下)・青灰色片岩粒(φ3~5mm)を少量含む,30層に類似。
- 35 暗褐色土:しまり強い,粘性強い,淡灰緑色片岩粒(φ5~10mm)を均一に多量含む。
- 36 暗褐色土:しまり強い,粘性強い,基盤の淡緑色片岩を主体とし,粘質土を少量含む。

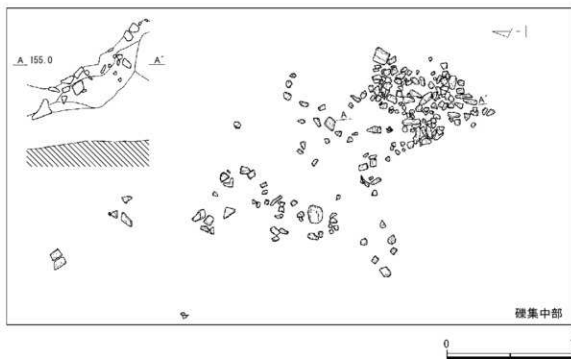


図 235 埋没谷 (3)

%)。細別が判断できるものでは、鶴ヶ島台式・茅山下層式・茅山上層式・下沼部式等が認められ、鶴ヶ島台式が傑出する。いずれも胎土中に繊維を含み、片岩を有するものが散見される。

11～40は鶴ヶ島台式に比定される有文資料である。口縁部は波状縁・平縁の両者が見受けられ、突起を有するものが認められる(11・13)。波状口縁には上面から見るとやや方形を呈する場合があり、口縁部に稜を持つ(11・13)。口唇部は内削ぎ状を呈するものが顕著で、キザミを加える。地紋は横位の貝殻条痕が多い。ナデ調整のものもあり、口縁部文様帯を中心に条痕をナデ消す個体も頻出する。文様帯は著しい屈曲により区画され、32・39の区画には粗大な隆帯を使う。文様帯は狭い無文部を挟む2帯構成が一般的で、文様帯内は2・3条1対の微隆起線(4%)・単沈線(74%)・結節沈線(22%)・半載竹管状工具による平行沈線(1%以下)で縦位・樺状等に分割する。加えて、その交点に竹管による円紋を配置することが多い。各分割内には短沈線(7%)・結節沈線(67%)・刺突(1%以下)等が規則的な配置を擁して充填される。ところで、沈線には丸棒状・尖頭状工具ないし半載竹管状工具等を用いるが、後者によって前者のような効果を引き出すものも存在するようである。また、結節沈線の場合は工具を2本1対に束ねて用いる傾向にある。11・18・19は文様帯を微隆起線で分割し、結節沈線を充填するものである。11の場合は微隆起線による分割は突起部分に限られ、文様帯内は単沈線を使用する。なお、文様帯は1帯で構成されている可能性が高い。12・20は単沈線で分割し、短沈線を充填するものである。ただし、12の下位文様帯に配される斜格子文には充填が伴わない。また、沈線および短沈線には2本1対の工具を使用する。13～16・21～30は単沈線で分割し、結節沈線を充填するもので、この組み合わせが全体の約半数を占める。13・22・25の一部では弧状、16で斜格子状、23・29で横位の分割を用いる。なお、22～23には交点の円紋が認められない。13・24の口唇部キザミは内・外縁の2側縁に及ぶ。31は単沈線で分割し細い竹管による刺突を充填、32は半載竹管状工具による平行沈線で分割し結節沈線を充填するもので、その組成率は極めて少ない。17・33～35は結節沈線で分割や充填を施すもので、17は口縁部～胴上部の1/3が残存する。17・35の下位文様帯は充填を伴わず、上位文様帯と違えた単列の結節沈線を斜格子状に配す。36～40は充填文が認められない資料である。36は縦位区画に単沈線、樺状分割に結節沈線を選択している。37～39は単沈線によって斜格子文を成す。40は半載竹管状工具による平行沈線を使用する。

41～45は茅山下層式ないし茅山上層式期に比定される有文資料である。検出量は少ないが、多様である。41は口唇部がやや内削ぎ状を呈し、2対の突起やキザミを配置する。直立する口縁部に1帯の文様帯を持ち、その下位が屈曲する。文様帯の上端を丸棒状工具による沈線、下端を隆帯で区画し、その中を2条1対の樺状工具による縦位波状沈線で充たす。胴部の内外面には明瞭な貝殻条痕を施紋する。42は屈曲部で区画された文様帯に縦位の単沈線を充填する。胎土中の雲母や角閃石が目立つ。43は口唇部に丸棒状工具による刺突、口縁部に尖頭状工具による2孔1対の刺突を加える。44は明瞭な縦位条痕上に平行沈線による斜格子文を重ねる。45は横位の貝殻条痕上に、条痕と同じ貝殻の復縁による押引紋を施す。46 a～eは器面調整や胎土の特徴等から同一個体に推測される。口唇部には小突起やキザミを配置する。口縁部文様帯を横位隆帯で上下に区画し、2帯構成を採る。口唇下の一部に沈線区画が認められる(46 a)ものの不明瞭である。上位文様帯は半載竹管状工具による沈線で縦位に分割し、同様の工具による斜位・縦位波状の沈線等を充填する。下位文様帯には斜位沈線が配当される。地紋は内外面共に横位の粗い条痕で、掠れている部分も多い。このような文様構成

や多量の片岩を含む胎土等の特徴は他の土器群に比して異質である。

47～51は下沼部式に比定される有文資料である。隆帯や絡条体圧痕紋・貝殻腹縁紋の多用を特徴とする。絡条体の軸は短い(2～3cm)直線状の角棒で、燃糸がR巻きにされる。地紋は貝殻条痕を採用している。47は口縁部～胴上部の1/3が残存する個体で、口縁部が外反、肥厚する。歯齧状の隆帯や瘤状突起を貼付し、口唇下・隆帯上・隆帯脇に絡条体圧痕を加える。絡条体圧痕の原体は施文部位によって異なり、口唇下・隆帯上にはr、隆帯脇には粗大な1の燃糸を用いる。地紋の貝殻条痕は文様帯より下位に認められ、隆帯貼付後に施文する。48は横位・波状の隆帯や瘤状突起を貼付し、隆帯上のみにrの燃糸による絡条体圧痕を押捺する。49は隆帯や横位の棒状突起を貼付し、隆帯上・口唇下・口縁部に細いrの燃糸による絡条体圧痕を施す。50には縦・斜位の絡条体圧痕を配列する。51は横位隆帯上に貝殻腹縁紋を加える。52は東海系の上の山式ないし入海1式に比定されるものである。口唇部および口唇下に挟まれるような刺突列を擁し、器壁が薄い。

53～60は条痕ないし擦痕のみの口縁部片である。口唇部が丸頭状・尖頭状・内削状を呈するものが見受けられ、内削状のものが多い(64%、53～54・60)。これは鶴ヶ島台式の量比を反映したものと推測され、内削状に作る際の内・外面口唇下における横位ナデ調整が目立つ。また、7割の個体に口唇部の押捺が認められる。ヘラ状工具を使用したものが多く、口縁部が内削状を呈する場合は丸棒状工具によるものが顕著である。53・54・57・58はヘラ状工具、55は丸棒状工具、56は角棒状工具、59は貝殻腹縁で押捺する。

61～76は条痕ないし擦痕のみの胴部片である。条痕の施文域には内外面(58%、61～64)、外面のみ(32%、65～67)、内面のみ(10%、68・69)のものがあがり、貝殻条痕(61～66・68・69)や細かい条痕(67)等が認められる。69の内面には条痕に使用した貝殻腹縁の痕跡が残る。内外面共に擦痕状を呈する個体も4割程に達する。擦痕には丁寧な調整を施すもの(70～73)がある一方で、粗雑なもの(66・74・75)も散見される。これらには条痕をナデ消したものも含まれよう。76は外面の条痕上に貝殻背圧痕を重ねる。77は平底を呈する底部片である。当該期の底部は底面が僅かに反るものが一般的で、高台状を呈するものも認められる。一概に条痕は不明瞭だが、77は内外面に加えて底面にも条痕が及ぶ。

前期前半(78～101):257点が検出され、前期初頭の土器群・関山Ⅱ式・黒浜式等が確認された。胎土中に繊維を含み、片岩を有するものが多い。78～94は前期初頭の土器群で、一部は早期末葉に含まれる可能性がある。78は波状を呈する口縁部片で数条の縄圧痕(RL)を施す。79は平縁で口唇下に横位の隆帯・縄圧痕(LR)、体部に前々段多条縄紋(LR)を割り当てる。80は隆帯で区画し、体部を前々段多条縄紋(LR)で充たす。内面は条痕地紋である。81は前々段多条縄紋(LR)を加えた後、刻目を有する隆帯を貼付する。82・83は縄紋のみの口縁部である。82は羽状縄紋(RL・LR)で、施文域が口唇部に及ぶ。83は無節縄紋(R)を用いる。84～86は外面に縄紋、内面に条痕を配する胴部片である。これらの土器群は斜縄紋を主体とし、羽状のものは少ない。単節縄紋が多く、前々段多条の縄紋も見受けられる。条痕には幅の広いもの(5mm程)が散見される。84は前々段多条縄紋(RL)、85は無節縄紋(R)、86は異方向縄紋(RL)を用いる。87～89は縄紋のみの胴部片で、内面はナデによる調整を行う。羽状縄紋は燃りの異なる縄によって表出する。87は前々段多条縄紋(RL・LR)、88は単節縄紋(RL)、89は無節縄紋(L)である。90は外面に燃糸紋(R・L)、内面に貝殻条痕を

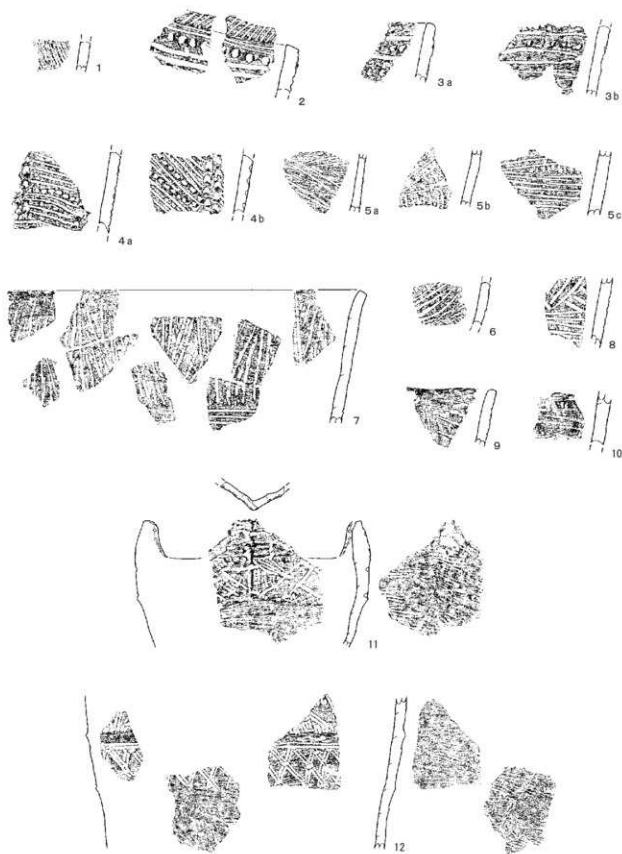


图 236 埋没谷出土遺物 (1)

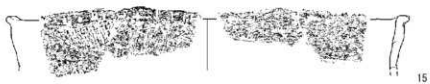
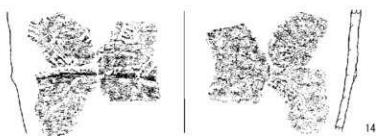
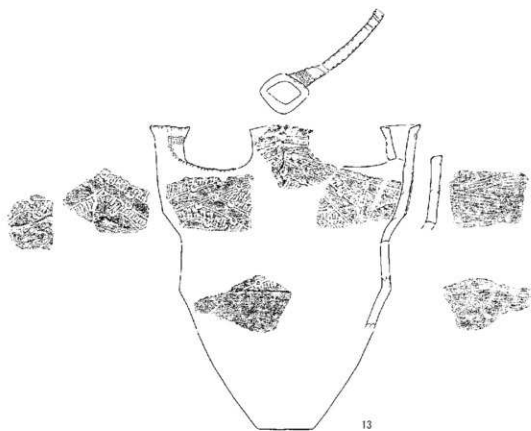


图 237 埋没谷出土遺物 (2)

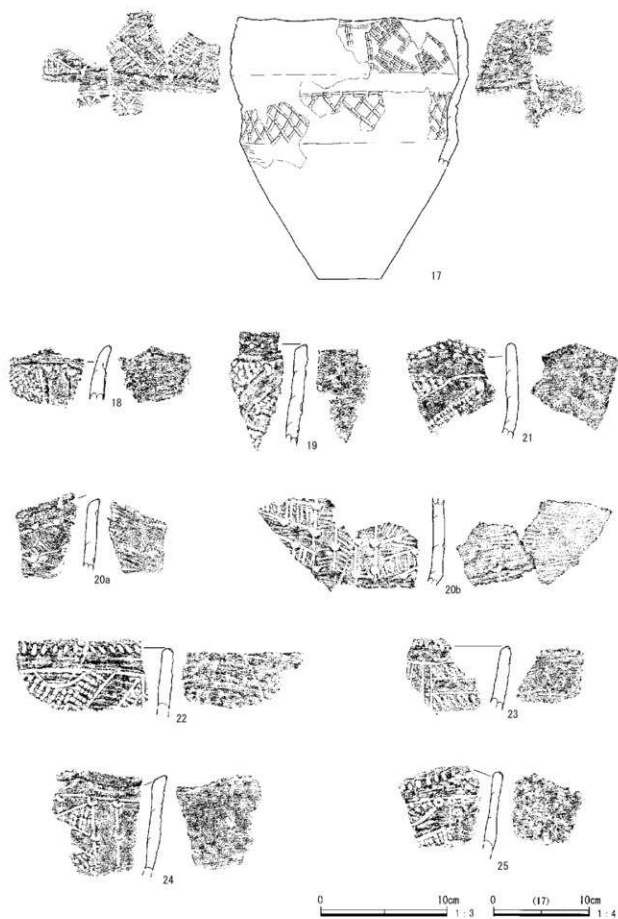


图 238 埋没谷出土遺物 (3)

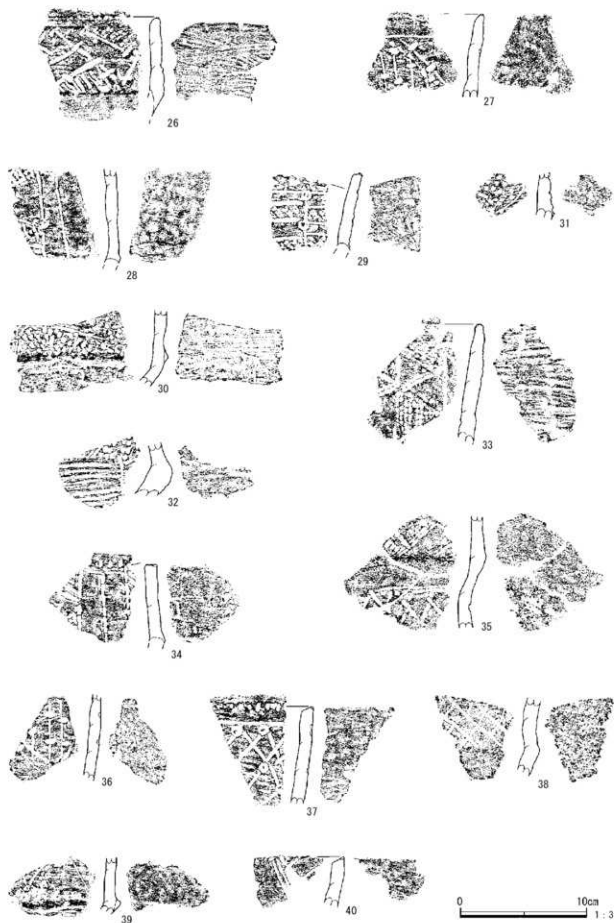
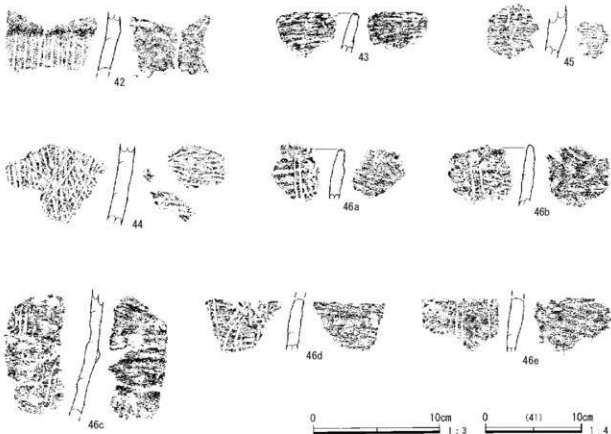
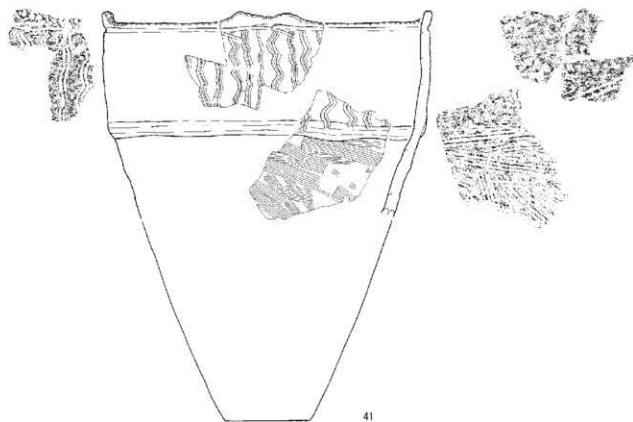


图 239 埋没谷出土遺物 (4)



0 10cm 0 (41) 10cm
1:3 1:4

图 240 埋没谷出土遺物 (5)



图 241 埋没谷出土遺物（6）

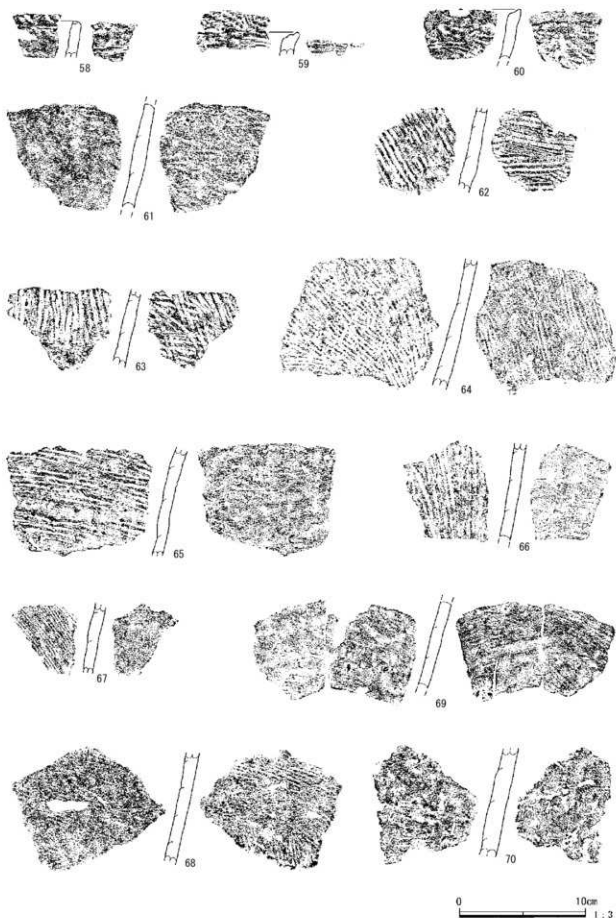


图 242 埋没谷出土遺物 (7)

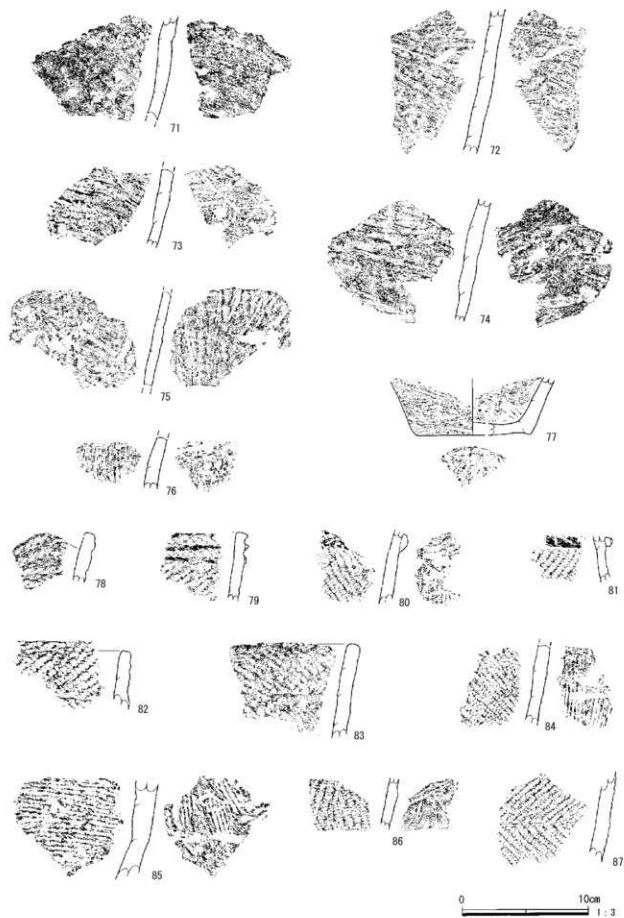


图 243 埋没谷出土遺物 (B)

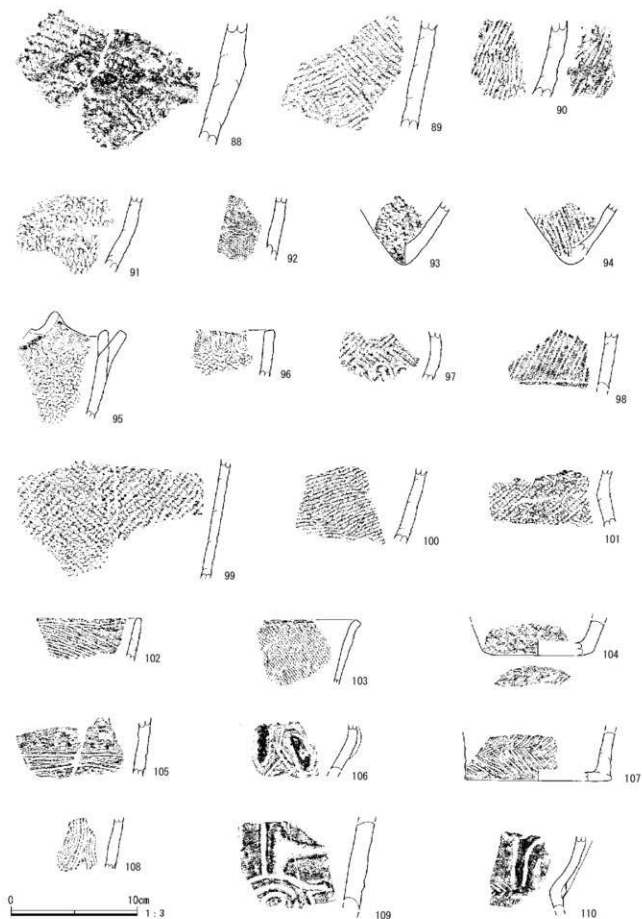


图 244 埋没谷出土遺物 (G)

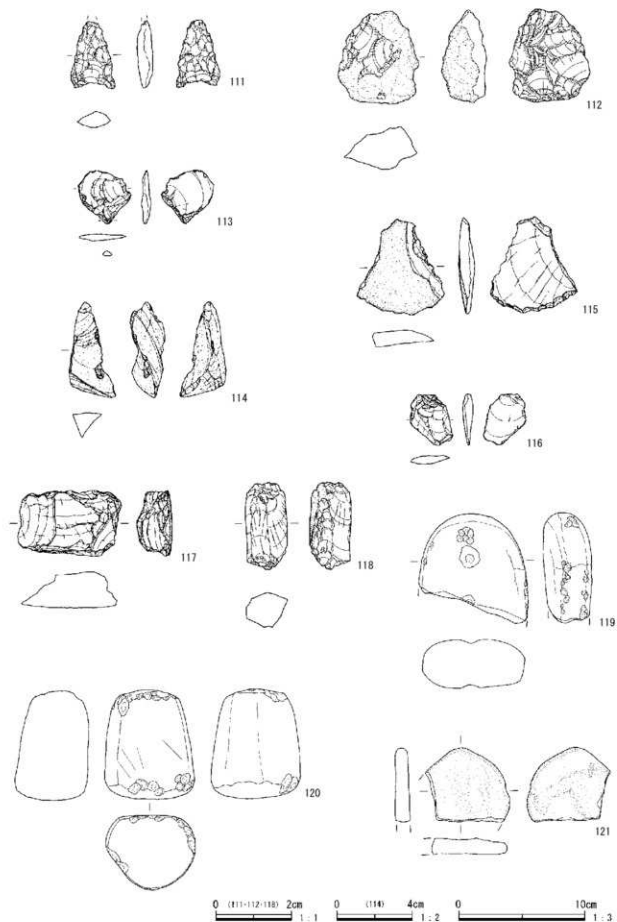


图 245 埋没谷出土遺物 (10)

表 70 埋没谷出土遺物観察表

111	石器 石鏃	A. 残長 1.8, 残幅 1.15, 厚さ 0.43, 重さ 0.71. G. チャート, 凹基無茎. 浅い抉り. 先端・片脚端部欠損. H. Na S187
112	石鏃未成品	A. 長さ 2.45, 幅 2.15, 厚さ 1.2, 重さ 5.02. G. 黒曜石. 風化面をもつ小型剥片の腹面に 2 次加工を施す. H. Na S10
113	石器 石鏃	A. 長さ 4.25, 幅 4.15, 厚さ 0.75, 重さ 10.65. G. 頁岩. 礫皮をもつ小型剥片の一部に押圧剥離を施し鏃部を作出. 先端部は使用時とみられる剥離痕. つまみ部に刃潰し加工. H. IV区上層
114	石器 スクレイパー	A. 長さ 5.15, 幅 2.45, 厚さ 1.83, 重さ 11.08. G. 黒曜石. 風化面をもつ縦長剥片の 3 側縁に微細剥離痕. H. II区
115	石器 スクレイパー	A. 長さ 7.65, 幅 6.95, 厚さ 1.3, 重さ 57.08. G. 砂岩. 礫皮をもつ剥片の 2 側縁を直接打撃により片面加工. H. Na S26
116	石器 RF	A. 長さ 4.0, 幅 3.38, 厚さ 0.84, 重さ 9.76. G. 頁岩. 小型剥片の縁辺に微細剥離痕. H. Bベルト
117	石器 礫器	A. 長さ 5.28, 幅 8.2, 厚さ 2.9, 重さ 146.04. G. ホルンフェルス. 割礫の 3 側縁を直接打撃により片面加工を施し鈍角な刃部を作出. H. Na 376
118	石器 石核	A. 長さ 2.3, 幅 1.1, 厚さ 0.9, 重さ 2.63. G. 黒曜石. 風化面をもつ小型柱状の残核. 両設打面. H. Na S10
119	石器 磨石類	A. 残長 8.7, 残幅 8.6, 残厚 3.9, 重さ 371.3. G. 砂岩. 自然礫の表・裏面や周縁の一部に顕著な磨耗痕. 表・裏面の上部や側縁に敲打による凹欠. 磨一敲. 下半部欠損. H. Na S51
120	石器 磨石	A. 長さ 8.65, 幅 7.1, 厚さ 5.9, 重さ 571.3. G. 安山岩. 柱状の自然礫に磨耗痕. 特に表面・左側部は磨耗により平滑. 上・下端部に敲打痕. H. Cベルト
121	石器 砥石	A. 残長 5.9, 残幅 6.7, 残厚 1.3, 重さ 56.39. G. 砂岩. 扁平礫の表・裏面や周縁の一部に顕著な磨耗痕. H. IV区上層

施す胴部片である。91・92は燃糸紋のみの胴部片で、内面はナデによる調整を行う。燃糸はRの原体を使用し、92の糸は非常に細かい。93-94は縄紋のみの底部片で、尖底を呈する。いずれも単節縄紋(LR)を施す。

95～101は前期中葉の一群である。そのうち95～97は関山Ⅱ式に比定される。95・96は口縁部片で、組紐縄紋上に条線によるコンパス文を配し、95には片口が付く。97は彎曲する胴部片で、閉端環付の羽状縄紋(RL・LR)上に半載竹管状工具によるコンパス文を組み合わせる。98は黒浜式に比定される。半載竹管状工具の内皮痕が残る平行沈線で横位に区画し、同様の沈線を斜位に充填する。99～101は縄紋のみの胴部片である。早期末葉～前期初葉のものと区別し難いものもあるが、当該期では器厚が薄く、内面を丁寧に調整する傾向がある。縄紋には単節・無節・異節・附加条縄紋等が組成する。99は前々段多条の縄による羽状縄紋(RL・LR)、100は無節縄紋(L)、101は付加条縄紋である。

前期後半(102～108): 102～107は前期後葉の土器群で、100点が検出されている。諸磯a式・諸磯b式・諸磯c式が認められ、諸磯a式が多い(92%)。胎土は緊密で、片岩を含むものが認められる。102～104は諸磯a式である。節が細かく明瞭な縄紋地紋を特徴とし、内面が丁寧に磨かれるものが多い。単節縄紋がほとんどを占め、無節・複節縄紋も少量伴う。102・103は口縁部片で、前者には平行沈線による米字文を配置する。103は非常に堅緻で、器壁が薄い。104は底部片で、底面に木葉痕が残る。105は諸磯b式で、擦れた縄紋上に半載竹管状工具による沈線が巡る。106・107は諸磯c式の口縁部・底部片である。106には棒状貼付紋・半載竹管状工具による沈線、107には羽状の集合沈線を配す。108は前期末葉十三菩提式で、当該期の土器群は3点しか検出されていない。胎土中に片岩を含む。櫛歯状工具による条線を施し、その空白部に印刻紋を配置する。

中期中葉(109・110): 勝坂Ⅲ式が9点のみ検出された。胎土中に多量の片岩を含む。109は単沈線や印刻により渦巻文・三叉文等を施す。110は羽状の刻目を有する隆帯で頸部を区画し、口縁部に単沈線を伴う隆帯、体部に燃糸紋(L)を配置する。

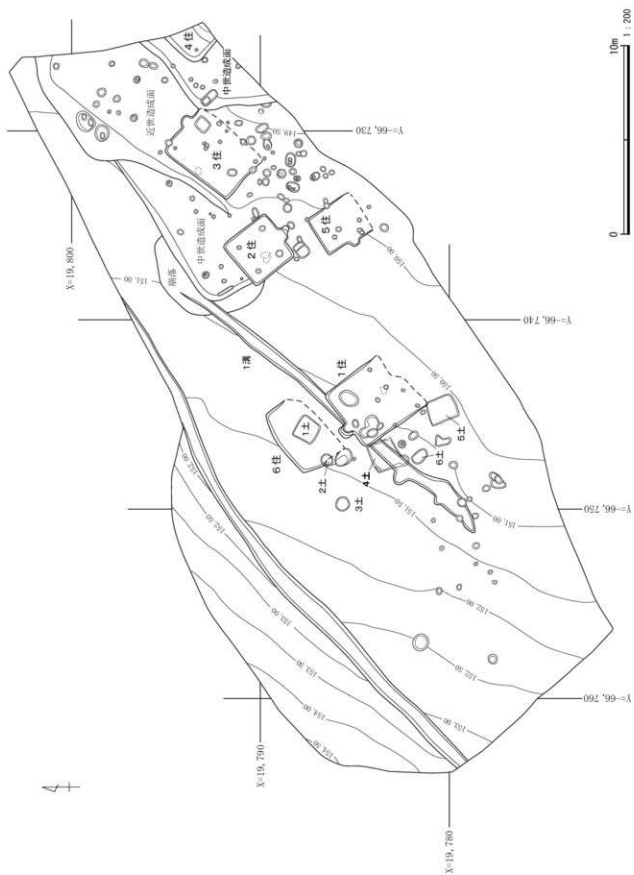


图 246 堂ノ入西遺跡全体図

第19節 堂ノ入西遺跡

1 遺跡の概要 (図246/写真図版61)

堂ノ入西遺跡は「女堀川」支流左岸の丘陵上にあり、この丘陵が小規模な沢によって浸食された開析谷の北西斜面に立地している。標高は149.5～154.5mで、調査区内は北西から南東へ傾斜する。

検出された遺構は、竪穴住居跡6軒、溝1条、土坑6基である。竪穴住居跡は奈良・平安時代に帰属する。溝は中世に比定され、等高線に沿って走行している。

2 検出された遺構と遺物

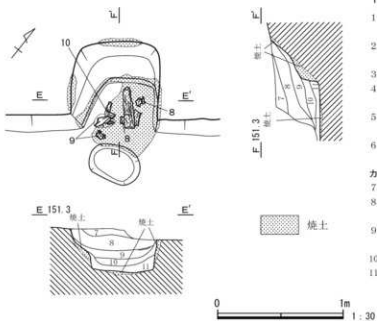
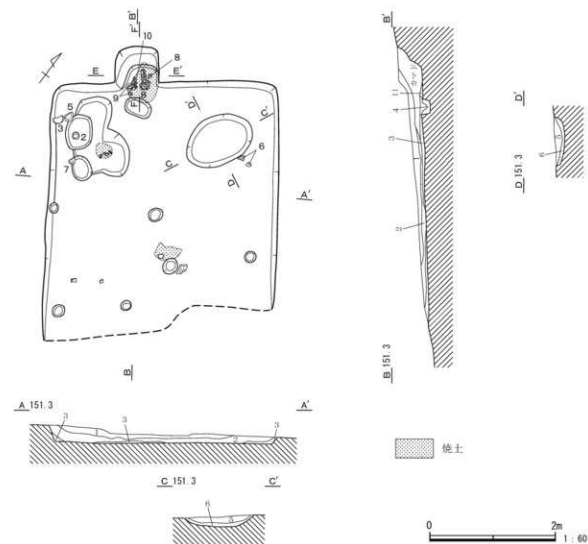
(1) 竪穴住居跡

1号住居跡 (図247・248、表71/写真図版61～63・100)

位置：調査区中央に位置する。**重複**：1号溝と重複し、本住居跡が古い。**形状・規模**：土砂流出のため平面形は確定できないが、縦長長方形を呈すと思われる。規模は、確認された範囲では北東-南西軸3.60mを測る。**主軸方位**：N-39°-W。**床面**：確認面からの深さは35cmを測る。床面はやや凹凸が見られる。北東部に床下土坑が検出された。平面形は楕円形を呈し、長径112cm、短径76cm、深さ16cmを測る。覆土は上層に多量の焼土ブロックを含む。**貯蔵穴**：なし。**柱穴**：なし。**カマド**：北壁西寄りに設置される。燃焼部は幅55cm、奥行き65cmを測り、壁外に造り出される。火床面、壁面とも被熱により赤色化している。カマド手前にはピットが検出された。平面形は楕円形を呈し、長径42cm、短径28cm、深さ17cmを測る。**遺物**：カマド内から土師器甕や片岩礫、住居北西部から須恵器坏・高台付埴等が多量に出土した。**時期**：9世紀後半。

2号住居跡 (図249・250、表72/写真図版63・100)

位置：調査区中央東寄りに位置する。**重複**：北側が中世の造成によって削られているが、残存壁高は40cmあり、ほとんど影響は及んでいない。**形状・規模**：平面形はほぼ正方形を呈する。規模は長軸2.76m、短軸2.68mを測る。**主軸方位**：N-142°-E。**床面**：確認面からの深さは50cmを測る。床面はやや凹凸が見られる。住居の中央西寄りおよび南西壁際に焼土や炭化物がまとまって検出されたが、床面から数cm上位であり流れ込みの可能性が高い。**柱穴**：対角線上に4基の主柱穴を検出した。平面形は円形を呈する。P1は長径30cm、短径28cm、深さ43cm、P2は長径36cm、短径35cm、深さ27cm、P3は長径28cm、短径26cm、深さ20cm、P4は径24cm、深さ30cmを測る。**貯蔵穴**：なし。**柱穴**：なし。**カマド**：南壁中央に設置される。燃焼部は幅65cm、奥行き48cmを測り、壁外に造り出される。火床面と考えられる焼土面は住居内側に広がっており、壁内に袖部が造り付けられる構造と思われる。**遺物**：カマド手前に床直で土師器坏が、他に覆土中からも土師器坏が少量出土した。**時期**：8世紀後半。



1号住居跡 土層説明

- 1 暗褐色土：しまりあり、粘性強い。小礫を少量、炭化物粒を微量含む。
- 2 暗褐色土：しまりあり、粘性強い。焼土粒を少量、小礫・炭化物粒を微量含む。
- 3 黒褐色土：しまりあり、粘性強い。焼土粒を微量含む。
- 4 黒褐色土：しまりあり、粘性強い。ローム粒・焼土粒を微量に含む。
- 5 暗赤褐色土：しまりあり、粘性強い。焼土ブロックを多量、炭化物粒を微量含む。
- 6 暗褐色土：しまりあり、粘性強い。炭化物粒・焼土粒を微量含む。

カマド

- 7 暗灰色土：しまりあり、粘性強い。小礫を少量含む。
- 8 暗灰褐色土：しまりあり、粘性強い。焼土ブロックを微量含む。
- 9 暗灰色土：しまりあり、粘性強い。白色粒を少量、焼土粒を微量含む。
- 10 暗赤褐色土：しまりあり、粘性強い。焼土粒を少量含む。
- 11 暗灰色土：しまりあり、粘性強い。焼土ブロックを少量含む。

図 247 1号住居跡

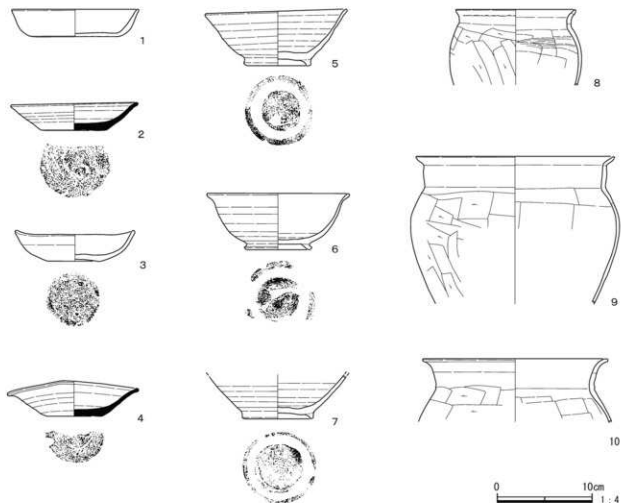
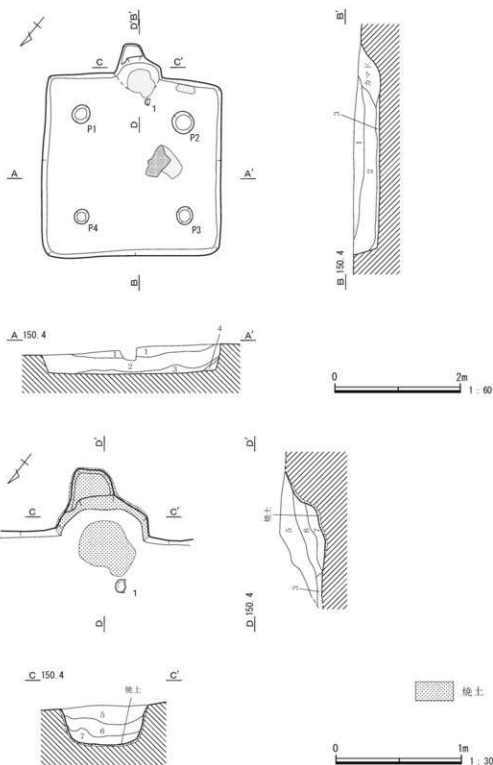


図 248 1号住居跡出土遺物

表 71 1号住居跡出土遺物観察表

1	土師器 坏	A. 口縁部径 (13.2)、器高 2.9、底部径 (9.5)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面器面荒れ調整不明瞭。底部外面匏ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒、角閃石。E. 内外一橙色。F. 1/8。H. 覆土中。
2	須恵器 坏	A. 口縁部径 13.2、器高 3.0、底部径 7.0。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部右回転系切り。D. 白色粒、礫。E. 外一灰色、内一褐色。F. 3/4。G. 還元焼成。H. 覆土中。
3	須恵器 坏	A. 口縁部径 (12.4)、器高 3.3、底部径 5.6。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部右回転系切り。D. 白色粒、礫。E. 外一黄灰色、一灰黄褐色。F. 口縁部 3/4 欠損。G. 焼成時の歪みが顕著。酸化焼成。H. 覆土中。
4	須恵器 坏	A. 口縁部径 13.8、器高 3.8、底部径 5.8。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部右回転系切り。D. 白色粒、礫。E. 内外一黄灰色。F. 2/3。G. 焼成時の歪みが顕著。還元焼成。H. 覆土中。
5	須恵器 高台付埴	A. 口縁部径 14.8、器高 6.0、底部径 6.1。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部回転系切り。D. 白色粒、褐色粒、雲母。E. 内外一にぶい黄褐色。F. 3/5。G. 酸化焼成。H. 覆土中。
6	須恵器 高台付埴	A. 口縁部径 (14.8)、器高 6.0、底部径 6.7。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部右回転系切り。D. 白色粒、褐色粒、片岩。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 1/2。G. 酸化焼成。H. 覆土中。
7	須恵器 高台付埴	A. 底部径 6.8。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部右回転系切り。D. 白色粒、雲母。E. 内外一にぶい黄褐色。F. 体部～高台部 2/5。G. 酸化焼成。H. 覆土中。
8	土師器 小形甕	A. 口縁部径 12.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面匏ケズリ、内面匏ナデ。D. 白色粒、角閃石。E. 外一にぶい黄褐色、内一にぶい褐色。F. 口縁部～胴部中位 1/2。H. カマド内、覆土中。
9	土師器 甕	A. 口縁部径 (20.8)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面匏ケズリ、内面匏ナデ。D. 白色粒、角閃石。E. 内外一橙色。F. 口縁部～胴部中位 1/5。H. カマド内、覆土中。
10	土師器 甕	A. 口縁部径 (19.3)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面匏ケズリ、内面匏ナデ。D. 白色粒、片岩。E. 内外一灰褐色。F. 口縁部～胴部上位 1/4。H. カマド内。



2号住居跡 土層説明

- 1 黒褐色土：しまりあり、粘性強い。小礫を均一に、焼土粒・炭化物粒を微量含む。
- 2 暗褐色土：しまりあり、粘性強い。小礫・炭化物粒を微量含む。
- 3 暗褐色土：しまりあり、粘性強い。炭化物粒を少量、焼土粒を微量含む。
- 4 黒褐色土：しまりあり、粘性強い。ローム粒・白色粒を微量含む。

カマド

- 5 暗褐色土：しまりあり、粘性強い。白色粒・焼土粒を微量含む。
- 6 暗灰褐色土：しまりあり、粘性強い。焼土粒を少量含む。
- 7 暗赤褐色土：しまりあり、粘性強い。焼土ブロックを多量、焼土粒を少量含む。

図 249 2号住居跡

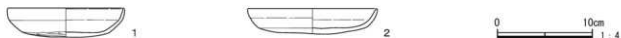


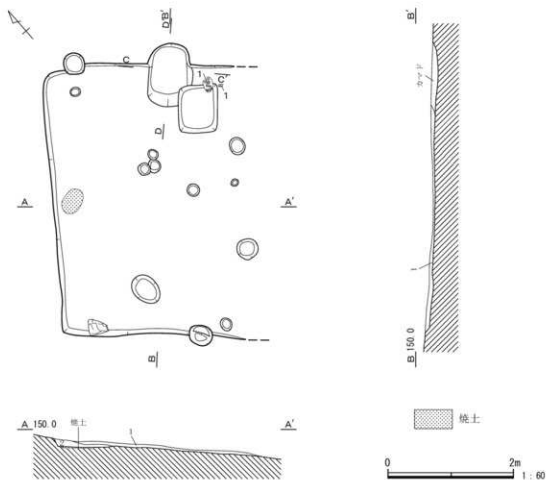
図 250 2号住居跡出土遺物

表 72 2号住居跡出土遺物観察表

1	土師器 坏	A. 口縁部径 12.2、器高 2.6、底部径 9.2。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面ヨコナデ。底部外面匏ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒、角閃石。E. 内外一にぶい橙色。F. 4/5。H. 床面直上、覆土中。
2	土師器 坏	A. 口縁部径 (13.6)、器高 2.7、底部径 (11.3)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面ヨコナデ。底部外面匏ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒、角閃石。E. 内外一にぶい橙色。F. 2/5。H. 覆土中。

3号住居跡 (図 251 ~ 253、表 73 / 写真図版 64・100)

位置: 調査区東側に位置する。**重複:** 北側に近世の造成による段差があり、この造成で本住居跡は大きく削平されたと思われる。南東部も同様にやや削られたと考えられる。**形状・規模:** 削平のため平面形は確定できない。規模は、確認された範囲では北東-南西軸 4.30 m を測る。**主軸方位:** N-42°-E。



3号住居跡 土層説明

- 1 暗褐色土: しまりあり、粘性強い。小礫を多量、焼土粒・炭化物粒を微量含む。
- 2 暗灰褐色土: しまりあり、粘性強い。小礫・焼土粒を微量含む。

図 251 3号住居跡

床面：確認面からの深さは10 cmを測る。床面はやや凹凸が見られる。カマド手前右側に床下土坑を検出した。平面形は長方形を呈し、長径78 cm、短径62 cm、深さ10 cmを測る。覆土には焼土粒を均一に含む。**貯蔵穴**：なし。**柱穴**：なし。**カマド**：東壁に設置される。燃焼部は幅65 cm、奥行き32 cmを測り、壁外に造り出される。火床面と考えられる焼土面は住居内側に広がっており、壁内に袖部が造り付けられる構造と思われる。また、北壁中央の壁際に焼土面が確認されており、カマドの構造は検出されていないが古いカマドが存在した可能性が考えられる。**遺物**：カマド右側の東壁際から土師器環が出土した。**時期**：8世紀末～9世紀前半。

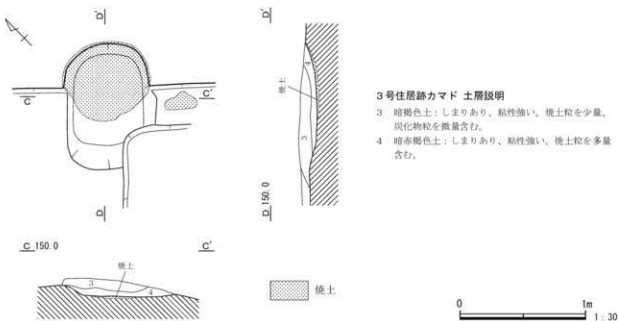


図 252 3号住居跡カマド



図 253 3号住居跡出土遺物

表 73 3号住居跡出土遺物観察表

1	土師器環	A. 口縁部径(12.8)。器高2.7、底部径11.1。B. 粘土粗積み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデ。体部外面器面荒れ調整不明瞭。底部外面逸ケズリ。内面器面荒れ調整不明瞭。D. 白色粒、褐色粒、角閃石。E. 外一橙色、内一明赤褐色。F. 2/5。H. 床面直上。
2	須恵器蓋	A. 口縁部径(17.6)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外一灰色、内一黄灰色。F. 口縁部1/10。G. 還元塩焼成。H. 覆土中。

4号住居跡(図 254・255、表 74 /写真図版 65)

位置：調査区東側に位置する。**重複**：北側に中世の造成による段差があり、この造成で本住居跡の上層は削平されている。**形状・規模**：大半が調査区域外のため、平面形・規模ともに不明である。**主軸方位**：不明。**床面**：確認面からの深さは40 cmを測る。床面は比較的平坦で整っているが、南端部が

攪乱によって壊されている。貯蔵穴：なし。柱穴：なし。カマド：確認できない。遺物：覆土中から土師器甕、須恵器壺等の破片が少量出土した。時期：出土した遺物は9世紀後半の様相であるが、1号住居跡の遺物と接合するものもあり、この住居跡の時期を示すかは不明である。

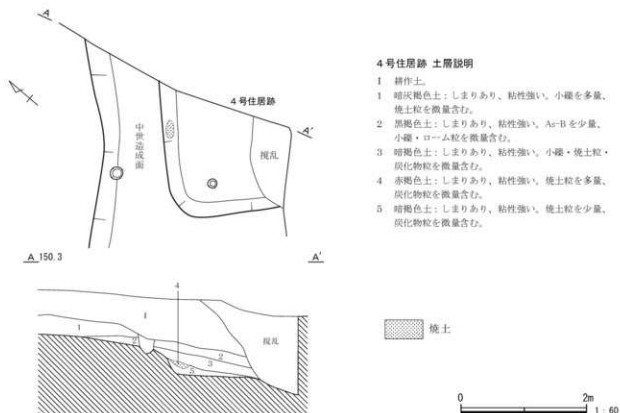


図 254 4号住居跡



図 255 4号住居跡 出土遺物

表 74 4号住居跡出土遺物観察表

1	須恵器 高台付壺	A. 底部径(7.2)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部回転系切り。D. 白色粒、褐色粒。E. 外一にぶい橙色、内一にぶい褐色。F. 体部下位～高台部1/5。G. 酸化塩焼成。H. 覆土中。
2	土師器 甕	A. 口縁部径(19.8)。B. 粘土組織み上浮。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面匏ケズリ、内面匏ナゲ。D. 白色粒、褐色粒、角閃石。E. 外一橙色、内一明赤褐色。F. 口縁部～胴部上位1/10。H. 覆土中。

5号住居跡(図 256・257、表 75 /写真図版 65・66・100)

位置：調査区中央東寄りに位置する。形状・規模：土砂流出のため平面形は確定できない。規模は、確認された範囲では東西軸2.35mを測る。主軸方位：N-122°-W。床面：確認面からの深さは40cmを測る。床面は比較的平坦で整っている。貯蔵穴：なし。柱穴：なし。カマド：西壁南寄りに設置

される。燃焼部は幅 40 cm、奥行き 35 cm で壁外に造り出される。カマド左袖には片岩が設置された状態で検出された。右袖、焚口に使用された片岩は倒れた状態で出土した。遺物：土師器台付甕の破片が、カマド内およびカマド手前右側で出土した。時期：9 世紀中頃。

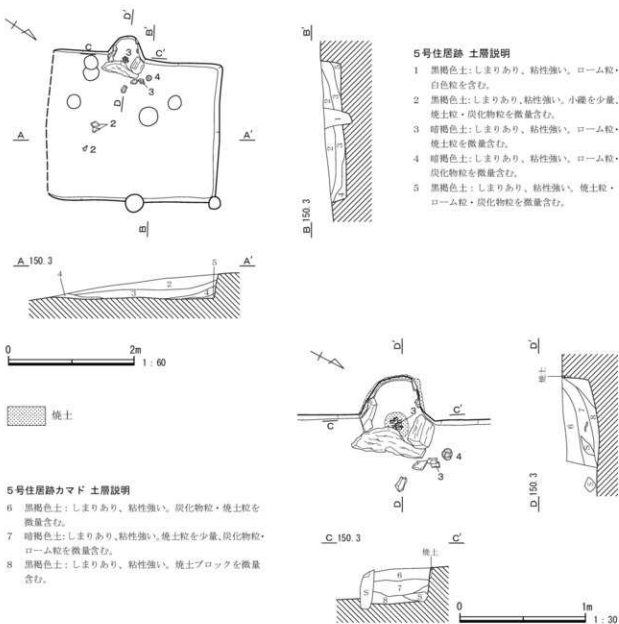


図 256 5号住居跡

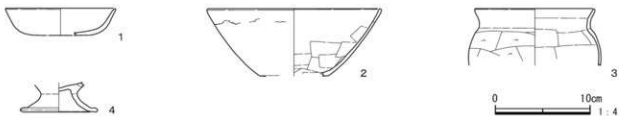


図 257 5号住居跡出土遺物

表 75 5号住居跡出土遺物観察表

1	土師器 坏	A. 口縁部径 (11.5)、器高 2.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 器面荒れ調整不明瞭。D. 褐色粒、礫。E. 内外一橙色。F. 1/4。H. 覆土中。
2	土師器 鉢	A. 口縁部径 (18.2)、底部径 (7.2)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面籠ナデ。底部外面籠ケズリ。D. 白色粒、褐色粒、角閃石。E. 外一にぶい褐色、内一にぶい赤褐色。F. 1/3。H. 覆土中。
3	土師器 小形 台付甕	A. 口縁部径 (12.5)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面籠ケズリ、内面籠ナデ。D. 白色粒、角閃石。E. 外一にぶい赤褐色、内一明赤褐色。F. 口縁部～胴部上位 1/3。H. 覆土中。
4	土師器 小形 台付甕	A. 台部径 (7.8)。B. 粘土紐積み上げ。C. 底部内面籠ナデ。台部内外面ヨコナデ。D. 白色粒、褐色粒、角閃石。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 底部～台部 4/5。H. カマド床面直上。

6号住居跡 (図 258・259、表 76 / 写真図版 66・100)

位置: 調査区中央に位置する。**重複:** 1号住居跡と重複する可能性が高いが、土砂流出のため確認できない。**形状・規模:** 土砂流出のため平面形は確定できない。規模は、確認された範囲では北西-南東軸 4.60 mを測る。**主軸方位:** 不明。**床面:** 確認面からの深さは 10 cmを測る。床面はやや凹凸が見られる。**貯蔵穴:** なし。**柱穴:** なし。**カマド:** 確認した範囲では確認していない。**遺物:** 覆土中から土師器甕の破片が出土した。**時期:** 9世紀後半。

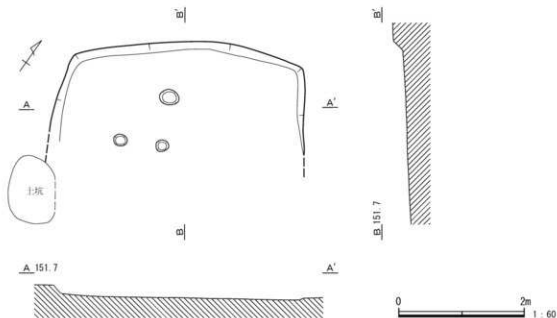


図 258 6号住居跡



図 259 6号住居跡出土遺物

表 76 6号住居跡出土遺物観察表

1	土師器 甕	A. 口縁部径 (19.3)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面籠ケズリ、内面籠ナデ。D. 白色粒、褐色粒、角閃石。E. 内外一橙色。F. 口縁部～胴部上位 1/6。H. 覆土中。
---	----------	--

(2) 土坑

1号土坑 (図260)

位置：調査区中央に位置する。重複：6号住居跡と重複し、本土坑が新しい。形状・規模：平面形は不整形な方形を呈し、規模は一辺1.15～1.25m、深さ8cmを測る。覆土：泥岩細片・片岩細片を含む黒褐色土を主体としている。遺物：出土しなかった。時期：不明。

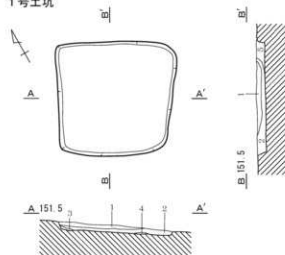
2号土坑 (図260)

位置：調査区中央に位置する。重複：6号住居跡と重複し、本土坑が新しい。形状・規模：平面形は円形を呈する。長径0.65m、短径0.64m、深さ18cmを測る。覆土：泥岩細片・砂粒を含む黒褐色土を主体としている。遺物：出土しなかった。時期：不明。

3号土坑 (図260)

位置：調査区中央に位置する。形状・規模：平面形は円形を呈する。長径0.75m、短径0.73m、深さ15cmを測る。覆土：泥岩細片を含む暗褐色土を主体としている。遺物：出土しなかった。時期：不明。

1号土坑



1号土坑 土層説明

- 1 黒褐色土：しまりあり、粘性あり。砂粒・泥岩片を少量含む。
- 2 黒褐色土：しまり弱い、粘性あり。泥岩片を少量、砂粒・炭化物粒を微量含む。
- 3 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。砂粒を少量、片岩片・泥岩片を微量含む。
- 4 褐色土：しまり強い、粘性強い。砂粒を微量に含む。
- 5 暗褐色土：しまりあり、粘性弱い。砂粒を含む。

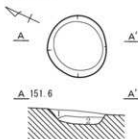
2号土坑 土層説明

- 1 黒褐色土：しまり弱い、粘性あり。泥岩片を少量、砂粒・泥岩片を微量含む。
- 2 褐色土：しまりあり、粘性あり。砂粒を少量、泥岩片・泥岩片を微量含む。

3号土坑 土層説明

- 1 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。泥岩片を少量、砂粒を微量含む。

2号土坑



3号土坑

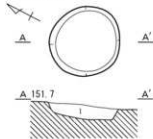


図260 1～3号土坑

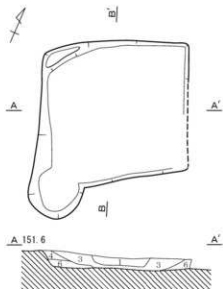
4号土坑 (図 261)

位置：調査区中央に位置する。**重複**：1号住居跡・1号溝と重複し、1号住居跡より新しく、1号溝より古い。**形状・規模**：平面形は不整形な方形を呈する。長径1.55 m、短径1.45 m、深さ16 cmを測る。**覆土**：泥岩細片・片岩細片・炭化物粒等を含む黒褐色土を主体としている。**遺物**：出土しなかった。**時期**：不明。

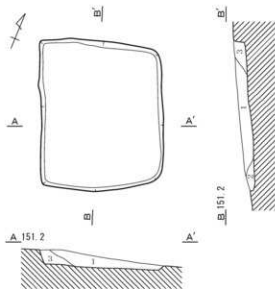
5号土坑 (図 261)

位置：調査区中央南寄りに位置する。**形状・規模**：平面形は不整形な長方形を呈する。長径1.60 m、短径1.30 m、深さ15 cmを測る。**覆土**：泥岩細片・片岩細片・炭化物粒・焼土粒等を含む暗褐色土を主体としている。**遺物**：出土しなかった。**時期**：不明。

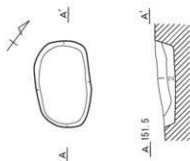
4号土坑



5号土坑



6号土坑



4号土坑 土層説明

- 1 暗褐色土：しまりない、粘性ない。泥岩片を微量含む。
- 2 黒褐色土：しまりあり、粘性あり。泥岩片・炭化物粒を微量含む。
- 3 黒褐色土：しまり強い、粘性あり。片岩片・泥岩片を少量、炭化物粒を微量含む。
- 4 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。泥岩片を少量、泥岩の大礫を微量含む。
- 5 褐色土：しまりあり、粘性あり。片岩片・泥岩片・炭化物粒を微量含む。
- 6 褐色土：しまりあり、粘性あり。3層に順ずる。焼土粒を微量含む。

5号土坑 土層説明

- 1 暗褐色土：しまり強い、粘性あり。泥岩片を少量含む。
- 2 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。泥岩片・片岩片・炭化物粒を少量含む。
- 3 黒褐色土：しまりあり、粘性あり。泥岩片・炭化物粒・焼土粒を少量含む。

6号土坑 土層説明

- 1 黒褐色土：しまりあり、粘性あり。泥岩片・片岩片・炭化物粒を少量含む。
- 2 明褐色土：泥岩片を少量、黄色粘質土ブロックを含む。



図 261 4～6号土坑

6号土坑 (図261)

位置: 調査区中央南寄りに位置する。**形状・規模:** 平面形は楕円形を呈する。長径0.92 m、短径0.58 m、深さ20 cmを測る。**覆土:** 泥岩細片・片岩細片・炭化物粒等を含む明褐色土を主体としている。**遺物:** 出土しなかった。**時期:** 不明。

(3) 溝

1号溝 (図246・262、表77)

位置: 調査区中央に位置する。**重複:** 1号住居跡・4号土坑と重複し、本溝が新しい。**形状・規模:** 北東-南西方向へ直行し、底面は北東側がやや低い。断面形は浅い逆台形状を呈する。確認された範囲では長さ20 m、幅0.5~1.0 m、深さ8~20 cmを測る。北東側は中世造成面の上まで伸びているが、近世段階での崩落によって不明となっている。**覆土:** 小礫を含む黒褐色土を主体としている。**遺物:** 常滑甕の胴部破片、片口鉢の破片等が少量出土した。**時期:** 中世。



図262 1号溝 出土遺物

表77 1号溝出土遺物観察表

1	中世土器 鉢	A. 口縁部径(34.5)。B. ロクロ成形。C. 器面荒れ調整不明瞭。D. 白色粒、角閃石。E. 内外-黄灰色。 F. 口縁部破片。H. 覆土中。
---	-----------	---

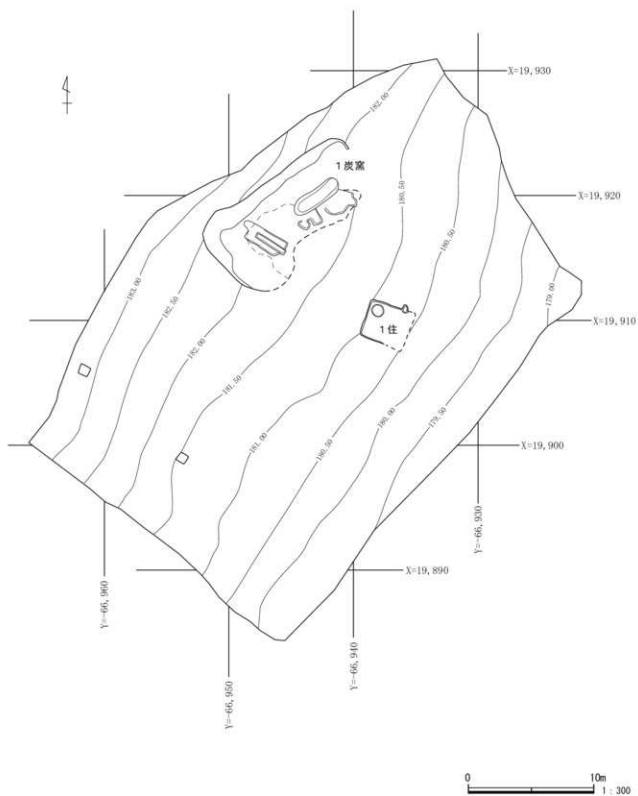


图 263 日向遺跡全体図

第20節 日向遺跡

1 遺跡の概要 (図263/写真図版67)

日向遺跡は、「女堀川」右岸の丘陵上にあり、この丘陵が小規模な沢によって浸食された開析谷の南西斜面に立地している。標高は179～183mで、調査区内は西から東へ傾斜する。

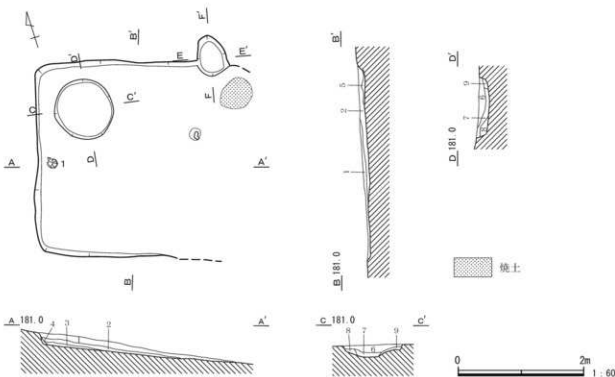
検出された遺構は、竪穴住居跡1軒、炭窯1基である。竪穴住居跡は奈良時代に帰属し、斜面中腹に単独で設営されている。炭窯は竪穴住居跡の上方に位置するが、時期が特定できないため、竪穴住居跡との関係は不明である。炭窯からは鉄釘が出土している。

2 検出された遺構と遺物

(1) 竪穴住居跡

1号住居跡 (図264・265、表78/写真図版67・100)

位置：調査区中央東寄りに位置する。形状・規模：土砂流出のため平面形は確定できないが、横長長方形を呈すと思われる。規模は、確認された範囲では南北軸3.10mを測る。主軸方位：N-18°-E。



1号住居跡 土層説明

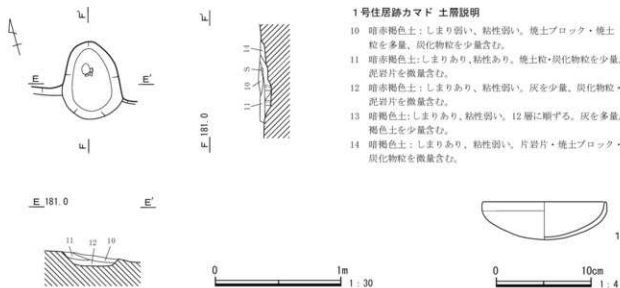
- 1 暗褐色土：しまり強い、粘性あり。泥岩片を少量砂粒を微量含む。
- 2 明褐色土：しまり強い、粘性あり。泥岩片を多量、焼土粒・炭化物粒を微量含む。
- 3 褐色土：しまり強い、粘性強い。泥岩片を多量、炭化物粒を微量含む。
- 4 暗褐色土：しまりやや弱い、粘性弱い。泥岩片を微量含む。
- 5 暗褐色土：しまり強い、粘性あり。泥岩片を少量、黒色土を微量含む。

貯蔵穴

- 6 黒褐色土：しまり強い、粘性あり。泥岩片を少量、焼土粒を微量含む。
- 7 黒褐色土：しまり強い、粘性あり。泥岩片を少量、炭化物粒を微量含む。
- 8 褐色土：しまり強い、粘性あり。泥岩片を多量、炭化物粒を微量含む。
- 9 暗褐色土：しまり強い、粘性強い。泥岩片を少量、褐色土を含む。

図264 1号住居跡

床面: 確認面からの深さは18 cmを測る。床面はやや凹凸が見られる。**貯蔵穴**: 北西隅部に設置される。平面形は円形を呈し、長径96 cm、短径94 cm、深さ20 cmを測る。**カマド**: 北壁東寄りに設置される。燃烧部は幅50 cm、奥行き50 cmを測り、壁外に造り出される。掘り方は楕円形を呈する。**遺物**: 西壁際中央の床面より5 cm程上で土師器坏が1点出土した。**時期**: 8世紀後半。



1号住居跡カマド 土層説明

- 10 暗赤褐色土: しまり弱い, 粘性弱い, 焼土ブロック・焼土粒を多量, 炭化物粒を少量含む。
- 11 暗赤褐色土: しまりあり, 粘性あり, 焼土粒・炭化物粒を少量, 泥岩片を微量含む。
- 12 暗赤褐色土: しまりあり, 粘性弱い, 灰を少量, 炭化物粒・泥岩片を微量含む。
- 13 暗褐色土: しまりあり, 粘性弱い, 12層に順ずる, 灰を多量, 褐色土を少量含む。
- 14 暗褐色土: しまりあり, 粘性弱い, 片岩片・焼土ブロック・炭化物粒を微量含む。

図 265 1号住居跡カマドおよび出土遺物

表 78 1号住居跡出土遺物観察表

1	土師器 坏	A. 口縁部径12.9、器高4.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデ。体部～底部外面鋭ケズリ。内面器面荒れ調整不明瞭。D. 白色粒、角閃石。E. 外一橙色、内一にぶい橙色。F. 4/5。H. 覆土中。
---	----------	---

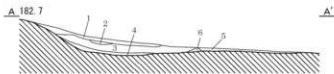
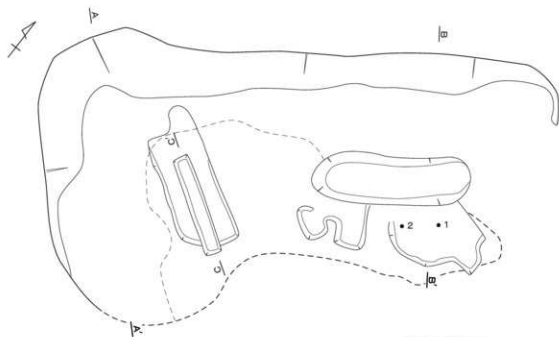
(2) 炭窯

1号炭窯 (図 266、表 79 / 写真図版 100)

位置: 調査区北側に位置する。**形状・規模**: 土砂流出のため平面形は不整形を呈する。規模は、確認された範囲では長軸13.70 m、短軸7.80 m、確認面からの深さ40～90 cmを測る。掘り込みの内側に長方形の掘り込みおよび長楕円形の窪みが見られ、この部分に焼土ブロックや炭化物粒が集中して堆積している。長方形の掘り込みはN-57°-Wを指し、長軸2.70 m、短軸0.47 m、底面からの深さ20～35 cmを測る。長楕円形の窪みはN-51°-Eを指し、長軸4.20 m、短軸1.38 m、底面からの深さ20 cmを測る。**長軸方位**: N-53°-E。**埋没土**: 焼土ブロック・粒、炭化物粒を含む暗褐色土を主体としている。**遺物**: 南東部から鉄釘が2点出土した。**時期**: 不明。

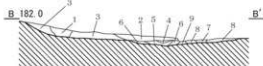
表 79 1号炭窯出土遺物観察表

1	鉄釘	A. 長さ8.3、幅1.1、厚さ0.7、重さ11.26。F. 完形。H. 覆土中。
2	鉄釘	A. 残長4.9、幅0.9、厚さ0.7、残重9.77。F. 先端部欠失。H. 覆土中。



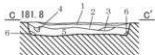
1号炭窯 土層説明B

- 1 暗褐色土：しまり弱い、粘性なし。As-Aを多量、泥岩細片を少量含む。
- 2 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。泥岩片・細片を少量、焼土粒を微量含む。
- 3 暗褐色土：しまり強い、粘性あり。泥岩片・細片を均一に含む。
- 4 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。泥岩細片を多量、焼土粒を少量、炭化物粒を微量含む。
- 5 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。炭化物粒・泥岩細片を少量、焼土粒を微量含む。
- 6 褐色土：しまり強い、粘性あり。泥岩細片を均一に、焼土粒を微量含む。
- 7 棕色土：しまりあり、粘性なし。焼土ブロックの塊、炭化物粒を微量含む。
- 8 褐色土：しまりあり、粘性あり。焼土粒・炭化物粒を均一に、泥岩細片を少量含む。
- 9 暗褐色土：しまり強い、粘性あり。焼土粒・泥岩細片を微量含む。



1号炭窯 土層説明C

- 1 暗褐色土：しまり弱い、粘性なし。焼土ブロック・炭化物粒を均一に含み、灰が混入する。
- 2 棕色土：しまりあり、粘性弱い。焼土ブロック・粒を主体とし、炭化物粒・泥岩片を少量含む。
- 3 棕色土：しまり弱い、粘性なし。2層に類似するが、黒土が混入する。
- 4 暗褐色土：しまり弱い、粘性あり。焼土粒を少量、炭化物粒・泥岩細片を微量含む。
- 5 褐色土：しまり強い、粘性あり。泥岩片・細片を均一に、焼土粒・炭化物粒を微量含む。
- 6 暗褐色土：しまり強い、粘性強い。泥岩細片を均一に含む。



1号炭窯 土層説明A

- 1 暗褐色土：しまりあり、粘性弱い。微細砂粒を均一に、泥岩片・細片を少量含む。
- 2 暗褐色土：しまりあり、粘性なし。微細砂粒を多量、泥岩細片を微量含む。
- 3 黒褐色土：しまり強い、粘性あり。泥岩片・細片を均一に、片岩片を少量含む。
- 4 暗褐色土：しまり強い、粘性あり。泥岩片・片岩片を少量、焼土粒を微量含む。
- 5 暗褐色土：しまりあり、粘性あり。焼土粒・泥岩細片を少量、微細砂粒を微量含む。
- 6 褐色土：しまりあり、粘性弱い。微細砂粒を均一に、焼土粒・泥岩細片を微量含む。

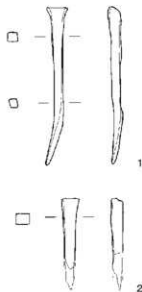


図 266 1号炭窯および出土遺物

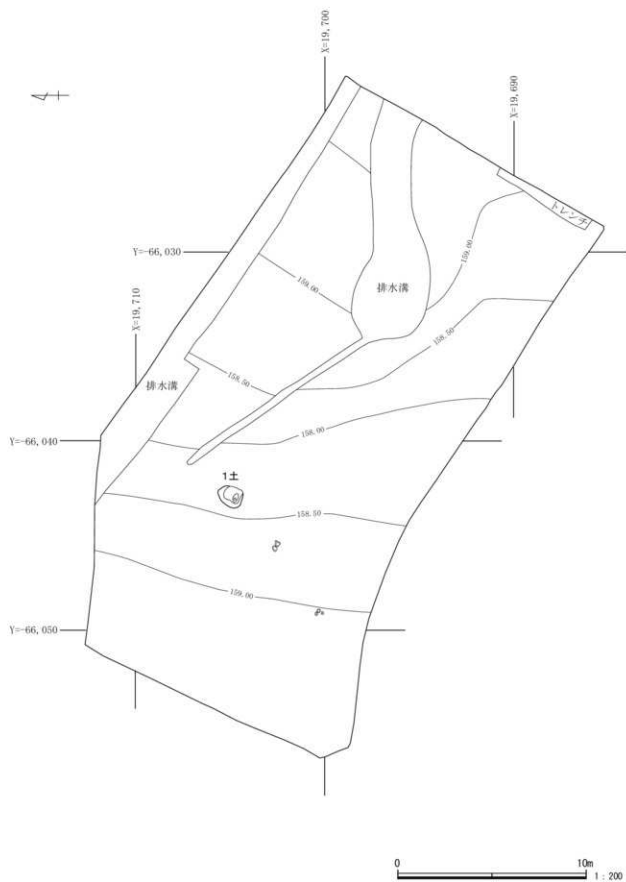


図 267 ハグレヤツ遺跡全体図

第21節 ハグレヤツ遺跡

1 遺跡の概要（図267／写真図版68）

ハグレヤツ遺跡は「女塚川」の支流、御厨川左岸の丘陵斜面に立地している。標高は158～159 mで、調査区内は北西から南東へ傾斜する。

検出された遺構は、土坑1基である。覆土から出土した土師器小破片や骨片から、奈良・平安時代に帰属する石郭土坑墓と考えられる。

2 検出された遺構と遺物

(1) 土坑

1号土坑（図268／写真図版68）

位置：調査区中央北西寄りに位置する。**形状・規模：**平面形は不整形を呈する。規模は、確認された範囲では長径1.33 m、短径1.06 m、深さ14 cmを測る。しかし、土砂流出のため南東部が失われていることは確実である。上端の形態は壁の崩落等によって不整形であるが、下端は方形を指向していると思われ、西北西-東南東方向に長軸を持つ長方形土坑の可能性が考えられる。下端の短径方向は87 cmを測る。**長軸方位：**N-58°-W。**遺物：**土師器坏の体部小破片が1点、骨片がわずかに出土した。**所見：**底面には扁平な礫を敷いた状態が一部に残っており、断面図では西寄りの礫が一段上に位置しているように見えること等から、壁も石積みになっていた可能性が高い。本土坑は、覆土中から骨片が出土していることから石郭土坑墓と考えられる。また、本土坑の南西部に片岩礫の集石が2ヵ所に見られ、これらも本土坑に使用されていた可能性が高い。**時期：**土師器坏の形態からは、8世紀後半から9世紀初頭にかけてのものと思われる。

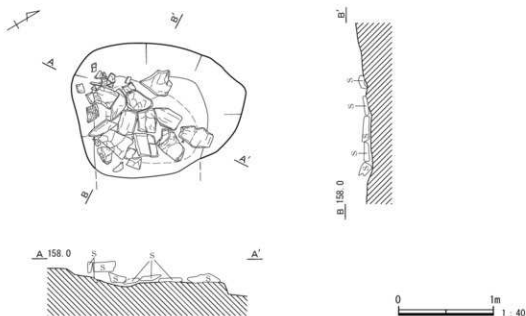


図268 1号土坑

第22節 試掘 (図269、表80/写真図版101)

調査に先駆けて試掘調査が行われた。その際に出土した残存状態の良い遺物について掲載する。

縄紋土器は48点が検出された。小片ばかりで、早期中葉田戸下層式・押型紋系土器、早期後葉、前期前半、前期後葉諸磯b式・諸磯c式、中期中葉勝坂Ⅲ式が認められる。図269の1・2は田戸下層式で、2の胎土中には多量の片岩が含まれる。1は口縁部が肥厚し、そこに斜位の沈線や角棒状工具による刺突列を施す。肥厚部分の下にも横位沈線を加える。2は口唇部に半截竹管状および丸棒状工具による刺突列を加えた環状・棒状の突起を配置する。口縁部には斜位の沈線や凹線を施す。3は前期後葉の浅鉢で、口唇下を穿孔する。

石器は16点が検出された。石鏃・石錐・スクレイパー類・礫器・リタッチドフレイク・磨製石斧・磨石類・剥片が認められる。

古墳時代は坏・甕・壺等の小片が少量出土した。時期は古墳時代前期および後期に比定される。奈良・平安時代は土師器・須恵器の破片が多量に出土した。器種は土師器の坏・甕、須恵器の坏・蓋・高台付碗・甕・羽釜が見られ、特に羽釜の出土量が多い。須恵器の坏・高台付碗は酸化焰焼成のものが主体である。その他、石製模造品、平瓦、炉壁、中世陶磁器等も確認されている。

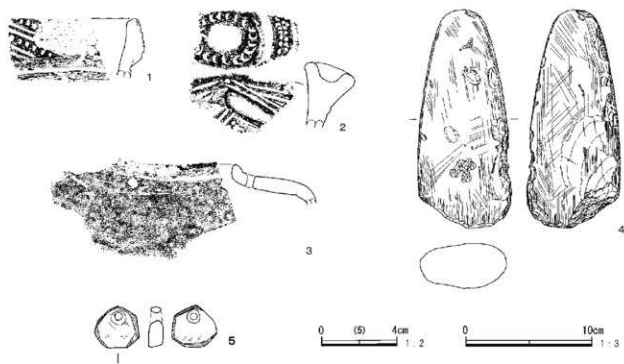


図269 試掘出土遺物

表80 試掘 出土遺物観察表

4	石器 磨製石斧	A. 長さ17.3、幅7.5、厚さ3.6、重さ727.97。G. 緑色岩類。定格式。自然礫を粗削後に剥離→敲打→研磨を施し成形。刃部周辺に磨耗痕や小さな剥離痕。一部に研磨痕より新しい剥離・敲打痕。敲石に転用か。H. 試掘(進入路表採)。
5	石製 模造品	A. 長さ2.2、幅2.3、厚さ0.7、重さ6.66。F. ほぼ完形。G. 円孔あり。直径0.7~0.8。H. 試掘(表採)。

第V章 自然科学分析

山崎上ノ南遺跡出土木製品の樹種同定

圃吉田生物研究所 汐見 真

京都造形技術大学 岡田文男

1. 試料

試料は山崎上ノ南遺跡B地点から出土した木製品5点である。

2. 方法

剃刀で木口（横断面）、柾目（放射断面）、板目（接線断面）の各切片を採取し、プレパラートを作製する。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定する。

3. 結果

樹種同定結果（針葉樹1種、広葉樹1種）の表を示し、以下に各種の主な解剖学的特徴を記す。

◆ヒノキ科ヒノキ属 (*Chamaecyparis* sp.)

木口では仮導管を持ち、早材から晩材への移行が急であった。樹種細胞は晩材部に偏在している。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型で1分野に1～2個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。ヒノキ属はヒノキ、サワラがあり、本州（福島以南）、四国、九州に分布する。

◆バラ科サクラ属 (*Prunus* sp.)

散孔材である。木口ではやや小さい導管（ $\sim 100\mu\text{m}$ ）の大きさはほぼ一定で、単独あるいは放射方向ないし斜方向に連なり分布している。柾目では導管は単穿孔と側壁に交互壁孔および螺旋肥厚を有する。導管内には着色物質が見られる。放射組織は同性ないし異性で中央部の平伏細胞と上下縁辺の方形細胞からなる。板目では放射組織は1～4細胞列、高さ $\sim 1\text{mm}$ からなる。サクラ属はサクラ、ウメ、ヤマナシ等があり、本州、四国、九州、琉球に分布する。

表 81 山崎上ノ南遺跡出土木製品樹種同定表

No	品名	樹種
129	木簡	ヒノキ科ヒノキ属
136	火鑽白 (No.26)	ヒノキ科ヒノキ属
137	火鑽白 (No.32)	ヒノキ科ヒノキ属

No	品名	樹種
139	刀子柄 (No.31)	バラ科サクラ属
140	火鑽杵 (61-36)	ヒノキ科ヒノキ属

なお、以上の5点については、高級アルコール含浸処理法による保存処理を実施した。

参考文献

- 島地 謙・伊藤隆夫 1982『図説木材組織』地球社
 島地 謙・伊藤隆夫 1988『日本の遺跡出土木製品総覧』雄山閣出版
 伊藤隆夫 1995～1998『日本産広葉樹材の解剖学的記載 I～IV』京都大学木質科学研究所
 北村四郎・村田 源 1979『原色日本植物図鑑木本編 I・II』保育社

使用顕微鏡

Nikon
 MICROFLEEX LFX-DX Type 115

第VI章 総括

第1節 飯倉南部遺跡群の概要

本遺跡群は兎玉丘陵端部に位置しており、「女堀川」やその支流に沿った飯倉支谷・山崎支谷・宮内支谷における土地利用の推移を眼前にすることができた。特に、山崎支谷東側を中心とした連続的な調査が実現しており、その「谷口」・「谷腹」・「谷頭」の比較が可能となっている。支谷への取り付きに当たる谷口は比較的緩やかな丘陵で、「女堀川」流域の広い低地に接することから両地形が担う用益に接続しやすい。谷腹は急峻な斜面で、多数の小支谷が形成されている。支谷の最奥部である谷頭は傾斜面が続き山地に接続する。谷腹と同様に険しい小支谷を有するが、ややなだらかな斜面地も認められる。谷腹・谷頭は近似した環境にあり、特定の用益に供されていた状況が予想される。加えて、谷頭は後背する高位丘陵ないし山地の利用を念頭に置く必要がある。

調査は、試掘による存否確認を経て、14遺跡26カ所で実施された。谷口には「女堀川」支流右岸丘陵の神明前遺跡・明神ノ上東遺跡と低丘陵の上松遺跡、谷腹には小支谷に臨む丘陵斜面の明神ノ上西遺跡・細木谷北遺跡・細木谷南遺跡・山崎上ノ南遺跡・金草窠遺跡や低地の細木谷北遺跡（B地点）・金草窠遺跡（B地点）、谷頭には丘陵斜面の甲竹ノ鼻遺跡・丙竹ノ鼻遺跡・堂ノ入遺跡・堂ノ入西遺跡および低地の甲竹ノ鼻遺跡（B地点）が位置する。また、異なる流系では、「女堀川」左岸の河岸段丘上で手白濁遺跡、同右岸の小支谷斜面で日向遺跡、御厨川左岸の小支谷斜面でハグレヤツ遺跡を調査している。

本章では、これらの成果を総合的に整理し、山崎支谷を中心とした景観の復元とその変遷を通観することで総括したい（第2・3節）。さらに、地域史における本遺跡群の位置づけを捉え返し、民俗事例等を駆使してその把握を試みる（第4節）。（高橋）

第2節 縄紋時代の土地利用について

土地利用の推移を検証するにあたり、その主要な対象となる遺構検出量が縄紋時代では少ない。明確な遺構は神明前遺跡1区の6号住居跡・堂ノ入遺跡A2区の19号住居跡のみである。他に土坑が散見されるものの（明神前遺跡1区・堂ノ入遺跡A地点等）、時期の特定が難しい¹⁾。そこで、当該期の分析では出土土器の検出量も参照することとした。縄紋土器は総計3,250点が検出されており、早期前葉から晩期末葉のものが認められる。そのうち早期後～末葉の条痕紋系土器が最も多く（54%）

表 82 各遺跡における縄紋土器の出土点数表

* 点数は接合前の破片数である。

		手白濁	上松1区	上松2区	神明前	明神ノ上西	細木谷北A	山崎上ノ南B	山崎上ノ南B鼻	丙竹ノ鼻	堂ノ入A1	堂ノ入A2	堂ノ入B	堂ノ入C	試掘	総合計	
早期	前～中葉			1							27	7	19	42	10	106	
	後～末葉			1		3			10		500	12	267	821	3	1617	
前期	前半		19	84	16			25	6		200	80	29	257	5	721	
	後半		14	32	123		31	3	1		92	74		105	5	480	
中期			1	11	3	2		1			4	1			9	5	37
	後晩期			2				12		1							15
不明		4	3	14	37	1	24		2		53	21	28	67	20	274	
合計		4	37	145	179	6	55	41	19	1	876	195	343	1301	48	3250	



図 270 縄文時代における土地利用の変遷 (1)

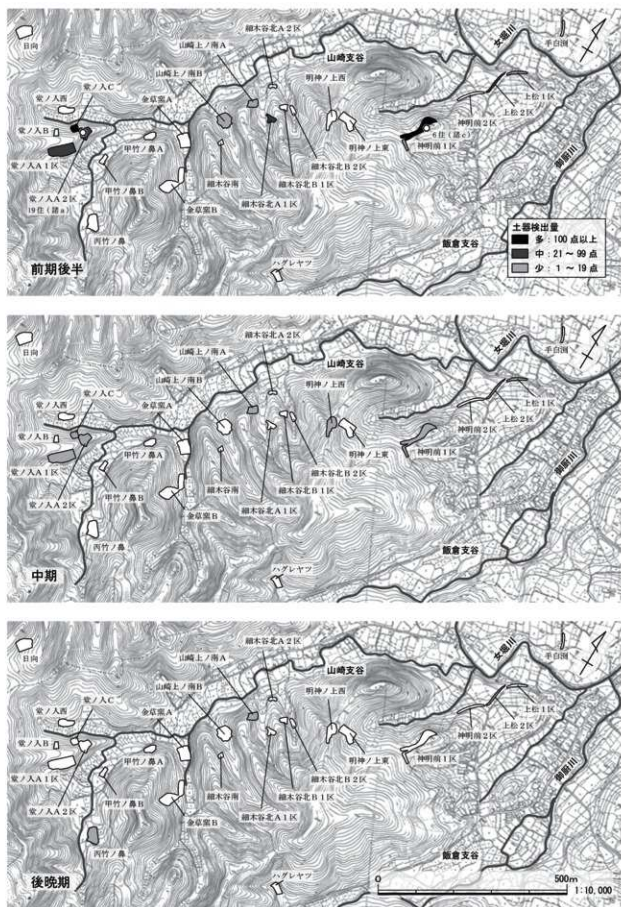


図 271 縄紋時代における土地利用の変遷 (2)

前期前半の羽状縄紋系土器（24%）や前期後半の諸磯式が続く（16%）。一方、早期前～中葉および中～晩期の遺物は極端に少ない（1～4%）。

早期前～中葉では燃系紋系土器・押型紋系土器・田戸下層式・田戸上層式が認められ、田戸下層式が目立って多い。占地は谷頭斜面の堂ノ入遺跡にほぼ集中しており、本支流域の積極的な土地利用は山地を控えた最上流部において開始されたものと予想される。古相の燃系紋系土器・押型紋系土器は数量が少ないもの高所の平坦面に近い地点（堂ノ入遺跡A1区・B区）から検出される傾向にあり、尾根上を中心とした活動を反映している可能性がある。なお、谷口の低丘陵（上松遺跡）でも微量の田戸下層式が検出されており、小規模な活動は支流下流域でも営まれていたようである。谷底での痕跡が確認されていないことから、谷口から谷頭への河川に沿った導線が連想されよう。

早期後～末葉は検出量が最も多く、児玉丘陵周辺でも卓越する。とくに、鶴ヶ島台式期に活況を呈している。また、数量は少ないものの茅山下層式・茅山上層式・下沼部式が揃っており、反復的な土地利用が窺われる。末葉では堂ノ入遺跡C区において東海系の資料が供出しており、関東地方南部と同様の広域交流は児玉丘陵まで及んでいることが分かる。占地は前時期と同様に谷頭での偏在が著しい。斜面の下位にある堂ノ入遺跡C区の埋没谷に集中しており、斜面地での活動にも比重が置かれたようである。一方、谷口の低丘陵における小規模な分布が前時期から存続することに加えて、谷底での占地も発生する。丘陵縁辺部における用益の増加および谷口から谷頭に至る尾根を通した導線の頻出が予想されよう。

前期前半は初頭の花積下層式、前葉の二ツ木式、中葉の関山Ⅱ式・黒浜式が認められ、花積下層式・関山Ⅱ式が多い。前時期の占地と同様に谷頭への集中が続くものの、谷口や谷底での興隆が特徴的となる。この動向は関山Ⅱ式期に顕著となり、上松遺跡や山崎上ノ南遺跡での盛行に寄与する。児玉郡域では中葉から堅穴住居跡が増加しており、定着的な集落の伸張が指摘されている（鈴木1997c）。また、穏やかな丘陵斜面に占地する傾向が見受けられ、「女堀川」の対岸に位置する宮内上ノ原遺跡（松澤2005b）でも関山Ⅱ式末期から黒浜式期前半の集落跡が調査された²⁾。本遺跡における谷口への進出もその傾向に連動するものと考えられる。なお、谷頭では従前の用益活動も継続する。宮内上ノ原遺跡のような集落から派生する活動が谷口から谷頭にわたって広がっていたものと推測されよう。

前期後半は後葉の諸磯a式・諸磯b式・諸磯c式、末葉の十三菩提式が認められ、諸磯a式・諸磯c式が多い。細木谷北遺跡A地点では興津式が検出されており、東関東地方との交流が窺われる。土地利用の変化として集落の形成が挙げられ、谷頭の堂ノ入遺跡A2区で諸磯a式期、谷口の神明前遺跡1区で諸磯c式期の住居跡が検出されている。近隣の児玉丘陵上でも当該期の住居跡が多数検出されており³⁾、類似した生態系を有する環境への比較的頻繁な反復移動や集落設営の動態が指摘されている（鈴木1997a）。この前期中葉から派生する傾向は、本遺跡群では後葉において繰り広げられていくようである。また、諸磯a式期の土坑が神明前遺跡1区に分布しており、谷口と谷頭で異なる利用方法に分かれていた状況が見取れる。ところで、諸磯c式期になると谷頭における活動痕跡が減少し、谷頭と谷口における土器の検出率も逆転していく。谷頭への用益は継続こそするものの、支谷下流域への志向性が高くなっており、生態的な変化等を踏まえた検証が必要となろう。なお、谷底での活動は継続し、細木谷北A遺跡でやや隆盛する。

中期は前葉の阿玉台Ⅰb式ないしⅡ式、中葉の勝坂Ⅲ式、後葉の加曾利EⅡ式・加曾利EⅢ式が認

められた。前期末葉から生じた傾向が継続し、遺跡全体における活動痕跡が極端に減少する。前葉は谷口、中葉は谷頭に分布に限られ、後葉の加曾利EⅢ式は谷口および谷腹に散在する。加曾利EⅡ式は連弧紋系土器の破片が山崎上ノ南A遺跡で1点検出されたのみである。いずれにせよ、資料が少ないことから有意な傾向は読み取りにくいものの、本遺跡群全体における用益の著しい低下が見て取れよう。本来、児玉郡域における中期の遺跡は隆盛を誇り、中葉から広い平坦面を有する本庄台地に進出して大規模な集落群を形成するようになる。また、丘陵や山地でも前期以来の占地を継承するように小規模な集落が展開する⁴⁾(鈴木1986・2006)。本遺跡の痕跡はこのような集落から派生する活動を投影するもので、その利用は希薄であるか、痕跡が残りにくい方法が採られたようである⁵⁾。

後晩期の痕跡はさらに乏しくなる。谷口低丘陵の上松遺跡で後期前～中葉の注口土器片、谷頭最奥部のやや緩やかな丘陵斜面に位置する丙竹ノ鼻A遺跡で晩期の土器片が出土した程度である。児玉郡域における後晩期の集落は河川流域を領域とした集団の存在が検討されている⁶⁾(鈴木他2007b)。そして、領域内には少量の遺物のみ出土する一時的な露营地の存在が想定されており(鈴木他1997)、本遺跡群の状況もこれに該当するものと推測される。なお、晩期末葉～弥生時代初頭期の資料が谷腹斜面の山崎上ノ南A遺跡で見付かっており、類似した土地利用の継続が看取されよう。

以上の様相を総合すると、縄紋時代の土地利用は、1：早期前半における山地・丘陵の用益を背景とした谷頭を主体とする占地、2：早期後葉～前期初頭の谷頭から谷腹にわたる丘陵縁辺部利用の増加、3：前期中葉に顕著な低地・台地を窺う谷口への進出、4：前期後葉諸磯a式期の集落形成開始、5：前期後葉諸磯c式期における谷口側への偏在、6：中～晩期の僅少な活動痕跡といった変遷を迎えることができた。各遺跡の成果を繋ぎ合わせることで、1遺跡のみでは明確にすることが難しい生活領域の検証が望上に登る。ここでは縄紋時代における異なる地形や環境に対応した土地利用の変化を目の当たりにすることができた。この変化は自然に依存する生態的な戦略や運動する社会的関係等に起因するものと推測されるが、その理解を深めるためには本調査のような小地域に視点を定めた遺跡群としての把握を重ね、他地域との比較検討を加えていくことが課題となる。(高橋)

註

- 1) 神明前遺跡1区6・8・9号土坑、山崎上ノ南遺跡A地点11～13号土坑、堂ノ入遺跡A地点28・31号土坑等が該当する。ただし、神明前遺跡1区8・9号土坑は諸磯a式期に比定され、前者では大型の土器片が出土している。
- 2) 他に、塩谷下大塚遺跡(志河内1990、2001b)・池田遺跡(金子1991)で黒浜式期の住居跡が報告されている。
- 3) 諸磯a式期は宮内上ノ原遺跡、諸磯b式期は天田遺跡(志河内2000)・脊戸谷遺跡(永井他2005)、諸磯c式期は宮内上ノ原遺跡・脊戸谷遺跡・池田遺跡で住居跡が報告されている。
- 4) ただし、先述の宮内上ノ原遺跡では、微高地縁辺上に分布していた前期の住居跡が中期になると中央平坦面に移動しており、集落構造の変質が連想される。
- 5) ただし、上松遺跡の周囲で中期の遺物が表採されることから、谷口の低丘陵上では当該期の活動痕跡が展開している可能性がある。
- 6) 本遺跡群が立地する「女堀川」流域では女池遺跡(志河内2001a・2004)において調査が実施されている。

第3節 古墳時代～古代の土地利用について

古墳時代においては、前期初頭と後期に活動の痕跡が認められる。前期初頭は、神明前遺跡1区で堅穴住居跡が1軒検出された。住居跡から出土した台付甕は折り返し口縁で、口縁～胴部に櫛描波状文が施文されるもので、弥生時代後期～終末期的な特徴を有している。また、同遺跡C地点の谷部か

らは弥生時代終末期の甍が出土しており、神明前遺跡の所在する谷口の丘陵上位部に住居跡等が存在していた可能性が高い。これらのことから、谷口では弥生時代終末期から古墳時代前期にかけて小規模な集落が設置されていたものと推測され、谷水田を臨む弥生時代後期からの伝統的な集落の占地を継承しているものと考えられる。中期の遺構や遺物は確認されず、後期になると上松遺跡1区で2軒の竪穴住居跡が検出される¹⁾。後期における住居の占地は、前期初頭と比してより標高の低い丘陵裾野を選択しており、古墳時代前期以降に開発が進められた「女堀川」流域の低地域を臨む占地と推測される。古墳時代の遺跡は谷口に留まっており、谷腹や谷頭では遺構の検出は認められない。

その後は活動の痕跡が途絶えるが、8世紀後半に入ると、谷腹や谷頭に集落が出現する。谷腹の山崎上ノ南遺跡B地点で2軒、谷頭の堂ノ入遺跡A地点1区で5軒、堂ノ入西遺跡で1軒の住居跡が検出された²⁾。いずれも小支谷の斜面地に小規模な集落が点在する様相が窺える。斜面地のため土砂が流失し住居跡の全容が判明するものは少ないが、概ね長軸3m台の小形住居である。住居跡以外で

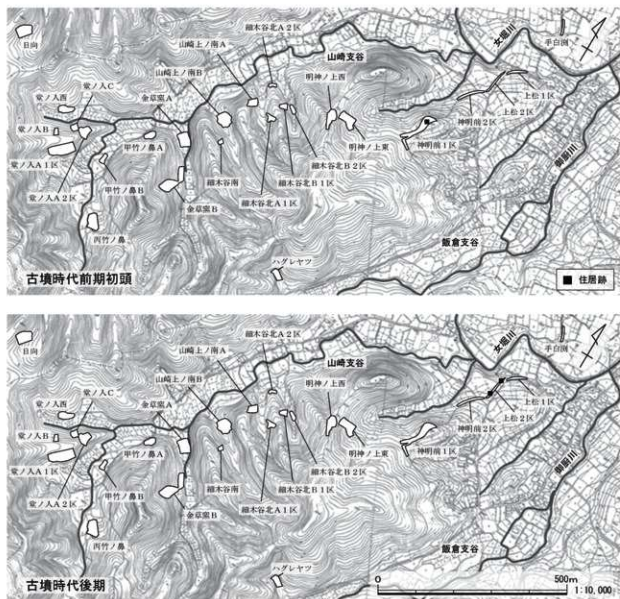


図 272 古墳時代における土地利用の変遷



図 273 奈良・平安時代における土地利用の変遷

は、金草窯遺跡B地点の調査区壁面に須恵器窯の痕跡が認められ、8世紀に比定される須恵器や瓦が少量採取されている³⁾。これは、8世紀中葉頃の複弁八葉蓮華紋軒丸瓦が採集されたことにより存在が推測される金草窯跡(高橋他1982)の縁辺部と想定される。さらに、山崎上ノ南遺跡B地点の埋没谷からは、炉壁・炉滓・埴形鍛冶滓・羽口等の小鍛冶に関連する遺物が多く出土している。

9世紀は、前代に出現した山崎上ノ南遺跡B地点、堂ノ入遺跡A地点1区、堂ノ入西遺跡で継続して集落が営まれる。また、新たに細木谷北遺跡A地点1区、甲竹ノ鼻遺跡A・B地点、丙竹ノ鼻遺跡でも住居跡が検出され⁴⁾、周辺の小支谷へ活動範囲が拡大された様子が窺える。各遺跡の住居軒数は、9世紀前半と後半では各々1～3軒である。住居跡の規模は長軸3m台の小形なものに加え、長軸4～5m台の中形も見られるようになる。製鉄および窯業生産に関連する遺構については、山崎上ノ南遺跡B地点で須恵器窯、堂ノ入遺跡A地点1区で製鉄跡、甲竹ノ鼻遺跡A地点で小鍛冶の可能性が高い住居跡、甲竹ノ鼻遺跡B地点でたたら⁵⁾の可能性のある土坑等が検出されている。

10世紀は、細木谷北遺跡A地点1区、山崎上ノ南遺跡A地点、堂ノ入遺跡A地点1区・2区、丙竹ノ鼻遺跡で住居跡が検出され、占地場所に多少の推移はあるものの、基本的に谷腹や谷頭に設営される状況は前代と同じである。さらに、これに加えて古墳時代に集落が営まれていた谷口の神明前遺跡1区や上松遺跡1区で、再び集落が形成されるようになる⁶⁾。各遺跡の住居軒数は、10世紀前半と後半では各々1～2軒である。規模は長軸3m台の小形のもが主体であり、前代に見られた中形の住居跡は姿を消す。また、製鉄および窯業生産関連の遺構や遺物も引き続き認められており、山崎上ノ南遺跡A地点で炭焼窯が検出され、山崎上ノ南遺跡A地点1・2b号住居跡および拡張区、神明前遺跡2号住居跡では羽口・埴形鍛冶滓・鉄滓等が出土している。なお、堂ノ入遺跡A地点1区では11世紀前半の住居跡が1軒確認されている。

以上、時期ごとに活動の痕跡を辿ったところ、古墳時代は谷口に占地し、奈良時代に入って谷腹や谷頭へ進出する様相が見られた。特に、奈良・平安時代は炭焼窯や製鉄関連遺構、須恵器や瓦生産にかかる窯跡等の存在が目立され、製鉄・製炭および窯業生産に関わる集落が谷腹や谷頭の小支谷に点在する様子が捉えられた。集落の規模は、前述したように一時期に数軒程度の小規模なものであり、住居跡の規模も小さく、その構造も柱穴や壁溝を伴わないものが主体であることから、全体的に簡便に造られていたと考えられる。概観すると、8世紀後半に谷腹・谷頭で活動が確認され、9世紀に活動範囲を拡大し、10世紀を経て11世紀に収縮するといった推移を見て取ることができる。また、谷頭に占地する堂ノ入遺跡A地点は、8世紀後半から11世紀まで集落が継続しており、丘陵内の開発における拠点的な集落のひとつと見做すことができるのではないだろうか。なお、これら生産に関わる集落が形成され始めた時期については、本遺跡群周辺が児玉窯跡群に比定されていることから⁶⁾、7世紀末～8世紀初頭まで遡る可能性も考えられよう。

占地の前提のひとつには燃料確保の問題があり、燃料の採集と搬入の利便性によって位置を移していたと考えられる(鈴木2007a)。9世紀以降に占地の範囲が拡大する様相は、燃料確保のための森林伐採を伴う用益形態を反映しているものと見做される。また、占地の一要因として、谷間の平坦地では沢水を利用する小規模な水稲耕作が可能な点にも着目される。

最後に、試掘調査で出土した須恵器を紹介する。児玉窯跡群比定地内の山崎支谷の斜面地に位置する、7世紀末の須恵器が採集された上ノ北1号窯跡(図2)の付近から出土したものである。

図 274 の 1 は完形の蓋である。その器形から、高台付坏を製作過程の途中で逆さにして蓋としたものと考えられる。宝珠形の柄みを付し、口唇部に平坦面を持つ。高台付坏としての形状から 8 世紀前半と想定される。2 は獣脚付の長須壺と推測される。三脚で、脚はやや粗く撫でつけられており、底には孔が穿たれる。外面調整は胴部から底部周縁にかけて平行タタキが施され、底部は丁寧に撫でられている。内面調整は無文の当て具痕の後、篋ナデが施されている。両者とも還元焼成で、やや軟質である。胎土には粒の大きい不揃いな石英や長石が目立ち、白色粒子が全体に混入している。

児玉窯跡群については、窯跡の分布等、十分な把握がされていない。今回の一連の調査成果により、その解明が進むことを期待したい。(有山)

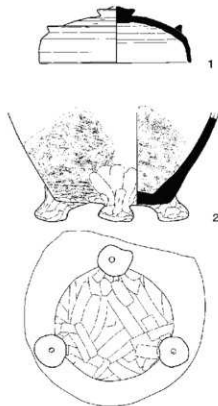


図 274 児玉窯跡群出土の須恵器

注

- 古墳時代前期初頭は神明前 5 号住、古墳時代後期は上松 3・6 号住が該当する。
- 山崎上ノ南 B 地点 3 b・5 b 号住、堂ノ入 A 地点 1・5・8・9・12 号住、堂ノ入西 2 号住が該当する。堂ノ入 A 地点 12 号住からは鉄滓が出土している。
- 同じく金草窯跡の縁辺部に位置すると想定される金草窯 A 地点の低地部からは、沢治いに流出してきたと考えられる 8～9 世紀を主体とした土器類や瓦、羽口等が出土している。
- 9 世紀前半…山崎上ノ南 B 地点 5 a・9 号住、堂ノ入 A 地点 3・13・16 号住、堂ノ入西 3 号住、細木谷北 A 地点 2 号住、9 世紀中頃…堂ノ入西 5 号住。9 世紀後半…山崎上ノ南 B 地点 3 a・4 a～d・6 号住、堂ノ入 A 地点 6・10 号住、堂ノ入西 1・6 号住、甲竹ノ鼻 A 地点 1 号住、丙竹ノ鼻 2 号住。9 世紀代…山崎上ノ南 B 地点 8 号住、甲竹ノ鼻 B 地点 1 号住。特筆すべき遺物として、細木谷北 2 号住出土の銅製鉸具、山崎上ノ南 B 地点埋没谷出土の紀年銘木簡や銅製巡方がある。
- 10 世紀前半…細木谷北 A 地点 1 号住、山崎上ノ南 A 地点 1・2 a～c 号住、堂ノ入 A 地点 18 号住、神明前 3 号住、10 世紀後半…堂ノ入 A 地点 2 号住、神明前 1・2 号住。10 世紀代…丙竹ノ鼻 1 号住、上松 1 号住。10 世紀後半～11 世紀…堂ノ入 A 地点 4・7 号住。11 世紀前半…堂ノ入 A 地点 11 号住 (鉄滓出土)。
- 児玉窯跡群 (図 2) は、現在まで概ね 6 基の存在が知られており、山崎の谷と中河原の谷の 2 つの支群に分かれている。山崎支群は須恵器窯と瓦窯があり、7 世紀末の須恵器を採集した上ノ北 1 号窯、8 世紀中葉頃の複弁八葉蓮華紋軒丸瓦を表集した金草窯 (本報告の金草窯遺跡 A・B 地点はこの縁辺部と想定)、8 世紀代を主体とする須恵器・瓦片を採集した金草 1 号窯、本報告の山崎上ノ南遺跡 B 地点の須恵器窯 (9 世紀後半)、10 世紀初め頃の須恵器系の土器を採集した下ノ北 1 号窯跡等がある。中河原支群は、窯の存在が知られているのは瓦窯の飯倉窯のみだが、この地域からは須恵器や重弧紋軒平瓦等も採集されている (恵河内 2006)。

表 83 児玉窯跡群出土遺物観察表

1	須恵器 蓋	A. 口縁部径 16.0、器高 6.0、天井部径 14.2、柄み径 3.9。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。天井部外面回転箇ケズリ。D. 石英、長石、白色粒。E. 内外一黄灰色。F. 完形。G. 還元焼成。H. 試掘 (児玉窯跡群)。
2	須恵器 脚付 長須壺か	A. 底部径 12.5。B. ロクロ成形。C. 胴部下外面平行タタキ、内面無文の当て具痕後篋ナデ。底部外面周縁部平行タタキ後ナデ、内面篋ナデ。脚部外面ナデ。D. 石英、長石、白色粒。E. 内外一黄灰色。F. 胴部下～脚部。G. 脚部裏に穿孔あり。直径 0.5、深さ 1.7～2.3。G. 還元焼成。H. 試掘 (児玉窯跡群)。

第4節 飯倉南部遺跡群の形成—古代児玉郡水源地帯の開発と在地信仰—

はじめに

飯倉南部遺跡群は、低位の山地内に小規模な手工業生産に関わる古代集落が散在している姿として捉えることができるであろう。ここでは、本遺跡群を構成する遺跡の意義を、古代「児玉郡」地域の歴史的な環境の中で位置づけることによって、これらに関連をもったひとつの遺跡群として捉え返してみたい。また本節は、本遺跡群の形成過程を、この地域に残された口頭伝承や民間信仰としての民俗文化の中に位置づけることによって、ひとつの地域史として捉え返そうとするひとつの試みである。

1 飯倉南部遺跡群と手工業生産

本報告にかかる遺跡群は、開発予定区域内の詳細な試掘調査によって山地内の谷あいと古代の小規模な遺跡が点在している姿として確認された。しかし、古墳時代の遺跡は、「女堀川」（旧赤根川）の低地を臨む上松遺跡〔本書15P〕で後期の、神明前遺跡〔本書40P〕では前期の遺構や遺物が検出されたほか、山地内では詳細な調査にもかかわらず古墳時代の遺跡はおろか、遺物についても検出することはできなかった。また、本遺跡群の周辺地域においても、山地域においては古墳時代の遺構や遺物の検出は極めて稀であり、平地に隣接する区域であっても積極的な開発の痕跡を認めることができないことは注意しておくべき点である。このことは、本遺跡群およびその周辺の山地域においては、白鳳期以降（7世紀後半以降）に急速に開発が進行したことを示していると考えてよい。

本遺跡群およびその周辺では、複弁蓮華文軒丸瓦の生産にかかる金草窯跡（高橋他1982）や、武蔵国分寺創建期の瓦窯跡である飯倉窯跡（中河原窯跡）あるいは須恵器生産にかかる山崎上ノ北窯跡（恋河内2006）等の窯業生産遺跡が検出されており、今回報告する金草窯跡の縁辺部に位置すると考えられるA地点〔本書151P〕・B地点〔本書155P〕や、山崎上ノ南遺跡B地点〔本書108P〕を含め、瓦や須恵器生産にかかる児玉窯跡群として捉えることができる〔図2〕。また、本遺跡群では製鉄・製炭などの多様な小規模な生産遺跡による開発の形態を窺うことができる。これら山地域へ進出した小規模な集落は、窯業生産や鉄生産に関わる燃料としての樹木の伐採と搬入の利便性に関わる占地によるものと推定することができるであろう。なお、同じ上武山地域で検出された塔ノ入遺跡（鈴木他2007a）においても、やはり古墳時代以降の開発と考えられるが、やはり小規模な鉄生産や製炭関連の遺構や遺物を伴っており、燃料を求めて山地域に進出した集落であると考えられることができる。

児玉郡地域における古墳時代後期の窯業生産は、本庄市八幡山埴輪窯（柳1961他）、宥勝寺裏埴輪窯（太田他2003）、赤坂埴輪窯（菅谷1976）、美里町宇佐久保埴輪窯（山川他1981）等が平野部やこれに接する丘陵端部に位置しており、山地内ではこれらの窯業生産遺跡が検出されていないことは注意すべき点である。また児玉郡地域の発掘調査等によると、古墳時代後期の集落遺跡も山地域への進出が平野部に接するごく少数に限定されており、山地域の利益は展開していないと考えられるところから、これらの利益については何らかの形で制限されていたことを想起させるものである。これに対して、本遺跡群に見られるような奈良時代前後の窯業生産や鉄生産に関わる集落は平野部に直接接する区域ではなく、その背後の山地内に位置していることは注目しておくべき点である。このように古

墳時代における山地域の開発は極めて小規模なものであったと推定され、山地域の個別的な占取の稀薄な形態が想起されることから、7世紀後半から8世紀初頭までの間に土地利用形態に変化があったことを窺わせる。

おそらく、古墳時代以降においては、集落域の近傍に位置する山地域等の林野は、日常的な共同利益の場としての利用が進行していたものと推定され、白鳳期（真開期前半）以降の平野部における大規模集落の出現や、「九郷用水」の開鑿あるいは条里水田の開発とが相互に計画的に進行しており、これらの計画的な集落や耕地等との計画的な土地の用益形態と、山地域における手工業生産の開始が表裏をなすものであったことを想定することができる¹⁾。このように考えるならば、該期における急速な生産遺跡の山地域への進出と、これに伴う山地域における用益権の獲得については、何らかの政治的背景が存在したことを推定してよいであろう。

山崎上ノ南遺跡B地点〔本書108P〕は、飯倉山崎支谷の幅45mほどの小支谷内の南側斜面に位置し、一時期に1軒ないしは数軒程度の小規模な遺跡であり、本遺跡から検出された木簡からは、「檜前マ名代女上寺稲肆拾束 寶龜二年十月二日 税長大伴国足」という26文字が確認された²⁾。一般に木簡は地方において郡家等の官衙関連遺跡から発見されることが普通であり、この木簡が発見されたような山間の狭い支谷から発見されることは極めて稀であろう。本遺跡は低山地の狭い緩斜面に占地しており、付近にも大規模な平坦地を認めることができないところから、「郡家」等にかかわる官衙関連の施設の存在を予想することはできない。また、須恵器窯が1基検出されているが出土遺物の様相から大規模な生産を推定することはできず、また輪の羽口が数点出土し鉄滓等も検出されているところから鉄生産にも関連していると推定することができるが、いずれも小規模な生産であったと考えることができる。しかし、隣接する小支谷には奈良時代の瓦窯跡として知られている「金草窯」が存在しており、あるいは山崎支谷を構成する小支谷のそれぞれに須恵器窯や製鉄址や炭焼窯等の存在が確認されているなど、小規模な手工業生産が多様に行われているところから、この山崎支谷周辺の遺跡は、おそらくそれぞれの遺跡が個別に機能していたのではなく、全体がひとつの遺跡群を構成し、「郡家」等に関連するような工房群を構成していたものと考えられるであろう。おそらく、本遺跡もこれらの工房跡群のひとつに位置づけることができるものと思われる。

この木簡の内容は、出挙の返済に伴う収納札と考えられ、「檜前部名代女」という女性が、「寺稲」を借りて返済したときの収納札であると推定され、この収納を確認したのが「税長」の「大伴国足」という役人であったと考えることができる。木簡の紀年は宝龜二年（771年）であり、「十月二日」は本来九月が出挙の返済の時期であるが、おそらく稲の収穫時期の都合で十月に返済したものと考えることができるであろう。では、この木簡にある「寺」とは、一体どの寺を指すのであろうか。古代児玉郡には、現在までに浄土野廃寺以外に明確な寺院跡は確認されていないが、木簡が発見された隣の小支谷に存在が推定されている「金草窯」で生産されたと考えられる軒丸瓦は8世紀前半代のものと推定されている。この時期には、寺院以外に瓦を葺いた建物は極めて稀であり、おそらくこの「寺」には、金草窯で焼かれた複弁蓮華文軒丸瓦が葺かれていたと考えることもできるであろう。しかし、一方では天平19年（747年）に児玉郡の五十戸が東大寺の封戸に編入されており、この「寺」とはこの東大寺を指すという考え方もある。あるいは、薬師寺の出挙稲が8世紀から設置されているところから、この「寺稲」は薬師寺科の出挙稲と捉える考え方も提示されている（三上1999）。なお、天

平6年(734年)には「私稲」の出挙が禁止されているところから、寺田の貸借による租の納入にかかわる史料であるという考えも検討しておく必要があろう。

これらは、それぞれ古代地方の財政運営等に関わる問題であるとはいえ、木簡の出土によって本遺跡が官衙であるとか「税長」が居住していたと直截に捉えることはできないであろう。山崎上ノ南遺跡をはじめとする飯倉南部遺跡群は、先に推定したように多様な工房跡をもつ小規模な遺跡が点在したひとつの遺跡群を構成しており、これらが「郡家」等との強いつながりをもった遺跡群であると考えられるところから、このような遺跡群の性格を前提に、出土した木簡の性格を考える必要がある。この木簡は、付け札ではなく収納札と考えられているが、おそらく「寺稲」の運用に関わって稲とともにこの地にもたらされ、廃棄されたものとも考えることもできるであろう。この木簡が官衙と関連の強い工房群の一角で廃棄されていることを積極的に評価するならば、この「寺稲」が郡内で運用されていたと解釈する必要が生じる。この「寺稲」が郡内の工房群を伴う集落での運用が可能であったことを前提に考えるならば、郡の財政に関わるものとして、木簡に見られる「寺」は、東大寺や薬師寺という中央の寺院ではなく、むしろ山崎上ノ南遺跡の隣の小支谷である「金草堂」で生産された軒丸瓦を葺いた寺院である可能性も検討しておくべきであろう。ともあれ、郡などの地方財政については不明な点も多く、今後更なる検討が必要であるとはいえ、本遺跡群の木簡の出土や、金草堂跡の軒丸瓦や須恵器等の生産は、本遺跡群のこれらの手工業生産の存在形態の政治的な背景を窺わせるものである。

2 水源地帯低山地域の開発形態

水源地帯に対する神聖視は、古くから認められる現象であろう。河川灌漑の開始が、水源となる河川源流部への神聖視の大きな契機となったと考えるとよい。この地域では、古墳時代前期には河川灌漑が開始され低地域への集落の進出が顕著となるが、児玉地域の丘陵部においては小規模集落が散在している状況であった。飯倉・宮内付近の丘陵部においては、神川町前組羽根倉遺跡(坂本他1985)で方形周溝墓群が形成されるなど墓域としての場の設定とともに、累積する周溝墓の造営に際しても場としての意識が再生産され社会化していったものと考えてよい³⁾。このように本遺跡群の近傍に位置する丘陵部においては、古墳時代前期以降集落跡や生活にかかる遺構は散漫であり、丘陵上の一部に墓域としての性格をもった場が形成されている。古墳時代中期後半から後期においては、本庄台地面の低地域における水田は極相に達していたと推定することができることから、この時期には水源としての河川源流部への神聖性が喚起され、しばしば水源祭祀や雨乞い祭祀の必要が生じていたと推定することができる⁴⁾。この時期、水源地帯については、水利に基づく共同性の転倒した表現として、ある種の神聖な土地と捉えられていたと考えてよいであろう。

飯倉南部遺跡群の設置については、このような金鑽川・赤根川の水源地帯に挟まれた区域を避けた占地であるとも考えることもできる。また、本遺跡群が、飯倉古墳群の上流域であると同時に、赤根川の最上流部の水源地帯とに挟まれた区域である点にも注意しておくべきであろう。古墳群は、広義の「祖先祭祀」にかかわる場として捉えることができるが、奈良時代以降も土器の供献等がしばしば認められ、何らかの形で祭祀集団による排他的な占取が継続していたと考えてよいであろう(鈴木1985)。したがって、古代における飯倉南部遺跡群が形成されるに際して、これらの区域を避けた占地であった可能性も検討しておくべきである。古墳群域は、積極的な開墾は回避されており、基本的

に近代まで遺存していることも注意しておくべきである。このような「古墳群」に対する墓域としての意識とは祖先祭祀の残影が何らかの形で残存し、土地利用形態を規定していた部分を考慮しておく必要があるものと思われる。

和泉期後半から鬼高期前半では石製模造品の急増が認められ、集落内祭祀が盛行したことを推定しえるとともに、後張遺跡E地点（高林 2011）等では河道跡での祭祀行為が活性化したことが窺える。ちなみに、藤塚遺跡（徳山他 1995）第1号溝の支線水路の分岐点において、須恵器や土師器とともに石製模造品等の供献を伴う祭祀行為が行われていることは、祭祀権が用水の分水単位への個別化へと傾斜する過程の一端を垣間見ることができるであろう。このことは塩谷地内のミカド遺跡（坂本 1981）をはじめ、それぞれの集落において個別的に祭祀が執行されている姿と相関をもっているものと思われる。

古墳時代後期においても、飯倉の上流部に位置する宮内地区の丘陵上や谷奥には遺跡の分布が極めて稀薄である。宮内の中央部を流れる赤根川の支谷は、古くから「御室ヶ谷津」と呼称されている。この「御室ヶ谷津」に面した尾根筋東斜面には脊戸谷遺跡があり、終末期の2基の古墳から構成される小古墳群である宮内古墳群が形成されている（永井他 2005）。このような山地域の遺跡のあり方を捉える上では、水源地帯に占地する7世紀代に造営されたこの宮内古墳群の存在形態についても考えておかなければならないであろう。

この古墳群の造営は、伝統的な古墳群の占地を超えた土地への墓域の設置を伴うものであり、宮内1号墳からは刀子4点、鉄族52点とともに石室内から方形の柄頭と台状枠形檜金の双脚足金物をもつ方頭大刀が検出されていることに注意しておきたい。この方頭大刀は、7世紀第3四半期から7世紀末の年代が推定され、類型を検討された詳細な分析から被葬者は「中央貴族（豪族）に従う下級武官であった可能性が高い」（滝瀬 2005）とされているものである。また、直接現地調査に従事した永井智教氏は、出土状態から考えて当初より刀身を欠いた装具のみの儀刀であった可能性を指摘しており、在地首長層に出自を求めうる「郡領」クラスの被葬者を想定されている。いずれにしても、この大刀は律令的な形式を帯びた儀礼に用いられ、在地社会においては一定の権威を帯びた財物であった可能性が高いと考えてよい。おそらくは、律令的な編成に連なる階層の者が、伝統的な造墓区域を離れ、金鑽神社にも近い宮内の神聖な水源地帯の一面に墓域を形成することができたものと考えられることが可能であろう。

なお、「阿麻ヶ坂」と呼ばれる、「御室ヶ谷津」から金鑽川の流域に抜ける峠付近に位置する天田遺跡（恋河内 2000）には、8世紀中葉以降10世紀に及ぶ古代集落跡が形成され、日常的な生活の場へと変化している姿を窺うことができる。しかし、分水嶺付近にかかる大規模開発に伴う試掘調査の結果においても、脊戸谷遺跡で古墳2基によって構成される宮内古墳群が発見されたのみであり、しかも分水嶺を挟んだ金鑽川の流域には遺跡が認められず、遺構や遺物も検出されていないことに注意しておくべきであろう⁵⁾。この区域には、古代においても宮内の谷戸である「御室ヶ谷津」と金鑽神社の位置する二ノ宮の谷戸では、日常的な土地利用に差異があるように見える。水源地帯の神聖な場の一部に変化が生じていたと考えてよいであろう。おそらく、「御室ヶ谷津」側の神聖性が緩み、7世紀後半以降では宮内古墳群が造営されるなど神域としての観念が変質し始め、8世紀中葉以降では天田遺跡に集落が形成されることから土地のもつ神聖性が弛緩し急速に崩壊していった様子が窺える。

このような「御室ヶ谷津」に隣接する谷戸である飯倉の山崎支谷等に、飯倉南部遺跡群に相当する金草葺や武蔵国分寺創建期の献納瓦の瓦窯あるいは須恵器等を生産した窯が形成されることは注意されなければならない。また、遺跡群内の各地点からは製鉄関連の遺構や輪郭口、鉄滓等も検出されており、瓦や須恵器あるいは鉄製品等を生産する、官衙関連施設にこれらを供給するような小規模で多様な手工業地帯が形成されている。この区域から先に見た須恵器窯が検出され、木簡が出土した山崎上ノ南遺跡が確認されている。おそらく、この木簡に記載されている「檜前部名代女」ないしは「税長」である「大伴国足」が直接この地に居住していたと考えるのではなく、出挙にかかる「肆拾束」の「寺稲」が須恵器生産等の手工業生産にかかる経営に供出された過程で、この運用された稲にかかる木簡がこの遺跡に廃棄されたものと考えておきたい。宮内の「御室ヶ谷津」に隣接するこの飯倉南部の山崎支谷などの沢筋の水は、谷口で赤根川へと流下している。おそらくこの山崎支谷をはじめとする区域も、古くは平地との境界域の神聖な山塊の内側に位置しており、聖なる山地の一角を構成していた可能性が高いであろう。この一角に手工業地帯を設置した階層は、先の宮内1号墳を造営したような、一方で伝統的な祭祀を行う在地首長層に連なる者達であった可能性が高いものと思われる。

3 水源祭祀の論理と推移—金鑽神社と若宮神社—

ここで飯倉南部遺跡群の古代的な開発を位置づけるために、児玉郡における水源地帯の在地信仰と祭祀の形態について、民俗誌を前提に捉えながら、この水源地帯がどのように位置づけられてきたのかという点に接近してみたい。

神川町二ノ宮にある金鑽神社（金佐奈神）は、『三代実録』貞観四年（862年）六月四日条に正六位上の官社に列せられ、同年八月六日条には従五位下になったことが記されている。延長五年（927年）の『延喜式神名帳』に記載のある式内社であり、「明神大社」に列せられている⁶⁾。なお、金鑽神社は、武蔵国「二宮」あるいは南北朝期に編纂された『神道集』では「五宮」とされている。この金鑽神社は、児玉郡の水源のひとつである金鑽川の源流に位置し、8世紀初頭前後に開鑿された「九郷用水」の分水神としての神事をもっていることについてはかつて分析したところである（鈴木1984a）。金鑽神社の水源祭祀は、旧児玉郡の基幹的用水路としての「九郷用水」が8世紀初頭前後に開鑿された後において神流川岸の取水口で行われ、1960年代以降は社頭で行われる「水口祭」が重要な位置を占めていることに注意しておくべきであろう。この金鑽神社との関連でかつて触れたことのある金鑽川とともに、児玉郡のもう一方の水源に相当する赤根川水系に位置する宮内の若宮神社について、その存在形態について分析しながら、ここで再び検討してみたい。

若宮神社は、かつて坂井久能氏（坂井1976）が武蔵国「二ノ宮」所在の式内社金鑽神社の旧社地として推定されたように、金鑽神社と関係の強い神社であると考えられることができるものである。ここで、この両社の関係を考える上で重要であると考えられることのできる、「阿麻ヶ坂」の伝説に注目してみよう。

- ① わかし金鑽明神と若宮明神は姉妹であったが、あるとき諍いをおこし姉神は妹神を「アマアマ」と言いながら、椿の花をもって追ってこられた。それ以来、宮内耕地には椿の木が一本も生えないという。以来この坂を「阿麻ヶ坂」という。今も子供たちは村境で椿を捨ててしまうという（金鑽1953）。

② むかし兄妹神がけんかをして、兄神（金鑽明神）は妹神（ニゴロハ田心姫）を椿の枝で追いかけて、「アマだ、アマだ」と追いかけてきた。妹神は転んで目を怪我してしまった。この場所を「天田坂」といい、「天田平」には若宮神社が祀られている。なお、宮内には椿は植えてもつかず、ついてもその家人の目が悪くなるという椿を植えないという。

③ むかし田心姫は金鑽明神の女（むすめ）であった。娘神を親神が椿の枝を持って追いかけて、娘神は坂の上までくると倒れたという。これ以来、村境にある「阿麻ヶ坂」には椿の木は一本もないという（柳編 1967）。

このほか幾つかの異伝があるが、いずれも断片的であるとはいえ、姉妹、兄妹、親娘など、金鑽神が年上、若宮神が年下の位置づけになっており、また「アマ」ないしは「アマだ」という言葉で追いかけてながら、椿の枝ないしは椿の花で金鑽神が若宮神を金鑽神社の側から宮内側へと追いつけている点は共通している。さらに追いかけてきた場所は、「阿麻ヶ坂」ないしは「天田坂」と呼ばれており、その地名の起源となっていることも共通している点である⁷⁾。なお、この阿麻ヶ坂を通る道は、若宮神社の近傍から金鑽神社へと通じる「大師道」とも呼ばれる旧道であり、かつて金鑽神社への勅使の通った古道であるという。なお、若宮神社の主たる祭神である「田心姫」は、この神社の雨乞いにかかる若宮神社付近の手箱池の伝説に登場する女神である。タゴリヒメは、アマテラスとスサノオのあまのなまひ天眞名井における誓約の際、スサノオの剣を物実として一番目に化成了、宗像三女神のうちの一神である。金鑽神社の祭神がアマテラスとスサノオの二柱（およびヤマトタケル）であることを考えるならば、地元において若宮神社は金鑽神社の御子神ないしは姉妹神などとして捉えられていることも整合的に捉えることができる。タゴリヒメはもとより水に関わる女神であり、スサノオは農業神としての性格ももっているところから、タゴリヒメもまた稲作にかかわる祭神として祀られたと考えることもできるであろう。ともあれ、本来金鑽神社や若宮神社の祭神は、この地域の在地的な土地神の神話的な言説が神祇の律令的編成に伴って、アマテラスとスサノオの娘神としての水神的性格を帯びたタゴリヒメが充てられ、再編成されたものと考えておくべきであろう。

なお、阿麻ヶ坂を挟んだ二つの隣接する狭い支谷は、金鑽川と赤根川（現女堀川の上流部）が旧児玉郡を灌漑する自然的な主要な二つの水系の水源地帯に属していることを考えるならば、この二つの河川の象徴的な地位を考える上では参考となるであろう。「阿麻ヶ坂」を境に「御室ヶ嶽」（御室山ともいう）を「神体山」とする金鑽神社を擁する谷あいと、「御室ヶ谷津」と称する若宮神社の位置する谷あいとが接しており、この二つの水系がこの伝説によって区分されていることに注意しておくべきである。このように「阿麻ヶ坂」は、隣接する金鑽川と赤根川との分水嶺に相当し、「御室ヶ嶽」をもつ金鑽川の水系と「御室ヶ谷津」をもつ赤根川の水系を区分する雨の分水の境界＝アマガサカとして捉えられると同時に、一方では天との境界である境＝坂として捉えられていたと見做すこともできるであろう。

なお、伝説にある椿は、常緑であり古くから神聖な樹木として神木や依り代として捉えられているものである。折口信夫は、柳田国男が注意されている「八百比丘尼」との関係に触れながら、山姥が山から椿の枝をもってきて春の言触れをしたものとして捉え、椿で占いや魂ふりをしたものであるとされた（折口 1995）。このように椿は、春の言触れをした山から訪れる来訪神にかかる樹木であると見做すこともできるであろう⁸⁾。

ともあれ、金鑽神社と若宮神社は、かつて坂井久能氏（坂井 1976）が推定したように、相互に極めて濃密な関係性をもっている。ちなみに、若宮神社の氏は金鑽神社の氏も兼ねており、若宮神社の春祭りの終了後、総代が金鑽神社の例祭に参列することも、両社の関係の濃密さを物語るものであろう。なお、金鑽神社の旧社地を、金鑽川のやや下流域に鎮座する「御室ヶ嶽」に対する「山ほめ神事」をもっている境外社「元森神社」の地と推定するならば（鈴木 1984a）、この二つの神社はそれぞれ相対的に独立した一対の神祇として捉えるべきである。ともあれ、金鑽神社と若宮神社は、隣接する谷筋に位置しながら旧児玉郡の全域にかかる自然的な水系の水源に相当しているところから、この金鑽と若宮の二神は地域的な神祇として対立的に捉えられる可能性が高いであろう。

なお、若宮神社の近傍に位置する「手箱池」には、タゴリヒメと雨乞いにかかる伝説があることにも注意しておきたい。この伝説は、旱魃時の水の確保にかかわるものであり、若宮神社の女神（田心姫）によって「手箱池」から龍神（ないしは蛇神）が出現するという伝説は、若宮神社が水源神としての性格を有していることを端的に示している。この若宮神社の女神を介して手箱池から龍神が出現する様は、金鑽神社の小童（金鑽神）を介して金目池から龍が出現するという関係と、相互に一定の対応性を見出すことが可能である⁹⁾。なお、若宮神社には、この伝説と関連の強い、祭り屋台に龍身の形を付けて村内を曳き廻す「雨乞い屋台」の行事が残されていたことにも注目しておきたい。児玉郡における古相を伝える「雨乞い獅子」の獅子頭が龍頭の形態を呈しているとともに、しばしば「タツガシラ」と呼びならわされていることも、この地域での水神が龍身の姿で立ち現れるものであったことを示している。

このような龍身・蛇身の神は、単なる「水の神」としての低次元の神ではなく、本来は祖霊としての「山の神」であると捉えられている（吉野 2008）。「山の神」は、基本的に女性神と考えられており、春になると水源としての山から村里に訪れる「田の神」としての性格をもっていることに注意すべきである。ともあれ、これらの龍身・蛇身の神は児玉郡の水源地域の山塊に籠もる土地の精霊の多様な姿相のひとつの姿として捉えることができるであろう。また、金鑽神社の「御室ヶ嶽」に対して、「御室ヶ谷津」のやや下流においても円錐形の「雨乞山」とこれにかかる旧飯倉村の鎮守であった住吉神社が位置しており、自然的な水系である金鑽川と赤根川の水源地帯を一対の神祇として捉えることができるものである¹⁰⁾。

このように自然的な水系としての金鑽川と赤根川のそれぞれの畔に位置する金鑽神社と若宮神社は、相互に強い関係を帯びながら、在地的な神祇として旧児玉郡地域の古い信仰形態を知るうえで極めて重要な関係をもった社であると考えてよいであろう。もとより、金鑽神が「御室ヶ嶽」という山塊に、若宮神が「御室ヶ谷津」という谷筋に重点があるとしても、ともにこの地域の自然的な主要河川の水源地帯に位置し、ともに水源としての山塊を奉祀していることは明らかである¹¹⁾。ちなみに、「宮内」という地名も、この地が金鑽神社を含む神域としての一体性を帯びた関係を示す表現であると考えてよいであろう。先に触れたように、若宮神社の氏は併せて金鑽神社の氏ともなっていることもまた注意しておくべき点である。なお、赤根川流域の宮内・飯倉・塩谷などの村々は、金鑽神社の「宮付」と呼ばれ、金鑽神社との直接の関係が強いことから、児玉郡内に広く分布する金鑽神社の分霊社がこの区域には認められないことにも注目しておくべきであろう¹²⁾。

なお、金鑽川と赤根川の二つの自然的な水系は、本来金鑽川が児玉町田端と保木野の間の低地帯を、

赤根川は児玉町八幡山の北側を流下していたものと考えられることができるが、この自然的な流路が古代において条里形地割りに沿った形で変更されており、より上流部で「九郷用水」に合流する流路が開鑿されることによって「九郷用水」の水系に再編成されていることに注目しておくべきである。この水利系統の再編成の過程で、「九郷用水」における水口祭を執行している金鑽神社によって、旧児玉郡地域の水源地一元化が進行したものと考えられることができる。おそらくは、「九郷用水」開鑿以前より信仰されてきた、それぞれの流域の「山の神」ないしは水源神は、「九郷用水」が開鑿された以降においてこの用水の水口祭を執行する金鑽神社に水源祭祀が一元化されていった過程を推定することができるであろう。坂井久能氏（坂井 1976）は、若宮神社については「女堀川」の水源神としての性格を想定されているのに対し、金鑽神社については「御室ヶ嶽」の祭祀に注目され神体山としての性格をもつとして平安時代後期以降の祭祀形態であるとされたが、金鑽神社が金鑽川の水源地に位置していることや、児玉郡全域の水源地にかかる「九郷用水」の水口祭を司る祭祀形態をもっているという点を等閑視されている。旧児玉郡の灌漑祭祀は、この金鑽川・赤根川水系の灌漑から「九郷用水」の水系への再編成の過程で、若宮神社の流域の水源地祭祀としての性格が宮内地区の雨乞いという局地的な祭祀へと変化したことを想定しておくべきであろう。なお、坂井氏は金鑽神社には神社と土地に密着した伝説や行事がないとされたが、むしろ金鑽神社については旧児玉郡全域にかかる伝説や信仰・行事を認めることができることに注意しておくべきである。このように考えるならば、若宮神社は金鑽神社の旧社地として捉えるのではなく、あくまで「本宮」としての金鑽神社に対する「若宮」として捉えておくべきものであると思われる。もとより、この二つの神社の信仰形態もまた、それぞれに歴史的な変遷の過程をもっているわけである。

まとめ

ここでは飯倉南部遺跡群を中心とする低山地域の開発を概観し、旧児玉郡地域の水源地帯における在り地信仰と遺跡分布の推移から、この地域の「九郷用水」開鑿以前における灌漑と信仰形態の変遷を想定した。旧児玉郡の主要な灌漑用水である「九郷用水」の開鑿は、7世紀終末から8世紀初頃ごろと推定することができることから、「九郷用水」の開鑿以前とは、この地域の古墳造営期に概ね相当していると考えられることができる。神流川から導水する「九郷用水」の開鑿以前は、自然的な水系である金鑽川、赤根川水系の水源地によって、この地域の主要な水田が灌漑されていたと考えてよいであろう。この金鑽川・赤根川は、それぞれ流路の変更が推定されており、ともに「九郷用水」の水系に編成されている。この流路の変更は、条里形地割りを前提とするものであると同時に、自然的な水系が旧児玉郡域全体に関わる「九郷用水」の灌漑体系に編入されたことを意味するものであろう。

「九郷用水」開鑿以前においては、金鑽川と赤根川の二つの水系は、「御室ヶ嶽」と「御室ヶ谷津」の対立的な関係をもち、その境界が「阿麻ヶ坂」であるところや、それぞれの神祇としての金鑽神と若宮神が親娘神ないしは姉妹神として捉えられていることを考えるならば、この地域に伝えられてきた伝承や祭祀の基層に一对の対立的な関係を見出すことができる。このように「九郷用水」開鑿以前では、水源地帯であるこれらの山地域は児玉地域の神聖な山塊として意識され、金鑽川と赤根川是一对の神祇として奉斎されていたものと推定することができる。このことから、金鑽川・赤根川の源流地帯については、流域の地域社会によって信仰され、在地首長層によって祭祀が執行されていたので

あろう。この地域では白鳳期において、従来の墓域の占地から離れた宮内古墳群が形成され、律令的な儀礼に用いたと考えられる方頭太刀を副葬する宮内1号墳を形成したような階層が、これらの神聖な神々の領域としての土地を分割し占取していった。このような過程で神聖な山塊の一角を開発し得た階層は、在地的な首長層であると推定され、金鑽川流域では神聖性が維持されていたが、赤根川水系の側においてはこのような在地首長層の主導によって徐々に開発が進展していったものと推定される。このように、赤根川水系においては、その山塊に対する聖性が次々と後退して行く過程を辿りながらも、金鑽川流域との対比的な土地に対する論理の枠組みが、今なお残されているのであろう。

奈良時代以降においては、神祇と水源祭祀が律令的に再編成されることによって、金鑽神社がこの地域の水源神としての祭祀権と社格を獲得し、若宮神社の祭祀は小地域の水源祭祀へと縮小した。飯倉南部遺跡群をはじめとする山塊の開発は、律令的な性格を帯びた生産遺跡を中心に開発が進行していることは、これらの開発が祭祀権を行使し得る在地首長層の主導で行われたことを示唆している。このような水源にかかる信仰の形態は、金鑽川・赤根川の水系が「九郷用水」の水系に統合されることによって水利の一元化が行われ、律令的に再編成されることによって、今日の神祇の形態の骨格が形成されたものと考えられることができる。この結果、「御室ヶ嶽」を擁する金鑽神社の鎮座する二ノ宮の支谷と、「御室ヶ谷津」を擁する若宮神社の鎮座する宮内の支谷についての土地の聖性の意識に差異が生じ、赤根川水系においては低山地域の開発が展開し、手工業生産にかかる飯倉南部遺跡群が形成されたと捉えることができる。

本節は、飯倉南部遺跡群の位置づけをめぐって、考古学的な枠組みでは接近の難しい一地域の歴史的な推移の中に、この地域に残された民俗誌を踏まえながら接近を試みたものである。もとより民間伝承や伝統的行事や信仰が、そのまま古代に遡ると考えているわけではないが、祭祀や民間信仰等に關わる論理は時代を越えて継承されている部分があるものと思われる¹³⁾。(鈴木)

註

- 1) 児玉郡地域における古代の共同用益地や山野の問題については、旧稿（鈴木1985・2002・2005・2007a）等を取り上げ、あるいは触れてきたところである。また、「九郷用水」の開鑿をはじめとするこの地域の歴史的な推移についても既刊の拙文（鈴木1996・1997a他）の参照をお願いしたい。なお、本節は発掘調査時に作成した覚書をもとに加除筆を加えたものであり、充分に関連文献等を渉猟していない部分がある。大方のご寛恕を希うものである。また、「赤根川」と「女堀川」等の関係や、河川等の呼称をはじめとする地理的な環境については、児玉郡地域以外の方には説明が不十分であるが、本書Ⅱ章等を参照されることを望みたい。
- 2) この木簡については、すでに概要報告がある（大熊1998）。なお、木簡の釈文については平川南氏によるものであり多くのご教示を頂戴した。また、宮瀧交二氏および埼玉埋蔵文化財調査事業団にご教示ご協力を頂いた。ここに記して感謝の意を表したい。なお、木簡から考えられるこの地域における諸問題については、別稿（鈴木2000）で触れるところがある。
- 3) 前組羽根倉遺跡（坂本他1985）では弥生中期の再葬墓が形成されたほか、小規模な集落跡から後期終末的な様相をもつ土器群が検出されている。このように水源に近い丘陵部には、弥生後期以来の伝統的な集団が居住しており方形周溝墓の築造が継続している。これらの方形周溝墓は、その墳墓として表示性が記憶装置となり見る者の社会的な意識を再生産していたのであろう。
- 4) このような水源祭祀の姿を推定する上では、天神川流域の美里町こぶヶ谷戸祭祀遺跡（小沢1960）において古墳時代後期を中心に、反復的に行われた祭祀行為の結果が累積している状況からある程度類推することができるであろう。
- 5) 脊戸谷遺跡の周辺区域においては、工業団地造成に伴って1997年児玉町教育委員会で大規模な試掘調査を実施しているが金鑽川流域での遺跡の発見はなく、赤根川流域の宮内側に脊戸谷遺跡（永井他2005）が検出されたのみであった。また同一の事業において、神川町教育委員会で金鑽川流域の大規模な試掘調査を実施されているが遺跡が確認されていないことは注目しておくべきであろう。神川町教育委員会および田村誠、金子彰男両氏のこ

教示に感謝します。

- 6) 金鑽神社は、「九郡用水」の鎮守として知られ近郷二十二カ村の總鎮守として祀られていた。神社の神体は、神社の社殿の背後に聳える「神奈備山」である標高約300mの「御室ヶ嶽」ないしは「御室山」などとも呼ばれる山体である。また、この神体山に接して、標高343mの「御旗山」と呼ばれる山が位置していることにも注意しておくべきであろう。ともあれ、本社には本殿はなく本殿に相当するのが神体山であり、拝殿および山体前面に接する中門控回舎のみによる構成を珍らしい形式の神社である（金鑽1958・岡本2003他）。なお金鑽神社は、古くは「金佐奈」と表記され、中世に「金鑽」という字が充てられたようである。その語源には不明な点が多いとはいえず、金鑽川の水源地帯に位置しており、今日においても旧児玉郡域の水源地帯を司っていることは注目すべき点である。ちなみに、「九郡用水」灌漑区域の氏子からは今日も「懸樋（かけちから）」と称する根つきの稲の奉納が認められる点にも注目しておきたい。なおこの神社は、明治18年（1885年）には「官幣中社」に列せられるなど、近代においても高い格式が付与された古社であった点は注意すべき点である。
- 7) 宮内地区の伝説等については、金鑽俊雄（金鑽1953）、柳進（柳1976）あるいは『児玉町史』民俗編などのテキストを用いた。本稿は、児玉系里道跡にかかわる「九郡用水」の伝説の分析と対をなすものである。なお、児玉郡地域の灌漑や地域の開発の問題については、児玉町文化財調査報告書や児玉町道跡調査会報告書等で述べてきたところであるが、その概要については（鈴木1996・1997a）を参照されたい。
- 8) 椿は椿大神としての「狼田彦」に関連の深い樹木であり、道別神、境界神としての象徴的な性格をもった樹木であったと推定することも可能かも知れないが、むしろある種の「山の神」にかかる神樹として捉えておくべきであろう。椿についての目的病に関する言説は、アマテラスがイザナギノミコトの左目を洗った時に化生した神であるとされることと関連しているのかもしれない。ちなみに、金鑽神社の境内にはヤブツバキの古木があり、その説明板には若宮神社との伝説をあげ金鑽神社に椿が多い理由として記されている点も興味深い。なお、高知市の椿神社をはじめ幾つかの神社には、目の病気に効くと言われ、成就した時に椿の植樹を行うとされていることも阿麻ヶ坂の伝説を考える上では興味深い民俗例であろう。
- 9) 金鑽神社と「九郡用水」にかかる龍神の伝説については、児玉系里道跡の分析の過程で検討したところである（鈴木1998）。また、身馴川の大蛇の伝説についても那珂郡の開発の問題に触れながら分析したことがある（鈴木2007b）。これらは本稿で検討した伝説と、水利・灌漑の分析に関連の深いものであるところから参照を願いたい。なお、これらの伝説については、更に詳細な相互比較と論理的な分析を行う必要があろう。
- 10) 若宮神社の約600m下流域に位置する飯倉地内の通称「雨乞い山」は、山崎地区の方々によると、赤根川の谷に突出した円錐形の山であり、旱魃時にはこの山に登り「お焚き上げ」をして太鼓などを叩いて雨乞いを行ったとされている。
- 11) この二つの水系が、「阿麻ヶ坂」によって分かれたところから、源流部に位置するこの二つの河川のあり方は、伝統的な神々の体系の二分法に基づく一対の神祇による双分的な関係を想起することもできるであろう。なお、このように在地的土地神としての「御室ヶ嶽」と「御室ヶ谷津」を流下する河川の名称である金佐奈、赤根は、ともに河床に鉄分の多い砂が流れていたことを示すものとされていることにも注目しておくべきかもしれない。
- 12) 児玉郡内に分布する金鑽神社は、神川町二宮の旧「官幣中社」金鑽神社のほか旧「県社」1社、旧「村社」7社、境内社として旧「無格社」7社がある。また、「金佐奈神社」として旧「村社」2社、旧「無格社」1社が存在しており、児玉郡内には計19社が分布している。なお、金鑽神社はこのような児玉郡内の多くの村々に分祀されているほか、武蔵国総社である府中市の大國魂神社にも「武州六大明神」の一社として分祀されている。
- 13) 柳田國男は、平田萬胤の「幽冥論」に影響を受けたといえ、「国家神道」とは異なる新しい「国学」の流れとしての「民俗学」を打ち立て、自らの民俗学を「新国学」と称している。柳田は文書や文字史料のみによって歴史を描こうとする、「最も平和と幸福のために努力した町村のみは無歴史となり、我邦の農民史は一揆と災害の連鎖であった如き、印象を与える」として、文字資料によらない伝説や習慣などを記録することを重視して、「郷土研究」として日本文化の基底を捉えようとして試みた。折口信夫もまた、古典とともに民俗誌の中に日本古来の精神としての「古代」を探ろうとして「最後の国学者」を標榜し地域の伝統的な文化を見据えていたことで知られている。戦後、国学の流れは大きく変化し、このような国学の系譜の一端は民俗学へと託される傾向が生じた。ここでは、本庄市が生んだ国学者鳩俣ローを引き合いに出すつもりはないが、この地域に残されてある古来の文化や歴史を、考古学を基軸として、民俗誌や伝統的行事あるいは伝承などから学ぶ、「地域の学」とでも呼び得る方向性へのひとつの試みとして起草したものである。

引用・参考文献

- 石塚久則他 (1986) 『付録探 - 縄文時代 -』 埼玉県縄文文化財調査事業団報告書第 63 集
- 大熊手広 (1998) 『埼玉・山崎上ノ南遺跡 B 地点』 『本郷研究』 20
- 太田博之他 (2003) 『有勝寺真鍮輪郭跡・宍勝寺北遺跡』 本庄市縄文文化財調査報告第 26 集
- 大塚道則 (1988) 『真鍮寺後遺跡 II』 児玉町文化財調査報告書第 8 集
- 岡本一雄 (2003) 『金鑽神社』 さきたま文庫 61 さきたま出版会
- 小沢国平 (1960) 『コップ・谷戸祭祀遺跡』 美里町教育委員会
- 折口信夫 (1995) 『花の話』 『折口信夫全集』 2 (昭和三年六月國學院大學郷土研究会例会講演筆記 - 青空文庫より)
- 金鑽俊雄 (1953) 『金屋村郷土史』 郷土史叢書第四編 埼玉県郷土文化会児玉郡支部
- 金鑽俊雄 (1958) 『武蔵国二宮金鑽神社誌』 金鑽神社奉賛会
- 金子彰男 (1991) 『池田遺跡第 1 地点』 神川町遺跡調査会発掘調査報告第 2 集
- 木村宗平 (1970) 『児玉風土記』 児玉文化協会
- 志河内昭彦 (1990) 『塩谷下大塚遺跡』 児玉町文化財調査報告書第 11 集
- 志河内昭彦 (1991) 『真鍮寺後遺跡 III』 児玉町文化財調査報告書第 14 集
- 志河内昭彦 (1995) 『南共和・新宮遺跡 II』 児玉町調査報告第 6・7 集
- 志河内昭彦 (2000) 『天田遺跡 - B 地点の調査 -』 児玉町遺跡調査会報告書第 11 集
- 志河内昭彦 (2001a) 『女池遺跡 - B・D 地点の調査 -』 児玉町文化財調査報告書第 35 集
- 志河内昭彦 (2001b) 『金屋下別所遺跡 B 地点・塩谷平ノ宮遺跡・塩谷下大塚遺跡 E 地点』 本庄市教育委員会
- 志河内昭彦 (2004) 『女池遺跡 - A 地点の調査 -』 児玉町遺跡調査会報告書第 16 集
- 志河内昭彦他 (2006) 『金谷下別所遺跡 B 地点・塩谷平ノ宮遺跡・塩谷下大塚遺跡 E 地点』 本庄市縄文文化財調査報告書第 1 集
- 志河内昭彦 (2006) 『児玉古宮跡跡』 『古代武蔵国の須恵器流通と地域社会』 埼玉考古別冊 9
- 坂井久能 (1976) 『武蔵国金鑽神社の研究 (上)』 『國學院雑誌』 第 77 卷第 8 号
- 坂本和茂 (1981) 『ミカド遺跡の調査』 『金屋遺跡 I』 児玉町文化財調査報告書第 2 集
- 坂本和茂他 (1985) 『神川村前沼科根倉遺跡の研究』 『埼玉県立博物館紀要』 12
- 坂本和茂他 (1986) 『埼玉県古代古墳調査報告書』 埼玉県史編さん室
- 菅浩浩之 (1976) 『赤坂塚輪郭跡』 『本庄市史』 資料編
- 鈴木徳雄 (1984a) 『古代児玉郡における土地利用と村落の成長』 『阿知祿遺跡 II』 児玉町文化財調査報告書第 4 集
- 鈴木徳雄 (1984b) 『いづゆる北武蔵系土器器形の動態』 『土曜考古』 第 9 号
- 鈴木徳雄 (1985) 『古代児玉郡における山野の問題』 『橋ノ入遺跡 I』 児玉町文化財調査報告書第 3 集
- 鈴木徳雄他 (1986) 『橋ノ入遺跡 II』 児玉町文化財調査報告書第 6 集
- 鈴木徳雄 (1988) 『東葛地域における縄文文化の展開』 『東葛上代文化の研究』 下津谷・古宮先生選賀記念祝賀事業実行委員会
- 鈴木徳雄 (1996) 『古代北武蔵の開発と集落』 『月刊文化財』 11 月号 No. 398
- 鈴木徳雄 (1997a) 『古代北武蔵の土地利用と集落』 『日本歴史』 9 月号 第 592 号
- 鈴木徳雄 (1997b) 『縄文前期の石製研削具』 『群馬考古学手帳』 Vol. 7
- 鈴木徳雄他 (1997) 『白根塚東・平塚・藤塚遺跡』 児玉町文化財調査報告書第 26 集
- 鈴木徳雄 (1998) 『児玉系壘の形成と継続』 『児玉系壘遺跡 - 児玉北部地区 -』 児玉町文化財調査報告書第 28 集
- 鈴木徳雄 (2000) 『児玉系壘と地域社会の変化』 『児玉系壘遺跡 - 八幡山北田地区 -』 児玉町遺跡調査会報告書第 9 集
- 鈴木徳雄 (2002) 『児玉郡における丘陵部の開発とその地位』 『塚本山古墳群 (第 3 次調査)』 児玉町遺跡調査会報告書第 12 集
- 鈴木徳雄 (2005) 『児玉丘陵における地域社会の形成』 『高柳原遺跡』 児玉町文化財調査報告書第 39 集
- 鈴木徳雄他 (2006) 『宮内上ノ原遺跡 - C・D 地点の調査 -』 本庄市遺跡調査会報告第 20 集
- 鈴木徳雄 (2007a) 『古代児玉郡の共同利益地と利益権』 『吉田林製山遺跡』 本庄市遺跡調査会報告書第 16 集
- 鈴木徳雄 (2007b) 『古代那珂郡の開発と弘紀郡』 『秋山諏訪平遺跡 - C 地点の調査 -』 本庄市遺跡調査会報告書第 17 集
- 鈴木徳雄他 (2007a) 『塔ノ入遺跡』 本庄市遺跡調査会報告第 13 集
- 鈴木徳雄他 (2007b) 『児玉清水遺跡 II - B 地点の調査 -』 本庄市遺跡調査会報告第 19 集
- 高橋一夫他 (1982) 『埼玉県古代寺院跡調査報告書』 埼玉県史編さん室
- 鹿瀬芳之 (2005) 『宮内古墳群出土の鉄製品』 『春戸谷遺跡 - 宮内古墳群の調査 -』 児玉町遺跡調査会報告書第 19 集
- 田島三郎 (1986) 『児玉の民話と伝説』 中巻 児玉町民話研究会
- 徳山寿樹他 (1995) 『堀向・藤塚 A・柿島・内手 B』 児玉系壘遺跡』 児玉町文化財調査報告書第 18 集
- 永井智則他 (2005) 『春戸谷遺跡 - 宮内古墳群の調査 -』 児玉町遺跡調査会報告書第 19 集
- 中東祥志 (1993) 『本庄市宍勝寺北遺跡跡の爪形紋土器』 『伊根川』 14
- 沼野 勉 (1979) 『古代の神社と祭祀遺跡についての一考察 (上)』 『埼玉地方史』 第 7 号
- 沼野 勉 (1981) 『古代の神社と祭祀遺跡についての一考察 (下)』 『埼玉地方史』 第 11 号
- 土師眞吾編 (1935) 『児玉郡神社一覽』 埼玉県神職会児玉郡支部
- 松澤浩一 (2005a) 『所下ノ平遺跡の発掘調査』 『児玉郡市文化財担当者会報』 第 5 号
- 松澤浩一 (2005b) 『宮内上ノ原遺跡 - B 地点の調査 -』 児玉町遺跡調査会報告書第 18 集
- 松本 光他 (2009) 『浅見山ノ遺跡 (Ⅱ次)・久下東遺跡 (Ⅱ次) A・A 2 地点・北塚久下塚北遺跡』 本庄市縄文文化財調査報告書第 13 集
- 三上喜孝 (1999) 『古代地方社会の出身選定と帳簿 - 出身関係本籍を手がかりに -』 『民衆史研究』 第 58 号
- 宮井英一他 (1989) 『古井戸 - 縄文時代 -』 埼玉県縄文文化財調査事業団報告書第 75 集
- 宮田忠洋 (2008) 『宮内上ノ原遺跡 III - E 地点の調査 -』 本庄市縄文文化財調査報告書第 10 集
- 柳 進 (1961) 『児玉町八幡山輪郭跡発掘調査報告書』 埼玉県立児玉高等学校
- 柳 進編 (1967) 『児玉地方の伝承と民俗』 埼玉県立児玉高等学校
- 柳 進編 (1976) 『県北の伝承と民俗』 私家版 (柳 1967 の増補改訂版)
- 山川守男他 (1981) 『新発見の輪郭部跡群』 『いぶき』 第 12 号 埼玉県立本庄高等学校考古学部
- 吉野裕子 (2008) 『山の神』 漢語学術文庫 1887
- 児玉町史編さん委員会 (1995) 『児玉町史』 民俗編
- 埼玉県神社調査団 (1998) 『埼玉の神社 北足立・児玉・南埼玉』 埼玉県神社庁

写 真 图 版



飯倉南部遺跡群の位置と周辺の地形（国土地理院、1964年5月撮影）



手白洲遺跡全景（北西より）



手白洲遺跡全景（南東より）



1号溝全景（南東より）



2号溝全景（北東より）



1号土坑全景（北より）



調査区内段差（北より）



上松遺跡 1 区全景（南西より）



1号住居跡全景（北西より）



2号住居跡全景（西より）



1号溝全景（南西より）



1～4号溝全景（北東より）



5号溝全景（南西より）



上松遺跡2区全景（北より）



上松遺跡2区全景（南西より）



3号住居跡全景（南西より）



3号住居跡カマド（南西より）



4号住居跡全景（北西より）



5号住居跡全景（北西より）



6号住居跡全景（南西より）



6号住居跡カマド（南西より）



6号住居跡貯蔵穴（北西より）



神明前遺跡1区C地点全景
(南東より)



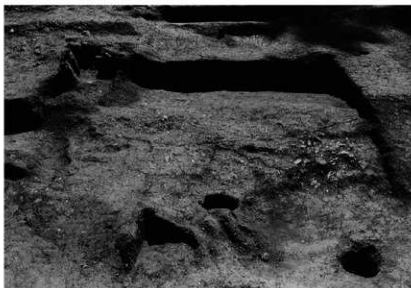
1号窯状遺構全景(北東より)



神明前遺跡2区全景(南西より)



明神ノ上東遺跡全景（東より）



1号住居跡全景（北東より）



1号住居跡カマド（北より）



明神ノ上西遺跡全景（南東より）



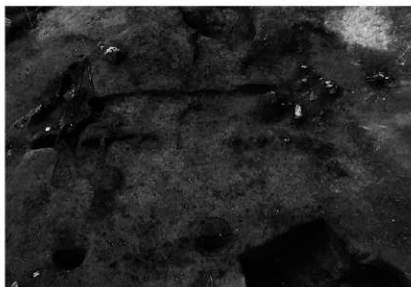
1号焼土集中土坑全景
（南西より）



土坑群全景（東より）



1号住居跡全景（南西より）



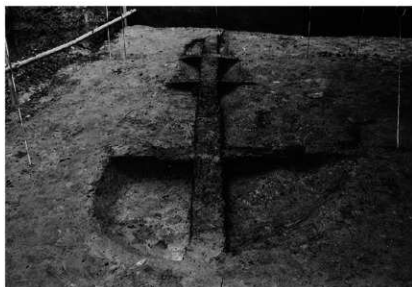
2号住居跡全景（南西より）



2号住居跡カマド（南西より）



細木谷北遺跡B地点2区全景
(南東より)



1号炭窯全景(北西より)



細木谷南遺跡全景(北東より)



1号土坑全景（北東より）



2・3号土坑全景（北東より）



4号土坑全景（北東より）



山崎上ノ南遺跡A地点全景
(北東より)



1号住居跡全景(北東より)



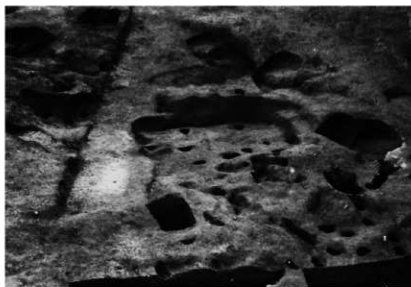
1号住居跡カマド(北東より)



1号住居跡カマド（南東より）



2a号住居跡全景（東より）



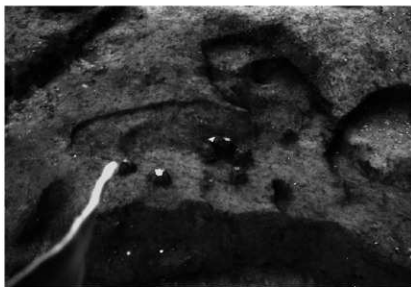
2b号住居跡全景（北東より）



2b号住居跡全景（南東より）



2b号住居跡カマド（北西より）



2c号住居跡全景（北東より）



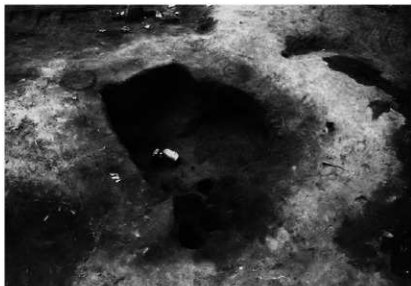
1号土坑全景（北東より）



2号土坑全景（北より）



3号土坑全景（北より）



7号土坑全景（北東より）



8号土坑全景（北東より）



拡張区全景（北より）



山崎上ノ南遺跡B地点全景
(西より)



山崎上ノ南遺跡B地点全景
(南東より)



3a号住居跡全景(南西より)



3a号住居跡遺物出土状態
(南西より)



3a号住居跡カマド遺物出土状態
(南西より)



3a号住居跡カマド(南西より)



4a号住居跡全景（南西より）



4a号住居跡カマド（南西より）



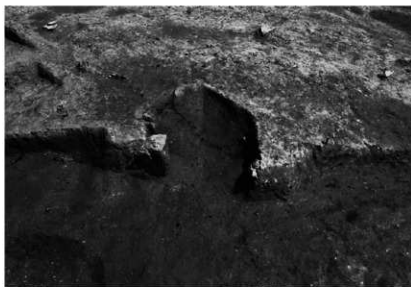
4a号住居跡遺物出土状態
（南西より）



4b号住居跡全景（北西より）



4b号住居跡遺物出土状態
（北西より）



4b号住居跡カマド（北西より）



4b・c号住居跡全景（北西より）



4c号住居跡全景（西より）



4c号住居跡カマド（西より）



4d号住居跡全景（南西より）



4d号住居跡カマド（南西より）



5a号住居跡全景（北西より）



5a号住居跡全景（南西より）



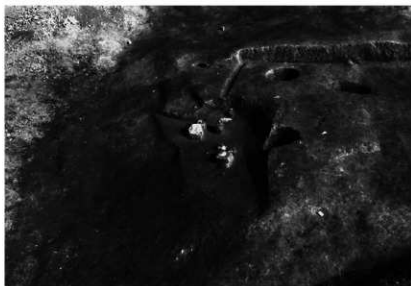
5a号住居跡遺物出土状態
（北西より）



5a号住居跡カマド（北西より）



5b号住居跡全景（南西より）



5b号住居跡遺物出土状態
（南西より）



5b号住居跡カマド（北西より）



6号住居跡全景（南西より）



6号住居跡カマド（南西より）



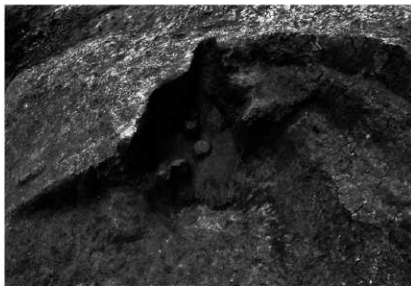
6号住居跡カマド（北西より）



6・8号住居跡全景（南西より）



8号住居跡遺物出土状態
（南西より）



9号住居跡全景（南東より）



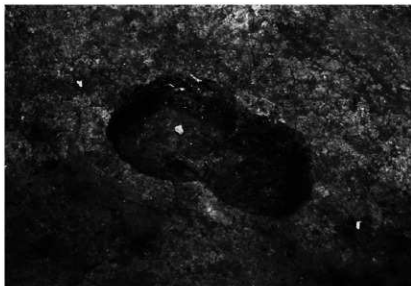
9号住居跡カマド(南東より)



6号土坑全景(南より)



7号土坑全景(南より)



8号土坑全景（南西より）



1号窯跡全景（南西より）



埋没谷全景（西より）



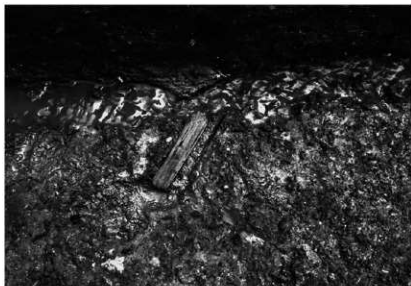
埋没谷東半部（南西より）



埋没谷西半部（南西より）



埋没谷西半部（南東より）



木筒 (129) 出土状態 (北より)



曲物 (134) 出土状態



曲物 (132の一部) 出土状態



金草窠遺跡A地点全景（西より）



金草窠遺跡A地点近景（北西より）



金草窠遺跡B地点全景（北より）



金草窠遺跡B地点近景(北東より)



金草窠遺跡B地点近景(北東より)



甲竹ノ鼻遺跡A地点全景
(北西より)



1号住居跡全景（南西より）



1号住居跡遺物出土状態
（西より）



1号住居跡カマド（南西より）



1号製鉄関連土坑全景（南より）



1号製鉄関連土坑炉壁出土状態
（南より）



1号製鉄関連土坑炉壁出土状態
（東より）



丙竹ノ鼻遺跡全景（北西より）



1号住居跡全景（西より）



1号住居跡遺物出土状態
（西より）



1号住居跡遺物出土状態
(北西より)



1号住居跡カマド遺物出土状態
(西より)



1号住居跡カマド(西より)



2号住居跡全景（北より）



2号住居跡遺物出土状態
（北より）



3号住居跡全景（西より）



堂ノ入遺跡A地点1区全景
(南東より)



1号住居跡全景(南西より)



1号住居跡カマド(南西より)



2号住居跡全景（南西より）



2号住居跡カマド（南西より）



3号住居跡全景（南西より）



3号住居跡カマド（南西より）



4号住居跡カマド（東より）



5号住居跡全景（南西より）



5号住居跡遺物出土状態
(西より)



5号住居跡カマド(南西より)



6号住居跡全景(南西より)



6号住居跡遺物出土状態
(北東より)



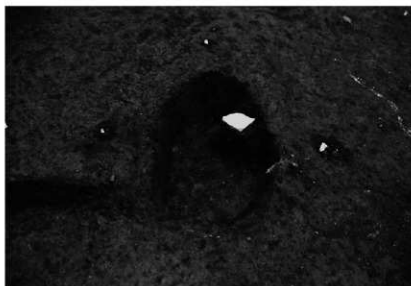
6号住居跡遺物出土状態
(南より)



6号住居跡カマド(南西より)



7号住居跡全景（南西より）



7号住居跡カマド（南西より）



8号住居跡全景（南西より）



8号住居跡カマド（南より）



9号住居跡全景（南西より）



9号住居跡カマド（南西より）



10号住居跡全景（東より）



10号住居跡カマド（南東より）



11号住居跡全景（南西より）



11号住居跡遺物出土状態
(北東より)



11号住居跡遺物出土状態
(南東より)



12号住居跡全景(南西より)



12号住居跡遺物出土状態
(南東より)



12号住居跡カマド・貯蔵穴
(西より)



12号住居跡貯蔵穴(南西より)



12号住居跡カマド（南西より）



13号住居跡全景（南西より）



13号住居跡遺物出土状態
（南東より）



13号住居跡遺物出土状態
(西より)



13号住居跡遺物出土状態
(北東より)



13号住居跡(南西より)



14号住居跡全景（南西より）



14号住居跡遺物出土状態
（南東より）



5・12・14・15号住居跡全景
（北西より）



16号住居跡全景（南東より）



16号住居跡遺物出土状態
（南東より）



16号住居跡カマド（南東より）



31号土坑全景（北東より）



1号製鉄跡全景（南東より）



1号製鉄跡全景（北東より）



1号製鉄跡遺物出土状態
(西より)



堂ノ入遺跡A地点2区
18号住居跡全景(南西より)



18号住居跡遺物出土状態
(北より)



18号住居跡カマド（南西より）



19号住居跡全景（東より）



19号住居跡遺物出土状態
（北東より）



堂ノ入遺跡B地点全景
(北西より)



縄紋土器出土状態(北西より)



礫の流出状態(西より)



堂ノ入遺跡C地点全景
(北西より)



土坑群(北西より)



土坑群(西より)



埋没谷（北西より）



礎集中地点（西より）



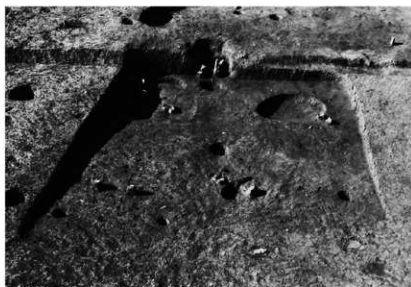
礎集中地点（北東より）



堂ノ入西遺跡全景（西より）



堂ノ入西遺跡全景（東より）



1号住居跡全景（南東より）



1号住居跡遺物出土状態
(東より)



1号住居跡遺物出土状態
(東より)



1号住居跡カマド(南東より)



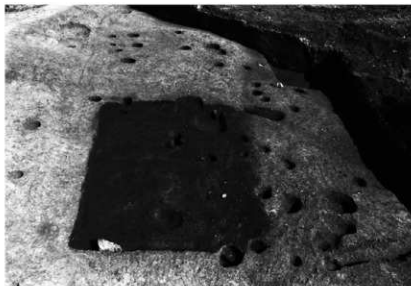
1号住居跡床下土坑（南より）



2号住居跡全景（北西より）



2号住居跡カマド（北西より）



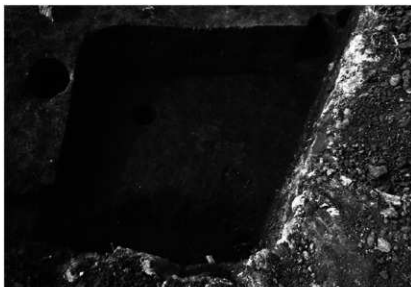
3号住居跡全景（南西より）



3号住居跡遺物出土状態
（南西より）



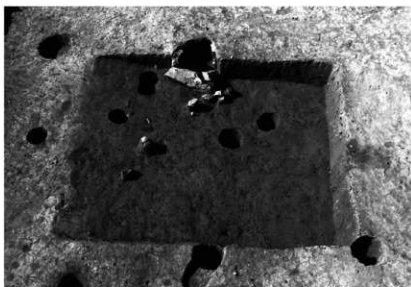
3号住居跡カマド（南西より）



4号住居跡全景（南東より）



4号住居跡全景（北東より）



5号住居跡全景（北東より）



5号住居跡遺物出土状態
(北より)



5号住居跡カマド(北東より)



6号住居跡全景(南東より)



日向遺跡全景（南西より）



1号住居跡全景（南西より）



1号住居跡カマド（南西より）



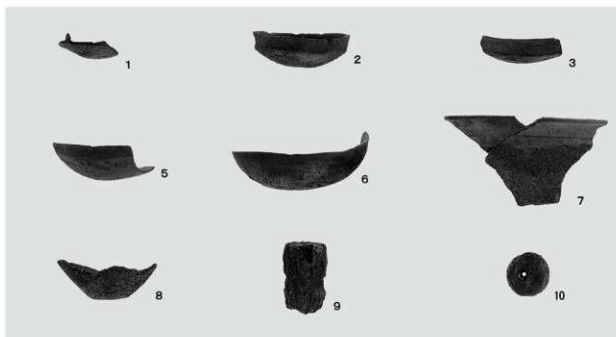
ハグレヤツ遺跡全景（北西より）



1号土坑全景（北東より）



1号土坑礫出土状態（北東より）



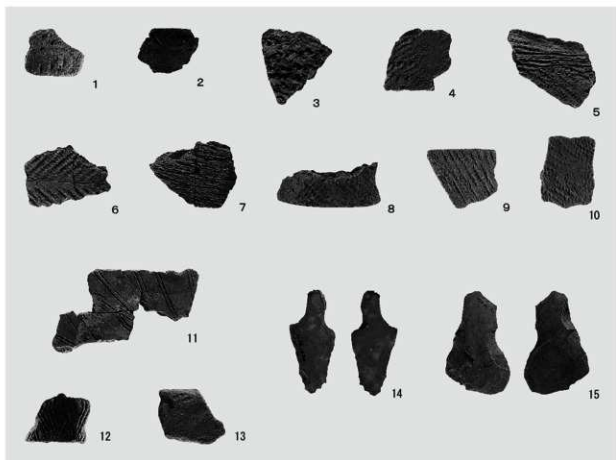
上松遺跡 3号住居跡 出土遺物



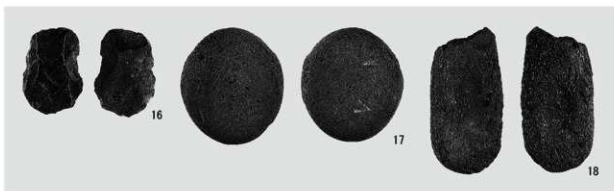
上松遺跡 6号住居跡 出土遺物 (1)



上松遺跡 6号住居跡 出土遺物(2)



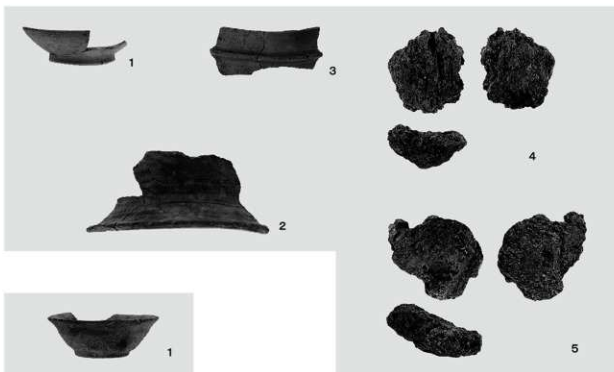
上松遺跡 遺構外 出土遺物(1)



上松遺跡 遺構外 出土遺物 (2)



神明前遺跡 1号住居跡 出土遺物

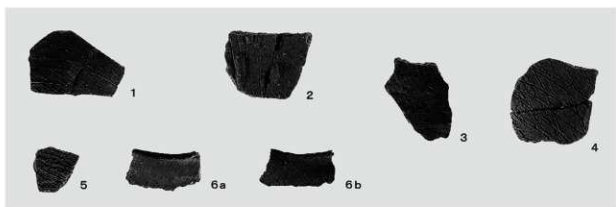


神明前遺跡 3号住居跡 出土遺物

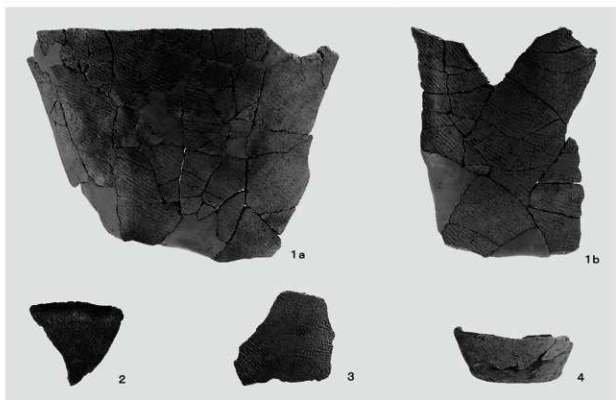
神明前遺跡 2号住居跡 出土遺物



神明前遺跡 5号住居跡 出土遺物



神明前遺跡 6号住居跡 出土遺物



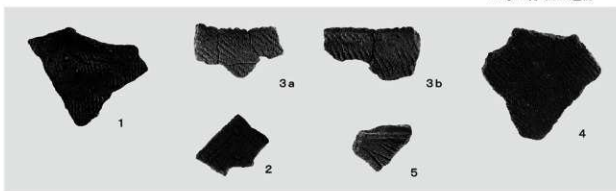
神明前遺跡 8号土坑 出土遺物



神明前遺跡 9号土坑 出土遺物



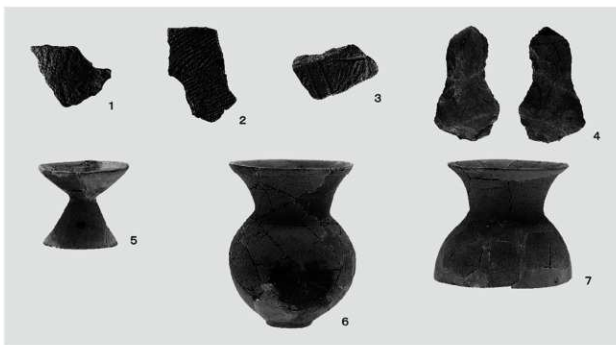
神明前遺跡
13号土坑 出土遺物



神明前遺跡 埋没谷 出土遺物



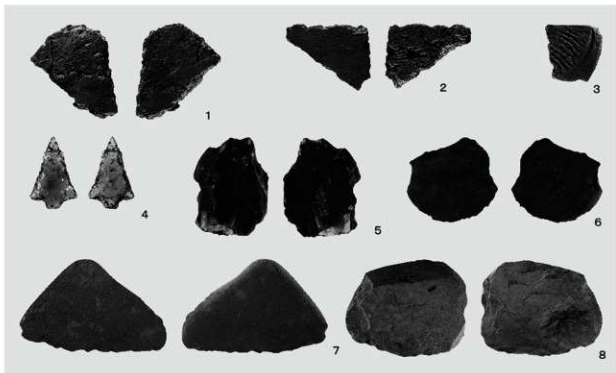
神明前遺跡 A地点遺構外 出土遺物



神明前遺跡 C地点遺構外 出土遺物



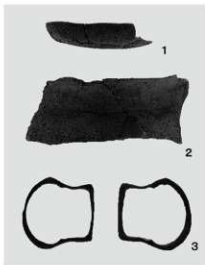
明神ノ上東遺跡 1号住居跡 出土遺物



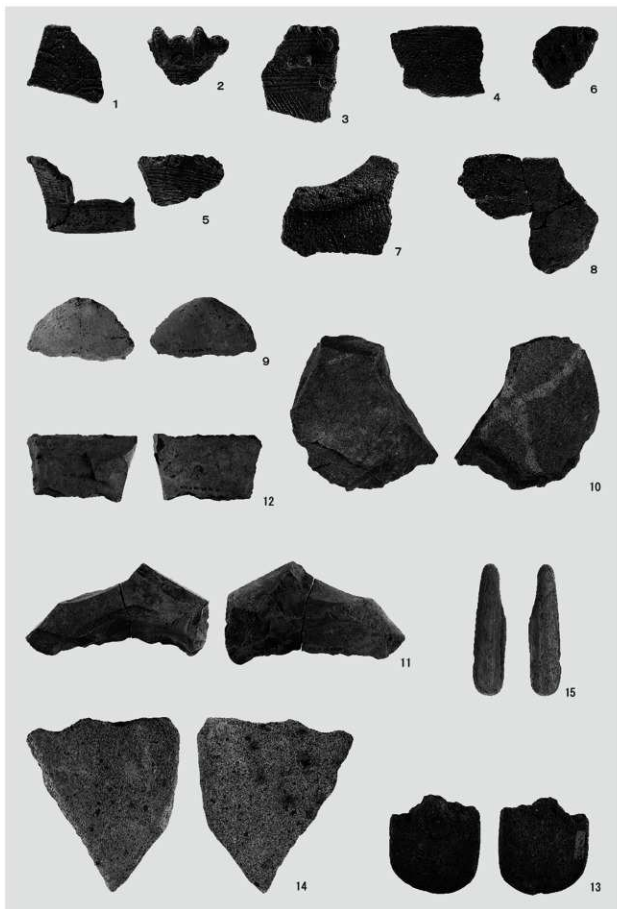
明神ノ上西遺跡 遺構外 出土遺物



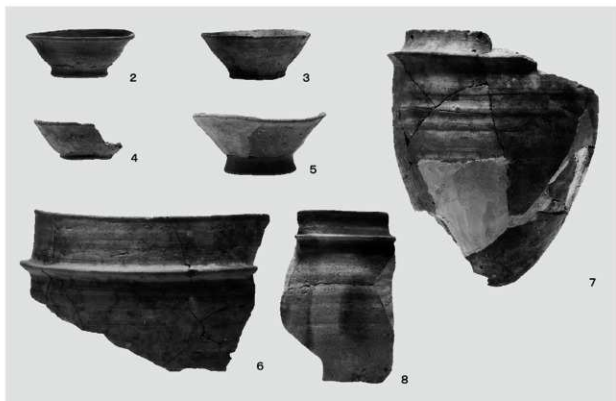
細木谷北遺跡A地点 1号住居跡 出土遺物



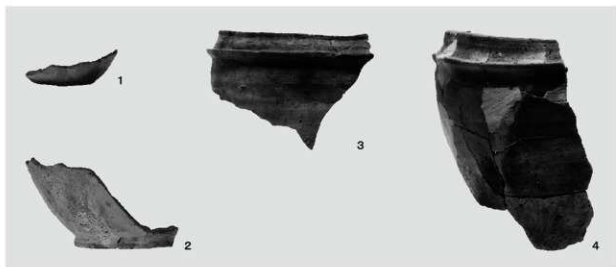
細木谷北遺跡A地点
2号住居跡 出土遺物



細木谷北遺跡A地点 遺構外 出土遺物



山崎上ノ南遺跡A地点 1号住居跡 出土遺物



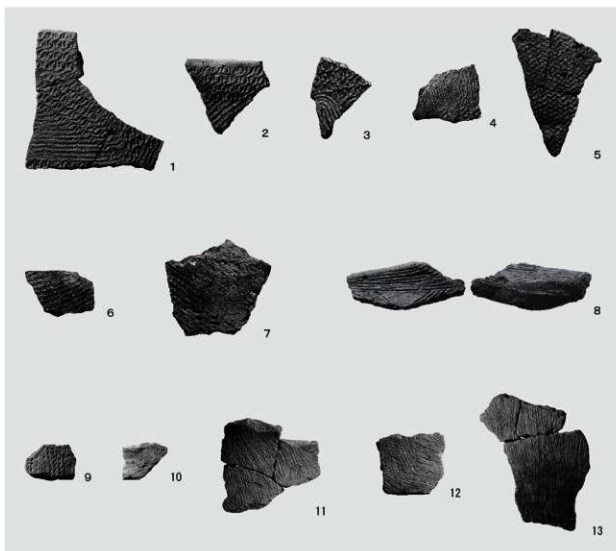
山崎上ノ南遺跡A地点 2a号住居跡 出土遺物



山崎上ノ南遺跡A地点 2b号住居跡 出土遺物



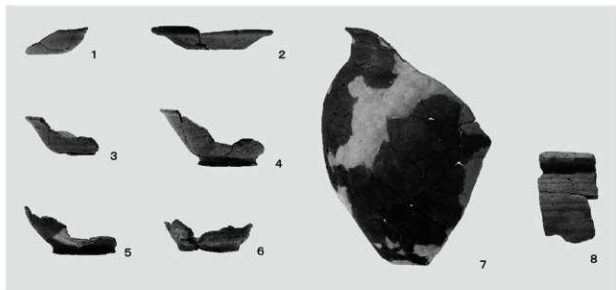
山崎上ノ南遺跡A地点 拡張区 出土遺物



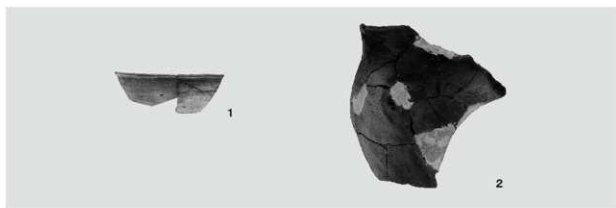
山崎上ノ南遺跡A地点 遺構外 出土遺物



山崎上ノ南遺跡B地点 3a号住居跡 出土遺物



山崎上ノ南遺跡B地点 4a号住居跡 出土遺物



山崎上ノ南遺跡B地点 2c号住居跡 出土遺物



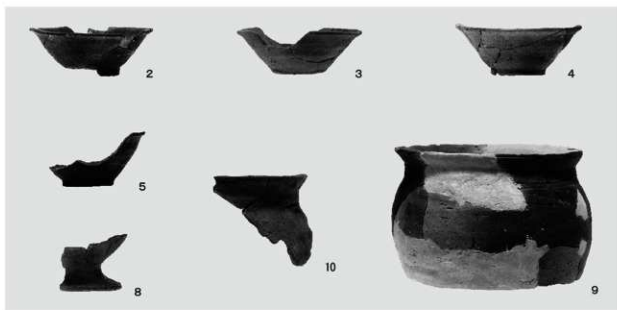
山崎上ノ南遺跡B地点 4d号住居跡 出土遺物



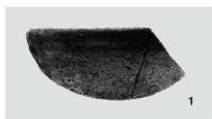
山崎上ノ南遺跡B地点 5a号住居跡 出土遺物



山崎上ノ南遺跡B地点 5b号住居跡 出土遺物



山崎上ノ南遺跡B地点 6号住居跡 出土遺物



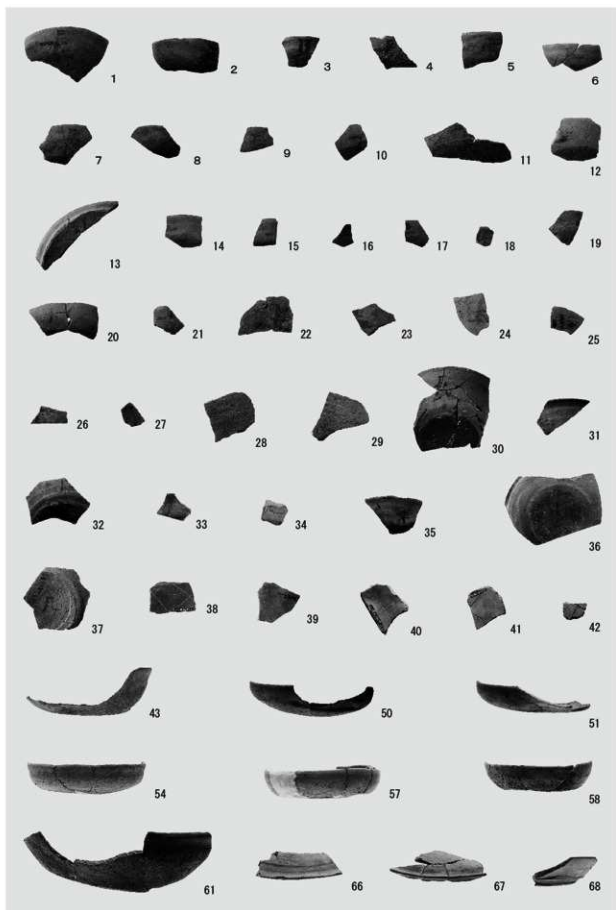
山崎上ノ南遺跡B地点
8号住居跡 出土遺物



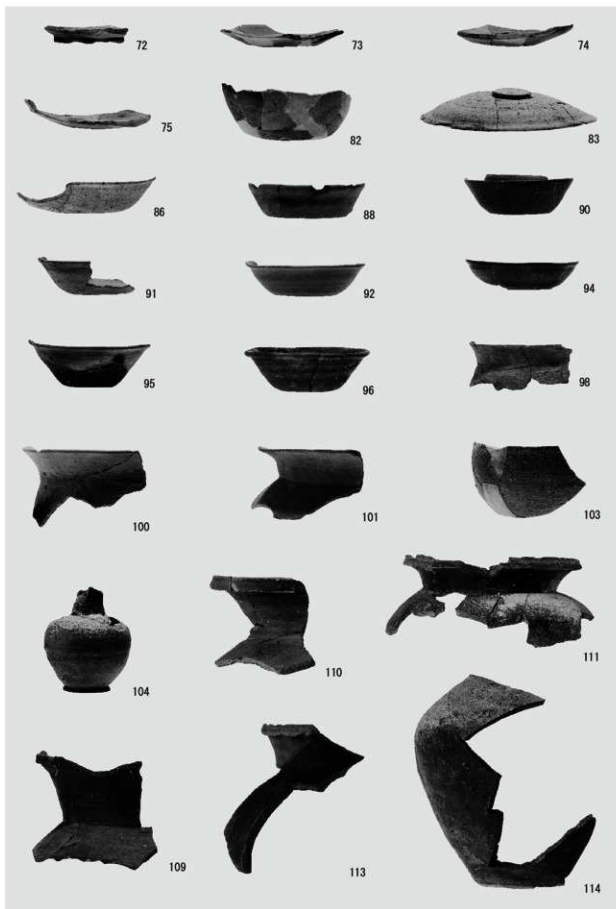
山崎上ノ南遺跡B地点
9号住居跡 出土遺物



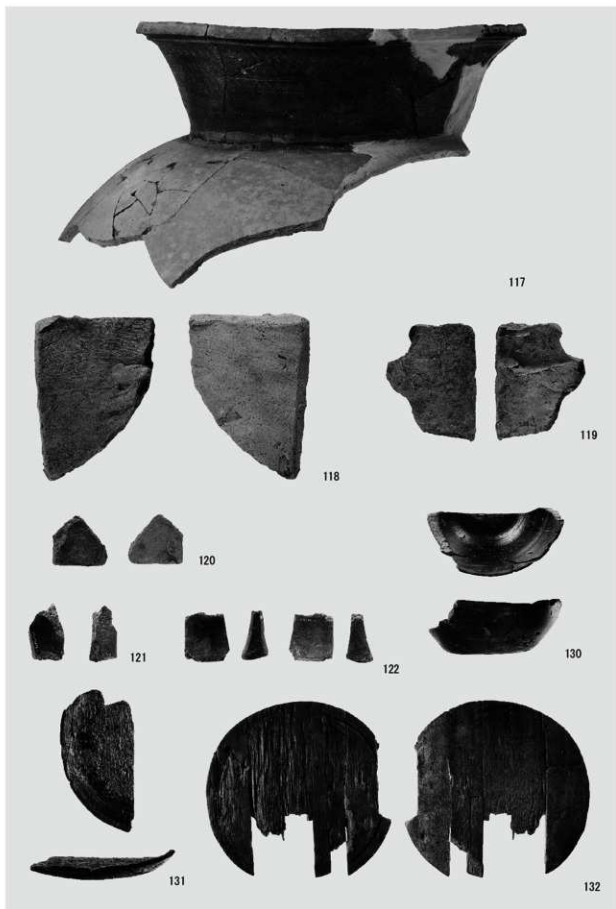
山崎上ノ南遺跡B地点 1号窯状遺構 出土遺物



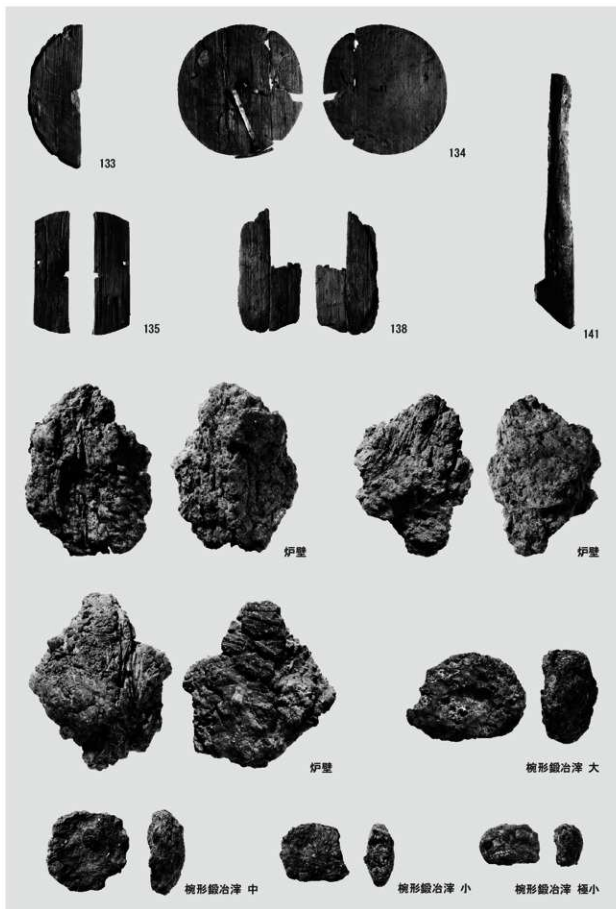
山崎上ノ南遺跡B地点 埋没谷 出土遺物(1)



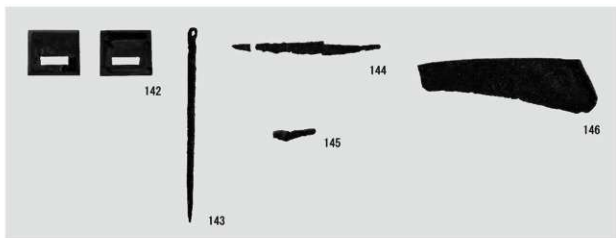
山崎上ノ南遺跡B地点 埋没谷 出土遺物 (2)



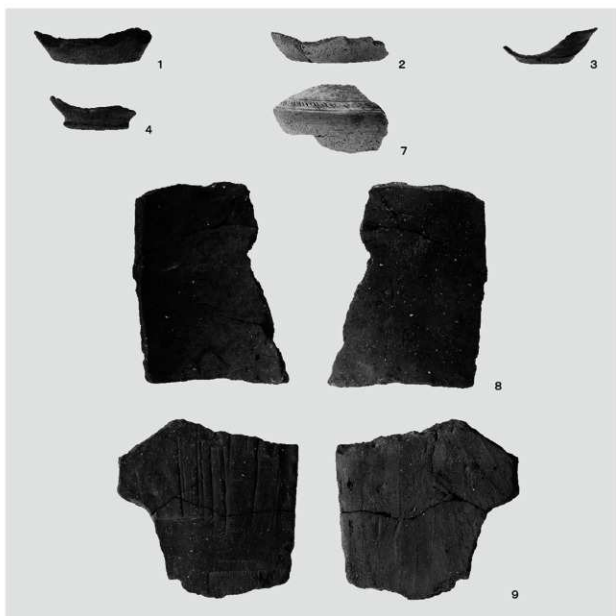
山崎上ノ南遺跡B地点 埋没谷 出土遺物 (3)



山崎上ノ南遺跡B地点 埋没谷 出土遺物 (4)



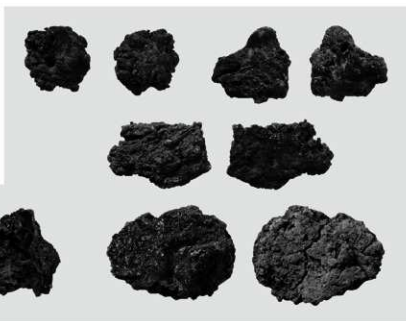
山崎上ノ南遺跡B地点 埋没谷 出土遺物 (5)



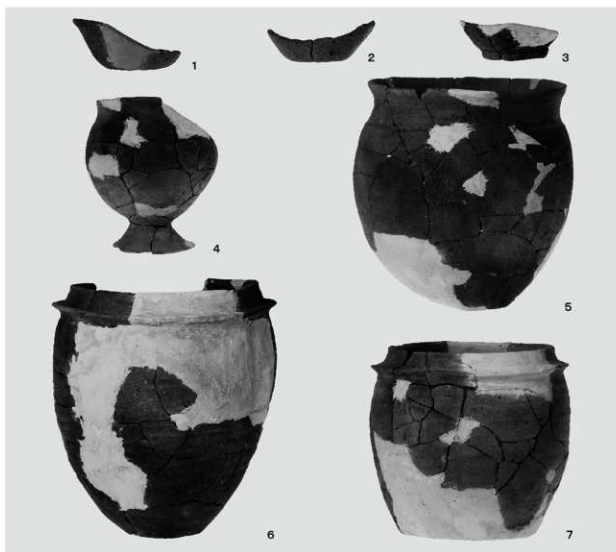
金草窠遺跡A地点 遺構外 出土遺物



甲竹ノ鼻遺跡A地点
1号住居跡 出土遺物



甲竹ノ鼻遺跡B地点 1号製鉄関連土坑 出土遺物



丙竹ノ鼻遺跡 1号住居跡 出土遺物



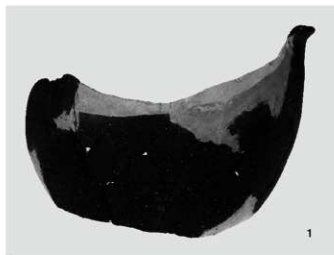
堂ノ入遺跡A地点 1号住居跡 出土遺物



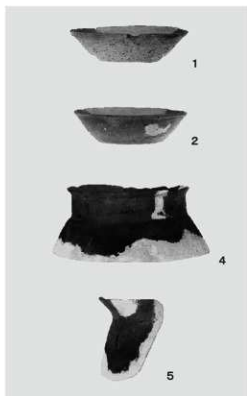
堂ノ入遺跡A地点 2号住居跡 出土遺物



堂ノ入遺跡A地点 3号住居跡 出土遺物



堂ノ入遺跡A地点 4号住居跡 出土遺物



堂ノ入遺跡A地点 6号住居跡 出土遺物



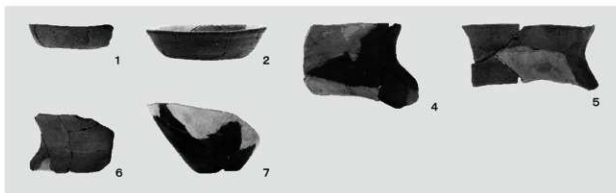
堂ノ入遺跡A地点 5号住居跡 出土遺物



堂ノ入遺跡A地点 9号住居跡 出土遺物



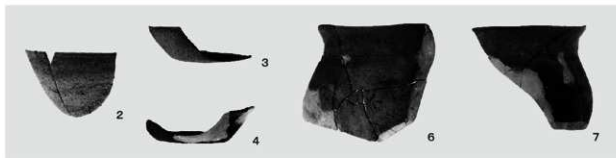
堂ノ入遺跡A地点 11号住居跡 出土遺物



堂ノ入遺跡A地点 12号住居跡 出土遺物



堂ノ入遺跡A地点 13号住居跡 出土遺物



堂ノ入遺跡A地点 16号住居跡 出土遺物



堂ノ入遺跡A地点 18号住居跡 出土遺物



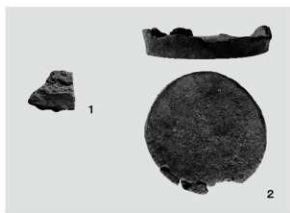
堂ノ入遺跡A地点
1号製鉄跡 出土遺物



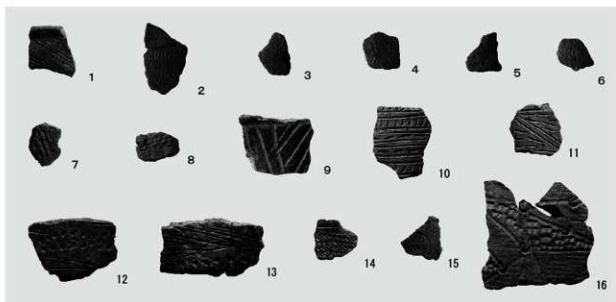
堂ノ入遺跡A地点 19号住居跡 出土遺物



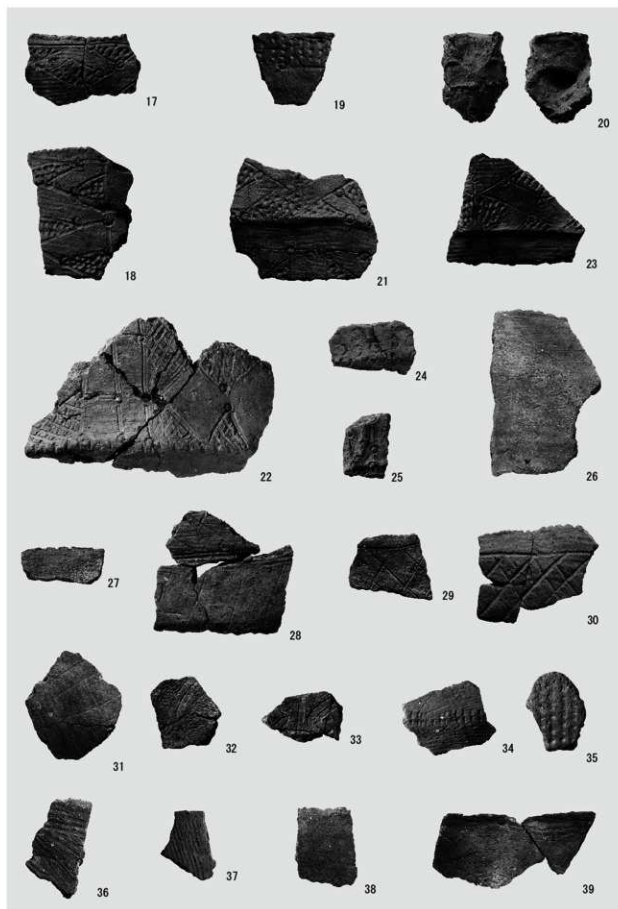
堂ノ入遺跡A地点
28号土坑 出土遺物



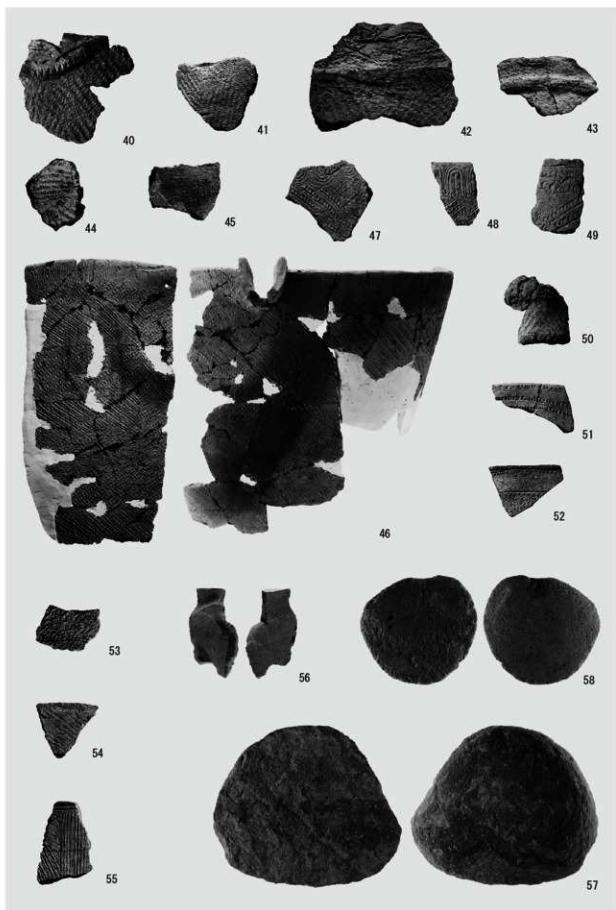
堂ノ入遺跡A地点
31号土坑 出土遺物



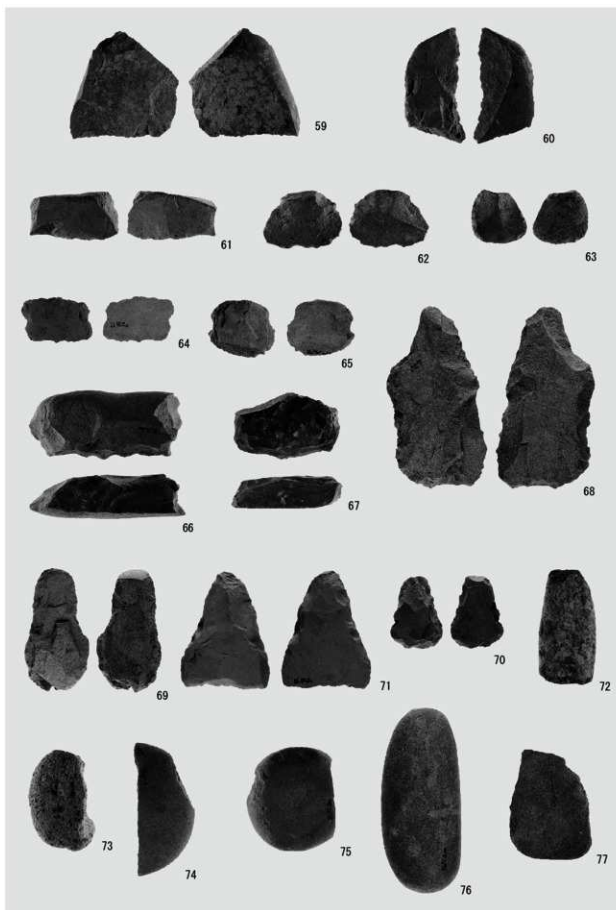
堂ノ入遺跡A・B地点 遺構外 出土遺物(1)



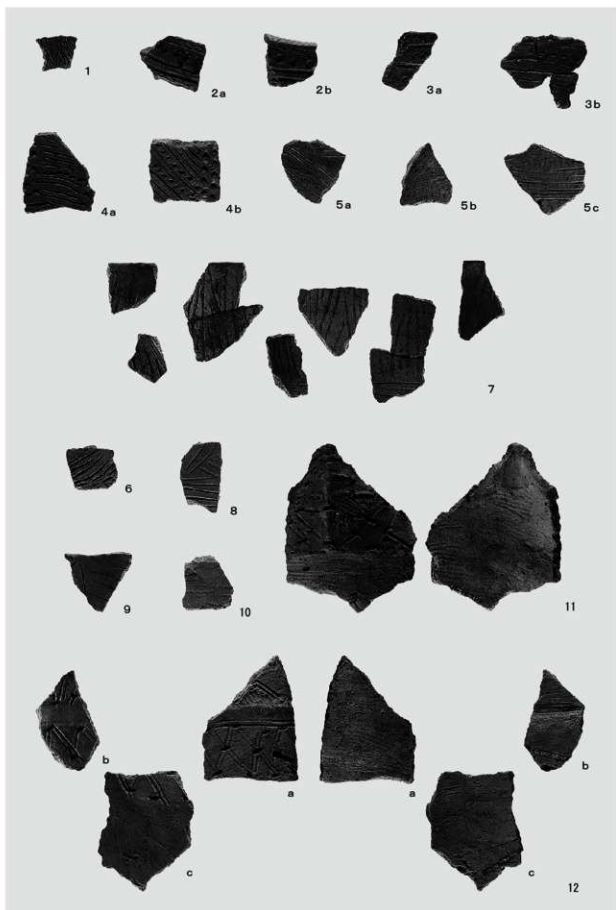
堂ノ入遺跡A・B地点 遺構外 出土遺物(2)



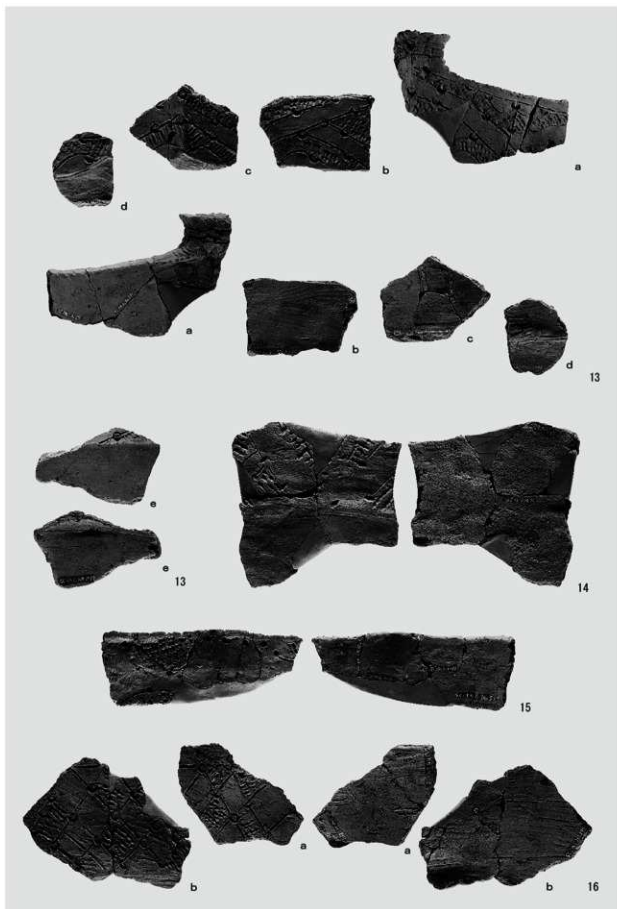
堂ノ入遺跡A・B地点 遺構外 出土遺物 (3)



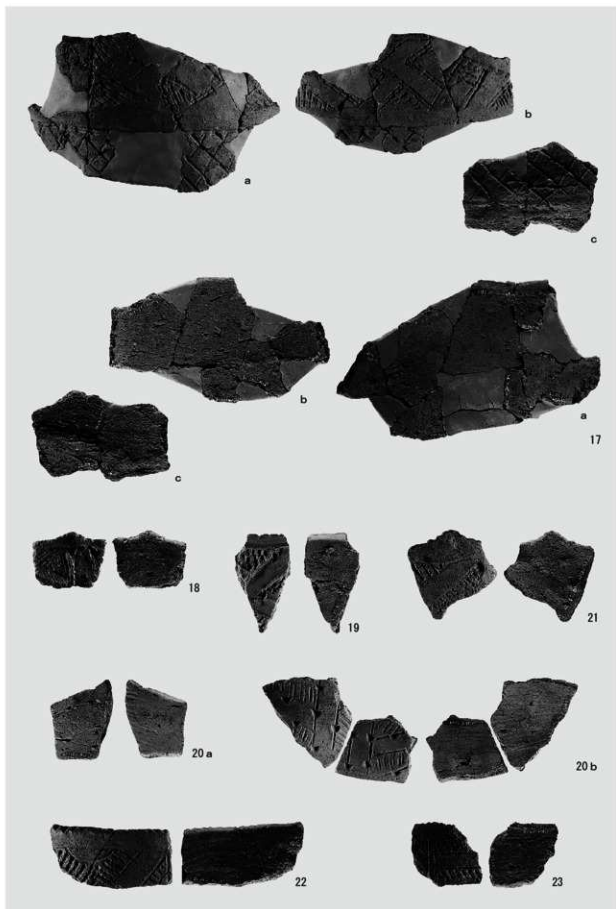
堂ノ入遺跡A・B地点 遺構外 出土遺物(4)



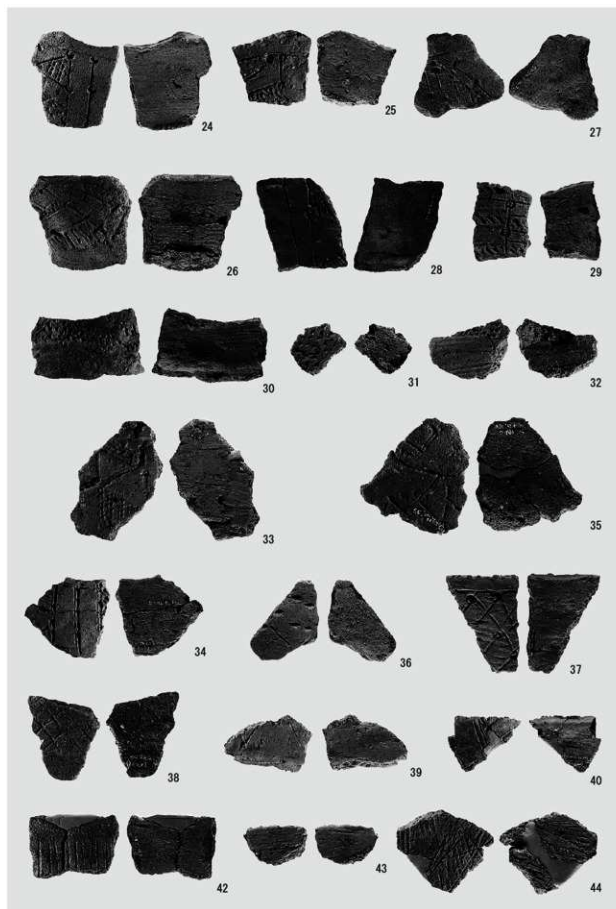
堂ノ入遺跡C地点 出土遺物 (1)



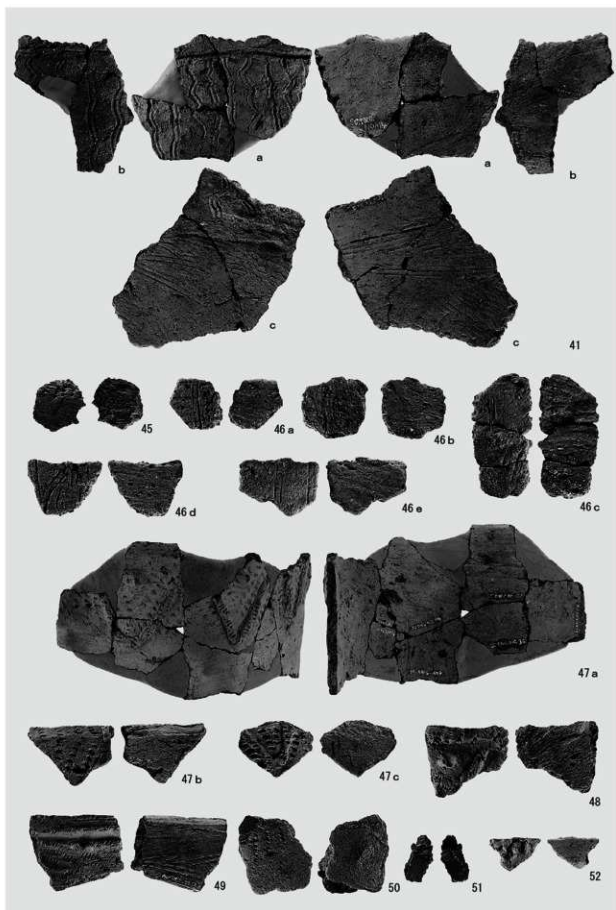
堂ノ入遺跡C地点 出土遺物(2)



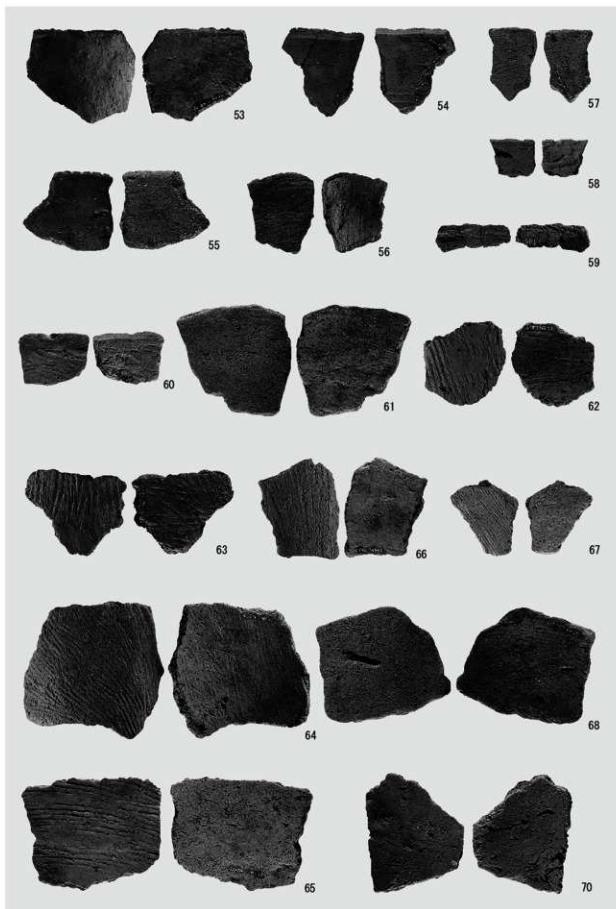
堂ノ入遺跡C地点 出土遺物 (3)



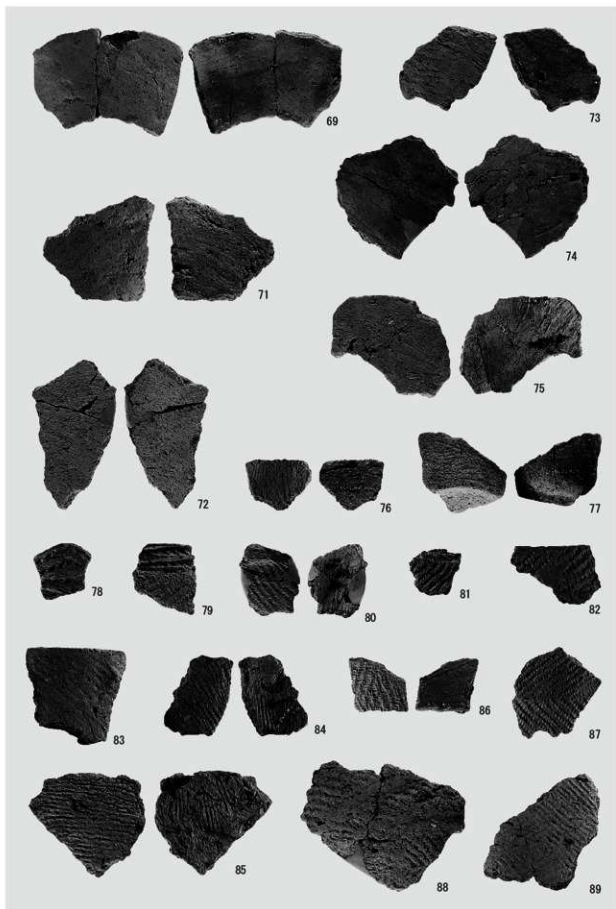
堂ノ入遺跡C地点 出土遺物(4)



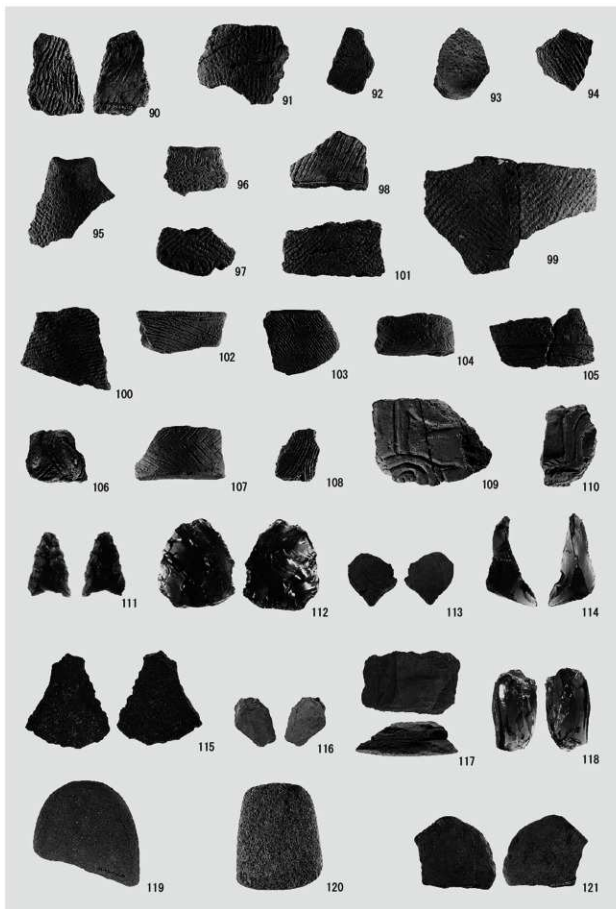
堂ノ入遺跡C地点 出土遺物 (5)



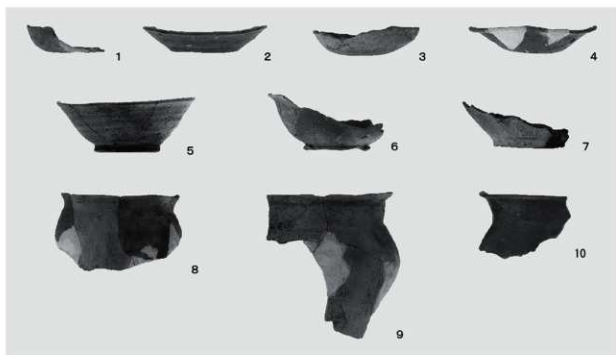
堂ノ入遺跡C地点 出土遺物 (6)



堂ノ入遺跡C地点 出土遺物（7）



堂ノ入遺跡C地点 出土遺物 (8)



堂ノ入西遺跡 1号住居跡 出土遺物



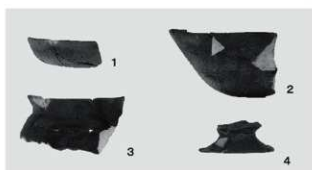
堂ノ入西遺跡
2号住居跡 出土遺物



堂ノ入西遺跡
3号住居跡 出土遺物



堂ノ入西遺跡
6号住居跡 出土遺物



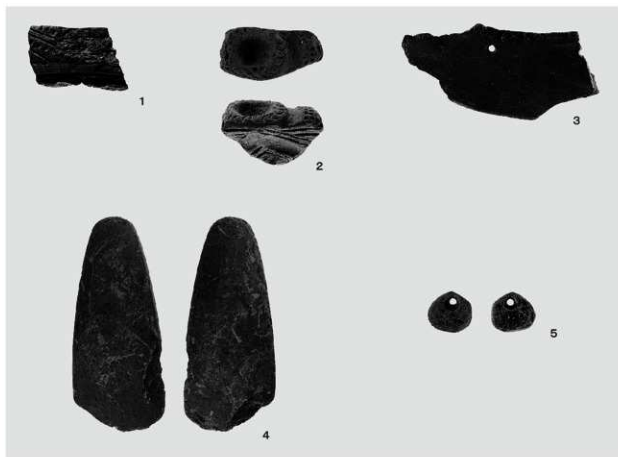
堂ノ入西遺跡 5号住居跡 出土遺物



日向遺跡 1号住居跡 出土遺物



日向遺跡
1号炭窯跡 出土遺物



試掘 出土遺物



試掘 出土遺物 (見玉窯跡群)

報告書抄録

ふりがな	いいぐらなんぶいせきぐん
書名	飯倉南部遺跡群
副書名	ゴルフ場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	本庄市遺跡調査会
シリーズ番号	第39集
編著者名	有山径世・高橋清文・鈴木徳雄
編集機関	本庄市遺跡調査会
所在地	〒367-8501 埼玉県本庄市本庄3丁目5番3号 本庄市教育委員会内 ℡0495-25-1185
発行年月日	西暦2011(平成23)年9月30日

所在地	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
手白岡遺跡	本庄市児玉町飯倉263	54	308	36°11'13"	139°5'57"	19950517 ～19951031	177.8㎡	道路建設
上松遺跡1区	本庄市児玉町飯倉786-2他	54	101	36°11'8"	139°5'55"	19950517 ～19951031	213.6㎡	道路建設
上松遺跡2区	本庄市児玉町飯倉789-3他	54	102	36°11'6"	139°5'54"	19950517 ～19951031	288.8㎡	ゴルフ場建設
神明前遺跡1区	本庄市児玉町飯倉802-1他	54	082	36°10'59"	139°5'50"	19950517 ～19970216	1,632.5㎡	道路建設
神明前遺跡2区	本庄市児玉町飯倉671他	54	082	36°11'6"	139°5'54"	19950517 ～19951031	374.4㎡	道路建設
明神ノ上東遺跡	本庄市児玉町飯倉875他	54	312	36°10'57"	139°5'43"	19960318 ～19960618	1,218.4㎡	ゴルフ場建設
明神ノ上西遺跡	本庄市児玉町飯倉874-5他	54	313	36°10'56"	139°5'42"	19960415 ～19960628	815.2㎡	ゴルフ場建設
細木谷北遺跡A地点	本庄市児玉町飯倉1233他	54	314	36°10'53"	139°5'35"	19960520 ～19960628	402.2㎡	ゴルフ場建設
細木谷北遺跡B地点	本庄市児玉町飯倉1233他	54	314	36°10'55"	139°5'36"	19960917 ～19961031	431.2㎡	ゴルフ場建設
細木谷南遺跡	本庄市児玉町飯倉1215他	54	315	36°10'50"	139°5'33"	19971217 ～19971226	136.9㎡	ゴルフ場建設
山崎ノ南遺跡A地点	本庄市児玉町飯倉1018他	54	278	36°10'54"	139°5'33"	19960603 ～19960830	591.3㎡	ゴルフ場建設
山崎ノ南遺跡B地点	本庄市児玉町飯倉1025他	54	278	36°10'51"	139°5'31"	19961111 ～19971110	1,112.4㎡	ゴルフ場建設
金草葉遺跡A地点	本庄市児玉町飯倉1151他	54	297	36°10'48"	139°5'29"	19970401 ～19970530	1,315.6㎡	ゴルフ場建設
金草葉遺跡B地点	本庄市児玉町飯倉1151他	54	297	36°10'44"	139°5'31"	19970805 ～19970808	1,968.8㎡	ゴルフ場建設
甲竹ノ鼻遺跡A地点	本庄市児玉町飯倉1039他	54	316	36°10'46"	139°5'26"	19960731 ～19960930	439.3㎡	ゴルフ場建設
甲竹ノ鼻遺跡B地点	本庄市児玉町飯倉1039他	54	316	36°10'42"	139°5'20"	19970401 ～19970430	266.8㎡	ゴルフ場建設
丙竹ノ鼻遺跡	本庄市児玉町飯倉1121-1他	54	318	36°10'93"	139°5'10"	19970401 ～19970515	1,009.4㎡	ゴルフ場建設
堂ノ入遺跡A地点	本庄市児玉町飯倉1062-5他	54	326	36°10'40"	139°5'18"	19971101 ～19980925	2,758.3㎡	ゴルフ場建設
堂ノ入遺跡B地点	本庄市児玉町飯倉1095	54	326	36°10'43"	139°5'18"	19971101 ～19980925	168.0㎡	ゴルフ場建設
堂ノ入遺跡C地点	本庄市児玉町飯倉1604	54	326	36°10'45"	139°5'20"	19970918 ～19971226	325.2㎡	ゴルフ場建設
堂ノ入西遺跡	本庄市児玉町飯倉1088他	54	327	36°10'45"	139°5'18"	19970924 ～19971031	667.0㎡	ゴルフ場建設

所在地 所収遺跡	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村遺跡番号						
日向遺跡	本庄市児玉町飯倉1247 他	54	325	36° 10' 38"	139° 5' 18"	19970801 ～19970922	1,162.8 m ²	道路建設
ハグレヤツ遺跡	本庄市児玉町飯倉1271 他	54	311	36° 10' 42"	139° 5' 45"	19970401 ～19970515	554.0 m ²	ゴルフ場建設

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
手白湧遺跡	不明	近世以降、不明	溝3条、土坑1基	縄紋土器	
上松遺跡1区	集落	平安時代	竪穴住居跡2軒、土坑5基、溝7条、不明遺構1基	縄紋土器、土師器、須恵器	
上松遺跡2区	集落	古墳時代、近世以降	竪穴住居跡4軒、土坑1基	縄紋土器、土師器、須恵器、土製品	
神明前遺跡1区	集落	縄紋時代、古墳時代、奈良・平安時代	竪穴住居跡8軒、土坑15基、竪穴遺構1基、溝1条、道路状遺構1条、集石遺構1基、埋没谷	縄紋土器、石器、弥生土器、土師器、須恵器、灰釉陶器、中近世陶磁器、鉄滓	櫛歯文を残す古式土師器。平安の住居跡から埴形鍛冶滓が出土。
神明前遺跡2区	集落	縄紋時代、古墳時代、奈良・平安時代	溝1条、土坑10基、ピット2基、不明遺構1基	縄紋土器、石器、土師器、須恵器	
明神ノ上東遺跡	集落	平安時代	竪穴住居跡1軒、埋没谷	縄紋土器、土師器、須恵器	丘陵斜面地に住居が単独で占拠。
明神ノ上西遺跡	生産	縄紋時代、不明	焼土集中土坑1基、土坑4基、ピット11基	縄紋土器、石器	複数回の使用が見込まれる焼土集中土坑。
細木谷北遺跡A地点	集落	奈良・平安時代	竪穴住居跡2軒、ピット2基	縄紋土器、石器、土師器、須恵器、銅製品（絞具）	住居跡から銅製絞具が出土。
細木谷北遺跡B地点	生産	奈良・平安時代	炭窯1基、炭化物集中範囲1ヵ所	—	古代の炭窯が検出。
細木谷南遺跡	不明	不明	土坑4基	—	
山崎上ノ南遺跡A地点	集落 生産	縄紋時代、奈良・平安時代	竪穴住居跡4軒、溝2条、土坑13基、ピット1基	縄紋土器、石器、弥生土器、土師器、須恵器、灰釉陶器、羽目、鉄滓	調査区外に鍛冶関連遺構が存在する可能性あり。
山崎上ノ南遺跡B地点	集落 生産	奈良・平安時代	竪穴住居跡11軒、溝1条、土坑8基、竪穴1基	土師器、須恵器、灰釉陶器、瓦、木製品、石製品、銅製品、鉄製品、鉄滓、種子類、植物遺存体、獣骨	古代の須恵器窯跡が検出。埋没谷から宝龜二年の紀年銘木簡、漆の付着する銅製巡方が出土。
金草堂遺跡A地点	遺物 包含層	奈良・平安時代、中世、近世	—	土師器、須恵器、灰釉陶器、羽目、中世陶器、近世陶磁器	沢谷に流出してきた遺物が散乱。
金草堂遺跡B地点	遺物 包含層	奈良・平安時代	—	須恵器	調査区外に須恵器窯跡の存在が想定。
甲竹ノ鼻遺跡A地点	集落	平安時代	竪穴住居跡1軒、土坑9基	縄紋土器、土師器、須恵器	焼土・炭化物が多量に含まれる土坑が検出。
甲竹ノ鼻遺跡B地点	集落	平安時代	竪穴住居跡1軒、製鉄関連土坑1基	土師器、須恵器	古代の製鉄関連遺構が検出。
丙竹ノ鼻遺跡	集落	平安時代	竪穴住居跡3軒、土坑3基	土師器、須恵器	
堂ノ入遺跡A地点	集落 生産	奈良・平安時代	竪穴住居跡19軒、土坑38基、製鉄跡1基	縄紋土器、石器、土師器、須恵器、鉄滓	古代の製鉄関連遺構が検出。
堂ノ入遺跡B地点	遺物 包含層	縄紋時代	—	縄紋土器、石器	
堂ノ入遺跡C地点	不明	縄紋時代	土坑13基、溝4条、不明遺構1基、埋没谷	縄紋土器、石器	
堂ノ入西遺跡	集落	奈良・平安時代、中世	竪穴住居跡6軒、溝1条、土坑6基	土師器、須恵器、中世陶器	
日向遺跡	集落	奈良時代	竪穴住居跡1軒、炭窯1基	土師器、鉄釘	
ハグレヤツ遺跡	墓	奈良・平安時代	土坑1基	土師器、骨片	石郭土坑墓が検出。

本庄市遺跡調査会報告書 第39集

飯倉南部遺跡群

ゴルフ場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成23年9月25日 印刷

平成23年9月30日 発行

発行／本庄市遺跡調査会

〒367-8501 埼玉県本庄市本庄3丁目5番3号

本庄市教育委員会文化財保護課内

TEL 0495-25-1185

印刷／朝日印刷工業株式会社